

つくば市

上境滝の台古墳群
上境作ノ内遺跡2
上境作ノ内古墳群

中根・金田台特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書XXV

令和3年3月

独立行政法人都市再生機構
東日本都市再生本部
公益財団法人茨城県教育財団

つくば市

かみざかいたきのだい
上境滝の台古墳群
かみざかいさくのうち
上境作ノ内遺跡2
かみざかいさくのうち
上境作ノ内古墳群

中根・金田台特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書XXIV

令和3年3月

独立行政法人都市再生機構
東日本都市再生本部
公益財団法人茨城県教育財団

序

公益財団法人茨城県教育財団は、国や県などの各事業者から委託を受けて埋蔵文化財の発掘調査と整理業務を実施することを主な目的として、昭和52年に調査課が設置されて以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として発掘調査報告書を刊行してきました。

この度、独立行政法人都市再生機構東日本都市再生本部による中根・金田台特定土地地区画整理事業に伴って実施した、つくば市上境滝の台古墳群、上境作ノ内遺跡・上境作ノ内古墳群の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

今回の調査によって、旧石器時代から古墳時代にかけての石器集中地点や竪穴建物跡、古墳などが多数確認でき、古墳時代の墓域の一端が明らかになりました。本書が、歴史研究の学術資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深め、教育・文化の向上のための資料として広く活用いただければ幸いです。

最後になりますが、発掘調査から本書の刊行に至るまで、多大な御協力を賜りました委託者であります独立行政法人都市再生機構東日本都市再生本部に対して厚く御礼申し上げますとともに、茨城県教育委員会、つくば市教育委員会をはじめ、御指導、御協力をいただきました関係各位に対し、心から感謝申し上げます。

令和3年3月

公益財団法人茨城県教育財団

理事長 柴原 宏一

例 言

- 1 本書は、独立行政法人都市再生機構東日本都市再生本部の委託により、公益財団法人茨城県教育財団が平成30年度に発掘調査を実施した、茨城県つくば市上境297番地ほかに所在する上境滝の^{かみざいたき}台古墳群及び、茨城県つくば市上境185番地の1ほかに所在する上境作ノ^{かみざいさくのうち}内遺跡・上境作ノ内古墳群の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査期間及び整理期間は以下のとおりである。

調査

上境滝の台古墳群 平成30年5月1日～9月30日
上境作ノ内遺跡 平成30年9月1日～12月31日
上境作ノ内古墳群 同上

整理

上境滝の台古墳群、上境作ノ内遺跡・上境作ノ内古墳群 令和2年7月1日～令和3年3月31日
- 3 発掘調査は、調査課長白田正子のもと、以下の者が担当した。

首席調査員兼班長 駒澤悦郎
次席調査員 三浦裕介
調査員 仙波 亨 平成30年5月1日～7月31日
調査員 鯉沼智博 平成30年8月1日～12月31日
- 4 整理及び本書の執筆・編集は、整理課長小林和彦のもと、以下の者が担当した。

次席調査員 三浦裕介
- 5 本書の執筆分担は、下記のとおりである。

三浦裕介 第1章～第3章第2節(1)、第3節1～4(1)、5～第4章第2節(1)
第3節～第4節
埋蔵文化財の保存処理 いしかわ 第3章第3節4(2)
パリノ・サーヴェイ株式会社 第3章第2節(2)、第3節4(3)、第4章第2節(2)
株式会社 イビソク 第3章第3節4(4)、第4章第3節2
- 6 本書の作成にあたり、以下の機関に業務委託した。

石器実測及びトレース業務委託 石器の実測トレース Technologic 太田
ローム層序自然科学分析及び金属製品 X線撮影、保存処理、木質付着鉄製品の自然科学分析業務委託
パリノ・サーヴェイ株式会社
金属製品 X線撮影及び保存処理、蛍光 X線分析業務委託 埋蔵文化財の保存処理 いしかわ
金属製品 X線撮影及び保存処理、ガラス小玉成分分析業務委託 株式会社 イビソク
- 7 本書の作成にあたり、諸氏よりご指導・ご協力いただいた。(敬称省略)

埴輪指導 賀来孝代
旧石器指導 窪田恵一
石棺石材鑑定 茨城大学名誉教授 田切美智雄
- 8 本遺跡の出土遺物及び実測図・写真等は、茨城県埋蔵文化財センターにて保管されている。

凡 例

1 当遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第Ⅸ系座標に準拠し、上境滝の台古墳群は $X = + 12,320 \text{ m}$, $Y = + 26,200 \text{ m}$ の交点を、上境作ノ内遺跡・上境作ノ内古墳群は $X = + 12,640 \text{ m}$, $Y = + 26,080 \text{ m}$ の交点をそれぞれ基準点 (A 1 a1) とした。なお、この原点は、世界測地系 (測地成果 2011) による基準点である。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々 40 m 四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々 10 等分し、4 m 四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へ A, B, C..., 西から東へ 1, 2, 3... とし、「A 1 区」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へ a, b, c...j, 西から東へ 1, 2, 3, ...0 と小文字を付し、名称は、大調査区の名称を冠して「A 1 a1 区」のように呼称した。

2 実測図・表等で使用した記号は次のとおりである。






遺 構 HT - 方形竪穴遺構 P - ピット PG - ピット群 SD - 溝跡 SI - 竪穴建物跡
SK - 土坑 TM - 古墳 SS - 石器集中地点 SN 粘土採掘坑 HD - 遺構外
土層解説 ローム - ロームブロック 粘土 - 粘土ブロック 粘 - 粘性 締 - 締まり K - 攪乱
含有量 A - 多量 B - 中量 C - 少量 D - 微量 O' - 極めて
粘性・締まり A - 強い B - 普通 C - 弱い O' - 極めて
サイズは「大・中・小・粒」で、炭化物については「材・物・粒」で表記した。

3 遺構・遺物実測図の作成方法については、次のとおりである。

(1) 遺構全体図は 500 分の 1 (上境滝の台古墳群), 600 分の 1 (上境作ノ内遺跡・上境作ノ内古墳群), 各遺構の実測図は原則として 60 分の 1 の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(2) 遺物実測図は、原則として 3 分の 1 の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(3) 遺構・遺物実測図中の表示は、次のとおりである。

	焼土・赤彩・施釉		炉・繊維土器		柱あたり
	須恵器		布状物質		
●	土器	○	土製品	□	石器・石製品
△	金属製品	---	硬化面		

4 土層観察と遺物における色調の判定は、『新版標準土色帖』(小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社) を使用した。

5 遺構・遺物一覧の表記は、次のとおりである。

(1) 計測値の単位は m, cm, g で示した。なお、現存値は () を、推定値は [] を付して示した。

(2) 遺物番号は遺構ごとの通し番号とし、本文、挿図、表、写真図版に記した番号と同一とした。

(3) 遺物一覧の備考の欄は、写真図版番号及びその他必要と思われる事項を記した。

6 竪穴建物跡の「主軸」は、炉・竈を通る軸線とし、主軸方向は、その他の遺構の長軸 (径) 方向と共に、座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した (例 N - 10° - E)。

7 今回の報告分で、整理の段階で遺構名を変更したもの及び欠番にしたものは以下のとおりである。

上境滝の台古墳群

変更 SI 1 → PG 2, SI 7 → HT 1, FP 1 → SK308

上境作ノ内遺跡・上境作ノ内古墳群

変更 SD18 → SD 3, SK164 → SN 2, SN 1 → SN 2

欠番 SS 2・4, SK39・62・91・92・99・108・110・112・130・134・136・164

目次

序 例言 凡例 目次

上境滝の台古墳群, 上境作ノ内遺跡・上境作ノ内古墳群の概要	1	(3) 土坑	101
第1章 調査経緯	3	(4) 溝跡	102
第1節 調査に至る経緯	3	(5) ピット群	103
第2節 調査経過	3	(6) 遺構外出土遺物	103
第2章 位置と環境	4	第4節 総括	107
第1節 位置と地形	4	第4章 上境作ノ内遺跡・上境作ノ内古墳群	110
第2節 歴史的環境	4	第1節 調査の概要	110
第3章 上境滝の台古墳群	11	第2節 基本層序	110
第1節 調査の概要	11	1 基本層序	110
第2節 基本層序	11	2 然化学分析	111
1 基本層序	11	第3節 遺構と遺物	115
2 自然化学分析	12	1 旧石器時代の遺構と遺物	115
第3節 遺構と遺物	15	(1) 石器集中地点	115
1 旧石器時代の遺構と遺物	15	(2) 集中地点外出土遺物	125
(1) 石器集中地点	15	2 古墳時代の遺構と遺物	128
(2) 集中地点外出土遺物	41	古墳	128
2 縄文時代の遺構と遺物	47	3 平安時代の遺構と遺物	155
土坑	47	土坑	155
3 弥生時代の遺構と遺物	76	4 江戸時代の遺構と遺物	156
竪穴建物跡	76	溝跡	156
4 古墳時代の遺構と遺物	82	5 その他の遺構と遺物	156
(1) 古墳	82	(1) 土坑	156
(2) 鉄製品蛍光 X 線分析報告	92	(2) 溝跡	157
(3) 木質付着鉄製品の自然科学分析	94	(3) 粘土採掘坑	157
(4) ガラス小玉等の蛍光 X 線分析	97	(4) 遺構外出土遺物	157
5 その他の遺構と遺物	100	第4節 総括	158
(1) 竪穴建物跡	100	写真図版	PL 1～PL50
(2) 方形竪穴遺構	100	抄録	

挿図目次

第1図 周辺遺跡分布図	6	第16図 第3号石器集中地点出土遺物実測図(1)	25
第2図 調査区設定図	9	第17図 第3号石器集中地点出土遺物実測図(2)	26
第3図 上境滝の台古墳群遺構全体図	10	第18図 第4号石器集中地点遺物分布図(石材)	27
第4図 基本土層図	11	第19図 第4号石器集中地点遺物分布図(接合資料)	28
第5図 上境滝の台古墳群のテストピットの重鉱物組成および火山ガラス比	14	第20図 第4号石器集中地点出土遺物実測図(接合資料1・2)	29
第6図 第1号石器集中地点遺物分布図(石材)	15	第21図 第4号石器集中地点出土遺物実測図(接合資料3)	30
第7図 第1号石器集中地点出土遺物実測図(1)	16	第22図 第4号石器集中地点出土遺物実測図(接合資料4・5)	31
第8図 第1号石器集中地点出土遺物実測図(2)	17	第23図 第5号石器集中地点遺物分布図(石材)	34
第9図 第2号石器集中地点遺物分布図(石材)	19	第24図 第5号石器集中地点出土遺物実測図	34
第10図 第2号石器集中地点出土遺物実測図	19	第25図 第5号石器集中地点出土遺物実測図(接合資料1)	35
第11図 第3号石器集中地点遺物分布図(石材)	20	第26図 第6号石器集中地点遺物分布図	36
第12図 第3号石器集中地点遺物分布図(接合資料)	21	第27図 第6号石器集中地点出土遺物実測図(1)	37
第13図 第3号石器集中地点出土遺物実測図(接合資料1)	22	第28図 第6号石器集中地点出土遺物実測図(2)	38
第14図 第3号石器集中地点出土遺物実測図(接合資料2)	23	第29図 第6号石器集中地点出土遺物実測図(3)	39
第15図 第3号石器集中地点出土遺物実測図(接合資料3・4)	24	第30図 集中地点外出土遺物実測図(1)	42

第 31 図	集中地点外出土遺物実測図 (2) ……………	43	第 90 図	第 3 号墳主体部実測図・遺物出土状況……………	84
第 32 図	集中地点外出土遺物実測図 (3) ……………	44	第 91 図	第 3 号墳主体部掘方実測図……………	85
第 33 図	第 3 号土坑・出土遺物実測図……………	48	第 92 図	第 3 号墳出土遺物実測図 (1) ……………	87
第 34 図	第 11 号土坑・出土遺物実測図……………	48	第 93 図	第 3 号墳出土遺物実測図 (2) ……………	88
第 35 図	第 33 号土坑・出土遺物実測図……………	49	第 94 図	第 3 号墳出土遺物実測図 (3) ……………	89
第 36 図	第 34 号土坑・出土遺物実測図……………	49	第 95 図	第 5 号竪穴建物跡実測図……………	100
第 37 図	第 35・36 号土坑・出土遺物実測図……………	50	第 96 図	第 1 号方形竪穴遺構実測図……………	101
第 38 図	第 38 号土坑・出土遺物実測図……………	51	第 97 図	第 1 号溝跡・出土遺物実測図……………	102
第 39 図	第 45 号土坑・出土遺物実測図……………	51	第 98 図	第 1 号ピット群出土遺物実測図……………	103
第 40 図	第 61 号土坑・出土遺物実測図……………	52	第 99 図	遺構外出土遺物実測図 (1) ……………	103
第 41 図	第 66 号土坑・出土遺物実測図……………	52	第 100 図	遺構外出土遺物実測図 (2) ……………	104
第 42 図	第 73 号土坑・出土遺物実測図……………	53	第 101 図	遺構外出土遺物実測図 (3) ……………	105
第 43 図	第 78・131 号土坑・出土遺物実測図……………	53	第 102 図	上境作ノ内遺跡・上境作ノ内古墳群遺構全体図……………	109
第 44 図	第 85 号土坑実測図……………	54	第 103 図	上境作ノ内遺跡・上境作ノ内古墳群基本土層図……………	111
第 45 図	第 85 号土坑出土遺物実測図……………	55	第 104 図	上境作ノ内遺跡・上境作ノ内古墳群のテストピット の重鉱物組成および火山ガラス比……………	113
第 46 図	第 96 号土坑・出土遺物実測図……………	56	第 105 図	第 1 号石器集中地点遺物分布図 (石材)……………	115
第 47 図	第 99 号土坑・出土遺物実測図……………	56	第 106 図	第 1 号石器集中地点出土遺物実測図 (接合資料 1)……………	116
第 48 図	第 112・150 号土坑実測図……………	57	第 107 図	第 1 号石器集中地点出土遺物実測図 (接合資料 2)……………	117
第 49 図	第 150 号土坑出土遺物実測図……………	57	第 108 図	第 3 号石器集中地点遺物分布図 (石材)……………	118
第 50 図	第 113 号土坑・出土遺物実測図……………	57	第 109 図	第 3 号石器集中地点出土遺物実測図……………	119
第 51 図	第 119 号土坑・出土遺物実測図……………	58	第 110 図	第 5 号石器集中地点遺物分布図 (石材)……………	120
第 52 図	第 126 号土坑実測図……………	58	第 111 図	第 5 号石器集中地点遺物分布図 (接合資料)……………	121
第 53 図	第 126 号土坑出土遺物実測図……………	59	第 112 図	第 5 号石器集中地点出土遺物実測図 (接合資料 2)……………	121
第 54 図	第 127 号土坑・出土遺物実測図……………	59	第 113 図	第 5 号石器集中地点出土遺物実測図 (接合資料 1)……………	122
第 55 図	第 130 号土坑・出土遺物実測図……………	60	第 114 図	第 5 号石器集中地点出土遺物実測図 (接合資料 3～ 6)……………	123
第 56 図	第 138・139 号土坑実測図……………	60	第 115 図	第 5 号石器集中地点出土遺物実測図……………	124
第 57 図	第 138・139 号土坑出土遺物実測図……………	61	第 116 図	集中地点外出土遺物実測図 (1)……………	125
第 58 図	第 142 号土坑・出土遺物実測図……………	62	第 117 図	集中地点外出土遺物実測図 (2)……………	126
第 59 図	第 143 号土坑・出土遺物実測図……………	62	第 118 図	第 1 号墳完掘実測図……………	128
第 60 図	第 147 号土坑実測図……………	62	第 119 図	第 1 号墳周溝土層断面図……………	129
第 61 図	第 147 号土坑出土遺物実測図……………	63	第 120 図	第 1 号墳埴輪出土状況図……………	130
第 62 図	第 160 号土坑・出土遺物実測図……………	63	第 121 図	第 1 号墳出土遺物実測図 (1)……………	131
第 63 図	第 169・172 号土坑・出土遺物実測図……………	64	第 122 図	第 1 号墳出土遺物実測図 (2) 器財埴輪 (機織)……………	132
第 64 図	第 171 号土坑・出土遺物実測図……………	64	第 123 図	第 1 号墳出土遺物実測図 (3) 器財埴輪 (機織・ 人物)……………	133
第 65 図	第 193 号土坑実測図……………	65	第 124 図	第 1 号墳出土遺物実測図 (4) 形象埴輪 (馬)……………	134
第 66 図	第 194 号土坑・出土遺物実測図……………	65	第 125 図	第 1 号墳出土遺物実測図 (5)……………	135
第 67 図	第 193 号土坑出土遺物実測図……………	66	第 126 図	第 8 号墳完掘実測図……………	141
第 68 図	第 197 号土坑・出土遺物実測図……………	66	第 127 図	第 8 号墳土層断面図・石棺内遺物出土状況図・箱式 石棺展開図……………	142
第 69 図	第 216 号土坑・出土遺物実測図……………	67	第 128 図	第 8 号墳埋葬施設掘方土層断面実測図……………	143
第 70 図	第 220 号土坑・出土遺物実測図……………	67	第 129 図	第 8 号墳出土遺物実測図 (1)……………	144
第 71 図	第 242 号土坑・出土遺物実測図……………	68	第 130 図	第 8 号墳出土遺物実測図 (2)……………	145
第 72 図	第 256 号土坑・出土遺物実測図……………	69	第 131 図	第 9 号墳完掘実測図……………	147
第 73 図	第 257 号土坑・出土遺物実測図……………	69	第 132 図	第 9 号墳周溝土層断面図・埋葬施設土層断面図……………	148
第 74 図	第 260 号土坑・出土遺物実測図……………	70	第 133 図	第 9 号墳出土遺物実測図……………	149
第 75 図	第 261 号土坑・出土遺物実測図……………	70	第 134 図	第 10 号墳完掘実測図……………	153
第 76 図	第 276 号土坑・出土遺物実測図……………	71	第 135 図	第 10 号墳周溝・埋葬施設・土層断面・出土遺物実測 図……………	154
第 77 図	第 282 号土坑・出土遺物実測図……………	71	第 136 図	第 128 号土坑・出土遺物実測図……………	155
第 78 図	第 286 号土坑・出土遺物実測図……………	72	第 137 図	第 17 号溝跡・第 58・159 号土坑・遺構外出土遺物実 測図……………	157
第 79 図	第 295 号土坑・出土遺物実測図……………	72	第 138 図	上境作ノ内古墳群分布図……………	158
第 80 図	第 302 号土坑・出土遺物実測図……………	73	第 139 図	第 1 号墳箱式石棺展開図……………	158
第 81 図	第 2 号竪穴建物跡実測図 (1)……………	76	第 140 図	第 1 号墳出土機織形埴輪復元図 (1)……………	160
第 82 図	第 2 号竪穴建物跡実測図 (2)……………	77	第 141 図	第 1 号墳出土機織形埴輪復元図 (2)……………	161
第 83 図	第 2 号竪穴建物跡出土遺物実測図……………	77			
第 84 図	第 3 号竪穴建物跡実測図……………	78			
第 85 図	第 3 号竪穴建物跡出土遺物実測図……………	79			
第 86 図	第 4 号竪穴建物跡実測図……………	80			
第 87 図	第 6 号竪穴建物跡・出土遺物実測図……………	81			
第 88 図	第 3 号墳完掘実測図……………	82			
第 89 図	第 3 号墳墳丘・周溝土層断面実測図……………	83			

挿表目次

第 1 表	周辺遺跡一覧……………	7	第 58 表	第 216 号土坑出土遺物一覧……………	67
第 2 表	上境滝の台古墳群の重鉱物・火山ガラス比分析結果…	14	第 59 表	第 220 号土坑出土遺物一覧……………	68
第 3 表	第 1 号石器集中地点層位別単位石材器種一覧……………	17	第 60 表	第 242 号土坑出土遺物一覧……………	68
第 4 表	第 1 号石器集中地点層位別石材重量一覧……………	17	第 61 表	第 256 号土坑出土遺物一覧……………	69
第 5 表	第 1 号石器集中地点出土遺物一覧……………	17	第 62 表	第 257 号土坑出土遺物一覧……………	69
第 6 表	第 2 号石器集中地点層位別単位石材器種一覧……………	18	第 63 表	第 260 号土坑出土遺物一覧……………	70
第 7 表	第 2 号石器集中地点層位別石材重量一覧……………	18	第 64 表	第 261 号土坑出土遺物一覧……………	70
第 8 表	第 2 号石器集中地点出土遺物一覧……………	20	第 65 表	第 276 号土坑出土遺物一覧……………	71
第 9 表	第 3 号石器集中地点層位別単位石材器種一覧……………	21	第 66 表	第 282 号土坑出土遺物一覧……………	71
第 10 表	第 2 号石器集中地点層位別石材重量一覧……………	21	第 67 表	第 286 号土坑出土遺物一覧……………	72
第 11 表	第 3 号石器集中地点出土遺物一覧……………	26	第 68 表	第 295 号土坑出土遺物一覧……………	73
第 12 表	第 4 号石器集中地点層位別単位石材器種一覧……………	28	第 69 表	第 302 号土坑出土遺物一覧……………	73
第 13 表	第 4 号石器集中地点層位別石材重量一覧……………	28	第 70 表	縄文時代土坑一覧……………	73
第 14 表	第 4 号石器集中地点出土遺物一覧……………	32	第 71 表	第 2 号竪穴建物跡出土遺物一覧……………	77
第 15 表	第 5 号石器集中地点層位別単位石材器種一覧……………	33	第 72 表	第 3 号竪穴建物跡出土遺物一覧……………	79
第 16 表	第 5 号石器集中地点層位別石材重量一覧……………	33	第 73 表	第 6 号竪穴建物跡出土遺物一覧……………	80
第 17 表	第 5 号石器集中地点出土遺物一覧……………	35	第 74 表	弥生時代竪穴建物跡一覧……………	81
第 18 表	第 6 号石器集中地点層位別単位石材器種一覧……………	39	第 75 表	第 3 号墳出土遺物一覧……………	90
第 19 表	第 6 号石器集中地点層位別石材重量一覧……………	39	第 76 表	その他の土坑一覧……………	101
第 20 表	第 6 号石器集中地点出土遺物一覧……………	40	第 77 表	第 1 号溝跡出土遺物一覧……………	103
第 21 表	集中地点外石材別器種一覧……………	42	第 78 表	第 1 号ピット群出土遺物一覧……………	103
第 22 表	集中地点外石材別重量一覧……………	42	第 79 表	第 1 号ピット群ピット一覧……………	103
第 23 表	集中地点外出土遺物一覧……………	44	第 80 表	第 2 号ピット群ピット一覧……………	103
第 24 表	第 3 号土坑出土遺物一覧……………	48	第 81 表	遺構外出土遺物一覧……………	106
第 25 表	第 11 号土坑出土遺物一覧……………	48	第 82 表	出土地点・層位別器種・石材一覧……………	107
第 26 表	第 33 号土坑出土遺物一覧……………	49	第 83 表	上境作ノ内遺跡・上境作ノ内古墳群の重鉱物・火山 ガラス比分析結果……………	113
第 27 表	第 34 号土坑出土遺物一覧……………	49	第 84 表	第 1 号石器集中地点層位別単位石材器種一覧……………	115
第 28 表	第 35 号土坑出土遺物一覧……………	50	第 85 表	第 1 号石器集中地点層位別石材重量一覧……………	115
第 29 表	第 36 号土坑出土遺物一覧……………	50	第 86 表	第 1 号石器集中地点出土遺物一覧……………	117
第 30 表	第 38 号土坑出土遺物一覧……………	51	第 87 表	第 3 号石器集中地点層位別単位石材器種一覧・層位 別石材重量一覧……………	118
第 31 表	第 45 号土坑出土遺物一覧……………	51	第 88 表	第 3 号集中地点出土遺物一覧……………	118
第 32 表	第 61 号土坑出土遺物一覧……………	52	第 89 表	第 5 号石器集中地点層位別単位石材器種一覧……………	120
第 33 表	第 66 号土坑出土遺物一覧……………	52	第 90 表	第 5 号石器集中地点層位別石材重量一覧……………	120
第 34 表	第 73 号土坑出土遺物一覧……………	53	第 91 表	第 5 号石器集中地点出土接合資料……………	121
第 35 表	第 78 号土坑出土遺物一覧……………	54	第 92 表	第 5 号集中地点出土遺物一覧……………	124
第 36 表	第 131 号土坑出土遺物一覧……………	54	第 93 表	集中地点外石材単位器種・石材重量一覧……………	125
第 37 表	第 85 号土坑出土遺物一覧……………	54	第 94 表	集中地点外出土遺物一覧……………	126
第 38 表	第 96 号土坑出土遺物一覧……………	56	第 95 表	第 1 号墳出土遺物一覧……………	136
第 39 表	第 99 号土坑出土遺物一覧……………	56	第 96 表	第 1 号墳出土遺物一覧（円筒埴輪）……………	136
第 40 表	第 150 号土坑出土遺物一覧……………	57	第 97 表	第 1 号墳出土遺物一覧（形象埴輪）……………	139
第 41 表	第 113 号土坑出土遺物一覧……………	58	第 98 表	第 8 号墳出土遺物一覧……………	145
第 42 表	第 119 号土坑出土遺物一覧……………	58	第 99 表	第 8 号墳出土遺物一覧（円筒埴輪）……………	146
第 43 表	第 126 号土坑出土遺物一覧……………	59	第 100 表	第 8 号墳出土遺物一覧（形象埴輪）……………	146
第 44 表	第 127 号土坑出土遺物一覧……………	59	第 101 表	第 9 号墳出土遺物一覧……………	149
第 45 表	第 130 号土坑出土遺物一覧……………	59	第 102 表	第 10 号墳出土遺物一覧……………	155
第 46 表	第 138 号土坑出土遺物一覧……………	61	第 103 表	古墳一覧……………	155
第 47 表	第 139 号土坑出土遺物一覧……………	61	第 104 表	第 128 号土坑出土遺物一覧……………	155
第 48 表	第 142 号土坑出土遺物一覧……………	62	第 105 表	第 3 号溝跡……………	156
第 49 表	第 143 号土坑出土遺物一覧……………	62	第 106 表	その他の土坑一覧……………	156
第 50 表	第 147 号土坑出土遺物一覧……………	63	第 107 表	第 17 号溝跡、第 58・159 号土坑、遺構外出土遺物 一覧……………	157
第 51 表	第 160 号土坑出土遺物一覧……………	63	第 108 表	その他の溝跡一覧……………	157
第 52 表	第 169 号土坑出土遺物一覧……………	64	第 109 表	その他の粘土採掘坑……………	157
第 53 表	第 172 号土坑出土遺物一覧……………	64	第 110 表	遺構外出土遺物一覧……………	157
第 54 表	第 171 号土坑出土遺物一覧……………	65			
第 55 表	第 193 号土坑出土遺物一覧……………	65			
第 56 表	第 194 号土坑出土遺物一覧……………	65			
第 57 表	第 197 号土坑出土遺物一覧……………	67			

写真図版目次

	上境作ノ内古墳群第1号墳出土埴輪	PL12	第10号墳 埋葬施設掘方
PL1	上境滝の台古墳群全景（鉛直から）	PL12	第19号溝跡
PL1	上境作ノ内遺跡・上境作ノ内古墳群全景（鉛直から）	PL13	第17号溝跡（南から）
PL2	第3号墳（西から）	PL13	第3号溝跡（西から）
PL2	第3号墳 墳丘残存部	PL13	第95号土坑（右上）
PL2	第3号墳 埋葬施設埋没状況	PL13	第117号土坑
PL2	第3号墳 埋葬施設	PL13	第128号土坑 遺物出土状況
PL2	第3号墳 埋葬施設掘方	PL13	第1号粘土採掘坑
PL3	第3号墳 埋葬施設（北壁）	PL14	第1号石器集中地点 遺物出土状況
PL3	第3号墳 埋葬施設裏込土層（北壁）	PL14	第3号石器集中地点 遺物出土状況
PL3	第3号墳 埋葬施設（南壁）	PL15	第1号テストピット
PL3	第3号墳 埋葬施設裏込土層（南壁）	PL15	第5号石器集中地点 遺物出土状況
PL3	第3号墳 埋葬施設（東壁）	PL15	テストピット1 分析用試料土壌採取状況
PL3	第3号墳 埋葬施設裏込土層（東壁）	PL15	テストピット2
PL3	第3号墳 埋葬施設（西壁）	PL15	テストピット3
PL3	第3号墳 埋葬施設裏込土層（西壁）	PL16	第1・2号石器集中地点出土石器
PL4	第2号堅穴建物跡	SS1	1・2・3・4・6・7・12・13・22 48・49・56・57・73・74・80・93
PL4	第3号堅穴建物跡	SS2	1・7・15・19
PL4	第1号方形堅穴遺構	PL17	第2・3号石器集中地点出土石器
PL4	第85号土坑 遺物出土状況	SS2	2・4・6・8・9・11・12・16・17
PL4	第193号土坑 遺物出土状況	SS3	8・20・22・27・34・45・49・50・52 59・63・64・65・69-1・69-2・72・74
PL4	第220号土坑 遺物出土状況	PL18	第3号石器集中地点出土石器（接合資料1） 接合資料1
PL4	テストピット	PL19	第3号石器集中地点出土石器（接合資料2・3） 接合資料2（51・73） 接合資料3
PL4	テストピット 分析用試料土壌採取状況	PL20	第3号石器集中地点出土石器（接合資料3） 接合資料3（30・58・60・61・66） 14・18・19・23・28・39・47・48・54・55・62・67・75
PL5	第1号石器集中地点 遺物出土状況	PL21	第3号石器集中地点出土石器（接合資料4） 第4号石器集中地点出土石器（接合資料1） SS3 接合資料4（9） 1
PL5	第2号石器集中地点 遺物出土状況	SS4	接合資料1（10・51） 33・34・55・84
PL6	第3号石器集中地点 遺物出土状況	PL22	第4号石器集中地点出土石器（接合資料2・4） 接合資料2（43・45・47・48） 接合資料4（78・85） 1・5・18・32・37・40・44・54・70・75・79
PL6	第4号石器集中地点 遺物出土状況	PL23	第4号石器集中地点出土石器（接合資料3・5） 接合資料3（52・81） 接合資料5（77・80・82・92） 9・39・57・58・61・67・86・88
PL7	第5号石器集中地点 遺物出土状況	PL24	第4号石器集中地点出土石器 第5号石器集中地点出土石器（接合資料1） SS4 19・24・25・27・42・65・72・73・74・87・94 SS5 19 接合資料1（14・17）
PL7	第6号石器集中地点 遺物出土状況	PL25	第5・6号石器集中地点出土石器 SS5 1・5 SS6 2・6・7・18・28・37・52・53・57・81・128 149・155・162・193・195・196・198・200・201 204
PL8	第8号墳		
PL8	第8号墳 箱式石棺蓋石確認状況		
PL8	第8号墳 箱式石棺蓋石検出状況		
PL8	第8号墳 箱式石棺内部確認状況（1）		
PL8	第8号墳 箱式石棺内部確認状況（2）		
PL9	第8号墳 箱式石棺内部確認状況（3）（東から）		
PL9	第8号墳 石棺内遺物出土状況（東から）		
PL9	第8号墳 箱式石棺（鉛直）		
PL9	第8号墳 石棺掘方裏込土層断面（西から）		
PL9	第8号墳 石棺東側掘方小口裏込土層断面（南から）		
PL9	第8号墳 石棺南東コーナー部目地粘土（南壁）		
PL9	第8号墳 箱式石棺板石検出状況		
PL9	第8号墳 埋葬施設掘方（西から）		
PL10	第1号墳		
PL10	第1号墳 周溝南東部遺物出土状況 形象埴輪		
PL10	第1号墳 周溝北東部遺物出土状況 形象埴輪		
PL10	第1号墳 周溝南西部遺物出土状況 円筒埴輪		
PL10	第1号墳 埋葬施設掘方		
PL11	第9号墳		
PL11	第9号墳 埋葬施設確認状況		
PL11	第9号墳 埋葬施設内石材検出状況		
PL11	第9号墳 埋葬施設（南から）		
PL11	第9号墳 埋葬施設掘方		
PL12	第10号墳		
PL12	第10号墳 埋葬施設内石材検出状況		

PL26	第6号石器集中地点・集中地点外出土石器 SS 6 3・4・10・14・19・26・27・44・60・67・84 110・125・148・161・164・171・178・191・192 194・205 集中地点外 4・8・12・13・257	PL38	第3号墳出土ガラス製品 TM 3-116～227
PL27	集中地点外出土石器(1) 1・2・3・5・9・11・14・15・17・18・103 188・209・223・225・240	PL39	第1号石器集中地点出土石器(接合資料1・2) 第3号石器集中地点出土石器 SS 1 接合資料1・接合資料2 SS 1-1・3・5・8・10・11 SS 3-2
PL28	集中地点外出土石器(2) 6・7・10・16・19・21・22・24・25・26・27・30・32 33・34・35・150・232・245・248	PL40	第5号石器集中地点出土石器(接合資料1～3・6) 接合資料1 (9・17・20・22・23・31・42・43) 接合資料2 (18・19) 接合資料3 (27・35・37・39) 接合資料6 (33・40)
PL29	第2・3・6号竪穴建物跡, 第33・85号土坑出土遺物 SI 2-1・2, SI 3-1, SI 6-1, SK33-1, SK85-1	PL41	第5号石器集中地点出土石器(接合資料4・5) 接合資料4 (30・36・38) 接合資料5 (32・41) 4・6・8・11・12・13・16・21・25・26・28・29・44
PL30	第3・34・36・38・45・61・66・73・85・99号土坑出土石器 SK 3-1, SK34-2, SK36-1・2, SK38-1・2 SK45-1, SK61-1, SK66-1・2, SK73-1・2・3 SK85-4, SK99-1	PL42	集中地点外出土石器(接合資料1) 接合資料1 4・10・11・16・21・22・45・47・48・50・62・65 69・79・82・83・86・91・127
PL31	第78・85・96・113・126・130号土坑出土石器 SK78-1, SK85-2・3, SK96-1, SK113-1 SK126-1・2, SK130-1	PL43	第17号溝跡, 第95・128・141号土坑, 第10号墳出土石器, 第1号墳出土円筒埴輪 SD17-1, SK95-1, SK141-1, 128-1・2, TM10-1 TM 1-11・14・21・24・25・30・38・65・68・109・119
PL32	第119・126・127・130・131・142・143・147・169・ 172・194・197・256号土坑出土石器 SK119-1, SK126-3, SK127-1, SK130-2 SK131-1・2, SK142-1・2, SK143-1, SK147-2 SK169-1, SK172-1, SK194-1, SK197-1, SK256-1	PL44	第1号墳出土形象埴輪 128・129・142・143・144・146・147・148・149 151・152
PL33	第130・138・147・150・160・216・220・257・286 302号土坑出土石器 SK130-3, SK138-1, SK147-1, SK150-1・2・3・ 4, SK160-1, SK216-1, SK220-1, SK257-1, SK286-1, SK302-1	PL45	第1号墳出土形象埴輪(馬形) 138・139・140
PL34	第193・242・260・261・276号土坑, 第1号溝跡, 第3号墳, 遺構外出土遺物 SK193-1, SK242-1, SK261-1, SK260-1, SK276-1, SD 1-1, TM 3-5, 遺構外-22・24・25・26	PL46	第1号墳出土器財埴輪(機織形) 135・136
PL35	第3・4・5号石器集中地点, 第11・66号土坑, 第1 号ピット群, 遺構外出土石器 第3号墳出土金属製品(1) SS 3-31・33, SS 4-22, SS 5-15, SK11-1, SK66-3 PG 1-1, 遺構外-27・30・31・33・34, TM 3-6・7・ 10・11・12・15・16	PL47	第1号墳出土器財埴輪(機織形・人物) 135・137
PL36	第3号墳出土金属製品(2) TM 3-13・14・17・19・20・23・35・36・37・38・39 40・41・42・43・44・45・58・59	PL48	第8・9号墳, 第17号溝跡, 第58・159号土坑, 遺構外 出土埴輪(円筒・形象) SD17-8, SD17-15, SK58-7・159-1, 遺構外-1・2・4・5, TM 8-1・2・3, TM 9-2・3
PL37	第3号墳出土金属製品(3) TM 3-24・25・26・27・28・29・30・31・32・33・34	PL49	第8号墳出土金属製品 TM 8-7・8・9・11・12・13・14・15・16・17
		PL50	第8・9・10号墳出土金属製品 第9号墳出土ガラス製品 TM 8-4・5・6・10・18 TM 9-6・7・8～29 TM10-2

上境滝の台古墳群，上境作ノ内遺跡・上境作ノ内古墳群の概要

遺跡の位置と調査の目的

上境滝の台古墳群，上境作ノ内遺跡・上境作ノ内古墳群は，つくば市の東部，桜川右岸の台地上に立地しています。2つの古墳群は谷津を挟んで250 mの距離で隣り合っています。今回，中根・金田台特定土地区画整理事業に伴い，遺跡の内容を図や写真に記録して保存するため，公益財団法人茨城県教育財団が平成30年度に，上境滝の台古墳群の3,415 m²について，上境作ノ内遺跡・上境作ノ内古墳群の5,522 m²について発掘調査を行いました。



筑波山を望む調査区全景（北：上境作ノ内遺跡・上境作ノ内古墳群調査前 南：上境滝の台古墳群調査終了）

上境滝の台古墳群の調査の内容と成果

旧石器時代の石器集中地点6か所，縄文時代の土坑184基，弥生時代の^{たてあな}竪穴建物跡4棟，古墳時代の古墳1基などが確認できました。

石器群のなかには，約3万年前に噴火した鹿児島県の^{あいら}始良カルデラの火山灰が含まれる地層よりも古い地層から出土している石器があります。

第3号墳は全長約30mの前方後円墳で，^{まいそうしせつ}埋葬施設は盗掘を受けていました

が、^{ぎんぞうがん}銀象嵌や^{てつじこんどうば}鉄地金銅張りの^{とうそうぐ}刀装具や直径約3～5mmのガラス小玉が122点出土しています。出土した刀装具の破片などから、少なくとも3振の^{ふく}大刀が^{そうひん}副葬品として納められていたことが推定されます。



第1号石器集中地点調査風景



第3号墳主体部調査風景

上境作ノ内遺跡・上境作ノ内古墳群の調査の内容と成果

旧石器時代の石器集中地点3か所，古墳時代の古墳4基，平安時代の土坑1基，江戸時代の溝跡1条などを確認しました。

当古墳群は，これまで7基から構成される古墳群とされてきましたが，今回の調査で新たに3基の古墳（第8～10号墳）が確認でき，10基の古墳で構成されていたことが分かりました。いずれの古墳も墳丘が削平され，埋葬施設は盗掘を受けていましたが，第8号墳は^{はこしきせつがん}箱式石棺が残っていました。

第1号墳の周溝からは，^{えんとうはにわ}円筒埴輪や^{けいしゅうはにわ}形象埴輪，^{きざいはにわ}器財埴輪が出土しています。覆土上層の自然堆積土から出土しているため，投棄されたものと考えられます。器財埴輪は，^{はたおり}機織（^{じばた}地機）をかたどった埴輪と推測され，全国でも類例の少ない資料となります。



第1号墳周溝遺物出土状況



第8号墳蓋石検出状況

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経緯

中根・金田台地区については、独立行政法人都市再生機構が施行者となり土地地区画整理事業を実施した。この事業は、平成6年9月に、茨城県知事・つくば市長から住宅・都市整備公団（当時）へ事業施行要請を行い、その後、事業実施に向けた検討を進め、平成16年5月に事業認可され、計6回の事業計画変更認可の手続きを経て、平成30年11月に換地処分公告されたものである。なお、独立行政法人都市再生機構は平成16年7月に設立されたが、その前身は、都市基盤整備公団（平成11年10月設立）、更にその前身は、住宅・都市整備公団（昭和56年10月設立）と、数回、組織改編が行われている。

平成6年11月18日、住宅・都市整備公団つくば開発局長は、茨城県教育委員会教育長あてに中根・金田台特定土地地区画整理事業地内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて照会した。これを受け茨城県教育委員会は、平成7年度、上境作ノ内遺跡及び上境作ノ内古墳群について、平成11年度、上境滝の台古墳群について現地踏査を実施し、平成11年度に3遺跡の試掘調査を実施した。平成11年12月10日、茨城県教育委員会教育長は、都市基盤整備公団茨城地域支社長あてに事業地内に遺跡が所在すること及びその取扱いについて別途協議が必要であることを回答した。

平成30年2月5日、独立行政法人都市再生機構首都圏ニュータウン本部つくば・千葉常磐担当推進役は、茨城県教育委員会教育長あてに文化財保護法第94条に基づく土木工事の通知を提出した。平成30年2月13日、茨城県教育委員会教育長は、独立行政法人都市再生機構首都圏ニュータウン本部つくば・千葉常磐担当推進役あてに、現状保存が困難であることから、記録保存のための発掘調査が必要であると決定し、発掘調査を実施するよう通知した。平成30年2月26日、独立行政法人都市再生機構首都圏ニュータウン本部つくば・千葉常磐担当推進役は、茨城県教育委員会教育長あてに、中根・金田台特定土地地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査の実施について協議書を提出した。平成30年2月27日、茨城県教育委員会教育長は、独立行政法人都市再生機構首都圏ニュータウン本部つくば・千葉常磐担当推進役あてに、3遺跡について、発掘調査の範囲及び面積等について回答し、併せて調査機関として、公益財団法人茨城県教育財団を紹介した。

公益財団法人茨城県教育財団は、独立行政法人都市再生機構首都圏ニュータウン本部つくば・千葉常磐担当推進役から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、平成30年5月1日から12月31日まで発掘調査を実施した。

第2節 調査経過

上境滝の台古墳群は、平成30年5月1日から9月30日までの5か月間、上境作ノ内遺跡・上境作ノ内古墳群は、平成30年9月1日から12月31日までの4か月間にわたり調査を実施した。以下、その概要を表で記載する。

工程	期間	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
調査準備 表土除去 遺構確認		■	■			■	■		
遺構調査			■	■	■	■	■	■	■
遺物洗浄 注記 写真整理		■	■	■	■	■	■	■	■
撤収									■

■ 上境滝の台古墳群 ■ 上境作ノ内遺跡・上境作ノ内古墳群

第2章 位置と環境

第1節 位置と地形

上境滝の台古墳群は、茨城県つくば市上境 297 番地ほかに、上境作ノ内遺跡・上境作ノ内古墳群は、茨城県つくば市上境 185 番地の 1 ほかに所在している。

つくば市は、茨城県の南西部に位置し、東方約 5km には霞ヶ浦、北端には筑波山がある。市域の地勢は、筑波山の南西麓を南下する桜川の低地と、市の西側を南下する小貝川の低地及びそれらに挟まれた標高 25～26 m のほぼ平坦な筑波・稲敷台地からなっている。この台地には、花室川、蓮沼川、谷田川、西谷田川など中小河川が南流して、台地縁辺部を樹枝状に開析している。そのため、谷津や低地が南北に細長く発達し、北から南に細長く延びる舌状台地が形成されている。桜川によって大きく開析された流域には、標高約 5 m の沖積低地が形成され、台地との標高差は約 20 m である。

筑波・稲敷台地は、千葉県北部から茨城県南部に広がる常総台地の一部であり、地質的には新生代第四紀洪積世に形成された地層が堆積している。下層は成田層及び竜ヶ崎層と呼ばれる砂層・砂礫層が主体をなし、その上部に常総粘土層と呼ばれる灰白色粘土層、さらにその上部に関東ローム層が堆積し、最上部は腐植土層となっている¹⁾。

上境滝の台古墳群は、桜川右岸の支谷に北面する標高 18～27 m の台地上に立地している。調査前の現況は開発のため整地されており、調査区西側の支谷は一部埋め立てられ、第 3 号墳墳丘南側は削平されていた。つくば市の踏査により 3 基の古墳が確認されており、第 1・2 号墳は^{すだみ}體見神社の南東 50 m、北西 250 m にそれぞれ位置しており、径 14 m、高さ 1 m の円墳である²⁾。第 3 号墳は第 2 号墳の南 50 m に位置し、南側が調査区にかかっている。支谷を挟んだ約 250 m 北の台地上には、上境作ノ内遺跡と上境作ノ内古墳群が所在している。

上境作ノ内遺跡・上境作ノ内古墳群は桜川右岸の標高 22～26 m の台地上に立地し、遺跡範囲は一部重複している。調査前の現況は開発のため整地されていた。北西側及び南側に桜川の低地から延びる支谷が入り込み、台地は扇状に北東側へ広がり、その基部に向かい合うように位置している。低位面との比高は約 10 m である。古墳はつくば市の踏査により、台地縁辺部の東側に 6 基、南側に 1 基確認されており、今回の調査で新たに 3 基の古墳を確認した。第 1 号墳は旧地権者の信仰対象であったため、平成 12 年度につくば市により調査が行われ移設されている³⁾。支谷を挟んだ約 300 m 北西の台地上には、上野古屋敷遺跡が所在している。

上境滝の台古墳群、上境作ノ内遺跡・上境作ノ内古墳群周辺の土地利用の現状は、台地縁辺部の一部が雑木林と杉林となっており、上境作ノ内遺跡の一部は、茨城県教育財団の調査以降、宅地として開発されている。また、遺跡の位置する台地を挟むように入り込む支谷は水田または休耕田である。

第2節 歴史的環境

桜川右岸に位置する上境滝の台古墳群、上境作ノ内遺跡、上境作ノ内古墳群周辺の台地上には、旧石器時代から近世に至るまで、各時代の遺跡が多数分布している。ここでは、桜川と花室川流域の同時代の遺跡を中心に分布の概要について述べる。

旧石器時代の遺跡は、他の時代と比べて遺跡数は極めて少ない。これらの遺跡は、主に桜川・花室川流域の

台地上や谷田川・蓮沼川流域の台地上に立地している。桜川・花室川流域の遺跡では、当遺跡をはじめ、^{うえの}上野古屋敷遺跡⁴⁾〈33〉、^{なかねなかやつ}中根中谷津遺跡⁵⁾〈10〉、^{ひがしおこなはら}東岡中原遺跡⁶⁾〈21〉で石器集中地点が確認されている。中でも東岡中原遺跡では、荒屋型彫刻刀形石器を含む細石刃石器群、ナイフ形石器、尖頭器、搔器、彫刻刀形石器、楔形石器、石刃、石核などが、多層位にわたって出土しており、これらは県内の旧石器時代を考える上で重要な資料となっている。また、花室川左岸の^{ほうじょうなかだい}北条中台遺跡⁷⁾や、^{しばさき}柴崎遺跡⁸⁾〈31〉からもナイフ形石器や尖頭器が出土している。花室川の川底からは、ナウマンゾウやニホンアシカの化石が出土しており、旧石器時代の人々が狩猟対象としていたことが考えられている⁸⁾。谷田川・蓮沼川流域の遺跡は、^{しまなまえのひがし}島名前野東遺跡、^{おもひのいきたの}面野井北ノ前遺跡、^{かりまじんでん}苅間神田遺跡などがあり、面野井北ノ前遺跡からは、2点の荒屋型彫刻刀形石器が出土している⁹⁾。

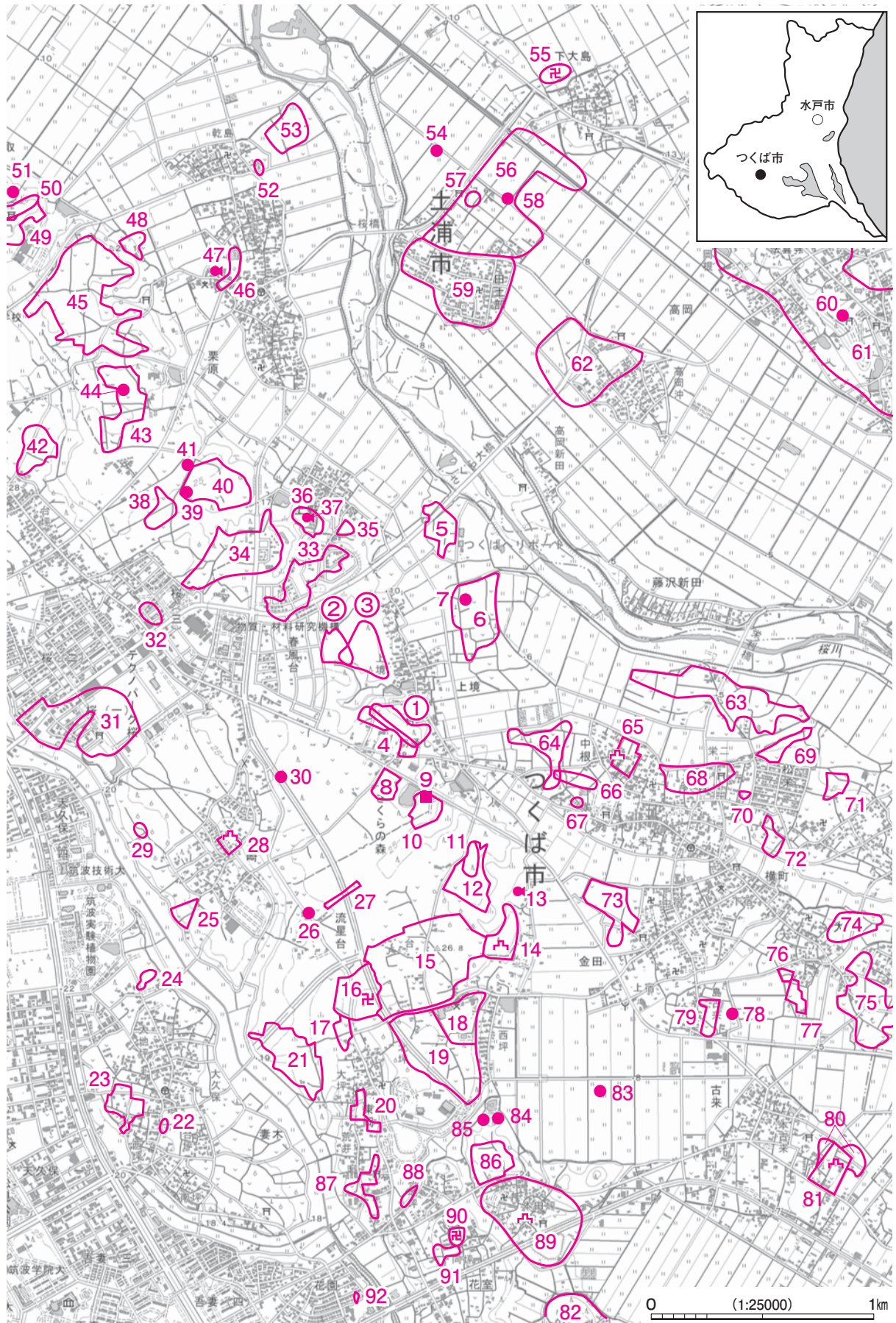
縄文時代の遺跡は、多数確認されている。柴崎遺跡では、早期の炉穴が確認されている。^{うえのじんば}上野陣場遺跡¹¹⁾〈34〉、上野古屋敷遺跡、東岡中原遺跡では、前期の集落跡が確認されており、当該地域に人が定住し始めたことを示している。中期に入ると、集落の規模が大きくなり、遺跡数も増加している。北条中台遺跡や、花室川下流左岸の^{しもひろおか}下広岡遺跡¹²⁾では、大規模な集落跡が確認されている。後期には、周辺地域で貝塚が形成されるようになる。^{かみざかいあさひだい}上境旭台貝塚¹³⁾〈8〉や桜川下流域に存在する国指定史跡の^{かみたかつ}土浦市上高津貝塚¹⁴⁾では、後期から晩期にかけて形成された貝塚が存在する。これらの貝塚からは、土器などの遺物のほか、動物の骨などの自然遺物も多量に出土しており、当該期の生業活動を推測する上で良好な資料となっている。また、上野陣場遺跡、上野古屋敷遺跡、上境旭台貝塚、東岡中原遺跡からは、縄文時代に作られたと考えられる陥し穴が確認されており、台地上が狩猟の場としても利用されていたことが分かる。

弥生時代の遺跡は他の時代と比べて少なく、隣接する上野古屋敷遺跡や上野陣場遺跡、やや上流にある^{たまとり}玉取^{ひかいやま}向山遺跡¹⁵⁾で、後期の集落跡が確認されているが遺跡数は少ない。

古墳時代になると遺跡数が急増し、桜川周辺の微高地や台地全域に広がっている。桜川右岸では、上野陣場遺跡、上野古屋敷遺跡で前期と後期、東岡中原遺跡で中期、柴崎遺跡で後期の集落跡がそれぞれ確認されている。古墳は、前期古墳として、当遺跡から北方500mに位置する当地域最大の全長80mの前方後円墳である^{うえの}上野^{てんじんつか}天神塚古墳¹⁶⁾〈37〉が存在している。後期古墳として、^{くりはらとおかつか}栗原十日塚古墳〈39〉、^{くりはらあたごつか}栗原愛宕塚古墳〈41〉をはじめ、桜川右岸台地縁辺部に、帆立貝式前方後円墳の周溝内土壇から埴輪棺が確認された上野古屋敷遺跡第1号墳¹⁷⁾などが知られている。

奈良・平安時代の当該地域は、^{かわちすがた}河内郡菅田郷に属し、その後12世紀には田中荘に属していた。この時代の遺跡は、桜川と花室川に挟まれた中根、金田を中心とする台地上に集中している。^{こんだにしつぽ}金田西坪A遺跡〈18〉は従来から河内郡衛の正倉跡と推定されていたが、平成14年に^{こんだにし}金田西遺跡〈15〉、^{このえひがしおか}九重東岡廃寺〈16〉、^{こんだにしつぽ}金田西坪B遺跡〈19〉の確認調査を実施したところ、多数の掘立柱建物跡等が確認され、河内郡衛の郡庁院、正倉院及び関連建物群であることが明らかになった¹⁸⁾。九重東岡廃寺からは、礎石、瓦塔、瓦、蔵骨器などが出土しており、確認調査で基壇の一部と溝、堂宇と想定される掘立柱建物跡が検出されているが、寺域や伽藍配置等については不明である¹⁹⁾。この他、柴崎遺跡や東岡中原遺跡でも大規模な集落跡が確認されている。

中世の遺跡も数多く確認されている。柴崎遺跡では、12～13世紀の方形堅穴遺構を中心とした集落跡が、上野古屋敷遺跡では、溝で区画された掘立柱建物跡を中心とする集落跡が確認されている。桜川左岸には小田氏の居城であった国指定史跡^{おだ}小田城跡があり、それに関連すると考えられる城館跡も多い。桜川右岸には、^{しば}柴崎片岡上館跡〈28〉、^{こんだ}金田城跡〈14〉、^{はなむろ}花室城跡〈89〉、^{うえのむろ}上ノ室城跡〈82〉、^{ふるく}古来館跡〈81〉などが位置している。仏教関連遺跡としては、筑波山の南、三村山麓一帯に中世寺院群が存在しており、つくば市^{みむらさんせいれいんこくらく}三村山清冷院極楽寺跡には、13世紀の半ば、大和の高僧忍性が来往して、布教に努めたと伝えられている²⁰⁾。当地域は鎌倉時



第1図 周辺遺跡分布図（国土地理院 25,000 分の 1 「上郷」「常陸藤沢」）

第1表 周辺遺跡一覧

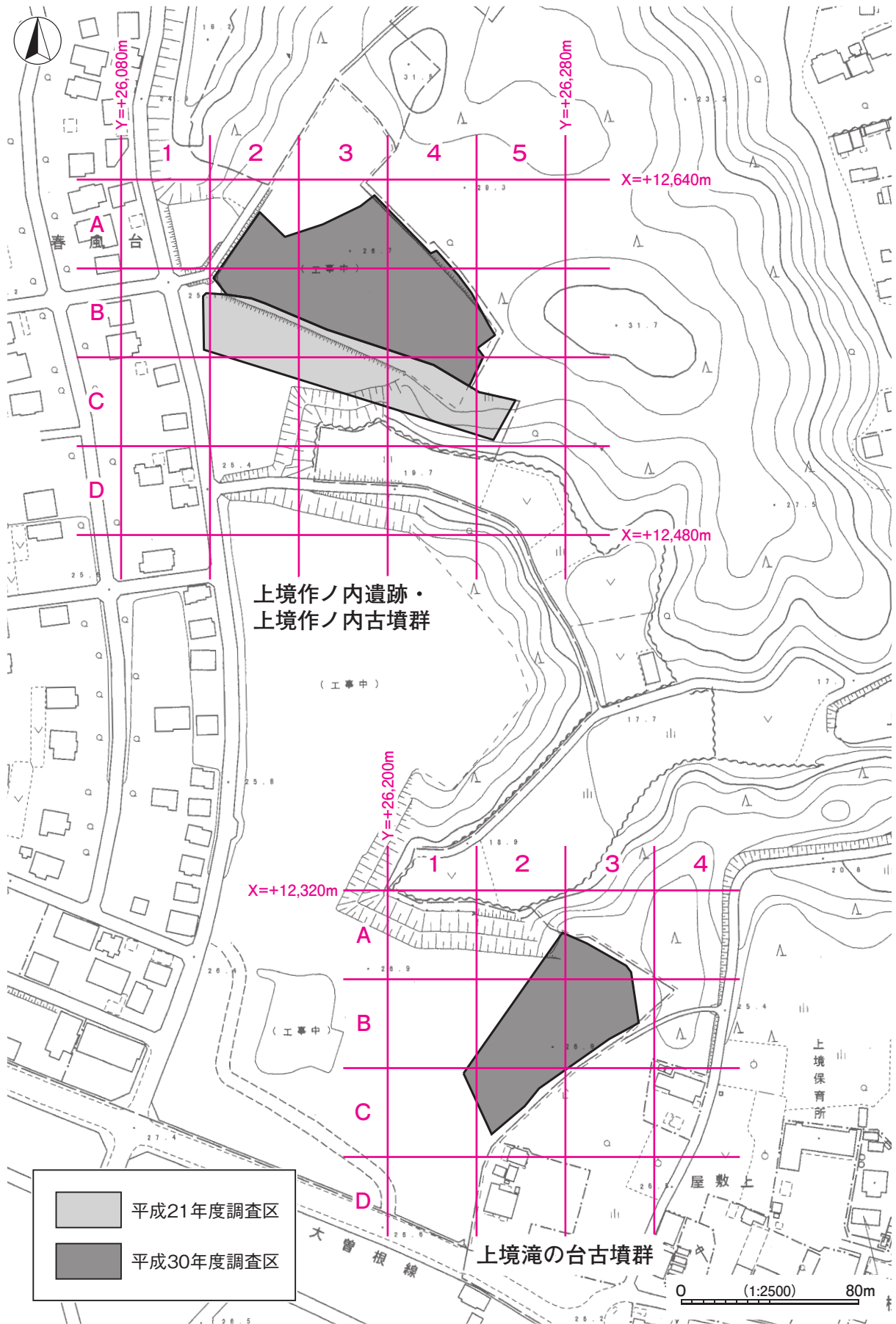
番号	遺跡名	時代							番号	遺跡名	時代							
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町	江戸			旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町	江戸	
①	上境滝の台古墳群	○	○	○	○				47	栗原古塚古墳				○				
②	上境作ノ内遺跡	○	○		○	○		○	48	栗原登戸遺跡					○	○		
③	上境作ノ内古墳群				○				49	玉取遺跡		○	○	○	○		○	
4	上境滝ノ臺遺跡	○	○	○	○				50	玉取古墳群				○				
5	上境北ノ内遺跡						○	○	○	51	玉取弁天塚					○	○	
6	上境古屋敷遺跡				○	○	○	○	52	栗原遺跡					○	○	○	
7	上境どんどん塚古墳				○				53	栗原沼向遺跡				○	○	○		
8	上境旭台貝塚	○	○	○					54	稲荷塚古墳				○				
9	中根中谷津古墳				○				55	下大島遺跡								
10	中根中谷津遺跡	○	○			○			56	広畑遺跡				○	○	○	○	
11	横町古墳群				○				57	田土部明神古墳群				○				
12	横町庚申塚遺跡		○		○	○	○	○	58	供養塚							○	
13	金田古墳				○				59	田土部館跡						○		
14	金田城跡							○	60	大日塚古墳(鹿島神社)				○				
15	金田西遺跡		○		○	○	○	○	61	岡の宮遺跡		○		○	○			
16	九重東岡廃寺						○	○	○	62	五斗内遺跡				○	○		
17	東岡中畑遺跡						○		63	中根遺跡				○	○	○		
18	金田西坪A遺跡						○		64	中根不葉拔遺跡		○			○	○	○	
19	金田西坪B遺跡		○	○	○	○			65	中根屋敷附館跡					○	○	○	
20	東岡南遺跡						○	○	○	66	中根とりおい塚古墳群				○			
21	東岡中原遺跡	○	○		○	○	○	○	67	中根宮ノ前遺跡					○	○	○	
22	妻木宮前遺跡						○	○	○	68	栄土器屋遺跡					○	○	○
23	妻木坪内遺跡						○	○	○	69	松塚鷲打遺跡					○	○	○
24	妻木鴻ノ巣遺跡				○	○			70	栄屋敷付遺跡					○	○	○	
25	柴崎南遺跡		○		○		○	○	71	松塚高畑遺跡				○	○	○		
26	柴崎稲荷前古墳				○				72	栄尼塚遺跡						○	○	
27	柴崎大堀遺跡							○	○	73	金田竜宮橋遺跡					○	○	○
28	柴崎片岡上館跡						○	○	○	74	大白畑遺跡				○	○	○	○
29	柴崎ボツケ遺跡						○		75	大寺前遺跡				○	○	○	○	
30	柴崎大日古墳				○				76	阿弥陀寺跡						○	○	
31	柴崎遺跡		○		○	○	○		77	大南遺跡				○	○	○	○	
32	上野中塚遺跡		○			○			78	古来島ノ前塚						○	○	
33	上野古屋敷遺跡	○	○	○	○	○	○	○	79	古来北ノ崎遺跡					○	○	○	
34	上野陣場遺跡		○	○	○	○	○		80	古来遺跡					○	○		
35	上野定使古墳群				○				81	古来館跡					○	○		
36	上野天神遺跡		○						82	上ノ室城跡		○			○	○	○	
37	上野天神塚古墳				○				83	金田本田遺跡					○	○		
38	栗原大山西遺跡						○	○	○	84	花室大日塚古墳				○			
39	栗原十日塚古墳				○				85	花室後田塚						○	○	
40	栗原大山遺跡				○	○			86	花室遺跡		○			○			
41	栗原愛宕塚古墳				○				87	東岡天神前遺跡					○	○	○	
42	栗原才十郎遺跡		○						88	花室溝向遺跡					○			
43	栗原五竜遺跡		○		○	○	○		89	花室城跡		○	○	○	○	○	○	
44	栗原五龍塚古墳				○				90	花室寺畑廃寺						○		
45	栗原中台遺跡		○	○	○	○	○	○	91	花室寺山前遺跡					○	○	○	
46	栗原古塚遺跡					○	○	○	92	花室大根遺跡				○				

代から室町時代にかけては小田氏，戦国時代においては小田氏と佐竹氏の支配下となり，中世末まで柴崎地区は上境・中根・土器屋・松塚・横町・柴崎地区で一郷を構成し，筑波郡と境を接することから境郷とも呼ばれていた。江戸時代は，堀氏玉取藩の知行地となった上野・栗原地区を除き，当該地域の多くが土浦藩に属することになり，明治4年（1871年）の廃藩置県に至っている。

なお，文中の〈 〉内の番号は，第2図及び第1表の該当番号と同じである。

註

- 1) a 大山年次監修『茨城県 地質のガイド』コロナ社 1977年8月
b 日本の地質『関東地方』編集委員会「関東地方」『日本の地質』3 共立出版 2007年5月桜村史編さん委員会『桜村史』上巻
- 2) 桜村教育委員会 1982年3月
- 3) 石橋充・広瀬季一郎・関口友紀『つくば市内遺跡－平成12年度発掘調査報告書－』「上境作ノ内1号墳発掘・確認調査」つくば市教育委員会 2001年3月
- 4) a 三谷正・大塚雅昭・桑村裕『上野古屋敷遺跡1 中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅸ』茨城県教育財団文化財調査報告第285集 2007年3月
b 川井正一『上野古屋敷遺跡2 中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅹ』茨城県教育財団文化財調査報告第307集 2008年3月
c 川井正一・齋藤和浩『上野古屋敷遺跡3 中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅺ』茨城県教育財団文化財調査報告第324集 2009年3月
d 櫻井完介・江原美奈子『上野古屋敷遺跡4 中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅻ』茨城県教育財団文化財調査報告第334集 2010年3月
- 5) a 川村満博『(仮称)中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ 中谷津遺跡1』茨城県教育財団文化財調査報告第139集 1998年9月
b 荒蒔克一郎『中根中谷津遺跡2 中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書ⅦⅦ』茨城県教育財団文化財調査報告第367集 2013年3月
- 6) a 成島一也『中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ 中原遺跡1』茨城県教育財団文化財調査報告第155集 2000年3月
b 成島一也・宮田和男『中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ 中原遺跡2』茨城県教育財団文化財調査報告第159集 2000年3月
c 高野節夫・白田正子・仲村浩一郎・島田和宏『中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ 原遺跡3』茨城県教育財団文化財調査報告第170集 2001年3月
d 駒澤悦郎『東岡中原遺跡4 中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書ⅧⅧ』茨城県教育財団文化財調査報告第251集 2005年3月
- 7) 吉川明宏・新井聡・黒澤秀雄『(仮称)北条住宅団地建設工事地内埋蔵文化財調査報告書 中台遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第102集 1995年12月
- 8) a 高村勇『研究学園都市計画桜柴崎土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書(Ⅰ) 柴崎遺跡Ⅰ・Ⅱ-1区』茨城県教育財団文化財調査報告第54集 1989年9月
b 佐藤正好・松浦敏『研究学園都市計画桜柴崎土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書(Ⅱ) 柴崎遺跡Ⅱ区 中塚遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第63集 1991年3月
c 土生朗治『研究学園都市計画桜柴崎土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書(Ⅲ) 柴崎遺跡Ⅲ区』茨城県教育財団文化財調査報告第72集 1992年3月
d 萩野谷悟『研究学園都市計画桜柴崎土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書(Ⅳ) 柴崎遺跡Ⅱ区・Ⅲ区』茨城県教育財団文化財調査報告第93集 1994年3月
- 9) 飯泉克典・国府田良樹・小池渉・西本豊弘・安藤寿男・伊達元成「茨城県霞ヶ浦西部花室川河床礫層より産出した後期更新世末期のニホンアシカ化石」『地質学雑誌』第116巻第5号 2010年5月
- 10) 鹿島直樹『鳥名関ノ台南B遺跡 面野井北ノ前遺跡 常磐新線建設工事地内埋蔵文化財調査報告書』茨城県教育財団文化財調査報告第231集 2004年3月
- 11) a 川上直登・長谷川聡・大塚雅昭『上野陣場遺跡 中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅴ』茨城県教育財団文化財調査報告第182集 2002年3月
b 川井正一・齋藤和浩『上野陣場遺跡2 中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書ⅩⅠ』茨城県教育財団文化財調査報告第323集 2009年3月
- 12) 加藤雅美・小河邦男『常磐自動車道関保埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ 下広岡遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第10集 1981年3月
- 13) a 柴山正広・須賀川正一・小野政美・小川貴行・越川欣和『上境旭台貝塚 中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書ⅩⅢⅢ』茨城県教育財団文化財調査報告第325集 2009年3月
b 江原美奈子『上境旭台貝塚2 中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書ⅩⅤ』茨城県教育財団文化財調査報告第364集 2012年3月
c 荒蒔克一郎『上境旭台貝塚3 中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書ⅩⅦⅦ』茨城県教育財団文化財調査報告第368集 2013年3月
d 小林和彦『上境旭台貝塚4 中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書ⅩⅨⅨ』茨城県教育財団文化財調査報告第397集 2015年3月
- 14) a 佐藤孝雄・大内千年編『国指定史跡上高津貝塚A地点－史跡整備事業に伴う発掘調査報告－』土浦市教育委員会 1994年3月
b 塩谷修編『国指定史跡上高津貝塚E地点－史跡整備事業に伴う発掘調査報告－』土浦市教育委員会 2000年3月
c 石川功・福田礼子編『国指定史跡上高津貝塚C地点－史跡整備事業に伴う発掘調査報告－』土浦市教育委員会 2006年3月
- 15) a 石橋充・関口友紀『玉取遺跡－火葬場建設に伴う発掘調査報告－』つくば市教育委員会 2000年3月
b 奥沢哲也『玉取向山遺跡 県立つくば養護学校(仮称)整備事業地内埋蔵文化財調査報告書』茨城県教育財団文化財調査報告第263集 2006年3月
- 16) 石橋充「つくば市域の古墳群」『常陸の古墳群』2010年2月
- 17) 註3 aに同じ
- 18) 白田正子『金田西遺跡 金田西坪B遺跡 九重東岡廃寺 中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書ⅦⅦ』茨城県教育財団文化財調査報告第209集 2003年3月
- 19) a 九重廃寺遺跡調査団『東岡遺跡－九重廃寺跡調査報告－』桜村教育委員会 1984年3月
b 白田正子『九重東岡廃寺確認調査報告書1』茨城県教育財団 2001年3月
- 20) 筑波町史編纂専門委員会『筑波町史 上巻』つくば市 1991年3月



第2図 調査区設定図 (つくば市都市計画図 2,500分の1)



第3図 上境滝の台古墳群遺構全体図

第3章 上境滝の台古墳群

第1節 調査の概要

上境滝の台古墳群は、つくば市の東部に位置し、桜川右岸の標高約 28 m の台地上に立地している。調査面積は 3,415 m² である。

調査の結果、石器集中地点 6 か所(旧石器時代)、土坑 308 基(縄文時代 184、時期不明 124)、竪穴建物跡 5 棟(弥生時代 4、時期不明 1)、溝跡 1 条(時期不明)、古墳 1 基(古墳時代)、方形竪穴遺構 1 基(時期不明)、ピット群 2 か所(時期不明)を確認した。

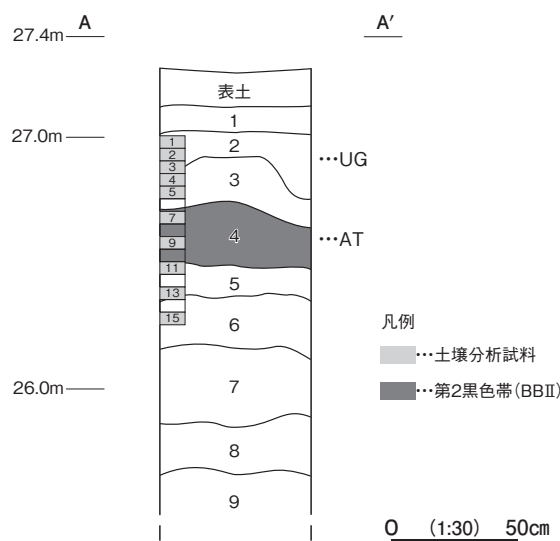
遺物は、遺物収納コンテナ(60 × 40 × 20 cm)に 28 箱出土している。主な遺物は、縄文土器片(深鉢・浅鉢)、弥生土器(広口壺)、土製品(紡錘車・埴輪)、石器・石製品(ナイフ形石器・台形様石器・石刃・石鏃・剥片・石核・垂飾り・打斧・磨斧・凹石)、金属製品(直刀・鐔・鏹・鞘尻金具・刀子・鉄鏃・鳩目金具)、ガラス製品(小玉)などである。

第2節 基本層序

1 基本層序 (第4図 PL 4)

調査区北部の台地上の平坦面(A 3g4区)にテストピットを設定した。遺構確認時から旧石器時代の遺物が数点確認できたため、テストピットのローム層序自然科学分析を行った。

第1層は、黒褐色(10YR2/3)を呈する黒色土層である。ローム粒子・黒色土ブロックを少量含み、粘性は普通で締まりが弱い。第2層は、暗褐色(10YR3/4)を呈する漸移層である。立川ローム最上部ガラス質火山灰(UG)を微量含み、粘性・締まりともに普通である。標準層序のⅢ層上部に対比される。第3層は、褐色(10YR4/4)を呈するソフトローム層である。始良 Tn テフラ(AT)を少量含み、粘性・締まりともに普通である。標準層序のⅥ層とⅦ層の層界付近に対比される。第4層は、黒褐色(10YR3/2)を呈するソフトローム層で、粘性・締まりともに普通である。標準層序のⅦ層の第2黒色帯上半部に対比される。第5層は、黒褐色(10YR3/2)を呈するソフトローム層である。白色粒子を微量含み、粘性は普通で締まりは強い。標準層序のⅦ層に対比される。第6層は、暗褐色(10YR3/4)を呈するハードローム層である。白色粒子・細礫を少量含み、粘性・締まりともに普通である。第7層は、褐色(10YR4/4)を呈するハードローム層である。白色粒子を多量、細礫を少量含み、粘性は強く、締まりは普通である。第8層は、褐色(10YR4/4)を呈するハードローム層である。細礫を少量含み、粘性・締まりともに普通である。第9層は、褐色(10YR4/4)を呈するハードローム層で、粘性は普通で締まりは強い。



第4図 基本土層図

遺構は、第3層の上面で縄文時代から古墳時代の遺構を、第6層上面までで旧石器時代の遺物を確認した。

2 自然化学分析（第5図 第2表 PL 4）

上境滝の台古墳群のローム層の層序対比

パリノ・サーヴェイ株式会社

つくば市上境に所在する上境滝の台古墳群は、常総台地の南西部を構成する筑波・稲敷台地の北西部に位置している。この台地は、霞ヶ浦に流南する桜川の右岸に広がる台地であり、貝塚ほか（2000）による地形分類図では、上位台地Cに分類されている。上位台地の形成年代は、酸素同位体ステージ5A（約8万年前頃）と考えられており、武蔵野台地における中位面であるM2面に対比される。

本分析調査では、上境滝の台古墳群の立地する台地の表層を覆うローム層の分析をすることにより、ローム層の層序対比の指標を設け、周辺地域や関東地方における他の台地上のローム層との対比を行う。

(1) 試料

試料は、上境滝の台古墳群の調査区内に作成されたテストピットの断面より採取された。断面では、ローム層の最上部とされる層位より、厚さ5cmで連続に上位より試料番号1～15までが採取されている（PL 4）。ここでは、これらのうちの上部の試料を中心に試料番号1～5の5点と試料番号7～15の奇数番号の試料5点の合計10点を分析の対象とする。

(2) 分析方法

重鉍物分析では、当社がこれまでに行った相模野台地と武蔵野台地の立川ローム層の多くの分析事例と比較することにより、層序の対比が可能である。また、火山ガラス比分析は、本遺跡でも検出が予想される立川ローム層上部ガラス質テフラ（UG；山崎，1978）および始良Tnテフラ（AT；町田・新井，1976）などの火山ガラス質テフラに由来する火山ガラスの量比の層位的な変化を求め、その降灰層準を推定する。試料の処理過程は以下の通りである。

試料約40gに水を加え超音波洗浄装置により分散、250メッシュの分析篩を用いて水洗し、粒径1/16mm以下の粒子を除去する。乾燥の後、篩別し、得られた粒径1/4mm-1/8mmの砂分をポリタングステン酸ナトリウム（比重約2.96に調整）により重液分離、重鉍物を偏光顕微鏡下にて250粒に達するまで同定する。重鉍物同定の際、不透明な粒については、斜め上方からの落射光下で黒色金属光沢を呈するもののみを「不透明鉍物」とする。「不透明鉍物」以外の不透明粒および変質等で同定の不可能な粒子は「その他」とする。火山ガラス比は、重液分離した軽鉍物分における砂粒を250粒数え、その中の火山ガラスの量比を求める。火山ガラスの形態分類は、バブル型・中間型・軽石型の3タイプに分類した。各型の形態は、バブル型は薄手平板状、中間型は表面に気泡の少ない厚手平板状あるいは破砕片状などの塊状ガラスであり、軽石型は小気泡を非常に多く持った塊状および気泡の長く伸びた繊維束状のものとする。なお、火山ガラス比における「その他」は、主に石英および長石などの軽鉍物粒と変質等で同定の不可能な粒子や未分解の粘土粒子などを含む。

(3) 結果

結果を表2、図4に示す。重鉍物組成は、試料番号1～4では、斜方輝石が非常に多く、少量の単斜輝石と不透明鉍物を伴い、微量のカンラン石を含む組成であり、試料番号5と試料番号13と15では、斜方輝石が最も多いが、次いでカンラン石が多く、少量または微量の単斜輝石と不透明鉍物を伴う。さらに試料番号

13と15では微量の角閃石も含まれる。試料番号7～11では、カンラン石が最も多く、次いで斜方輝石が多く、少量または微量の単斜輝石と不透明鉱物を伴う組成である。その中で、試料番号7と9にはカンラン石の量比の極大（上位と下位の両者よりも高い値を示すこと）が認められる。

火山ガラス比では、試料番号3～7に少量のバブル型火山ガラスが含まれ、試料番号1と2には微量の中間型火山ガラスも含まれる。

(4) 考察

有効な対比指標としては、TP2の試料番号3～7に認められた少量のバブル型火山ガラスがあげられる。この火山ガラスは、その形態と産出層位から、鹿児島県の始良カルデラを給源とするATに由来すると考えられる。土壤中に特定テフラが混交して産出する場合はテフラ最濃集部の下限がそのテフラの降灰層準にはほぼ一致すると言われている（早津, 1988）ことを考慮すると、TP2におけるATの降灰層準は、試料番号7付近に推定される。ATの噴出年代については、福井県の水月湖のボーリングコアの年縞堆積物の研究により、 $30,000 \pm 189$ 年前の年縞年代が示されており、暦年代で30,000年前頃であることが定まるとされる（Smith et al., 2013）。したがって、試料番号7付近のローム層はおよそ3万年前頃の年代を示す層位となる。一方、TP2の試料番号1と2には微量ではあるが中間型火山ガラスが特徴的に含まれる。この形態的特徴とATよりも上位の出現傾向とから、中間型火山ガラスは、UGに由来する可能性がある。産出量が微量なため、本地点におけるUGの降灰層準を推定することは難しいが、試料番号1を含むその付近と考えられる。上述したATとUGは、武蔵野台地の立川ローム層における多くの分析事例から、その降灰層準は、それぞれ標準層序のⅥ層とⅦ層の層界付近とⅢ層上部に推定されている（矢作・橋本, 2012）。したがって、本地点の試料番号1～7までのローム層は、武蔵野台地の立川ローム層の上半部、標準層序で言えば、Ⅲ層からⅥ層付近までのローム層に対比されると考えられ、試料番号9以下は、立川ローム層の下部の標準層序のⅦ層以下に対比されると考えられる。

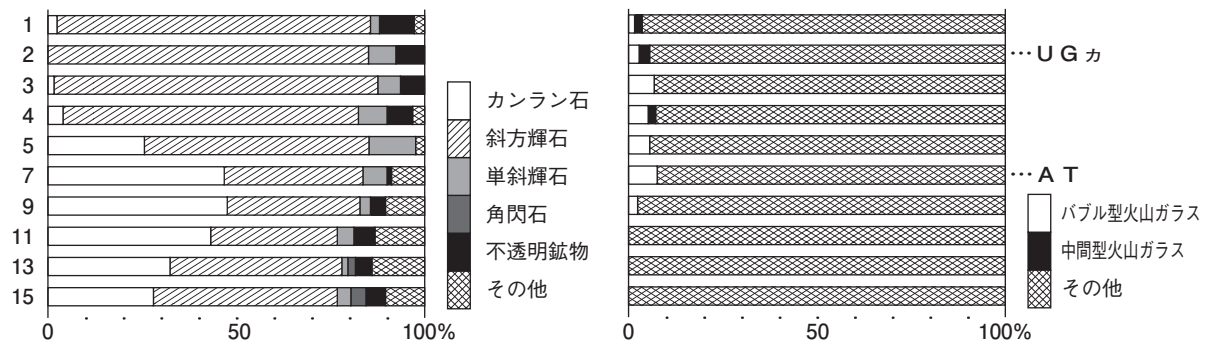
なお、これまでの分析事例から、武蔵野台地の立川ローム層における重鉱物組成の層位的特徴として、標準層序のⅦ層以下は特にカンラン石の量比の高いことがあげられる。上述したATの降灰層準を指標とした対比により、この層位的な重鉱物組成の特徴は、本地点の位置する筑波稲敷台地にも共通する特徴として広域的な対比指標になり得ると考えられる。

引用文献

- 早津賢治, 1988, テフラおよびテフラ性土壌の堆積機構とテフロクロロジー-ATにまつわる議論に関して-, 考古学研究, 34, 18-32.
 貝塚爽平・小池一之・遠藤邦彦・山崎晴雄・鈴木毅彦編, 2000, 日本の地形4 関東・伊豆小笠原, 東京大学出版会, 349p.
 町田洋・新井房夫, 1976, 広域に分布する火山灰-始良 Tn 火山灰の発見とその意義-, 科学, 46, 339-347.
 町田洋・新井房夫, 2003, 新編 火山灰アトラス, 東京大学出版会, 336p.
 Smith, V.C., Staff, R.A., Blockley, S.P.E., Ramsey, C.B., Nakagawa, T., Mark, D.F., Takemura, K., Danhara, T., Suigetsu 2006 Project Members, 2013, Identification and correlation of visible tephra in the Lake Suigetsu SG06 sedimentary archive, Japan: chronostratigraphic markers for synchronizing of east Asian/west Pacific palaeoclimatic records across the last 150 ka. *Quaternary Science Reviews*, 67, 121-137.
 矢作健二・橋本真紀夫, 2012, 重鉱物組成と火山ガラス比による武蔵野台地の立川ローム層層序対比. 新西郊文化, 2, 7-18.
 山崎晴雄, 1978, 立川断層とその第四紀後期の運動. 第四紀研究, 16, 231-246.

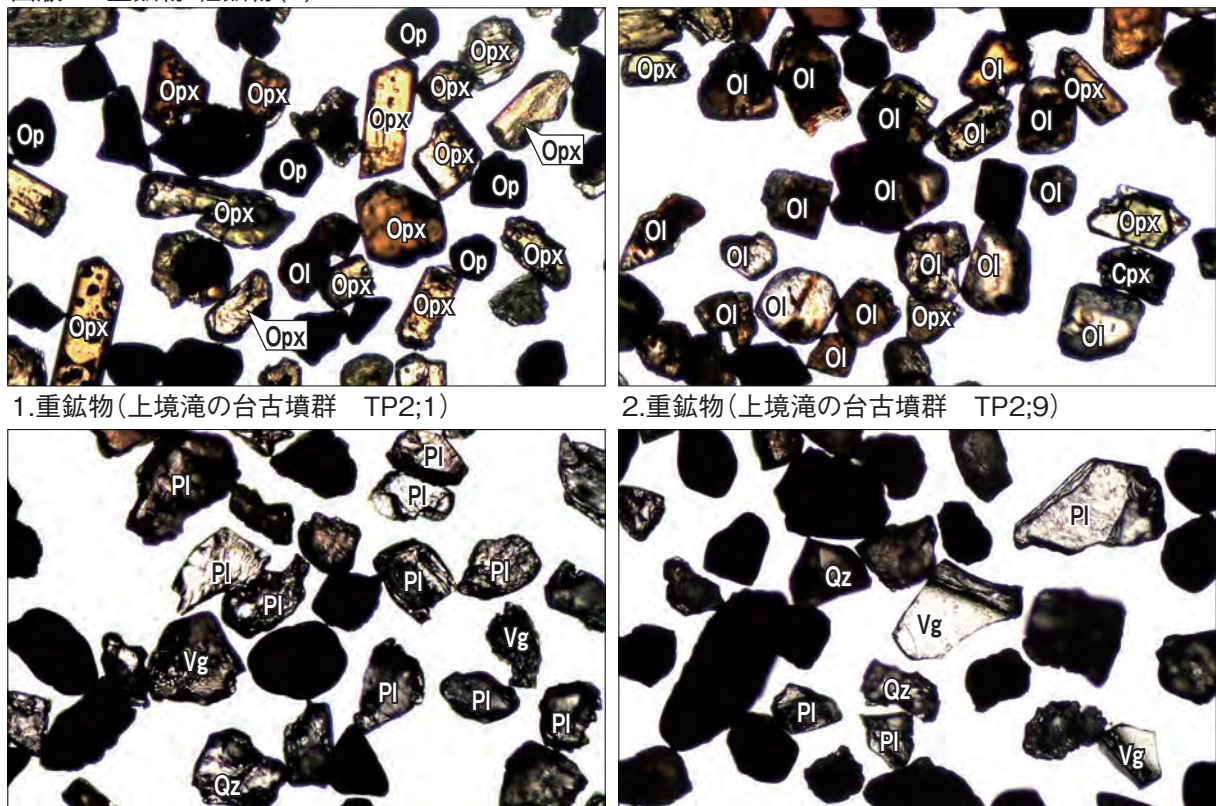
第2表 上境滝の台古墳群の重鉱物・火山ガラス比分析結果

地点名	番試号料	カンラン石	輝斜石方	輝単石斜	角閃石	ロザ石ク	ン緑石レ	鉱不透明	その他	合計	ラ火山スガ	パ火山型	ラ火中	ラ火山	軽火山石	その他	合計
テストピット	1	6	208	6	1	0	0	23	6	250	4	5	1	240	250		
	2	1	211	18	0	0	0	19	1	250	7	7	0	236	250		
	3	4	214	15	0	0	0	16	1	250	17	2	2	229	250		
	4	10	196	19	0	0	0	17	8	250	13	5	0	232	250		
	5	64	149	31	1	0	0	2	3	250	14	0	1	235	250		
	7	117	92	16	2	0	0	3	20	250	19	0	0	231	250		
	9	119	88	7	1	0	0	10	25	250	6	1	0	243	250		
	11	108	84	11	1	0	0	14	32	250	2	2	0	246	250		
	13	81	114	4	5	0	0	11	35	250	0	2	0	248	250		
	15	70	122	9	10	0	0	13	26	250	0	1	0	249	250		



第5図 上境滝の台古墳群のテストピットの重鉱物組成および火山ガラス比

図版1 重鉱物・軽鉱物(1)



1.重鉱物(上境滝の台古墳群 TP2;1) 2.重鉱物(上境滝の台古墳群 TP2;9)

3.軽鉱物(上境滝の台古墳群 TP2;1) 4.軽鉱物(上境滝の台古墳群 TP2;7)

Ol:カンラン石.Opx:斜方輝石.Cpx:単斜輝石.Op:不透明鉱物.Vg:火山ガラス.

Qz:石英.Pl:斜長石.

0.5mm

第3節 遺構と遺物

1 旧石器時代の遺構と遺物

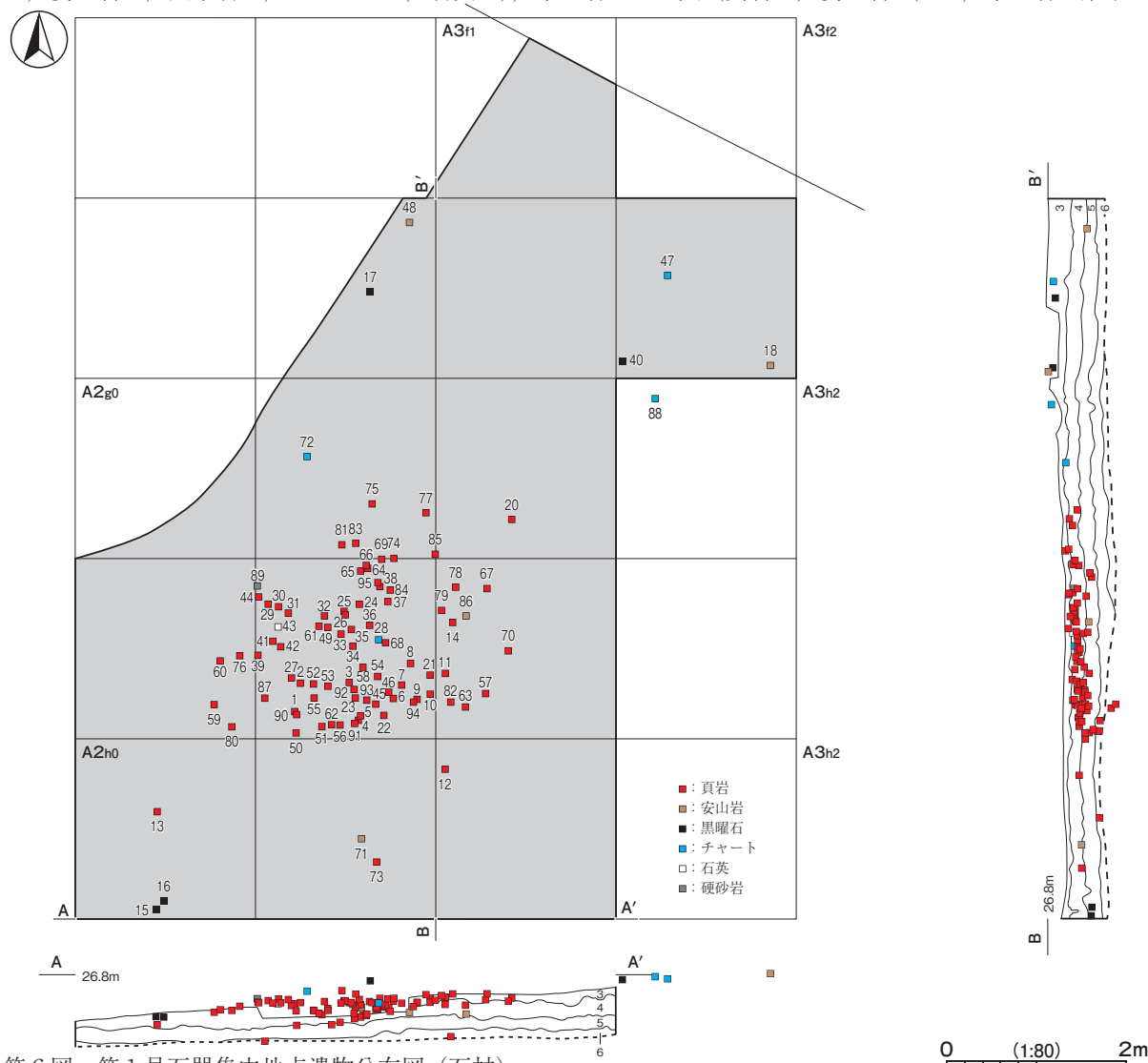
遺構確認作業中、基本層序第3層上面（以下、第3層）から石核4点、剥片8点が、調査区北西部A2g0区の1m四方から出土したため、当時代の石器などにも注意して調査を進めた。他時代の遺構覆土中から当時代の石器が出土した地点を中心にグリッドを設定し調査したところ、当時代の遺構は、石器集中地点を6か所確認した。出土層位は、第3～5層である。

(1) 石器集中地点

第1号石器集中地点（第6～8図 第3～5表 PL 5・14・16）

位置 調査区北部のA3f1・A2f0～A3g1・A2h0～A3h1区、標高26mほどの台地縁辺部に位置している。

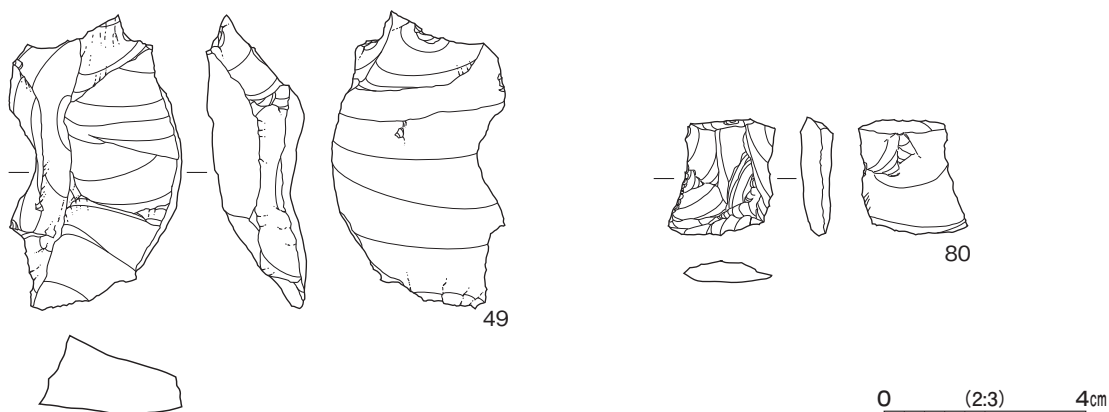
遺物出土状況 南北7.6m、東西6.8mの範囲内で、標高26.062～26.812mから、96点（総重量511.36g）の石器が出土している。内訳は、第3層から4点（黒曜石1、チャート2、硬砂岩1）、第4層から88点（頁岩79、安山岩3、黒曜石3、チャート2、石英1）、第5層から4点（頁岩3、安山岩1）で、第4層に集中し



第6図 第1号石器集中地点遺物分布図（石材）



第7图 第1号石器集中地点出土遗物实测图(1)



第8図 第1号石器集中地点出土遺物実測図(2)

ている。構成器種は、石核6点(頁岩)、二次加工剥片2点(頁岩、安山岩)、剥片75点(頁岩67、安山岩1、黒曜石3、チャート3、石英1)、碎片11点(頁岩8、安山岩1、黒曜石1、チャート1)、礫1点(硬砂岩)、石鏃1点(安山岩)である。

所見 当石器集中地点の構成器種は、頁岩製の石核と剥片が主で、平面分布が2m四方内に、垂直分布が第4層に集中している。同一時期の石器製作跡の可能性が考えられるが、ツールや接合資料は確認できなかった。

第3表 第1号石器集中地点層位別単位石材器種一覧

	頁岩					安山岩					黒曜石			チャート			硬砂岩 礫	石英 剥片	合計
	石核	剥片	二次加工片	碎片	計	剥片	剥片	碎片	石鏃	計	剥片	碎片	計	剥片	碎片	計			
3層												1	1	1	1	2	1		4
4層	6	1	64	8	79		1	1	1	3	3		3	2		2		1	88
5層			3		3	1				1									4
合計	6	1	67	8	81	1	1	1	1	4	3	1	4	3	1	4	1	1	96

第4表 第1号石器集中地点層位別石材重量一覧

	頁岩	安山岩	黒曜石	チャート	硬砂岩	石英	合計(g)
3層			0.06	0.33	126.22		126.61
4層	350.45	0.70	2.58	1.65		0.25	355.63
5層	6.05	23.07					29.12
合計(g)	356.50	23.77	2.64	1.98	126.22	0.25	511.36

第5表 第1号石器集中地点出土遺物一覧

番号	器種	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	特徴		層位	備考
1	石核	頁岩	58.90	37.11	25.77	58.15	剥片素材石核 腹面に素材剥片の主要剥離面 腹面右側縁上半に被熱による熱弾け		4層	PL16
3	石核	頁岩	37.16	24.22	21.28	18.19	剥片を素材とする石核 腹面に素材剥片の主要剥離面 左側面及び背面下半には熱弾け		4層	PL16
4	剥片	頁岩	43.48	36.51	21.35	21.24	打点部側折れ 右側面及び腹面下半に熱弾け		4層	PL16
6	石核	頁岩	49.40	39.05	21.34	43.93	剥片素材石核 上面及び背面中央熱弾け 背面右側縁下半被熱の影響か割れ円錐状 素材剥片の打点部に腹面から背面側へ作業面が設定され、剥片剥離がなされている		4層	PL16
7	石核	頁岩	64.11	29.81	22.98	34.43	純粋な主要剥離面は認められない 背面中央及び腹面右側縁にはネガティブ面が反転したポジティブ面 ポジネガ反転は被熱の影響によるものと推定		4層	PL16
12	剥片	頁岩	65.03	31.04	11.10	15.01	調整打面の縦長剥片 背面構成から両設打面の石核から剥離された石刃とも評価できる		4層	PL16
13	石核	頁岩	35.99	31.90	21.59	31.56	主要剥離面は認められない 背面上部に熱弾け 腹面は割れ円錐状を呈する		4層	PL16
48	二次加工剥片	安山岩	46.03	32.19	18.02	23.07	平坦な底面を有する有底横長剥片を素材とする二次加工剥片 背面下半に腹面から背面側に二次加工		5層	PL16
49	石核	頁岩	54.85	32.35	17.79	28.89	縦長剥片を素材 背面から腹面側にポジティブ面を底面として持つ剥片を剥離したもの		4層	PL16
80	二次加工剥片	頁岩	21.69	19.84	6.24	2.45	二次加工剥片 背面左側縁下半に主要剥離面側から背面側になされた二次加工		4層	PL16

番号	器種名	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	層位	備考
2	剥片	頁岩	26.56	18.62	7.70	2.73	4層	PL16
5	碎片	頁岩	6.91	4.19	0.06	0.01	4層	
8	剥片	頁岩	12.99	10.92	2.50	0.30	4層	
9	剥片	頁岩	28.43	23.38	14.90	9.03	4層	
10	剥片	頁岩	17.10	15.61	7.89	1.34	4層	

番号	器種名	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	層位	備考
11	剥片	頁岩	13.33	6.98	2.49	0.24	4層	
14	剥片	頁岩	13.48	11.71	8.75	1.57	4層	
15	剥片	黒曜石	17.14	9.13	7.10	1.19	4層	
16	剥片	黒曜石	18.62	8.29	4.36	0.65	4層	
17	碎片	黒曜石	8.10	6.67	1.32	0.06	3層	

番号	器種名	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	層位	備考
18	剥片	安山岩	13.17	7.73	2.19	0.18	4層	
20	剥片	頁岩	43.08	20.57	20.28	8.53	4層	
21	剥片	頁岩	12.97	10.13	3.02	0.38	4層	
22	剥片	頁岩	32.63	20.93	16.09	8.87	4層	PL16
23	剥片	頁岩	21.47	11.50	4.29	0.99	4層	
24	碎片	頁岩	10.29	7.05	1.09	0.08	4層	
25	剥片	頁岩	19.85	17.67	7.19	1.74	4層	
26	碎片	頁岩	12.11	6.21	0.83	0.07	4層	
27	剥片	頁岩	11.35	8.20	1.50	0.13	4層	
28	剥片	頁岩	14.83	4.21	1.69	0.11	4層	
29	剥片	チャート	6.90	4.51	1.33	0.04	4層	
30	剥片	頁岩	25.75	16.86	3.41	1.33	4層	
31	剥片	頁岩	9.17	3.72	0.78	0.04	4層	
32	剥片	頁岩	13.07	12.23	2.87	0.24	4層	
33	剥片	頁岩	18.75	6.58	1.92	0.23	4層	
34	剥片	頁岩	19.12	11.25	3.58	0.96	4層	
35	剥片	頁岩	14.08	6.79	1.41	0.13	4層	
36	剥片	頁岩	10.15	5.15	1.02	0.06	4層	
37	碎片	頁岩	6.33	3.70	0.77	0.03	4層	
38	剥片	頁岩	17.50	11.45	2.62	0.58	4層	
39	剥片	頁岩	12.07	5.31	5.01	0.31	4層	
40	剥片	黒曜石	18.48	12.09	4.91	0.74	4層	
41	剥片	頁岩	12.94	4.46	3.45	0.12	4層	
42	剥片	頁岩	13.01	7.03	2.49	0.18	4層	
43	剥片	石英	11.91	3.81	3.13	0.25	4層	
44	剥片	頁岩	13.36	8.84	1.55	0.18	4層	
45	剥片	頁岩	9.83	6.96	1.84	0.11	4層	
46	剥片	頁岩	22.17	13.05	4.48	0.75	4層	
47	剥片	チャート	20.06	13.13	5.10	1.61	4層	
50	剥片	頁岩	14.48	5.60	3.03	0.23	4層	
51	剥片	頁岩	12.69	5.94	2.27	0.19	4層	
52	剥片	頁岩	23.58	18.02	10.02	3.16	4層	
53	剥片	頁岩	13.54	6.61	3.16	0.21	4層	
54	剥片	頁岩	10.53	5.15	1.59	0.07	4層	
55	碎片	頁岩	13.88	7.93	3.12	0.35	4層	
56	剥片	頁岩	28.29	25.16	4.95	4.09	4層	PL16
57	剥片	頁岩	33.13	18.79	17.32	7.15	4層	PL16

番号	器種名	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	層位	備考
58	剥片	頁岩	7.30	5.55	2.21	0.09	4層	
59	剥片	頁岩	15.46	9.06	1.51	0.19	4層	
60	剥片	頁岩	14.27	9.56	4.78	0.45	4層	
61	剥片	頁岩	22.19	12.12	2.86	0.80	4層	
62	剥片	頁岩	9.83	6.96	1.15	0.11	4層	
63	剥片	頁岩	14.95	8.19	4.23	0.42	4層	
64	剥片	頁岩	23.34	8.41	2.64	0.41	4層	
65	剥片	頁岩	14.16	7.53	3.66	0.19	4層	
66	碎片	頁岩	8.63	4.85	1.58	0.10	4層	
67	剥片	頁岩	9.42	3.66	1.02	0.03	4層	
68	剥片	頁岩	8.63	6.54	0.67	0.04	4層	
69	剥片	頁岩	16.50	13.48	2.24	0.42	4層	
70	剥片	頁岩	20.36	15.73	11.01	3.79	4層	
71	石鏃	安山岩	20.65	10.40	2.66	0.49	4層	
72	碎片	チャート	8.59	6.51	2.62	0.09	3層	
73	剥片	頁岩	32.00	11.97	3.73	1.99	4層	PL16
74	剥片	頁岩	57.72	24.36	14.26	15.74	4層	PL16
75	剥片	頁岩	38.49	14.39	6.32	3.91	4層	
76	剥片	頁岩	22.92	10.81	4.38	1.12	4層	
77	剥片	頁岩	15.66	12.58	2.03	0.42	4層	
78	碎片	頁岩	8.00	7.82	1.59	0.07	4層	
79	剥片	頁岩	22.86	10.78	3.62	0.70	4層	
81	剥片	頁岩	28.79	11.14	4.56	1.09	4層	
82	剥片	頁岩	17.17	13.97	1.56	0.47	5層	
83	碎片	頁岩	9.14	6.50	2.73	0.12	4層	
84	剥片	頁岩	20.17	5.91	5.13	0.45	4層	
85	剥片	頁岩	23.02	14.98	3.15	0.70	4層	
86	碎片	安山岩	6.39	4.64	0.84	0.03	4層	
87	剥片	頁岩	27.06	15.87	13.15	5.11	5層	
88	剥片	チャート	16.45	9.84	1.25	0.24	3層	
89	礫	硬砂岩	51.64	47.36	31.89	126.22	3層	
90	剥片	頁岩	16.07	11.09	2.92	0.47	5層	
91	剥片	頁岩	13.98	11.38	3.76	0.46	4層	
92	剥片	頁岩	13.27	7.59	6.87	0.42	4層	
93	剥片	頁岩	43.04	16.75	7.02	4.73	4層	PL16
94	剥片	頁岩	16.61	12.27	3.18	0.59	4層	
95	剥片	頁岩	12.09	8.69	1.18	0.14	4層	
96	剥片	頁岩	10.00	6.77	0.86	0.09	4層	

第2号石器集中地点 (第9・10図, 第6～8表, PL 5・16・17)

位置 調査区中央部のB 2 d8～B 2 e0区, 標高27mほどの台地縁辺部に位置している。

遺物出土状況 南北3.7m, 東西8.1mの範囲内で, 標高26.258～26.714mから, 19点(総重量85.40g)の

第6表 第2号石器集中地点層位別単位石材器種一覧

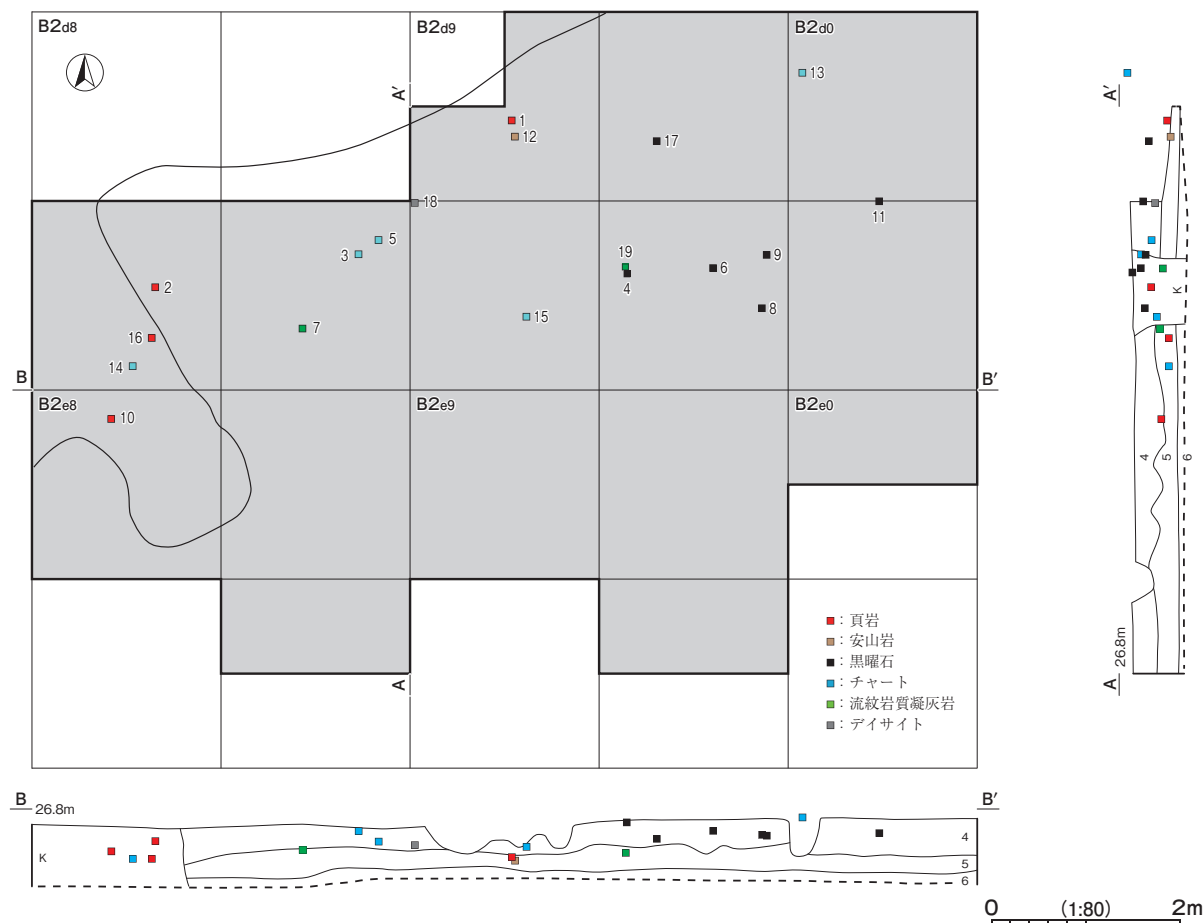
	頁岩				安山岩	黒曜石	チャート				流紋岩質凝灰岩	デイサイト	合計
	剥加二	剥	碎	集	剥	剥	剥加二	剥	碎	集	剥	剥	
	片工次	片	片	計	片	片	片工次	片	片	計	片	片	
4層		1		1		6		2	1	3	1	1	12
5層	1			1	1						1		3
攪乱		1	1	2			1	1		2			4
合計	1	2	1	4	1	6	1	3	1	5	2	1	19

第7表 第2号石器集中地点層位別石材重量一覧

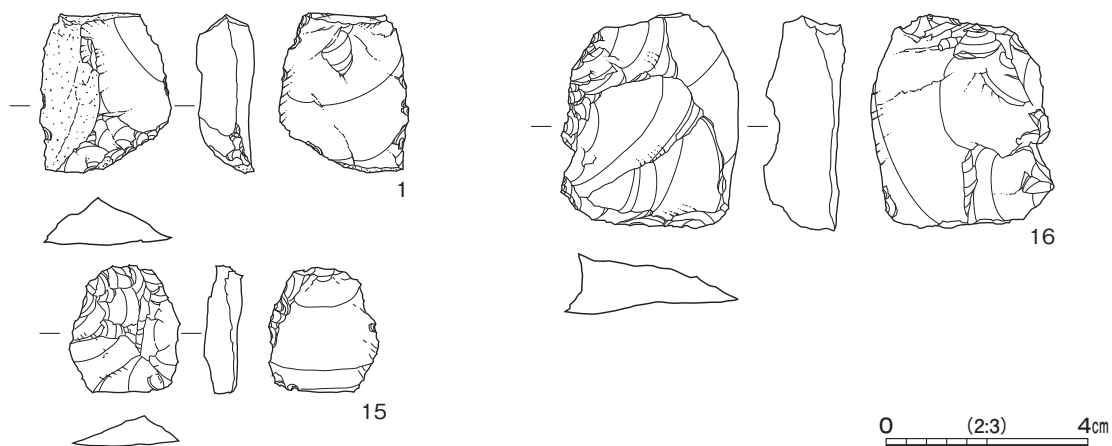
	頁岩	安山岩	黒曜石	チャート	流紋岩質凝灰岩	デイサイト	合計(g)
4層	5.94		33.57	0.91	3.96	0.56	44.94
5層	7.48	5.54			3.69		16.71
攪乱	19.58			4.17			23.75
合計(g)	33.00	5.54	33.57	5.08	7.65	0.56	85.40

石器が出土している。内訳は、第4層から12点（頁岩1，黒曜石6，チャート3，流紋岩1，デイサイト1），第5層から3点（頁岩，安山岩，流紋岩），攪乱から4点（頁岩2，チャート2）で、第4層に集中している。構成器種は、二次加工剥片2点（頁岩，チャート），剥片15点（頁岩2，安山岩1，黒曜石6，チャート3，流紋岩質凝灰岩2，デイサイト1），碎片2点（頁岩，チャート）である。

所見 当石器集中地点の構成器種は、二次加工剥片及び剥片である。平面分布が広範囲に分散し、垂直分布が第4層に集中している。



第9図 第2号石器集中地点遺物分布図（石材）



第10図 第2号石器集中地点出土遺物実測図

第8表 第2号石器集中地点出土遺物一覧

番号	器種名	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特 徴	層位	備考
1	二次加工剥片	頁岩	30.13	24.15	10.86	7.48	背面下端に主要剥離面側から背面側になされた二次加工	5層	PL16
15	二次加工剥片	チャート	23.76	20.17	7.30	3.96	腹面左側縁上半に押圧剥離による二次加工	攪乱	PL16
16	剥片	頁岩	39.64	32.46	15.06	19.49	剥離面打面の剥片 腹面打点部付近は潜在的な剥離の影響を受けたもの	攪乱	PL17

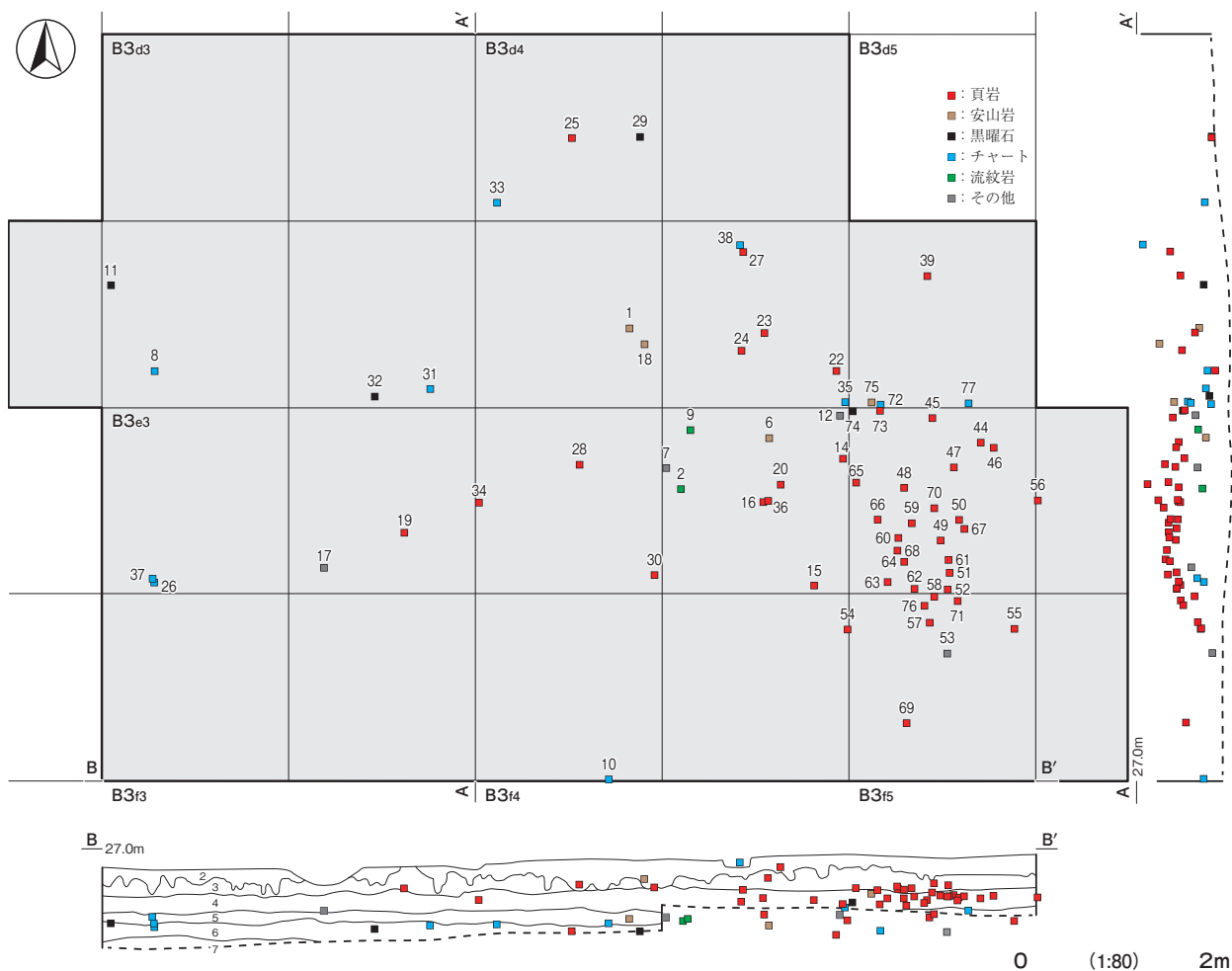
番号	器種名	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	層位	備考
2	剥片	頁岩	43.63	28.28	4.12	5.94	4層	PL17
3	剥片	チャート	18.00	13.62	2.43	0.57	4層	
4	剥片	黒曜石	28.35	21.54	8.03	4.13	4層	PL17
5	碎片	チャート	6.73	6.22	1.05	0.05	4層	
6	剥片	黒曜石	39.66	26.48	14.06	8.49	4層	PL17
7	剥片	流紋岩質凝灰岩	34.92	22.83	5.28	3.96	4層	PL16
8	剥片	黒曜石	33.63	22.76	9.23	7.17	4層	PL17
9	剥片	黒曜石	37.42	15.56	7.12	2.95	4層	PL17

番号	器種名	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	層位	備考
10	碎片	頁岩	12.41	6.08	1.45	0.09	攪乱	
11	剥片	黒曜石	42.67	28.32	7.37	7.82	4層	PL17
12	剥片	安山岩	40.01	18.61	9.87	5.54	5層	PL17
13	剥片	チャート	19.35	8.49	2.07	0.29	4層	
14	剥片	チャート	11.55	7.54	2.97	0.21	攪乱	
17	剥片	黒曜石	33.18	12.41	7.74	3.01	4層	PL17
18	剥片	デイサイト	15.24	14.50	2.27	0.56	4層	
19	剥片	流紋岩質凝灰岩	37.12	17.84	7.46	3.69	5層	PL16

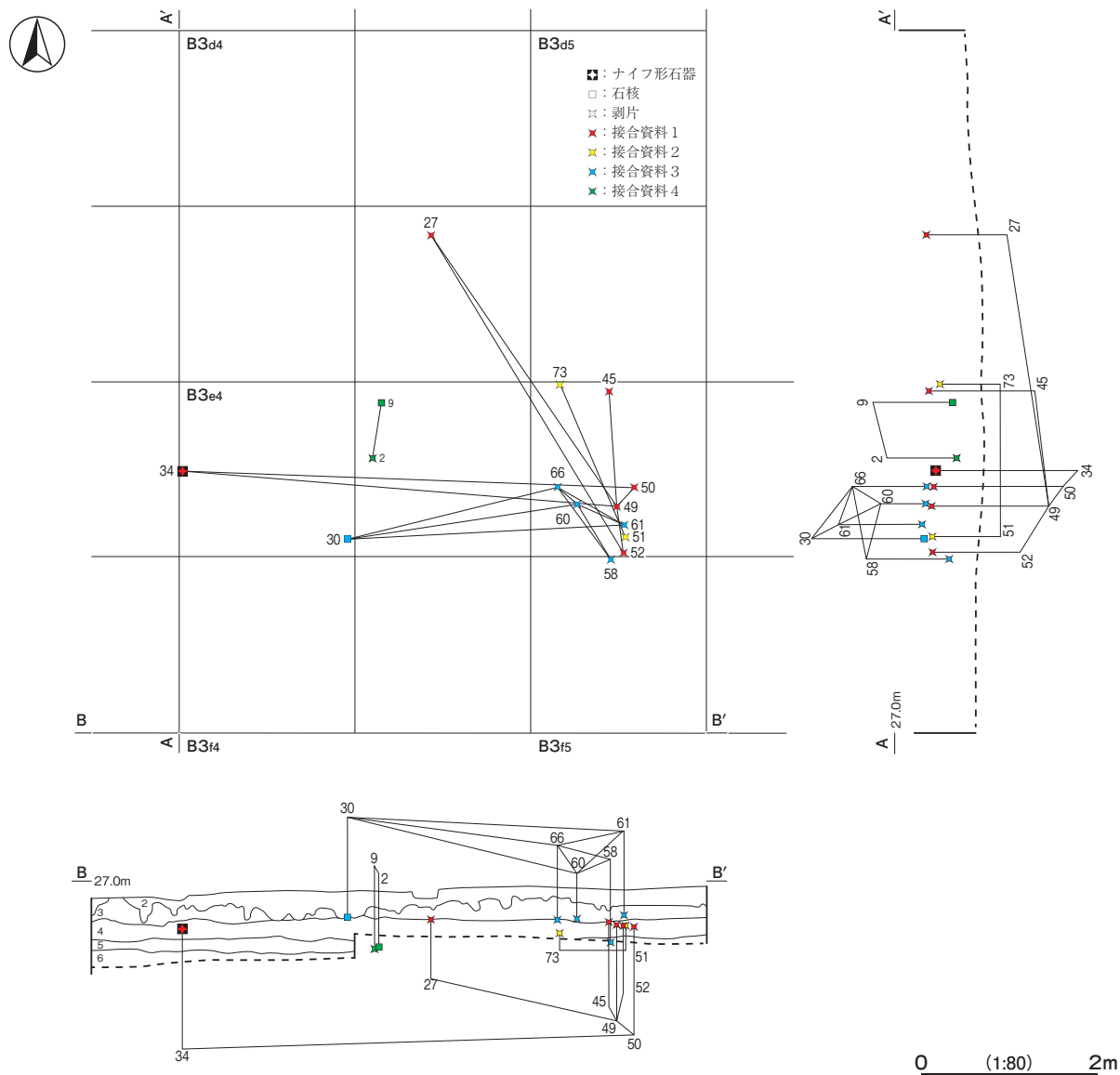
第3号石器集中地点 (第11～17図, 第9～11表, PL 6・14・17～21・35)

位置 調査区北東部のB3d3～B3e5区, 標高27mほどの台地上に位置している。

遺物出土状況 南北7.6m, 東西6.8mの範囲内で, 標高26.062～26.812mから, 71点(総重量1842.88g)の石器が出土している。内訳は, 第3層から9点(安山岩1, 黒曜石1, チャート4点, 流紋岩2, 硬砂岩1), 第4層から14点(頁岩12, 安山岩1, ホルンフェルス1), 第5層から28点(頁岩26, 安山岩1, チャート1), 攪乱から20点(頁岩6, 安山岩1, 黒曜石3, チャート8, 硬砂岩1, 凝灰岩1)で第5層に集中して



第11図 第3号石器集中地点遺物分布図 (石材)



第 12 図 第 3 号石器集中地点遺物分布図（接合資料）

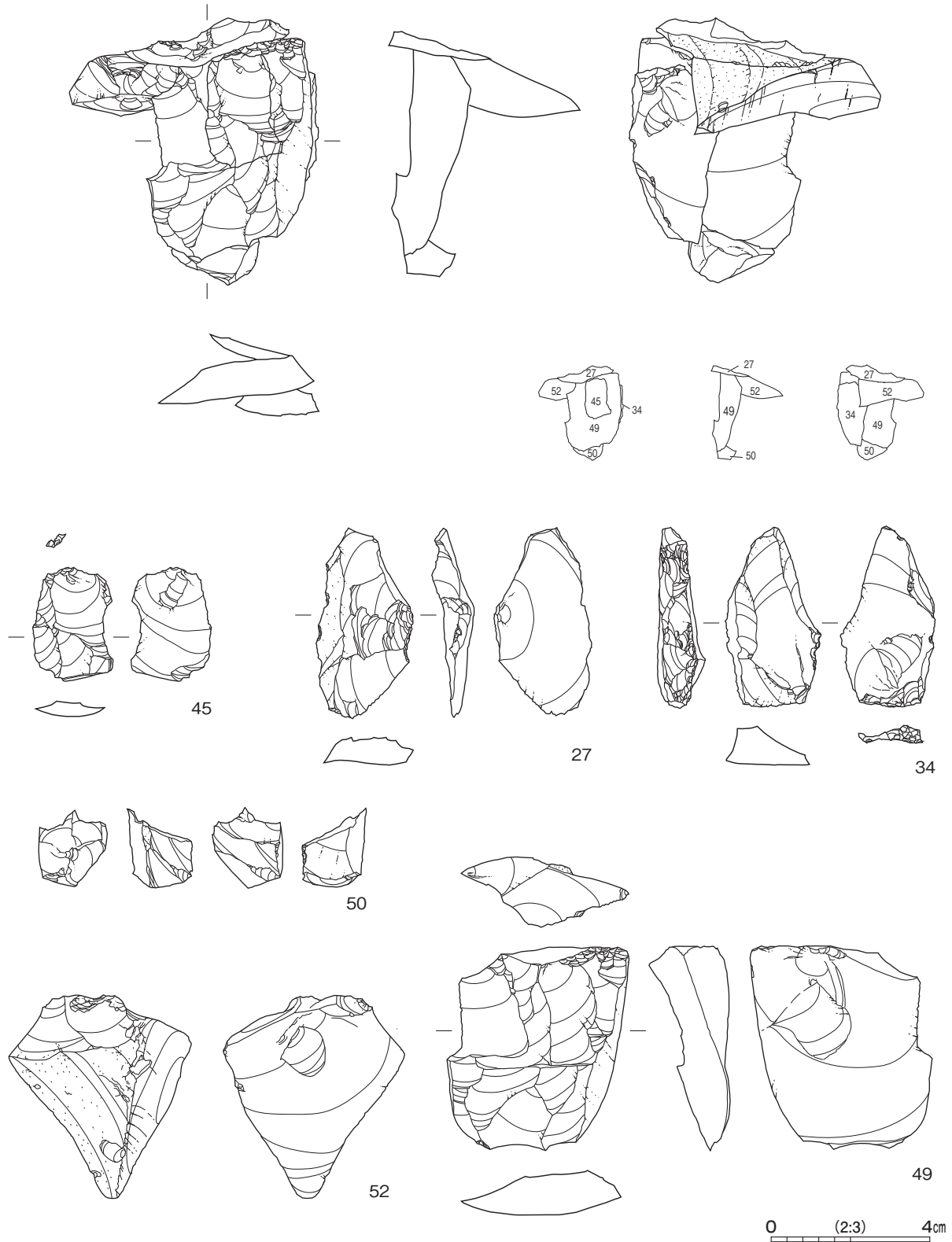
第 9 表 第 3 号石器集中地点層位別単位石材器種一覧

	頁岩			安山岩				黒曜石		チャート				流紋岩			ホルンフェルス	硬砂岩			凝灰岩	合計	
	石ナイフ器形	石核	剥片	石核	剥片	未製品	集計	剥片	碎片	石片	剥片	二次加工片	剥片	集計	石核	剥片	集計	剥片	剥片	礫	集計		礫
3 層						1	1	1		1		3	4	1	1	2			1	1			9
4 層	1		11	12	1		1									1							14
5 層	1	2	23	26	1		1					1	1										28
攪乱			6	6		1	1	3	1	1	1	5	8					1			1	1	20
合計	2	2	40	44	2	1	4	4	4	1	2	8	13	1	1	2	1	1	1	2	1	1	71

第 10 表 第 3 号石器集中地点層位別石材重量一覧

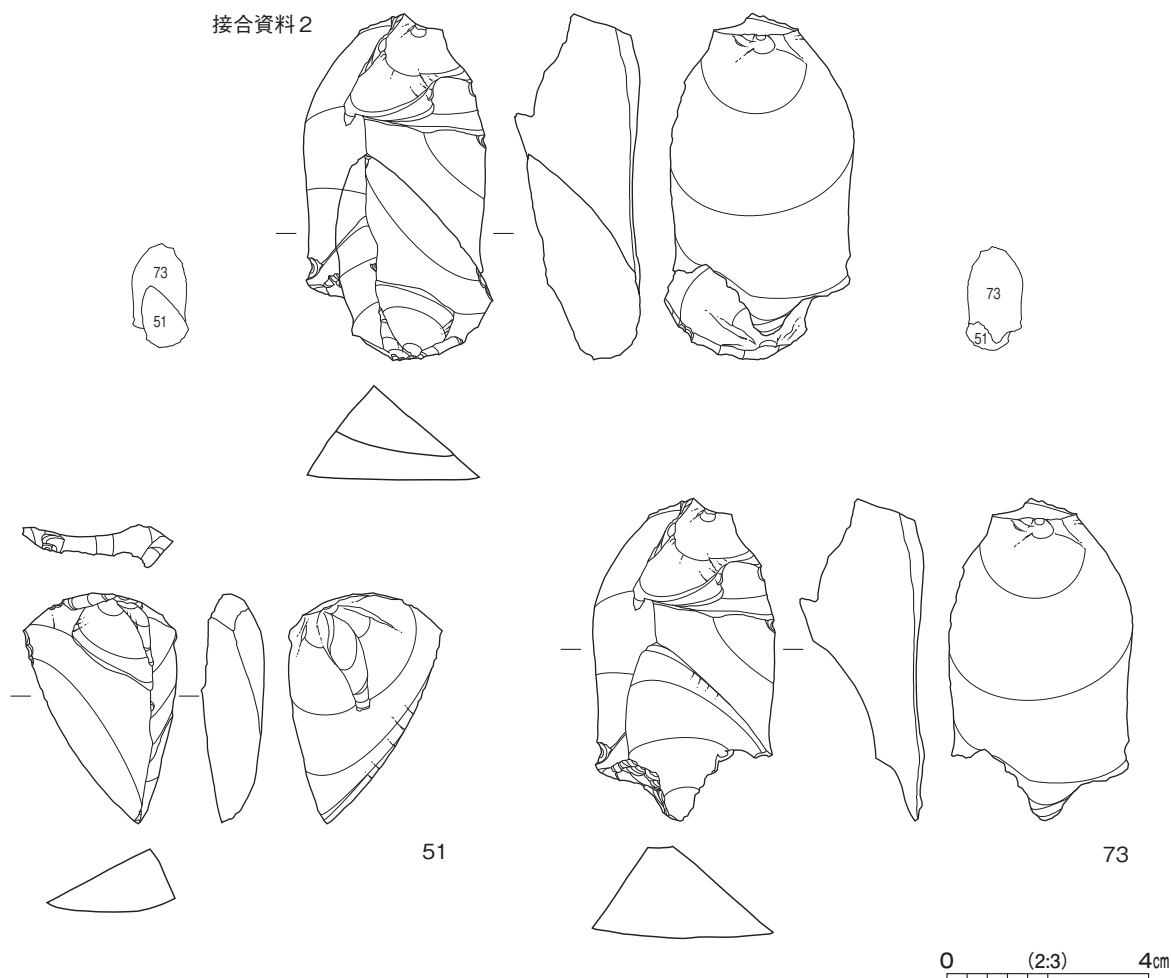
	頁岩	安山岩	黒曜石	チャート	流紋岩	ホルンフェルス	硬砂岩	凝灰岩	合計 (g)
3 層		8.56	0.91	16.20	54.65		638.61		718.93
4 層	34.27	425.20				8.84			468.31
5 層	255.07	43.90		1.02					299.99
攪乱	45.13	7.29	2.93	41.52			11.32	247.46	355.65
合計 (g)	334.47	484.95	3.84	58.74	54.65	8.84	649.93	247.46	1842.88

接合資料 1



第13図 第3号石器集中地点出土遺物実測図（接合資料1）

いる。構成器種は、ナイフ形石器2点（頁岩）、石核5点（頁岩2、安山岩2、流紋岩1）、二次加工剥片1点（チャート）、剥片56点（頁岩40、安山岩1、黒曜石4、チャート8、流紋岩1、ホルンフェルス1、硬砂岩1）、碎片1点（チャート1）、礫3点（チャート、硬砂岩、凝灰岩）、石鏃2点（チャート）、石鏃未製品1点（安山岩）である。石鏃は、第3層から出土しており混入と考えられる。



第 14 図 第 3 号石器集中地点出土遺物実測図（接合資料 2）

所見 当石器集中地点からは接合資料 4 点が出土している。接合資料 1（頁岩 6 点：ナイフ形石器 1，剥片 5），接合資料 2（頁岩 2 点：剥片），接合資料 3（頁岩 5 点：石核 1，剥片 4）は，平面分布が 2 m 四方（B 3e5）に集中し，垂直分布が第 4 層に集中する。

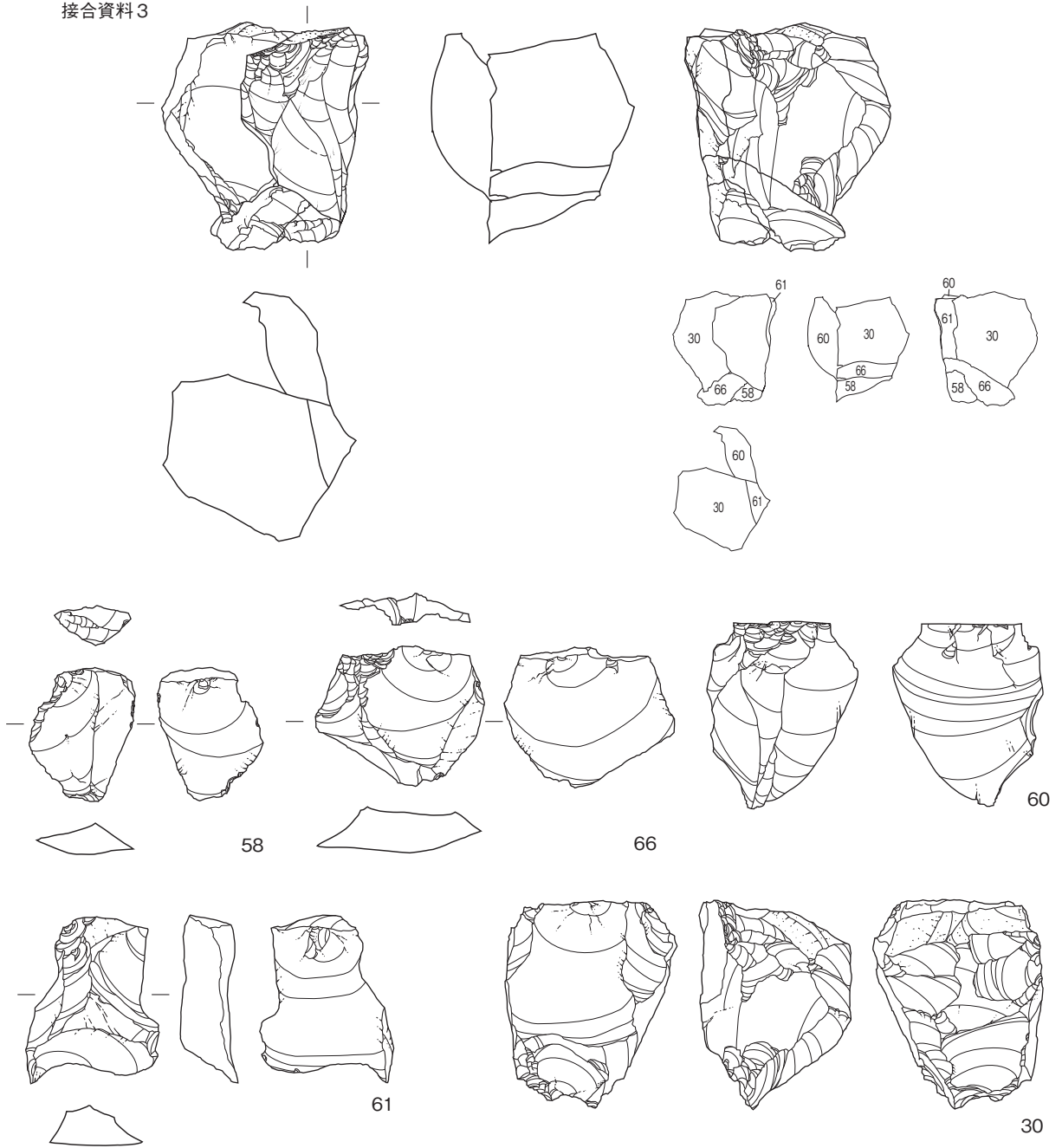
接合資料 1 の分離順序は 27 → 52 → 45 → 49 → 50 → 34 で，打面調整剥片 1 点と剥片 4 点，ナイフ形石器 1 点から構成されている。27，52 の打面調整剥片の剥離後，打面と作業面をほぼ固定して 45，49，34 の剥片剥離が行われ，34 は剥離後一側縁加工のナイフ形石器となっている。50 は被熱による剥落が著しく，素材面をあまり留めていないため判然としないが，打撃軸がやや異なる。27 の左側面と 45，49 の右側縁にはポジティブ面とも考えられる大きなフラット面が認められることから，大きな剥片の小口面で側面にポジティブ面を取り込む剥片を目的とした可能性がある。

接合資料 2 の分離順序は 51 → 73 で，両設打面の縦長剥片 2 点で構成されている。51 は剥離後に入念な石核調整がなされ，その後打面を転移して 73 が剥離されている。

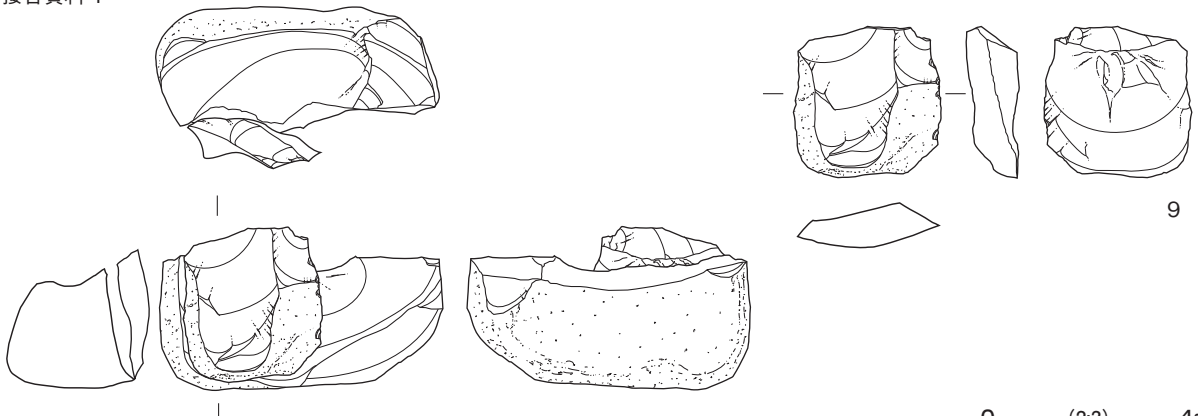
接合資料 3 の分離順序は 60 → 58 → 66 → (61+30) で，石核とそれに接合する剥片 4 点で構成されており，母岩消費の最終段階を示す資料といえる。腹面中央には分割面と考えられる大きなポジティブ面が認められる。58，66 が連続的に剥離された後に打面転移がなされ，61 を剥離して剥片剥離が終了している。

石材は頁岩の比率が高く，ナイフ形石器や石核，多数の剥片が出土している。接合資料 1～3 は，平面・垂直分布から，同一母岩であり，同一時期の石器製作跡の可能性が考えられる。

接合資料3

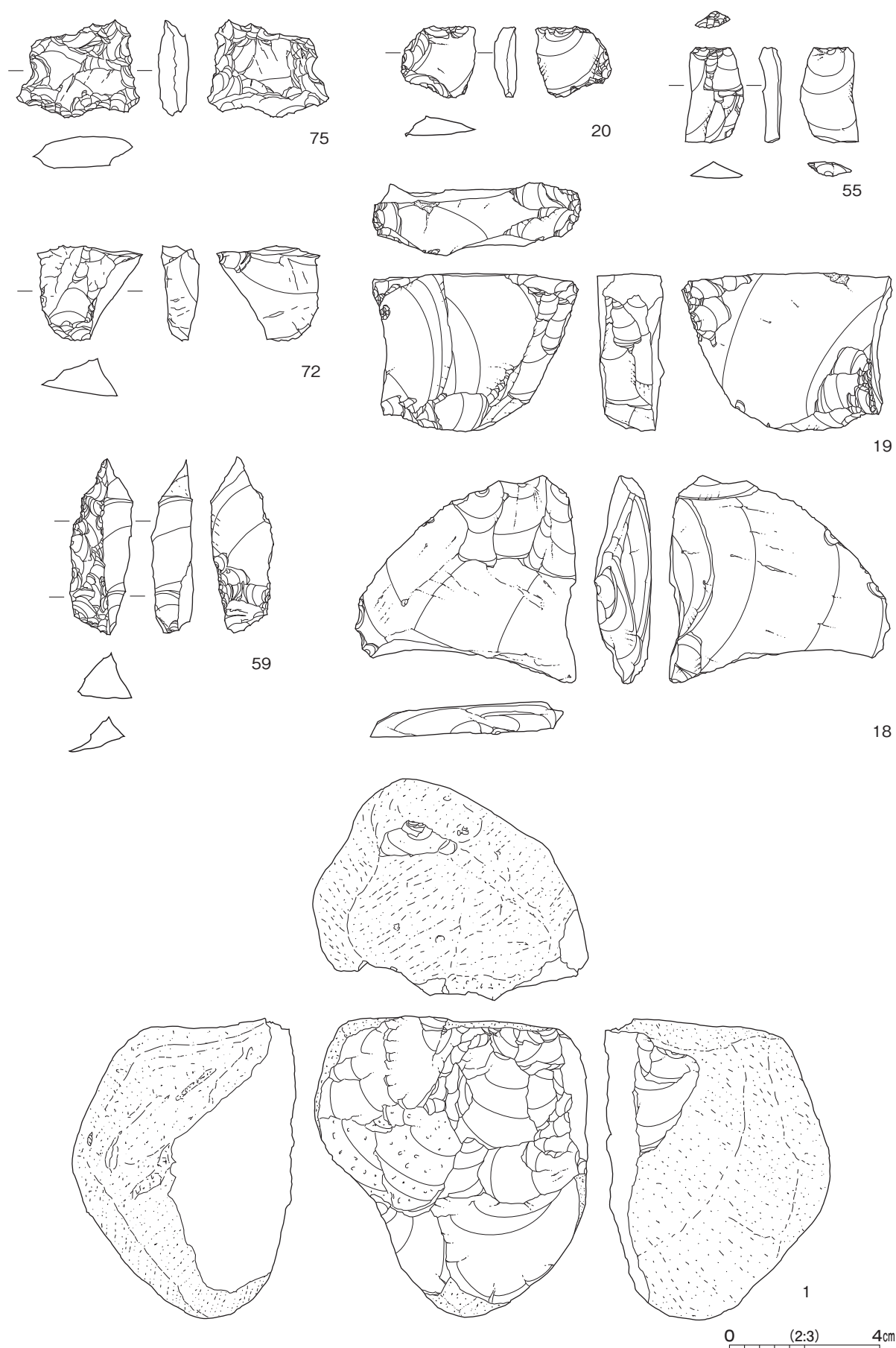


接合資料4

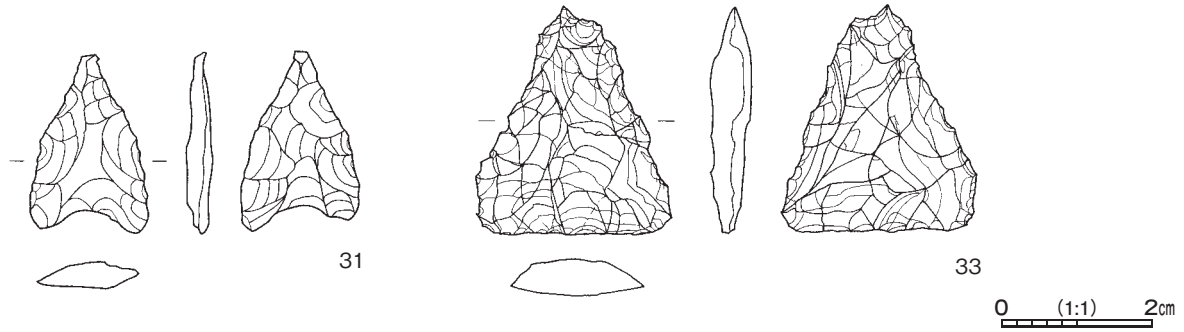


0 (2:3) 4cm

第15图 第3号石器集中地点出土遺物実測図(接合資料3・4)



第 16 図 第 3 号石器集中地点出土遺物実測図 (1)



第17図 第3号石器集中地点出土遺物実測図(2)

第11表 第3号石器集中地点出土遺物一覧

番号	器種	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	特徴	層位	備考								
接合資料1	頁岩		66.85	62.53	48.07	75.60	分離順序: 27 → 52 → 45 → 49 → 50 → 34		PL18								
接合資料2	頁岩		57.63	31.92	21.41	43.18	分離順序: 51 → 73		PL19								
接合資料3	頁岩		52.40	47.42	46.66	109.89	剥離順序: 60 → 58 → 66 → (61+30)		PL19								
接合資料4	流紋岩		33.80	52.22	36.92	54.65	剥離順序: 2 → 9 2と9の間で剥片1枚剥離		PL21								
番号	器種	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	特徴	層位	備考								
1	石核	安山岩	78.90	72.77	58.83	425.20	拳大の礫が素材	4層	PL21								
2	石核	流紋岩	25.24	52.22	23.46	46.17	接合資料4 小型の礫が素材	3層									
9	剥片	流紋岩	27.72	27.23	10.35	8.48	接合資料4 剥離面打面の矩形剥片	3層	PL21								
18	石核	安山岩	51.31	54.99	14.62	43.90	剥片素材石核 ポジティブ面を底面とする有底横長剥片が剥離 瀬戸内技法の翼状剥片石核に類似	5層	PL20								
19	石核	頁岩	51.01	39.35	18.28	48.48	大きな剥片が素材 小口面に作業面 打面調整後ポジティブ面を側面に取り込む縦長剥片が連続的に剥離	5層	PL20								
20	剥片	頁岩	18.17	18.80	6.20	1.93	線状打面の剥片 背腹両面の上端及び下端に両極剥離による剥離痕 楔状石器から剥離された剥片	5層	PL17								
27	剥片	頁岩	47.25	24.25	10.81	6.68	接合資料1 接合状況から打面調整剥片	4層	PL17								
30	石核	頁岩	44.61	36.45	32.41	71.20	接合資料3 右側面中央には大きなポジティブ面 大きな剥片を石核の素材としていたもの	5層	PL20								
34	ナイフ形石器	頁岩	45.31	30.89	12.07	9.70	接合資料1 調整打面より剥離された縦長剥片を素材 一側縁加工のナイフ型石器 プランテイングには対向調整が多用されているほか、プランテイング前に背面から腹面に平坦剥離	4層	PL17								
45	剥片	頁岩	28.44	19.96	6.00	2.20	接合資料1 無打面の剥片	4層	PL17								
49	剥片	頁岩	51.13	45.40	19.94	33.50	接合資料1 剥離面打面の剥片 背面の剥離痕の剥離軸はほぼ並行	5層	PL17								
50	剥片	頁岩	20.09	17.78	16.20	4.00	接合資料1 腹面中央に主要剥離面 上半部折損後に左側面及び下面の被熱剥落面が剥落 不明な部分が多い 主要剥離面は大きく平坦で剥片剥離時は大きな剥片	5層	PL17								
51	剥片	頁岩	42.52	28.47	11.86	12.80	接合資料2 調整打面の縦長剥片	5層	PL19								
52	剥片	頁岩	51.68	45.18	14.10	19.83	接合資料1	5層	PL17								
55	剥片	頁岩	23.88	14.54	5.98	1.90	調整打面の縦長剥片 下面に折り取りとも考えられる折れ面	5層	PL20								
58	剥片	頁岩	28.57	23.02	9.50	3.80	接合資料3 剥離面打面の縦長剥片	5層	PL20								
59	ナイフ形石器	頁岩	43.94	15.79	10.36	6.27	剥離面打面の縦長剥片 一側縁加工のナイフ型石器 縦長剥片を縦位に用い打点側を基部 プランテイングには対向調整が認められ、腹面下半の主要剥離面バルブ付近にはバルブを除去した平坦剥離	5層	PL17								
60	剥片	頁岩	41.91	33.88	12.57	14.41	接合資料3	5層	PL20								
61	剥片	頁岩	35.95	28.27	11.94	11.2	接合資料3 剥離面打面の縦長剥片	5層	PL20								
66	剥片	頁岩	29.73	36.05	10.00	10.10	接合資料3 剥離面打面の矩形剥片	5層	PL20								
72	二次加工剥片	チャート	23.88	26.07	9.21	6.15	剥片の上半部が折れた後に、腹面に折れ面を切る平坦剥離背面下端には腹面から背面側に二次加工	攪乱	PL17								
73	剥片	頁岩	53.42	30.69	21.31	30.90	接合資料2	攪乱	PL19								
75	石鏃未製品	安山岩	25.79	32.58	8.31	7.29	背腹両面に押圧剥離による二次加工痕 腹面中央に素材剥片の主要剥離面が残る	攪乱	PL20								
番号	器種名	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	層位	備考	番号	器種名	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	層位	備考
5	剥片	チャート	8.63	5.94	1.88	0.08	攪乱		26	剥片	チャート	25.07	14.07	8.21	3.47	3層	
6	剥片	安山岩	30.04	29.41	10.72	8.56	3層		28	剥片	頁岩	36.87	23.77	13.13	4.54	5層	PL20
7	剥片	ホルンフェルス	37.46	24.62	13.20	8.84	4層		29	剥片	黒曜石	21.96	11.59	2.60	0.59	攪乱	
8	剥片	チャート	23.67	14.13	4.27	1.25	3層	PL17	31	石鏃	チャート	24.43	15.09	3.02	0.93	攪乱	PL35
10	剥片	チャート	23.20	22.23	17.78	9.66	攪乱		32	剥片	黒曜石	12.10	11.96	3.71	0.34	攪乱	
11	剥片	黒曜石	12.55	11.56	6.52	0.91	3層		33	石鏃	チャート	29.96	25.57	4.64	3.71	3層	PL35
12	礫	凝灰岩	101.74	56.19	38.42	247.46	攪乱		35	砕片	チャート	40.28	22.10	14.77	20.14	攪乱	
14	剥片	頁岩	26.03	15.31	5.04	1.53	攪乱	PL20	36	剥片	頁岩	14.82	5.24	2.00	0.12	5層	
15	剥片	頁岩	18.10	8.94	7.49	1.10	4層		37	剥片	チャート	24.99	17.63	11.73	7.77	3層	
16	剥片	頁岩	15.21	11.23	2.81	0.51	4層		38	礫	チャート	16.02	7.96	9.78	1.02	5層	
17	礫	硬砂岩	102.00	73.31	61.60	638.61	3層		39	剥片	頁岩	30.03	23.71	5.69	3.00	攪乱	PL20
22	剥片	頁岩	34.70	23.69	9.20	8.10	攪乱	PL17	44	剥片	頁岩	23.80	15.87	8.42	2.21	4層	
23	剥片	頁岩	45.58	12.60	16.06	6.56	4層	PL20	46	剥片	頁岩	18.66	11.61	2.43	0.58	4層	
24	剥片	頁岩	23.47	20.17	3.89	1.46	4層		47	剥片	頁岩	23.92	18.21	3.70	1.56	4層	PL20
25	剥片	頁岩	22.42	9.83	5.98	0.83	攪乱		48	剥片	頁岩	41.70	31.09	5.37	4.34	5層	PL20

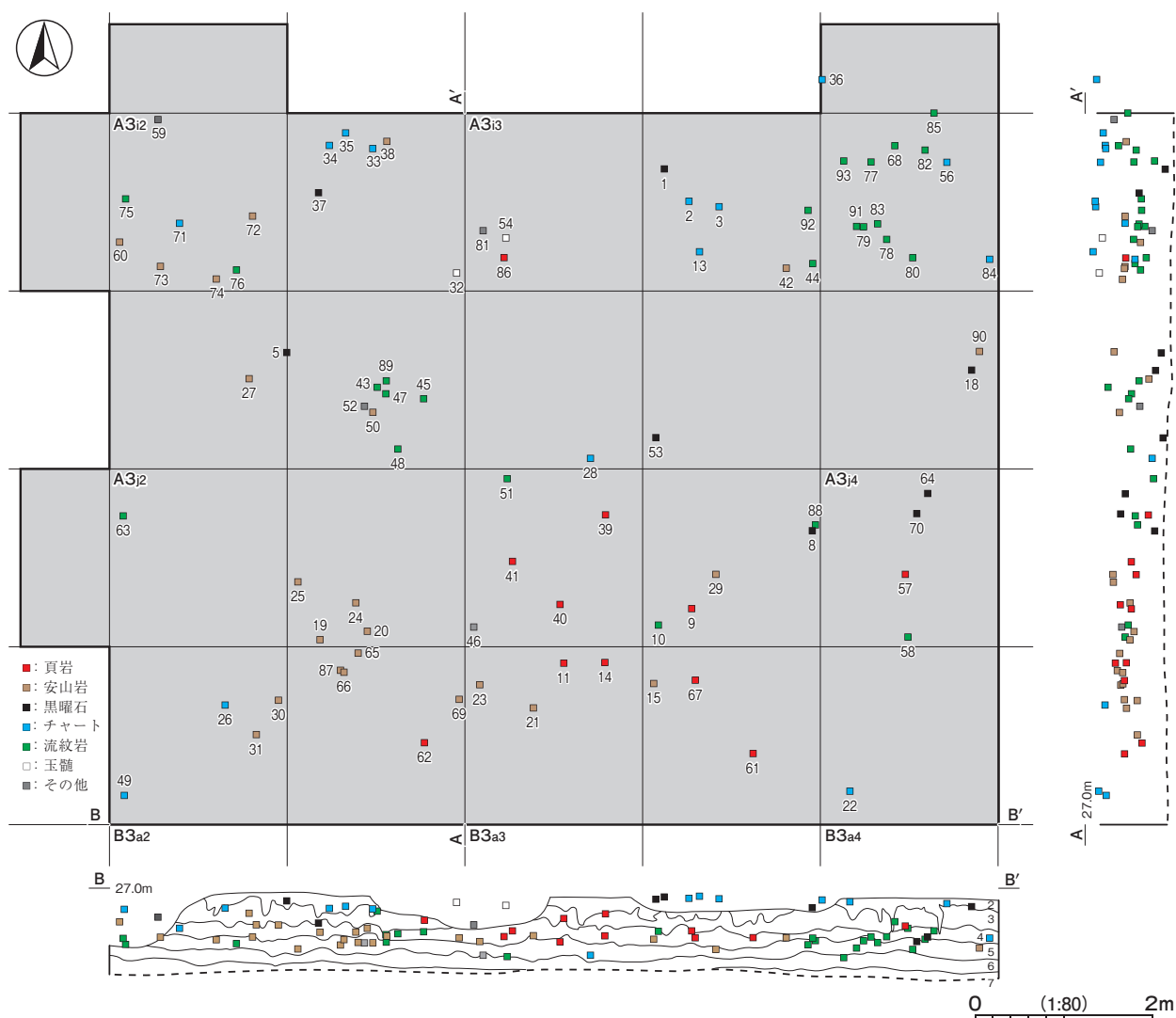
番号	器種名	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	層位	備考
53	剥片	硬砂岩	33.99	22.27	15.86	11.32	攪乱	
54	剥片	頁岩	22.54	16.27	6.03	1.13	4層	PL20
56	剥片	頁岩	9.96	8.20	1.42	0.11	5層	
57	剥片	頁岩	16.43	9.21	3.32	0.28	5層	
62	剥片	頁岩	28.06	8.60	3.45	0.88	5層	PL20
63	剥片	頁岩	15.55	15.54	1.84	0.38	5層	PL17
64	剥片	頁岩	16.42	15.93	4.97	1.02	5層	PL17
65	剥片	頁岩	18.30	12.21	2.43	0.49	5層	PL17
67	剥片	頁岩	22.14	15.97	9.24	2.88	5層	PL20

番号	器種名	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	層位	備考
68	剥片	頁岩	11.90	6.01	1.84	0.12	5層	
69①	剥片	チャート	23.46	12.88	4.92	0.97	攪乱	PL17
69②	剥片	頁岩	19.60	10.97	6.06	0.77	攪乱	PL17
70	剥片	頁岩	5.93	5.37	0.88	0.02	5層	
71	剥片	頁岩	14.47	10.68	4.60	0.47	5層	
74	剥片	黒曜石	29.41	15.65	4.41	2.00	攪乱	PL17
76	剥片	頁岩	22.02	8.27	5.12	0.58	4層	
77	剥片	チャート	20.58	16.89	5.86	1.68	攪乱	
79	剥片	チャート	21.04	13.95	6.98	1.91	攪乱	

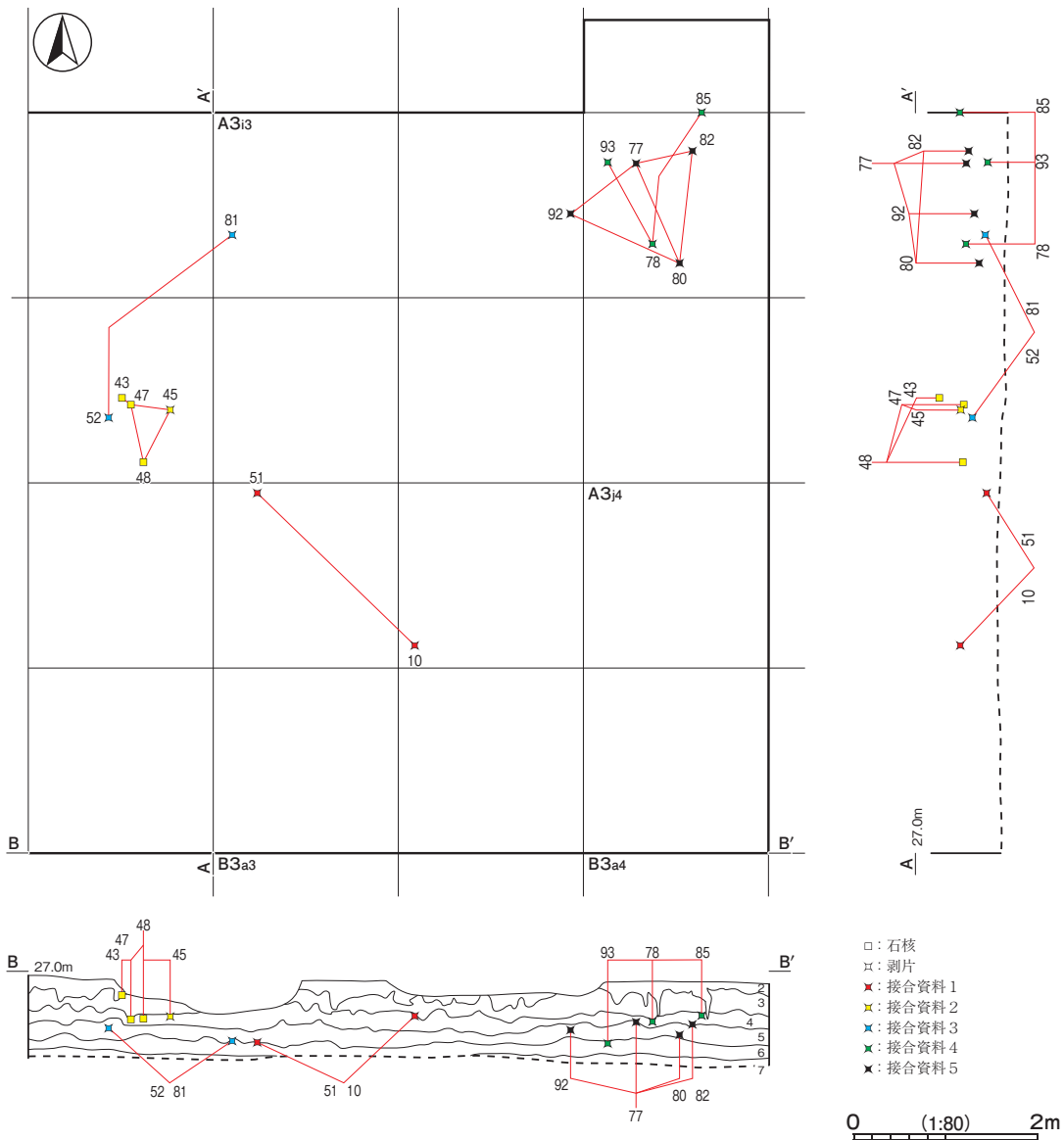
第4号石器集中地点 (第18～22図, 第12～14表, PL 6・21～24・35)

位置 調査区北部のA 3i2～A 3j4区, 標高27mほどの台地縁辺部に位置している。

遺物出土状況 南北8m, 東西9.8mの範囲内で, 標高26.219～26.910mから, 88点(総重量916.56g)の石器が出土している。内訳は, 第3層から13点(頁岩1, 安山岩1, 黒曜石4, チャート5点, 硬砂岩1, 玉髓1), 第4層から42点(頁岩9, 安山岩10, チャート1, 流紋岩20, ホルンフェルス1, デイサイト1), 第5層から20点(頁岩1点, 安山岩11, 黒曜石2, チャート1, 流紋岩4, デイサイト1), 攪乱から13点(安山岩2, 黒曜石2, チャート8, 玉髓1)で, 第4層に集中している。構成器種は, ナイフ形石器2点(玉



第18図 第4号石器集中地点遺物分布図(石材)



第19図 第4号石器集中地点遺物分布図（接合資料）

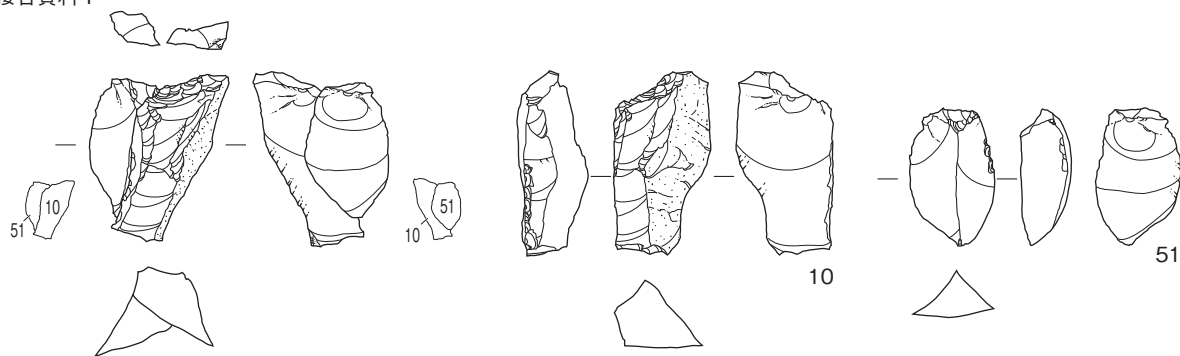
第12表 第4号石器集中地点層位別単位石材器種一覧

	頁岩				安山岩			黒曜石					チャート					流紋岩					ホルンフェルス	デイサイト	硬砂岩	玉髓	合計	
	石楔	剥二次	剥	剥	石	剥	集	剥	剥	碎	石	未石	集	石	剥二次	剥	剥	集	石	剥	剥	剥	集	片	礫	片		石
	器形	片工	片	集計	核	片	集計	片	片	片	鏃	品鏃	集計	核	片工	片	片	集計	核	片工	片	片	集計	片	礫	片	器形	
3層			1	1	1	1	1	4	3	1	1		5													1	1	13
4層	1	1	7	9		10	10		1				1	3	1	16		20	1	1								42
5層			1	1	1	10	11	2	1				1			3	1	4			1							20
攪乱						2	2	2	6	1		1	8														1	13
合計	1	1	9	11	1	23	24	8	11	2	1	1	15	3	1	19	1	24	1	2					1	2	88	

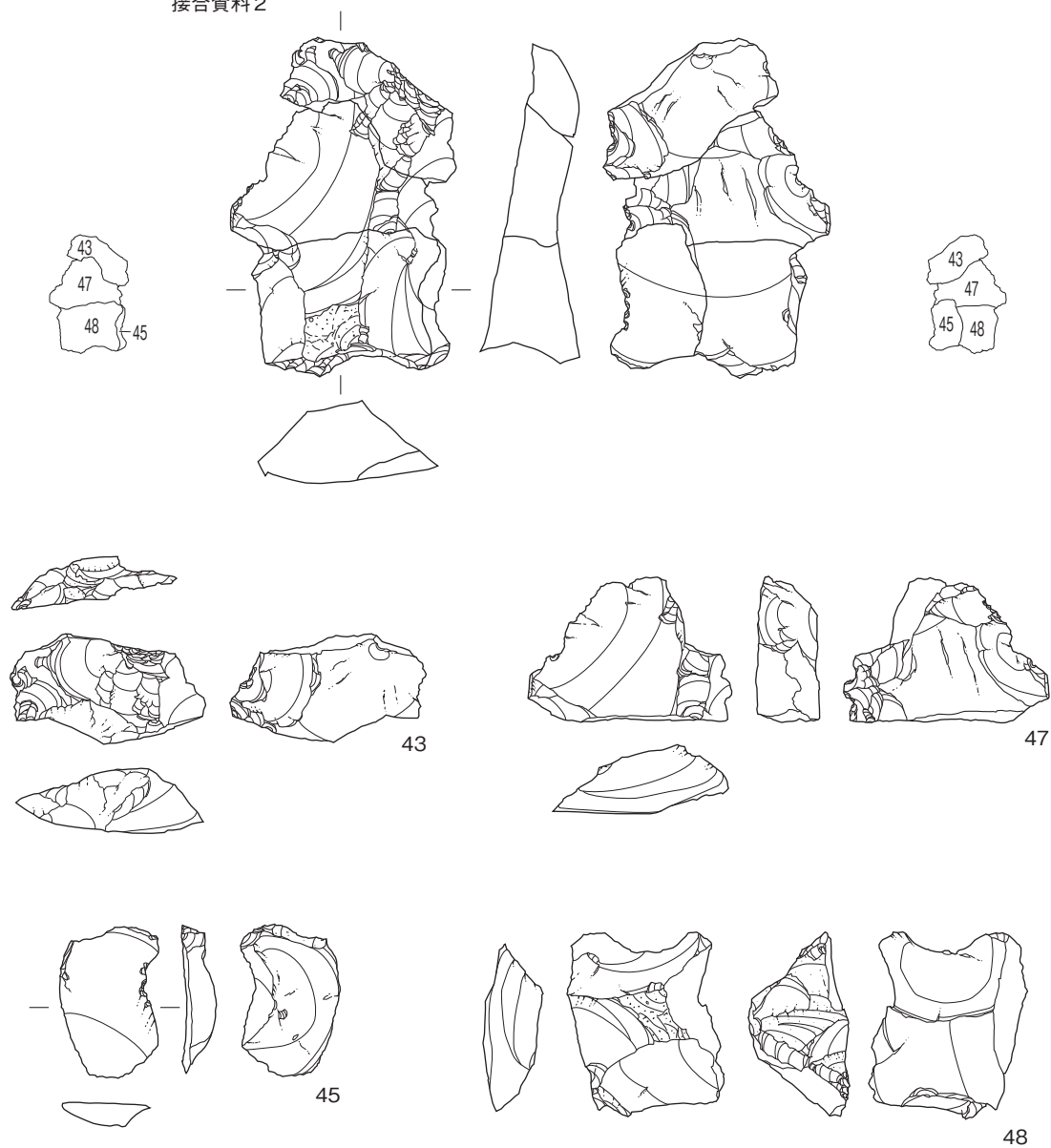
第13表 第4号石器集中地点層位別石材重量一覧

	頁岩	安山岩	黒曜石	チャート	流紋岩	ホルンフェルス	デイサイト	硬砂岩	玉髓	合計 (g)
3層	14.35	13.59	9.38	21.76				9.88	5.35	74.31
4層	89.87	157.63		1.73	175.61	16.86	18.45			460.15
5層	0.56	166.98	3.93	1.81	109.96		54.11			337.35
攪乱		13.56	5.07	22.20					3.92	44.75
合計(g)	104.78	351.76	18.38	47.50	285.57	16.86	72.56	9.88	9.27	916.56

接合資料1



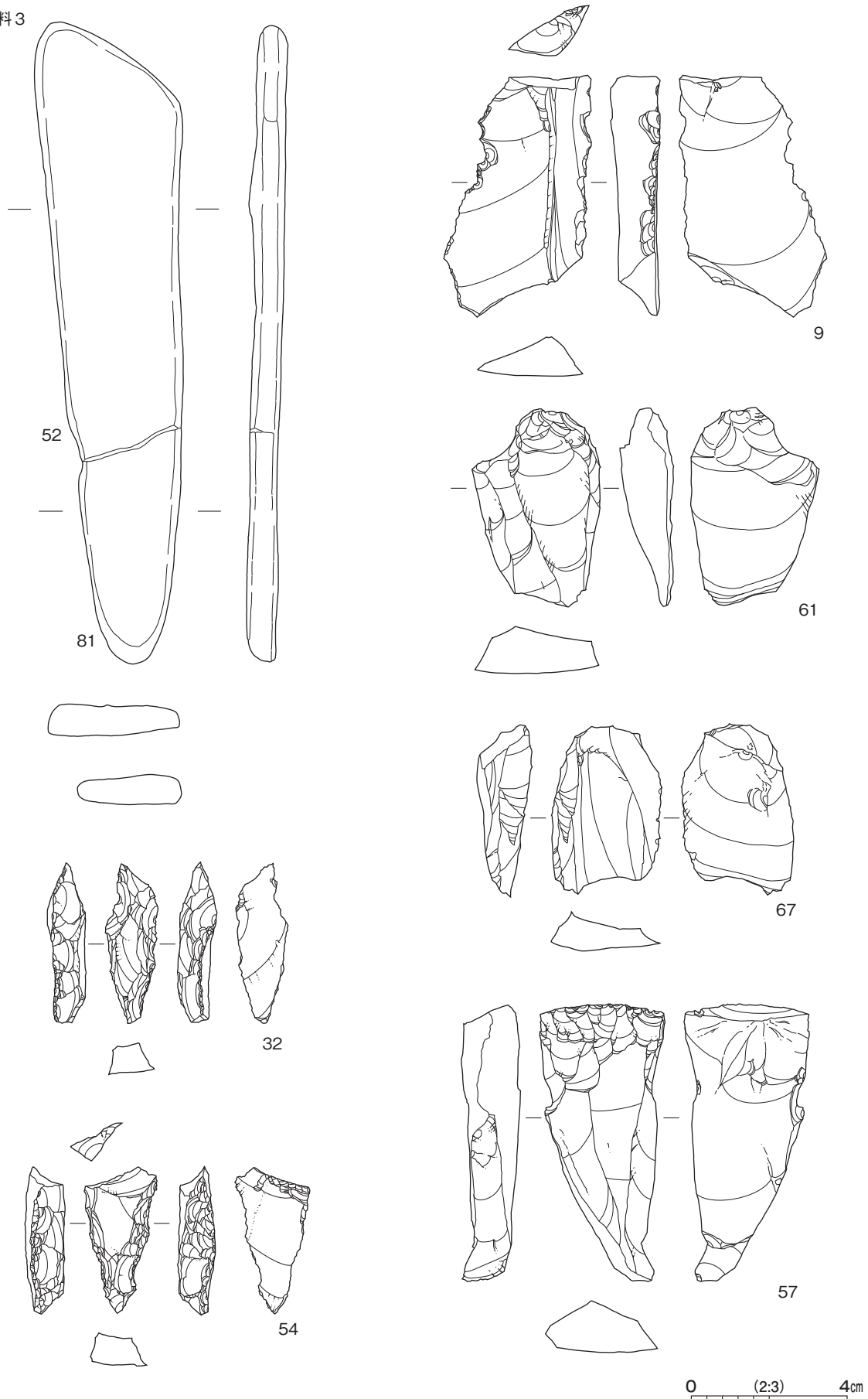
接合資料2



0 (2:3) 4cm

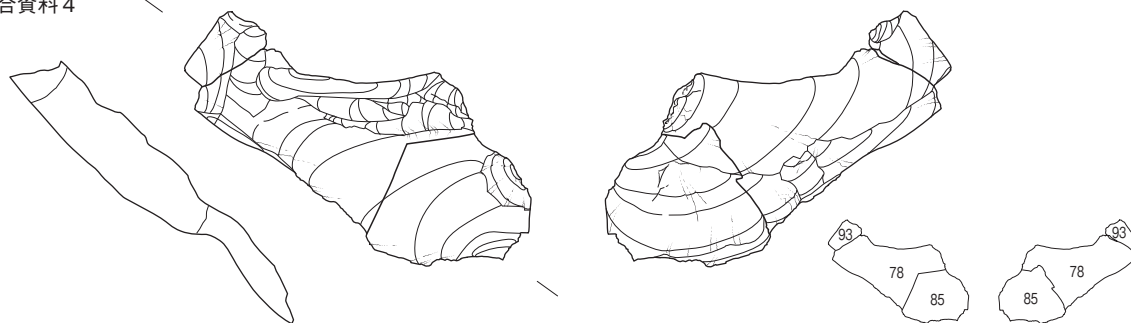
第20図 第4号石器集中地点出土遺物実測図(接合資料1・2)

接合資料3

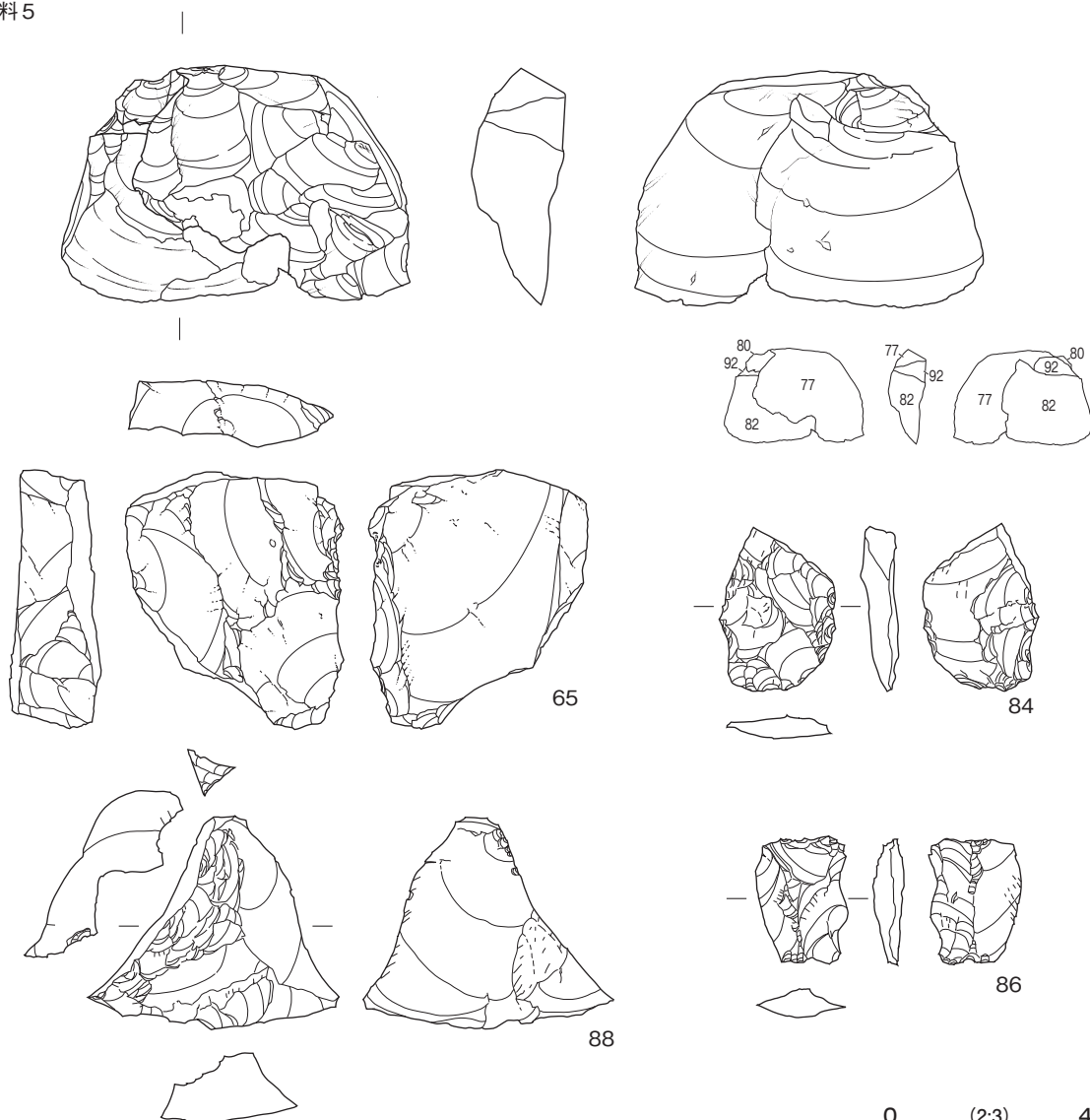


第21図 第4号石器集中地点出土遺物実測図（接合資料3）

接合資料4



接合資料5



第22図 第4号石器集中地点出土遺物実測図(接合資料4・5)

髓), 石核4点(安山岩1, 流紋岩3), 二次加工剥片2点(頁岩, 流紋岩), 剥片74点(頁岩9, 安山岩23, 黒曜石8, チャート11, 流紋岩19, ホルンフェルス1, デイサイト2, 硬砂岩1), 碎片2点(チャート2), 礫1点(凝灰岩), 石鏃1点(チャート), 石鏃未製品1点(チャート)である。

所見 当石器集中地点からは接合資料5点が出土している。

接合資料1(流紋岩2点:二次加工剥片, 剥片)は, 平面分布が2m四方(A3j3)に, 垂直分布が第4層に集中している。分離順序は, 10→51で, 10は剥離後に二次加工もしくは微細剥離がなされている。

接合資料2（流紋岩4点：石核3，剥片1）は、平面分布が1m四方（A3i2）に、垂直分布が第4層に集中している。分離順序は、（43/45）→（47+48）で、縦長剥片を素材とした石核と剥片から構成されている。縦長剥片の主要剥離面側の両側縁を作業面とし、45のような背面にポジティブ面を有する剥片を剥離していたと推定される。45の剥離後も数枚同様の剥片が得られているが、作業中に折れたものと推定される。47は折れた後もさらに同様の剥離が行われている。

接合資料1・2は平面分布がずれるが、垂直分布が第4層に集中し、同一母岩と考えられる。

接合資料3（デイサイト2点：礫）は、平面分布が2m四方（A3i2～A3i3）に、垂直分布が第4・5層に分散している。

接合資料4（流紋岩3点：剥片）と接合資料5（流紋岩4点：剥片）は、平面分布が2m四方（A3i3～A3i4）に、垂直分布が第4層に集中している。68・79・83・91は、接合資料4・5の平面分布と同じ範囲から出土しており、同一母岩と考えられる。接合資料4は、打点部を折損しているが、潜在的な剥離の影響を受けているものと推定される。接合資料5の剥離順は、77→92+（80+82）で、80と82、92の下部は節理面での折れである。

石材は安山岩、流紋岩の比率が高く、ナイフ形石器、楔形石器、石核、多数の剥片が出土していることから石器製作の可能性がある。

第14表 第4号石器集中地点出土遺物一覧

番号	器種名	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特 徴	層位	備考
9	二次加工剥片	頁岩	57.98	35.30	12.37	19.37	縦長剥片を素材とする二次加工剥片 打点部は折り取りと推定される折れ面が認められる他、折れ面を切る細かな二次加工痕 サイドスクレイパーの可能性もあるが、剥離単位としての連続性が乏しく二次加工剥片とした	4層	PL23
10	二次加工剥片	流紋岩	37.30	24.88	14.74	8.30	接合資料1 剥離面打面の縦長剥片を素材とする二次加工剥片 背面左側縁下半に主要剥離面側から背面側へ二次加工もしくは微細剥離	4層	PL21
32	ナイフ形石器	玉髓	41.14	13.86	10.26	3.92	横長剥片を素材とする二側縁加工のナイフ型石器 背面上端にわずかに素材となった剥片の先行一次剥離面打面が刃部として残る 左側縁中央上にわずかな対向調整	攪乱	PL22
43	石核	流紋岩	39.51	23.06	14.54	10.40	接合資料2 調整打面の縦長剥片が素材 腹面側を作業面としてポジティブ面を底面として有する剥片を剥離していたもの 剥離作業中に石核が折損し、その際に左側面の折れ面が形成され、その折れ面形成後もその折れ面を打面として背面側に微細な調整がなされている	4層	PL22
45	剥片	流紋岩	29.52	19.58	7.26	2.70	接合資料2 剥離面打面の横長剥片 背面は素材となった剥片のポジティブ面のみで構成	4層	PL22
47	石核	流紋岩	30.85	42.85	13.65	14.20	接合資料2 調整打面の縦長剥片が素材 腹面側を作業面としてポジティブ面を底面として有する剥片を剥離していたもの 剥離作業中に石核が折損し、その際に右側面上半及び下面の折れ面が形成され、その折れ面形成後もその折れ面を打面として背面側に微細な調整	4層	PL22
48	石核	流紋岩	38.77	32.57	21.70	20.30	接合資料2 調整打面の縦長剥片が素材 腹面にポジティブ面を持つ剥片を剥離した剥離痕	4層	PL22
51	剥片	流紋岩	27.54	17.56	10.84	3.30	接合資料1 剥離面打面の縦長剥片 背面右側縁には主要剥離面側から背面側になされた微細剥離	5層	PL21
52	礫	デイサイト	104.02	39.29	9.35	54.11	接合資料3	5層	PL23
54	ナイフ形石器	玉髓	37.80	19.11	11.17	5.35	縦長剥片を素材とする二側縁加工ナイフ形石器 縦長剥片を縦位に用いる 素材剥片の主要剥離面打点部を先端としているが、上端を折損 折れ面形成後その折れ面を打面として、腹面側に平坦剥離	3層	PL22
57	剥片	頁岩	71.05	32.56	15.40	31.38	剥離面打面の縦長剥片 背面構成から石刃カ	4層	PL23
61	剥片	頁岩	47.32	31.08	13.38	17.56	無打面の縦長剥片 背面構成から石刃カ	4層	PL23
65	石核	安山岩	51.88	43.56	18.78	45.79	ポジティブ面は認められない 背面側の剥離軸は求心的である 上半部を折損	5層	PL24
67	剥片	頁岩	40.70	26.66	13.64	11.45	剥離面打面の縦長剥片 頻繁な打面及び作業面の転移 石核調整剥片とも推定される	4層	PL23
77	剥片	流紋岩	64.50	39.97	15.23	35.63	接合資料5	4層	PL23
78	剥片	流紋岩	35.19	56.66	11.72	21.83	接合資料4 横長剥片 打点部を折損 潜在的な剥離の影響を受けているものと推定	4層	PL22
80	剥片	流紋岩	21.87	11.28	8.05	1.65	接合資料5	4層	PL23
81	礫	デイサイト	60.18	26.42	8.13	18.45	接合資料3	4層	PL23
82	剥片	流紋岩	50.06	42.16	10.28	20.03	接合資料5	4層	PL23
84	石核未製品	チャート	31.07	21.94	7.87	5.08	縦長剥片素材の石核未製品 腹面に素材となった剥片の主要剥離面が残る 上半摂理面に沿った折れ	攪乱	PL21
85	剥片	流紋岩	35.49	32.28	5.19	6.76	接合資料4	4層	PL22
86	楔形石器	頁岩	24.00	17.68	6.29	2.25	小形	4層	PL23
88	剥片	流紋岩	39.87	46.78	30.15	14.53	調整打面の矩形剥片	5層	PL23
92	剥片	流紋岩	15.52	11.13	2.40	0.63	接合資料5	4層	PL23
93	剥片	流紋岩	18.63	12.38	6.25	1.65	接合資料4	5層	
	接合資料1	流紋岩	29.43	24.74	14.66	11.56	分離順序：10→51		PL21
	接合資料2	流紋岩	62.35	42.24	18.44	47.61	分離順序：（43/45）→（47+48）		PL22
	接合資料3	デイサイト	164.20	39.29	9.35	72.45	52+81		PL23
	接合資料4	流紋岩	78.29	40.54	11.77	30.25	78+85+93		PL22
	接合資料5	流紋岩	47.05	69.72	15.77	57.90	77→92+（80+82）		PL23

番号	器種名	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	層位	備考
1	剥片	黒曜石	19.55	12.37	4.09	0.79	攪乱	PL22
2	碎片	チャート	24.11	18.20	12.25	6.32	攪乱	
3	剥片	チャート	22.60	17.49	8.64	3.83	攪乱	
5	剥片	黒曜石	17.08	11.27	10.92	3.30	3層	PL22
8	剥片	黒曜石	13.75	9.37	4.30	0.40	3層	
11	剥片	頁岩	28.46	13.23	11.74	3.73	4層	
13	剥片	チャート	22.33	11.89	8.17	1.51	攪乱	
14	剥片	頁岩	15.84	11.66	3.12	0.56	5層	
15	剥片	安山岩	21.18	17.49	5.27	1.32	5層	
18	剥片	黒曜石	28.46	16.75	8.13	4.87	3層	PL22
19	剥片	安山岩	39.79	26.16	14.59	9.70	4層	PL24
20	剥片	安山岩	17.74	15.17	3.57	1.09	4層	
21	剥片	安山岩	27.51	15.97	4.73	2.15	4層	
22	石鏃	チャート	18.01	17.21	4.11	0.67	3層	PL35
23	剥片	安山岩	36.39	15.73	8.33	6.35	5層	
24	剥片	安山岩	40.55	23.78	8.83	6.14	5層	PL24
25	剥片	安山岩	41.63	31.17	18.06	22.16	5層	PL24
26	剥片	チャート	23.81	13.45	6.57	1.97	3層	
27	剥片	安山岩	52.53	38.31	6.86	11.97	4層	PL24
28	剥片	チャート	25.90	11.09	4.99	1.81	5層	
29	剥片	安山岩	32.43	23.76	16.77	11.38	5層	
30	剥片	安山岩	20.76	17.71	10.10	2.45	4層	
31	剥片	安山岩	23.69	21.94	4.05	1.78	4層	
33	剥片	チャート	23.38	15.37	4.86	2.26	攪乱	PL21
34	剥片	チャート	19.80	13.59	1.97	0.64	攪乱	PL21
35	剥片	チャート	28.76	20.04	3.06	2.26	攪乱	
36	剥片	チャート	15.28	10.68	2.35	0.30	攪乱	
37	剥片	黒曜石	25.14	22.28	8.87	4.28	攪乱	PL22
38	剥片	安山岩	29.37	25.40	9.61	4.50	攪乱	
39	剥片	頁岩	35.27	34.96	14.31	14.35	3層	PL23
40	剥片	頁岩	22.08	15.62	4.70	1.50	4層	PL22
41	剥片	頁岩	25.31	14.70	6.35	2.03	4層	

番号	器種名	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	層位	備考
42	剥片	安山岩	41.89	35.01	8.19	12.35	5層	PL24
44	剥片	流紋岩	34.31	23.47	6.11	5.28	4層	PL22
46	剥片	ホルンフェルス	64.87	30.28	7.13	16.86	4層	
49	剥片	チャート	39.33	31.24	15.65	14.39	3層	
50	剥片	安山岩	33.75	23.90	6.43	5.85	5層	
53	剥片	黒曜石	18.39	11.35	4.88	0.81	3層	
55	剥片	チャート	26.11	21.82	8.44	4.60	3層	PL21
56	碎片	チャート	12.05	8.78	1.00	0.13	3層	
58	剥片	流紋岩	42.33	12.29	11.50	5.20	4層	PL23
59	剥片	硬砂岩	36.40	36.23	7.77	9.88	3層	
60	剥片	安山岩	41.00	32.54	11.14	13.59	3層	
62	剥片	頁岩	25.70	11.21	1.69	0.60	4層	
63	剥片	流紋岩	32.91	26.91	3.80	3.18	4層	
64	剥片	黒曜石	19.65	12.37	3.63	0.68	5層	
66	剥片	安山岩	50.27	35.67	13.42	21.56	4層	
68	剥片	流紋岩	14.70	10.68	1.37	0.15	4層	
69	剥片	安山岩	30.92	22.38	11.82	7.95	5層	
70	剥片	黒曜石	32.02	21.37	4.30	3.25	5層	PL22
71	剥片	チャート	22.50	15.58	5.05	1.73	4層	
72	剥片	安山岩	53.34	37.14	18.03	40.46	4層	PL24
73	剥片	安山岩	56.20	35.49	19.23	32.39	4層	PL24
74	剥片	安山岩	53.56	53.10	16.51	34.08	4層	PL24
75	剥片	流紋岩	41.04	28.42	9.77	15.61	4層	PL22
76	剥片	流紋岩	22.63	14.62	2.60	0.87	4層	
79	剥片	流紋岩	27.71	17.92	4.89	2.59	4層	PL22
83	剥片	流紋岩	13.23	6.52	3.01	0.19	4層	
87	剥片	安山岩	50.25	44.29	12.78	35.72	5層	PL24
89	礫	流紋岩	55.39	36.44	21.82	90.48	5層	
90	剥片	安山岩	49.98	24.42	7.55	11.97	5層	
91	剥片	流紋岩	9.21	4.88	1.61	0.11	4層	
94	剥片	安山岩	38.69	28.63	6.04	9.06	攪乱	PL24

第5号石器集中地点 (第23～25図, 第15～17表, PL7・24・25・35)

位置 調査区中央部のB2f6・B2g5・B2g6区, 標高27mほどの台地縁辺部に位置している。

遺物出土状況 南北6.8m, 東西3.2mの範囲内で, 標高26.215～26.599mから, 16点の石器が出土している。

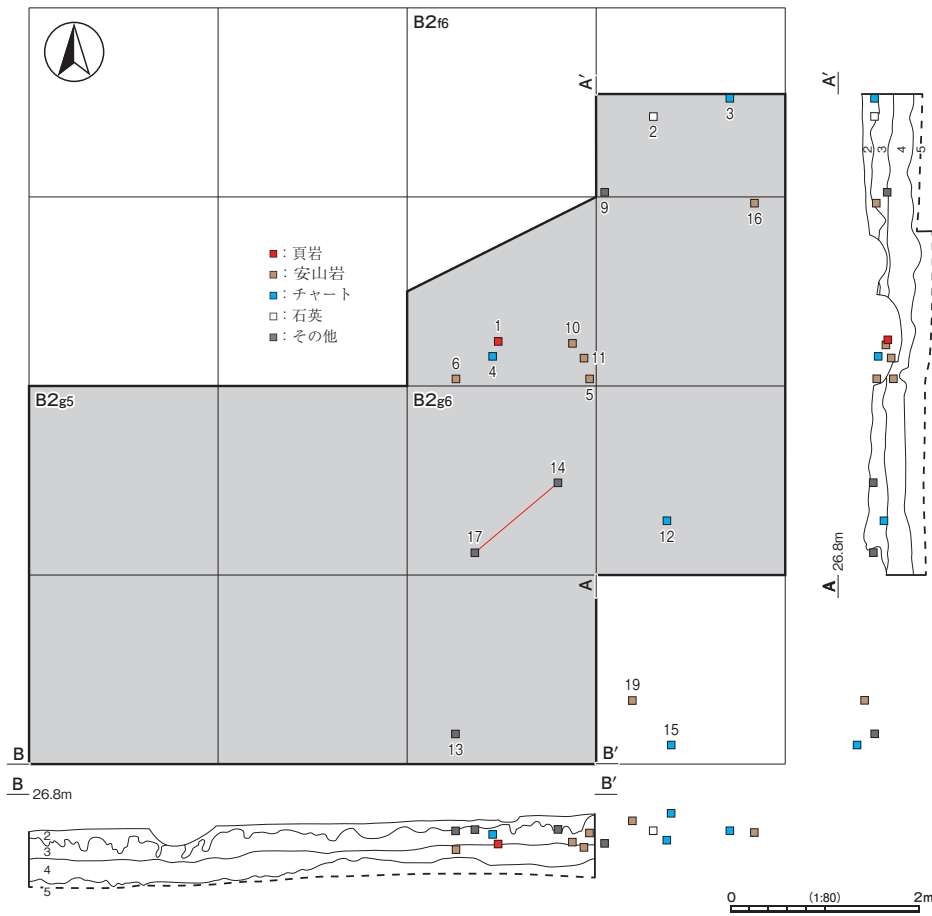
内訳は, 第2層から9点(頁岩1, 安山岩5, 硬砂岩1, デイサイト1, 凝灰岩1), 第3層から5点(チャート3, 硬砂岩1, 石英1), 攪乱から2点(安山岩, チャート)で第2・3層に集中している。構成器種は, 彫器1点(頁岩), 石斧1点(硬砂岩), 剥片8点(安山岩6, チャート1, 石英1), 碎片2点(チャート),

第15表 第5号石器集中地点層位別単位石材器種一覧

層位	頁岩		安山岩		チャート			硬砂岩	デイサイト	凝灰岩	石英	合計
	彫器	片	剥片	碎片	石鏃	集計	石斧	敲石	磨石	剥片		
2層	1	5					1	1	1			9
3層					2	1	3	1			1	5
攪乱			1				1					2
合計	1	6	1		2	1	4	2	1	1	1	16

第16表 第5号石器集中地点層位別石材重量一覧

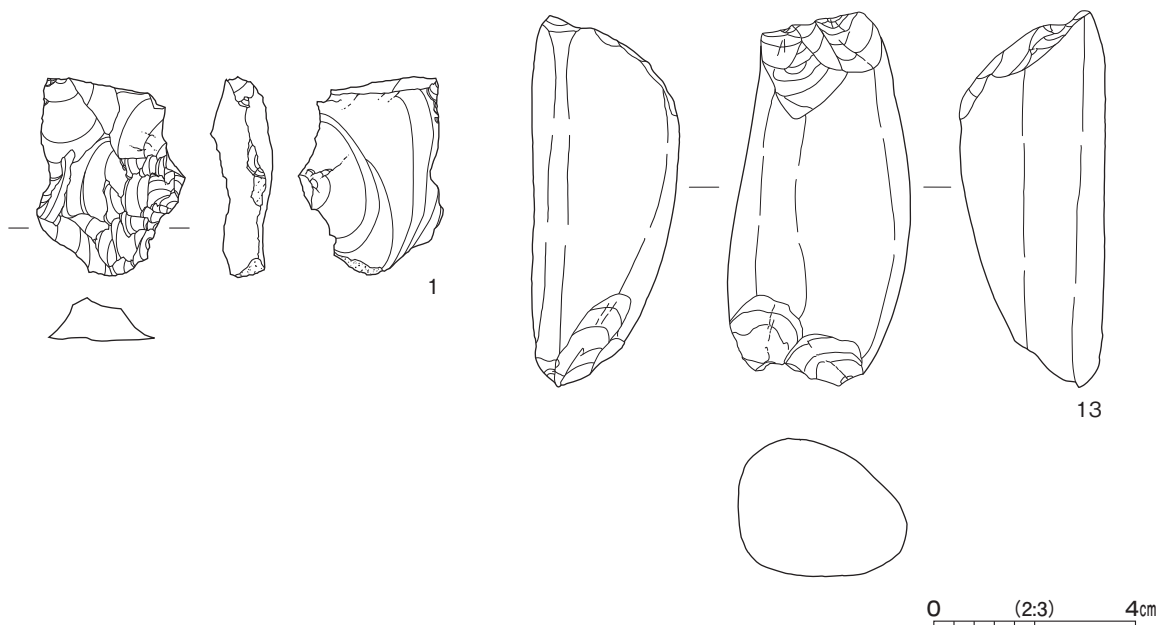
層位	頁岩	安山岩	チャート	硬砂岩	デイサイト	凝灰岩	石英	合計(g)
2層	12.89	28.91		33.56	104.62	172.44		352.42
3層			1.63	71.78			3.42	76.83
攪乱		34.39	3.13					37.52
合計(g)	12.89	63.30	4.76	105.34	104.62	172.44	3.42	466.77



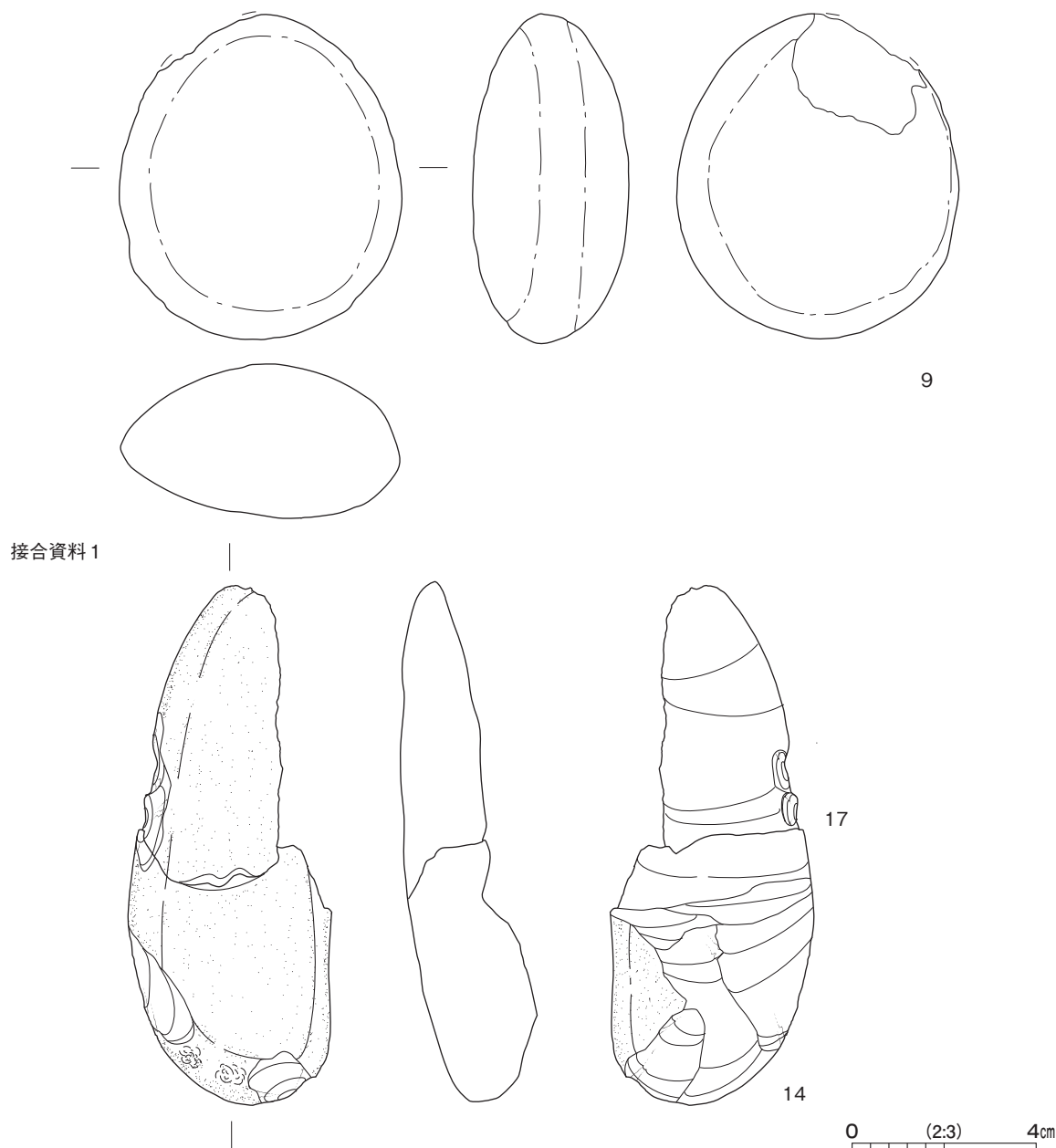
第23図 第5号石器集中地点遺物分布図（石材）

磨石1点（凝灰岩）、敲石1点（デイサイト）、石鏃1点（チャート）である。磨石、敲石、石鏃は混入と考えられる。

所見 当石器集中地点からは接合資料1点が出土している。接合資料1（硬砂岩2点：石斧）は平面分布が1m四方（B2g6）に、垂直分布が第2層に集中している。



第24図 第5号石器集中地点出土遺物実測図



第 25 図 第 5 号石器集中地点出土遺物実測図（接合資料 1）

第 17 表 第 5 号石器集中地点出土遺物一覧

番号	器種名	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特 徴	層位	備考
1	彫器	頁岩	36.64	27.32	11.33	12.89	剥離面打面の横長剥片が素材。背面右側縁は素材剥片の打点部を残し、プランティング状の二次加工。上端は主要剥離面に切られることから主要剥離面形成以前の大きなフラット面である。フラット面を打面とし、背面左上にファシット状の剥離痕	2層	PL25
14	石斧	硬砂岩	57.20	43.81	24.87	71.78	接合資料 1	3層	PL24
17	石斧	硬砂岩	61.81	36.59	12.36	33.56	接合資料 1	2層	PL24
接合資料 1	硬砂岩	108.47	42.52	23.97	105.26	14+17			PL24

番号	器種名	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	層位	備考
2	剥片	石英	26.36	17.38	9.46	3.42	3層	
3	碎片	チャート	10.65	9.53	2.21	0.17	3層	
4	碎片	チャート	14.48	11.77	1.74	0.25	3層	
5	剥片	安山岩	45.48	36.09	18.92	25.02	2層	PL25
6	剥片	安山岩	23.95	12.83	4.61	1.17	2層	
9	磨石	凝灰岩	71.21	61.40	34.39	172.44	2層	
10	剥片	安山岩	18.16	11.00	1.99	0.39	2層	

番号	器種名	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	層位	備考
11	剥片	安山岩	22.63	11.01	2.95	0.86	2層	
12	剥片	チャート	29.39	11.83	7.52	3.13	攪乱	
13	敲石	デイサイト	73.68	36.64	27.73	104.62	2層	
15	石鏃	チャート	19.97	12.39	5.72	1.21	3層	
16	剥片	安山岩	20.47	14.19	4.80	1.47	2層	
19	剥片	安山岩	66.65	43.79	13.87	34.39	攪乱	PL24

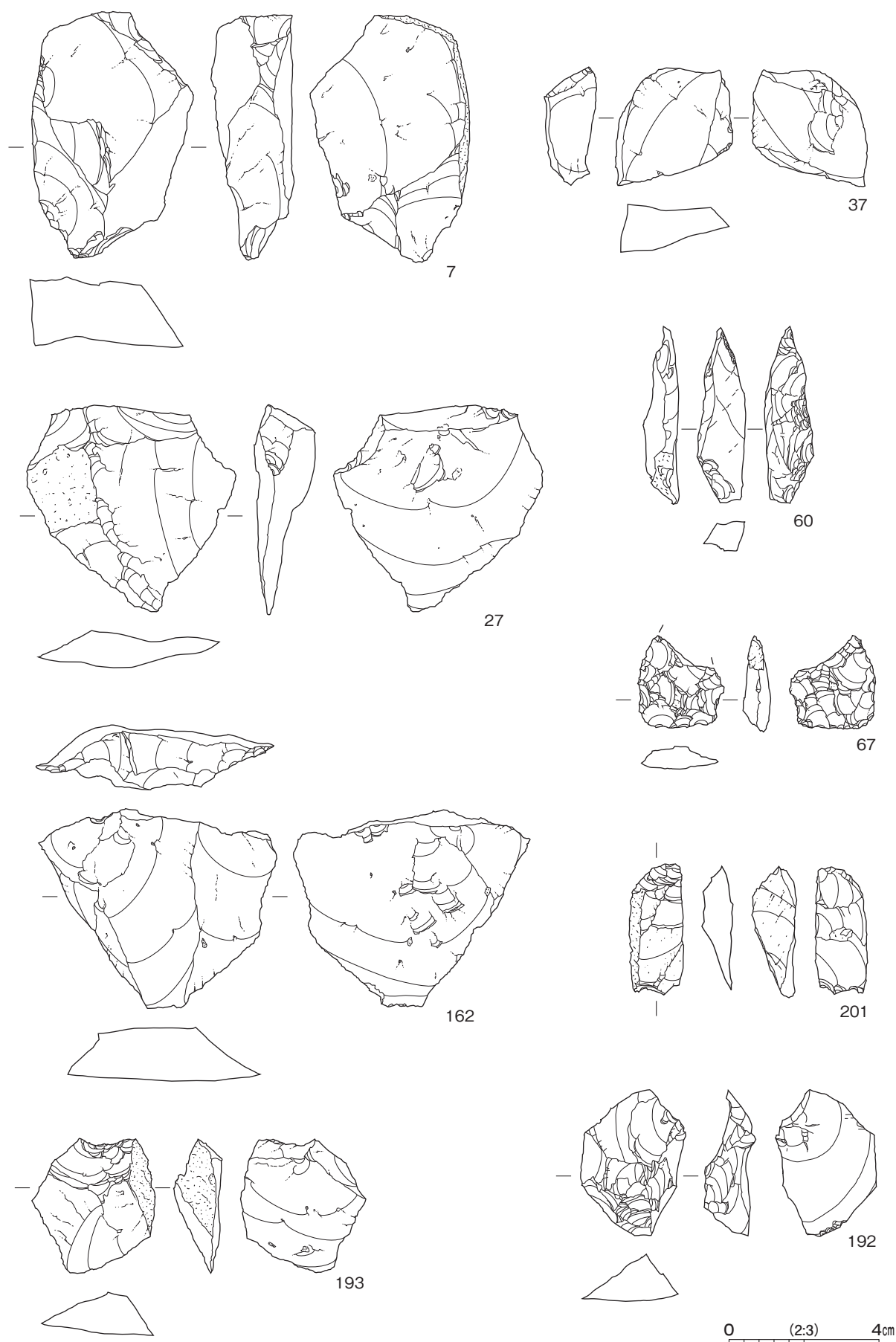
第6号石器集中地点 (第26～29図, 第18～20表, PL 7・25・26)

位置 調査区北部の第3号墳墳丘基底面のA 3j5～B 3b7区, 標高27 mほどの台地上に位置している。

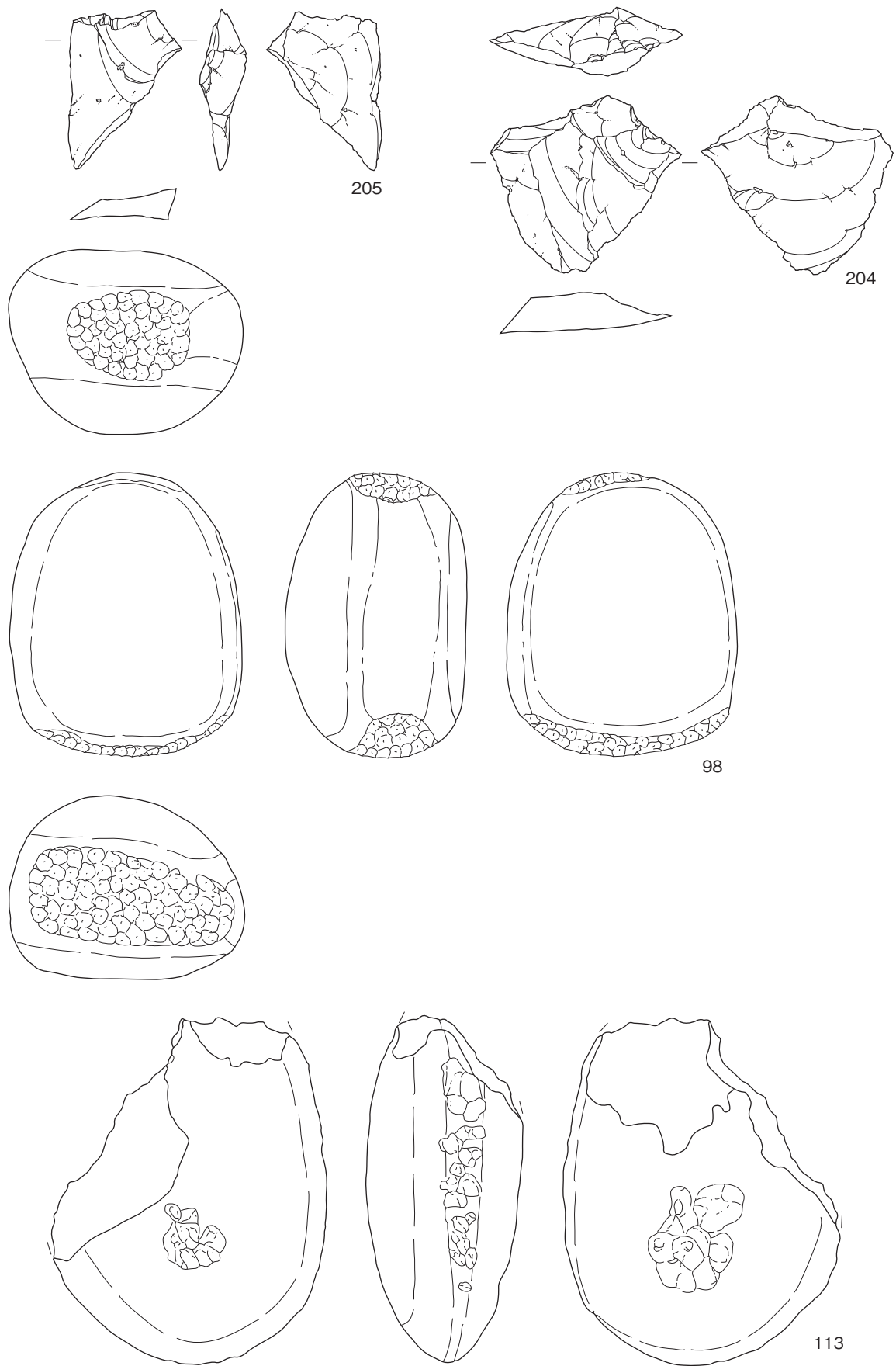
遺物出土状況 南北13.3 m, 東西13.2 mの範囲内で, 標高26.367 m～27.280 mから, 201点(総重量1263.74 g)の石器が出土している。内訳は, 第1層から第2層にかけて140点(頁岩11, 安山岩12, 黒曜石29, チャート70, 流紋岩5, ホルンフェルス1, デイサイト3, 硬砂岩2, 瑪瑙4, 石英2), 第3層から4点(安山岩2, 黒曜石1, チャート1), 第4層から13点(安山岩8, 黒曜石1, チャート3, 硬砂岩1), 第5層



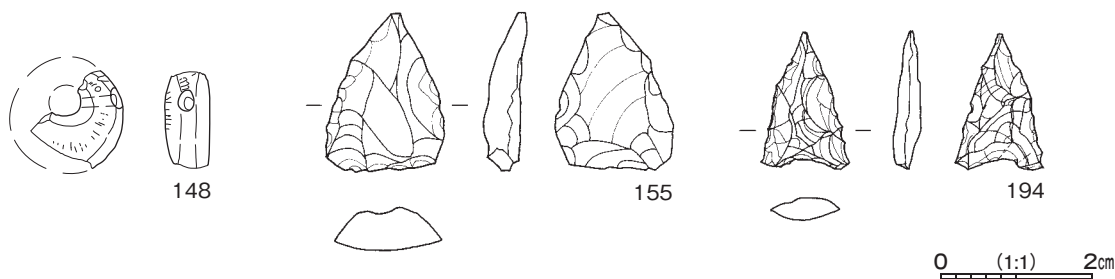
第26図 第6号石器集中地点遺物分布図



第 27 図 第 6 号石器集中地点出土遺物実測図 (1)



第28图 第6号石器集中地点出土遗物实测图(2)



第 29 図 第 6 号石器集中地点出土遺物実測図 (3)

から 21 点 (安山岩 10, 黒曜石 1, チャート 5, 流紋岩 2, 硬砂岩 1, 瑪瑙 1, 石英 1), 攪乱から 23 点 (頁岩 1, 安山岩 4, 黒曜石 5, チャート 10, デイサイト 1, 凝灰岩 1, 石英 1) である。構成器種は, 楔形石器 1 点 (チャート), 石核 2 点 (安山岩, チャート), 剥片 128 点 (頁岩 8, 安山岩 35, 黒曜石 20, チャート 50, 流紋岩 6, デイサイト 2, 硬砂岩 2, 瑪瑙 3, 石英 2), 碎片 57 点 (頁岩 4, 黒曜石 15, チャート 33, デイサイト 2, 瑪瑙 1, 石英 2), 礫 4 点 (流紋岩 1, ホルンフェルス 1, 硬砂岩 2), 玉 1 点 (瑪瑙), 石鏃 7 点 (頁岩 1, 黒曜石 2, チャート 4), 磨石 1 点 (凝灰岩) である。石鏃は混入と考えられる。

所見 当石器集中地点は, 分布状況から 2 つの石器群に分けられる。チャートと黒曜石を主体とした石器群は, 平面分布が広範囲に, 垂直分布が第 1 層から第 2 層に集中している。また, 安山岩を主とした石器群は, 平面分布が 6 m 四方 (B 3 a6 ~ B 3 b7), 垂直分布が第 4・5 層に集中している。

第 18 表 第 6 号石器集中地点層位別単位石材器種一覧

	頁岩				安山岩			黒曜石				チャート					
	剥片	砕片	石鏃	集計	石核	剥片	集計	砕片	石鏃	剥片	集計	石楔器形	石核	剥片	砕片	石鏃	集計
2 層	6	4	1	11	1	11	12	14	2	13	29		1	38	28	3	70
3 層						2	2	1			1			1			1
4 層						8	8			1	1			3			3
5 層						10	10			1	1	1		3	1		5
攪乱	1			1		4	4			5	5			5	4	1	10
漸移層	1			1													
合計	8	4	1	13	1	35	36	15	2	20	37	1	1	50	33	4	89

	流紋岩			瑪瑙				ホルンフェルス	デイサイト			硬砂岩			凝灰岩	石英			合計
	剥片	礫	集計	剥片	砕片	玉	集計	礫	剥片	砕片	集計	剥片	礫	集計	磨石	剥片	砕片	集計	
2 層	4	1	5	2	1	1	4	1	1	2	3	1	1	2		1	1	2	139
3 層																			4
4 層													1	1					13
5 層	2		2	1			1					1		1		1		1	21
攪乱									1		1				1		1	1	23
漸移層																			1
合計	6	1	7	3	1	1	5	1	2	2	4	2	2	4	1	2	2	4	201

第 19 表 第 6 号石器集中地点層位別石材重量一覧

	頁岩	安山岩	黒曜石	チャート	流紋岩	ホルンフェルス	デイサイト	硬砂岩	凝灰岩	瑪瑙	石英	合計 (g)
2 層	5.30	83.27	19.99	309.00	54.61	37.11	1.86	43.99		6.86	5.13	567.12
3 層		6.16	0.01	0.82								6.99
4 層		65.55	2.63	2.79				5.58				76.55
5 層		117.27	1.73	19.03	13.81			15.22		5.20	2.33	174.59
攪乱	0.94	23.09	10.81	114.07			2.08		260.00		14.57	425.56
漸移層	12.93											12.93
合計 (g)	19.17	295.34	35.17	445.71	68.42	37.11	3.94	64.79	260.00	12.06	22.03	1263.74

第20表 第6号石器集中地点出土遺物一覧

番号	器種名	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特 徴	層位	備考
7	石核	安山岩	61.03	40.82	22.21	57.70	剥片素材石核 腹面にポジティブ面を持つ剥片を剥離した剥離痕	2層	PL25
27	剥片	安山岩	54.88	55.82	16.28	32.61	剥離面打面の矩形剥片 背面構成は求心的	5層	PL26
37	剥片	安山岩	31.05	31.92	14.50	12.94	剥離面打面の剥片 下半を折損	5層	PL25
60	剥片	黒曜石	44.03	12.41	9.46	4.39	礫面打面の横長剥片 背面右側縁上端には微細な剥離痕	攪乱	PL26
67	石鏃	チャート	24.30	22.69	7.56	3.41	上端を折損 素材面はほとんど残されていない	2層	PL26
162	剥片	安山岩	51.97	63.25	17.36	43.36	剥離面打面の矩形剥片 背面を構成する剥離痕の剥離軸は主要剥離面にはほぼ並行	5層	PL25
192	剥片	流紋岩	35.86	26.33	12.94	9.65	剥離面打面の縦長ないしは矩形剥片 稜上調整を石核に対して施した後、稜線の作出を目的としたもの	5層	PL26
193	剥片	安山岩	36.09	32.83	12.73	11.33	剥離面打面の矩形剥片 背面下半はポジティブ面 剥片素材石核から剥離されたものと推定	4層	PL25
201	楔形石器	チャート	34.18	14.87	8.24	6.20	小形 背腹両面の上下端には両極剥離による剥離痕 右側面にはいわゆる截断面	5層	PL25
204	剥片	安山岩	48.77	45.30	17.05	19.78	剥離面打面の矩形剥片 背面上端にはポジティブ面とも推定される大きなフラット面	4層	PL25
205	剥片	安山岩	40.32	28.52	12.54	7.47	調整打面の横長剥片 背面末端はポジティブ面とも推定される大きなフラット面 山形の打面調整のほぼ頂部に打点 瀬戸内技法に関連する有底横長剥片	5層	PL26

番号	器種名	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	層位	備考
1	剥片	チャート	12.27	10.68	1.91	0.35	2層	
2	剥片	チャート	19.5	18.58	3.9	1.58	2層	PL25
3	剥片	黒曜石	13.6	11.79	1.89	0.3	2層	PL26
4	剥片	黒曜石	23.26	13.11	3.04	0.94	2層	PL26
5	剥片	安山岩	28.9	14.33	4.49	2.04	2層	
6	剥片	頁岩	40.52	28.88	15.41	12.93	番修繕	PL25
8	剥片	安山岩	19.11	17.46	6.31	2.43	2層	
9	剥片	チャート	19.33	10.92	4.07	0.71	2層	
10	剥片	黒曜石	20.06	17.01	9.12	2.22	攪乱	PL26
12	剥片	チャート	22.23	14.79	1.87	0.75	攪乱	
13	剥片	チャート	30.91	17.12	5.48	3.46	2層	
14	剥片	黒曜石	21.75	20.64	9.09	2.91	2層	PL26
15	剥片	チャート	18.43	8.55	5.33	0.6	2層	
16	剥片	硬砂岩	28.37	17.64	5.66	3.24	2層	
17	礫	ホルンフェルス	55.74	35.15	21.25	37.11	2層	
18	剥片	チャート	12.45	12.39	2.15	0.34	2層	PL25
19	剥片	黒曜石	22.61	25.09	9.67	4.94	2層	PL26
20	剥片	チャート	31.38	19.41	7.98	3.87	2層	
21	剥片	チャート	16.86	9.49	2.73	0.43	2層	
22	剥片	チャート	31.8	19.25	9.62	5.24	2層	
23	礫	硬砂岩	45.44	36.49	22.15	40.75	2層	
24	剥片	チャート	21.69	15.54	1.83	0.88	2層	
25	剥片	安山岩	28.53	16.83	6.63	2.56	2層	
26	剥片	瑪瑙	28.98	16.68	6.74	3.41	2層	PL26
28	剥片	安山岩	51.09	41.04	11.45	16.59	4層	PL25
29	剥片	チャート	22.11	15.57	4.54	1.1	4層	
30	剥片	安山岩	36.84	36.48	7.78	9.92	4層	
31	碎片	チャート	10.49	5.38	2.64	0.13	2層	
32	剥片	安山岩	32.62	30.98	11.17	9.4	2層	
33	碎片	黒曜石	5.42	4.86	0.93	0.02	2層	
34	碎片	黒曜石	11.9	5.92	2.6	0.13	2層	
35	剥片	頁岩	15.42	8.86	2.13	0.37	2層	
36	剥片	チャート	10.41	6.12	1.86	0.1	2層	
38	剥片	チャート	8.54	4.25	0.74	0.02	2層	
39	剥片	チャート	15.54	11.22	2.02	0.32	2層	
40	剥片	黒曜石	10.88	8.97	1.65	0.15	2層	
41	碎片	石英	33.92	15.81	7.75	4.98	2層	
42	剥片	チャート	29.51	15.03	2.47	1.14	2層	
43	剥片	黒曜石	16.1	15.1	2.9	0.98	2層	
44	剥片	黒曜石	20.44	17.58	6.36	2.06	攪乱	PL26
45	剥片	石英	21.2	14.46	4.7	2.33	5層	
46	剥片	チャート	17.2	10.54	1.82	0.41	2層	
47	剥片	チャート	13.64	9.04	1.61	0.22	2層	
48	剥片	チャート	18.53	13.05	2.52	0.57	2層	

番号	器種名	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	層位	備考
49	剥片	チャート	18.24	12.12	3.37	0.76	2層	
50	剥片	チャート	16.55	9.9	2.31	0.31	2層	
51	石鏃	黒曜石	13.91	8.07	3.05	0.37	2層	
52	剥片	安山岩	30.41	25.45	5.99	3.36	2層	PL25
53	剥片	チャート	16.72	15.22	4.05	1.17	5層	PL25
54	剥片	チャート	18.01	10.54	5.62	0.79	2層	
55	剥片	黒曜石	16.13	10.96	4.71	0.8	2層	
56	碎片	黒曜石	8.3	7.77	1.66	0.12	2層	
57	剥片	チャート	22.72	19.89	6.51	3.27	攪乱	PL25
58	碎片	チャート	28.24	16.64	13.65	6.19	2層	
59	剥片	チャート	39.05	23.93	16.41	10.89	2層	
61	剥片	頁岩	11.93	11.54	1.75	0.3	2層	
62	剥片	頁岩	12.79	11.52	2.16	0.39	2層	
63	剥片	頁岩	13.2	7.45	2.74	0.23	2層	
64	剥片	チャート	14.95	8.13	2.31	0.27	2層	
65	剥片	安山岩	21.35	14.15	4.34	1.11	2層	
66	剥片	チャート	8.67	7.85	2.06	0.17	2層	
68	碎片	頁岩	8.76	5.29	2.06	0.11	2層	
69	碎片	チャート	4.83	3.65	0.61	0.01	2層	
70	碎片	黒曜石	7.8	7.47	0.88	0.06	2層	
71	碎片	黒曜石	9.1	7.54	3.37	0.18	2層	
72	碎片	チャート	8.06	4.56	1.06	0.04	2層	
73	石鏃	黒曜石	20.9	10.69	3.2	0.7	2層	
74	剥片	デイサイト	18.27	14.01	5.72	1.42	2層	
75	剥片	石英	9.07	4.92	2.41	0.15	2層	
76	剥片	チャート	11.87	7.98	1.94	0.18	2層	
77	碎片	頁岩	7.57	5.11	1.19	0.05	2層	
78	剥片	流紋岩	17.53	7.47	3.58	0.41	2層	
79	剥片	チャート	14.17	6.72	1.52	0.18	2層	
80	碎片	黒曜石	11.57	6.93	2.09	0.13	2層	
81	剥片	チャート	21.88	16.67	5.24	1.45	攪乱	PL25
82	碎片	デイサイト	9.95	8.54	2.73	0.22	2層	
83	碎片	デイサイト	12.86	8.85	1.78	0.22	2層	
84	剥片	黒曜石	32.19	17.06	5.79	2.63	4層	PL26
85	剥片	頁岩	23.06	8.37	4.68	0.94	攪乱	
86	剥片	チャート	14.26	10.42	3.65	0.5	2層	
87	碎片	チャート	37.1	26.23	19.22	22.95	2層	
88	碎片	黒曜石	16.18	6.4	2.66	0.24	2層	
89	碎片	黒曜石	13.92	8.69	1.62	0.23	2層	
90	剥片	流紋岩	41.28	24.56	8.9	7.59	2層	
91	碎片	チャート	7.31	7.23	2.27	0.18	2層	
92	碎片	チャート	14.46	9.68	4.16	0.44	2層	
93	碎片	チャート	12.32	9.99	1.37	0.11	2層	
94	碎片	チャート	6.62	3.49	0.94	0.02	2層	

番号	器種名	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	層位	備考
95	剥片	安山岩	13.2	10.98	1.56	0.25	2層	
96	剥片	頁岩	15.71	9.39	2.36	0.37	2層	
97	剥片	流紋岩	17.04	14.43	6.22	1.51	2層	
98	磨石	凝灰岩	72.03	59.61	46.09	260	攪乱	
99	剥片	チャート	5.96	5.17	0.53	0.03	2層	
100	礫	流紋岩	49.13	33.34	26.87	44.57	2層	
101	剥片	黒曜石	14.42	7.91	1.73	0.2	2層	
102	剥片	チャート	21.3	11.67	3.85	0.74	2層	
103	剥片	チャート	15.51	11.72	1.9	0.3	2層	
104	剥片	チャート	13.9	11.47	2.78	0.36	2層	
105	剥片	チャート	20.35	7.38	3.04	0.59	2層	
106	剥片	チャート	17.21	10.67	3.88	0.63	2層	
107	剥片	チャート	11.83	9.76	2.55	0.24	2層	
108	剥片	黒曜石	6.86	6.72	1.68	0.09	2層	
109	剥片	チャート	5.42	4.18	1.81	0.03	2層	
110	剥片	黒曜石	29.82	16.02	5.35	2.07	2層	PL26
112	剥片	チャート	47.58	46.91	29.76	80.32	攪乱	
113	石核	チャート	89.13	69.15	40.31	231.79	2層	
114	剥片	チャート	13.6	11.12	1.74	0.28	2層	
115	剥片	安山岩	22.41	10.81	2.38	0.55	2層	
117	剥片	チャート	6.42	3.81	0.65	0.01	2層	
118	剥片	流紋岩	12.82	10.92	3.22	0.53	2層	
119	剥片	チャート	9.89	6.36	1.19	0.07	2層	
120	剥片	チャート	14.26	8.81	1.2	0.26	2層	
121	剥片	チャート	14.79	8.44	1.53	0.25	2層	
122	剥片	チャート	3.59	3.07	0.88	0.01	2層	
123	剥片	頁岩	7.88	5.09	2.17	0.05	2層	
124	剥片	チャート	7.43	3.9	0.91	0.03	2層	
125	剥片	黒曜石	24.01	8.74	7	1.81	2層	PL26
126	剥片	チャート	11.76	7.52	2.07	0.14	2層	
127	剥片	黒曜石	10.21	3.44	2.3	0.06	2層	
128	剥片	頁岩	26.25	20.51	6.29	1.77	2層	PL25
129	剥片	安山岩	31.33	15.84	7.64	3.42	2層	
130	剥片	安山岩	11.25	10.06	2.67	0.27	2層	
131	剥片	黒曜石	13.82	6.93	1.76	0.18	2層	
132	剥片	チャート	9.47	6.33	1.93	0.14	2層	
133	剥片	チャート	8.57	8.07	1.48	0.13	2層	
134	剥片	黒曜石	10.93	4.96	2.2	0.08	2層	
135	剥片	チャート	6.46	4.18	1.55	0.01	2層	
136	剥片	チャート	13.34	7.57	1.75	0.15	2層	
137	剥片	チャート	7.47	6.77	1.04	0.06	2層	
138	剥片	チャート	10.74	7.75	1.86	0.1	2層	
139	剥片	黒曜石	6.93	3.01	0.91	0.01	2層	
140	剥片	チャート	12.3	8.1	0.97	0.12	2層	
141	剥片	頁岩	9.95	6.21	1.45	0.09	2層	
142	石鏃	チャート	20.18	9.37	2.27	0.33	2層	
143	剥片	黒曜石	14.85	11.26	4.11	0.36	2層	
144	剥片	瑪瑙	11.24	9.97	5.96	0.56	2層	
145	剥片	チャート	9.18	5.88	2.75	0.12	2層	
146	剥片	チャート	18.47	12.35	9.24	1.28	2層	
147	剥片	チャート	16.95	13.81	4.11	0.79	4層	

番号	器種名	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	層位	備考
148	玉	瑪瑙	18.57	18.08	8.53	2.84	2層	PL26
149	剥片	安山岩	37.6	16.02	5.48	3.4	5層	PL25
150	剥片	チャート	11.02	6.48	2.48	0.12	2層	
151	剥片	黒曜石	12.85	10.51	4.24	0.46	2層	
152	剥片	チャート	11.64	8.17	2.09	0.21	2層	
153	剥片	安山岩	16.73	12.1	2.85	0.67	5層	
154	剥片	安山岩	30.22	14.53	3.67	1.37	5層	
155	石鏃	頁岩	20.67	15.21	5.51	1.57	2層	PL25
156	剥片	チャート	7.46	6.95	1.28	0.07	2層	
157	剥片	チャート	15.23	10.59	1.79	0.27	2層	
158	剥片	瑪瑙	9.24	5.33	0.93	0.05	2層	
159	剥片	安山岩	40.39	24.71	6.52	6.43	5層	
160	剥片	デイサイト	22.71	14.57	6.45	2.08	攪乱	
161	剥片	瑪瑙	27.32	19.01	15	5.2	5層	PL26
163	剥片	安山岩	24.1	18.93	4.99	2.01	5層	
164	剥片	黒曜石	14.41	13.92	4.87	1.24	2層	PL26
165	石鏃	チャート	23.38	11.51	3.88	0.96	2層	
166	剥片	チャート	8.51	7.68	1.08	0.08	2層	
167	剥片	安山岩	13.17	9.29	1.51	0.18	2層	
168	剥片	黒曜石	11.77	9.31	2.5	0.23	2層	
169	剥片	チャート	22.65	14.53	3.67	1.32	2層	
170	剥片	安山岩	32.26	15.69	2.31	1.19	攪乱	
171	剥片	黒曜石	19.8	19.15	6.98	1.63	攪乱	PL26
172	礫	硬砂岩	34.38	22.54	9.81	5.58	4層	
173	剥片	チャート	19.97	12.34	3.69	0.82	3層	
174	剥片	安山岩	30.53	23.77	6.5	4.51	3層	
175	剥片	石英	43.27	31.78	13.67	14.57	攪乱	
176	剥片	安山岩	18.8	8.1	2.22	0.34	4層	
177	剥片	安山岩	50.49	30.06	9.06	12.76	攪乱	
178	剥片	黒曜石	24.68	15.6	5.06	1.73	5層	PL26
179	剥片	安山岩	27.76	12.1	5.79	1.65	3層	
180	剥片	黒曜石	10.68	3.01	1.01	0.01	3層	
181	剥片	チャート	22.27	20.44	2.88	0.9	4層	
182	剥片	黒曜石	17.14	11.99	2.14	0.51	攪乱	
183	剥片	チャート	13.91	7.83	1.8	0.14	攪乱	
184	剥片	安山岩	44.4	30.52	6.3	7.01	5層	
185	剥片	安山岩	32.67	23.45	5.38	3.17	4層	
186	剥片	チャート	31.17	19.8	8.78	4.96	5層	
187	剥片	チャート	34.61	20.27	8.93	6.55	5層	
188	剥片	チャート	15.05	9.37	2.74	0.32	攪乱	
189	剥片	チャート	10.39	9.5	1.71	0.15	5層	
191	剥片	流紋岩	36.21	17.98	6.47	4.16	5層	PL26
194	石鏃	チャート	18.18	11.44	3.56	0.55	攪乱	PL26
195	剥片	安山岩	40.23	23.84	6.82	2.33	攪乱	PL25
196	剥片	安山岩	34.2	25.19	12.45	6.81	攪乱	PL25
197	剥片	安山岩	24.69	18.55	9.06	3.09	4層	
198	剥片	チャート	46.21	24.95	16.31	17.85	攪乱	PL25
199	剥片	チャート	13.96	7.43	1.91	0.19	攪乱	
200	剥片	チャート	27.32	22.29	13.99	9.23	攪乱	PL25
202	剥片	安山岩	20.46	15.65	3.36	1.33	4層	
203	剥片	硬砂岩	43.46	30.08	13.25	15.22	5層	

(2) 集中地点外出土遺物 (第30～32図, 第21～23表, PL26～28)

当遺跡では、石器集中地点以外からも石器が出土している。出土遺物は合計347点(総重量1906.23g)で、内訳は、ナイフ形石器4点(頁岩, 黒曜石, 流紋岩, デイサイト), 楔形石器7点(安山岩3, チャート3, 硬砂岩1), 削器1点(黒曜石), 搔器1点(頁岩), 台形様石器1点(流紋岩), 尖頭器2点(黒曜石, デイサイト), 二次加工剥片5点(頁岩2, 黒曜石2, チャート1), 石器未製品1点(チャート), 石核9点(頁岩1, 安山岩2, 黒曜石3, 流紋岩1, 瑪瑙2), 剥片271点(頁岩15, 安山岩41, 黒曜石83, チャート110, 流紋

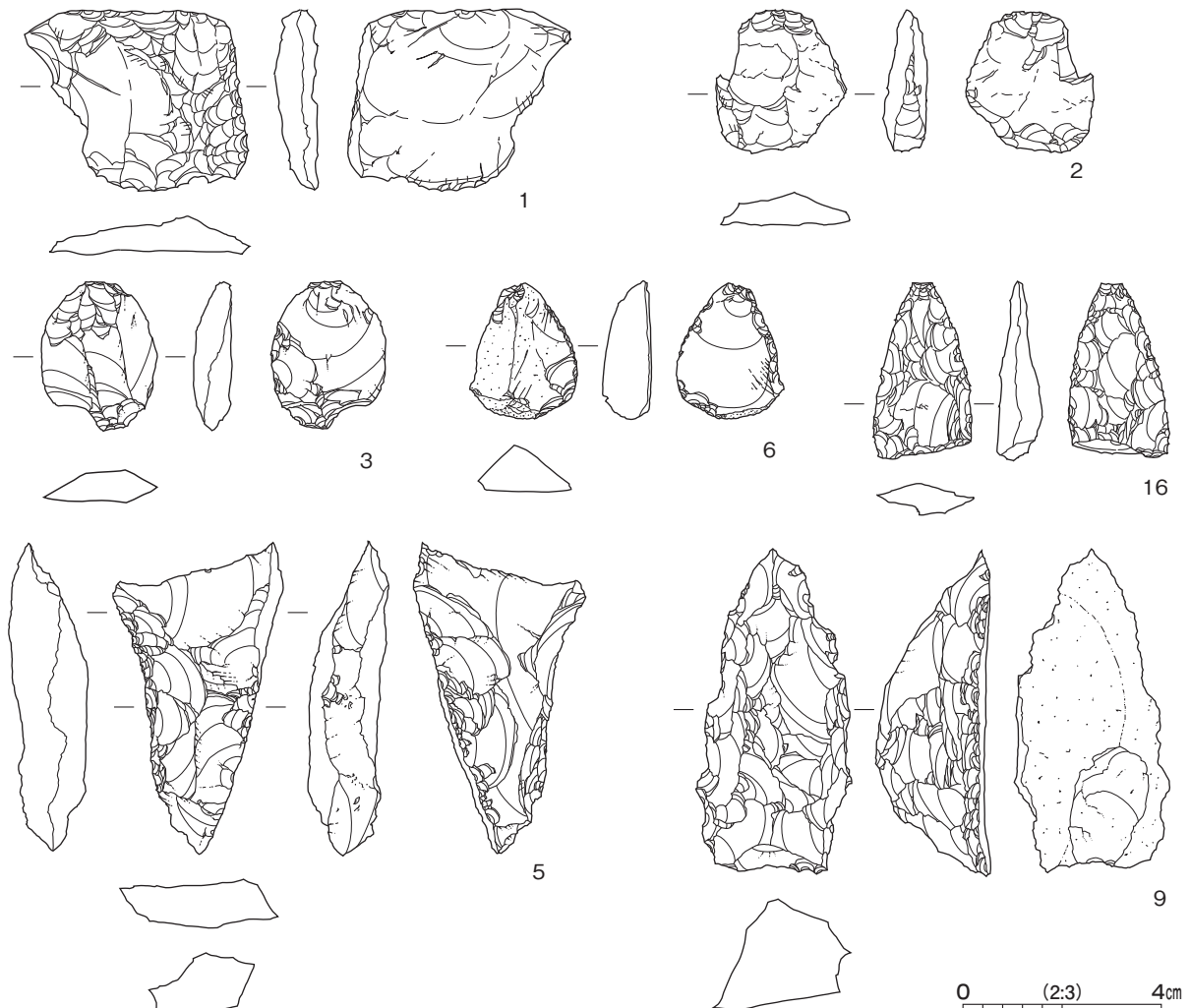
岩 11, ホルンフェルス 3, デイサイト 5, マ瑙 2, 石英 1), 碎片 41 点 (頁岩 5, 黒曜石 3, チャート 29, マ瑙 1, 石英 3) 石鏃 3 点 (黒曜石 1, チャート 2), 石鏃未製品 1 点 (チャート) である。これらについては, 主な石器について図示するとともに, 一覧に特徴を記載する。

第 21 表 集中地点外石材別器種一覧

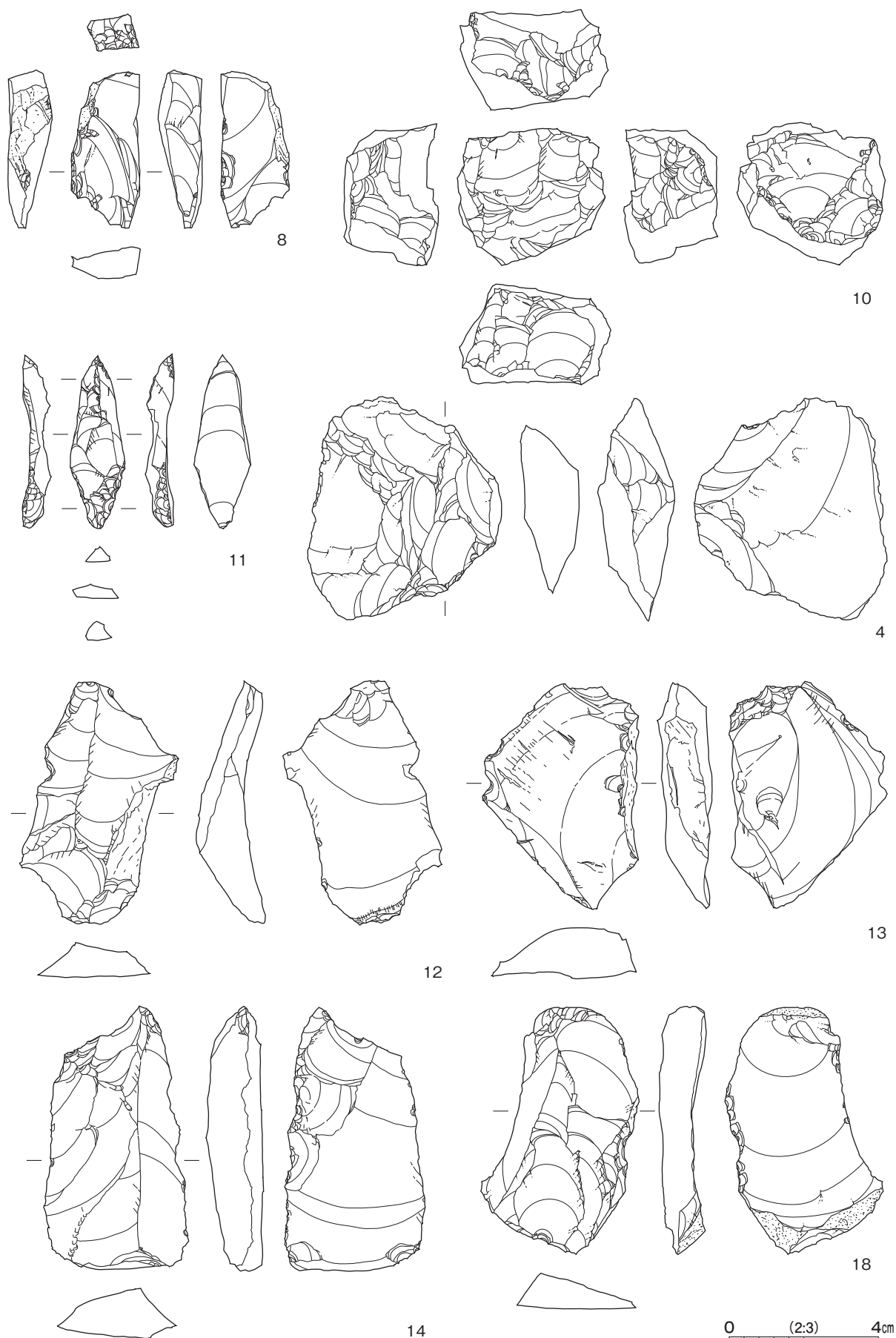
	石ナイフ 器形	石楔 器形	削 器	搔 器	石台 形 器様	尖 頭 器	剥 二 次 加 片 工	未 石 成 品 器	石 核	剥 片	碎 片	石 鏃	未 石 製 品 鏃	合 計
頁岩	1			1			2		1	15	5			25
安山岩		3							2	41				46
黒曜石	1		1			1	2		3	83	3	1		95
チャート		3					1	1		110	29	2	1	147
流紋岩	1				1				1	11				14
ホルンフェルス										3				3
デイサイト	1					1				5				7
硬砂岩		1												1
マ瑙									2	2	1			5
石英										1	3			4
合計	4	7	1	1	1	2	5	1	9	271	41	3	1	347

第 22 表 集中地点外石材別重量一覧

	頁岩	安山岩	黒曜石	チャート	流紋岩	ホルンフェルス	デイサイト	硬砂岩	マ瑙	石英	合計 (g)
合計 (g)	203.88	444.14	334.49	495.37	145.60	10.12	84.99	39.36	98.34	49.94	1906.23



第 30 図 集中地点外出土遺物実測図 (1)



第 31 図 集中地点外出土遺物実測図 (2)



第 32 図 集中地点外出土遺物実測図 (3)

第 23 表 集中地点外出土遺物一覧

番号	器種名	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特 徴	出土遺構	備考
1	楔形石器	チャート	32.05	40.75	8.38	12.90	楔状石器 上下及び左右に対応する両極剥離	HD	PL27
2	楔形石器	チャート	25.97	23.68	8.31	6.33	小形の礫が素材 ポジティブ面は認められず、背腹両面に礫面	HD	PL27
3	楔形石器	チャート	26.79	25.11	7.45	5.38	小形の剥片が素材	HD	PL27
4	ナイフ形石器	頁岩	41.07	7.29	13.49	3.36	石刃状の縦長剥片を素材とする基部加工ナイフ形石器 右側面上半にはポジティブ面、側面にポジティブ面を持つ剥片が素材 二次加工は両側縁基部、先端部両側縁 切り合い関係は不明 背面上半に綾上調整の剥離痕	HD	PL26
5	台形様石器	流紋岩	56.34	30.85	14.32	22.03	横長剥片が素材 背腹両面の両側縁に連続する平坦剥離 剥離単位：腹面打点付近→背面打点付近→背面末端側	HD	PL27
6	削器	黒曜石	24.77	19.52	8.95	4.72	縦長剥片が素材 背面右側縁及び腹面右側縁に連続する二次加工	HD	PL28

番号	器種名	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特 徴		出土遺構	備考
7	尖頭器	デイサイト	46.62	22.32	10.55	13.67	二次加工により素材面は残されていない 先端及び基部を折損		HD	PL28
8	二次加工剥片	頁岩	37.56	16.94	10.55	9.03	二次加工剥片		HD	PL26
9	石核	流紋岩	58.29	28.30	20.73	36.95	礫を素材とする石核 ポジティブ面は認められない 打面は平坦な礫面で船底状 平坦な礫面をポジティブ面に見立てた礫核器とも推定できる		HD	PL27
10	石核	黒曜石	33.72	35.50	22.69	40.17	礫面の残存状況から小形の礫が素材 背面、左側面及び下面が作業面であったと推定 縦長ないしは矩形剥片を剥離していたもの		HD	PL28
11	石核	安山岩	52.93	46.00	18.60	46.17	剥片素材石核 素材となった剥片の打点部付近に二つの作業面が設定 ポジティブ面を底面とする有底横長剥片が剥離されたもの		HD	PL27
12	剥片	頁岩	58.11	37.41	16.69	21.31	剥離面打面の縦長剥片 背面構成は求心的 腹面末端部には使用痕とも推定される光沢面		HD	PL26
13	二次加工剥片	頁岩	53.66	37.43	12.98	29.26	背面及び腹面には大きなポジティブ面 腹面上端に主要剥離面を切る二次加工が背面から腹面側に		HD	PL26
14	石核	頁岩	62.38	34.88	13.80	35.61	縦長剥片が素材 背面にポジティブ面を持つ剥片を剥離した剥離痕が腹面 ケー森技法との関連が推定		HD	PL27
15	剥片	頁岩	46.03	29.96	11.72	21.39	調整打面の横長剥片 山形を呈する打面調整の頂部付近面上に打点 末端部は被熱破砕面		HD	PL27
16	尖頭器	黒曜石	31.91	17.97	8.26	4.47	先端と基部を折損 基部は折損後、折れ面を打面としてさらに二次加工		HD	PL28
17	石核未製品	チャート	19.23	30.10	7.38	6.18	剥片が素材 上半部を折損		HD	PL27
18	二次加工剥片	チャート	59.35	37.92	11.59	24.53	礫面打面の縦長剥片が素材の二次加工剥片 背面構成から両設打面		HD	PL27
19	楔形石器	硬砂岩	36.85	38.34	19.66	39.36	小形の礫が素材 面上端及び腹面に使用痕とも考えられる摩滅		HD	PL28
150	石核未製品	瑪瑙	22.15	19.85	10.44	5.21	下半部を折損		SI2	PL28
225	楔形石器	安山岩	25.34	19.9	8.15	5.38	小形		SK187	PL27
232	石核	黒曜石	37.73	44.71	36.78	75.17	礫面の残存状況から小形の礫が素材		SK210	PL28
240	楔形石器	安山岩	26.33	21.88	7.96	5.75	剥片が素材 腹面下半にポジティブ面が残る		SK249	PL27
245	ナイフ形石器	黒曜石	66.27	24.71	10.46	13.61	石刃が素材の端部加工ナイフ形石器 素材となった石刃は入念な調整打面の単設打面石刃 背面右側縁上半に礫面 下半に石核調整と推定される縁上調整痕 序盤に剥離された石刃 二次加工は石刃の末端にあたる背面右側縁上端に		SK267	PL28
257	掻器	頁岩	35.08	20.46	9.97	9.91	剥離面打面の縦長剥片が素材 腹面下端には刃部再生調整と推定される平坦剥離 背面及び腹面の打点部付近には着柄のためとも推定される平坦剥離		PG 2	PL26

番号	器種名	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	出土遺構	備考	番号	器種名	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	出土遺構	備考
20	石核	黒曜石	24.81	17.56	16.89	6.15	HD		58	破片	チャート	4.62	4.58	0.71	0.01	HD	
21	二次加工剥片	黒曜石	28.83	23.11	11.17	4.84	HD	PL28	59	剥片	チャート	29.94	8.28	4.68	1.18	HD	
22	剥片	黒曜石	34.55	21.83	10.45	5.21	HD	PL28	60	剥片	チャート	22.88	13.25	9.23	3.39	HD	
23	剥片	黒曜石	15.57	11.78	2.71	0.51	HD		61	剥片	チャート	18.19	13.91	2.65	0.59	HD	
24	剥片	黒曜石	37.03	27.43	9.42	6.69	HD	PL28	62	剥片	チャート	50.75	27.45	12.96	16.74	HD	
25	破片	黒曜石	24.68	21.59	10.40	3.69	HD	PL28	63	剥片	チャート	26.49	15.44	5.38	2.18	HD	
26	二次加工剥片	黒曜石	29.37	22.16	5.55	3.17	HD	PL28	64	剥片	チャート	32.94	27.44	6.91	7.98	HD	
27	剥片	黒曜石	38.33	21.63	9.23	6.90	HD	PL28	65	石器未成品	チャート	35.52	21.11	9.01	7.63	HD	
28	剥片	黒曜石	36.60	19.14	11.60	7.57	HD		66	剥片	チャート	39.43	29.24	6.65	11.25	HD	
29	剥片	黒曜石	35.92	14.26	15.29	7.92	HD		67	剥片	チャート	41.54	27.46	14.49	19.67	HD	
30	剥片	黒曜石	27.71	14.43	4.35	1.67	HD	PL28	68	剥片	チャート	38.75	15.39	8.02	4.81	HD	
31	剥片	黒曜石	25.20	12.15	8.37	2.86	HD		69	剥片	チャート	44.76	19.74	7.43	6.50	HD	
32	剥片	黒曜石	25.29	18.93	7.44	3.95	HD	PL28	70	剥片	チャート	32.08	21.30	11.31	9.30	HD	
33	剥片	黒曜石	23.77	17.70	5.00	1.58	HD	PL28	71	剥片	チャート	28.65	25.69	9.91	6.61	HD	
34	剥片	黒曜石	22.73	17.54	12.02	3.78	HD	PL28	72	剥片	チャート	39.55	28.76	7.92	6.70	HD	
35	剥片	黒曜石	23.34	16.36	6.72	1.92	HD	PL28	73	剥片	チャート	31.92	19.04	12.45	9.99	HD	
36	剥片	黒曜石	24.73	9.77	6.70	2.08	HD		74	剥片	チャート	25.00	22.04	7.79	3.83	HD	
37	剥片	黒曜石	25.30	12.39	8.99	3.35	HD		75	剥片	チャート	32.22	17.34	10.04	5.07	HD	
38	剥片	黒曜石	26.97	18.58	8.42	3.26	HD		76	剥片	チャート	24.01	23.30	8.69	6.11	HD	
39	剥片	黒曜石	24.62	12.48	5.93	1.76	HD		77	剥片	チャート	28.92	16.62	5.00	2.30	HD	
40	剥片	黒曜石	25.13	17.87	11.47	3.31	HD		78	剥片	チャート	29.41	20.23	5.56	4.46	HD	
41	剥片	黒曜石	18.78	15.95	5.35	1.60	HD		79	剥片	チャート	37.08	19.94	6.99	5.97	HD	
42	剥片	黒曜石	18.09	12.94	4.20	0.88	HD		80	剥片	チャート	24.23	16.17	5.91	2.25	HD	
43	剥片	黒曜石	14.80	12.55	2.51	0.53	HD		81	剥片	チャート	24.27	15.96	5.15	1.70	HD	
44	剥片	黒曜石	16.88	12.54	7.21	1.71	HD		82	剥片	チャート	17.60	16.95	2.04	0.48	HD	
45	剥片	黒曜石	15.90	11.73	6.23	1.28	HD		83	剥片	チャート	26.02	15.92	5.42	1.62	HD	
46	剥片	黒曜石	18.66	16.15	3.31	1.02	HD		84	剥片	チャート	23.30	17.80	4.96	2.09	HD	
47	剥片	黒曜石	14.74	13.92	5.97	0.90	HD		85	剥片	チャート	14.68	13.71	2.60	0.66	HD	
48	剥片	黒曜石	17.18	12.81	5.20	0.84	HD		86	剥片	チャート	20.64	12.76	2.84	0.61	HD	
49	剥片	黒曜石	21.06	15.20	3.74	0.71	HD		87	剥片	チャート	20.56	18.18	4.03	1.20	HD	
50	剥片	黒曜石	19.48	12.40	3.54	0.66	HD		88	剥片	チャート	19.77	13.14	3.77	0.71	HD	
51	破片	黒曜石	—	—	—	4.18	HD	13点	89	剥片	チャート	16.01	13.99	3.33	0.66	HD	
52	破片	黒曜石	—	—	—	0.90	HD	11点	90	剥片	チャート	27.67	8.60	7.09	1.22	HD	
53	破片	チャート	34.98	28.68	27.02	25.26	HD		91	剥片	チャート	24.10	18.71	7.41	2.47	HD	
54	剥片	チャート	18.06	11.71	2.17	0.52	HD		92	剥片	チャート	20.44	17.13	2.33	0.74	HD	
55	剥片	チャート	26.30	15.26	11.27	4.12	HD		93	剥片	チャート	15.42	12.36	4.38	0.97	HD	
56	剥片	チャート	39.33	25.85	5.61	8.41	HD		94	剥片	チャート	18.16	11.40	4.39	0.99	HD	
57	剥片	チャート	23.83	12.77	6.52	1.69	HD		95	剥片	チャート	15.22	12.12	3.95	0.60	HD	

番号	器種名	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	出土遺構	備考
96	剥片	チャート	20.20	10.16	4.58	1.05	HD	
97	剥片	チャート	19.78	14.26	6.67	1.67	HD	
98	剥片	チャート	18.58	11.00	1.93	0.40	HD	
99	剥片	チャート	15.77	14.32	4.24	0.87	HD	
100	剥片	チャート	14.22	12.30	4.56	0.45	HD	
101	剥片	チャート	23.32	8.97	6.11	1.72	HD	
102	碎片	チャート	—	—	—	2.43	HD	21点
103	剥片	安山岩	43.16	30.51	14.23	17.48	HD	PL27
104	剥片	安山岩	49.62	38.62	25.77	38.59	HD	
105	石核	安山岩	59.37	32.73	29.51	76.46	HD	
106	楔形石器	安山岩	44.33	24.10	5.09	8.31	HD	
107	剥片	安山岩	31.27	23.58	5.45	4.28	HD	
108	剥片	安山岩	38.22	21.81	10.81	13.09	HD	
109	剥片	安山岩	42.09	24.87	7.48	6.37	HD	
110	剥片	安山岩	44.69	19.74	7.05	7.27	HD	
111	剥片	安山岩	55.80	25.55	17.82	21.61	HD	
112	剥片	安山岩	37.34	21.90	4.49	3.51	HD	
113	剥片	安山岩	31.28	17.30	6.75	3.36	HD	
114	剥片	安山岩	25.06	23.30	8.91	4.77	HD	
115	剥片	安山岩	24.33	14.25	5.36	1.67	HD	
116	剥片	安山岩	22.94	11.48	4.31	1.14	HD	
117	剥片	安山岩	21.55	13.42	8.09	2.12	HD	
118	剥片	安山岩	14.66	12.84	2.53	0.41	HD	
119	剥片	安山岩	13.18	13.16	1.81	0.43	HD	
120	剥片	安山岩	21.35	12.87	3.64	0.84	HD	
121	剥片	ホルンフェルス	48.89	24.51	6.59	7.11	HD	
122	剥片	ホルンフェルス	17.02	16.27	3.73	1.03	HD	
123	碎片	頁岩	—	—	—	3.68	HD	5点
124	碎片	瑪瑙	23.40	17.55	10.07	4.62	HD	
125	剥片	頁岩	31.28	10.00	4.97	1.51	HD	
126	剥片	頁岩	33.59	32.50	10.66	7.85	HD	
127	剥片	頁岩	42.91	31.81	12.58	13.92	HD	
128	剥片	頁岩	44.57	28.16	9.24	12.40	HD	
129	剥片	頁岩	31.74	25.95	5.56	3.48	HD	
130	剥片	頁岩	30.16	23.61	4.15	1.93	HD	
131	剥片	頁岩	39.52	21.41	5.41	3.03	HD	
132	剥片	頁岩	24.10	18.56	6.40	2.34	HD	
133	剥片	頁岩	25.46	16.23	6.50	0.92	HD	
134	剥片	頁岩	27.66	14.72	7.34	2.97	HD	
135	剥片	流紋岩	43.34	29.86	18.72	15.66	HD	
136	ナイフ形石器	流紋岩	38.75	15.62	5.80	3.59	HD	
137	剥片	流紋岩	39.50	23.78	10.16	8.28	HD	
138	剥片	流紋岩	25.47	11.56	5.46	1.12	HD	
139	剥片	流紋岩	29.23	19.12	6.75	2.54	HD	
140	碎片	石英	29.63	20.41	12.96	9.85	HD	
141	碎片	石英	33.76	27.13	15.15	11.47	HD	
142	碎片	石英	45.91	31.79	7.72	12.89	HD	
143	剥片	石英	29.84	28.39	14.07	15.73	HD	
144	剥片	デイサイト	41.26	27.67	7.91	7.82	HD	
145	剥片	デイサイト	57.27	44.54	11.46	29.04	HD	
146	剥片	デイサイト	62.39	44.08	8.16	23.71	HD	
147	剥片	デイサイト	24.33	11.64	7.95	2.29	HD	
148	石核	瑪瑙	55.56	46.22	23.67	66.01	SI2	
149	剥片	黒曜石	40.46	20.53	6.21	3.69	SI2	
151	剥片	頁岩	26.19	19.23	4.75	2	SI2	
152	剥片	チャート	31.1	26.37	11.97	10.16	SI2	
153	剥片	黒曜石	23.75	18.27	10.48	4.14	SI2	
154	剥片	チャート	24.76	16.25	6.3	2.06	SI2	
155	石鏃	チャート	18.69	10.25	4.71	0.72	SI3	
156	石鏃	チャート	25.68	12.5	7.82	2.36	SI3	

番号	器種名	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	出土遺構	備考
157	剥片	安山岩	35.04	16.17	5.93	3.43	SI3	
158	剥片	安山岩	25.18	16.01	8.16	2.43	SI3	
159	剥片	瑪瑙	18.24	15.19	5.47	1.88	SK5	
160	剥片	黒曜石	20.08	19.37	6.15	1.73	SK6	
161	剥片	チャート	42.76	27.28	5.56	10.2	SK7	
162	剥片	チャート	19.08	10.66	7.24	1.15	SK7	
163	剥片	チャート	18.4	15.45	6	1.51	SK-20	
164	剥片	チャート	21.42	8.62	4.79	0.71	SK-20	
165	碎片	チャート	10.23	9.37	5.37	0.3	SK-20	
166	碎片	チャート	11.95	6.98	1.07	0.13	SK-20	
167	剥片	安山岩	15.48	14.04	4.27	0.87	SK21	
168	剥片	安山岩	15.23	11.88	4.15	0.69	SK21	
169	剥片	チャート	16.89	12.87	3.37	0.84	SK21	
170	剥片	チャート	19.23	11.79	2.84	0.68	SK21	
171	剥片	チャート	14.49	8.6	3.52	0.34	SK21	
172	剥片	チャート	15	9.19	3.11	0.41	SK21	
173	剥片	チャート	12.78	10.34	1.63	0.23	SK21	
174	剥片	チャート	14.32	10.44	4.44	0.55	SK25	
175	碎片	チャート	7.84	4.96	1.2	0.06	SK26	
176	剥片	チャート	16.73	10.33	2.97	0.63	SK30	
177	剥片	安山岩	27.3	12.03	6.06	1.86	SK31	
178	剥片	チャート	29.26	26.64	6.4	3.64	SK34	
179	剥片	チャート	32.61	29.39	11.22	8.77	SK36	
180	剥片	黒曜石	24.29	12.37	3.07	0.93	SK36	
181	剥片	チャート	17.32	13.27	3.25	0.44	SK40	
182	剥片	チャート	17.34	17.22	6.15	1.3	SK41	
183	剥片	チャート	14.3	13.38	2.83	0.56	SK41	
184	剥片	黒曜石	17.44	10.61	2.57	0.44	SK41	
185	剥片	流紋岩	19.16	8.85	1.91	0.28	SK44	
186	剥片	流紋岩	12.98	9.45	2.45	0.3	SK44	
187	剥片	チャート	12.9	8.98	2.39	0.24	SK46	
188	剥片	流紋岩	47.26	32.16	20.56	21.68	SK61	PL27
189	剥片	チャート	18.93	13.23	6.08	1.61	SK64	
190	剥片	チャート	17.29	16.36	6.12	1.99	SK66	
191	剥片	流紋岩	24.22	9.53	3.33	1.02	SK73	
192	剥片	黒曜石	18.73	12.84	2.58	0.66	SK73	
193	石鏃	黒曜石	19.33	9.25	3.74	0.51	SK73	
194	剥片	チャート	16.45	11.83	3.35	0.83	SK73	
195	碎片	黒曜石	7.9	7.08	1.4	0.06	SK73	
196	剥片	黒曜石	13.03	6.29	3.12	0.21	SK73	
197	剥片	チャート	8.52	7.54	2.52	0.2	SK73	
198	剥片	チャート	15.21	10.8	2.38	0.34	SK73	
199	剥片	チャート	31.96	19.56	13.46	9.5	SK94	
200	剥片	黒曜石	26.28	19.71	14.94	8.6	SK99	
201	剥片	安山岩	33.32	29.51	10.58	9.35	SK113	
202	剥片	チャート	16.07	7.09	3.65	0.51	SK114	
203	剥片	黒曜石	16.39	12.97	3.94	0.75	SK127	
204	剥片	安山岩	51.53	15.49	14.42	11.54	SK130	
205	剥片	チャート	25.49	17.91	3.78	1.16	SK138	
206	剥片	チャート	45.07	23.47	8.16	6.66	SK138	
207	剥片	安山岩	21.97	10.34	3.32	0.8	SK139	
208	剥片	安山岩	29.59	19.16	7.06	3.37	SK139	
209	剥片	流紋岩	51.47	27.43	18.48	15.9	SK139	PL27
210	剥片	安山岩	36.16	15.08	3.69	3.07	SK139	
211	剥片	黒曜石	18.43	18.14	3.14	0.94	SK139	
212	剥片	黒曜石	16.7	13.09	3.14	0.69	SK139	
213	剥片	チャート	13.24	10.81	4.12	0.66	SK139	
214	剥片	チャート	28.7	21.41	3.65	1.58	SK139	
215	剥片	チャート	17.06	16.86	2.07	0.76	SK139	
216	剥片	チャート	21.72	17.3	6.9	1.98	SK139	

番号	器種名	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	出土遺構	備考
217	剥片	チャート	11.76	8.85	2.58	0.24	SK139	
218	剥片	安山岩	24.33	18.12	13.16	5.22	SK142	
219	剥片	チャート	19.5	16.94	4.07	1.4	SK147	
220	剥片	黒曜石	21.12	12.34	5.03	1.55	SK150	
221	剥片	安山岩	25.34	9.23	3.42	0.84	SK152	
222	剥片	チャート	30.46	15.19	5.36	2.25	SK162	
223	剥片	チャート	29.3	26.04	9.88	7.09	SK166	PL27
224	剥片	安山岩	20.55	13.99	5.98	1.44	SK176	
226	剥片	黒曜石	35.23	22.4	8.82	6.91	SK187	
227	剥片	安山岩	20.53	14.1	3.32	0.8	SK187	
228	剥片	安山岩	27.46	19.04	6.45	4.62	SK194	
229	剥片	チャート	55.28	25.81	18.07	19.09	SK195	
230	剥片	チャート	26.19	24.9	6.02	4.98	SK195	
231	剥片	チャート	23.18	12.48	5.42	1.12	SK195	
233	剥片	黒曜石	33.89	10.91	6.59	4.02	SK221	
234	剥片	黒曜石	27.83	16.41	14.98	6.01	SK221	
235	剥片	チャート	49.84	16.49	6.31	5.44	SK247	
236	剥片	チャート	18.99	7.8	7.51	1.17	SK247	
237	剥片	チャート	20.07	11.76	9.81	2.7	SK247	
238	剥片	安山岩	17.43	10.34	3.43	0.56	SK247	
239	剥片	安山岩	15.49	13.88	3.11	0.68	SK247	
241	剥片	チャート	32.45	29.54	19.71	18.29	SK256	
242	剥片	安山岩	46.45	38.64	38.43	43.8	SK257	
243	剥片	チャート	21.49	19.43	9.02	3.25	SK257	
244	剥片	チャート	17.46	14.74	4.36	0.99	SK257	
246	剥片	黒曜石	12.29	10.68	5.85	0.48	SK292	
247	剥片	安山岩	21.92	15.41	4.11	1.17	SK298	
248	剥片	黒曜石	51.64	29.82	7.58	13.1	SK304	PL28
249	剥片	チャート	17.87	14.81	7.57	0.93	SK306	
250	剥片	チャート	16.67	12.3	2.52	0.47	SK306	
251	剥片	黒曜石	14.32	10.53	1.65	0.21	SK306	
252	剥片	チャート	29.92	13.55	7.66	2.46	SK306	
253	剥片	チャート	21.33	12.44	3.75	0.63	SK306	
254	剥片	流紋岩	23.54	22.39	5.88	3.17	SD1	
255	剥片	デイサイト	20	14.54	5.69	1.57	SD1	
256	ナイフ形石器	デイサイト	64.83	19.69	8.63	6.89	PG1	
258	剥片	チャート	23.8	18.21	6.16	1.83	PG 2	
259	剥片	チャート	18.46	17.88	3.19	1.15	TM3	主体部
260	剥片	チャート	26.71	22.13	18.04	9.53	TM3	主体部
261	剥片	チャート	29.82	21.77	7.06	2.98	TM3	主体部

番号	器種名	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	出土遺構	備考
262	剥片	黒曜石	18.87	17.06	4.44	1.38	TM3	主体部
263	剥片	チャート	18.31	14.54	12.23	4.09	TM3	主体部
264	剥片	チャート	28.57	12.34	4.38	1.27	TM3	主体部
265	碎片	黒曜石	3.26	1.61	0.29	0.01	TM3	主体部 4区 4 X
266	剥片	チャート	34.43	23.41	9.76	7.42	TM3	主体部 4区 2 X
267	剥片	黒曜石	24.98	8.68	1.99	0.42	TM3	主体部掘方 4区 1 X
268	剥片	安山岩	24.72	19.43	6.35	2.48	TM3	主体部掘方 1区
269	剥片	黒曜石	23.85	15.10	6.37	1.81	TM3	主体部掘方 1区
270	碎片	チャート	11.03	9.53	2.58	0.26	TM3	主体部掘方 1区
271	剥片	チャート	26.26	20.57	2.62	1.73	TM3	主体部掘方 2区
272	剥片	安山岩	33.75	26.28	4.75	3.77	TM3	主体部掘方 2区
273	碎片	チャート	5.72	4.24	0.53	0.01	TM3	主体部 4区 6 X
274	剥片	黒曜石	24.95	19.30	5.38	2.27	TM3	周溝
275	剥片	チャート	36.07	20.42	16.33	8.80	TM3	周溝 A区 X
276	剥片	チャート	35.32	29.54	7.72	8.11	TM3	周溝 A区 X
277	剥片	安山岩	29.07	17.88	5.88	3.41	TM3	周溝 C区 X
278	剥片	黒曜石	19.48	14.90	4.05	1.04	TM3	周溝 C区 X
279	剥片	黒曜石	20.13	12.53	4.42	0.93	TM3	周溝 C区 X
280	剥片	チャート	32.18	12.73	4.55	1.82	TM3	周溝 C区 X
281	剥片	チャート	19.54	12.72	6.70	1.61	TM3	周溝 C区 X
282	剥片	ホルンフェルス	23.15	16.86	6.12	1.98	TM3	周溝 C区 X
283	剥片	黒曜石	34.60	22.05	5.86	4.49	TM3	周溝 D区 X
284	剥片	チャート	18.29	10.71	3.03	0.57	TM3	周溝 D区 X
285	剥片	黒曜石	29.12	19.11	8.11	3.97	TM3	周溝 F区 X
286	剥片	黒曜石	17.32	12.09	2.01	0.38	TM3	周溝 F区 X
287	剥片	黒曜石	18.27	10.34	5.54	0.84	TM3	周溝 F区 X
288	剥片	安山岩	26.66	20.07	7.61	5.10	TM3	周溝 F区 X
289	剥片	チャート	47.17	15.49	9.23	6.25	TM3	周溝 F区 X
290	剥片	頁岩	52.81	21.79	5.81	8.38	TM3	周溝 F区 X
291	剥片	チャート	40.54	25.60	13.16	16.00	TM3	周溝 G区 X
292	剥片	安山岩	57.96	39.21	19.47	33.92	TM3	周溝 H区 X
293	剥片	流紋岩	47.41	30.76	13.53	13.08	TM3	周溝 H区 X
294	剥片	黒曜石	21.98	16.30	7.84	2.36	TM3	周溝 I区 X
295	剥片	黒曜石	37.00	31.66	15.88	17.30	TM3	周溝 I区 X
296	剥片	黒曜石	37.01	15.18	9.09	4.68	TM3	周溝 I区 X
297	剥片	黒曜石	23.31	14.96	5.38	1.46	TM3	周溝 I区 X
298	剥片	チャート	33.68	28.60	10.42	8.52	TM3	周溝 I区 X
299	剥片	頁岩	38.10	34.10	7.43	9.60	TM3	周溝 I区 X
300	石核	瑪瑙	34.74	27.69	18.83	20.62	TM3	周溝 I区 X
301	剥片	安山岩	57.42	47.42	12.18	29.91	TM3	X

2 縄文時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、土坑 184 基を確認した。出土遺物を図示した土坑を中心に、遺構及び遺物について記述する。出土遺物が小片で図示できなかった土坑については、平面図及び一覧表で掲載する。

土坑

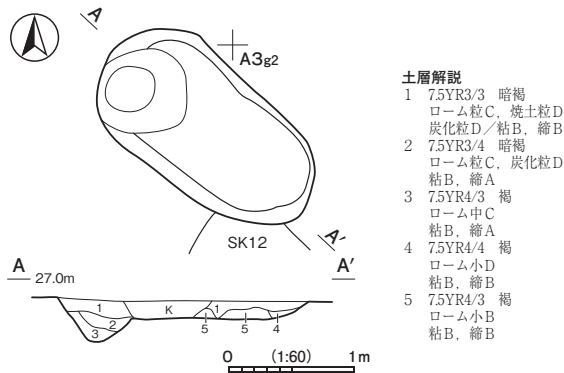
第3号土坑（第32図 第24表 PL30）

位置 調査区北部のA 3g1区、標高27mほどの台地上に位置している。

重複関係 第12号土坑を掘り込んでいる。

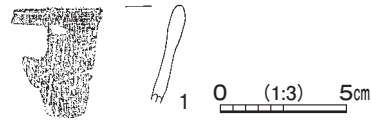
規模と形状 長径1.96m、短径1.00mの楕円形で、長径方向はN-52°-Wである。深さ14~41cmで壁は外傾し、底面は平坦で、北西部がくぼんでいる。

覆土 5層に分層できる。ブロック状の含有物が多くみられることから、埋め戻されている。



遺物出土状況 縄文土器片3点（深鉢）が出土している。

所見 時期は、出土遺物から縄文時代早期前葉と推定される。



第33図 第3号土坑・出土遺物実測図

第24表 第3号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(3.9)	—	長石・石英	10YR4/2 灰黄褐	普通	撚り糸文 1段の施文	覆土中	夏島 PL30

第11号土坑（第34図 第25表 PL35）

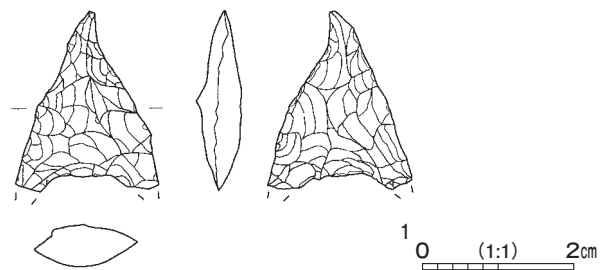
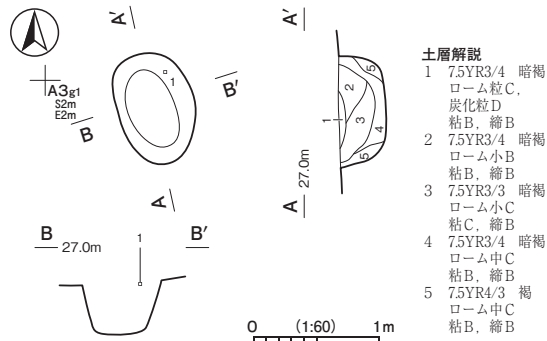
位置 調査区北部のA3g1区、標高27mほどの台地上に位置している。

規模と形状 長径0.90m、短径0.62mの楕円形で、長径方向はN-20°-Wである。深さ40cmで壁はほぼ直立し、底面は平坦である。

覆土 5層に分層できる。ブロック状の含有物が多くみられることから、埋め戻されている。

遺物出土状況 縄文土器片4点（深鉢）、石器2点（石鏃・磨石）が出土している。1は覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土遺物から縄文時代と推定される。



第34図 第11号土坑・出土遺物実測図

第25表 第11号土坑出土遺物一覧

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
1	石鏃	24	1.9	0.6	1.39	流紋岩	凹基無茎鏃 両面押圧剥離	覆土上層	PL35

第33号土坑（第35図 第26表 PL29）

位置 調査区北部のA2f0区、標高27mほどの台地縁辺部に位置している。

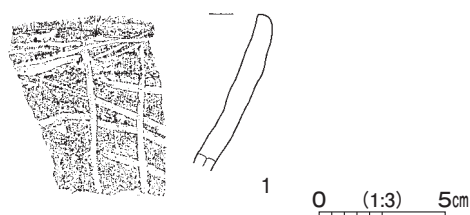
重複関係 第24号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 西部が攪乱を受けているため、長径0.70m、短径0.68mしか確認できなかった。平面形は楕円形で、長径方向はN-48°-Eと推定される。深さ12cmで壁は外傾し、底面は平坦である。

覆土 5層に分層できる。焼土が混入していることから、埋め戻されている。

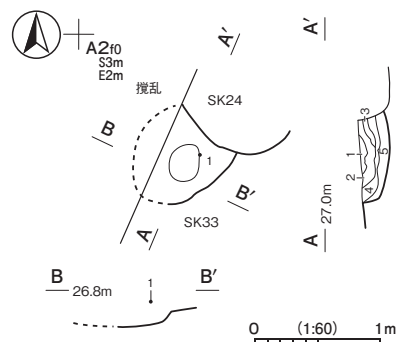
遺物出土状況 縄文土器片4点（深鉢）、土製品1点（不明）が出土している。1は覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土遺物から縄文時代早期中葉と推定される。



土層解説

- 1 7.5YR4/4 褐
ローム粒D
焼土粒C
粘C、締B
- 2 7.5YR4/4 褐
ローム粒D
焼土中C・小C・粒B
粘C、締B
- 3 7.5YR4/3 褐
ローム粒D
焼土粒D
粘C、締B
- 4 7.5YR4/3 褐
ローム粒D
粘C、締B
- 5 7.5YR4/4 褐
ローム中C・小C
粘B、締A



第35図 第33号土坑・出土遺物実測図

第26表 第33号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(6.2)	—	長石・石英	5 YR5/4 ぶい赤褐	普通	平行沈線文	覆土上層	出戸下層 PL29

第34号土坑 (第36図・第27表 PL30)

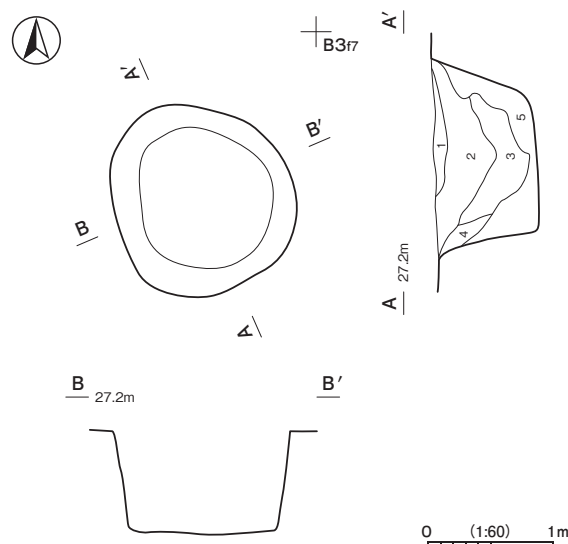
位置 調査区東部のB3f6区、標高27mほどの台地上に位置している。

規模と形状 長径1.54m、短径1.40mの楕円形で、長径方向はN-24°-Wである。深さ83cmで壁はほぼ直立し、底面は平坦である。

覆土 5層に分層できる。ブロック状の含有物が多くみられることから、埋め戻されている。

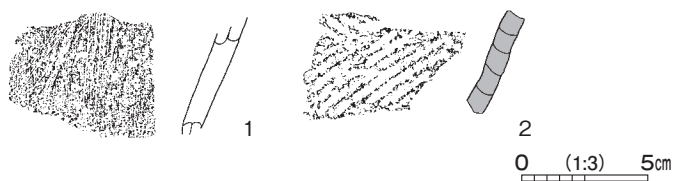
遺物出土状況 縄文土器片22点(深鉢)が出土している。2は混入したものと考えられる。

所見 時期は、出土遺物から縄文時代後期前葉と推定される。



土層解説

- 1 10YR2/2 黒褐 ローム小C/粘B、締B
- 2 10YR2/3 黒褐 ローム小B、炭化粒C/粘B、締B
- 3 10YR2/3 黒褐 ローム中C・小B/粘B、締B
- 4 10YR3/3 暗褐 ローム中C/粘B、締B
- 5 10YR3/3 暗褐 ローム中B/粘B、締B



第36図 第34号土坑・出土遺物実測図

第27表 第34号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(4.8)	—	長石・石英・雲母	5 YR5/4 ぶい赤褐	普通	沈線文	覆土中	堀之内
2	縄文土器	深鉢	—	(4.0)	—	長石・石英・雲母・繊維	7.5YR6/4 ぶい橙	普通	羽状縄文	覆土中	花積 PL30

第35号土坑 (第37図 第28表)

位置 調査区東部のB3f5区、標高27mほどの台地上に位置している。

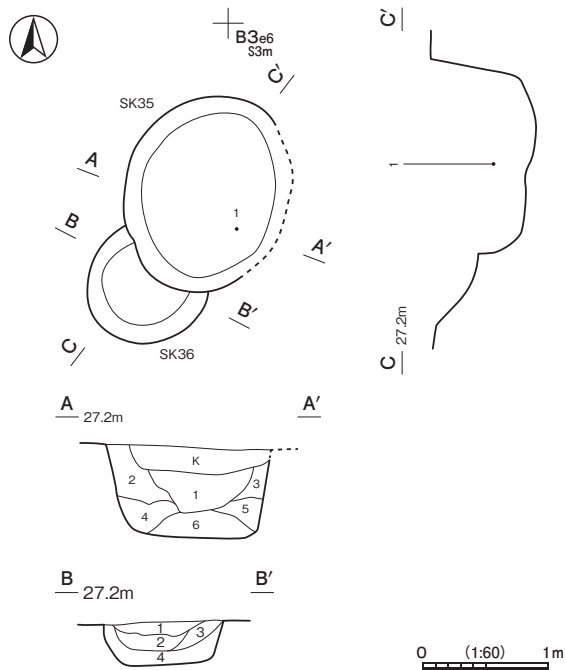
重複関係 第36号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.61m、短径1.28mの楕円形で、長径方向はN-11°-Eである。深さ80cmで壁はほぼ直立し、底面は凹凸状である。

覆土 6層に分層できる。ブロック状の含有物が多くみられることから、埋め戻されている。

遺物出土状況 縄文土器片 29 点（深鉢）が出土している。1 は覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土遺物から縄文時代と推定される。

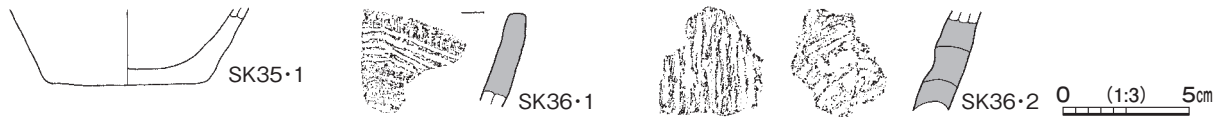


SK35 土層解説

- 1 10YR2/3 黒褐 ローム粒B、炭化粒D/粘B、締B
- 2 10YR3/4 暗褐 ローム中C/粘B、締B
- 3 10YR3/4 暗褐 ローム小B/粘B、締B
- 4 10YR3/2 黒褐 ローム小C、炭化粒D/粘B、締B
- 5 10YR3/2 黒褐 ローム小C、炭化物D/粘B、締B
- 6 10YR3/3 暗褐 ローム小C、炭化粒D/粘B、締B

SK36 土層解説

- 1 10YR3/3 暗褐 ローム小C、炭化粒D/粘B、締B
- 2 10YR3/4 暗褐 ローム小C/粘B、締B
- 3 10YR4/4 褐 ローム小B/粘B、締B
- 4 10YR4/4 褐 ローム中C/粘B、締B



第 37 図 第 35・36 号土坑・出土遺物実測図

第 28 表 第 35 号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(3.0)	6.4	長石・石英・雲母	2.5YR6/6 橙	普通	底部 無文	覆土中層	

第 29 表 第 36 号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(3.7)	—	繊維・長石・石英	5YR5/4 にぶい赤褐	普通	沈線文	覆土中	茅山下層 PL30
2	縄文土器	深鉢	—	(4.0)	—	繊維・長石・石英	5YR4/6 赤褐	普通	表裏条痕文	覆土中	茅山下層 PL30

第 38 号土坑（第 38 図 第 30 表 PL30）

位置 調査区東部の B 3 e4 区，標高 27 m ほどの台地上に位置している。

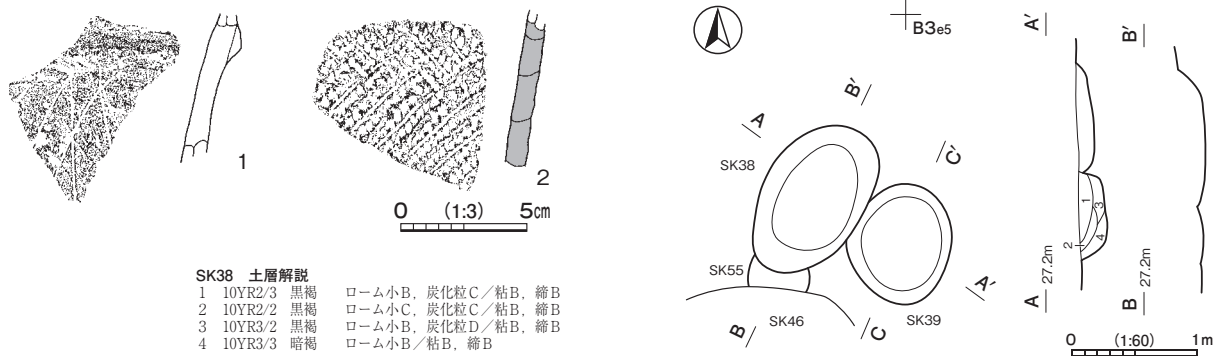
重複関係 第 39・55 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 1.28 m，短径 0.80 m の楕円形で，長径方向は N - 27° - E である。深さ 12 cm で壁は外傾し，底面は平坦である。

覆土 4 層に分層できる。ブロック状の含有物が多くみられることから，埋め戻されている。

遺物出土状況 縄文土器片 7 点（深鉢）が出土している。

所見 時期は，出土遺物から縄文時代後期前葉と推定される。



SK38 土層解説
 1 10YR2/3 黒褐 ローム小B, 炭化粒C/粘B, 締B
 2 10YR2/2 黒褐 ローム小C, 炭化粒C/粘B, 締B
 3 10YR3/2 黒褐 ローム小B, 炭化粒D/粘B, 締B
 4 10YR3/3 暗褐 ローム小B/粘B, 締B

第 38 図 第 38 号土坑・出土遺物実測図

第 30 表 第 38 号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(5.8)	—	長石・石英	7.5YR7/4 にぶい橙	普通	櫛描文 隆帯	覆土中	後期前葉 PL30
2	縄文土器	深鉢	—	(6.2)	—	繊維・長石・石英・雲母	7.5YR5/6 明褐	普通	羽状縄文	覆土中	花積 PL30

第 45 号土坑 (第 39 図 第 31 表 PL30)

位置 調査区東部の B 3 e4 区, 標高 27 m ほどの台地上に位置している。

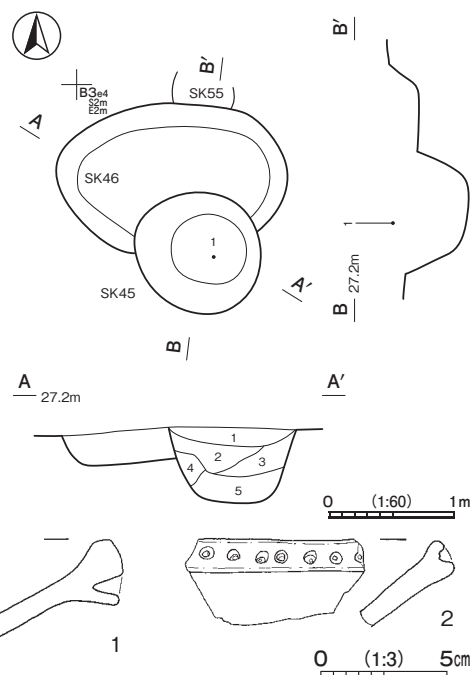
重複関係 第 46 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 0.99 m, 短径 0.95 m の円形である。深さ 56 cm で壁は外傾し, 底面は平坦である。

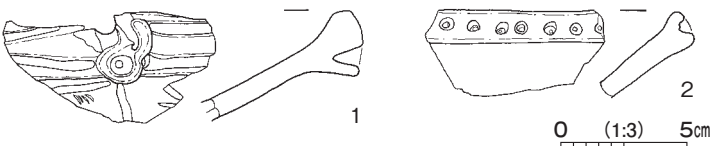
覆土 4 層に分層できる。ブロック状の含有物が多くみられることから, 埋め戻されている。

遺物出土状況 縄文土器片 15 点 (深鉢) が出土している。1 は, 覆土上層から出土している。

所見 時期は, 出土遺物から縄文時代後期前葉と推定される。



SK45 土層解説
 1 10YR3/2 黒褐 ローム小D, 炭化粒D/粘B, 締B
 2 10YR3/2 黒褐 ローム小C/粘B, 締B
 3 10YR3/2 黒褐 ローム中C・小C/粘B, 締B
 4 10YR3/3 暗褐 ローム中C/粘B, 締B
 5 10YR3/3 暗褐 ローム中B/粘B, 締B



第 39 図 第 45 号土坑・出土遺物実測図

第 31 表 第 45 号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(4.3)	—	長石・石英	7.5YR7/6 橙	普通	口縁部円環状突起 沈線文 爪形文	覆土上層	堀之内 PL30
2	縄文土器	深鉢	—	(3.4)	—	長石・石英	7.5YR6/4 にぶい橙	普通	口縁部円形刺突文	覆土中	堀之内

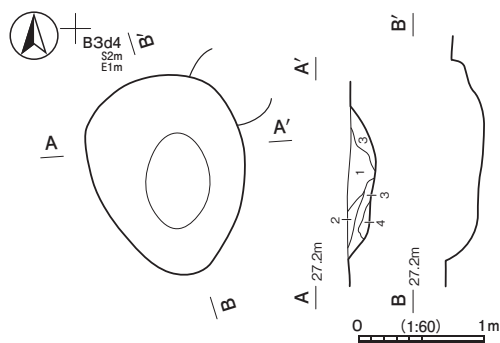
第 61 号土坑 (第 40 図 第 32 表 PL30)

位置 調査区東部の B 3 d4 区, 標高 27 m ほどの台地上に位置している。

重複関係 第 102 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 1.62 m, 短径 1.22 m の楕円形で, 長径方向は N - 15° - W である。深さ 24 cm で壁は外傾し, 底面はやや凹凸がある。

覆土 4 層に分層できる。ブロック状の含有物が多くみられることから, 埋め戻されている。



第40図 第61号土坑・出土遺物実測図

第32表 第61号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(3.6)	—	長石・石英・雲母	外面 7.5YR2/1 黒 内面 7.5YR6/4 にぶい橙	普通	沈線文	覆土中	堀之内 PL30

遺物出土状況 縄文土器片 8 点 (深鉢), 石器 1 点 (石核) が出土している。1 は覆土中から出土している。石器は旧石器時代のものであり, 混入と考えられる。

所見 時期は, 出土遺物から縄文時代後期前葉と推定される。



土層解説

- 1 10YR4/4 褐 ローム粒C/粘B, 締B
- 2 10YR3/4 暗褐 ローム粒C/粘C, 締A
- 3 10YR4/4 褐 ローム小B/粘B, 締A
- 4 10YR3/3 暗褐 ローム小C, 黒色粒子粒D/粘C, 締A

第66号土坑 (第41図 第33表 PL30・35)

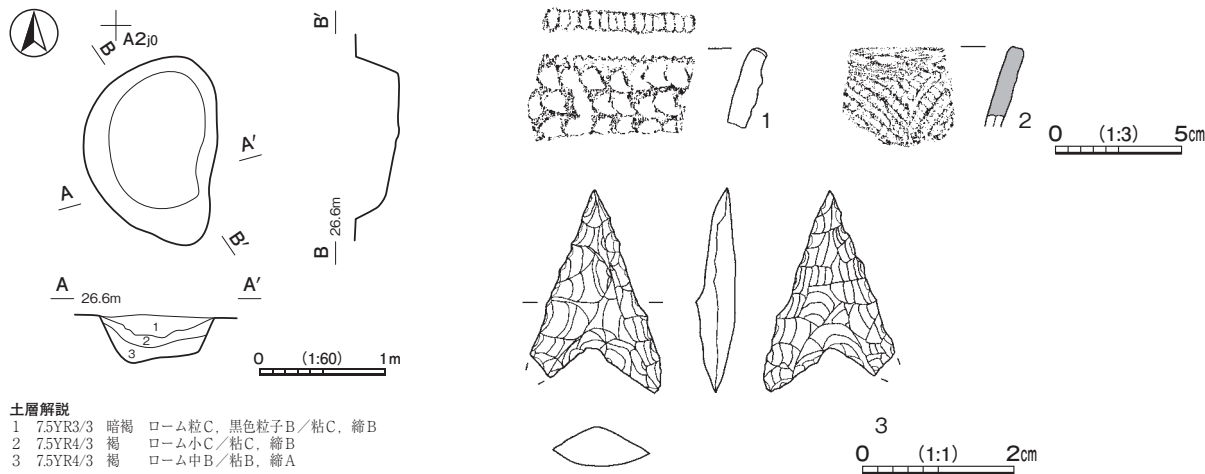
位置 調査区北部のA 2j0区, 標高 27 m ほどの台地上に位置している。

規模と形状 長径 1.48 m, 短径 1.04 m の楕円形で, 長径方向は N - 7° - W である。深さ 32 cm で壁は外傾し, 底面は南西側へ傾斜している。

覆土 3層に分層できる。ブロック状の含有物が多くみられることから, 埋め戻されている。

遺物出土状況 縄文土器片 16 点 (深鉢), 石器 1 点 (石鏃) が出土している。

所見 時期は, 出土遺物から縄文時代前期後葉と推定される。



土層解説

- 1 7.5YR3/3 暗褐 ローム粒C, 黒色粒子B/粘C, 締B
- 2 7.5YR4/3 褐 ローム小C/粘C, 締B
- 3 7.5YR4/3 褐 ローム中B/粘B, 締A

第41図 第66号土坑・出土遺物実測図

第33表 第66号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(3.2)	—	長石・石英	7.5YR6/6 橙	普通	口唇部キザミ目 半截竹管文	覆土中	浮島Ⅲ PL30
2	縄文土器	深鉢	—	(3.2)	—	繊維・長石・石英	5 YR5/6 明赤褐	普通	縦位の羽状縄文	覆土中	花輪台 PL30
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
3	石鏃	2.7	1.7	0.5	1.40	チャート	凹基無茎鏃		覆土中	PL35	

第73号土坑 (第42図 第34表 PL30)

位置 調査区東部のB 3c5区, 標高 27 m ほどの台地上に位置している。

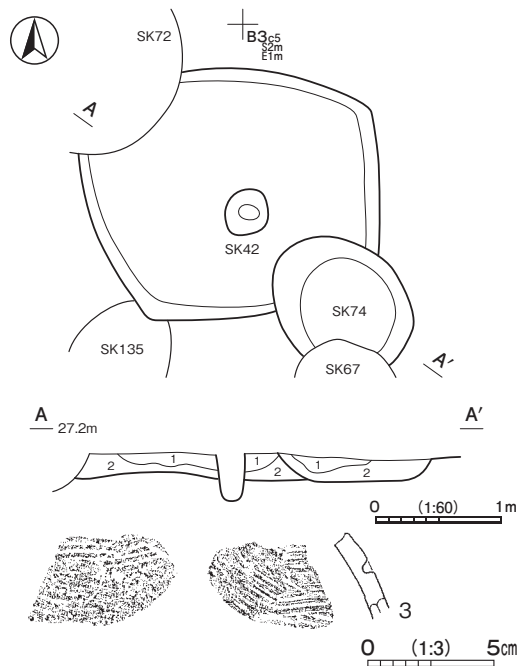
重複関係 第42・72・74号土坑に掘り込まれ, 第135号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸 2.36 m，短軸 1.94 m の長方形で，主軸方向は N - 88° - E である。深さ 22 cm で壁は外傾し，底面は平坦である。

覆土 2 層に分層できる。ブロック状の含有物が多くみられることから，埋め戻されている。

遺物出土状況 縄文土器片 57 点（深鉢），石器 3 点（石皿・磨石）が出土している。

所見 時期は，出土遺物から縄文時代前期後葉と推定される。



土層解説
 1 7.5YR4/3 褐 ローム小C，炭化粒D/粘C，締B
 2 7.5YR4/3 褐 ローム中C・小B/粘B，締B



第 42 図 第 73 号土坑・出土遺物実測図

第 34 表 第 73 号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(4.8)	—	繊維・長石・石英	7.5YR5/4 にぶい褐	普通	沈線文 内面磨き	覆土中	茅山下層 PL30
2	縄文土器	深鉢	—	(4.3)	—	長石・石英	7.5YR6/4 にぶい橙	普通	外面貝条痕文 内面条痕文	覆土中	茅山下層 PL30
3	縄文土器	深鉢	—	(3.3)	—	長石・石英	5YR6/6 橙	普通	表裏条痕文	覆土中	茅山下層 PL30

第 78 号土坑（第 43 図 第 35 表 PL31）

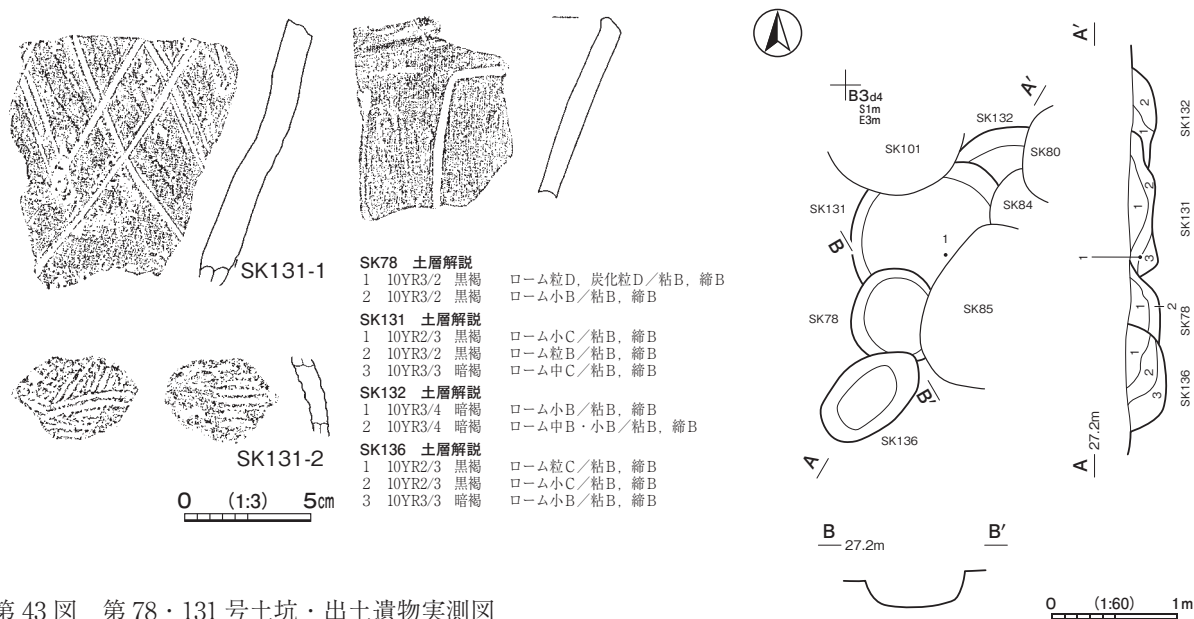
位置 調査区東部の B 3 d4 区，標高 27 m ほどの台地上に位置している。

重複関係 第 131 号土坑を掘り込み，第 85・136 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径 0.84 m，短径 0.68 m の楕円形で，長径方向は N - 25° - W である。深さ 26 cm で壁は外傾し，底面は平坦である。

覆土 2 層に分層できる。ブロック状の含有物が多くみられることから，埋め戻されている。

遺物出土状況 縄文土器片 14 点（深鉢），石器 1 点（剥片）が出土している。剥片は，旧石器時代のもので混



SK78 土層解説
 1 10YR3/2 黒褐 ローム粒D，炭化粒D/粘B，締B
 2 10YR3/2 黒褐 ローム小B/粘B，締B
SK131 土層解説
 1 10YR2/3 黒褐 ローム小C/粘B，締B
 2 10YR3/2 黒褐 ローム粒B/粘B，締B
 3 10YR3/3 暗褐 ローム中C/粘B，締B
SK132 土層解説
 1 10YR3/4 暗褐 ローム小B/粘B，締B
 2 10YR3/4 暗褐 ローム中B・小B/粘B，締B
SK136 土層解説
 1 10YR2/3 黒褐 ローム粒C/粘B，締B
 2 10YR2/3 黒褐 ローム小C/粘B，締B
 3 10YR3/3 暗褐 ローム小B/粘B，締B

第 43 図 第 78・131 号土坑・出土遺物実測図

入と考えられる。

所見 時期は、出土遺物から縄文時代後期前葉と推定される。

第131号土坑 (第43図 第36表 PL32)

位置 調査区のB3d4区、標高27mほどの台地上に位置している。

重複関係 第132号土坑を掘り込み、第78・85・101号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.32m、短径0.86mの楕円形で、長径方向はN-50°-Eである。深さ20cmで壁は外傾し、底面はやや凹凸がある。

覆土 3層に分層できる。ブロック状の含有物が多くみられることから、埋め戻されている。

遺物出土状況 縄文土器片7点(深鉢)が出土している。1は、覆土中層から出土し、第194号土坑出土遺物の1と接合した。

所見 時期は、出土遺物から縄文時代後期前葉と推定される。2は混入したものと考えられる。

第35表 第78号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(7.1)	—	長石・石英・雲母	7.5YR6/4 におい橙	普通	沈線文	覆土中	称名寺 PL31

第36表 第131号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(10.5)	—	長石・石英・雲母	7.5YR7/3 におい橙	普通	格子目状沈線文	覆土中層	堀之内 PL32
2	縄文土器	深鉢	—	(3.2)	—	長石・石英・雲母	5YR6/4 におい橙	普通	外面沈線文 内面条痕文	覆土中	茅山下層 PL32

第85号土坑 (第44・45図 第37表 PL4・29~31)

位置 調査区東部のB3d5区、標高27mほどの台地上に位置している。

重複関係 第78・84・131号土坑を掘り込んでいる。

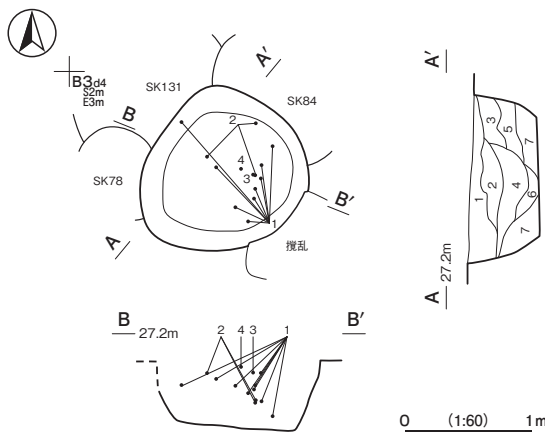
規模と形状 長径1.38m、短径0.82mの楕円形で、長径方向はN-25°-Eである。深さ66cmで壁はほぼ直立し、底面は平坦である。

覆土 7層に分層できる。ブロック状の含有物が多くみられることや遺物の出土状況から、埋め戻されている。

遺物出土状況 縄文土器片71点(深鉢)が出土している。

1は、覆土上層から下層にかけ出土し、破片が接合したものである。4は、遺構の切り合いがあることから混入したものと考えられる。

所見 時期は、出土遺物から縄文時代後期前葉と推定される。



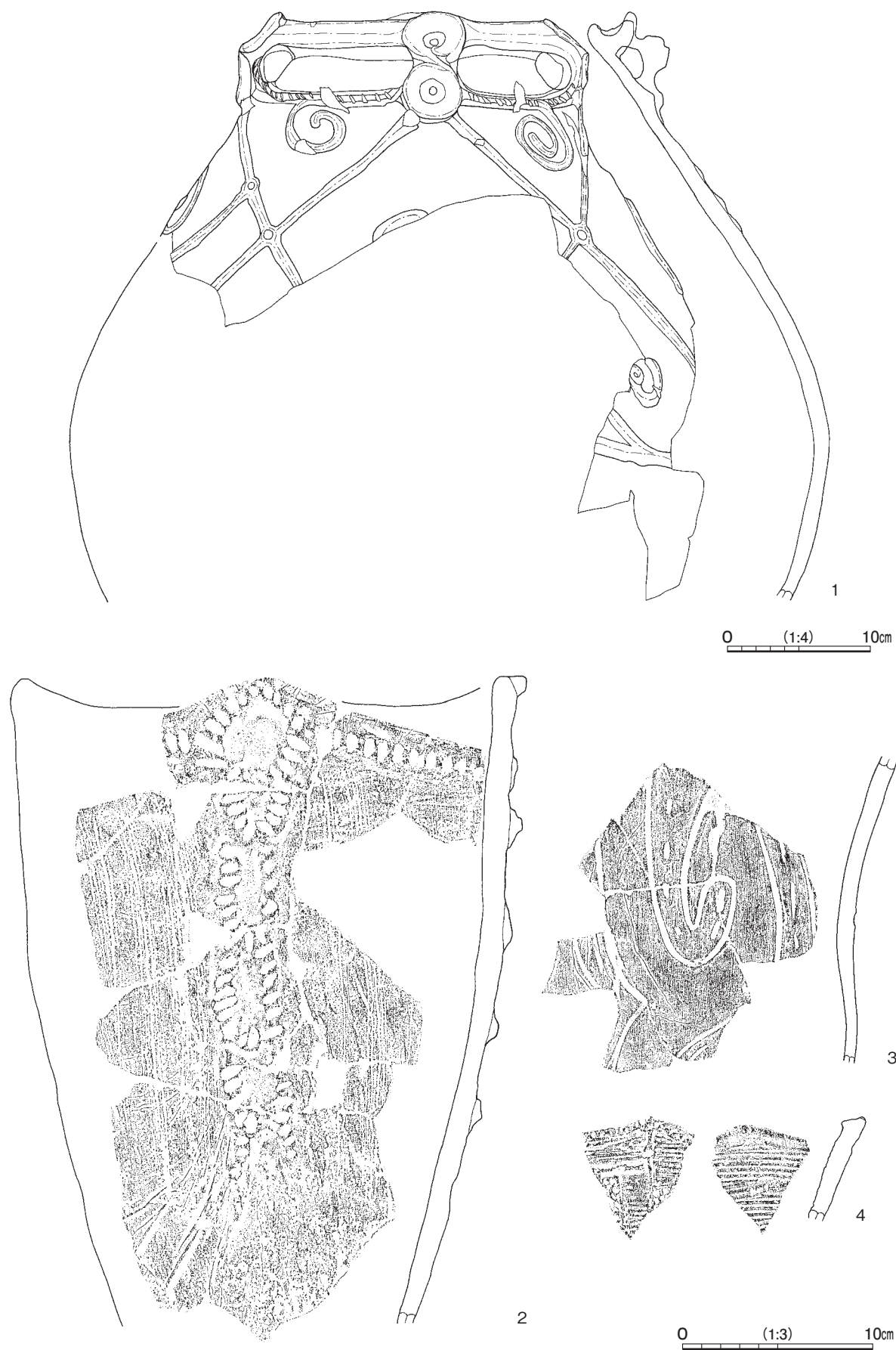
土層解説

- 1 10YR3/2 黒褐 ローム粒B/粘B、締B
- 2 10YR3/2 黒褐 ローム小C、炭化粒D/粘B、締B
- 3 10YR3/3 暗褐 ローム粒B/粘B、締B
- 4 10YR2/3 黒褐 ローム中C、炭化粒D/粘B、締B
- 5 10YR3/3 暗褐 ローム中B/粘B、締B
- 6 10YR3/2 黒褐 ローム小C/粘B、締B
- 7 10YR3/2 黒褐 ローム中B・小C/粘B、締B

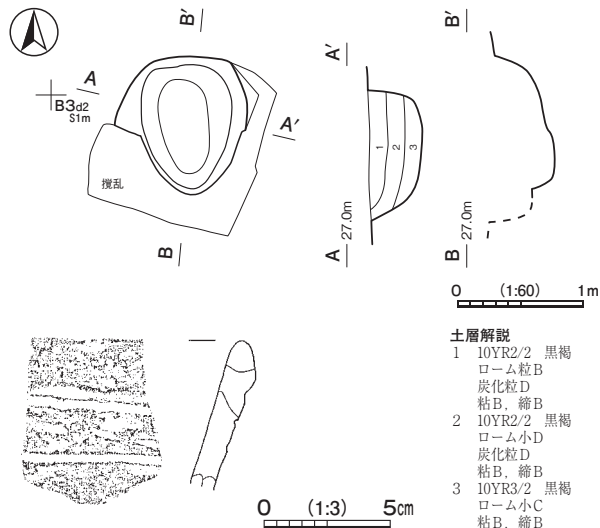
第44図 第85号土坑実測図

第37表 第85号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	18.6	(41.5)	—	長石・石英・赤色粒子	10YR6/4 におい黄橙	普通	口縁部8の字把手 渦巻き文 隆帯で十文字に区画	覆土中層	網取 PL29
2	縄文土器	深鉢	[25.4]	(34.0)	—	長石・石英・雲母	10YR6/4 におい黄橙	普通	隆帯にキザミ目 沈線文	覆土中層	網取 PL31
3	縄文土器	深鉢	—	(16.1)	—	長石・石英	7.5YR6/4 におい橙	普通	しの字文内に刺突文	覆土上層	称名寺 PL31
4	縄文土器	深鉢	—	(5.5)	—	長石・石英	7.5YR7/6 橙	普通	表裏条痕文 刺突文	覆土上層	茅山下層 PL30



第 45 図 第 85 号土坑出土遺物実測図



第46図 第96号土坑・出土遺物実測図

第38表 第96号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(5.9)	—	長石・石英・雲母	7.5YR7/4 におい橙	普通	沈線文 刺突列点文	覆土中	称名寺 PL31

第96号土坑 (第46図 第38表 PL31)

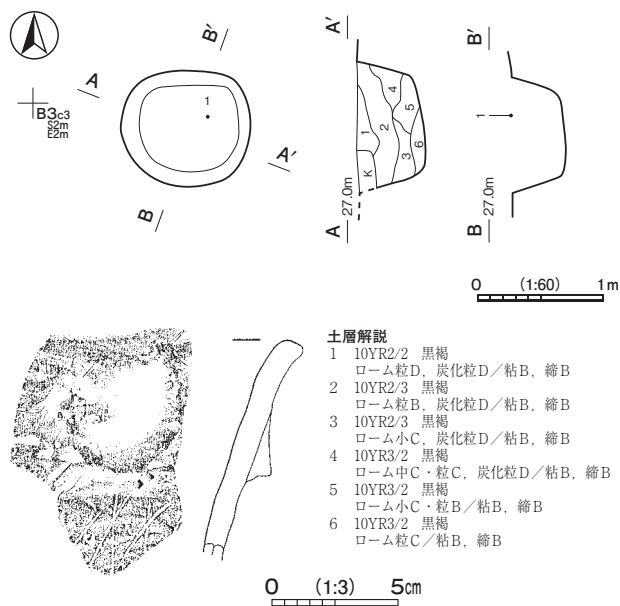
位置 調査区東部のB 3 d2区, 標高27 mほどの台地上に位置している。

規模と形状 長径1.30 m, 短径1.05 mの楕円形で, 長径方向はN-5°-Wである。深さ32 cmで壁は外傾し, 底面は皿状である。

覆土 3層に分層できる。ブロック状の含有物が多くみられることから, 埋め戻されている。

遺物出土状況 縄文土器片12点(深鉢)が出土している。

所見 時期は, 出土遺物から縄文時代後期前葉と推定される。



第47図 第99号土坑・出土遺物実測図

第39表 第99号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(8.8)	—	長石・石英・雲母	7.5YR7/3 におい橙	普通	口縁部隆帯 沈線文	覆土上層	堀之内 PL30

第99号土坑 (第47図 第39表 PL30)

位置 調査区東部のB 3 c3区, 標高26 mほどの台地上に位置している。

規模と形状 長径1.03 m, 短径1.00 mの円形である。深さ40 cmで壁は外傾し, 底面は平坦である。

覆土 6層に分層できる。ブロック状の含有物が多くみられることから, 埋め戻されている。

遺物出土状況 縄文土器片11点(深鉢), 石器1点(剥片)が出土している。1は, 覆土上層から出土している。石器は旧石器時代のものであり, 混入と考えられる。

所見 時期は, 出土遺物から縄文時代前期後葉と推定される。

第112号土坑 (第48図)

位置 調査区東部のB 3 f1区, 標高27 mほどの台地上に位置している。

重複関係 第150号土坑に掘り込まれている。

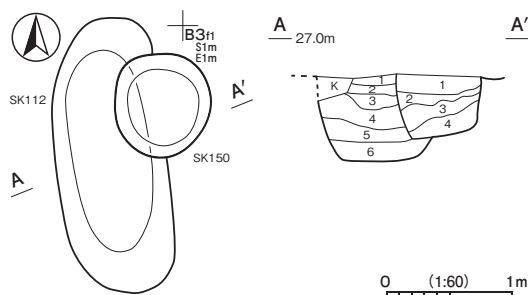
規模と形状 長径2.18 m, 短径0.86 mの楕円形である。深さ70 cmで壁は外傾し, 底面は平坦である。

覆土 6層に分層できる。ブロック状の含有物が多くみられることから, 埋め戻されている。

遺物出土状況 縄文土器片8点(深鉢)が出土している。

所見 時期は、出土遺物から縄文時代早期、規模や形状から陥し穴と考えられる。

- SK112 土層解説**
- 1 7.5YR2/3 極暗褐色 ローム粒C/粘C, 締B
 - 2 7.5YR3/2 黒褐色 ローム小D・粒C, 炭化粒D/粘C, 締B
 - 3 7.5YR3/3 暗褐色 ローム小C/粘B, 締A
 - 4 7.5YR3/4 暗褐色 ローム小B/粘B, 締B
 - 5 7.5YR4/3 褐色 ローム粒C/粘B, 締B
 - 6 7.5YR4/4 褐色 ローム中C/粘B, 締B
- SK150 土層解説**
- 1 10YR2/2 黒褐色 ローム小C/粘B, 締B
 - 2 10YR3/2 黒褐色 ローム小B/粘B, 締B
 - 3 10YR3/3 暗褐色 ローム中C・小C/粘B, 締B
 - 4 10YR3/4 暗褐色 ローム中C・小B/粘B, 締B



第48図 第112・150号土坑実測図

第150号土坑 (第48・49図 第40表 PL33)

位置 調査区東部のB3f1区, 標高27mほどの台地上に位置している。

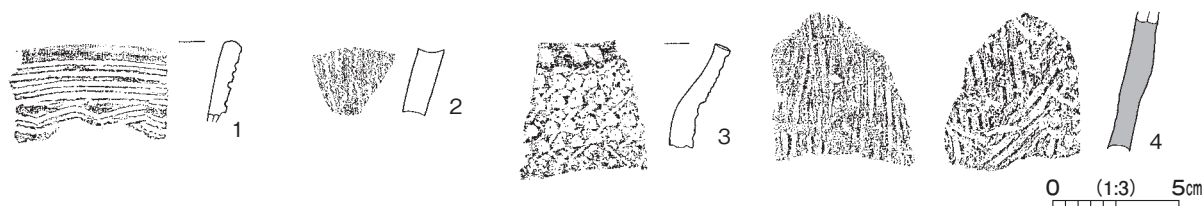
重複関係 第112号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径0.82m, 短径0.75mの円形である。深さ50cmで壁は直立し, 底面は平坦である。

覆土 4層に分層できる。ブロック状の含有物が多くみられることから, 埋め戻されている。

遺物出土状況 縄文土器片36点(深鉢), 石器1点(剥片)が出土している。3と4, 石器は混入と考えられる。

所見 時期は、出土遺物から縄文時代前期後葉と推定される。



第49図 第150号土坑出土遺物実測図

第40表 第150号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(3.2)	—	長石・石英・雲母	7.5YR6/4 にぶい橙	普通	口縁部平行沈線文 波状沈線文	覆土中	浮島 PL33
2	縄文土器	深鉢	—	(2.7)	—	長石・石英	5YR5/2 灰褐色	普通	貝殻腹縁文	覆土中	浮島 PL33
3	縄文土器	深鉢	—	(4.1)	—	長石・石英	5YR6/4 にぶい橙	普通	口唇部圧痕 口縁部竹管形刺突文	覆土中	花積下層 PL33
4	縄文土器	深鉢	—	(5.0)	—	繊維・長石・石英	7.5YR5/4 にぶい褐色	普通	表裏条痕文	覆土中	茅山下層 PL33

第113号土坑 (第50図 第41表 PL31)

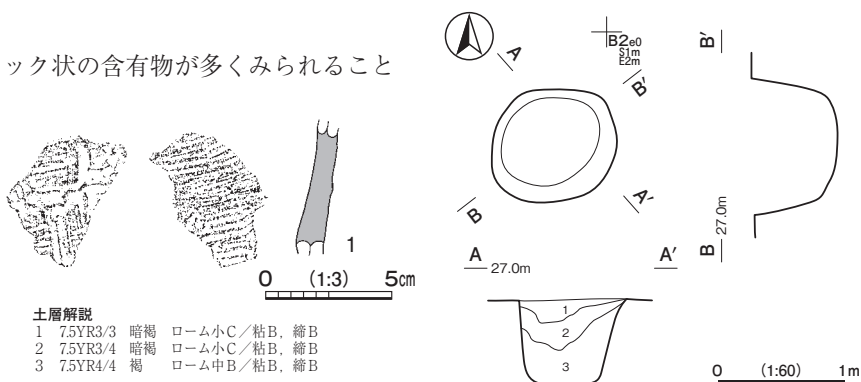
位置 調査区中央部のB2e0区, 標高26mほどの台地上に位置している。

規模と形状 長径1.07m, 短径0.94mの楕円形で, 長径方向はN-52°-Eである。深さ66cmで壁はほぼ直立し, 底面は皿状である。

覆土 3層に分層できる。ブロック状の含有物が多くみられることから, 埋め戻されている。

遺物出土状況 縄文土器片3点(深鉢), 石器1点(剥片)が出土している。

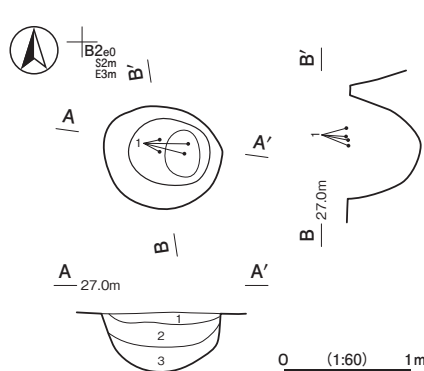
所見 時期は、出土遺物から縄文時代早期後葉と推定される。



第50図 第113号土坑・出土遺物実測図

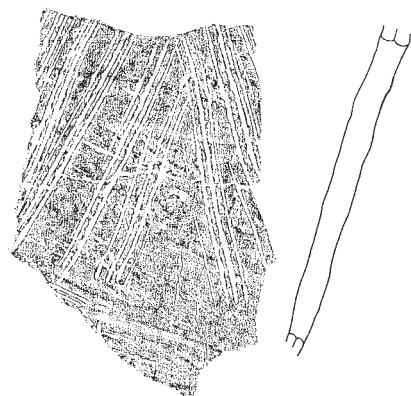
第41表 第113号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(5.3)	—	繊維・長石・石英	7.5YR6/6 橙	普通	表裏条痕文 隆帯で区画し内に刺突文	覆土中	茅山下層 PL31



土層解説

- 1 7.5YR4/3 褐 ローム粒C/粘B, 締B
- 2 7.5YR4/4 褐 ローム中B・小B/粘B, 締B
- 3 7.5YR4/4 褐 ローム中B/粘B, 締B



第119号土坑 (第51図 第42表 PL32)

位置 調査区中央部のB 2 e0区, 標高26 mほどの台地上に位置している。

規模と形状 長径0.95 m, 短径0.82 mの楕円形で, 長径方向はN-64°-Wである。深さ58 cmで壁は外傾し, 底面はU字状である。

覆土 3層に分層できる。ブロック状の含有物が多くみられることから, 埋め戻されている。

遺物出土状況 縄文土器片2点(深鉢)が出土している。1は, 覆土上層から出土している。

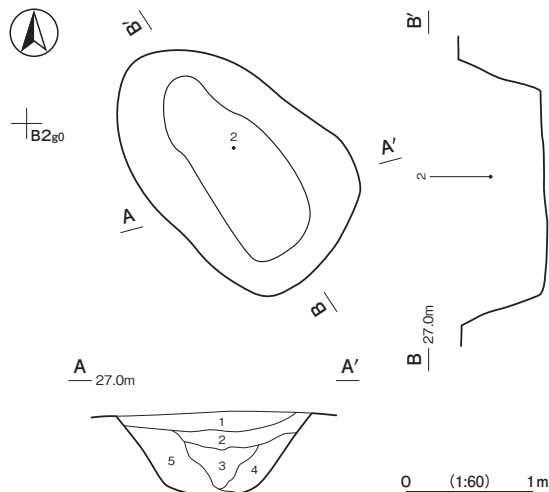
所見 時期は, 出土遺物から縄文時代早期中葉と推定される。



第51図 第119号土坑・出土遺物実測図

第42表 第119号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(13.0)	—	長石・石英	5YR5/4 におい赤褐	普通	胴部上斜格子文 胴部下無文	覆土上層	田戸下層 PL32



第52図 第126号土坑実測図

第126号土坑 (第52・53図 第43表 PL31・32)

位置 調査区中央部のB 2 g0区, 標高27 mほどの台地上に位置している。

規模と形状 長径2.18 m, 短径1.34 mの楕円形で, 長径方向はN-32°-Wである。深さ66 cmで壁は外傾し, 底面は平坦である。

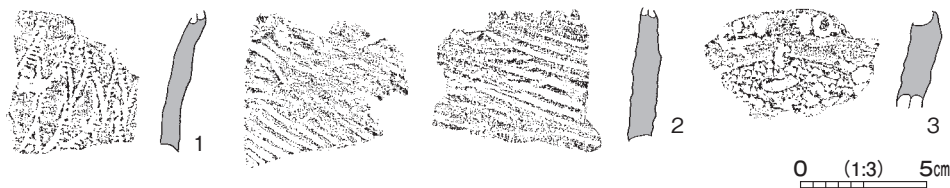
覆土 5層に分層できる。ブロック状の含有物が多くみられることから, 埋め戻されている。

土層解説

- 1 7.5YR3/2 黒褐 ローム粒C, 炭化粒D/粘B, 締B
- 2 7.5YR3/3 暗褐 ローム小C/粘B, 締B
- 3 7.5YR3/3 暗褐 ローム中C・小C/粘B, 締B
- 4 7.5YR4/3 褐 ローム中D・小C/粘B, 締B
- 5 7.5YR4/4 褐 ローム中B/粘B, 締B

遺物出土状況 縄文土器片 14 点（深鉢）が出土している。2 は、覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土遺物から縄文時代早期後葉と推定される。



第 53 図 第 126 号土坑出土遺物実測図

第 43 表 第 126 号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(5.6)	—	繊維・長石・石英・雲母	2.5YR5/4 にぶい赤褐	普通	貝波状文	覆土中	浮島 PL.31
2	縄文土器	深鉢	—	(5.2)	—	繊維・長石・石英・雲母	5YR6/4 にぶい橙	普通	表裏条痕文	覆土中層	茅山下層 PL.31
3	縄文土器	深鉢	—	(3.8)	—	繊維・長石・石英・雲母	7.5YR6/3 にぶい褐	普通	半截竹管文を沈線でつなぎ内に刺突文	覆土中	茅山下層 PL.32

第 127 号土坑（第 54 図 第 44 表 PL32）

位置 調査区中央部の B 2 g9 区、標高 27 m ほどの台地上に位置している。

規模と形状 長径 1.20 m、短径 0.98 m の楕円形で、長径方向は N - 13° - W である。深さ 20 cm で壁は外傾し、底面は平坦である。

覆土 3 層に分層できる。堆積状況から、埋め戻されている。

遺物出土状況 縄文土器片 2 点（深鉢）、石器 1 点（剥片）が出土している。1 は、覆土上層から出土している。石器は旧石器時代のものであり、混入と考えられる。

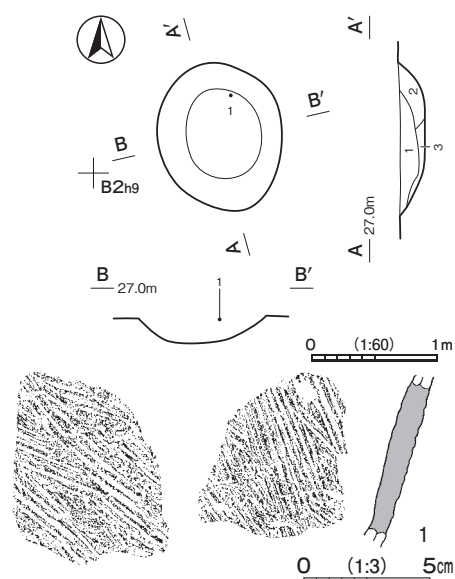
所見 時期は、出土遺物から縄文時代早期後葉と推定される。

土層解説

- 1 7.5YR4/3 褐 ローム小C/粘A、締B
- 2 7.5YR4/4 褐 ローム中C/粘A、締B
- 3 7.5YR4/4 褐 ローム小C・粒C/粘A、締A

第 44 表 第 127 号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(6.8)	—	繊維・長石・石英・雲母	2.5YR6/6 橙	普通	表裏条痕文	覆土上層	茅山下層 PL.32



第 54 図 第 127 号土坑・出土遺物実測図

第 130 号土坑（第 55 図 第 45 表 PL31 ~ 33）

位置 調査区中央部の B 2 h8 区、標高 27 m ほどの台地上に位置している。

規模と形状 長径 2.21 m、短径 1.02 m の楕円形で、長径方向は N - 41° - E である。深さ 115 cm で壁は直立し、底面は平坦である。

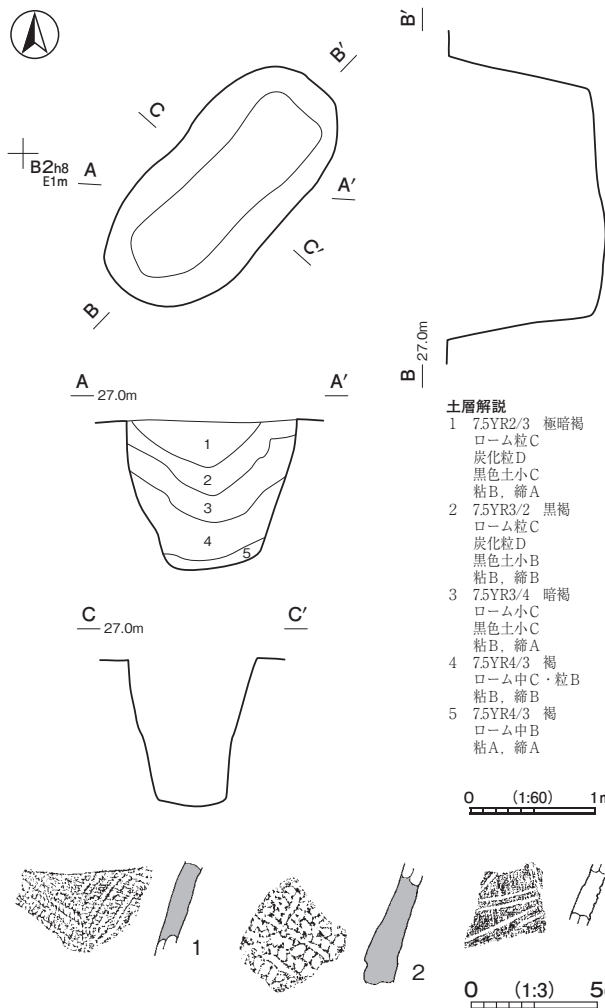
覆土 5 層に分層できる。ブロック状の含有物が多くみられることから、埋め戻されている。

遺物出土状況 縄文土器片 49 点（深鉢）、石器 2 点（剥片、磨石）が出土している。1 と 3、剥片は混入と考えられる。

所見 時期は、出土遺物から縄文時代早期後葉、規模や形状から陥し穴と推定される。

第 45 表 第 130 号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(3.7)	—	繊維・長石・石英	5YR4/3 にぶい赤褐	普通	縦位の羽状縄文 沈線文	覆土中	花輪台 PL.31
2	縄文土器	深鉢	—	(4.8)	—	繊維・長石・石英	7.5YR5/3 にぶい褐	普通	羽状縄文 結状第一種縄文	覆土中	茅山下層 PL.32
3	縄文土器	深鉢	—	(1.9)	—	長石・石英・砂	7.5YR7/4 にぶい橙	普通	半截竹管による沈線文	覆土中	三戸 PL.33



第55図 第130号土坑・出土遺物実測図

覆土 8層に分層できる。ブロック状の含有物が多くみられることから、埋め戻されている。

遺物出土状況 縄文土器片 141点(深鉢), 石器8点(剥片)が出土している。4～6は覆土上層から出土している。石器は旧石器時代のものであり、混入と考えられる。

所見 時期は、出土遺物から縄文時代早期後葉、規模や形状から陥し穴と推定される。

第138号土坑 (第56図 第46表 PL33)

位置 調査区東部のB3b3区、標高27mほどの台地上に位置している。

重複関係 第139号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.42m、短径1.03mの楕円形で、長径方向はN-50°-Eである。壁は高さ38cmで外傾し、底面は皿状である。

覆土 2層に分層できる。ブロック状の含有物が多くみられることから、埋め戻されている。

遺物出土状況 縄文土器片14点(深鉢), 石器2点(剥片)が出土している。1～3は、覆土中層から出土している。石器は旧石器時代のものであり、混入と考えられる。

所見 時期は、出土遺物から縄文時代後期前葉、規模や形状から陥し穴と推定される。

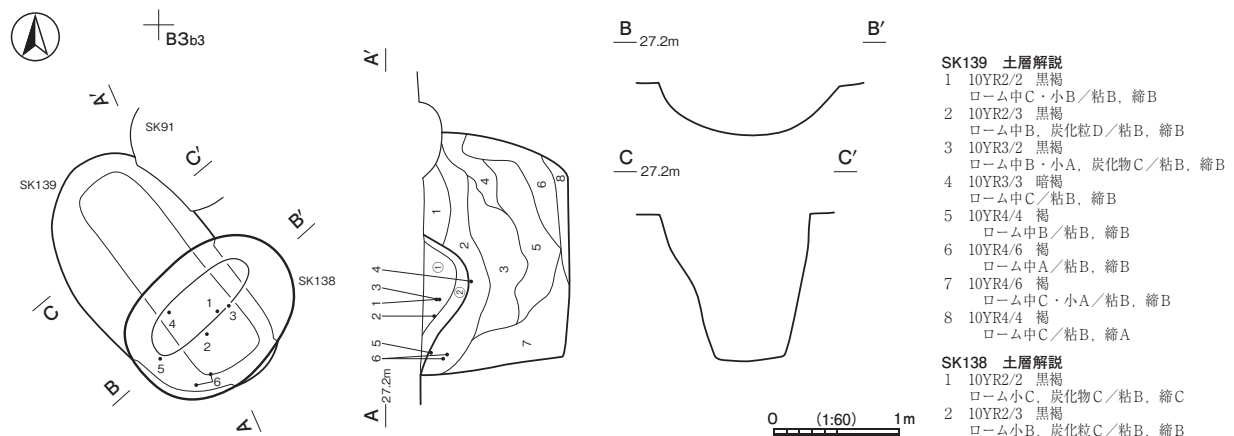
- 土層解説**
- 1 75YR2/3 極暗褐
ローム粒C
炭化粒D
黒色土小C
粘B、締A
 - 2 75YR3/2 黒褐
ローム粒C
炭化粒D
黒色土小B
粘B、締B
 - 3 75YR3/4 暗褐
ローム小C
黒色土小C
粘B、締A
 - 4 75YR4/3 褐
ローム中C・粒B
粘B、締B
 - 5 75YR4/3 褐
ローム中B
粘A、締A

第139号土坑 (第56・57図 第47表)

位置 調査区東部のB3b2区、標高27mほどの台地上に位置している。

重複関係 第91・138号土坑に掘り込まれている。

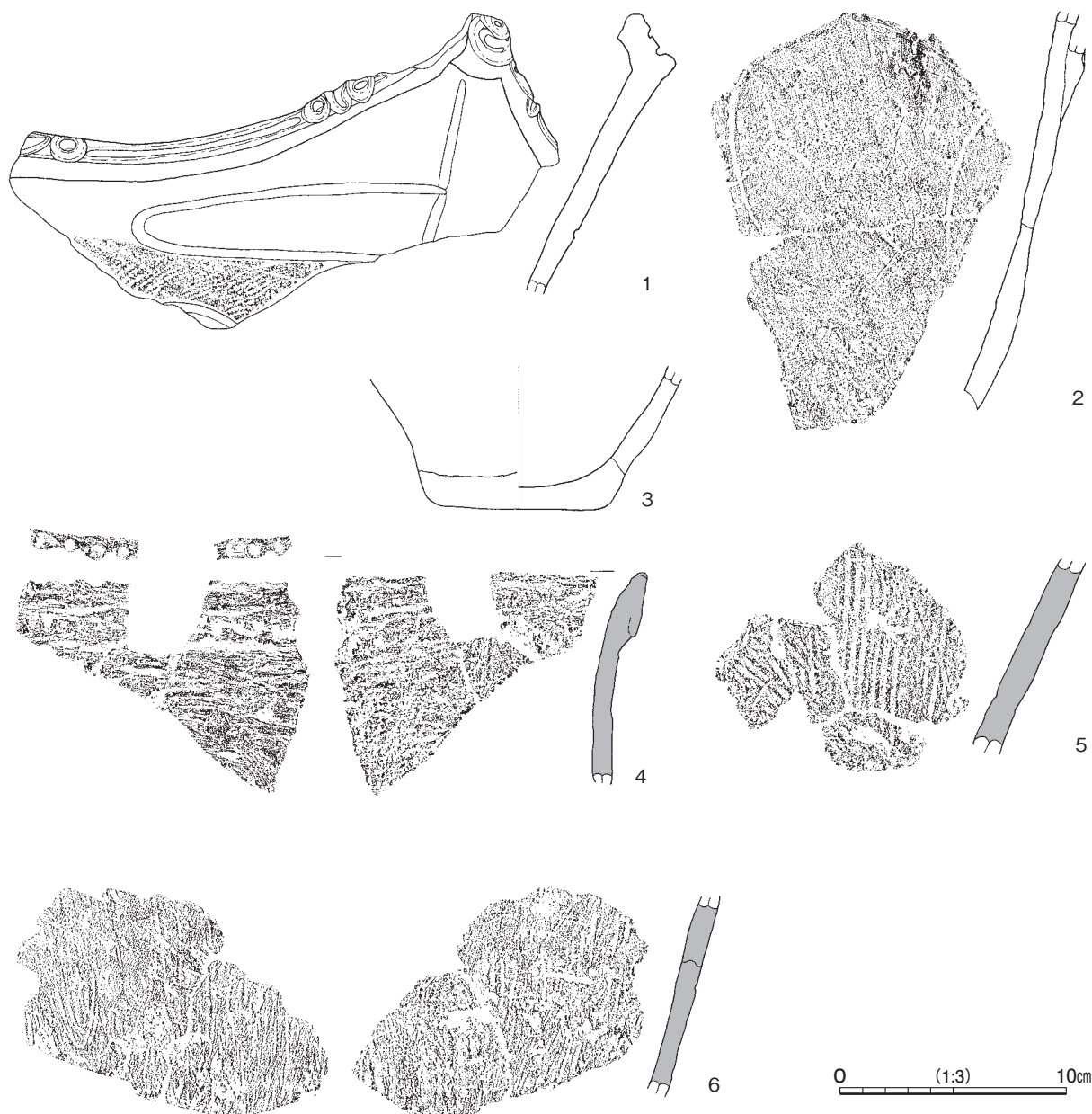
規模と形状 長径2.16m、短径1.16mの隅丸方形で、長径方向はN-42°-Wである。深さ116cmで壁は外傾し、底面は平坦である。



第56図 第138・139号土坑実測図

- SK139 土層解説**
- 1 10YR2/2 黒褐
ローム中C・小B/粘B、締B
 - 2 10YR2/3 黒褐
ローム中B、炭化粒D/粘B、締B
 - 3 10YR3/2 黒褐
ローム中B・小A、炭化物C/粘B、締B
 - 4 10YR3/3 暗褐
ローム中C/粘B、締B
 - 5 10YR4/4 褐
ローム中B/粘B、締B
 - 6 10YR4/6 褐
ローム中A/粘B、締B
 - 7 10YR4/6 褐
ローム中C・小A/粘B、締B
 - 8 10YR4/4 褐
ローム中C/粘B、締A

- SK138 土層解説**
- 1 10YR2/2 黒褐
ローム小C、炭化物C/粘B、締C
 - 2 10YR2/3 黒褐
ローム小B、炭化粒C/粘B、締B



第 57 図 第 138・139 号土坑出土遺物実測図

第 46 表 第 138 号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(12.4)	—	長石・石英・細礫	7.5YR5/4 にぶい褐	普通	口縁部円環状突起 沈線文	覆土中層	堀之内 PL33
2	縄文土器	深鉢	—	(17.5)	—	長石・石英・針状鉱物	5 YR7/4 にぶい橙	普通	隆帯に刺突文 沈線文	覆土中層	堀之内
3	縄文土器	深鉢	—	(6.4)	—	長石・石英・針状鉱物	7.5YR7/4 にぶい橙	普通	丸平底 無文	覆土中層	堀之内々

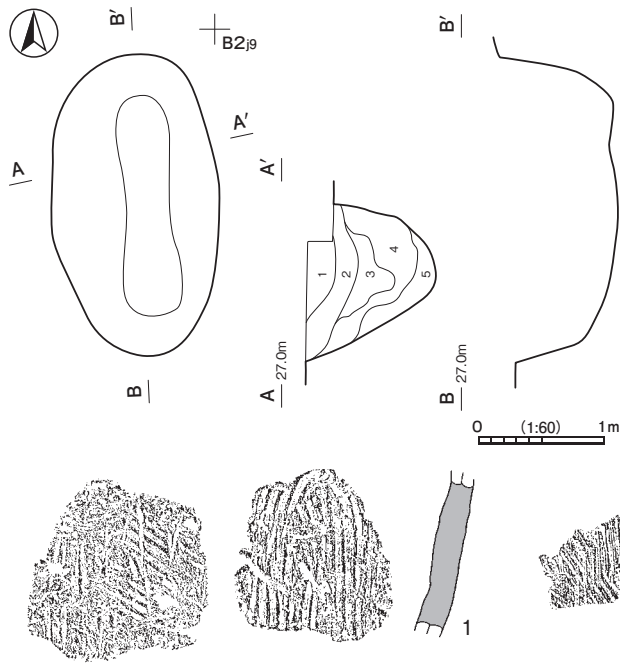
第 47 表 第 139 号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
4	縄文土器	深鉢	—	(9.3)	—	繊維・長石・石英	5 YR6/6 橙	普通	口唇部キザミ目 隆帯にキザミ目 内面条痕文	覆土上層	茅山下層
5	縄文土器	深鉢	—	(8.6)	—	繊維・長石・石英・雲母	7.5YR5/6 明褐	普通	表裏条痕文	覆土上層	茅山下層
6	縄文土器	深鉢	—	(8.9)	—	繊維・長石・石英	2.5YR5/6 明赤褐	普通	表裏条痕文	覆土上層	茅山下層

第 142 号土坑 (第 58 図 第 47 表 PL32)

位置 調査区中央部の B 2 j8 区, 標高 27 m ほどの台地上に位置している。

規模と形状 長径 2.42 m, 短径 1.28 m の楕円形で, 長径方向は N - 6° - W である。深さ 92 cm で壁は外傾し, 底面は U 字状である。



覆土 5層に分層できる。ブロック状の含有物が多くみられることから、埋め戻されている。

遺物出土状況 縄文土器片7点(深鉢)が出土している。

所見 時期は、出土遺物から縄文時代早期後葉、規模や形状から陥し穴と推定される。

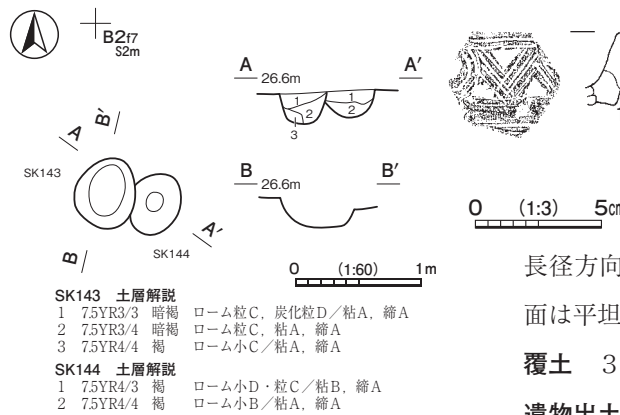
土層解説

1	10YR2/1 黒	ローム小C/粘B, 締A
2	10YR3/1 黒褐	ローム小C・粒C, 炭化粒D/粘B, 締B
3	10YR2/3 黒褐	ローム小C・粒C/粘B, 締B
4	10YR3/2 黒褐	ローム中B/粘B, 締A
5	10YR3/2 黒褐	ローム中B・小C/粘B, 締A

第58図 第142号土坑・出土遺物実測図

第48表 第142号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(6.7)	—	繊維・長石・石英	2.5YR6/6 橙	普通	表裏条痕文	覆土中	茅山下層 PL32
2	縄文土器	深鉢	—	(3.3)	—	繊維・長石・石英	5YR6/4 にぶい橙	普通	表裏条痕文	覆土中	茅山下層 PL32



第143号土坑 (第59図 第49表 PL32)

位置 調査区東部のB 2f7区, 標高27mほどの台地上に位置している。

重複関係 第144号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径0.58m, 短径0.48mの楕円形で、長径方向はN-13°-Eである。深さ14cmで壁は外傾し、底面は平坦である。

覆土 3層に分層できる。堆積状況から、埋め戻されている。

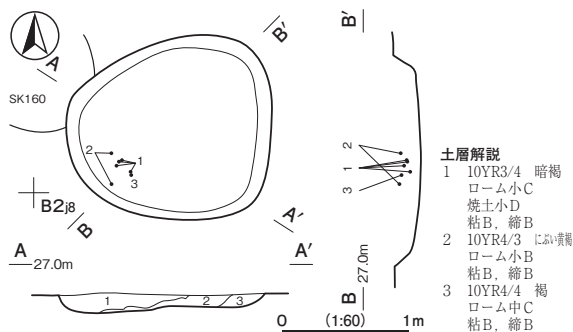
遺物出土状況 縄文土器片11点(深鉢)が出土している。

所見 時期は、出土遺物から縄文時代中期前葉と推定される。

第59図 第143号土坑・出土遺物実測図

第49表 第143号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(2.9)	—	長石・石英・雲母	5YR6/4 にぶい橙	普通	沈線文 三角刺突文	覆土中	五領ヶ台 PL32



第147号土坑 (第60・61図 第50表 PL32・33)

位置 調査区中央部のB 2i8区, 標高27mほどの台地上に位置している。

重複関係 第160号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.62m, 短径1.60mの円形である。

深さ20cmで壁は外傾し、底面は平坦である。

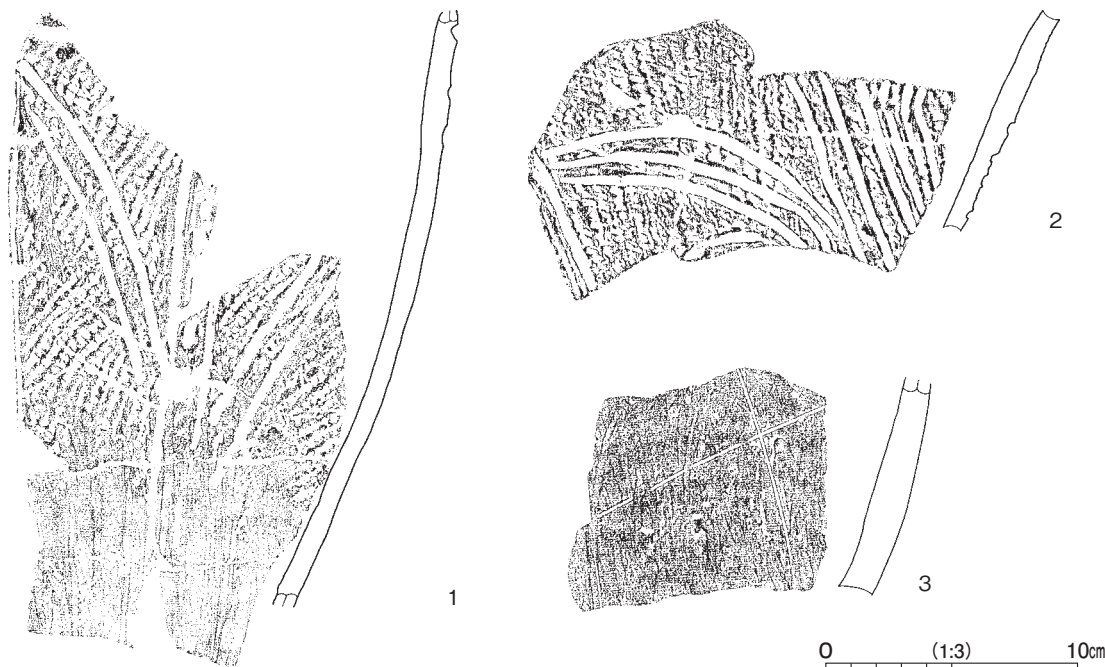
覆土 3層に分層できる。ブロック状の含有物が多く

第60図 第147号土坑実測図

みられることから、埋め戻されている。

遺物出土状況 縄文土器片 23 点（深鉢），石器 1 点（剥片）が出土している。1～3 は，覆土中層から出土している。石器は旧石器時代のものであり，混入と考えられる。

所見 時期は，出土遺物から縄文時代後期前葉と推定される。



第 61 図 第 147 号土坑出土遺物実測図

第 50 表 第 147 号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
1	縄文土器	深鉢	—	(23.6)	—	長石・石英	5YR5/6 明赤褐	普通	縄目の上に沈線文 内面縦方向の磨き	半截竹管文胴部下無文で磨き	覆土中層	堀之内 PL33
2	縄文土器	深鉢	—	(8.8)	—	長石・石英	10YR7/4 にぶい黄橙	普通	縄文の上に沈線文		覆土中層	堀之内 PL32
3	縄文土器	深鉢	—	(8.6)	—	長石・石英・雲母	7.5YR6/4 にぶい橙	普通	十文字に沈線文		覆土中層	網取

第 160 号土坑（第 62 図 第 51 表 PL33）

位置 調査区中央部の B 2 i7 区，標高 27 m ほどの台地上に位置している。

重複関係 第 147 号土坑に掘り込まれている。

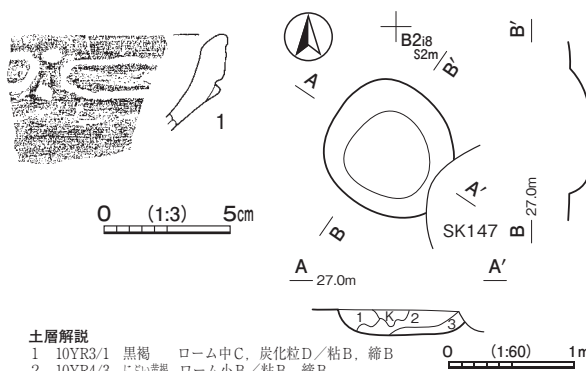
規模と形状 径 1.06 m の円形である。

深さ 18 cm で壁は外傾し，底面は平坦である。

覆土 3 層に分層できる。ブロック状の含有物が多くみられることから，埋め戻されている。

遺物出土状況 縄文土器片 10 点（深鉢）が出土している。

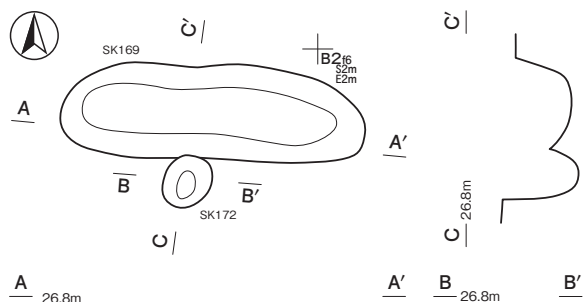
所見 時期は，出土遺物から縄文時代後期前葉と推定される。



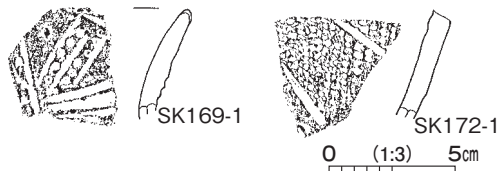
第 62 図 第 160 号土坑・出土遺物実測図

第 51 表 第 160 号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(3.8)	—	長石・石英	5YR5/6 明赤褐	普通	口縁部円形刺突文 沈線文	覆土中	堀之内 PL33



- SK169 土層解説**
- 1 7.5YR3/2 黒褐 ローム粒D, 黒色粒子D/粘B, 締A
 - 2 7.5YR3/3 暗褐 ローム小C・粒B, 黒色粒子D/粘B, 締A
 - 3 7.5YR3/3 暗褐 ローム粒C, 炭化粒D/粘B, 締A
 - 4 7.5YR3/3 暗褐 ローム小C, 炭化粒D/粘B, 締A
 - 5 7.5YR3/3 暗褐 ローム中C・小C, 炭化粒D/粘B, 締A
 - 6 7.5YR3/3 暗褐 ローム中C/粘A, 締A
- SK172 土層解説**
- 1 10YR3/3 暗褐 ローム小C/粘B, 締B
 - 2 10YR3/4 暗褐 ローム小B, 炭化粒D'/粘B, 締B
 - 3 10YR3/4 暗褐 ローム中C/粘B, 締B



第63図 第169・172号土坑・出土遺物実測図

規模と形状 長径0.46 m, 短径0.36 mの楕円形で, 長径方向はN-38°-Eである。深さ60 cmで壁は直立し, 底面はU字状である。

覆土 3層に分層できる。ブロック状の含有物がみられることから, 埋め戻されている。

遺物出土状況 縄文土器片2点(深鉢)が出土している。

所見 時期は, 出土遺物から縄文時代後期前葉と推定される。

第52表 第169号土坑出土遺物一覧

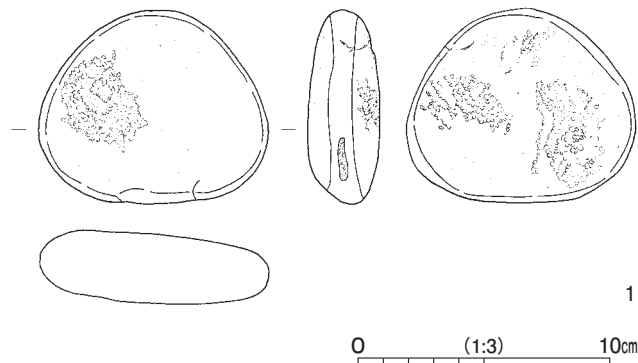
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(4.4)	—	長石・石英	7.5YR6/4 におい橙	普通	円形刺突文 平行沈線文	覆土中	堀之内 PL32

第53表 第172号土坑出土遺物一覧

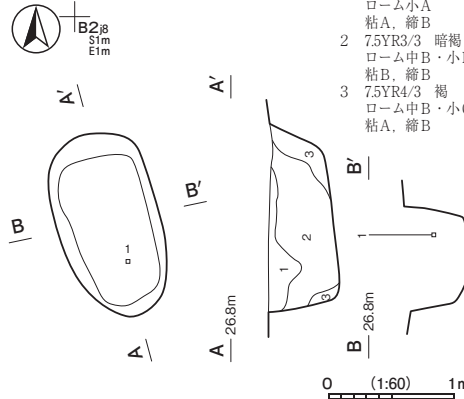
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(4.3)	—	長石・石英	5YR5/4 におい赤褐	普通	沈線で区画し内に縄文	覆土中	堀之内 PL32

第171号土坑 (第64図 第54表)

位置 調査区中央部のB2j8区, 標高27 mほどの台地上に位置している。



- 土層解説**
- 1 7.5YR3/3 暗褐 ローム小A 粘A, 締B
 - 2 7.5YR3/3 暗褐 ローム中B・小B 粘B, 締B
 - 3 7.5YR4/3 褐 ローム中B・小C 粘A, 締B



第64図 第171号土坑・出土遺物実測図

第169号土坑 (第63図 第52表 PL32)

位置 調査区中央部のB2f6区, 標高26 mほどの台地上に位置している。

重複関係 第172号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径2.42 m, 短径0.77 mの楕円形で, 長径方向はN-87°-Wである。深さ48 cmで壁は外傾し, 底面は平坦である。

覆土 6層に分層できる。ブロック状の含有物がみられることから, 埋め戻されている。

遺物出土状況 縄文土器片10点(深鉢)が出土している。

所見 時期は, 出土遺物から縄文時代後期前葉と推定される。

第172号土坑 (第63図 第53表 PL32)

位置 調査区中央部のB2f6区, 標高26 mほどの台地上に位置している。

重複関係 第169号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 1.50 m, 短径 0.83 m の楕円形で, 長径方向は N - 17° - W である。深さ 45 cm で壁は外傾し, 底面は南に向かってやや下がっている。

覆土 3 層に分層できる。ブロック状の含有物が多くみられることから, 埋め戻されている。

遺物出土状況 縄文土器片 3 点 (深鉢), 石器 1 点 (敲石), 1 は, 覆土中層から出土している。

所見 時期は, 出土遺物から縄文時代早期と推定される。

第 54 表 第 171 号土坑出土遺物一覧

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
1	敲石	7.7	9.1	2.9	286.03	硬砂岩	両面敲痕	覆土中層	

第 193 号土坑 (第 65・67 図 第 55 表 PL 4・34)

位置 調査区東部の B 3 a6 区, 標高 27 m ほどの台地上に位置している。

重複関係 第 3 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 長径 1.06 m, 短径 1.00 m の円形である。深さ 25 cm で壁は外傾し, 底面は平坦である。

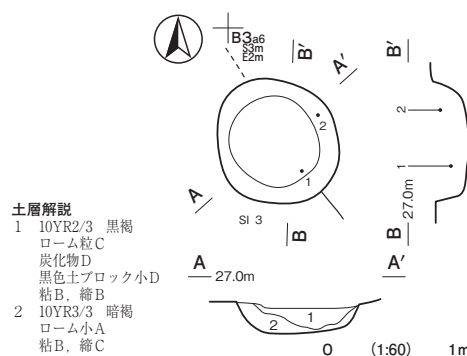
覆土 2 層に分層できる。ブロック状の含有物が多くみられることから, 埋め戻されている。

遺物出土状況 縄文土器片 26 点 (深鉢 25, 浅鉢 1) が出土している。1・2 は覆土中層から出土している。

所見 時期は, 出土遺物から縄文時代後期前葉と推定される。

第 55 表 第 193 号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	[29.8]	[36.5]	—	長石・石英	7.5YR4/1 褐灰	普通	口縁部無文 三角形に隆帯 隆帯に刺突文	覆土中層	網取 PL.34
2	縄文土器	浅鉢	[26.6]	(11.8)	[8.6]	長石・石英	7.5YR6/4 にぶい橙	普通	無文	覆土中層	



第 65 図 第 193 号土坑実測図

第 194 号土坑 (第 66 図 第 56 表 PL.32)

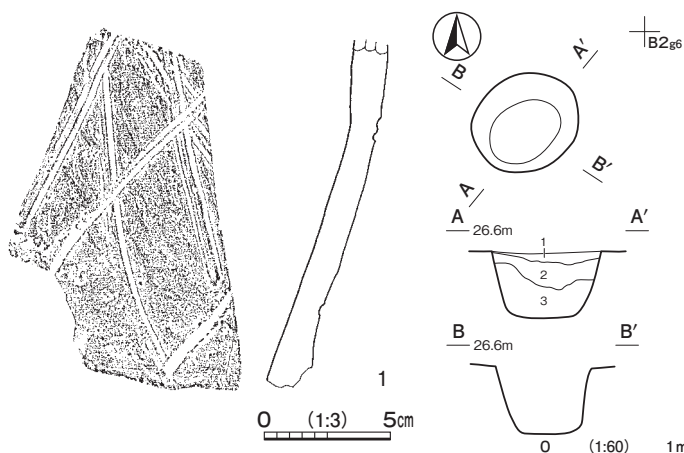
位置 調査区中央部の B 2 g5 区, 標高 26 m ほどの台地上に位置している。

規模と形状 長径 0.85 m, 短径 0.78 m の円形である。深さ 51 cm で壁は外傾し, 底面は平坦である。

覆土 3 層に分層できる。埋没状況から, 埋め戻されている。

遺物出土状況 縄文土器片 1 点 (深鉢) が出土している。1 は, 第 131 号土坑出土遺物 1 と接合した。

所見 時期は, 出土遺物から縄文時代後期前葉と推定される。

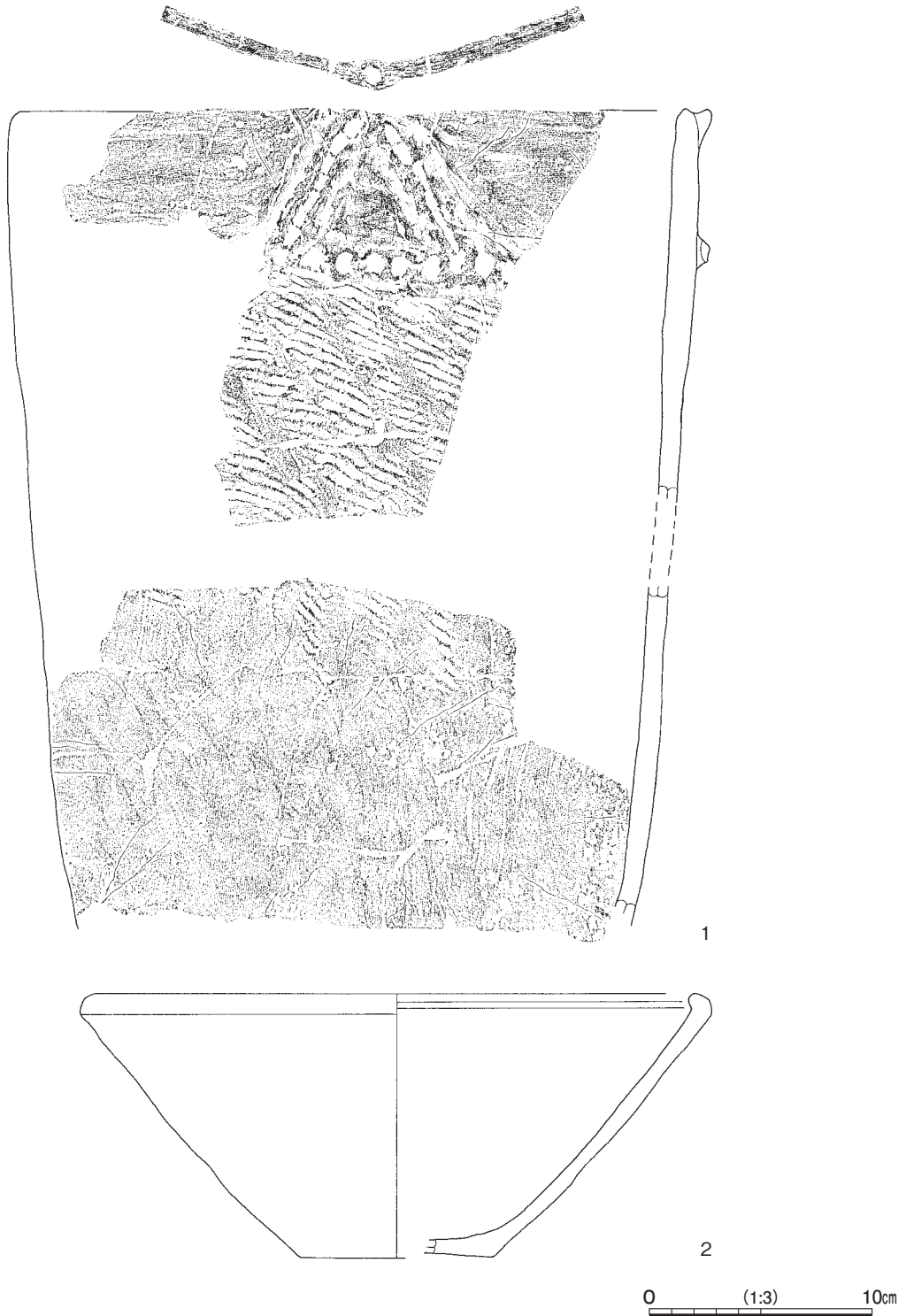


土層解説
 1 7.5YR4/3 褐 ローム粒D, シルト小C/粘B, 締A
 2 7.5YR4/4 褐 シルト中D・小C/粘B, 締B
 3 7.5YR3/4 暗褐 シルト中C/粘B, 締B

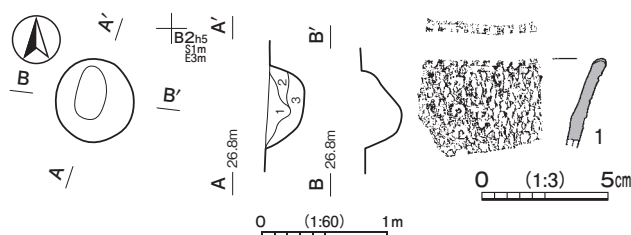
第 66 図 第 194 号土坑・出土遺物実測図

第 56 表 第 194 号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(13.7)	—	長石・石英	10YR3/1 黒褐	普通	沈線文	覆土中	称名寺 PL.32



第 67 図 第 193 号土坑出土遺物実測図



第 197 号土坑 (第 68 図 第 57 表 PL32)

位置 調査区中央部の B 2 h5 区, 標高 27 m ほどの台地上に位置している。

規模と形状 長径 0.68 m, 短径 0.62 m の円形である。深さ 30 cm で壁は外傾し, 底面は皿状である。

第 68 図 第 197 号土坑・出土遺物実測図

覆土 3層に分層できる。ブロック状の含有物が多くみられることから、埋め戻されている。

遺物出土状況 縄文土器片1点(深鉢)が出土している。

土層解説
 1 75YR4/3 褐 ローム小C, 焼土粒D, 炭化粒C/粘B, 締B
 2 75YR3/3 暗褐 ローム小C, 炭化粒D/粘B, 締B
 3 75YR4/4 褐 ローム中B, 炭化粒D/粘B, 締B

所見 時期は、出土遺物から縄文時代前期後葉と推定される。

第57表 第197号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(3.4)	—	繊維・長石・石英	5YR6/4 にぶい橙	普通	口唇部キザミ目 円形刺突文	覆土中	諸磯 PL32

第216号土坑 (第69図 第58表 PL33)

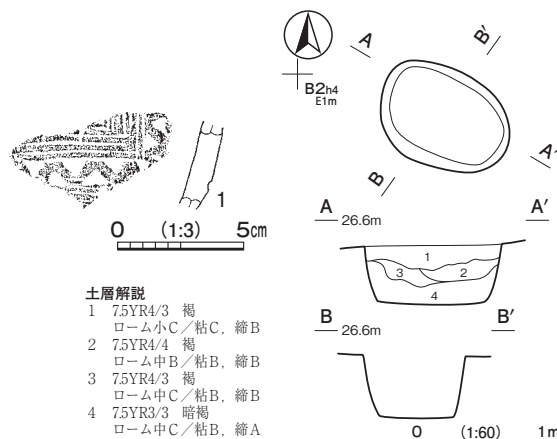
位置 調査区中央部のB2h4区, 標高26mほどの台地上に位置している。

規模と形状 長径1.12m, 短径0.80mの楕円形で, 長径方向はN-54°-Wである。深さ48cmで壁は直立し, 底面は平坦である。

覆土 4層に分層できる。ブロック状の含有物が多くみられることから、埋め戻されている。

遺物出土状況 縄文土器片15点(深鉢)が出土している。

所見 時期は、出土遺物から縄文時代中期前葉と推定される。



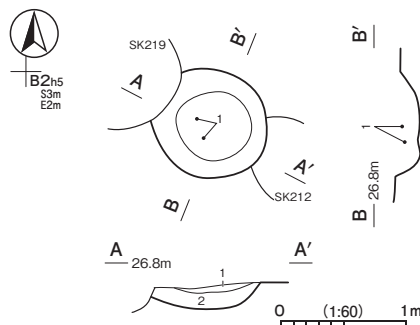
第69図 第216号土坑・出土遺物実測図

第58表 第216号土坑出土遺物一覧

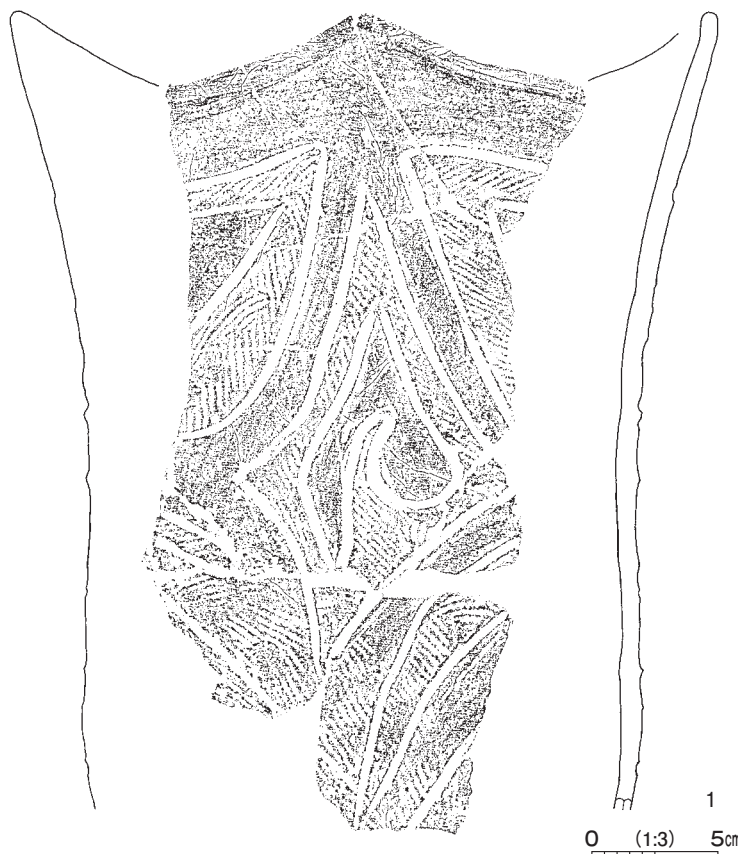
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(3.4)	—	長石・石英・雲母	75YR5/4 にぶい褐	普通	沈線文 交互三角刺突文	覆土中	PL33

第220号土坑

(第70図 第59表 PL 4・33)



土層解説
 1 75YR4/3 褐 ローム粒C/粘C, 締B
 2 75YR4/4 褐 ローム中B, 炭化粒D/粘B, 締B



第70図 第220号土坑・出土遺物実測図

位置 調査区中央部のB 2h5区, 標高27 mほどの台地上に位置している。

重複関係 第212号土坑を掘り込み, 第219号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径0.90 m, 短径0.76 mの楕円形で, 長径方向はN-33°-Wである。深さ14 cmで壁は外傾し, 底面は皿状である。

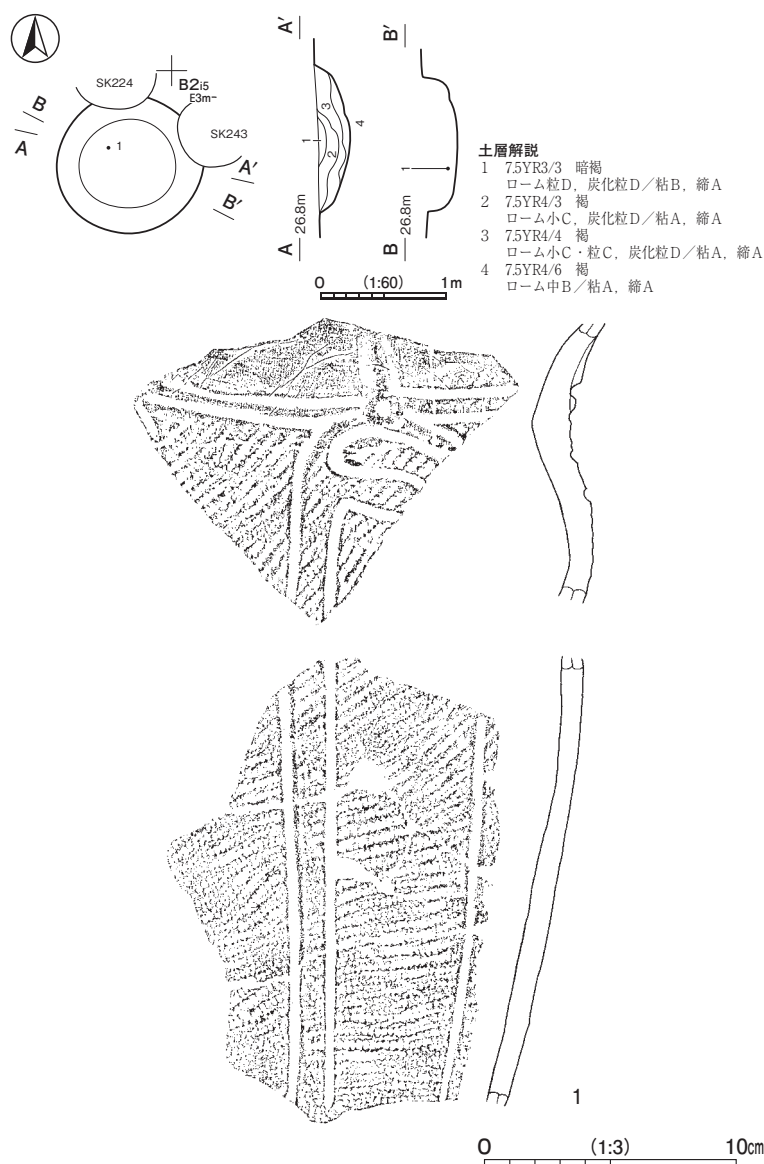
覆土 2層に分層できる。ブロック状の含有物が多くみられることから, 埋め戻されている。

遺物出土状況 縄文土器片3点(深鉢)が出土している。1は, 覆土中層から出土している。

所見 時期は, 出土遺物から縄文時代後期前葉と推定される。

第59表 第220号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	[27.3]	(31.7)	—	長石・石英・雲母	7.5YR6/4	にぶい橙	普通	しの字文 沈線で区画し内に刺突文	覆土中層 称名寺 PL33



第242号土坑

(第71図 第60表 PL34)

位置 調査区東部のB 2i5区, 標高27 mほどの台地上に位置している。

重複関係 第224・243号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.11 m, 短径1.10 mの円形である。深さ26 cmで壁は外傾し, 底面は皿状である。

覆土 4層に分層できる。ブロック状の含有物が多くみられることから, 埋め戻されている。

遺物出土状況 縄文土器片18点(深鉢)が出土している。1は, 覆土下層から出土している。

所見 時期は, 出土遺物から縄文時代後期前葉と推定される。

第71図 第242号土坑・出土遺物実測図

第60表 第242号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(11.1)	—	長石・石英	5YR6/6	橙	普通	沈線文 円形刺突文	覆土下層 堀之内 PL34

第 256 号土坑 (第 72 図 第 61 表 PL32)

位置 調査区中央部の B 2j5 区, 標高 27 m ほどの台地上に位置している。

重複関係 第 255 号土坑を掘り込んでいる。

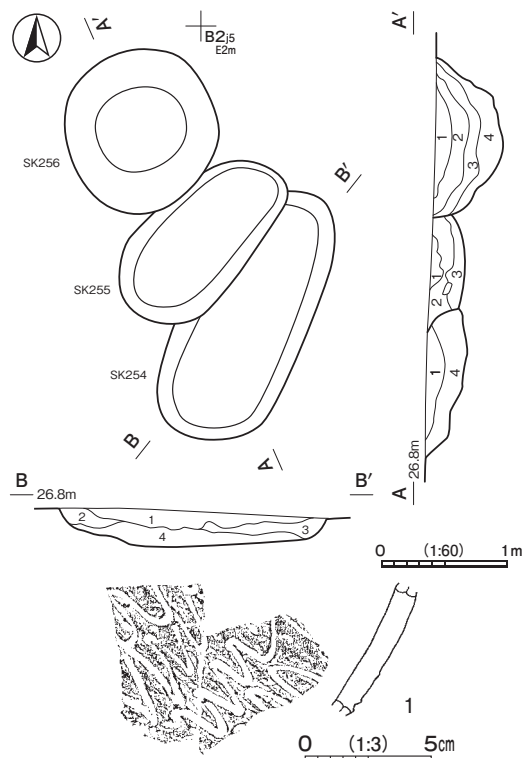
規模と形状 長径 1.26 m, 短径 1.22 m の円形である。深さ 54 cm で壁は外傾し, 底面は平坦である。

覆土 4 層に分層できる。ブロック状の含有物が多くみられることから, 埋め戻されている。

遺物出土状況 縄文土器片 13 点 (深鉢) が出土している。

所見 時期は, 出土遺物から縄文時代後期前葉と推定される。

- SK254 土層解説**
- 1 7.5YR3/4 暗褐 ローム小B / 粘B, 締A
 - 2 7.5YR4/4 褐 ローム小C / 粘B, 締B
 - 3 7.5YR4/3 褐 ローム小C・粒C, 炭化粒D / 粘B, 締B
 - 4 7.5YR4/4 褐 ローム中C・小C / 粘B, 締B
- SK255 土層解説**
- 1 7.5YR3/4 暗褐 ローム粒C, 焼土粒C, 炭化粒D / 粘B, 締B
 - 2 7.5YR4/3 褐 ローム小C・粒C, 焼土粒C / 粘B, 締B
 - 3 7.5YR4/4 褐 ローム中B・小C, 焼土粒D / 粘B, 締B
- SK256 土層解説**
- 1 7.5YR4/4 褐 ローム小C・粒C / 粘B, 締B
 - 2 7.5YR4/3 褐 ローム中C・小C / 粘B, 締B
 - 3 7.5YR3/4 暗褐 ローム小C / 粘B, 締B
 - 4 7.5YR3/3 暗褐 ローム中B / 粘B, 締B



第 72 図 第 256 号土坑・出土遺物実測図

第 61 表 第 256 号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(5.2)	—	長石・石英	7.5YR6/6 橙	普通	沈線文 蛇行沈線文	覆土中	堀之内 PL32

第 257 号土坑 (第 73 図 第 62 表 PL33)

位置 調査区南部の C 2c4 区, 標高 27 m ほどの台地上に位置している。

規模と形状 長径 1.52 m, 短径 1.27 m の楕円形で, 長径方向は N - 25° - E である。深さ 110 cm で壁は直立し, 底面は平坦である。

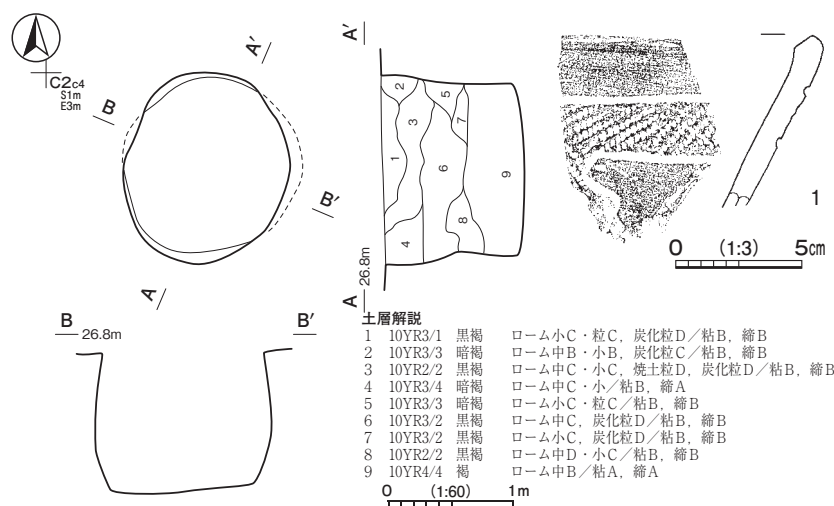
覆土 9 層に分層できる。ブロック状の含有物が多くみられることから, 埋め戻されている。

遺物出土状況 縄文土器片 34 点 (深鉢), 石器 3 点 (剥片) が出土している。石器は旧石器時代のものであり, 混入と考えられる。

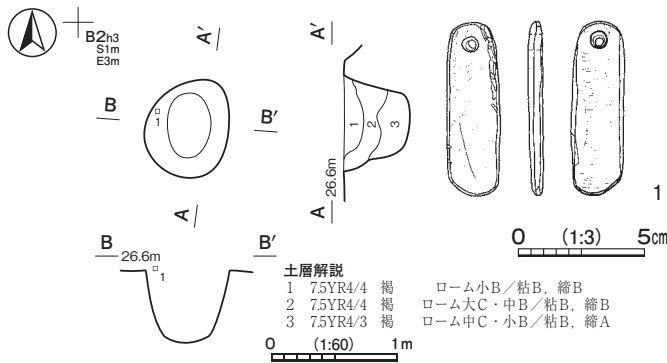
所見 時期は, 出土遺物から縄文時代後期前葉と推定される。

第 62 表 第 257 号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(6.9)	—	長石・石英	5YR6/6 橙	普通	沈線で区画し内に縄文	覆土中	堀之内 PL33



第 73 図 第 257 号土坑・出土遺物実測図



第74図 第260号土坑・出土遺物実測図

第260号土坑 (第74図 第63表 PL34)

位置 調査区中央部のB2h3区, 標高27mほどの台地上に位置している。

規模と形状 長径0.82m, 短径0.68mの楕円形で, 長径方向はN-32°-Eである。深さ58cmで壁は外傾し, 底面は皿状である。

覆土 3層に分層できる。ブロック状の含有物が多くみられることから, 埋め戻されている。

遺物出土状況 縄文土器片2点(深鉢), 石製品1点(垂飾り)が出土している。1は, 覆土上層から出土している。

所見 時期は, 出土遺物から縄文時代後期前葉と推定される。

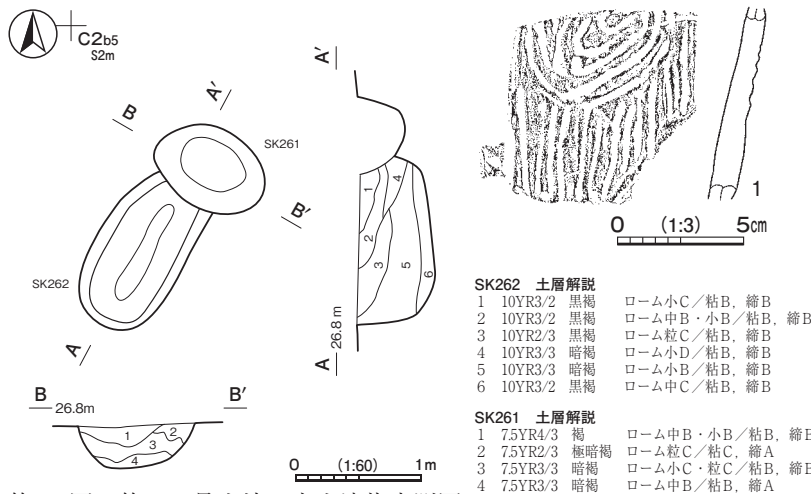
第63表 第260号土坑出土遺物一覧

番号	器種	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
1	垂飾り	6.8	2.1	0.6	0.6	16.46	デイスait	両方向からの穿孔 横方向への磨き痕	覆土上層	PL34

第261号土坑 (第75図 第64表 PL34)

位置 調査区南部のC2b5区, 標高27mほどの台地上に位置している。

重複関係 第262号土坑を掘り込んでいる。



第75図 第261号土坑・出土遺物実測図

規模と形状 長径0.89m, 短径0.38mの楕円形で, 長径方向はN-57°-Wである。深さ33cmで壁は外傾し, 底面は皿状である。

覆土 4層に分層できる。ブロック状の含有物が多くみられることから, 埋め戻されている。

遺物出土状況 縄文土器片5点(深鉢)が出土している。

所見 時期は, 出土遺物から縄文時代中期前葉と推定される。

第64表 第261号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(7.5)	—	長石・石英	7.5YR6/4 におい橙	普通	沈線文	覆土中	五領ヶ台 PL34

第276号土坑 (第76図 第65表 PL34)

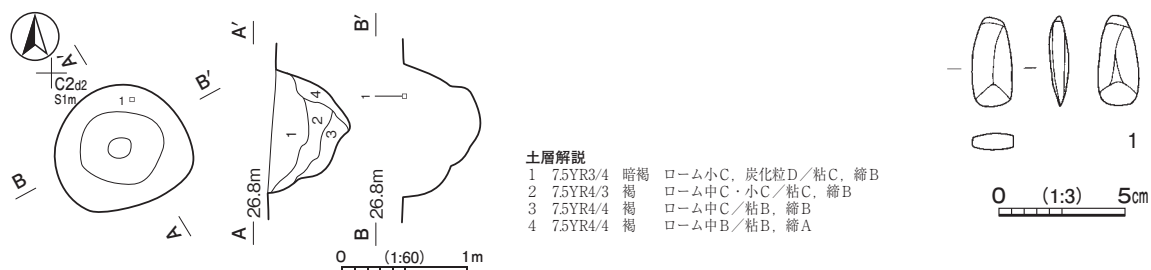
位置 調査区南部のC2d2区, 標高27mほどの台地上に位置している。

規模と形状 長径1.07m, 短径0.96mの楕円形で, 長径方向はN-52°-Eである。深さ62cmで壁は外傾し, 底面は凹凸がある。

覆土 4層に分層できる。ブロック状の含有物が多くみられることから, 埋め戻されている。

遺物出土状況 縄文土器片9点(深鉢), 石器1点(磨製石斧)が出土している。1は, 覆土上層から出土している。

所見 時期は, 出土遺物から縄文時代後期前葉と推定される。



第 76 図 第 276 号土坑・出土遺物実測図

第 65 表 第 276 号土坑出土遺物一覧

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
1	磨製石斧	3.5	1.6	0.7	6.03	流紋岩	定角式 小形 全面研磨 ハマグリ刃	覆土上層	PL34

第 282 号土坑 (第 77 図 第 66 表)

位置 調査区南部の C 2d1 区, 標高 27 m ほどの台地上に位置している。

重複関係 第 302 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 1.11 m, 短径 1.00 m の楕円形で, 長径方向は N - 52° - E である。深さ 40 cm で壁は外傾し, 底面は平坦である。

覆土 3 層に分層できる。埋没状況から, 埋め戻されている。

遺物出土状況 縄文土器片 9 点 (深鉢) が出土している。1 は, 覆土中層から出土している。

所見 時期は, 出土遺物から縄文時代後期前葉と推定される。



第 77 図 第 282 号土坑・出土遺物実測図

第 66 表 第 282 号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	[31.6]	(23.7)	—	長石・石英・赤色粒子	7.5YR6/4 にぶい橙	普通	口縁部から胴部に太い縄目	覆土中層	堀之内

第 286 号土坑 (第 78 図 第 67 表 PL33)

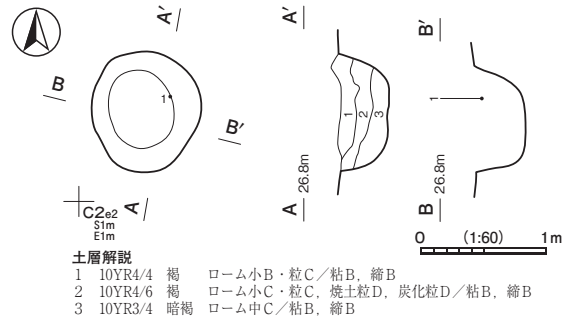
位置 調査区南部の C 2e2 区, 標高 26 m ほどの台地上に位置している。

規模と形状 長径0.98 m, 短径0.86 mの楕円形で, 長径方向はN - 2° - Eである。深さ44 cmで壁は外傾し, 底面は平坦である。

覆土 3層に分層できる。ブロック状の含有物が多くみられることから, 埋め戻されている。

遺物出土状況 縄文土器片7点(深鉢)が出土している。1は, 覆土上層から出土している。

所見 時期は, 出土遺物から縄文時代後期前葉と推定される。



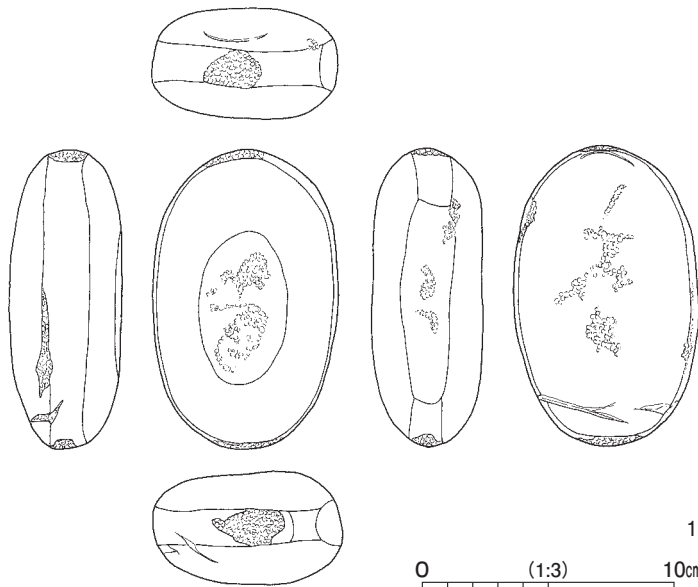
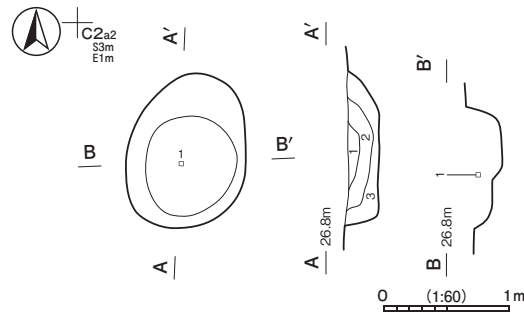
土層解説
 1 10YR4/4 褐 ローム小B・粒C/粘B, 締B
 2 10YR4/6 褐 ローム小C・粒C, 焼土粒D, 炭化粒D/粘B, 締B
 3 10YR3/4 暗褐 ローム中C/粘B, 締B

第78図 第286号土坑・出土遺物実測図

0 (1:3) 5cm

第67表 第286号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	[22.0]	(28.2)	—	長石・石英・雲母	5 YR6/6 橙	普通	波状口縁 口縁部から胴部に太い縄目	覆土上層	堀之内 PL33



第295号土坑 (第79図 第68表)

位置 調査区南部のC 2 a2区, 標高27 mほどの台地上に位置している。

規模と形状 長径2.50 m, 短径1.90 mの楕円形で, 長径方向はN - 10° - Eである。深さ26 cmで壁は外傾し, 底面は有段である。

覆土 3層に分層できる。ブロック状の含有物が多くみられることから, 埋め戻されている。

遺物出土状況 縄文土器片4点(深鉢), 石器1点(磨石)が出土している。1は, 覆土上層から出土している。

所見 時期は, 出土遺物から縄文時代早期後葉と推定される。

土層解説
 1 7.5YR3/3 暗褐 ローム粒C, 炭化粒D/粘B, 締B
 2 7.5YR4/3 褐 ローム小C/粘B, 締B
 3 7.5YR4/4 褐 ローム中B/粘A, 締A

第79図 第295号土坑・出土遺物実測図

第 68 表 第 295 号土坑出土遺物一覧

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
1	磨石	2.4	1.9	0.6	632.49	硬砂岩	両面敲痕	覆土上層	

第 302 号土坑 (第 80 図 第 69 表 PL33)

位置 調査区南部の C 2c2 区、
標高 27 m ほどの台地上に位置
している。

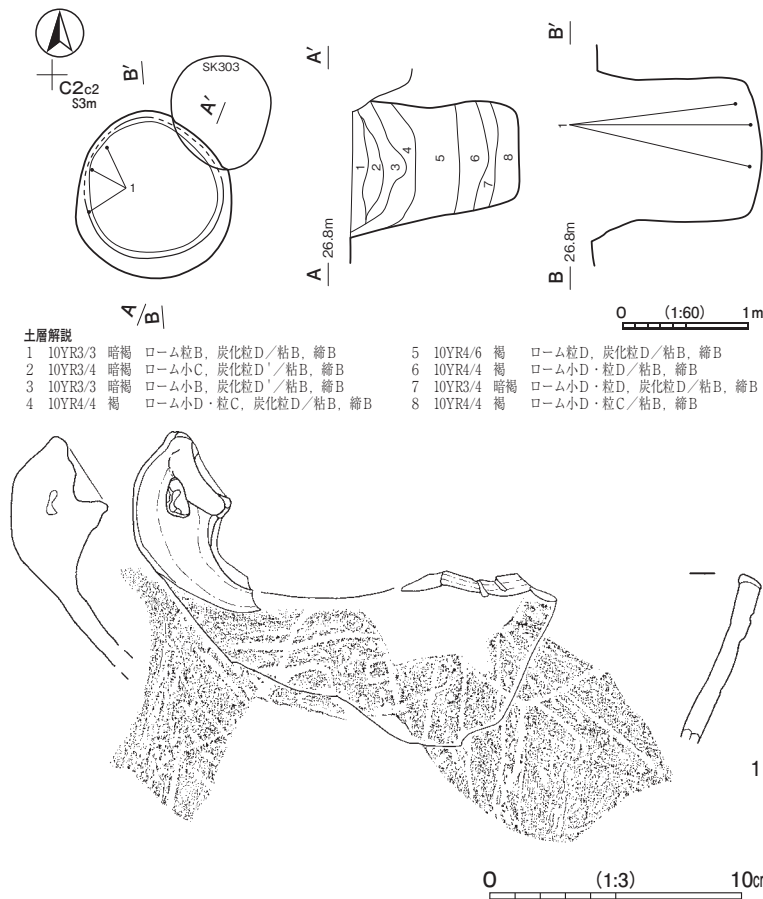
重複関係 第 303 号土坑に掘り
込まれている。

規模と形状 長径 1.32 m、短
径 1.27 m の楕円形で、長径方
向は N - 18° - W である。深
さ 130 cm で壁は直立し、底面は
平坦である。

覆土 8 層に分層できる。ブ
ロック状の含有物が多くみられ
ることから、埋め戻されている。

遺物出土状況 縄文土器片 125
点 (深鉢) が出土している。1
は、覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土遺物から縄
文時代後期前葉と推定される。



第 80 図 第 302 号土坑・出土遺物実測図

第 69 表 第 302 号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(8.3)	—	長石・石英	5YR6/6 橙	普通	口縁部円環状突起	覆土下層	称名寺 PL33

第 70 表 縄文時代土坑一覧

番号	位置	主軸方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	重複関係	備考
				長軸×短軸 (m)	深さ						
1	A3f1	N - 34° - W	楕円形	0.65 × 0.54	76	内傾	U字状	人為	縄文土器		
3	A3g1	N - 52° - W	楕円形	1.96 × 1.00	14 ~ 41	外傾	平坦	人為	夏島	SK12 → 本跡	早期前葉
4	A3g3	N - 78° - E	楕円形	[2.53] × 0.92	27	外傾	平坦	人為	縄文土器	SK28 → 本跡 → SK22	
5	A2g0	N - 69° - E	不整楕円形	1.06 × 0.74	39	外傾	凹凸	人為	縄文土器	PG2P40 → 本跡	
8	A3h3	N - 66° - W	隅丸長方形	1.12 × 0.72	30・33	外傾	U字状	人為	縄文土器		
9	A3j3	N - 26° - W	楕円形	0.93 × 0.83	27	外傾	U字状	人為	縄文土器		
10	A3j2	—	不整形	1.20 × 1.14	13	外傾	凹凸	人為	縄文土器	SK31 → 本跡	
11	A3g1	N - 20° - W	楕円形	0.90 × 0.62	40	外傾	平坦	人為	縄文土器・石鏃・磨石		
12	A3g1	N - 12° - E	不整形	[1.79] × 1.47	14 ~ 48	外傾	平坦	人為	縄文土器	本跡 → SK3	
21	A3h4	N - 30° - W	楕円形	0.77 × 0.68	28	外傾	U字状	人為	縄文土器		
23	A2g0	N - 45° - E	楕円形	0.87 × 0.73	33	外傾	平坦	人為	縄文土器		
24	A2f0	N - 39° - W	楕円形	[1.03] × 0.82	21	外傾	平坦	人為	縄文土器	SK33・PG2P6 → 本跡	
25	A2f1	N - 76° - W	楕円形	0.70 × 0.56	27	外傾	平坦	人為	縄文土器		
26	A3g1	—	円形	0.49 × 0.49	33	外傾	U字状	人為			
28	A3g3	N - 75° - W	楕円形	0.85 × [0.69]	21	外傾	平坦	人為	縄文土器	本跡 → SK4	
30	A3i2	N - 23° - W	楕円形	1.21 × 0.93	28・44	外傾	U字状	人為	縄文土器		
31	A3j2	N - 54° - E	楕円形	(0.66) × 0.60	29	外傾	U字状	人為	縄文土器	本跡 → SK10	
33	A2g0	N - 48° - E	楕円形	(0.70) × 0.68	12	外傾	平坦	人為	縄文土器	本跡 → SK24	早期中葉
34	B3f6	N - 24° - W	楕円形	1.54 × 1.40	83	外傾	平坦	人為	堀之内		後期前葉
35	B3f5	N - 11° - E	楕円形	1.61 × 1.28	80	外傾	凹凸	人為	縄文土器	SK36 → 本跡	

番号	位置	主軸方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	重複関係	備考
				長軸×短軸 (m)	深さ						
36	B3f5	-	円形	0.96 × (0.58)	34	外傾	平坦	人為	茅山下層	本跡→SK35	早期後葉
37	B3e4	-	円形	0.90 × (0.71)	19	外傾	平坦	人為	縄文土器		
38	B3e4	N - 27° - E	楕円形	1.28 × 0.80	12	外傾	平坦	人為	網取	SK39・55→本跡	後期前葉
41	B3a2	N - 27° - W	楕円形	0.75 × (0.68)	25	外傾	平坦	人為	縄文土器	SK93→本跡→SK40	
44	A2g0	-	円形	1.00 × 0.97	22	外傾	平坦	人為	縄文土器	PG2P39→本跡	
45	B3e4	-	円形	0.99 × 0.95	56	外傾	平坦	人為	堀之内	SK46→本跡	後期前葉
48	B3e4	N - 58° - E	楕円形	1.32 × 0.85	30	外傾	平坦	人為	縄文土器	SK49・53→本跡→SK69・70	
54	B3e4	-	円形	0.62 × 0.60	18	外傾	平坦	人為	縄文土器	SK53→本跡	
57	B3e4	-	円形	0.84 × 0.79	20	外傾	平坦	人為	縄文土器	SK60→本跡→SK58	
58	B3d4	-	[円形]	0.52 × (0.30)	21	外傾	平坦	人為	縄文土器	SK57→本跡→SK59	
59	B3d4	-	円形	0.99 × 1.00	26	外傾	平坦	人為	縄文土器	SK58→本跡	
60	B3e4	N - 38° - E	楕円形	1.01 × 0.89	25	外傾	平坦	人為	縄文土器	本跡→SK57	
61	B3d4	N - 15° - W	楕円形	1.62 × 1.22	24	外傾	凹凸	人為	堀之内	SK102→本跡	後期前葉
64	B3d5	-	円形	1.16 × 1.12	40	外傾	平坦	人為	縄文土器		
65	A2j0	N - 15° - W	楕円形	1.18 × 0.70	48	外傾	平坦	人為	縄文土器・石鏃・磨石		
66	A2j0	N - 7° - W	楕円形	1.48 × 1.04	32	外傾	平坦	人為	浮島Ⅲ・石鏃		前期後葉
67	B3d5	-	円形	0.90 × 0.82	28	外傾	平坦	人為	縄文土器	SK74→本跡	
72	B3c4	-	円形	1.56 × 1.42	24	外傾	平坦	人為	縄文土器	SK73→本跡→SK81	前期
73	B3c5	N - 88° - E	方形	2.36 × 1.94	22	外傾	平坦	人為	茅山下層	SK135→本跡→SK42・72・74	早期後葉
74	B3d5	N - 40° - W	楕円形	1.22 × 1.00	20	外傾	平坦	人為		SK73→本跡→SK67	
76	B3c4	-	楕円形	0.86 × 0.68	22	外傾	平坦	人為	縄文土器	SK77→本跡	
77	B3c4	N - 88° - W	楕円形	(1.10) × 0.76	50	外傾	平坦	人為	縄文土器	本跡→SK76・79	
78	B3d4	N - 25° - W	楕円形	0.84 × 0.68	26	外傾	平坦	人為	称名寺	SK131→本跡→SK85・136	後期前葉
79	B3c4	N - 21° - W	楕円形	1.06 × 0.74	42	外傾	平坦	人為	縄文土器	本跡→SK77	
85	B3d5	N - 25° - W	楕円形	1.38 × 0.82	66	外傾	平坦	人為	網取	SK78・84・131→本跡	後期前葉
86	B3f2	N - 23° - W	楕円形	1.00 × 0.88	26	外傾	平坦	人為	縄文土器	SK87→本跡→SK98	
88	B3f3	N - 35° - E	楕円形	0.80 × 0.70	46	外傾	平坦	人為	縄文土器		
90	B3h4	N - 79° - E	楕円形	2.18 × 1.01	66	外傾	平坦	人為	縄文土器		
91	B3b3	N - 20° - W	楕円形	1.00 × 0.80	18	外傾	平坦	人為	縄文土器	SK139→本跡	
93	A3j2	N - 62° - W	[楕円形]	[1.10] × 0.95	16	外傾	平坦	人為	縄文土器	本跡→SK40・41・94	
96	B3d2	N - 5° - W	楕円形	[1.30] × [1.05]	50	外傾	平坦	人為	称名寺		後期前葉
99	B3c3	-	円形	1.03 × 1.00	40	外傾	平坦	人為	堀之内		前期後葉
100	B3c3	N - 8° - W	楕円形	1.16 × 0.78	18	外傾	平坦	人為	縄文土器		
101	B3d4	-	円形	1.20 × 1.18	18	外傾	平坦	人為	縄文土器	SK131・132・135→本跡	
105	B3g2	-	円形	1.17 × 1.10	34	外傾	平坦	人為	縄文土器	本跡→SK104・106	
106	B3g3	-	円形	1.08 × 1.03	26	外傾	平坦	人為	縄文土器	SK97・105→本跡	
109	B3e2	N - 30° - E	楕円形	1.15 × 1.00	52	外傾	平坦	人為	縄文土器		
111	B3g2	N - 5° - W	楕円形	(1.60) × 0.79	46	外傾	平坦	人為	縄文土器		
112	B3f1	N - 6° - W	楕円形	2.18 × 0.86	70	外傾	平坦	人為	縄文土器	本跡→SK150	
113	B2e0	N - 52° - E	楕円形	1.07 × 0.94	66	外傾	皿状	人為	茅山下層		早期後葉
115	B3e3	N - 22° - W	楕円形	0.91 × 0.62	26	外傾	平坦	人為	縄文土器		
117	B2d0	N - 27° - E	[楕円形]	[1.10] × (0.85)	32	-	平坦	人為	縄文土器	本跡→SK123	
118	B2e0	N - 83° - W	楕円形	0.94 × 0.83	78	外傾	平坦	人為	縄文土器		
119	B2e0	N - 64° - W	楕円形	0.95 × 0.82	58	外傾	U字状	人為	田戸下層		早期中葉
120	B3e1	-	円形	0.68 × 0.65	74	外傾	平坦	人為	縄文土器		
124	B3c2	N - 58° - W	楕円形	0.76 × 0.62	22	外傾	平坦	人為	縄文土器		
125	B3d2	N - 80° - W	楕円形	0.90 × 0.70	18	外傾	平坦	人為	縄文土器		
126	B2g0	N - 32° - W	楕円形	2.18 × 1.34	66	外傾	平坦	人為	浮島		前期後葉
127	B2g9	N - 13° - W	楕円形	1.20 × 0.98	20	外傾	平坦	人為	茅山下層		早期後葉
129	B2h9	N - 87° - E	楕円形	1.00 × 0.74	20	外傾	平坦	人為	縄文土器		
130	B2h8	N - 41° - E	楕円形	2.21 × 1.02	115	外傾	平坦	人為	茅山下層		早期後葉
131	B3d4	N - 50° - E	楕円形	(1.32) × (0.86)	20	外傾	平坦	人為	堀之内	SK132→本跡→SK78・85・101	後期前葉
132	B3d5	N - 58° - E	楕円形	[1.00] × [0.52]	24	外傾	平坦	人為	縄文土器	本跡→SK80・84・85・101・131	
134	B2h8	-	円形	0.80 × 0.74	20	外傾	平坦	人為	縄文土器		
137	B3d3	N - 80° - W	楕円形	0.60 × (0.40)	42	外傾	U字状	人為	縄文土器		
138	B3b3	N - 50° - E	楕円形	1.42 × 1.03	38	外傾	皿状	人為	堀之内	SK139→本跡	後期前葉
139	B3b2	N - 42° - W	隅丸長方形	2.16 × 1.16	116	外傾	平坦	人為	堀之内	本跡→SK91・138	後期前葉
142	B2j8	N - 6° - W	楕円形	2.42 × 1.28	92	外傾	U字状	人為	茅山下層		早期後葉
143	B2i7	N - 13° - E	楕円形	0.58 × 0.48	14	外傾	平坦	人為	五領ヶ台	SK144→本跡	中期前葉
145	B2i7	-	円形	1.00 × 1.02	21	外傾	平坦	人為	縄文土器		
147	B2i8	-	円形	1.62 × 1.60	20	外傾	平坦	人為	堀之内	SK160→本跡	後期前葉
150	B3f1	-	円形	0.82 × 0.75	50	外傾	平坦	人為	浮島	SK112→本跡	前期後葉
152	B2i7	N - 3° - E	楕円形	0.53 × 0.44	64	外傾	U字状	人為	縄文土器		
155	B2i7	N - 76° - E	楕円形	0.77 × 0.50	50	有段	U字状	人為	縄文土器		
158	B2c0	-	円形	1.02 × 0.95	24	外傾	平坦	人為	縄文土器		
160	B2i7	-	円形	1.06 × 1.06	18	外傾	平坦	人為	堀之内	本跡→SK147	後期前葉
167	B2e7	N - 50° - W	楕円形	[1.59] × (0.87)	32	外傾	平坦	人為	縄文土器	本跡→SK182・191	
169	B2i6	N - 87° - W	楕円形	2.42 × 0.77	48	外傾	平坦	人為	堀之内	本跡→SK172	後期前葉
170	B2i7	N - 69° - W	楕円形	0.35 × 0.30	68	外傾	U字状	人為	縄文土器		
171	B2j8	N - 17° - W	楕円形	1.50 × 0.83	45	外傾	平坦	人為	縄文土器・敲石		早期
172	B2i6	N - 38° - E	楕円形	0.46 × 0.36	60	垂直	U字状	人為	堀之内	SK169→本跡	後期前葉
173	B2i7	-	円形	0.70 × 0.64	22	外傾	平坦	人為	縄文土器	本跡→SK174	
174	B2i7	-	円形	0.90 × (0.80)	48	外傾	平坦	人為	縄文土器	SK173→本跡	

番号	位置	主軸方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	重複関係	備考
				長軸×短軸 (m)	深さ						
175	B2f6	N - 51° - E	楕円形	1.10 × 1.00	80	外傾	有段	人為	縄文土器		
176	B2g7	-	円形	0.46 × 0.42	66	外傾	U字状	人為	縄文土器		
179	B3g6	-	円形	0.70 × 0.68	20	外傾	平坦	人為	縄文土器		
180	B2g6	N - 18° - W	楕円形	0.86 × 0.72	20	外傾	平坦	人為	縄文土器		
181	B2i8	N - 35° - E	楕円形	1.10 × 1.00	34	外傾	皿状	人為	縄文土器		
182	B2e7	-	円形	0.85 × 0.80	30	外傾	皿状	人為	縄文土器	SK167 → 本跡	
185	B2h6	N - 21° - W	楕円形	0.88 × 0.67	12 ~ 30	外傾	凹凸	人為	縄文土器	本跡 → SK188	
187	A3i4	-	円形	1.09 × 1.05	70	外傾	平坦	人為	縄文土器		
190	A3j5	N - 22° - E	楕円形	1.15 × 0.99	49	外傾	平坦	人為	縄文土器		
191	B2e7	N - 54° - W	楕円形	0.61 × 0.54	58	外傾	U字状	人為	縄文土器	SK167 → 本跡	
192	A3j5	N - 49° - E	楕円形	1.01 × 0.80	36	外傾	平坦	人為	縄文土器		
193	B3a6	-	円形	1.06 × 1.00	25	外傾	平坦	人為	網取	本跡 → SI3	後期前葉
194	B2j4	-	円形	0.85 × 0.78	51	外傾	平坦	人為	称名寺		後期前葉
195	B2g5	N - 76° - W	楕円形	2.62 × 1.20	82	外傾	平坦	人為	縄文土器	本跡 → SK204	
196	B2g8	N - 68° - W	楕円形	0.36 × 0.23	25	外傾	平坦	人為	縄文土器	SK203 → 本跡	
197	B2h5	-	円形	0.68 × 0.62	30	外傾	皿状	人為	諸礎		前期後葉
201	B2g8	N - 32° - E	不定形	0.95 × 0.80	56	外傾	平坦	人為	縄文土器	SK202 → 本跡	
202	B2g8	N - 41° - W	楕円形	1.11 × 0.58	18	外傾	平坦	人為	縄文土器	本跡 → SK201・203	
204	B2g5	-	円形	0.79 × [0.76]	74	外傾	平坦	人為	縄文土器	SK195 → 本跡	
206	B2h5	-	円形	0.82 × 0.78	24	外傾	平坦	人為	縄文土器		
208	B2h4	N - 48° - E	楕円形	(0.63) × 0.55	16	外傾	平坦	人為	縄文土器	本跡 → SK209	
210	B2g4	-	円形	1.03 × 1.02	34	外傾	平坦	人為	縄文土器	SK211 → 本跡 → SK213	後期前葉カ
211	B2g5	N - 37° - E	[楕円形]	1.04 × (0.75)	38	外傾	平坦	人為	縄文土器	本跡 → SK210	
213	B2g5	N - 76° - W	楕円形	0.53 × 0.45	53	外傾	平坦	人為	縄文土器	SK210 → 本跡	
214	B2g5	-	円形	0.45 × 0.44	33	外傾	平坦	人為	縄文土器		後期前葉カ
216	B2h4	N - 54° - E	楕円形	1.12 × 0.80	48	垂直	平坦	人為	縄文土器		中期前葉
217	B2g5	-	円形	0.80 × 0.76	25	外傾	平坦	人為	縄文土器		
219	B2h5	-	円形	0.94 × 0.90	32	外傾	皿状	人為	縄文土器	SK220 → 本跡	後期前葉カ
220	B2h5	N - 33° - W	楕円形	0.90 × 0.76	14	外傾	皿状	人為	称名寺	SK212 → 本跡 → SK219	後期前葉
221	B3d8	N - 22° - E	隅丸長方形	2.26 × 1.04	104	垂直	平坦	人為	茅山下層	TM 3 周溝 → 本跡	早期後葉
222	B2i6	N - 69° - E	楕円形	(1.23) × 0.91	20	外傾	平坦	人為	縄文土器	本跡 → SI5	後期前葉カ
224	B2h5	-	円形	0.54 × (0.46)	26	外傾	皿状	人為	縄文土器	本跡 → SK223	
226	B2i4	-	円形	0.83 × 0.79	24	外傾	平坦	人為	縄文土器		後期前葉カ
227	B2h4	N - 16° - W	楕円形	1.14 × 0.88	26	外傾	平坦	人為	縄文土器		後期前葉カ
229	B2i4	N - 39° - E	楕円形	1.86 × 1.34	14	外傾	平坦	人為	縄文土器	SK230 → 本跡 → SK245	前期前葉カ
230	B2i4	N - 39° - E	楕円形	1.50 × 1.06	14	外傾	平坦	人為	縄文土器	本跡 → SK229	前期後葉カ
231	B2i4	-	円形	1.00 × 1.00	22	外傾	平坦	人為	縄文土器		後期前葉カ
232	B2i5	N - 33° - E	楕円形	0.96 × 0.73	36	外傾	平坦	人為	縄文土器		
233	B2i5	N - 47° - W	楕円形	1.37 × 1.07	35	外傾	有段	人為	縄文土器		早期後葉カ
237	C2a6	N - 54° - E	楕円形	1.00 × 0.68	72	外傾	有段	人為	縄文土器		後期前葉カ
238	B2i5	N - 17° - E	楕円形	0.86 × 0.66	54	垂直	U字状	人為	縄文土器		前期前葉カ
240	B2j6	-	円形	0.41 × 0.40	42	外傾	有段	人為	縄文土器		前期前葉カ
241	C2a6	N - 52° - E	楕円形	1.10 × (0.28)	30	外傾	平坦	人為	縄文土器	本跡 → SK249	
242	B2i5	-	円形	1.11 × 1.10	26	外傾	皿状	人為	堀之内	本跡 → SK224・243	後期前葉
243	B2i5	-	円形	0.62 × 0.58	70	外傾	有段	人為	縄文土器	SK242 → 本跡	前期カ
244	B2h4	N - 56° - E	不定形	0.90 × 0.86	58	垂直	U字状	人為	縄文土器		後期前葉カ
245	B2i4	N - 40° - E	楕円形	0.62 × 0.46	20	外傾	平坦	人為	縄文土器	SK229 → 本跡	前期カ
246	C2b5	N - 86° - W	楕円形	1.57 × 1.18	35	外傾	平坦	人為	縄文土器		前期カ
247	C2b5	N - 71° - E	楕円形	1.58 × 1.37	46	外傾	平坦	人為	縄文土器		後期前葉カ
248	C2a6	N - 76° - W	隅丸長方形	1.50 × 1.22	96	外傾	平坦	人為	縄文土器		後期前葉カ
250	C2a5	N - 74° - W	楕円形	1.35 × 1.13	60	外傾	平坦	人為	縄文土器		早期後葉
253	C2c4	N - 19° - W	楕円形	2.00 × 1.76	48	外傾	有段	人為	縄文土器		後期前葉カ
254	B2i5	N - 28° - E	楕円形	2.15 × 1.00	32	外傾	平坦	人為	縄文土器	本跡 → SK225	中期前葉カ
255	B2j5	N - 43° - E	楕円形	1.57 × 0.88	24	外傾	平坦	人為	縄文土器	SK254 → 本跡 → SK256	後期カ
256	B2j5	-	円形	1.26 × 1.22	54	外傾	平坦	人為	堀之内	SK255 → 本跡	後期前葉
257	C2c5	N - 25° - E	楕円形	1.52 × 1.27	110	垂直	平坦	人為	堀之内		後期前葉
259	B2h3	-	円形	0.81 × 0.80	50	外傾	U字状	人為	縄文土器		後期前葉カ
260	B2h3	N - 32° - E	楕円形	0.82 × 0.68	58	外傾	皿状	人為	縄文土器・垂飾り		後期前葉
261	C2b5	N - 57° - W	楕円形	0.89 × 0.38	33	外傾	皿状	人為	五領ヶ台	SK262 → 本跡	中期前葉
262	C2b5	N - 28° - E	楕円形	(1.20) × 0.71	64	外傾	平坦	人為	縄文土器	本跡 → SK261	後期前葉カ
263	B2i3	N - 26° - W	楕円形	0.89 × 0.70	16	外傾	平坦	人為	縄文土器		後期前葉カ
264	C2c4	N - 38° - E	楕円形	0.69 × 0.60	80	垂直	U字状	人為	縄文土器		後期前葉カ
265	C2c4	N - 15° - W	楕円形	0.78 × 0.59	59	外傾	U字状	人為	縄文土器		後期前葉カ
275	C2d4	N - 13° - W	楕円形	1.62 × [1.36]	52	外傾	平坦	人為	縄文土器		前期後葉カ
276	C2d2	N - 52° - E	楕円形	1.07 × 0.96	62	外傾	凹凸	人為	縄文土器		後期前葉
277	C2e3	N - 80° - W	楕円形	0.96 × 0.81	48	外傾	平坦	人為	縄文土器		中期カ
280	C2d3	N - 30° - E	楕円形	1.14 × 0.96	84	外傾	皿状	人為	縄文土器		後期前葉カ
281	C2d4	-	円形	1.14 × 1.14	77	外傾	平坦	人為	縄文土器		後期前葉カ
282	C2d1	N - 52° - E	楕円形	1.11 × 1.00	40	外傾	平坦	人為	堀之内	SK301 → 本跡	後期前葉
283	C2c3	N - 38° - W	楕円形	0.62 × 0.50	70	垂直	U字状	人為	縄文土器		後期前葉カ
284	C2c3	N - 33° - E	楕円形	1.24 × 0.54	48	垂直	平坦	人為	縄文土器	SK285 → 本跡	後期前葉カ
285	C2c3	N - 25° - E	楕円形	2.06 × 1.12	78	外傾	皿状	人為	縄文土器	本跡 → SK284	後期前葉カ
286	C2e2	N - 2° - E	楕円形	0.98 × 0.86	44	外傾	平坦	人為	堀之内		後期前葉

番号	位置	主軸方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	重複関係	備考
				長軸×短軸 (m)	深さ						
287	C2c2	N - 17° - E	不整楕円形	1.55 × 0.85	71	外傾	U字状	人為	縄文土器		後期前葉カ
288	C2b3	-	円形	1.05 × 0.98	35	外傾	有段	人為	縄文土器		後期前葉カ
289	C2a3	-	円形	1.05 × 1.00	28	外傾	平坦	人為	縄文土器	SK292 → 本跡	後期前葉カ
290	C2d2	-	円形	0.99 × [0.94]	51	外傾	平坦	人為	縄文土器	SK291 → 本跡	後期前葉カ
292	C2a2	N - 54° - W	楕円形	1.94 × 1.22	31	外傾	凸凹	人為	縄文土器	本跡 → SK289	後期前葉カ
293	C2a2	N - 5° - W	楕円形	1.29 × 0.83	35	外傾	平坦	人為	縄文土器		後期前葉カ
294	B2i6	N - 67° - E	楕円形	[1.50] × [1.24]	24	外傾	平坦	人為	縄文土器	本跡 → SI5	後期前葉カ
295	C2a2	N - 10° - E	楕円形	2.50 × 1.90	26	外傾	有段	人為	子母口		早期後葉
296	B2j1	N - 15° - W	[楕円形]	(0.35) × 1.05	45	外傾	平坦	人為	縄文土器	本跡 → SK297	後期前葉カ
297	B2j1	-	円形	1.25 × 1.15	72	外傾	平坦	人為	縄文土器	SK296・300 → 本跡	後期前葉カ
298	C2d3	N - 50° - E	楕円形	0.96 × 0.72	32	外傾	平坦	人為	縄文土器		後期前葉カ
299	C2a1	N - 60° - W	楕円形	1.12 × 1.00	62	外傾	平坦	人為	縄文土器		後期前葉カ
300	B2j1	N - 28° - E	楕円形	1.50 × 1.26	38	外傾	平坦	人為	縄文土器	本跡 → SK297・304	後期前葉カ
301	C2e1	-	円形	1.16 × 1.14	50	外傾	有段	人為	縄文土器	本跡 → SK282	後期前葉カ
302	C2c2	N - 18° - W	楕円形	1.32 × 1.27	130	垂直	平坦	人為	称名寺	本跡 → SK303	後期前葉
304	B2j1	-	円形	0.67 × 0.65	32	外傾	平坦	人為	縄文土器	SK300 → 本跡	後期前葉カ
305	B2i3	-	円形	[1.08] × [1.07]	22	外傾	皿状	人為	縄文土器		後期前葉カ
306	A3i4	N - 28° - E	楕円形	2.78 × 1.43	22~56	外傾	有段	人為	縄文土器		後期前葉カ

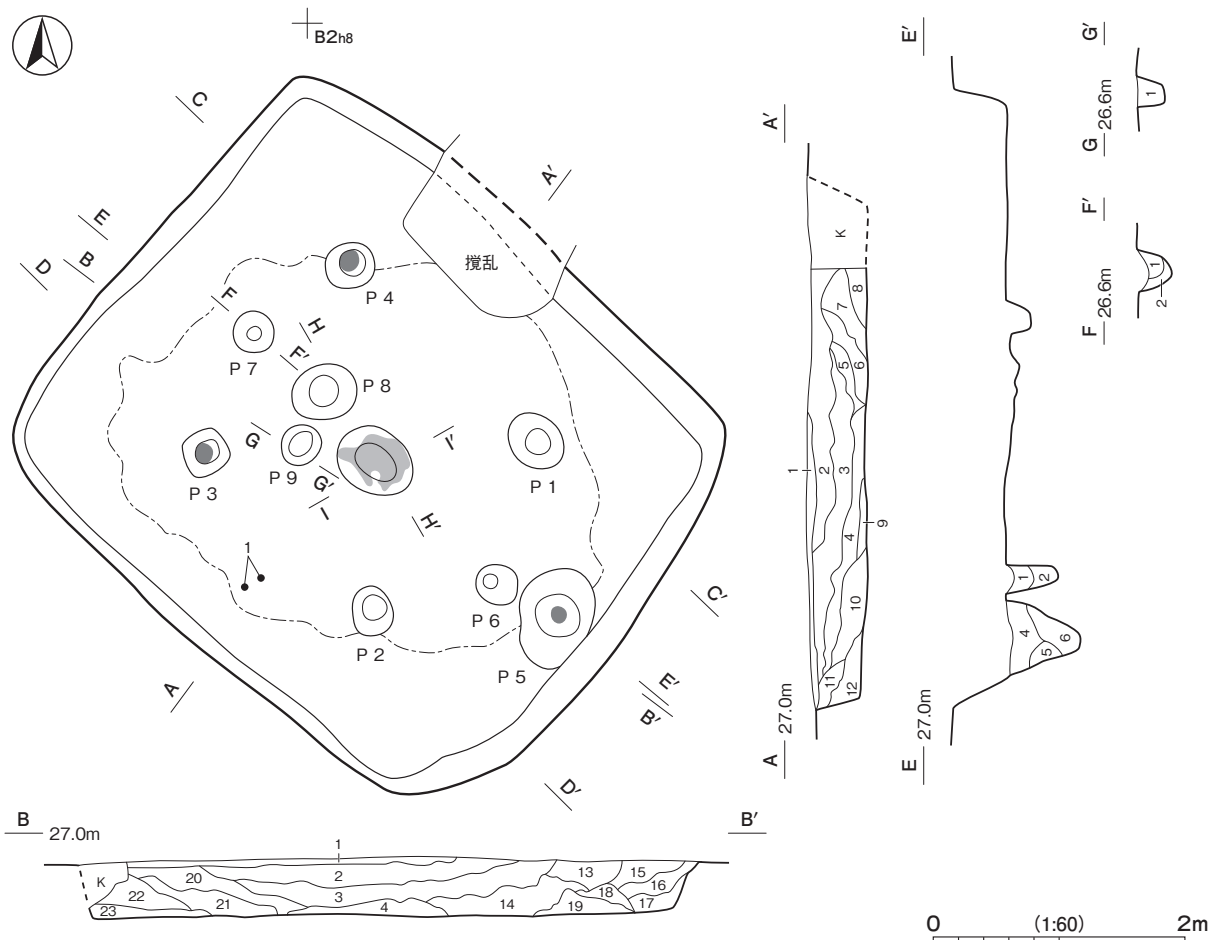
3 弥生時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴建物跡4棟を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

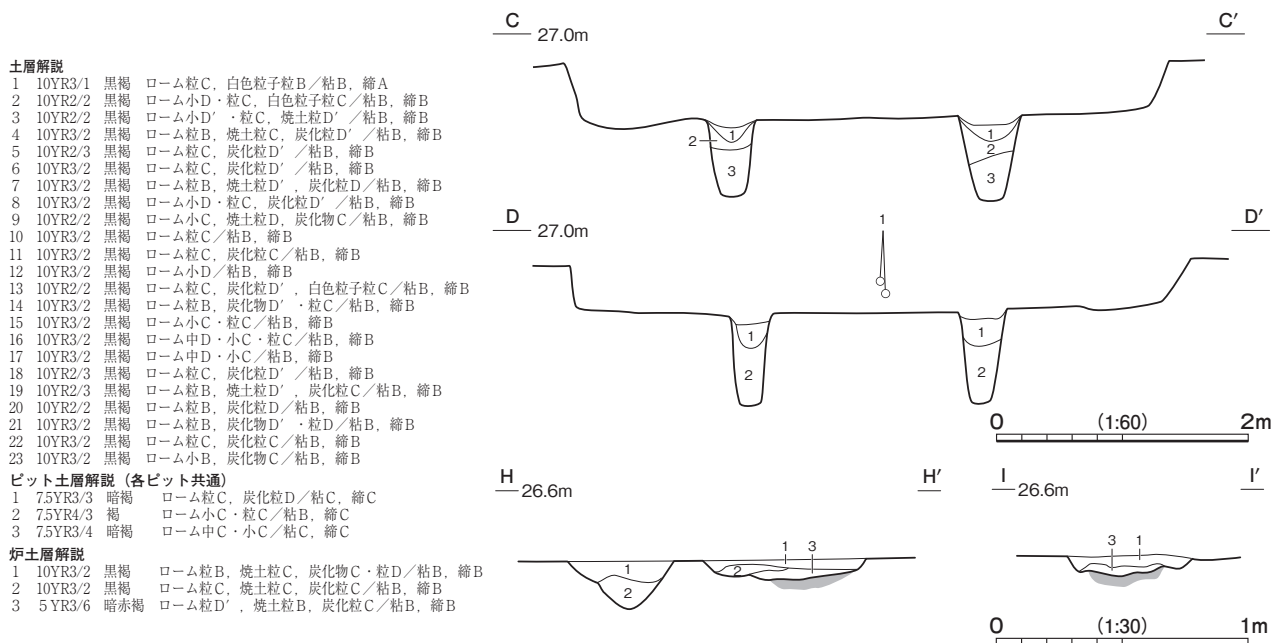
竪穴建物跡

第2号竪穴建物跡 (第81～83図 第71表 PL 4・29)

位置 調査区中央部のB 2h7区、標高27mほどの台地縁辺部の平坦面に位置している。



第81図 第2号竪穴建物跡実測図(1)



第 82 図 第 2 号 堅穴建物跡実測図 (2)

規模と形状 長軸 4.91 m, 短軸 4.20 m の長方形で, 主軸方向は N - 51° - W である。壁は高さ 38 ~ 48 cm で, 外傾している。

床 平坦で, 出入り口部から炉の周辺にかけて踏み固められている。

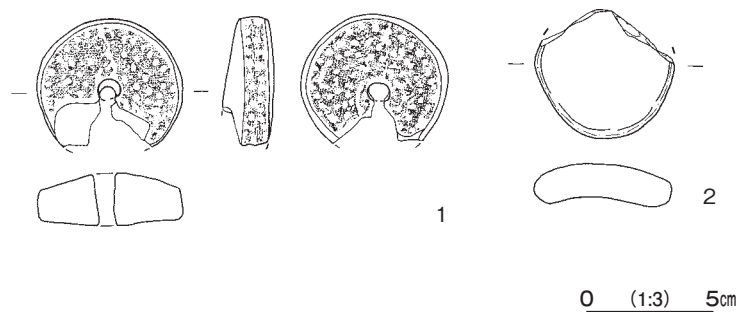
炉 中央部に付設されている。長径 65 cm, 短径 50 cm の楕円形で, 深さ 10 cm の地床炉である。炉床は皿状にくぼみ, 炉床面から厚さ 6 cm ほどが焼土化している。

ピット 9 か所。P 1 ~ P 4 は深さ 60 ~ 75 cm で, 規模と配置から主柱穴と考えられる。P 5 は深さ 55 cm で, 配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 6 ~ P 9 は深さ 20 ~ 45 cm である。柱は, すべて抜き取られている。

覆土 23 層に分層できる。第 4 ~ 23 層はロームブロックが含まれる層が不規則に堆積していることから, 埋め戻され, 第 1 ~ 3 層はレンズ状に堆積していることから, 自然堆積である。

遺物出土状況 弥生土器片 142 点 (広口壺), 土製品 3 点 (紡錘車 1, 不明 2), 石器 11 点 (剥片 9, 石核 1, 磨石 1) が出土している。そのほかに, 縄文土器片 165 点 (深鉢), 石器の内 7 点 (剥片 6, 石核 1) は旧石器時代のものであり, 混入と考えられる。土器片は, いずれも小片のため図示できない。

所見 時期は, 出土遺物から弥生時代後期後半に比定できる。

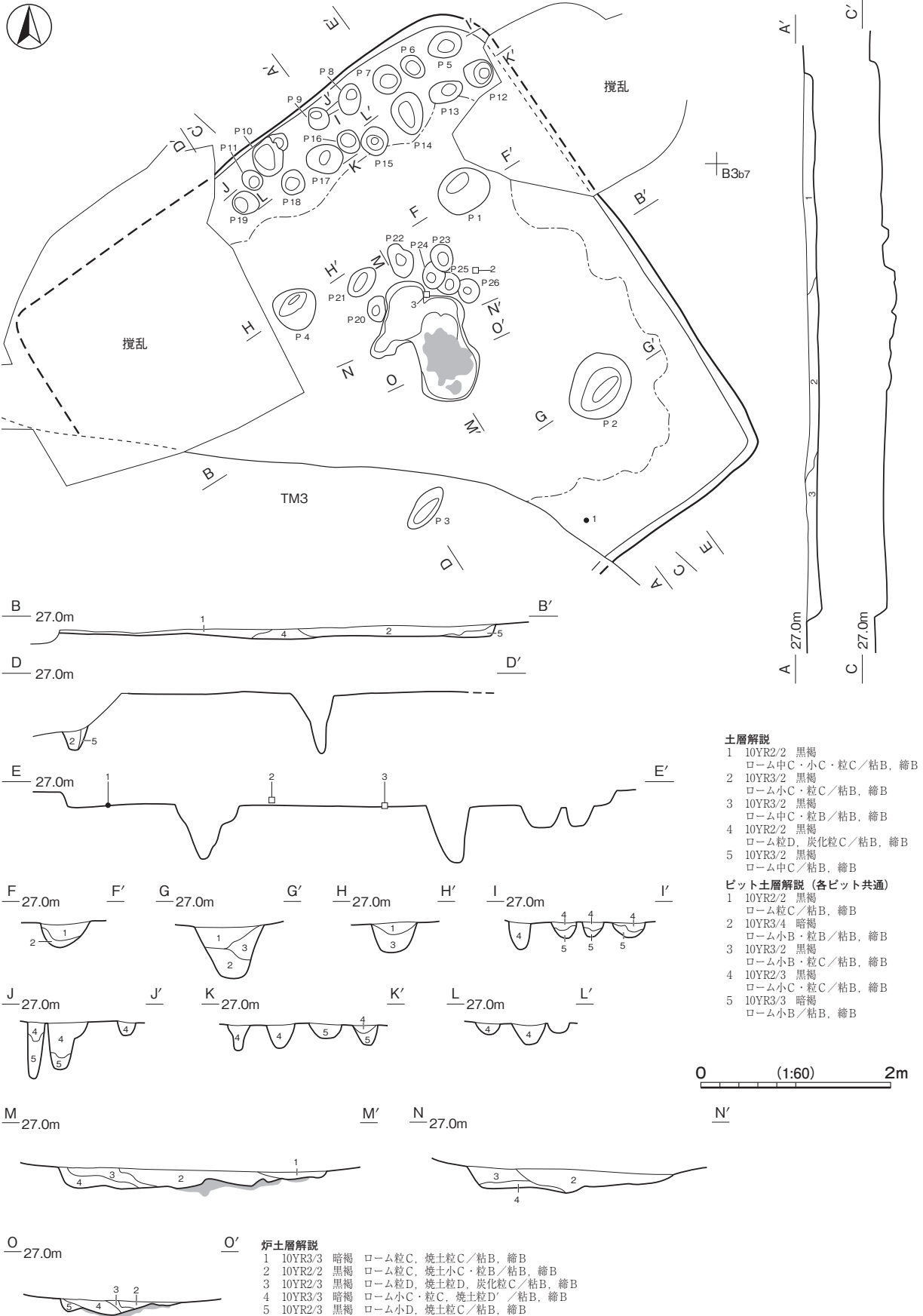


第 83 図 第 2 号 堅穴建物跡出土遺物実測図

第 71 表 第 2 号 堅穴建物跡出土遺物一覧

番号	器種	外径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
1	紡錘車	5.8	2.1	0.9	(51.86)	長石・石英	5YR5/6 明赤褐	全面刺突文 一方向からの穿孔 一部欠損	覆土中層	PL29
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考	
2	磨石	(5.0)	5.5	1.6	(57.04)	瑪瑙	側面磨き痕 一部欠損	覆土中	PL29	

第3号竖穴建物跡 (第84・85図 第72表 PL4・29)



第84図 第3号竖穴建物跡実測図

位置 調査区北東部のB 3 b5区, 標高27 mほどの台地平坦面に位置している。

重複関係 第193号土坑を掘り込み, 第3号墳に掘り込まれている。

規模と形状 重複と攪乱のため確認できた規模は, 北東・南西軸5.78 m, 北西・南東軸4.64 mの方形で, 主軸方向はN - 33° - Wである。壁は高さ10～16 cmで, 外傾している。

床 平坦で, 炉の周辺が踏み固められている。

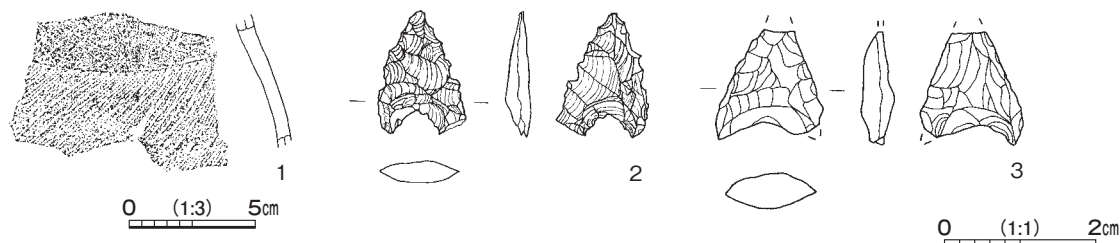
炉 中央部に付設されている。長径110 cm, 短径60 cmの楕円形で, 深さ10 cmの地床炉である。炉床は皿状にくぼみ, 炉床面から厚さ5 cmほどが焼土化している。

ピット 26か所。P 1～P 4は深さ60 cmで, 規模と配置から支柱穴と考えられる。P 5～P 19は深さ15～60 cmで, 北西壁際に, P 20～P 26は深さ9～20 cmで炉北西側に集中している。

覆土 5層に分層できる。ロームブロックが含まれる層が不規則に堆積していることから, 埋め戻されている。

遺物出土状況 弥生土器片51点(広口壺), 土製品1点(不明), 石器54点(剥片52, 石鏃2)が出土している。そのほか, 縄文土器片76点(深鉢), 石器の内14点(剥片)は旧石器時代のものであり, 混入と考えられる。

所見 時期は, 出土遺物から弥生時代後期後半に比定できる。



第85図 第3号竪穴建物跡出土遺物実測図

第72表 第3号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	弥生土器	広口壺	—	(5.3)	—	長石・石英・雲母	7.5YR5/4 にぶい褐	普通	頸部斜格子目文	床面	PL29
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
2	石鏃	(1.6)	1.2	0.3	(0.41)	黒曜石	無茎 両面押圧剥離		床面		
3	石鏃	(1.5)	1.4	0.4	(0.70)	チャート	無茎 両面押圧剥離		床面		

第4号竪穴建物跡 (第86図)

位置 調査区中央部のB 2 i6区, 標高27 mほどの台地縁辺部の平坦面に位置している。

規模と形状 長軸3.48 m, 短軸3.30 mの方形で, 主軸方向はN - 40° - Wである。壁は高さ6～12 cmで, 外傾している。

床 平坦で, 中央部から炉にかけて踏み固められている。

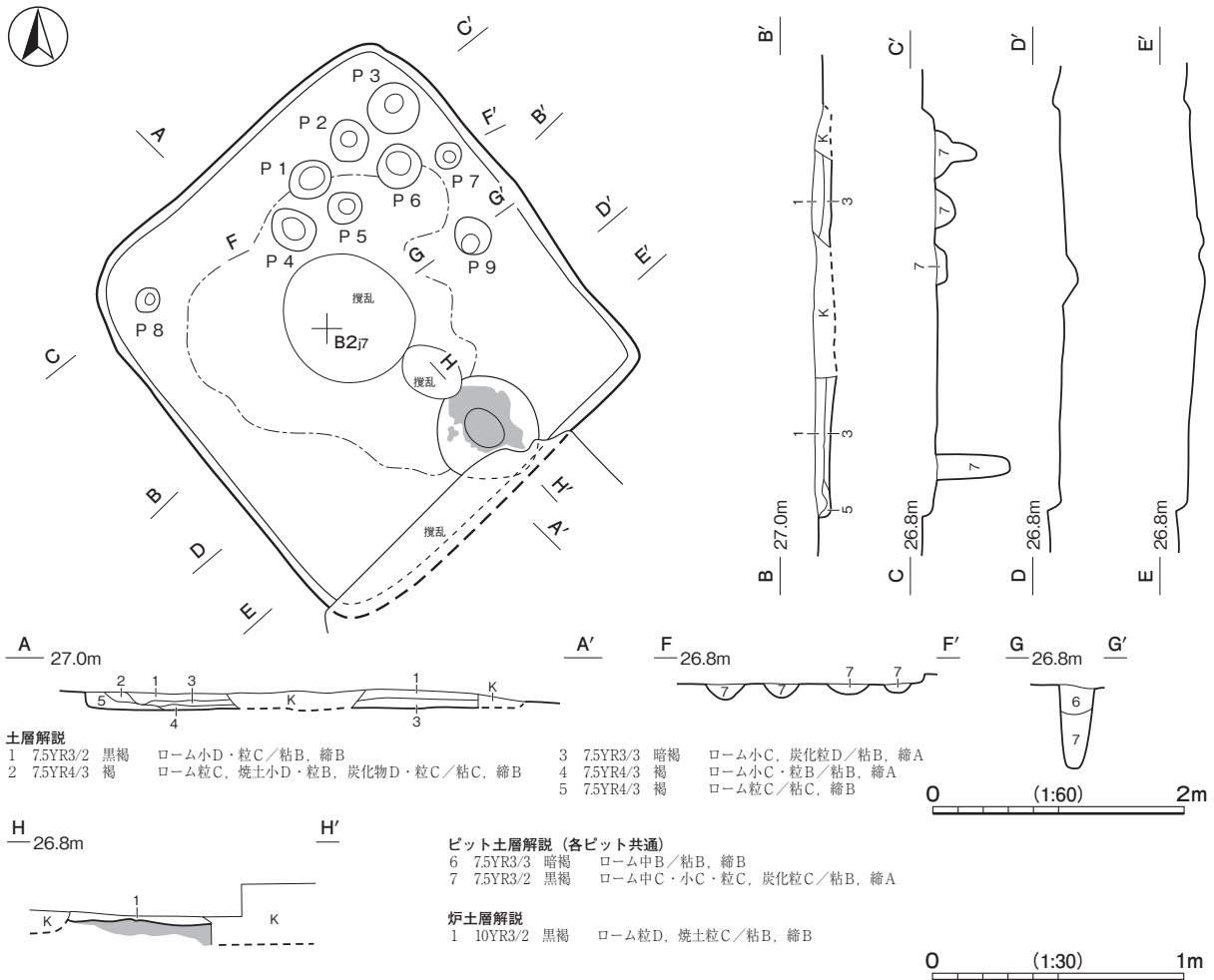
炉 南東壁際に付設されている。長径80 cm, 短径70 cmの楕円形で, 深さ5 cmの地床炉である。炉床は皿状にくぼみ, 炉床面から厚さ10 cmほどが焼土化している。

ピット 9か所。P 1～P 9は深さ10～66 cmで, 北側に集中している。P 3・P 8が支柱穴の可能性がある。

覆土 5層に分層できる。ロームブロックが含まれる層が不規則に堆積していることから, 埋め戻されている。

遺物出土状況 弥生土器片57点(広口壺)が出土している。そのほか, 混入した縄文土器片38点(深鉢), 土師器片11点(甕)が出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見 時期は, 出土遺物から弥生時代後期後半に比定できる。



第86図 第4号竪穴建物跡実測図

第6号竪穴建物跡 (第87図 第73表 PL29)

位置 調査区南部のC 2 d4区, 標高27mほどの台地縁辺部の平坦面に位置している。

規模と形状 長軸4.52m, 短軸3.65mの隅丸長方形で, 主軸方向はN-50°-Wである。壁は高さ12~24cmで, 外傾している。

床 平坦で, 炉の周辺が踏み固められている。

炉 中央部に付設されている。長径120cm, 短径80cmの楕円形で, 深さ10cmの地床炉である。炉床は皿状にくぼみ, 炉床面から厚さ10cmほどが焼土化している。

ピット 5か所。P1~P5は深さ40~80cmで, 配置から主柱穴と考えられる。P3はP5から建て替えた可能性がある。

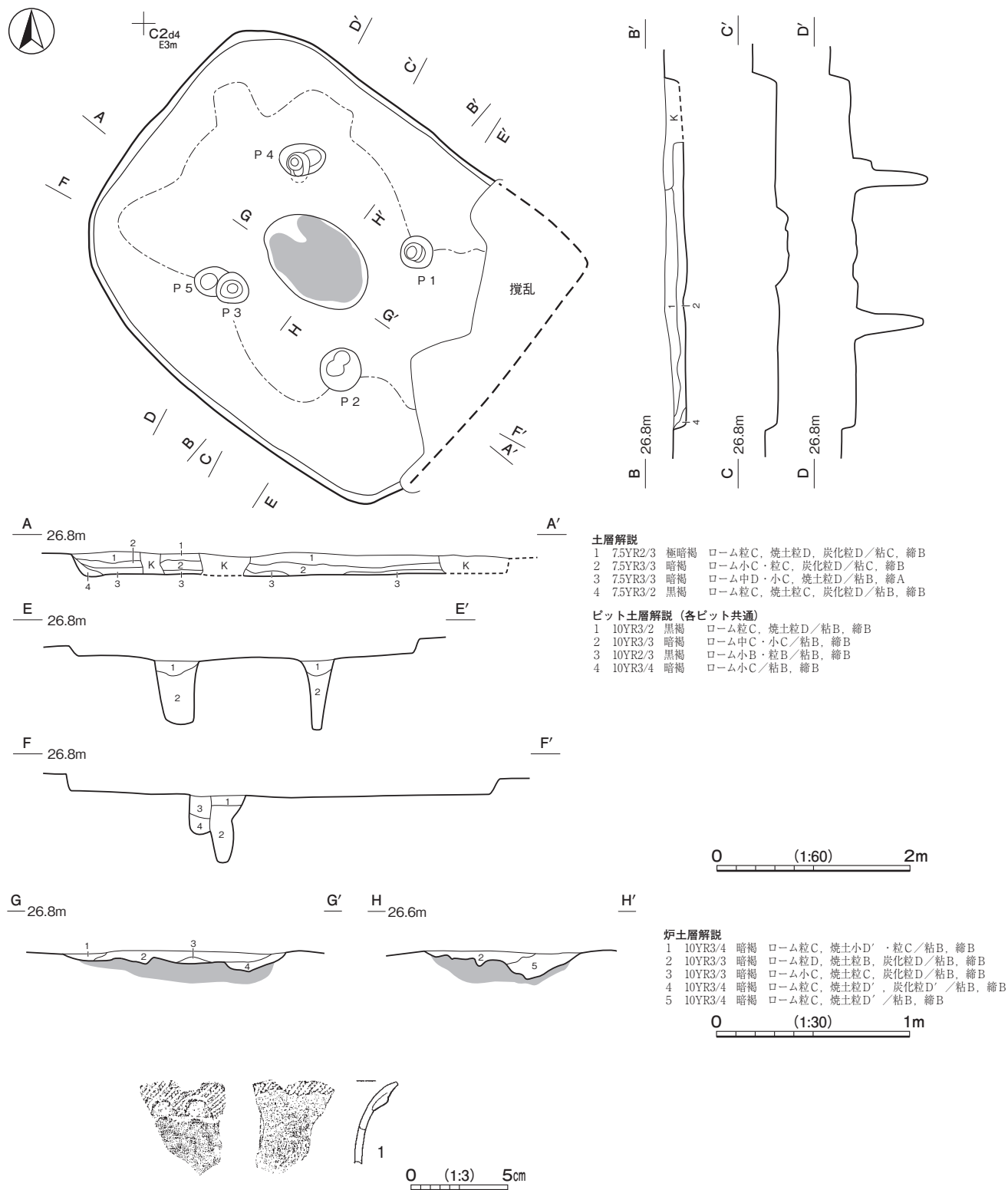
覆土 4層に分層できる。ロームブロックが含まれる層が不規則に堆積していることから, 埋め戻されている。

遺物出土状況 弥生土器片57点(広口壺)が出土している。そのほか, 混入した土師器片11点(甕), 縄文土器片38点(深鉢)が出土している。

所見 時期は, 出土遺物から弥生時代後期後半に比定できる。

第73表 第6号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	弥生土器	広口壺	—	(4.3)	—	長石・石英・雲母	7.5YR4/2 灰褐	普通	口唇部外・内面縄文 口縁部下端指頭押捺	覆土中	PL29



第 87 図 第 6 号 竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 74 表 弥生時代 竪穴建物跡一覽

番号	位置	主軸方向	平面形	規模		壁高	床面	壁溝	内部施設				覆土	主な出土遺物	時期	備考	
				長軸×短軸 (m)	(cm)				主柱穴	出入口	ピット	炉					貯蔵穴
2	B 2 h7	N - 51° - W	長方形	4.91 × 4.20	38 ~ 48	平坦	-	-	4	1	9	1	-	人為	弥生土器片 土製品	後期後半	
3	B 3 b5	N - 33° - W	[方形]	5.78 × (4.64)	10 ~ 16	平坦	-	-	4	-	22	1	-	人為	弥生土器片 石鏃	後期後半	SK193 → 本跡 → TM 3
4	B 2 i6	N - 40° - W	方形	3.48 × 3.30	6 ~ 12	平坦	-	-	-	-	9	1	-	人為	弥生土器片	後期後半	
6	C 2 d4	N - 50° - W	隅丸長方形	[4.52] × 3.65	12 ~ 24	平坦	-	-	4	-	1	1	-	人為	弥生土器片	後期後半	

4 古墳時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、古墳1基を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

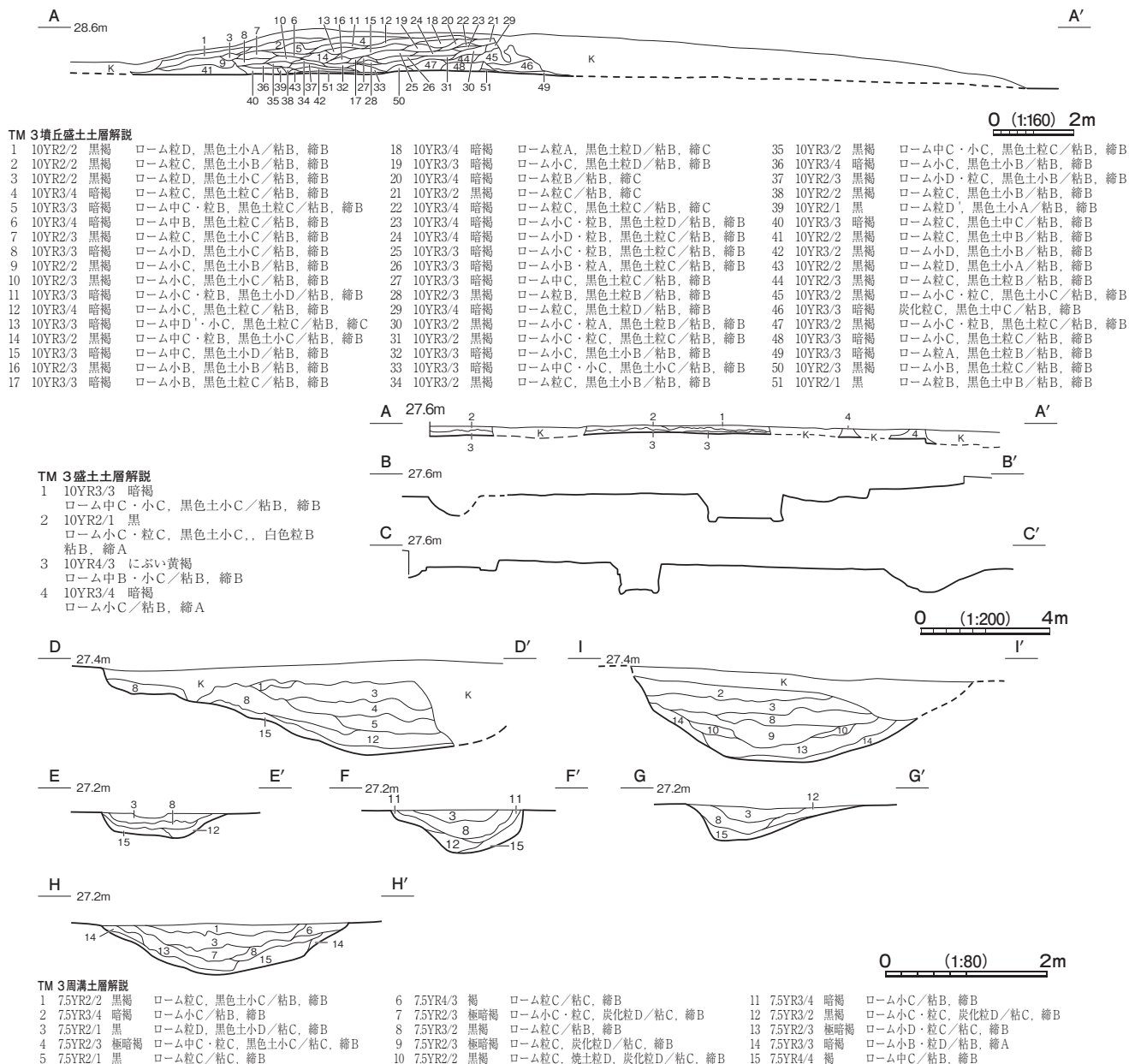
(1) 古墳

第3号墳 (第88～94図 第75表 PL 2・3・34～38)

位置 調査区北部のA 3f1～A 3h2区、標高27.5mほどの台地縁辺部の平坦面に位置している。墳丘及び周溝の東部は調査区外へ延びている。



第88図 第3号墳完掘実測図



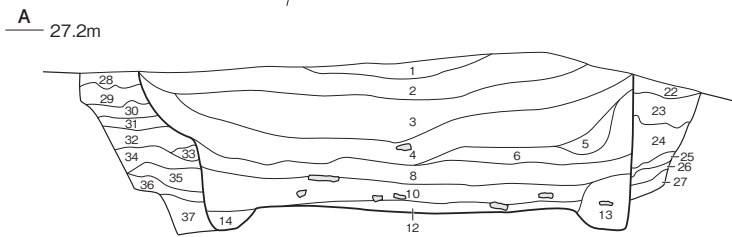
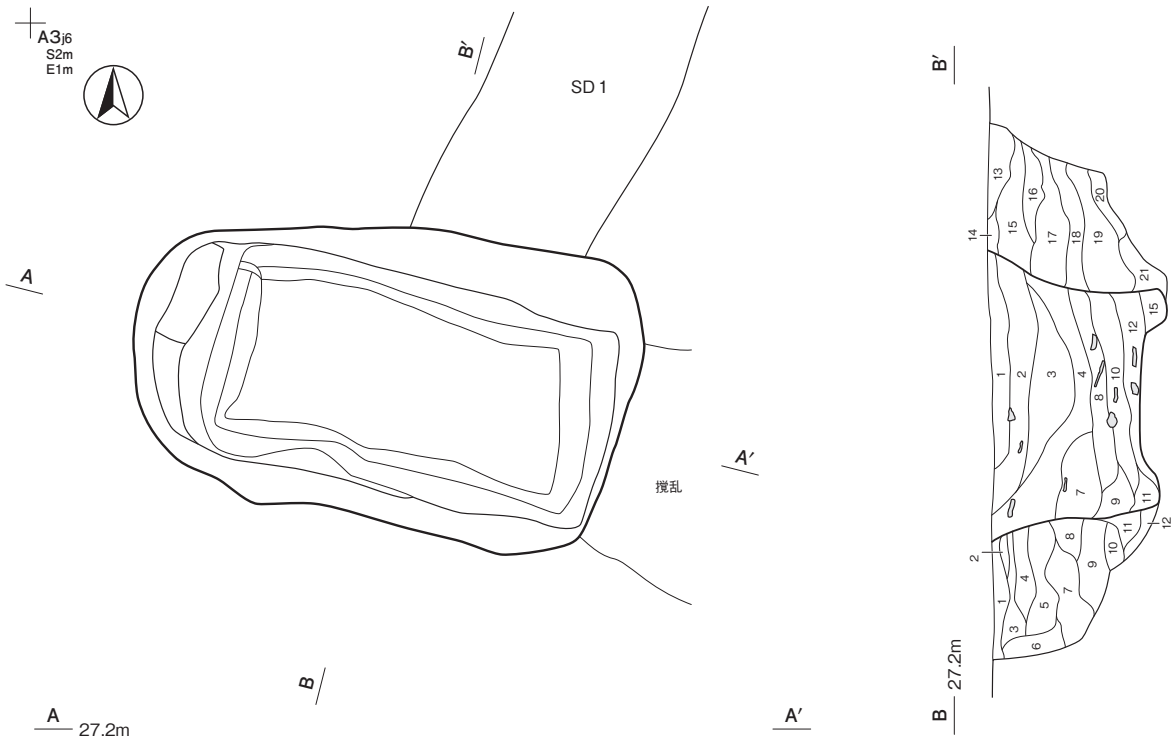
第 89 図 第 3 号墳墳丘・周溝土層断面実測図

現況及び調査経過 調査区内では前方部及び後円部の 3 分の 1 が確認でき、後円部の 3 分の 2 は調査区外に位置している。調査開始時、調査区内の墳丘は削平されていたため、調査区外に残存していた墳丘の記録を行い、古墳の形状を確定した。埋葬施設はくびれ部中央に位置しており、裏込土と抜き取り跡に雲母片岩の破片が散らばっていた。

重複関係 埋葬施設は、北東方向から第 1 号溝に掘り込まれている。

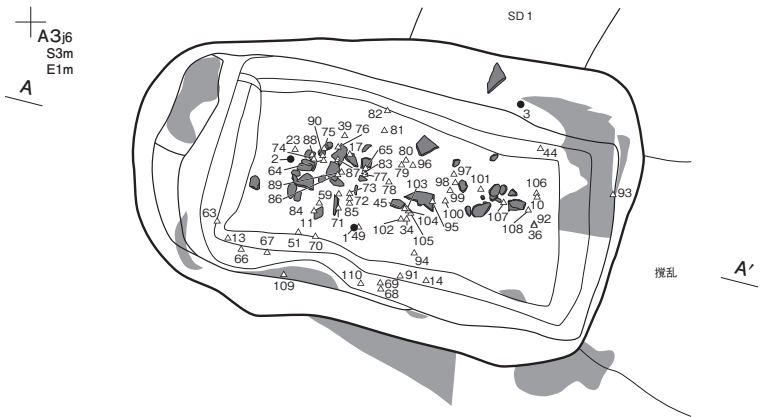
規模と平面形 墳形は前方後円墳（帆立貝形）で、主軸方向は N - 84° - W である。規模は、総長 30 m、墳長 28.5 m、後円径 20 m、後円高 1 m、後円頂径 2 m、くびれ幅 15.5 m、前方幅 15 m、前方高不明である。詳細な後円部最高点は標高 28.549 m である。

周溝 調査区外へ延びる後円部東側は未確認であるが、全周すると推測される。周溝は前方部で幅 2.2 ~ 1.6 m、深さ 0.6 ~ 0.3 m、後円部で幅 4.8 ~ 3.5 m、深さ 1.6 ~ 0.8 m である。後円部南側中央部付近が幅、深さともに最大値である。後円部の内周側は 40 度ほど、外周側は 30 度ほどで立ち上がる。深さは前方部は中央が深く、



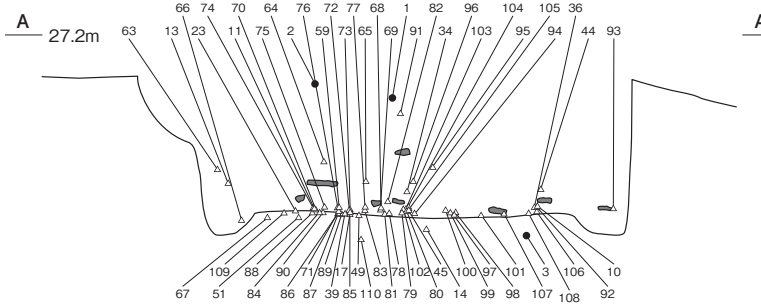
TM3 主体部覆土層解説

- | | | | |
|----|---------|----|-------------------------------|
| 1 | 10YR3/3 | 暗褐 | ロ-ム小C, 黒色土粒C/粘B, 締B |
| 2 | 10YR3/3 | 暗褐 | ロ-ム粒C, 黒色土粒C/粘B, 締B |
| 3 | 10YR4/4 | 褐 | ロ-ム小A・粒A/粘B, 締B |
| 4 | 10YR3/2 | 黒褐 | ロ-ム粒C, 黒色土粒C, 粘土粒C/粘B, 締C |
| 5 | 10YR3/2 | 黒褐 | ロ-ム粒D, 粘土粒D/粘B, 締B |
| 6 | 10YR3/4 | 暗褐 | ロ-ム小B, 粘土小C/粘B, 締B |
| 7 | 10YR3/2 | 黒褐 | ロ-ム小C, 黒色土粒D, 粘土小C/粘B, 締B |
| 8 | 10YR4/4 | 褐 | ロ-ム小D', 黒色土小D, 粘土中C/粘B, 締B |
| 9 | 10YR3/2 | 黒褐 | ロ-ム粒C, 粘土粒C/粘B, 締B |
| 10 | 10YR3/2 | 黒褐 | ロ-ム小B, 粘土中D/粘B, 締B |
| 11 | 10YR3/2 | 黒褐 | ロ-ム粒D, 粘土粒D/粘B, 締B |
| 12 | 10YR3/3 | 暗褐 | ロ-ム小C・粒C, 粘土粒D, 雲母片岩小C/粘B, 締B |
| 13 | 10YR3/2 | 黒褐 | ロ-ム粒D, 粘土中B/粘B, 締B |
| 14 | 10YR3/2 | 黒褐 | ロ-ム小B/粘B, 締B |
| 15 | 10YR3/3 | 暗褐 | ロ-ム粒D/粘B, 締C |



TM3 主体部裏込土層解説

- | | | | |
|----|---------|----|-------------------------------|
| 1 | 10YR3/4 | 暗褐 | ロ-ム小C・粒B, 粘土小D/粘B, 締B |
| 2 | 10YR3/4 | 暗褐 | ロ-ム粒B, 黒色土小C/粘B, 締B |
| 3 | 10YR3/2 | 黒褐 | ロ-ム中C, 黒色土小B/粘B, 締B |
| 4 | 10YR3/4 | 暗褐 | ロ-ム中C・小B・粒B, 黒色土小C/粘B, 締B |
| 5 | 10YR3/3 | 暗褐 | ロ-ム小C・粒C, 黒色土小D/粘B, 締B |
| 6 | 10YR4/4 | 褐 | ロ-ム小B/粘B, 締B |
| 7 | 10YR2/3 | 黒褐 | ロ-ム中B・小B, 黒色土小B/粘B, 締B |
| 8 | 10YR4/4 | 褐 | ロ-ム中C・小C, 黒色土粒C/粘B, 締B |
| 9 | 10YR3/4 | 暗褐 | ロ-ム小A, 黒色土粒C/粘B, 締B |
| 10 | 10YR4/6 | 褐 | ロ-ム小B・粒C/粘B, 締B |
| 11 | 10YR3/3 | 暗褐 | 粘土中A/粘B, 締B |
| 12 | 10YR3/4 | 暗褐 | ロ-ム小B/粘B, 締A |
| 13 | 10YR2/3 | 黒褐 | ロ-ム小C・粒C, 黒色土粒C/粘B, 締B |
| 14 | 10YR3/2 | 黒褐 | ロ-ム粒C, 粘土小C/粘B, 締A |
| 15 | 10YR3/2 | 黒褐 | ロ-ム小B・粒B, 黒色土粒B/粘B, 締B |
| 16 | 10YR4/4 | 褐 | ロ-ム中C・小B, 黒色土粒D/粘B, 締A |
| 17 | 10YR3/4 | 暗褐 | ロ-ム中D・小B, 黒色土粒C/粘B, 締B |
| 18 | 10YR3/4 | 暗褐 | ロ-ム中C・粒C, 黒色土粒D/粘B, 締B |
| 19 | 10YR3/4 | 暗褐 | ロ-ム中C・小B, 黒色土粒C/粘B, 締B |
| 20 | 10YR3/2 | 黒褐 | ロ-ム中D・小B, 黒色土小C, レキ小D/粘B, 締B |
| 21 | 10YR3/4 | 暗褐 | ロ-ム中D・小C, 黒色土粒B, 粘土小D'/粘B, 締B |
| 22 | 10YR3/3 | 暗褐 | ロ-ム小C, 黒色土小B, 粘土粒C/粘B, 締B |
| 23 | 10YR4/4 | 褐 | ロ-ム小C・粒B, 黒色土小C/粘B, 締B |
| 24 | 10YR3/4 | 暗褐 | ロ-ム小B, 黒色土粒B, 粘土中D・粒C/粘B, 締B |
| 25 | 10YR3/4 | 暗褐 | ロ-ム粒C, 黒色土粒D', 粘土中D・粒C/粘B, 締B |
| 26 | 10YR3/4 | 暗褐 | ロ-ム小C, 黒色土粒D, 粘B, 締B |
| 27 | 10YR3/4 | 暗褐 | ロ-ム小B, 黒色土粒D, レキ小D'/粘B, 締B |
| 28 | 10YR3/3 | 暗褐 | ロ-ム小C・粒C, 黒色土粒C/粘B, 締B |
| 29 | 10YR3/3 | 暗褐 | ロ-ム小B, 黒色土粒B/粘B, 締B |
| 30 | 10YR3/3 | 暗褐 | ロ-ム粒C, 黒色土粒C/粘B, 締B |
| 31 | 10YR3/3 | 暗褐 | ロ-ム粒D, 黒色土粒C, 粘土粒D'/粘B, 締B |
| 32 | 10YR3/3 | 暗褐 | ロ-ム小B, 黒色土小D/粘B, 締B |
| 33 | 10YR3/2 | 黒褐 | 粘土小B/粘B, 締B |
| 34 | 10YR3/3 | 暗褐 | ロ-ム中C, 黒色土粒D/粘B, 締B |
| 35 | 10YR3/3 | 暗褐 | ロ-ム小B, 黒色土粒C/粘B, 締B |
| 36 | 10YR3/3 | 暗褐 | ロ-ム小C, 粘土粒C/粘B, 締B |
| 37 | 10YR3/4 | 暗褐 | ロ-ム小A, 黒色土粒C/粘B, 締B |

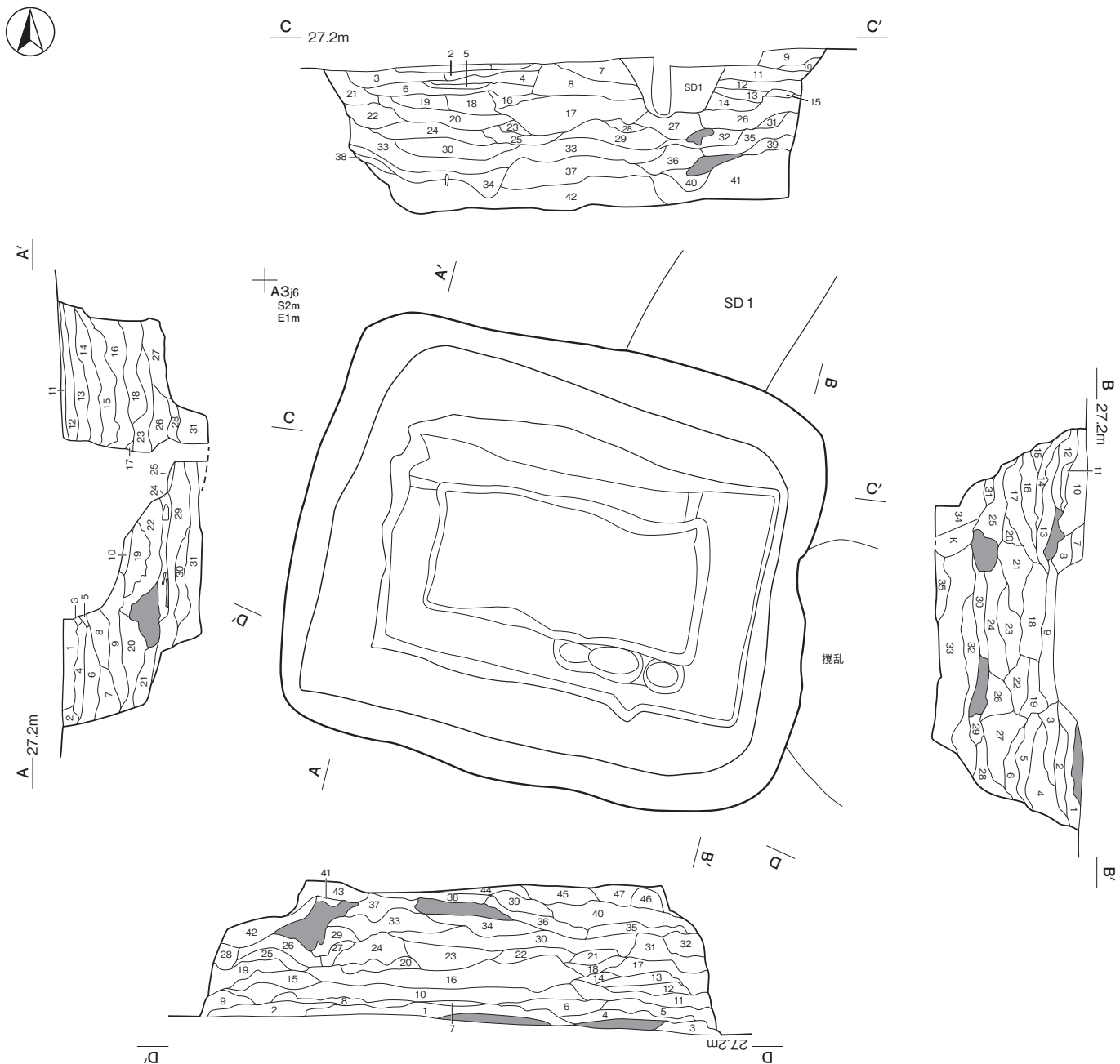


0 (1:40) 1m

第90図 第3号墳主体部実測図・遺物出土状況

コーナー部へ向かって浅くなり，後円部は南側中央部からくびれ部へ向かって浅くなる。東側は調査区外のため確認できなかった。

主体部 くびれ部の中央部に位置する。掘方規模は，長軸3.34 m，短軸2.88 m，深さ0.94 mの方形で，主軸方向はN-77°-Wである。石棺材は全て抜き取られており，覆土中から雲母片岩の破片のみが出土している。覆土はレンズ状に堆積しており，自然堆積である。底面には石材設置のための掘方が溝状に，深さ0.2 mで確



TM3 主体部西壁裏込土層解説 (Aライン)

1	10YR4/4	褐	ローム小B, 黒色土粒D, 礫小D/粘B, 締B	17	10YR3/4	暗褐	ローム小B, 黒色土粒C/粘B, 締B
2	10YR3/2	黒褐	ローム粒C/粘B, 締B	18	10YR3/3	暗褐	ローム小C, 黒色土小C/粘B, 締B
3	10YR3/4	暗褐	ローム小B, 黒色土粒D'/粘B, 締B	19	10YR3/4	暗褐	ローム小C, 黒色土小D'/粘B, 締B
4	10YR4/4	褐	ローム小A, 黒色土粒C/粘B, 締A'	20	10YR3/4	暗褐	ローム中C・小C, 黒色土小D'/粘B, 締B
5	10YR3/4	暗褐	ローム小C, 黒色土小D/粘B, 締B	21	10YR3/3	暗褐	ローム中B, 黒色土粒C, 粘土中D・粒C/粘B, 締A'
6	10YR2/3	黒褐	ローム小C, 黒色土小C/粘B, 締B	22	10YR4/6	褐	ローム小B, 粘土粒D'/粘B, 締B
7	10YR3/3	暗褐	ローム小C, 黒色土小D/粘B, 締B	23	10YR3/4	暗褐	ローム中D・小C, 黒色土粒C/粘B, 締B
8	10YR3/4	暗褐	ローム小C, 黒色土粒D', 粘土小D', 礫小D'/粘B, 締B	24	10YR4/4	褐	ローム小B, 黒色土小D', 粘土小D, 礫小C/粘B, 締B
9	10YR3/4	暗褐	ローム小B, 黒色土小D'/粘B, 締B	25	10YR4/4	褐	ローム小A, 黒色土小D'/粘B, 締A
10	10YR4/4	褐	ローム中C/粘B, 締B	26	10YR3/3	暗褐	ローム中C, 黒色土粒D/粘B, 締B
11	10YR4/6	褐	ローム小B, 黒色土小C, 粘土小D, 礫小C/粘B, 締B	27	10YR3/3	暗褐	ローム中C, 黒色土粒C, 粘土粒D/粘B, 締A
12	10YR3/2	暗褐	ローム粒B, 黒色土粒C/粘B, 締B	28	10YR4/4	褐	ローム中C, 黒色土小D/粘B, 締B
13	10YR3/4	暗褐	ローム小C, 黒色土小D/粘B, 締B	29	10YR4/4	褐	ローム小B, 黒色土小D'/粘B, 締B
14	10YR3/4	暗褐	ローム小B, 黒色土小C/粘B, 締B	30	10YR3/4	暗褐	ローム小B, 黒色土粒D/粘B, 締A'
15	10YR3/4	暗褐	ローム小C, 黒色土小C・粒B/粘B, 締B	31	10YR4/4	褐	ローム中B・小B, 黒色土小D, 礫小C/粘B, 締A
16	10YR3/4	暗褐	ローム粒B, 黒色土粒C/粘B, 締B				

第91図 第3号墳主体部掘方実測図

TM3 主体部東壁裏込土層解説 (Bライン)

1	10YR3/3	暗褐	ローム小B, 黒色土小C/粘B, 締B
2	10YR3/2	黒褐	ローム粒B, 黒色土小C/粘B, 締B
3	10YR3/3	暗褐	ローム小B, 黒色土小D, 礫粒D/粘B, 締B
4	10YR3/3	暗褐	ローム小C, 黒色土小C/粘B, 締B
5	10YR3/3	暗褐	ローム中C・小C, 黒色土小D/粘B, 締B
6	10YR3/4	暗褐	ローム小C・粒B, 黒色土小D/粘B, 締B
7	10YR3/4	暗褐	ローム粒B, 黒色土粒C/粘B, 締B
8	10YR3/4	暗褐	ローム粒B, 黒色土粒C, 粘土粒C/粘B, 締B
9	10YR4/4	褐	ローム小C, 黒色土粒C/粘B, 締B
10	10YR3/4	暗褐	ローム小B, 黒色土小D/粘B, 締B
11	10YR3/4	暗褐	ローム小C, 黒色土小C/粘B, 締B
12	10YR3/4	暗褐	ローム小C・粒B, 黒色土小C/粘B, 締B
13	10YR4/4	褐	ローム小B, 黒色土小D/粘B, 締A
14	10YR3/4	暗褐	ローム小C, 黒色土小D'/粘B, 締B
15	10YR3/3	暗褐	ローム粒D, 黒色土粒D'/粘B, 締B
16	10YR4/4	褐	ローム中C・小B, 黒色土粒D'/粘B, 締B
17	10YR3/4	暗褐	ローム小C, 黒色土小C/粘B, 締A
18	10YR4/4	褐	ローム大D・中B/粘B, 締B

TM3 主体部北壁裏込土層解説 (Cライン)

1	= Aライン11層		
2	10YR3/4	暗褐	ローム小C・粒B, 黒色土粒D/粘B, 締A'
3	= Aライン12層		
4	10YR3/3	暗褐	ローム小D・粒B, 黒色土粒C, レキ小C/粘B, 締B
5	10YR3/3	暗褐	ローム小C・粒C, 黒色土粒D'/粘B, 締B
6	= Aライン13層		
7	10YR3/3	暗褐	ローム小C, 黒色土粒C, 粘土粒C/粘B, 締A
8	10YR3/3	暗褐	ローム中C・小B, 黒色土小C/粘B, 締A
9	= Bライン10層		
10	= Bライン11層		
11	= Bライン12層		
12	= Bライン13層		
13	10YR3/4	暗褐	ローム小B, 黒色土粒D/粘B, 締A
14	10YR3/3	暗褐	ローム小C, 黒色土小C/粘B, 締A
15	= Bライン14層		
16	10YR3/3	暗褐	ローム小C, 黒色土小C/粘B, 締B
17	10YR3/3	暗褐	ローム中B・小B, 黒色土粒D/粘B, 締A
18	10YR3/4	暗褐	ローム中C・小C, 黒色土小C/粘B, 締B
19	= Aライン14層		
20	= Aライン15層		
21	10YR3/4	暗褐	ローム小B, 黒色土粒C/粘B, 締B

TM3 主体部南壁裏込土層解説 (Dライン)

1	10YR2/3	黒褐	ローム中C・小B, 黒色土粒D'/粘B, 締B
2	= Aライン1層		
3	10YR3/4	暗褐	ローム小A, 黒色土粒C, レキ小D/粘B, 締A
4	= Bライン1層		
5	= Bライン2層		
6	10YR3/2	黒褐	ローム小C, 黒色土粒C/粘B, 締B
7	10YR2/3	黒褐	ローム粒C, レキ小D'/粘B, 締A'
8	= Aライン3層		
9	10YR3/3	暗褐	ローム小C, 黒色土粒C/粘B, 締B
10	= Aライン4層		
11	= Bライン3層		
12	= Bライン4層		
13	= Bライン5層		
14	10YR3/4	暗褐	ローム小B, 黒色土小C/粘B, 締B
15	= Aライン8層		
16	10YR3/4	暗褐	ローム中B, 黒色土粒C/粘B, 締A'
17	= Bライン6層		
18	10YR3/4	暗褐	ローム中C, 黒色土粒D'/粘B, 締B
19	10YR3/2	黒褐	ローム中C, 黒色土小C, レキ小D'/粘B, 締B
20	10YR2/3	黒褐	ローム小D/粘B, 締B
21	10YR3/2	黒褐	ローム小C・粒B, 黒色土粒C/粘B, 締B
22	10YR3/2	暗褐	ローム中C, 黒色土小D'/粘B, 締A'
23	10YR3/4	暗褐	ローム小C・粒C, 黒色土粒C/粘B, 締B
24	10YR3/4	暗褐	ローム中C, 黒色土小D/粘B, 締B

19	10YR3/3	暗褐	ローム小C, 黒色土小D', 礫小D'/粘B, 締B
20	10YR3/4	暗褐	ローム粒B/粘B, 締B
21	10YR4/4	褐	ローム大C・中C, 白色粒D'/粘B, 締B
22	10YR3/4	暗褐	ローム小D・粒C, 黒色土粒C/粘B, 締B
23	10YR4/4	褐	ローム小B, 黒色土粒D/粘B, 締B
24	10YR4/4	褐	ローム中C・小B, 黒色土小D'/粘B, 締B
25	10YR3/4	暗褐	ローム大C・中C・小B, 黒色土粒C, 白色粒D'/粘B, 締A'
26	10YR3/4	暗褐	ローム小C・粒D, 黒色土粒D/粘B, 締B
27	10YR3/4	暗褐	ローム小B, 礫小D'/粘B, 締B
28	10YR3/3	暗褐	ローム小C, 粘土中D', 礫小D'/粘B, 締B
29	10YR3/4	暗褐	ローム大D・中D・小C, 黒色土粒D/粘B, 締B
30	10YR4/4	褐	ローム小C, 黒色土小D', 粘土小D/粘B, 締B
31	10YR3/4	暗褐	ローム小C, 黒色土粒D/粘B, 締B
32	10YR3/4	暗褐	ローム小C, 黒色土小C/粘B, 締B
33	10YR4/4	褐	ローム中B/粘B, 締A
34	10YR4/4	褐	ローム大B/粘B, 締A
35	10YR5/4	にがい黄褐	ローム小C, 粘土粒C/粘B, 締B

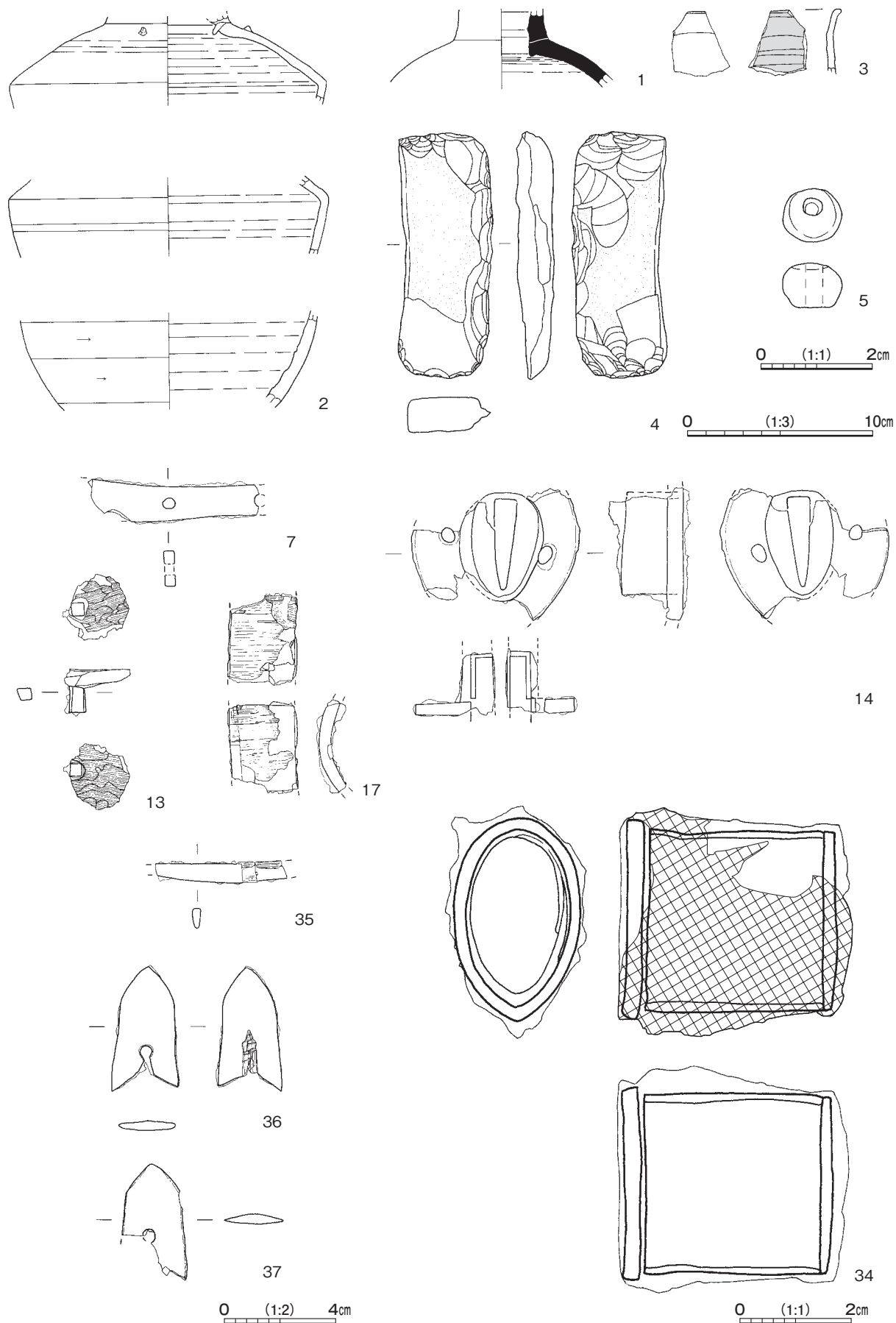
22	10YR3/4	暗褐	ローム小C, 黒色土粒B/粘B, 締B
23	10YR4/4	褐	ローム小B, 黒色土粒D/粘B, 締B
24	= Aライン16層		
25	10YR3/2	黒褐	ローム小C・粒B, 黒色土粒C, 粘土小D, レキ小C/粘B, 締B
26	= Bライン16層		
27	10YR3/3	暗褐	ローム中C・粒C, 黒色土小D', 粘土粒D/粘B, 締A
28	10YR3/3	暗褐	ローム小C, 黒色土小D/粘B, 締A
29	10YR4/4	褐	ローム小B, 黒色土粒D/粘B, 締A
30	= Aライン23層		
31	= Bライン17層		
32	10YR3/3	暗褐	ローム小C・粒D, 黒色土粒C, 粘土小C/粘B, 締A
33	= Aライン26層		
34	10YR3/4	暗褐	ローム小B, 黒色土粒D/粘B, 締A
35	10YR3/3	暗褐	ローム小A, 黒色土小D/粘B, 締A
36	10YR2/3	黒褐	ローム小C, 黒色土小D', 粘土小D'/粘B, 締A
37	10YR3/4	暗褐	ローム中B, 黒色土粒C/粘B, 締A
38	10YR3/4	暗褐	ローム小A, 黒色土粒D/粘B, 締A
39	= Bライン31層		
40	10YR4/4	褐	ローム小B, 粘土粒D/粘B, 締A
41	= Bライン34層		
42	= Aライン31層		

25	= Aライン9層		
26	= Aライン20層		
27	10YR3/3	暗褐	ローム小B/粘B, 締B
28	10YR3/4	暗褐	ローム小B/粘B, 締A'
29	10YR3/3	暗褐	ローム小B, 黒色土粒C, 粘土粒D/粘B, 締B
30	10YR4/4	褐	ローム中C・小B, 黒色土小D/粘B, 締B
31	= Bライン27層		
32	10YR3/4	暗褐	ローム中C・小B, 黒色土小C/粘B, 締A
33	10YR3/4	暗褐	ローム中B, 黒色土小D'/粘B, 締B
34	10YR4/6	褐	ローム小B・粒C/粘B, 締B
35	= Bライン29層		
36	10YR3/4	暗褐	ローム小C, 黒色土粒C, 粘土中D', レキ小C/粘B, 締A
37	10YR3/4	暗褐	ローム中C, 黒色土粒C, 粘土粒D'/粘B, 締B
38	10YR3/4	暗褐	ローム小B, 粘土小D/粘B, 締A
39	10YR3/4	暗褐	ローム小B/粘B, 締B
40	= Bライン32層		
41	10YR3/3	暗褐	ローム中A, 粘土粒D/粘B, 締A'
42	10YR2/3	黒褐	ローム中B, 黒色土粒B/粘B, 締A = Aライン29層
43	= Aライン31層		
44	10YR4/4	褐	ローム中B, 粘土粒D'/粘B, 締A
45	10YR3/3	暗褐	ローム粒B, 黒色土粒C/粘B, 締B
46	10YR3/3	暗褐	ローム小C/粘B, 締C
47	= Bライン33層		

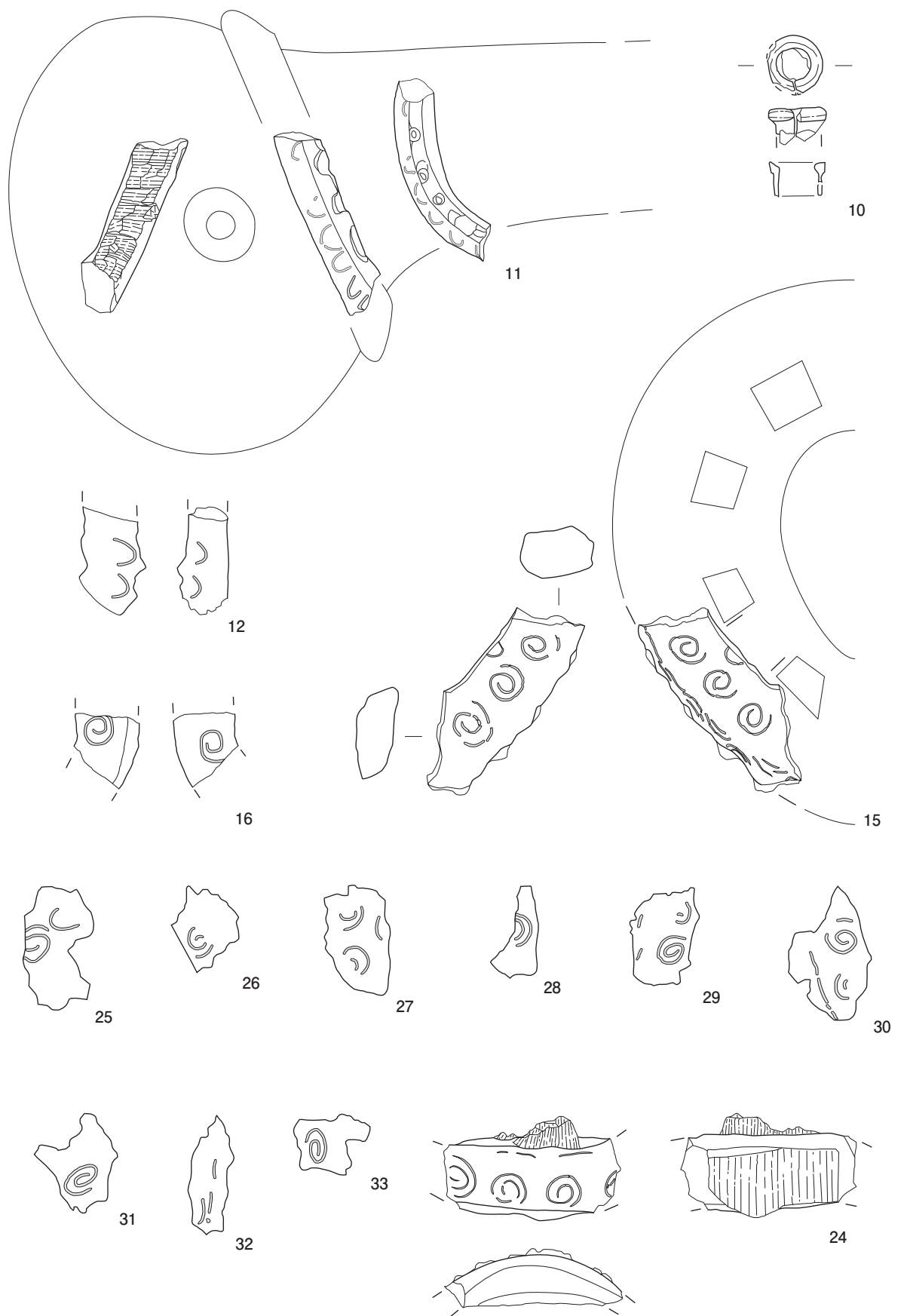
認でき、板石を組んだ箱式石棺であったと推定される。石棺の規模は、掘方底面の形状や残っていた裏込め土から、長軸 2.3 m、短軸 1.3 m 以下、深さ 0.8 m 以上と推定される。主体部西壁は、石棺材を抜き取る際にできたと考えられる攪乱を受けている。

出土遺物 主体部覆土中から、土師器片 1 点（長頸瓶）、灰釉陶器片 2 点（短頸壺、瓶類）、石器 1 点（打製石斧）、石製品 1 点（丸玉）、金属製品片 110 点（直刀 4、鳩目金具 1、責金具 2、目釘 1、八窓鐺 1、鐺 2、鉏 17、鞘尻 1、刀子 1、鉄鎌 27、不明鉄製品 53）、ガラス製品 112 点（小玉）が出土している。10 は柄頭の懸通孔の鳩目金具で、鉄地金銅張である。11 は柄頭の責金具で、内面に残る木質の木目が金具に対して斜方向に入っていることから、頭椎大刀の柄頭の一部と考えられる。11・12 には羽状文の銀象嵌が施されており、同一個体と考えられるが接点はない。15 は、表裏に渦巻き状、側面に直線状の銀象嵌が施されている。折れの箇所や象嵌の施されている位置から八窓鐺と考えられる。16 にも同じ銀象嵌が確認でき同一個体と考えられる。34 は、鞘尻金具で、筒状の鞘尻金具と責金具、鞘尻板で構成されている。責金具は鉄地金銅張で緑青が浮き腐食が激しい。鞘尻金具側面には布状物資が付着している。内部には鞘木の一部と鞘木を固定するための糸が巻き付けられている。ガラス小玉は、いずれも主体部覆土を篩いにかけて回収した。そのうち 4 点の科学分析を行った。

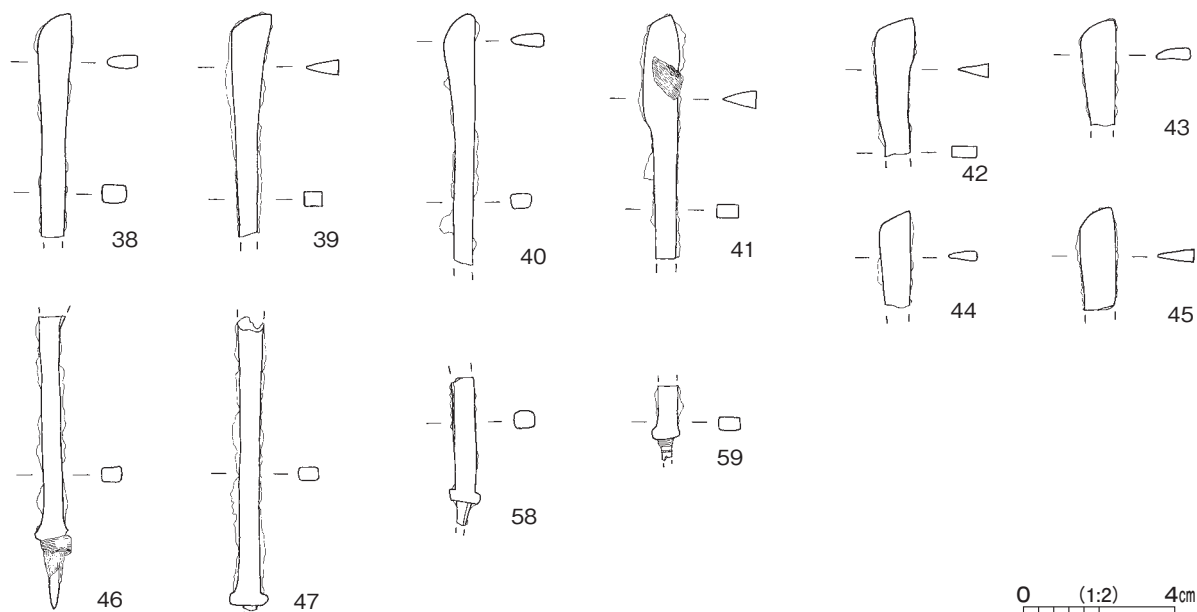
所見 時期は、墳形や埴輪が伴わず、刀装具の特徴から、6 世紀末～7 世紀初頭と推定される。



第92図 第3号墳出土遺物実測図(1)



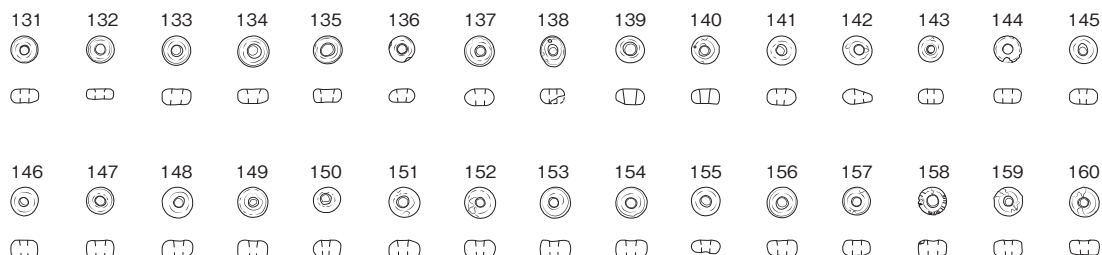
第93图 第3号墳出土遺物実測図(2)



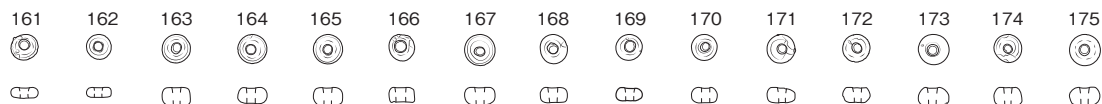
1区



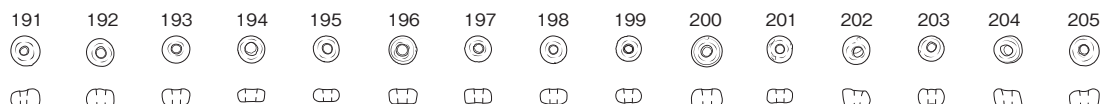
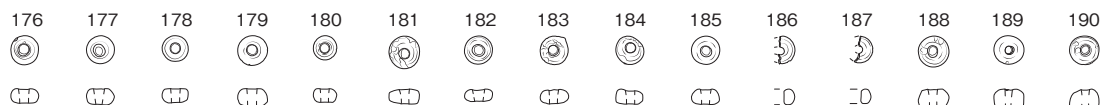
2区



3区



4区



清掃土



0 (1:1) 2cm

第94図 第3号墳出土遺物実測図(3)

第75表 第3号墳出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	長頸瓶	—	(4.2)	—	長石・石英	10YR7/3 におい黄橙	良好	頸部外・内面一部に自然釉 (5YR5/2 灰オリーブ)	主体部 覆土上層	
2	灰釉陶器	瓶類	—	(4.9)	—	長石・石英	2.5YR7/2 灰黄	良好	三段構成 頸部補強帯接合 外面下部回転ヘラ削り	主体部 覆土上層	
3	灰釉陶器	短頸壺	—	(3.5)	—	長石・石英	2.5YR7/1 灰白	良好	頸部内面に釉	主体部 覆土下層	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
4	打製石斧	13.2	5.0	2.0	188.07	流紋岩	3方向に刃部形成 背側自然礫面		周溝 覆土中		
番号	器種	径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
5	丸玉	1.0	0.3	0.8	1.08	蛇紋岩			主体部 覆土中	PL34	
番号	器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	材質	特徴		出土位置	備考	
6	直刀	61.05	25.87	5.79	(13.28)	鉄	刀身 木質付着 両端・背側折れ 片面剥れ		主体部 1区6X 3区5X	PL35	
7	直刀	(60.66)	(16.07)	(4.41)	(12.00)	鉄	茎脚部 刀身側の目釘孔に目釘が残存、茎尻側の目釘孔は折れ 両端部折れ		主体部 2区4X 3区5X 4区5X	PL35	
8	直刀カ	37.09	16.85	3.80	(2.61)	鉄	刀身 刃先カ 折れ		主体部 1区6X 2区3X	計測のみ	
9	直刀カ	22.32	21.04	5.08	(3.67)	鉄	刀身 木質付着 折れ		主体部 3区5X	計測のみ	
10	鳩目金具	7.00	10.00	10.00	(0.56)	鉄	鉄地金銅張 柄頭の懸通孔カ		主体部 覆土下層	PL35	
11	責金具	(34.97)	(11.04)	(9.45)	(3.82)	鉄	羽状文の銀象嵌 裏面付着木材の木目が斜方向であることから「頭椎大刀」の柄頭下の責金具カ 両端部折れ		主体部 覆土下層	PL35	
12	責金具カ	(19.10)	(12.07)	—	(2.03)	鉄	羽状文の銀象嵌 11と同一個体カ 両端部折れ		主体部 4区6X	PL35	
13	目釘	23.68	23.51	16.72	(4.80)	鉄	柄部木質付着		主体部 覆土中層	PL36	
14	鐔・鐔	48.44	61.33	22.10	(47.00)	鉄	鐔外面に鞘口金具と考えられる金属付着 鐔内部に柄部の木材付着 鐔面に円形状の窓有 鐔折れ 鐔折れ		主体部 覆土下層	PL36	
15	八窓鐔	(34.33)	(24.06)	(6.09)	(11.38)	鉄	両面に渦巻文・側面に二重羽状文の銀象嵌 両端部折れ		主体部 4区6X	PL35	
16	鐔カ	(12.98)	(11.10)	(7.97)	(2.08)	鉄	両面に渦巻文・側面に直線状の銀象嵌 15と同一個体カ 両端部折れ		主体部 4区6X	PL35	
17	鐔	(25.04)	(32.70)	5.11	(7.96)	鉄	内外面に木質付着 柄部との接合部 折れ		主体部	PL36	
18	鐔	16.48	16.91	3.35	(1.31)	鉄	内外面に木質付着 折れ		1区5X	計測のみ	
19	鐔	30.34	19.20	5.03	(3.15)	鉄	内外面に木質付着 柄部との接合部 折れ		1区6X	PL36	
20	鐔	25.67	16.13	7.20	(3.20)	鉄	内外面に木質付着 柄部との接合部 折れ		1区6X	PL36	
21	鐔	17.59	12.66	5.60	(1.80)	鉄	内外面に木質付着 柄部との接合部 折れ		3区5X	計測のみ	
22	鐔	16.72	12.51	4.35	(0.98)	鉄	内外面に木質付着 折れ		4区5X	計測のみ	
23	鐔カ	28.23	22.57	4.11	(3.73)	鉄	内外面に木質付着 柄部との接合部 折れ		覆土下層	PL36	
24	鐔カ	(31.24)	(19.02)	9.30	(5.75)	鉄	表面に渦巻文の銀象嵌 鞘の木質付着カ		4区4X	PL37	
25	鐔カ	(21.95)	(12.12)	(1.92)	(0.87)	鉄	表面に渦巻文の銀象嵌 両端部折れ		1区6X	PL37	
26	鐔カ	(15.84)	(12.05)	(2.91)	(0.65)	鉄	表面に渦巻文の銀象嵌		1区6X	PL37	
27	鐔カ	(19.22)	(11.80)	(3.15)	(1.03)	鉄	表面に渦巻文・端部に羽状文の銀象嵌		2区4X	PL37	
28	鐔カ	(16.21)	(8.98)	(3.16)	(0.65)	鉄	表面に渦巻文の銀象嵌		2区4X	PL37	
29	鐔カ	(18.43)	(12.88)	(5.28)	(1.38)	鉄	表面に渦巻文・端部に羽状文の銀象嵌		2区5X	PL37	
30	鐔カ	(22.82)	(14.88)	(2.03)	(1.48)	鉄	表面に渦巻文・端部に羽状文の銀象嵌		3区3X	PL37	
31	鐔カ	(17.17)	(14.81)	(3.27)	(1.14)	鉄	表面に渦巻文の銀象嵌		3区5X	PL37	
32	鐔カ	(20.93)	(7.98)	(2.11)	(0.81)	鉄	表面に渦巻文カ・端部に羽状文の銀象嵌		3区5X	PL37	
33	鐔カ	(10.23)	(13.16)	(1.14)	(0.36)	鉄	表面に渦巻文の銀象嵌 保存処理時にクリーニング作業を行ったが象嵌は目視できず 他の象嵌が施された遺物はクリーニングせず		3区5X	PL37	
34	鞘尻	40.93	36.45	23.14	32.80	鉄	鞘尻責金具は鉄地金銅張 鞘尻金具は下方がやや尖る楕円形 鞘尻金具は鞘尻板を口付付け 外面片側に布上物質付着 内面に鞘木と、それを固定するための糸付着		覆土下層	PL37	
35	刀子	(47.58)	(8.24)	(5.03)	(3.29)	鉄	刀身から茎部 (関・胴部) 茎部に木質付着 両端部折れ		3区5X 4区6X	PL36	
36	鎌	45.04	24.29	4.24	6.25	鉄	無茎鎌 X線写真では中央部に目釘孔が確認できるが矢柄木質がふさいでいる		3区5X	PL36	
37	鎌	(42.11)	(24.10)	(3.38)	(4.89)	鉄	無茎鎌 X線写真では中央部に目釘孔が確認できるが矢柄木質がふさいでいる 逆刺部片方折れ		2区5X	PL36	
38	鎌	(59.56)	9.21	(5.04)	(5.70)	鉄	長頸鎌 鎌身長 19.03 mm 幅 0.9 mm 厚さ 3.92 mm 頸部残長 40.26 mm 幅 6.38 mm 厚さ 5.18 mm 茎部欠損		2区5X 3区4X	PL36	
39	鎌	(59.07)	4.12 ~ 11.12	4.27	(4.53)	鉄	長頸鎌 鎌身長 25.28 mm 幅 1.1 mm 厚さ 4.18 mm 頸部残長 33.79 mm 幅 6.46 mm 厚さ 3.97 mm 茎部欠損		覆土下層	PL36	
40	鎌	(67.40)	9.13	3.89	(5.74)	鉄	長頸鎌 鎌身長 22.27 mm 幅 0.9 mm 厚さ 3.70 mm 頸部残長 45.13 mm 幅 5.40 mm 厚さ 4.30 mm 茎部欠損		1区6X	PL36	
41	鎌	(65.17)	5.30 ~ 9.35	4.26	(6.88)	鉄	長頸鎌 鎌身長 30.12 mm 幅 0.9 mm 厚さ 4.03 mm 頸部残長 35.05 mm 幅 6.21 mm 厚さ 3.83 mm 茎部欠損		2区5X 4区6X	PL36	
42	鎌	(35.57)	6.32 ~ 11.10	4.06	(3.86)	鉄	長頸鎌 鎌身 頸部・茎部欠損		1区6X 2区5X	PL36	
43	鎌	(28.11)	9.16	4.09	(2.77)	鉄	長頸鎌 鎌身 頸部・茎部欠損		2区5X	PL36	
44	鎌	(26.27)	9.48	3.32	(2.18)	鉄	長頸鎌 鎌身 頸部・茎部欠損		覆土下層	PL36	
45	鎌	(26.64)	9.16	4.06	(3.15)	鉄	長頸鎌 鎌身 頸部・茎部欠損		覆土下層	PL36	
46	鎌	(78.22)	9.94	4.09	(5.95)	鉄	長頸鎌 頸部から茎部 鎌身欠損 頸部残長 59 mm, 幅 5 mm 関部幅 8 mm 茎部長 19 mm 茎部樹皮巻茎露出		4区6X		
47	鎌	(77.97)	10.16	4.24	(7.67)	鉄	長頸鎌 頸部 鎌身・茎端部欠損 頸部残長 77 mm 関部幅 11 mm 茎部残長 1 mm		3区5X 4区6X		
48	鎌	63.78	6.50	4.85	(6.28)	鉄	長頸鎌 頸部破片		2区5X 3区5X	計測のみ	
49	鎌	41.42	6.19	5.44	(3.03)	鉄	長頸鎌 頸部破片		3区壁溝	計測のみ	

番号	器種	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	材質	特徴	出土位置	備考
50	鉢	39.39	8.91	4.73	(2.97)	鉄	長頸鉢 頸部破片	4区5X・6X	計測のみ
51	鉢	36.44	8.12	5.08	(3.30)	鉄	長頸鉢 頸部破片	覆土下層	計測のみ
52	鉢	36.46	11.70	8.10	(3.32)	鉄	長頸鉢 頸部破片	3区4X	計測のみ
53	鉢	34.47	7.89	5.79	(2.79)	鉄	長頸鉢 頸部破片	4区6X	計測のみ
54	鉢	25.72	9.38	5.19	(2.42)	鉄	長頸鉢 頸部破片	1区5X	計測のみ
55	鉢	28.01	7.44	5.86	(2.69)	鉄	長頸鉢 頸部破片		計測のみ
56	鉢	18.88	7.74	4.88	(1.31)	鉄	長頸鉢 頸部破片	3区清掃土	計測のみ
57	鉢	14.29	6.44	5.08	(0.94)	鉄	長頸鉢 頸部破片	2区壁溝	計測のみ
58	鉢	(40.06)	7.97	4.94	(3.54)	鉄	長頸鉢 頸部から基部 鉢身欠損 頸部残長34mm、幅6mm 関部幅8mm 基部残長6mm 基部折れ	4区6X	PL36
59	鉢	(19.72)	7.45	3.92	(1.05)	鉄	長頸鉢 頸部から基部 鉢身欠損 頸部残長14mm、幅5mm 関部幅8mm 基部残長6mm 関部に糸巻がわずかに残る	覆土下層	PL36
60	鉢	35.41	7.63	4.48	(1.38)	鉄	基部樹皮巻 頸部折れ	1区6X・4区6X	計測のみ
61	鉢	19.11	4.36	2.52	(0.55)	鉄	基部樹皮巻 頸部折れ	3区5X	計測のみ
62	鉢カ	31.59	22.14	2.97	(2.22)	鉄	無茎鉢カ 鉢身折れ	2区5X	

番号	器種	径(mm)	厚さ(mm)	孔径(mm)	重量(g)	材質	特徴	出土位置	備考
116	小玉	3.8	1.6	1.0	0.03	不明	铸造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸 一部光沢有	1区1X	PL38
117	小玉	3.8	1.6	1.5	0.02	不明	铸造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸 折れ	1区3X	PL38
118	小玉	3.2	2.0	1.0	0.04	不明	铸造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸 不規則な色ムラ 溶解不十分	1区3X	PL38
119	小玉	4.0	1.3	1.6	0.03	不明	铸造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸 未溶解ガラス片による凹凸	1区4X	PL38
120	小玉	3.6	1.4	1.0	0.03	不明	铸造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸	1区4X	PL38
121	小玉	3.5	1.7	1.1	0.02	不明	铸造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸 不規則な色ムラ 溶解不十分	1区4X	PL38
122	小玉	3.5	2.2	1.2	0.04	不明	铸造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸 溶解不十分	1区4X	PL38
123	小玉	3.5	1.9	1.0	0.03	不明	铸造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸 不規則な色ムラ 溶解不十分	1区5X	PL38
124	小玉	3.9	2.2	1.2	0.04	不明	铸造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸 一部光沢有	1区5X	PL38
125	小玉	4.0	2.4	1.2	0.05	不明	铸造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸 不規則な色ムラ 溶解不十分	1区6X	PL38
126	小玉	3.8	2.2	1.0	0.05	不明	铸造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸 一部光沢有	1区6X	PL38
127	小玉	3.8	2.0	1.0	0.06	不明	铸造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸 一部光沢有	1区6X	PL38
128	小玉	4.0	1.8	1.4	0.04	不明	铸造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸 溶解不十分	1区6X	PL38
129	小玉	3.8	1.9	1.0~1.2	0.05	不明	铸造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸	1区6X	PL38
130	小玉	3.6	1.8	1.2	0.03	不明	铸造カ 細かな気泡の充溢 一部光沢有	1区6X	PL38
131	小玉	3.6	1.8	1.0	0.03	不明	铸造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸	1区6X	PL38
132	小玉	3.6	1.4	1.2~1.4	0.03	不明	铸造カ 細かな気泡の充溢	1区6X	PL38
133	小玉	3.8	2.2	1.4	0.04	不明	铸造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸 一部光沢有	1区6X	PL38
134	小玉	4.0	2.0	1.8	0.05	不明	铸造カ 細かな気泡の充溢 一部光沢有	1区6X	PL38
135	小玉	3.6	1.9	1.6	0.03	不明	铸造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸	1区6X	PL38
136	小玉	3.3	1.7	1.2	0.02	不明	铸造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸 溶解不十分	1区6X	PL38
137	小玉	3.8	2.4	1.1	0.04	不明	铸造カ 細かな気泡の充溢 一部光沢有	1区壁溝	PL38
138	小玉	3.8	2.0	1.0	0.05	不明	铸造カ 細かな気泡の充溢 一部光沢有	1区壁溝	PL38
139	小玉	3.7	2.0	1.5	0.30	不明	铸造カ 細かな気泡の充溢	1区壁溝	PL38
140	小玉	1.8	2.0	1.2	0.03	不明	铸造カ 細かな気泡の充溢	1区6X	PL38
141	小玉	3.8	2.0	1.3	0.03	不明	铸造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸 溶解不十分	1区6X	PL38
142	小玉	3.8	2.0	1.2	0.04	不明	铸造カ 細かな気泡の充溢 一部光沢有	1区6X	PL38
143	小玉	3.4	2.0	0.9	0.03	ソダ石灰ガラス	铸造カ 細かな気泡の充溢 一部光沢有	2区壁溝	既録番号 PL38
144	小玉	3.4	1.9	1.2	0.02	不明	铸造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸 不規則な色ムラ 未溶解ガラス片による凹凸	2区1X	PL38
145	小玉	3.6	2.0	1.2	0.04	不明	铸造カ 細かな気泡の充溢	2区1X	PL38
146	小玉	3.4	2.4	1.2	0.04	不明	铸造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸	2区2X	PL38
147	小玉	3.6	2.4	1.6	0.04	不明	铸造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸 不規則な色ムラ 未溶解ガラス片による凹凸	2区2X	PL38
148	小玉	4.0	2.6	1.2	0.04	不明	铸造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸 溶解不十分	2区3X	PL38
149	小玉	4.0	2.6	1.2	0.06	不明	铸造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸 一部光沢有	2区3X	PL38
150	小玉	3.6	2.3	1.3	0.03	不明	铸造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸	2区3X	PL38
151	小玉	4.0	2.4	1.4	0.06	不明	铸造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸 不規則な色ムラ	2区4X	PL38
152	小玉	5.0	2.3	1.2	0.05	不明	铸造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸 不規則な色ムラ	2区4X	PL38
153	小玉	4.0	2.4	1.0	0.05	不明	铸造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸 一部光沢有	2区4X	PL38
154	小玉	4.0	2.4	1.2	0.04	不明	铸造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸 一部光沢有	2区4X	PL38
155	小玉	3.8	1.2	1.9	0.03	不明	铸造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸 一部光沢有	2区5X	PL38
156	小玉	4.0	2.1	1.4	0.04	不明	铸造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸 一部光沢有	2区5X	PL38
157	小玉	3.6	2.1	1.2	0.02	不明	铸造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸 一部光沢有	2区5X	PL38
158	小玉	3.8	2.2	1.3	0.03	不明	铸造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸 未溶解ガラス片による凹凸	2区5X	PL38
159	小玉	3.8	2.3	1.2	0.03	不明	铸造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸 不規則な色ムラ 未溶解ガラス片による凹凸	2区5X	PL38
160	小玉	3.9	2.0	1.0	0.03	不明	铸造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸 不規則な色ムラ 溶解不十分	2区5X	PL38
161	小玉	3.4	1.4	1.2	0.03	ソダ石灰ガラス	铸造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸 一部光沢有 未溶解ガラス片による凹凸	3区4X	既録番号 PL38
162	小玉	3.2	1.3	1.0	0.03	不明	铸造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸	3区3X	PL38
163	小玉	3.7	2.4	1.0	0.04	不明	铸造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸 不規則な色ムラ 溶解不十分	3区3X	PL38
164	小玉	3.8	2.1	1.2	0.02	不明	铸造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸	3区5X	PL38
165	小玉	3.8	2.4	1.1	0.04	不明	铸造カ 細かな気泡の充溢 一部光沢有	3区5X	PL38
166	小玉	3.2	2.0	1.4	0.02	不明	铸造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸	3区5X	PL38
167	小玉	4.0	2.3	1.2	0.05	不明	铸造カ 細かな気泡の充溢	3区5X	PL38
168	小玉	3.4	2.0	1.4	0.03	不明	铸造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸 不規則な色ムラ 溶解不十分	3区5X	PL38
169	小玉	3.4	1.7	1.1~1.3	0.03	不明	铸造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸	3区5X	PL38
170	小玉	3.2	1.9	1.0	0.02	不明	铸造カ 細かな気泡の充溢 一部光沢有	3区5X	PL38
171	小玉	3.6	2.0	1.2	0.03	不明	铸造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸 一部光沢有 未溶解ガラス片による凹凸	3区5X	PL38
172	小玉	3.5	1.9	1.2	0.02	不明	铸造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸 不規則な色ムラ 未溶解ガラス片による凹凸	3区5X	PL38
173	小玉	4.0	2.4	1.6	0.06	不明	铸造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸 不規則な色ムラ 溶解不十分	3区5X	PL38
174	小玉	3.6	1.3	1.0	0.05	不明	铸造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸	3区5X	PL38
175	小玉	4.4	2.4	1.4	0.05	不明	铸造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸	3区5X	PL38

番号	器種	径 (mm)	厚さ (mm)	孔径 (mm)	重量 (g)	材 質	特 徴	出土位置	備 考
176	小玉	3.6	2.0	1.4	0.02	不明	鑄造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸 一部光沢有	3区5X	PL38
177	小玉	3.6	2.2	1.4	0.04	不明	鑄造カ 細かな気泡の充溢	3区5X	PL38
178	小玉	3.4	1.8	1.2	0.03	不明	鑄造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸	3区5X	PL38
179	小玉	3.8	2.4	1.2	0.04	不明	鑄造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸 不規則な色ムラ 溶解不十分	3区5X	PL38
180	小玉	3.0	1.8	1.0	0.02	不明	鑄造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸	3区5X	PL38
181	小玉	4.2	2.2	1.2	0.04	不明	鑄造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸	4区6X	PL38
182	小玉	3.8	1.8	1.4	0.03	不明	鑄造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸	4区3X	PL38
183	小玉	3.8	1.9	1.6	0.04	不明	鑄造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸 未溶解ガラス片による凹凸	4区4X	PL38
184	小玉	3.7	2.2	1.2	0.02	不明	鑄造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸 不規則な色ムラ 未溶解ガラス片による凹凸	4区5X	PL38
185	小玉	3.6	2.0	1.4	0.04	不明	鑄造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸	4区5X	PL38
186	小玉	(3.6)	(2.0)	(0.8)	(0.01)	不明	鑄造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸	4区6X	PL38
187	小玉	(3.4)	(2.0)	(1.0)	(0.01)	不明	鑄造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸	4区6X	PL38
188	小玉	4.0	2.6	1.2	0.06	不明	鑄造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸 一部光沢有	4区6X	PL38
189	小玉	3.6	2.8	1.0	0.06	不明	鑄造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸 一部光沢有	4区6X	PL38
190	小玉	3.8	2.7	1.2	0.06	不明	鑄造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸 一部光沢有	4区6X	PL38
191	小玉	3.8	2.4	1.2	0.03	不明	鑄造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸 溶解不十分	4区6X	PL38
192	小玉	3.6	2.6	1.4	0.03	不明	鑄造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸 不規則な色ムラ 溶解不十分	4区6X	PL38
193	小玉	3.5	2.3	1.1	0.04	不明	鑄造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸 一部光沢有 溶解不十分	4区6X	PL38
194	小玉	3.4	1.7	1.7	0.03	不明	鑄造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸	4区6X	PL38
195	小玉	3.3	1.6	1.0	0.01	不明	鑄造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸 溶解不十分	4区6X	PL38
196	小玉	3.6	2.0	1.4	0.04	不明	鑄造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸	4区6X	PL38
197	小玉	3.4	1.8	1.0	0.03	不明	鑄造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸 溶解不十分	4区6X	PL38
198	小玉	3.3	2.1	1.0	0.03	不明	鑄造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸 一部光沢有	4区6X	PL38
199	小玉	3.2	1.9	1.1	0.02	不明	鑄造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸 未溶解ガラス片による凹凸	4区6X	PL38
200	小玉	3.8	2.4	1.2	0.04	不明	鑄造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸 不規則な色ムラ 溶解不十分	4区6X	PL38
201	小玉	3.6	2.0	1.0	0.02	不明	鑄造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸	4区6X	PL38
202	小玉	3.6	2.5	1.0	0.05	不明	鑄造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸 一部光沢有	4区6X	PL38
203	小玉	3.4	2.2	1.2	0.05	不明	鑄造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸	4区6X	PL38
204	小玉	3.2	2.6	1.6	0.04	不明	鑄造カ 細かな気泡の充溢 一部光沢有	4区6X	PL38
205	小玉	4.0	2.6	1.4	0.04	不明	鑄造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸 一部光沢有	4区6X	PL38
206	小玉	3.7	2.2	1.4	0.05	不明	鑄造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸	4区6X	PL38
207	小玉	3.4	1.7	1.0	0.04	不明	鑄造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸 不規則な色ムラ	4区6X	PL38
208	小玉	3.7	2.3	1.6	0.04	不明	鑄造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸	4区6X	PL38
209	小玉	3.7	2.2	1.0	0.03	不明	鑄造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸	4区6X	PL38
210	小玉	3.5	2.1	1.4	0.02	不明	鑄造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸 溶解不十分	4区6X	PL38
211	小玉	3.6	1.9	1.6	0.04	不明	鑄造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸	4区6X	PL38
212	小玉	3.5	2.2	1.2	0.03	不明	鑄造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸	4区6X	PL38
213	小玉	3.4	2.1	1.2	0.03	不明	鑄造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸 一部光沢有	4区6X	PL38
214	小玉	3.5	1.7	1.3	0.03	不明	鑄造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸	4区6X	PL38
215	小玉	3.6	1.2	1.3	0.03	不明	鑄造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸	4区6X	PL38
216	小玉	3.6	2.3	1.4	0.04	不明	鑄造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸	4区6X	PL38
217	小玉	3.2	1.7	1.1	0.03	不明	鑄造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸 不規則な色ムラ 未溶解ガラス片による凹凸	4区6X	PL38
218	小玉	4.0	2.7	1.2	0.05	不明	鑄造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸	4区6X	PL38
219	小玉	3.7	2.5	1.1	0.04	不明	鑄造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸 溶解不十分	4区6X	PL38
220	小玉	3.8	2.4	1.4	0.05	不明	鑄造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸 一部光沢有	4区5X	PL38
221	小玉	3.8	2.6	1.0	0.04	不明	鑄造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸 不規則な色ムラ 溶解不十分	4区6X	PL38
222	小玉	4.2	2.1	1.4	0.04	不明	鑄造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸	床面	PL38
223	小玉	3.4	1.7	1.2	0.02	不明	鑄造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸 未溶解ガラス片による凹凸	床面	PL38
224	小玉	3.4	2.1	1.0	0.03	不明	鑄造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸 未溶解ガラス片による凹凸	床面	PL38
225	小玉	3.4	2.3	1.0	0.03	不明	鑄造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸 未溶解ガラス片による凹凸	床面	PL38
226	小玉	3.6	2.2	1.2	0.03	不明	鑄造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸 一部光沢有	床面	PL38
227	小玉	3.6	1.8	1.2	0.03	不明	鑄造カ 細かな気泡の充溢 孔内凹凸	床面	PL38

(2) 上境滝の台古墳群出土鉄製品蛍光 X 線分析報告

埋蔵文化財の保存処理 いしかわ

はじめに

本分析調査では、上境滝の台古墳群から出土した象嵌の施された鉄製品について、蛍光 X 線分析装置による元素マッピング分析を行い、象嵌の材質を検討した。

1. 試料

分析対象試料は、板状を呈する鉄製品の一部で、表面には広く錆が認められるものの、片面の所々に象嵌が認められる。

2. 分析方法

分析は、非破壊で鉄製品外面の元素マッピング分析、および特徴的な箇所ポイント分析(照射径 100 μm)を行った。測定には、蛍光 X 線分析装置の一種である株式会社堀場製作所製分析顕微鏡 XGT-5000Type II を使用した。装置の仕様は、X 線管が最大 50kV、1.00mA のロジウム (Rh) ターゲット、X 線ビーム径が 100 μm または 10 μm

m, X線検出器は高純度 Si 検出器で、検出可能元素はナトリウム (Na) ～ウラン (U) である。本装置は、試料ステージを走査させながらの測定により、元素マッピング分析が可能となる。元素マッピング分析を行った後、得られたマッピング図を基に特徴的な組成の箇所を選び、ポイント分析を行った。測定条件は、元素マッピング分析では管電圧 50kV、管電流 1.00mA、ビーム径 100 μ m、測定時間 18000s を 1 回走査、ポイント分析では管電圧 50kV、管電流自動設定、ビーム径 100 μ m、測定時間 1000s に設定した。定量分析は、ノンスタンダード FP 法による半定量分析を装置付属ソフトで行った。得られた値は、合計が 100% になるようノーマライズされている。

蛍光 X 線分析は、表面分析であり、均質とは限らない金属製品の正確な組成比を必ずしも示しているとはいえないが、おおよその組成、含まれている微量元素を知る上では有効な手法である。ポイント分析により得られた結果は、厳密な値の比較検討には適しておらず、おおまかな、定性的な結果としてとらえる必要がある。

3. 結果および考察

鉄製品の元素マッピング分析により得られた鉄 (Fe)、銅 (Cu)、銀 (Ag)、金 (Au)、水銀 (Hg) の元素マッピング図を図版 1 に、マッピング図に示した a～f の各ポイントの半定量分析結果を表 1 に示す。ポイント分析では、鉄 (Fe)、銅 (Cu)、臭素 (Br)、銀 (Ag) が検出された。

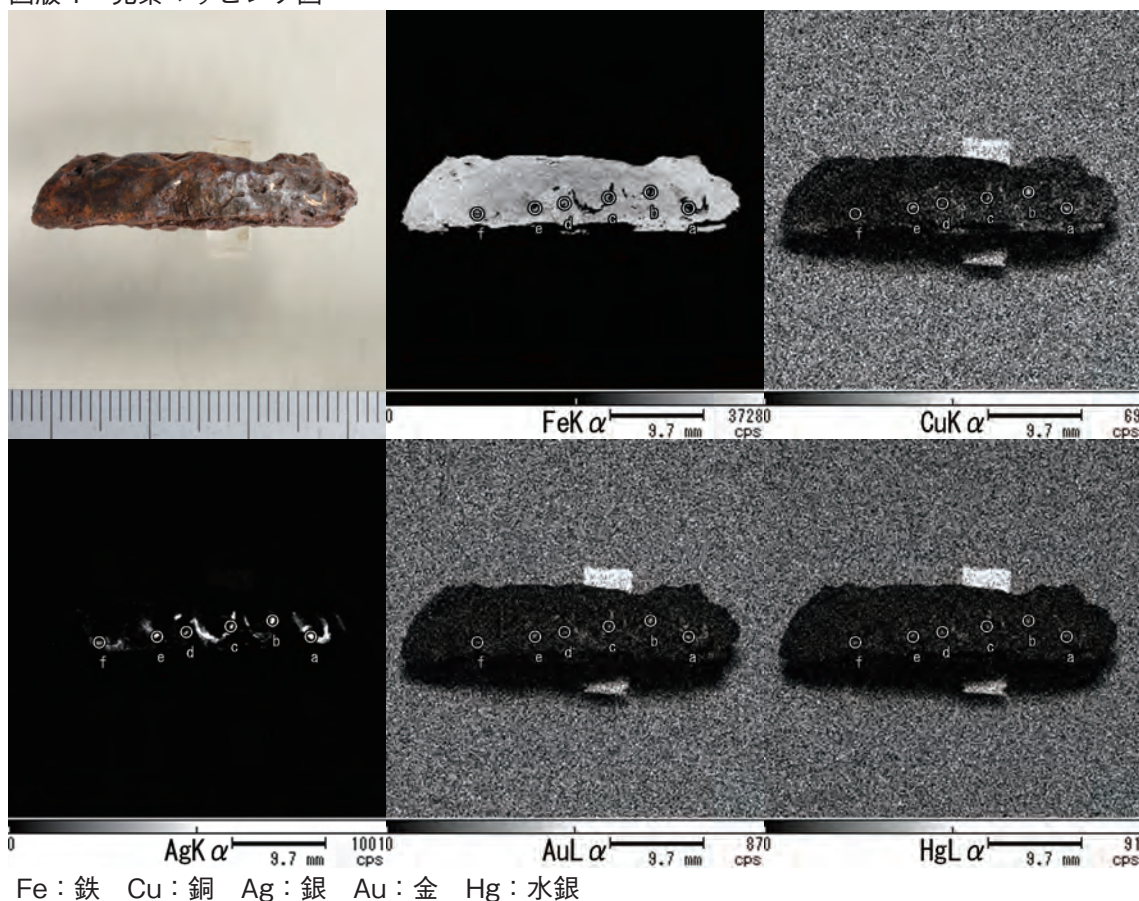
表 1 各ポイントの半定量分析結果 (mass%)

位置	Fe	Cu	Br	Ag
a	6.92	0.19	—	92.89
b	9.75	0.24	—	90.00
c	11.11	0.05	0.46	88.38
d	34.82	—	3.78	61.40
e	88.70	0.17	0.50	10.63
f	56.37	—	7.19	36.43

元素マッピング分析の結果、鉄 (Fe) の輝度が低く、銀 (Ag) の輝度が高い箇所が確認された。銀 (Ag) の輝度の高い箇所のポイント分析の結果、銀 (Ag) と鉄 (Fe) が主に検出された。鉄 (Fe) は、象嵌周囲の地の部分から検出されたものと考えられ、鉄製品に施された象嵌は、銀と考えられる。

なお、元素マッピング図では、金 (Au) や水銀 (Hg) も、銀 (Ag) と同じ位置で輝度が若干高い現象がみられた。しかし、ポイント分析では金 (Au) も水銀 (Hg) もピークが検出されず、検出限界以下と確認された。この現

図版 1 元素マッピング図



象は、測定位置のマトリックスの違いでバックグラウンド強度に差が表れたため生じたと考えられる。銅 (Cu) のマッピング図においても、金 (Au) や水銀 (Hg) と同様の現象が起きていると考えられるが、銅 (Cu) はポイント分析でもわずかに検出されており、象嵌の銀中に少量の銅が含まれていた可能性がある。ただし、銀 (Ag) と銅 (Cu) の半定量分析結果は必ずしも相関があるとはいえず、地の鉄製品中にも銅 (Cu) は少量含有されているため、鉄 (Fe) と同様に象嵌周囲の地の部分の銅 (Cu) を検出している可能性もある。また、臭素 (Br) は銀 (Ag) と反応しやすい元素で、象嵌表面に臭化銀を形成していると考えられる。

(3) 上境滝の台古墳群出土木質付着鉄製品の自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

I. 鉄製品付着の樹種同定

1. 試料

樹種同定用試料は、不明鉄製品 (No.28) と切刃 (No.82) であるが、No.82 は両面 (表裏) から採取するので、合計 3 点である。目立たないようにごく少量の試料を採取し、電子顕微鏡観察を行う。

2. 分析方法

目立たないようにごく少量の試料を採取し、剃刀を用いて木口 (横断面)・柁目 (放射断面)・板目 (接線断面) の 3 断面を作成、カーボンでコーティングしたあと、電子顕微鏡で木材組織や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類 (分類群) を同定する。なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東 (1982)、Wheeler 他 (1998)、Richter 他 (2006) を参考にする。また、日本産木材の組織配列は、林 (1991) や伊東 (1995,1996,1997,1998,1999) を参考にする。

3. 結果

不明鉄製品 (No.28) 付着の木材は、放射組織、仮道管がみられ、道管に壁孔が配列しているなど針葉樹の特徴を示すが、保存が悪いことから、詳細は不明である。

切刃 (No.82) の木材は、採取試料が微細で年輪境界の情報はいわゆるわからないが、軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。放射組織は柔細胞のみで構成され、分野壁孔はヒノキ型～トウヒ型で、1 分野に 2～3 個。放射組織は単列 1-15 細胞高である。これらの形状から、ヒノキ (*Chamaecyparis obtusa* (Sieb.et Zucc.) Endlicher) に同定される。

伊東・山田編 (2012) 木材利用データベースによれば、刀の鞘や装飾具に使う木材は多岐にわたるが、ヒノキなど針葉樹が使われる例も多い。比較的軽くて丈夫、加工がしやすく狂いにくいという、ヒノキ材の特性を生かしたものだと思われる。

II. 鉄製品付着の布状圧痕鑑定

1. 試料

布状圧痕を観察する試料は、鞞尻金具 (No.106) に巻き付けてある布状物質 1 点である。

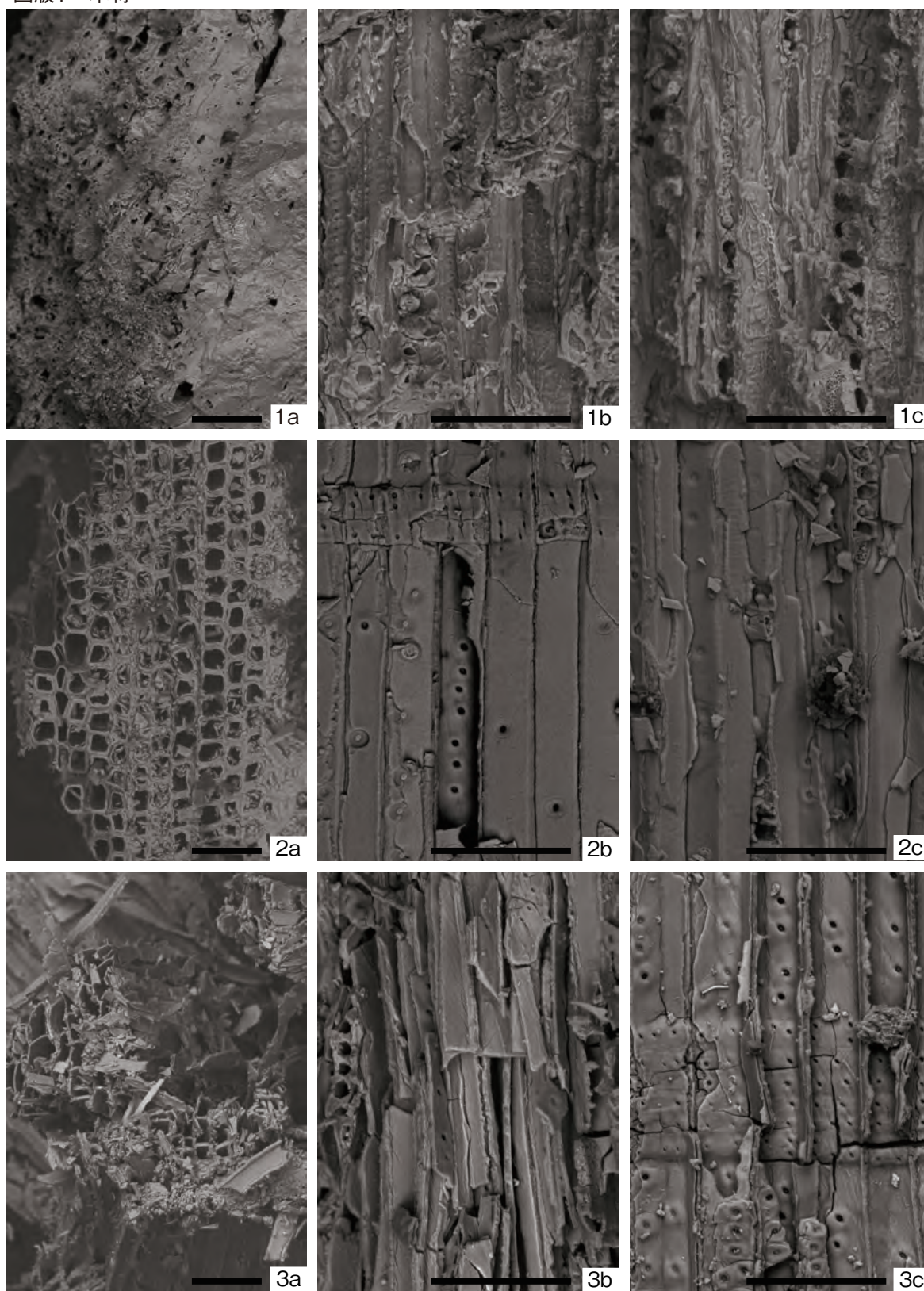
2. 分析方法

マイクロスコープ (キーエンス製 VHX-1000) により表面観察を行い、同時に写真撮影を行う。

3. 結果

マイクロスコープによる観察の状況を図版 4 に示す。布状物質は、0.5mm 程度の撚糸を平織にして作られている。撚糸に用いられている繊維は、均質で長く、太さは 30 μ m (0.03mm) ほどである。太さが均質で長いこと、織

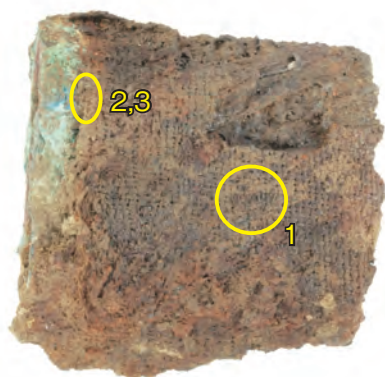
図版1 木材



1. 針葉樹(No.28)
2. ヒノキ(No.82 表)
3. ヒノキ(No.82 裏)

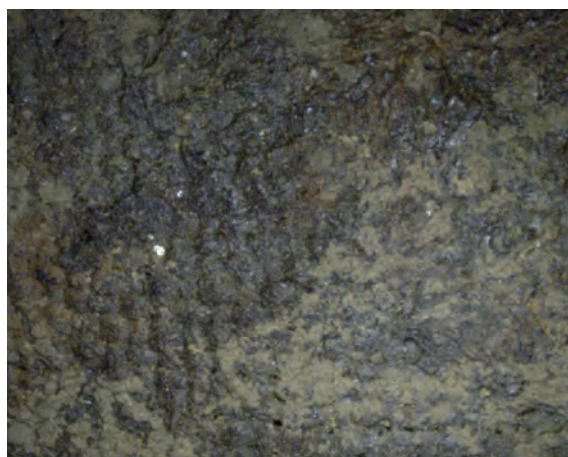
スケールは100 μ m
a:木口 b:柁目 c:板目

図版2 試料外観・マイクロスコープ写真



試料(No.106)

10mm



マイクロスコープ像1(No.106)

1mm



マイクロスコープ像2(No.106)

0.5mm



マイクロスコープ像3(No.106)

0.5mm



試料(No.28)

10mm



試料 表(No.82)

10mm



試料 裏(No.82)

10mm

青丸は同定用試料採取位置

維が細いこと、劣化して黄変していることから、おそらく絹糸と思われる（劣化で黄色に変色するのは絹糸の特徴であるが、鉄分による変色の可能性もある）。ただし、確定するためには電子顕微鏡による詳細な形状観察を行う必要がある。

引用文献

- 林 昭三, 1991, 日本産木材 顕微鏡写真集. 京都大学木質科学研究所.
 伊東隆夫, 1995, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ. 木材研究・資料, 31, 京都大学木質科学研究所, 81-181.
 伊東隆夫, 1996, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ. 木材研究・資料, 32, 京都大学木質科学研究所, 66-176.
 伊東隆夫, 1997, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ. 木材研究・資料, 33, 京都大学木質科学研究所, 83-201.
 伊東隆夫, 1998, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ. 木材研究・資料, 34, 京都大学木質科学研究所, 30-166.
 伊東隆夫, 1999, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ. 木材研究・資料, 35, 京都大学木質科学研究所, 47-216.
 伊東隆夫・山田昌久(編), 2012, 木の考古学 出土木製品用材データベース, 海青社, 449p.
 Richter,H.G., Grosser,D., Heinz,I. and Gasson,P.E.(編), 2006, 針葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト. 伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部 久・内海泰弘(日本語版監修), 海青社, 70p. [Richter,H.G., Grosser,D., Heinz,I. and Gasson,P.E.(2004) IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification].
 鳥地 謙・伊東隆夫, 1982, 図説木材組織. 地球社, 176p.
 Wheeler,E.A., Bass P. and Gasson P.E.(編), 1998, 広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト. 伊東隆夫・藤井智之・佐伯 浩(日本語版監修), 海青社, 122p. [Wheeler,E.A., Bass,P. and Gasson,P.E.(1989) IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification].

(4) 上境滝の台古墳群出土のガラス小玉等の蛍光 X 線分析

株式会社イビソク

1. はじめに

つくば市上境に所在する上境滝の台古墳群より出土したガラス小玉等について、蛍光 X 線分析による元素分析を行い、材質の検討を行った。

2. 試料と方法

分析対象は、第3号墳主体部内より出土した4点のガラス小玉である(表1)。時期は古墳時代とみられている。分析装置はエスアイアイ・ナノテクノロジー株式会社製のエネルギー分散型蛍光 X 線分析計 SEA1200VX を使用した。装置の仕様は、X 線管が最大 50kV, 1000 μ A のロジウム (Rh) ターゲット, X 線照射径が 8mm または 1mm, X 線検出器は SDD 検出器である。また、複数の一次フィルタが内蔵されており、適宜選択、挿入することで S/N 比の改善が図れる。検出可能元素はナトリウム (Na) ~ウラン (U) であるが、ナトリウム、マグネシウム (Mg), アルミニウム (Al) といった軽元素は、蛍光 X 線分析装置の性質上、検出感が悪い。

測定条件は、管電圧・一次フィルタの組み合わせが 15kV (一次フィルタ無し)・50kV (一次フィルタ Pb 測定用・Cd 測定用) の計 3 条件で、測定時間は各条件 500 ~ 1700s, 管電流自動設定, 照射径 1mm, 試料室内雰囲気真空に設定した。定量分析は、酸化物の形で算出し、ノンスタンダード FP 法による半定量分析を行った。得られる半定量値は、同装置での測定結果を相対的に比較するための値である。

試料は、実体顕微鏡下での観察後、非破壊で測定した。実体顕微鏡観察は、主にエタノール浸漬状態で、透過光下で行った。分析 No.1 は、不透明なため、エタノール浸漬せず、落射光下で観察した。なお、ガラス製遺物は、透明で風化がないように見える箇所でも表面の風化が進んでおり、酸化ナトリウム (NaO₂), 酸化カリウム (K₂O) の減少など表面の化学組成に変化が生じている(肥塚, 1997)。人為的に露出させた完全な新鮮面でない場合は、解釈の際に風化の影響を考慮する必要がある。

3. 分析結果

実体顕微鏡観察の結果、分析 No.2 ~ 4 はガラス中に気泡が多く観察された(図版1)。分析 No.1 は、不透明で石製と判断された。分析 No.3, 4 は、表面がいびつであった。

蛍光 X 線分析により得られた半定量値を表 2 に示す。なお、表では考察で述べる化学組成上の分類に従って試料の順番を並べ替えてある。分析の結果、分析 No.1 以外の 3 点はアルカリ金属と二酸化ケイ素 (SiO₂) を主成分とするアルカリ珪酸塩ガラスに分類され、分析 No.1 は石製と確認された。

検出できた元素は試料によって異なるが、酸化ナトリウム(Na_2O)、酸化マグネシウム(MgO)、酸化アルミニウム(Al_2O_3)、二酸化ケイ素 (SiO_2)、酸化リン (P_2O_5)、酸化硫黄 (SO_3)、酸化カリウム (K_2O)、酸化カルシウム (CaO)、酸化チタン (TiO_2)、酸化クロム (Cr_2O_3)、酸化マンガン (MnO)、酸化鉄 (Fe_2O_3)、酸化コバルト (CoO)、酸化ニッケル (NiO)、酸化銅 (CuO)、酸化亜鉛 (ZnO)、酸化ルビジウム (Rb_2O)、酸化ストロンチウム (SrO)、酸化ジルコニウム (ZrO_2)、酸化モリブデン (MoO_3)、酸化スズ (SnO_2)、酸化バリウム (BaO)、酸化鉛 (PbO) の合計 23 元素である。

4. 考察

実体顕微鏡観察の結果、分析 No.2 は、伸びた気泡や気泡列、筋状の模様等は観察されず、製作技法は不明であった。分析 No.3, 4 は、表面状態がいびつであり、ガラス細片を鋳型に入れて融着させ、製作されたと考えられる。分析 No.1 は、研磨によって成形された石製と考えられる。

古代のガラスについては、肥塚・田村・大賀(2010 など) や、中井・阿部ら(白瀧ほか, 2012 など) により、詳細に分類されている。今回分析した4点について、化学組成に基づき、以下のとおり分類した。

なお、ガラスの主成分となる酸化ナトリウム (Na_2O) と酸化カリウム (K_2O) は、試料によっては含有量が少なかったり、検出されていないことがある。しかし、風化の影響を受けやすい元素である点や、特に酸化ナトリウム (Na_2O) は蛍光 X 線での感度の悪い元素である点を考慮する必要がある、影響を受けにくい他の元素の化学組成より、風化したガラス小玉でも分類は可能である。

・青紺色ガラス小玉 ($\text{Na}_2\text{O}-\text{CaO}-\text{SiO}_2$ 系) (分析 No.2, 3)

分析 No.2, 3 の2点は、化学組成は、酸化ルビジウム (Rb_2O) と酸化ジルコニウム (ZrO_2) が少なく酸化ストロンチウム (SrO) が比較的多いなどの特徴により、基礎ガラスは、酸化アルミニウム (Al_2O_3) が比較的少なく酸化カルシウム (CaO) の量が多いタイプである、ソーダ石灰ガラス ($\text{Na}_2\text{O}-\text{CaO}-\text{SiO}_2$ 系) に属すると考えられる。

発色には、コバルトイオンが主に影響していると推定される。後述の分析 No.4 と異なり、酸化マンガン (MnO)、酸化バリウム (BaO) が少なく、酸化鉛 (PbO) がやや多い。

$\text{Na}_2\text{O}-\text{CaO}-\text{SiO}_2$ 系のソーダ石灰ガラスは、西アジアやエジプトなど地中海周辺地域でみられ「西方のガラス」と呼ばれる(肥塚, 2003 など)。さらに、 $\text{Na}_2\text{O}-\text{CaO}-\text{SiO}_2$ 系のソーダ石灰ガラスには、ナトリウム源にナトロンと呼ばれる天然ソーダを使用したと推定される酸化マグネシウム (MgO)、酸化カリウム (K_2O) の少ないタイプと、ナトリウム源に植物灰を使用したと推定される酸化マグネシウム (MgO)、酸化カリウム (K_2O) の多いタイプに分類されており(加藤ほか, 2005 など)、日本の $\text{Na}_2\text{O}-\text{CaO}-\text{SiO}_2$ 系のソーダ石灰ガラスにおいても両者の存在が明らかとなっている(田村ほか, 2011)。今回分析した $\text{Na}_2\text{O}-\text{CaO}-\text{SiO}_2$ 系のソーダ石灰ガラス2点は、酸化マグネシウム (MgO)、酸化カリウム (K_2O) が多めで、植物灰ガラスと考えられる。ただし、今回のガラス小玉は、ガラス細片を鋳型に入れ融着させた製品である可能性があるため、後述の分析 No.4 ほどではなくとも、カリガラスなどが多少混ざっている可能性は否定できない。特に分析 No.3 は、鋳型製作である可能性が高く、実体顕微鏡観察でも紫紺色の細片が観察されるため(図版 1-3)、同一材料でないガラス細片が含まれているのは明らかである。

・青紺色ガラス小玉 ($\text{Na}_2\text{O}-\text{K}_2\text{O}-\text{CaO}-\text{SiO}_2$ 系) (分析 No.4)

分析 No.4 は、上述の青紺色ソーダ石灰ガラス ($\text{Na}_2\text{O}-\text{CaO}-\text{SiO}_2$ 系) とした2点と同様に、酸化ジルコニウム (ZrO_2) が少なく酸化ストロンチウム (SrO) が比較的多いなどの特徴がみられる。その一方で、酸化カリウム (K_2O) が分析 No.2, 3 よりもさらに多く、酸化ルビジウム (Rb_2O) が検出されるといった特徴もみられる。また、酸化コバルト (CoO) が検出される点は分析 No.2, 3 と共通するが、酸化マンガン (MnO) がかなり多く、酸化バリウム (BaO) がやや多く、酸化鉛 (PbO) が少ない。また、酸化モリブデン (MoO_3) が検出されている。これらの特徴は、紺色系のカリガラス ($\text{K}_2\text{O}-\text{SiO}_2$ 系) にみられる特徴であり、また、鋳型製作である可能性が高い点と併せ、ソーダ石

灰ガラス($\text{Na}_2\text{O}-\text{CaO}-\text{SiO}_2$ 系) とカリガラス($\text{K}_2\text{O}-\text{SiO}_2$ 系) を混合した、混合アルカリ石灰ガラス($\text{Na}_2\text{O}-\text{K}_2\text{O}-\text{CaO}-\text{SiO}_2$ 系) と考えられる。

・石製玉(分析 No.1)

分析 No.1 は、研磨によって成形された石製と考えられる。

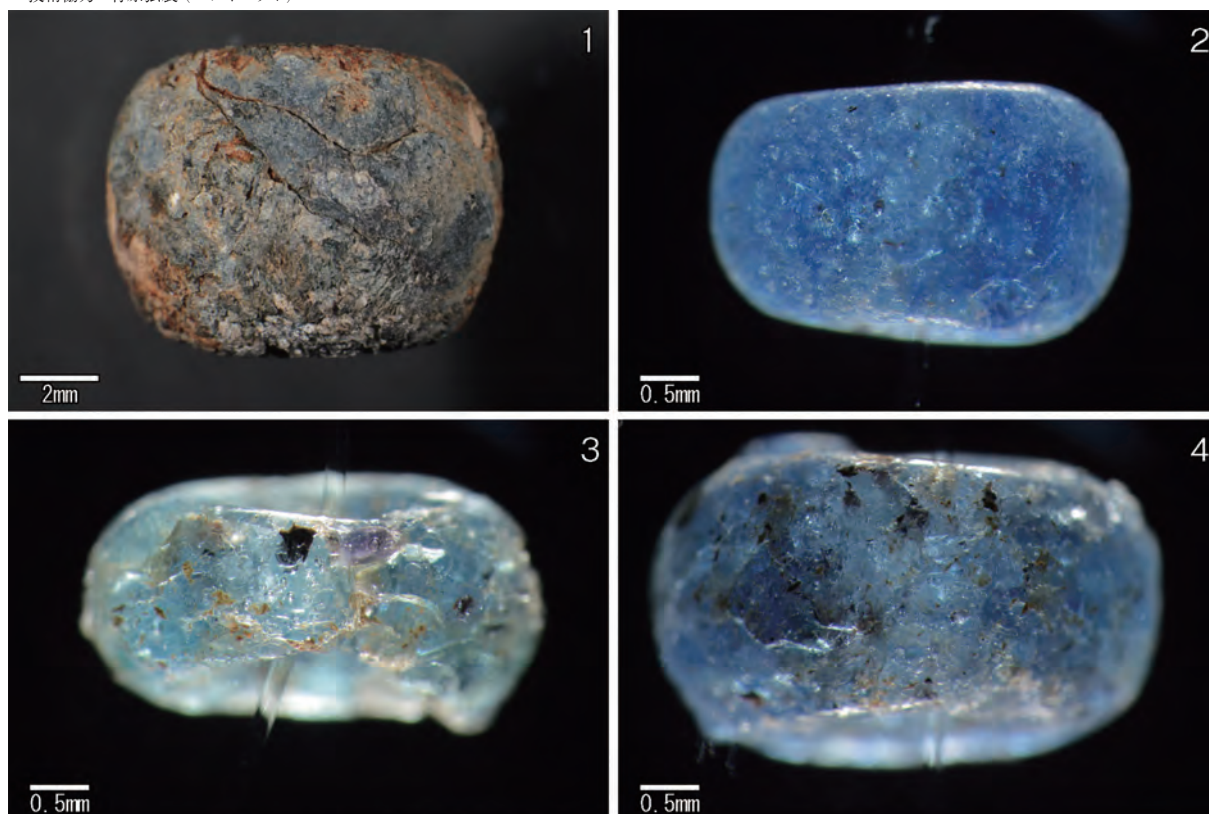
化学組成は、酸化マグネシウム (MgO) が非常に多く、滑石ないし蛇紋岩の類と推定される。

5. おわりに

上境滝の台古墳群から出土したガラス小玉等 4 点の蛍光 X 線分析を行った結果、1 点を除き、アルカリ珪酸塩ガラスと確認された。化学組成の特徴から、青紺色 2 点はソーダ石灰ガラスに、青紺色 1 点は混合アルカリ石灰ガラスに属する可能性が高い。残り 1 点は、石製品であった。

引用・参考文献

- 加藤慎啓・沢田貴史・保倉明子・中井 泉・真道洋子 (2005) ポータブル蛍光 X 線分析装置によるエジプト・ラーヤ遺跡出土ガラスの考古化学的研究. 日本文化財科学会第 22 回大会研究発表要旨集, 250-251.
- 肥塚隆保 (1997) 日本で出土した古代ガラスの歴史の変遷に関する科学的研究. 132p, 東京藝術大学博士学位論文.
- 肥塚隆保 (2003) 日本出土ガラスから探る古代の交易—古代ガラス材質の歴史の変遷—. 沢田正昭編「遺物の保存と調査」: 145-158, クバプロ.
- 肥塚隆保・田村朋美・大賀克彦 (2010) 古代ガラスと考古科学材質とその歴史の変遷. 月刊文化財, 566, 13-25.
- 松崎真弓・白瀧絢子・池田朋生・中井 泉 (2012) 非破壊オンサイト分析による日本出土の古代ガラスの流通に関する考古化学的研究. 日本文化財科学会第 29 回大会研究発表要旨集, 374-375.
- 中井 泉編 (2005) 蛍光 X 線分析の実際. 242p, 朝倉書店.
- 作花済夫・境野照雄・高橋克明編 (1975) ガラスハンドブック. 1072p, 朝倉書店.
- 白瀧絢子・阿部善也・タンタラカーン・クリアンカモル・中井 泉・池田朋生・坂口圭太郎・後藤克博 (2010) 熊本県の古墳から出土したガラスビーズの考古化学的研究. 日本文化財科学会第 27 回大会研究発表要旨集, 254-255.
- 白瀧絢子・阿部善也・K. タンタラカーン・中井 泉・池田朋生・坂口圭太郎・後藤克博・荒木隆宏 (2012) 熊本県出土の古代ガラスの考古化学的研究. 考古学と自然科学, 63, 29-52.
- 田村朋美・高妻洋成・肥塚隆保 (2011) 日本出土ソーダ石灰ガラス製小玉の種類とその変遷. 日本文化財科学会第 28 回大会研究発表要旨集, 120-121.
- 田村朋美・高妻洋成 (2012) 弥生・古墳時代のナトロンガラス製玉類の考古化学的研究. 日本文化財科学会第 29 回大会研究発表要旨集, 24-25.
- 山根正之 (1989) はじめてガラスを作る人のために. 195p, 内田老鶴圃.
- 技術協力: 竹原弘展 (パレオ・ラボ)



図版1 ガラス小玉等の実体顕微鏡写真 (1. 落射光、2~4. 透過光、数字は分析No.)

5 その他の遺構と遺物

今回の調査では、時期を明確にできなかった竪穴建物跡1棟、方形竪穴遺構1基、土坑124基、溝跡1条、ピット群2か所を確認している。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 竪穴建物跡

第5号竪穴建物跡 (第95図)

位置 調査区中央部のB 2i6区、標高27mほどの台地縁辺部の平坦面に位置している。

重複関係 第222号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.28m、短軸2.52mの長方形で、主軸方向はN-69°-Eである。壁は高さ10~15cmで、外傾している。

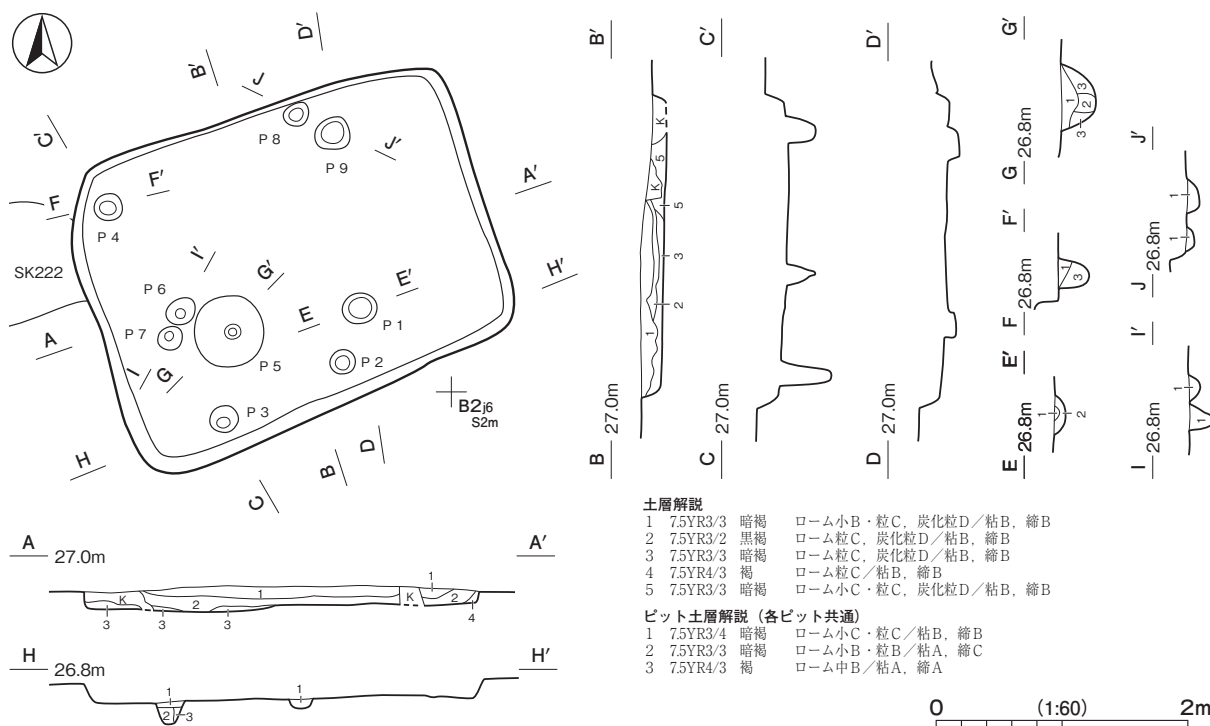
床 平坦で、硬化面は確認できなかった。

ピット 9か所。P1~P9は深さ8~42cmである。

覆土 5層に分層できる。ロームブロックが含まれる層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

遺物出土状況 縄文土器片43点(深鉢)が出土している。いずれも小片のため図示できない。

所見 時期は、不明である。



第95図 第5号竪穴建物跡実測図

(2) 方形竪穴遺構

第1号方形竪穴遺構 (第96図 PL 4)

位置 調査区南部のC 2e1区、標高26.6mほどの台地縁辺部の平坦面に位置している。

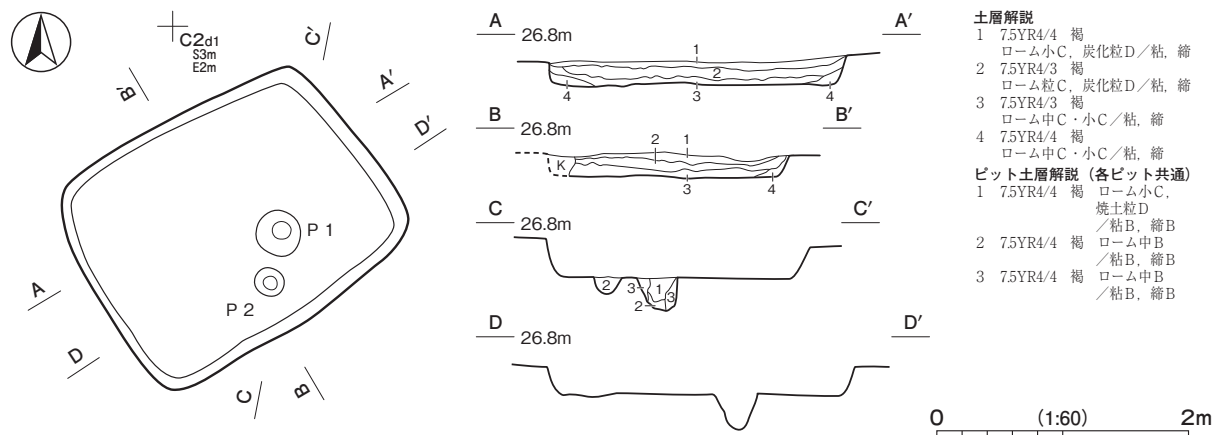
規模と形状 長軸2.41m、短軸1.92m長方形で、主軸方向はN-56°-Eである。壁は高さ15~28cmで、外傾している。

ピット 2か所。P1・P2は深さ15cm・30cmである。

覆土 4層に分層できる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片 12点（深鉢），土師器片 1点が出土している。

所見 時期は，不明である。



第 96 図 第 1 号方形竪穴遺構実測図

(3) 土坑（第 3 図 第 76 表）

今回の調査では，出土遺物がないため，時期が明確にできなかった土坑 124 基を確認している。以下，全体図（第 3 図）及び一覧表にて掲載する。

第 76 表 その他の土坑一覧

番号	位置	主軸方向	平面形	規模		壁面	底面
				長軸×短軸 (m)	深さ		
2	A3f1	N - 23° - W	楕円形	0.95 × 0.61	41	外傾	平坦
6	A3i3	N - 47° - W	楕円形	1.21 × 0.69	14	外傾	平坦
7	A3j4	N - 12° - W	楕円形	1.07 × 0.77	24	外傾	U字状
13	A3h2	—	円形	0.75 × 0.70	12~30	外傾	平坦
14	A3h3	N - 59° - W	楕円形	0.90 × 0.49	14	外傾	平坦
15	A3f2	N - 10° - E	楕円形	0.51 × (0.40)	44	外傾	U字状
16	A3g1	N - 32° - W	楕円形	1.22 × 0.67	33	外傾	平坦
17	A3f2	—	円形	0.49 × 0.47	14	外傾	平坦
18	A3f1	N - 44° - W	楕円形	1.23 × 0.74	27~38	外傾	凹凸
19	B3a1	N - 58° - E	楕円形	1.00 × 0.60	21	外傾	U字状
20	B3a2	N - 73° - W	楕円形	1.54 × 1.15	28	外傾	U字状
22	A3g3	N - 50° - W	楕円形	0.56 × 0.47	20	外傾	U字状
27	A3g1	N - 50° - E	楕円形	0.84 × 0.74	25	外傾	U字状
29	A2i6	—	円形	0.45 × 0.41	25	外傾	平坦
32	A2h0	N - 9° - W	楕円形	0.93 × 0.72	38	外傾	U字状
39	B3e4	N - 3° - E	楕円形	0.92 × 0.81	12	外傾	平坦
40	A3j2	N - 64° - W	楕円形	1.42 × 0.90	21	外傾	平坦
42	B3e5	N - 0° -	円形	0.40 × 0.36	46	外傾	U字状
43	A3j3	N - 49° - E	楕円形	0.79 × 0.63	13	外傾	平坦
46	B3e4	N - 84° - W	楕円形	1.80 × 1.18	26	外傾	平坦
47	B3e4	—	円形	0.96 × 0.88	18	外傾	平坦
49	B3e4	—	円形	0.90 × (0.32)	15	外傾	平坦
50	B3e4	N - 20° - E	楕円形	0.89 × 0.70	28	外傾	平坦
51	A3f1	N - 15° - E	楕円形	0.90 × 0.62	22	外傾	U字状
52	B3e4	—	円形	0.56 × (0.51)	25	外傾	平坦
53	B3e4	N - 87° - E	楕円形	(0.50) × 0.49	15	外傾	平坦
55	B3e4	N - 66° - W	楕円形	0.49 × (0.10)	4	外傾	平坦
56	B3e4	—	円形	0.53 × 0.50	15	外傾	平坦
62	B3d5	N - 79° - E	楕円形	1.00 × 0.86	26	外傾	平坦
63	B3d5	N - 80° - E	楕円形	0.79 × 0.7	18	外傾	平坦
68	B3e3	N - 45° - E	楕円形	1.04 × 0.81	20	外傾	皿状
69	B3e4	—	円形	0.33 × 0.3	35	外傾	平坦
70	B3e4	N - 39° - E	楕円形	0.34 × 0.22	28	外傾	U字状
71	B3f2	N - 58° - W	楕円形	0.87 × 0.69	24	外傾	平坦
75	B3g3	N - 5° - E	楕円形	0.65 × 0.52	28	外傾	U字状
80	B3d5	—	円形	0.88 × 0.86	30	外傾	平坦
81	B3e4	N - 33° - E	楕円形	0.60 × 0.42	50	外傾	U字状
82	B3e4	N - 69° - W	楕円形	(1.00) × 0.64	12	外傾	平坦
83	B3f2	N - 34° - W	楕円形	1.09 × 0.91	18	外傾	平坦
84	B3d5	N - 37° - W	楕円形	(1.20) × (0.40)	34	外傾	平坦
87	B3f3	—	円形	0.84 × 0.80	26	外傾	平坦
89	B3e4	N - 49° - W	楕円形	0.34 × 0.25	10	外傾	平坦
92	B3g3	N - 39° - W	楕円形	1.67 × 0.90	30	外傾	平坦
94	A3j2	—	円形	1.19 × 1.10	17	外傾	平坦
95	B3h3	N - 23° - E	楕円形	1.30 × 0.72	50	外傾	平坦
97	B3g3	N - 82° - W	楕円形	0.92 × 0.61	34	外傾	U字状
98	B3f2	N - 35° - W	楕円形	0.27 × 0.23	77	垂直	U字状
102	B3d4	N - 42° - W	楕円形	0.66 × (0.38)	26	外傾	平坦
103	B3e1	N - 50° - E	楕円形	0.72 × 0.64	41	外傾	平坦
104	B3g2	N - 85° - W	楕円形	0.72 × 0.57	22	外傾	平坦
107	B3e1	N - 22° - W	楕円形	0.57 × 0.50	48	外傾	U字状
108	B3e1	N - 30° - E	楕円形	0.50 × 0.43	24	外傾	平坦
110	B3e1	—	円形	0.99 × 0.94	106	外傾	平坦
114	B3e4	N - 59° - W	楕円形	0.62 × 0.49	32	外傾	U字状
116	B3e3	N - 30° - W	楕円形	1.06 × 0.87	22	外傾	皿状
121	B3c3	N - 23° - E	楕円形	(0.56) × 0.56	20	外傾	平坦
122	B3c3	N - 5° - W	楕円形	0.88 × 0.70	20	外傾	平坦
123	B2d0	N - 15° - E	楕円形	0.82 × 0.77	70	外傾	平坦
128	B2g9	—	円形	0.60 × 0.60	18	外傾	平坦
133	B2g9	N - 68° - E	楕円形	0.48 × 0.38	44	外傾	V字状
135	B3d4	N - 5° - E	楕円形	(1.12) × (0.80)	24	外傾	平坦
136	B3d4	N - 45° - E	楕円形	0.92 × 0.56	34	外傾	平坦
140	B2d9	—	円形	0.95 × 0.90	35	外傾	U字状
141	B2e9	—	円形	0.68 × 0.65	9	外傾	平坦
144	B2f7	N - 17° - E	楕円形	0.49 × 0.38	20	外傾	U字状
146	B2f8	N - 53° - E	楕円形	0.82 × 0.56	40	外傾	U字状
148	B2f8	N - 38° - W	楕円形	0.40 × 0.36	36	傾-傾	U字状
149	B2f7	N - 20° - E	楕円形	0.48 × 0.32	22	外傾	U字状
151	B2g7	N - 60° - W	楕円形	0.55 × 0.43	36	外傾	平坦
153	B2f8	—	円形	0.54 × 0.54	20	外傾	平坦
154	B2f8	N - 28° - E	楕円形	0.72 × 0.64	24	外傾	平坦
156	B2d0	N - 58° - E	楕円形	0.93 × 0.66	14	外傾	平坦
157	B2c0	N - 29° - W	楕円形	0.38 × 0.32	74	外傾	平坦
159	B2c0	—	円形	0.26 × 0.24	28	外傾	U字状
161	B2c0	—	円形	0.44 × 0.41	18	外傾	平坦
162	B2c0	N - 24° - E	楕円形	0.60 × 0.46	42	垂直	U字状
163	B2i7	—	円形	0.90 × 0.88	22	外傾	平坦
164	B2d9	N - 25° - E	楕円形	0.58 × 0.42	34	外傾	平坦
165	B2d9	N - 31° - W	楕円形	0.56 × 0.41	82	外傾	U字状
166	B2d9	N - 4° - E	楕円形	0.54 × 0.42	31	外傾	平坦
168	B2f6	—	円形	0.30 × 0.55	59	傾-傾	U字状
177	B2g6	—	円形	0.58 × 0.56	14	外傾	平坦

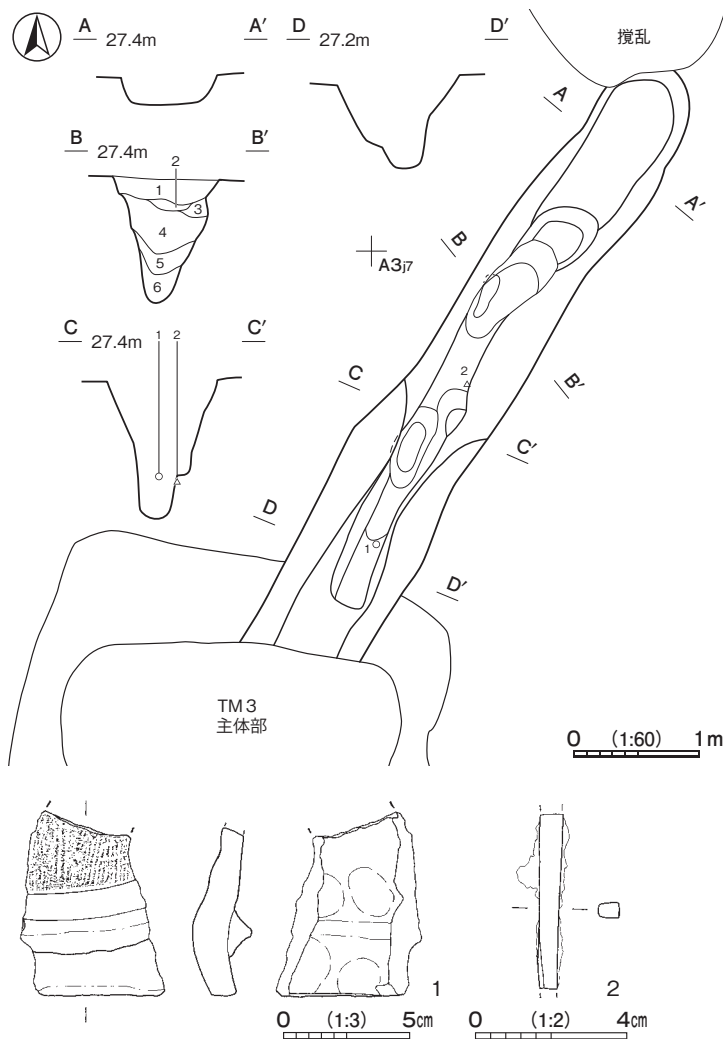
番号	位置	主軸方向	平面形	規模		壁面	底面
				長軸×短軸 (m)	深さ		
178	B3g5	N - 38° - E	楕円形	1.12 × 0.72	70	垂直	U字状
183	B2e7	N - 52° - E	楕円形	0.52 × 0.44	54	外傾	U字状
184	B2e8	N - 49° - E	楕円形	0.53 × 0.40	24	外傾	U字状
186	B2g7	N - 5° - E	楕円形	0.99 × 0.83	23	外傾	平坦
188	B2h6	N - 10° - E	楕円形	0.50 × 0.37	22	外傾	平坦
189	B2h6	N - 24° - W	楕円形	0.64 × 0.39	16~50	外傾	凹凸
198	B2g5	N - 20° - E	楕円形	0.92 × 0.84	20	外傾	U字状
199	B2h5	N - 20° - E	楕円形	0.46 × (0.38)	18	外傾	平坦
200	B2g3	N - 53° - E	楕円形	0.66 × 0.50	48	垂直	U字状
203	B2g8	N - 41° - W	楕円形	0.76 × 0.60	32	外傾	平坦
205	B2h4	N - 77° - E	楕円形	0.70 × 0.56	34	外傾	平坦
207	B2h5	N - 2° - E	楕円形	0.89 × 0.72	24	外傾	平坦
209	B2h4	N - 18° - E	楕円形	0.90 × 0.83	46	外傾	平坦
212	B2h6	N - 37° - W	楕円形	0.80 × 0.60	70	垂直	U字状
215	B2h5	N - 46° - W	楕円形	1.06 × 0.76	120	垂直	U字状
218	B2g5	—	円形	0.38 × 0.34	22	外傾	皿状
223	B2h5	N - 52° - W	楕円形	0.95 × 0.80	78	外傾	U字状
225	B2i5	—	円形	0.58 × 0.56	17	外傾	平坦
228	B2j6	N - 14° - W	楕円形	1.19 × 0.90	19	外傾	有段
234	B2j6	N - 79° - E	楕円形	0.50 × 0.45	75	外傾	U字状
235	C2a6	N - 29° - E	楕円形	0.92 × 0.52	16	外傾	平坦

番号	位置	主軸方向	平面形	規模		壁面	底面
				長軸×短軸 (m)	深さ		
236	B2i5	—	円形	1.17 × 1.16	24	外傾	凹凸
239	B2i4	N - 45° - W	楕円形	1.06 × 0.84	49	外傾	平坦
249	C2a6	N - 43° - E	楕円形	1.12 × 0.56	28	外傾	平坦
251	C2c5	N - 33° - E	楕円形	0.86 × 0.69	30	外傾	平坦
252	C2c5	N - 14° - W	不定形	0.82 × 0.82	64	垂直	有段
258	B2g3	—	円形	0.35 × 0.34	40	外傾	U字状
266	C2c4	N - 36° - E	楕円形	0.60 × 0.54	32	外傾	有段
267	C2b4	N - 45° - W	楕円形	1.50 × 0.82	22	外傾	平坦
268	C2g2	—	円形	0.62 × 0.60	40	外傾	平坦
269	C2g3	—	円形	0.82 × 0.80	62	垂直	有段
270	C2f4	N - 44° - E	楕円形	1.36 × 1.13	30	外傾	平坦
271	C2g2	N - 60° - E	楕円形	0.68 × 0.60	16	外傾	皿状
272	C2g2	N - 56° - E	楕円形	0.50 × (0.46)	16	外傾	皿状
273	C2g2	N - 80° - W	楕円形	0.90 × 0.80	74	垂直	有段
274	C2g2	N - 25° - W	楕円形	0.92 × (0.58)	56	外傾	平坦
278	C2c2	—	円形	0.31 × 0.31	26	垂直	U字状
279	C2d2	N - 28° - E	楕円形	0.53 × 0.41	18	外傾	U字状
291	C2d3	—	円形	0.52 × (0.50)	23	外傾	平坦
303	C2c2	N - 14° - W	楕円形	0.92 × 0.75	54	外傾	平坦
307	B3e4	—	円形	0.30 × 0.30	32	外傾	U字状
308	A3f1	N - 92° - W	楕円形	2.20 × 1.38	40	外傾	凹凸

(4) 溝跡

第1号溝跡 (第97図 第77表 PL34)

位置 調査区北部のA3i6区、標高27mほどの台地上に位置している。



第97図 第1号溝跡・出土遺物実測図

重複関係 第3号墳を掘り込んでいる。

規模と形状 A3i7区から第3号墳主体部方向(N-69°-E)に、直線状に延びている。長さ5.49m、上幅0.72~0.96m、下幅0.24~0.54m、確認面からの深さ0.22~1.10mで外傾している。中央部が最深部となり、外側へ階段状に浅くなっている。

覆土 7層に分層できる。ロームブロックが含まれる層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

遺物出土状況 縄文土器片2点(深鉢)、須恵器片2点、埴輪片2点(円筒・形象)、金属製品2点(鉄鏃)が出土している。1は、覆土下層から出土している。2は、覆土下層から出土している。

所見 時期は、不明である。第3号墳主体部を掘り込んでいることから、主体部を探した際の盗掘坑と考えられる。

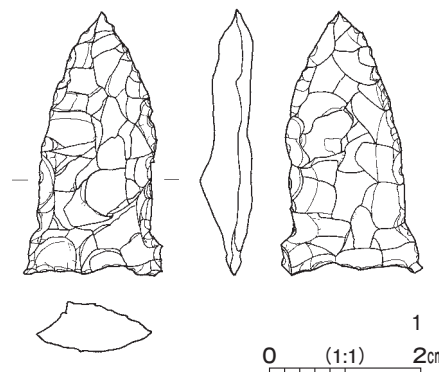
- 土層解説
- 1 75YR2/3 極暗褐 ローム粒C、炭化粒D/粘C、縮C
 - 2 75YR2/2 黒褐 ローム粒D/粘C、縮C
 - 3 75YR3/2 黒褐 ローム小D・粒C、炭化粒D/粘C、縮B
 - 4 75YR2/2 黒褐 ローム小D・粒C/粘C、縮C
 - 5 75YR2/3 極暗褐 ローム小C・粒D/粘C、縮C
 - 6 75YR2/2 黒褐 ローム小C/粘C、縮C
 - 7 75YR3/3 暗褐 ローム粒C/粘B、縮B

第77表 第1号溝跡出土遺物一覧

番号	埴輪・種類	計測値	胎土	色調	焼成	成形・整形の特徴	出土位置	備考
1	形象・不明	残長7.3 残幅5.8 厚さ1.4	石英・赤色粒子・ 白雲母・黒雲母	25YR5/6 明赤褐	普通	外面：一次調整タテハケ。二次調整ヨコナデ 突帯部：台形（三角） 底部との間隔が狭く形象埴輪とした 内面：一次調整タテハケ。二次調整ナデ 突帯接着押圧痕 底部：未調整	覆土下層	PL34

(5) ピット群 (第98図 第78表 PL35)

今回の調査では、時期が明確にできなかったピット群を2か所確認した。出土遺物については実測図(第98図)及び出土遺物一覧(第78表)にて掲載する。また、配置については全体図(第3図)に、規模は一覧表にて掲載する。



第78表 第1号ピット群出土遺物一覧

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
1	石鏃	3.5	1.8	0.7	3.06	チャート	無茎 両面押圧剥離	P 2	PL35

第98図 第1号ピット群出土遺物実測図

第79表 第1号ピット群ピット一覧

番号	位置	形状	規模		番号	位置	形状	規模		番号	位置	形状	規模	
			長軸×短軸	深さ				長軸×短軸	深さ				長軸×短軸	深さ
1	B 2f9	円形	37 × 35	25	16	B 2e9	円形	29 × 27	12	31	B 2f8	円形	45 × 43	34
2	B 2f9	円形	35 × 32	49	17	B 2e9	円形	36 × 35	14	32	B 2f8	円形	35 × 34	25
3	B 2f9	円形	36 × 35	26	18	B 2e9	楕円形	69 × 62	26	33	B 2f9	楕円形	22 × 18	17
4	B 2f9	円形	45 × 43	21	19	B 2e9	円形	23 × 21	12	34	B 2f8	楕円形	31 × 27	39
5	B 2f9	円形	38 × 37	13	20	B 2e9	円形	37 × 34	111	35	B 2f8	楕円形	34 × 28	24
6	B 2f9	楕円形	53 × 44	50	21	B 2e0	円形	37 × 37	40	36	B 2f8	楕円形	36 × 25	23
7	B 2f9	円形	26 × 25	17	22	B 2e9	円形	40 × 39	19	37	B 2e9	円形	24 × 23	15
8	B 2f9	円形	33 × 31	25	23	B 2e9	楕円形	45 × 37	24	38	B 2e8	円形	25 × 25	18
9	B 2e9	円形	33 × 30	42	24	B 2e9	不整楕円形	45 × 36	45	39	B 2e8	円形	22 × 20	23
10	B 2e9	円形	34 × 33	66	25	B 2e9	円形	35 × 34	36	40	B 2f8	楕円形	25 × 21	14
11	B 2e9	楕円形	34 × 29	35	26	B 2e9	楕円形	45 × 35	27	41	B 2f8	円形	22 × 21	18
12	B 2e9	円形	32 × 31	16	27	B 2e8	円形	46 × 45	50	42	B 2g8	楕円形	29 × 20	42
13	B 2e9	円形	34 × 32	15	28	B 2e8	円形	38 × 37	29	43	B 2f8	楕円形	18 × 15	27
14	B 2e9	円形	36 × 35	16	29	B 2e8	楕円形	35 × 31	38	44	B 2g8	円形	35 × 34	22
15	B 2e9	円形	30 × 28	15	30	B 2f8	円形	50 × 48	82					

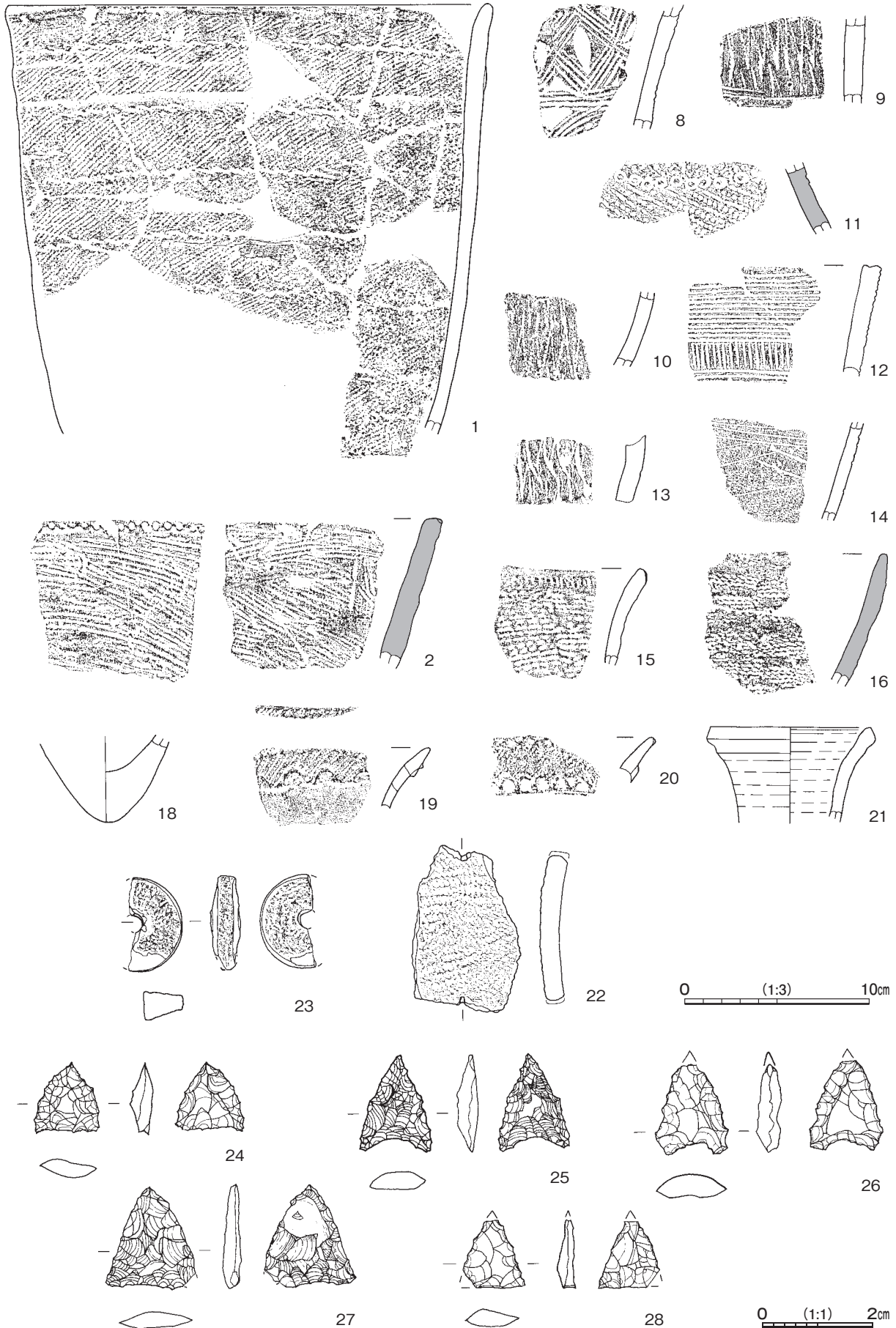
第80表 第2号ピット群ピット一覧

番号	位置	形状	規模		番号	位置	形状	規模		番号	位置	形状	規模	
			長軸×短軸	深さ				長軸×短軸	深さ				長軸×短軸	深さ
1	A2f0	楕円形	20 × 14	9	15	A3g1	円形	27 × 25	14	29	A2g1	楕円形	24 × 21	48
2	A3f1	楕円形	18 × 15	8	16	A3g1	楕円形	33 × 27	18	30	A2g1	円形	20 × 19	15
3	A3f1	円形	14 × 14	5	17	A3g1	楕円形	18 × 16	23	31	A3g1	楕円形	26 × 23	15
4	A3f1	円形	22 × 22	5	18	A3g1	楕円形	33 × 30	20	32	A3g1	円形	20 × 18	15
5	A3f1	楕円形	32 × 28	22	19	A3g1	円形	24 × 23	8	33	A2g1	円形	18 × 17	36
6	A2f0	楕円形	34 × 28	30	20	A3g1	円形	20 × 20	9	34	A2g1	円形	19 × 19	21
7	A3g1	円形	22 × 20	18	21	A3g1	円形	22 × 20	12	35	A2g1	円形	11 × 11	30
8	A3g1	円形	26 × 25	40	22	A3g1	円形	26 × 24	11	36	A2g1	円形	12 × 12	8
9	A3g1	楕円形	42 × 24	35	23	A3g1	円形	26 × 25	34	37	A3f1	円形	25 × 25	16
10	A3g1	楕円形	33 × 25	34	24	A3g1	円形	26 × 24	10	38	A3g1	楕円形	47 × 36	16
11	A3g1	円形	28 × 27	21	25	A2g1	円形	22 × 21	10	39	A2g1	楕円形	24 × 20	17
12	A3g1	円形	22 × 20	21	26	A2g1	楕円形	32 × 28	53	40	A2g1	楕円形	37 × 30	24
13	A3g1	円形	15 × 14	10	27	A2g1	円形	23 × 23	11	41	A2g1	円形	24 × 22	26
14	A3g1	楕円形	22 × 17	18	28	A2g1	楕円形	22 × 17	14					

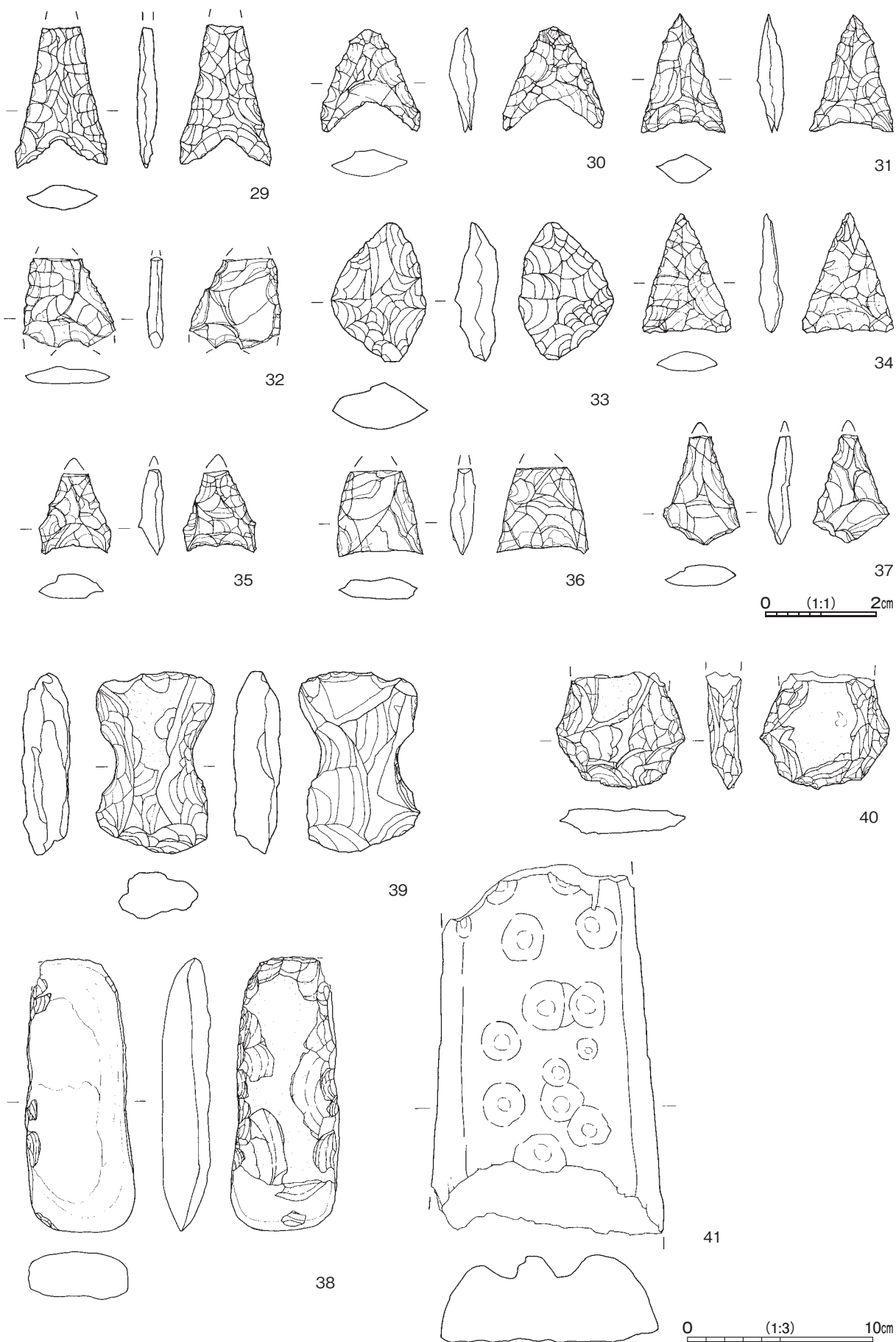
(6) 遺構外出土遺物 (第99～101図 PL34・35)



第99図 遺構外出土遺物実測図(1)



第100図 遺構外出土遺物実測図(2)



第 101 図 遺構外出土遺物実測図 (3)

第 81 表 遺構外出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	[26.0]	(23.4)	—	長石・石英・細礫	5YR5/6 明赤褐	普通	折返し口縁 アヤクリ文	表採	
2	縄文土器	深鉢	—	(8.1)	—	長石・石英・繊維	5YR5/6 明赤褐	普通	表裏条痕文 口唇部キザミ目	表採	
3	縄文土器	深鉢	—	(4.0)	—	長石・石英・雲母	7.5YR6/4 にぶい橙	普通	隆線上にキザミ目	表採	
4	縄文土器	深鉢	—	(4.3)	—	長石・石英・繊維	7.5YR5/4 にぶい褐	普通	口縁部波状押捺 隆帯	表採	
5	縄文土器	深鉢	—	(5.0)	—	長石・石英・繊維	7.5YR6/4 にぶい橙	普通	押しき刺突 内面磨き良好	表採	
6	縄文土器	深鉢	—	(4.9)	—	長石・石英・繊維	5YR6/6 橙	普通	口縁部縦位刺突文 内面磨き良好	表採	
7	縄文土器	深鉢	—	(4.2)	—	長石・石英・黒雲母	10YR5/4 にぶい黄褐	普通	押しき刺突 内面磨き	表採	
8	縄文土器	深鉢	—	(6.7)	—	長石・石英	10YR4/2 灰黄褐	普通	斜格子目文	表採	
9	縄文土器	深鉢	—	(4.8)	—	長石・石英	7.5YR5/3 にぶい褐	普通	波状貝殻文	表採	
10	縄文土器	深鉢	—	(4.1)	—	長石・石英	7.5YR6/4 にぶい橙	普通	波状貝殻文	表採	
11	縄文土器	深鉢	—	(3.8)	—	長石・石英・繊維	7.5YR5/3 にぶい褐	普通	円形刺突文	表採	
12	縄文土器	深鉢	—	(6.0)	—	長石・石英	7.5YR6/6 橙	普通	棒状沈線	SS 6	
13	縄文土器	深鉢	—	(3.5)	—	長石・石英	7.5YR6/4 にぶい橙	普通	波状貝殻文	SS 6	
14	縄文土器	深鉢	—	(5.3)	—	長石・石英・雲母	5YR6/4 にぶい橙	普通	沈線 貝殻腹縁文	SS 6	
15	縄文土器	深鉢	—	(5.2)	—	長石・石英・雲母	5YR5/3 にぶい赤褐	普通	口縁部縦位沈線文 内面磨き良好	SS 6	
16	縄文土器	深鉢	—	(7.1)	—	長石・石英・雲母・繊維	5YR5/4 にぶい赤褐	普通		SS 6	
17	縄文土器	深鉢	—	(22.8)	(11.0)	長石・石英	5YR5/6 明赤褐	普通	無文	表採	一覧のみ
18	縄文土器	尖底	—	(4.6)	—	長石・石英	5YR5/4 にぶい赤褐	普通	尖底部	表採	
19	弥生土器	壺	—	(3.3)	—	長石・石英・雲母	2.5YR3/2 黒褐	普通	折返し口縁 口縁部下端指頭押捺 口唇部細目	表採	
20	弥生土器	壺	—	(2.4)	—	長石・石英・雲母	7.5YR5/4 にぶい褐	普通	口縁部下端指頭押捺	表採	
21	灰釉陶器	瓶	[8.6]	(5.1)	—	長石	2.5YR7/1 灰白	良好	頸部内面に軸	表採	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
22	土器片鏟	8.9	5.8	1.1	72.57	長石・石英	10YR7/4 にぶい黄橙	胴部片 両端部にキザミ目	表採	PL34

番号	器種	外径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
23	紡錘車	5.1	(2.9)	1.0	(19.81)	長石・石英・雲母	10YR6/3 にぶい黄橙	全面刺突文 一方向からの穿孔 半分欠損	SS 6	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
24	石鏟	0.8	1.2	0.4	0.42	黒曜石	無茎 両面押圧剥離	表採	PL34
25	石鏟	1.7	1.3	0.4	0.59	黒曜石	茎部中央彎入 両面押圧剥離	表採	PL34
26	石鏟	(1.7)	1.3	0.5	(0.77)	黒曜石	茎部中央彎入 両面押圧剥離 先端部欠損	表採	PL34
27	石鏟	1.9	(1.6)	0.3	(0.68)	黒曜石	無茎 両面押圧剥離 片側脚部欠損	表採	PL35
28	石鏟	(1.3)	(1.2)	0.3	(0.35)	黒曜石	無茎 両面押圧剥離 先端部、片側脚部欠損	表採	
29	石鏟	(2.6)	1.6	0.4	(1.19)	チャート	茎部中央彎入 両面押圧剥離 先端部欠損	表採	
30	石鏟	1.9	1.8	0.5	0.94	チャート	茎部中央彎入 両面押圧剥離	表採	PL35
31	石鏟	2.1	1.5	0.5	0.91	チャート	茎部中央浅く彎入 両面押圧剥離	表採	PL35
32	石鏟	(1.6)	(1.6)	0.3	(0.90)	チャート	茎部中央彎入カ 両面押圧剥離 先端部、両脚部欠損	表採	
33	石鏟	2.5	1.7	0.8	2.71	チャート	凸基有茎 両面押圧剥離	表採	PL35
34	石鏟	2.1	1.6	0.4	0.85	チャート	無茎 両面押圧剥離	表採	PL35
35	石鏟	(1.5)	(1.3)	0.5	(0.80)	チャート	茎部中央極めて浅く彎入 両面押圧剥離 先端部欠損	表採	
36	石鏟	(1.6)	(1.6)	0.4	(1.04)	安山岩	無茎 両面押圧剥離 先端部欠損	表採	
37	石鏟	(2.0)	(1.4)	0.5	(0.96)	安山岩	凸基有茎 両面押圧剥離 先端部欠損	表採	
38	磨製石斧	14.7	5.8	2.6	359.50	ホルンフェルス	基部・両側縁敲打調整 ハマグリ刃 刃部は表裏研磨	表採	
39	打製石斧	9.7	6.4	2.5	174.56	硬砂岩	分銅形 片面に自然面残る 抉り部・刃部は表裏を敲打	表採	
40	打製石斧	(6.3)	(6.2)	(1.8)	(89.69)	硬砂岩	分銅形 表裏に自然面残る 抉り部・刃部は表裏を敲打 片刃部欠損	表採	
41	凹石	(19.9)	(12.5)	(4.7)	(1717.6)	雲母片岩	石棒転用カ 片面に凹痕	表採	PL

第4節 総括

1 はじめに

今回の調査で、旧石器時代から古墳時代までの遺構と遺物を確認した。ここでは旧石器時代及び古墳時代の遺構と遺物について概観し総括とする。

2 旧石器時代

今回の調査で、石器集中地点6か所を確認した（以下、SS 1～6）。石器は地点外を含めると836点、総重量6992.93gが出土している。石材は13種と多様な石材が用いられている。

垂直分布は、基本層序第3～5層（以下、第3～5層）に集中している。自然科学分析（第2節2）により、第2層は、標準層序のⅢ層上部にあたり約1.2万年前、第3層は、標準層序のⅥ層とⅦ層の層界付近にあたり3万年前以後、第4層は、標準層序のⅦ層の第2黒色帯上半部にあたり約3万年前、第5層は、標準層序のⅦ層以下にあたり3万年前以前に対比される。

これらを基本層序に当てはめると、SS 3のナイフ形石器は第4・5層から出土しているので3万年前以前、SS 4のナイフ形石器は第3層から出土しているので3万年以後、SS 5の石斧、彫器は第2～3層からの出土で約1.2万年前～3万年前、SS 6の楔形石器は第5層から出土しているので3万年前以前の石器となる。

地点別に出土している器種の形式的な年代は以下の通りである。

SS 3の一側縁加工がみられるナイフ形石器2点は、Ⅱb期と推定される。SS 4の二側縁加工がみられるナイフ形石器2点と楔形石器1点は、Ⅱa期中段階と推定される。SS 5の石斧1点と彫器1点は、Ⅱa期古段階と推定される。SS 6の楔形石器1点は、Ⅱa期中段階の時期と推定される。

第82表 出土地点・層位別器種・石材一覧

	ナイフ形石器	石斧	台形様石器	楔形石器	尖頭器	削器	搔器	彫器	石器未成品	二次加工剥片	石核	剥片	碎片	石鏃	石鏃未製品	磨石	敲石	合計	真岩	安山岩	黒曜石	チャート	流紋岩	流紋岩質凝灰岩	ホルンフェルス	デイサイト	硬砂岩	凝灰岩	玉髓	瑪瑙	石英	合計		
																																	2	1
SS1	集計									2	6	74	11	1					95	81	4	4	4								1	1	95	
	3層											1	2	1					4														4	
	4層									1	6	70	9		1				87	78	3	3	2										1	87
	5層									1	3								4	3	1												4	
	集計									2	15	2							19	4	1	6	5	2		1							19	
SS2	4層										11	1							12	1	1	6	3	1	1							12		
	5層									1	2								3	1	1			1									3	
	攪乱									1	2	1							4	2		2											4	
	集計	2								1	5	56	1	3	2	1			71	44	4	4	13	2		1	2	1				71		
SS3	3層										1	6		1	1				9		1	1	4	2			1					9		
	4層										1	12							14	12	1				1								14	
	5層	1									3	23		1					28	26	1		1										28	
	攪乱									1	15	1	1		1	1			20	6	1	3	8				1	1				20		
	集計	2		1						2	4	74	2	1	1	1			88	13	24	8	15	22		1	2	1		2		88		
SS4	3層	1									10	1			1				13	1	1	4	5				1					13		
	4層			1						2	3	36							42	10	10		1	19		1	1					42		
	5層									1	18		1						20	2	11	2	1	3		1						20		
	攪乱	1									10	1			1				13	2	2	8								1		13		
	集計		2					1			8	2			1	1	1	16	1	6	4				2	1		1			1	16		
SS5	2層		1					1			5					1	1	9	1	5					1	1		1				9		
	3層		1								1	2			1			5				3			1							5		
	攪乱										2							2			1	1										2		
	集計			1						2	128	56	4	1	7	1		200	13	36	37	88	7		1	4	4	1		5	4	200		
SS6	2層									2	77	49	3	1	6			138	11	12	29	69	5		1	3	2			4	2	138		
	3層										3	1						4			2	1	1									4		
	4層										12		1					13				3					1					13		
	5層			1							19	1						21				5	2			1			1	1		21		
	攪乱										16	5			1	1		23				10				1		1			1	23		
	漸移層										1							1		1	4	5	10									1		
HD		4		1	7	2	1	1		1	5	9	27	41			3	1	347	25	46	95	147	14		3	7	1			5	4	347	
合計		8	2	1	9	2	1	1	1	12	26	626	115	9	1	15	3	2	836	181	121	154	276	45	2	8	15	9	3	2	10	10	836	

器種別で推定した年代と差異が生じてしまうことから、現場段階で記録した層位区分を誤認していることも考えられる。また、SS 6は第3号墳墳丘下に位置しており、墳丘盛土下に第1層と第2層の間に縄文時代の層位が1層残されており（第26図参照）、現場段階での垂直分布観察時に第2層との分別ができなかった。この層位からは玉と石鏃が出土しており、縄文時代の剥片・碎片が混じっている可能性が考えられるが、厳密に切り分けることはできなかった。そのため、第18～20表中の第2層出土の石器群には注意が必要である。

3 古墳時代

今回の調査で、古墳1基を確認した。当古墳は、つくば市に問い合わせ、第3号墳として調査を行った。当古墳主体部を掘り込んでいる第1号溝跡から形象埴輪片が1点出土しているが、古墳からの出土は無く、埴輪散布地からの混入と考えられ、埴輪を有さない古墳である。

現在、3基の古墳が確認されており、西端に位置する当古墳と東端に位置する第1号墳との距離は約280mある。遺跡範囲内には埴輪散布地が確認されており、当古墳群出土の人物と鹿の形象埴輪が出土している。桜村史には、「もとは7,8基の古墳があったと伝えられているが、主として、終戦後の混乱期にほとんど盗掘されてしまい」とあり、当古墳もこの時期に盗掘されている可能性がある。

出土遺物は盗掘時に破損したと考えられる金属製品、ガラス製品である。金属製品は、刀装具、鉄鏃は識別できたが、多くは細かな破片である。X線撮影を行ったところ、14点の金属片に象嵌が施されていた。象嵌の文様は渦巻文と羽状文に分けられ、出土している鐔、鉏などから最低3振の大刀があったと考えられる。このことは、追葬が行われていた根拠となりうる。

桜川右岸の古墳の特徴から、規模は中型に分類され、主軸方向は西を向く。一棺への追葬を普通とする「変則的古墳」が一般とされていることから、当古墳においても追葬が行われていた可能性が考えられる。

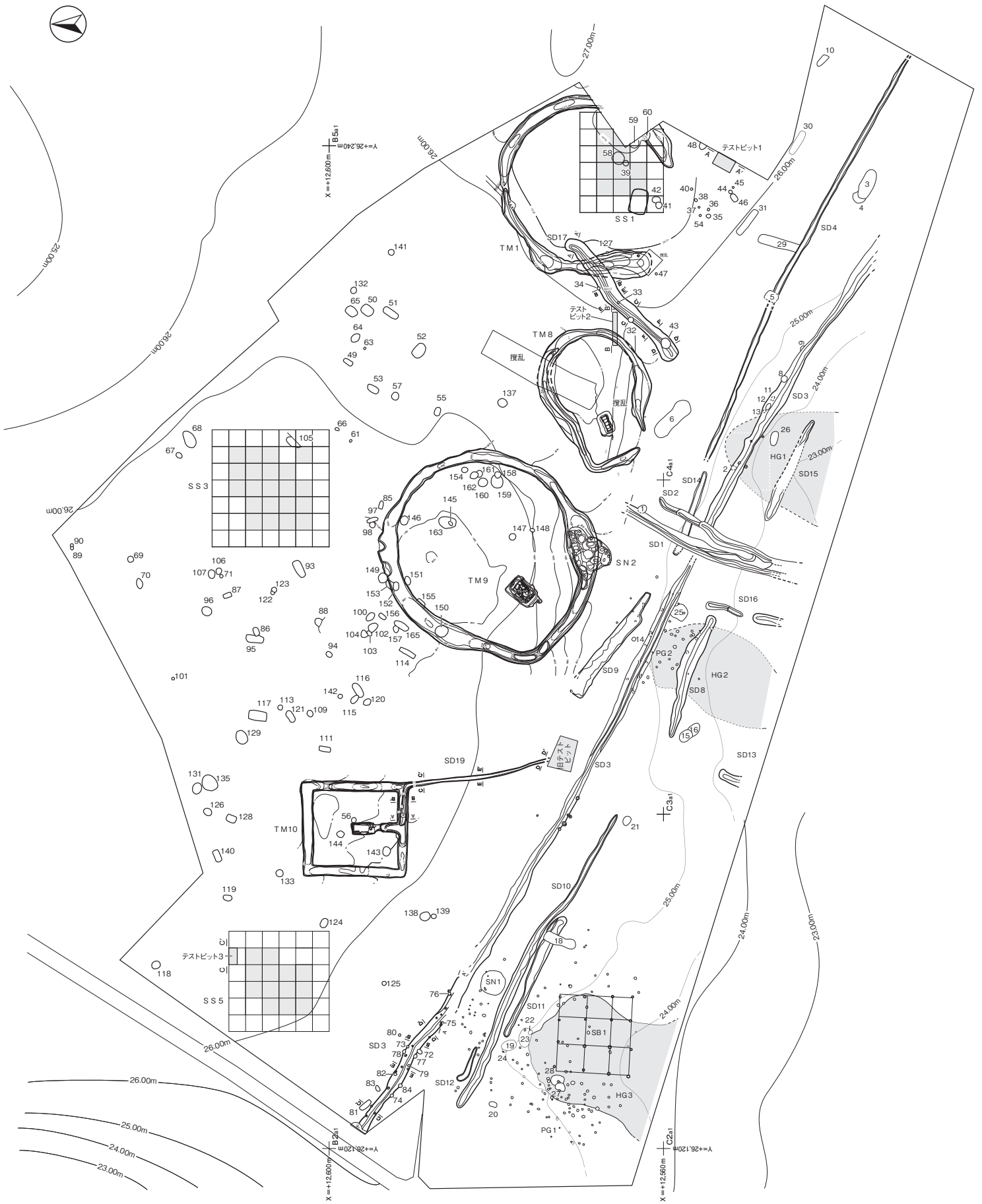
4 おわりに

以上、上境滝の台古墳群の旧石器時代の遺物、第3号墳について再確認を行った。当遺跡ではAT降灰以前の旧石器時代から生活の痕跡がみられる。古墳時代には古墳が造営され、建物跡などは確認できなかったことから生活域とは区別され、墓域化されていたことがうかがえる。

今回の調査は、遺跡全体の一端に過ぎず、全容を推し量るには不十分である。旧石器時代については、比較検討資料や土壌分析資料が少なく、今後、資料を増やしていくことで様相が明らかになると考えられる。古墳群については、霞ヶ浦以東桜川流域の周辺古墳との比較検討も含めて今後の課題としたい。

引用・参考文献

- 『茨城県における旧石器時代研究の到達点-その現状と課題-』ひたちなか市教育委員会 2002年12月
- 高野節夫 白田正子 仲村浩一郎 島田和宏『中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ 中原遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第170集 2001年3月
- 駒澤悦郎『東岡中原遺跡4 中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書』茨城県教育財団調査報告第251集 2005年3月
- 近藤義郎『前方後円墳集成 東北・関東編』1994年1月
- 石橋 充『つくば市域の古墳群』『常陸の古墳群』2010年2月
- 齊藤大輔『古墳時代武器研究史のなかの刀剣研究』『古代武器研究 vol.14』古代武器研究会・山口大学人文学部考古学研究室 2018年12月
- 杉山秀宏『古墳時代の鉄鏃について』『橿原考古学研究所論集 第八』1988年10月
- 桜村史編さん委員会『桜村史 上巻』桜村教育委員会 1982年3月
- かみつけの里博物館『第28回特別展 飾り大刀 武器からみた古墳時代のぐんま』2019年12月



第 102 図 上境作ノ内遺跡・上境作ノ内古墳群遺構全体図

第4章 上境作ノ内遺跡・上境作ノ内古墳群

第1節 調査の概要

上境作ノ内遺跡・上境作ノ内古墳群は、つくば市の東部、桜川右岸の標高23～26mの台地上に立地している。遺跡の範囲は南北170m、東西150mで、扇状に広がる台地の基部にあたる。調査区は遺跡の南端部、桜川低地から延びる支谷に面した台地縁辺部に位置している。調査面積は5,522㎡で、調査前の現況は開発のため整地されていた。

調査の結果、旧石器時代の石器集中地点3か所、古墳時代の古墳4基、平安時代の土坑1基、江戸時代の溝跡1条、時期不明の土坑121基、溝跡2条、粘土採掘坑1基を確認した。

遺物は、遺物収納コンテナ(60×40×20cm)に10箱出土している。主な出土遺物は、縄文土器片(深鉢)、土師器(甕)、須恵器(坏)、土製品(円筒埴輪・形象埴輪)、石器(ナイフ形石器・尖頭器・石核・剥片・石鏃・磨製石斧)、金属製品(刀装具・刀子・鏃)、ガラス製品(小玉)などである。

第2節 基本層序

1 基本層序 (第103図 PL15)

調査区内は東西に長く、遺構確認面は、東から西に向かいローム土から粘性の強い水性堆積土へ変化していることと、遺構確認時に旧石器時代の遺物が広範囲から出土していたことから、テストピットを東部(TP1)・中央部(TP2)・西部(TP3)の3か所に設定し、ローム層序自然科学分析を行った。TP2は確認面土壌が変化し始める第8号墳周溝土層断面を、TP3は第5号石器集中地点の北壁土層断面を利用し設定した。

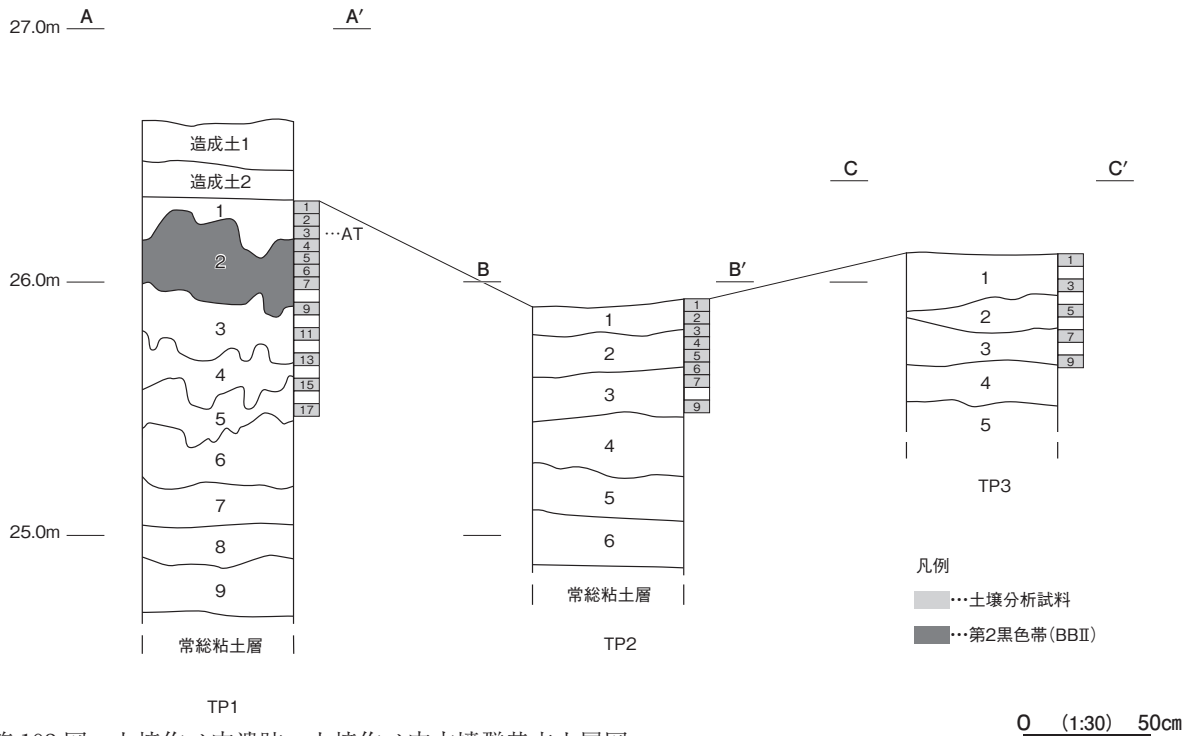
TP1の第1層上面では、造成土が2層確認できる。第1層は、黄褐色(10YR5/8)を呈するソフトローム層である。始良Tnテフラ(AT)を少量含み、粘性・締まりともに普通である。第2層は、褐色(10YR4/6)を呈するソフトローム層である。始良Tnテフラ(AT)を少量含み、粘性・締まりともに普通である。標準層序Ⅵ層とⅦ層の層界付近と推定される。第3層は、暗褐色(10YR3/4)を呈するソフトローム層である。シルトを少量含み、粘性が強く締まりは普通である。標準層序Ⅶ層の第2黒色帯上半部と推定される。第4層は、褐色(10YR4/4)を呈するソフトローム層である。細礫を微量含み、粘性・締まりともに普通である。第5層は、にぶい黄褐色(10YR5/3)を呈するソフトローム層である。粘性・締まりともに普通である。第6層は、にぶい黄橙色(10YR6/3)を呈するハードローム層である。白色粒子を微量含み、粘性は普通で締まりは強い。第7層は、にぶい黄褐色(10YR5/4)を呈するハードローム層である。白色粒子を少量含み、粘性・締まりともに普通である。第8層は、にぶい黄褐色(10YR5/4)を呈するハードローム層である。鉄分を少量含み、粘性は強く締まりは普通である。第9層は、にぶい黄橙色(10YR6/4)を呈する粘土層である。鉄分を多量に含み、粘性・締まりともに強い。第9層下は常総粘土層である。

TP2の第1層は、褐色(10YR4/6)を呈するソフトローム層である。白色粒子を微量含み、粘性・締まりともに普通である。第2層は、暗褐色(10YR3/4)を呈するハードローム層である。シルトを多量に含み、粘性は普通で締まりは強い。第3層は、褐色(10YR4/4)を呈するハードローム層である。シルトを中量、赤色粒子を微量含み、粘性・締まりともに普通である。第4層は、褐色(10YR4/6)を呈するハードローム層であ

る。シルトを少量、赤色粒子を微量含み、粘性・締まりともに普通である。第5層は、褐色（10YR4/4）を呈するハードローム層である。シルトと赤色粒子を微量含み、粘性・締まりともに普通である。第6層は、にぶい黄橙色（10YR6/4）を呈する粘土層である。赤色粒子と黒色粒子を少量含み、粘性・締まりともに強い。第6層下は常総粘土層である。

TP3の第1層は、黒褐色（10YR3/2）を呈するハードローム層である。白色粒子を少量含み、粘性は普通で締まりは強い。第2層は、暗褐色（10YR3/3）を呈するハードローム層である。白色粒子を少量、黒色粒子を微量含み、粘性は普通で締まりは強い。第3層は、暗褐色（10YR3/3）を呈するハードローム層である。白色粒子、赤色粒子を微量、黒色粒子を少量含み、粘性は普通で締まりは強い。第4層は、褐色（10YR4/4）を呈するハードローム層である。白色粒子、赤色粒子を微量、黒色粒子を少量、粘土ブロック（にぶい黄橙色 10YR6/4）小を少量含み、粘性・締まりともに強い。第5層は、明黄褐色（10YR6/6）を呈する粘土層である。粘土ブロック（にぶい黄橙色 10YR7/2）小を中量含み、粘性・締まりともに強い。

遺構確認面は、造成土下の TP 1～3 第1層の上面である。平成12年度につくば市教育委員会によって行われた上境作ノ内古墳群第1号墳の調査時には、地表面は標高26.4～26.8mで、地表下15～30cmで遺構が確認されている。今回の調査では同じ第1号墳は造成土を除去した際の標高が26.0～26.4mであったことから、前回の調査とは40cmほどの齟齬がある。



第 103 図 上境作ノ内遺跡・上境作ノ内古墳群基本土層図

2 自然化学分析 (第 104 図 第 83 表 PL15)

上境作ノ内遺跡・上境作ノ内古墳群のローム層の層序対比

パリノ・サーヴェイ株式会社

本分析調査では、上境作ノ内遺跡・作ノ内古墳群の立地する台地の表層を覆うローム層の分析をすることにより、ローム層の層序対比の指標を設け、周辺地域や関東地方における他の台地上のローム層との対比を行うものである。

(1) 試料

試料は、上境作ノ内遺跡・作ノ内古墳群の調査区内に作成された TP 1～3 の 3 箇所断面より採取された。TP 1 では、ローム層の検出面から下位のローム層において、厚さ 5cm で連続に上位より試料番号 1～18 までが採取され、これらのうちの上部の試料を中心に試料番号 1～7 の 7 点と試料番号 9～17 の奇数番号の試料 5 点の合計 12 点を分析の対象とする。TP 2 では、ローム層の検出面から下位のローム層において TP 1 と同様に試料番号 1～10 までが採取され、これらのうち、上部の試料を中心に試料番号 1～7 の 7 点と試料番号 9 の 1 点の合計 8 点を分析の対象とする。TP 3 では、他の地点と同様に採取された試料番号 1～10 までのうち、試料番号 1～9 の奇数番号の試料計 5 点を分析の対象とする。

(2) 分析方法

上境滝の台古墳群に同じ。

(3) 結果

結果を第 83 表、第 104 図に示す。重鉱物組成の層位的な傾向により、TP 1 の試料採取層位は TP 2 の試料採取層位より上位であり、TP 2 の試料採取層位は TP 3 の試料採取層位より上位であると判断される。以下に上位より述べる。

TP 1 の試料番号 1 から TP 2 の試料番号 2 までは、カンラン石と斜方輝石を主体とする重鉱物組成であり、TP 1 試料番号 1 では斜方輝石の方が多いが、下位ほどカンラン石が増加し、TP 1 の試料番号 4～11 ではカンラン石の方が多。その中で試料番号 6 にはカンラン石の量比の極大が認められる。

TP 2 の試料番号 3 以下の層位では、TP 3 の試料も含めて、斜方輝石と不透明鉱物を主体とし、少量の角閃石を伴うという重鉱物組成である。斜方輝石と不透明鉱物の量比は、どの層位も概ね同量程度であるが、TP 3 の試料番号 7 と 9 では不透明鉱物の方が圧倒的に多い。

火山ガラス比では、TP 1 の試料番号 1～3 にバブル型火山ガラスが少量含まれるが、他の層位には TP 2 においても TP 3 においても火山ガラスはほとんど含まれない。

(4) 考察

本地点では、TP 1 の試料番号 1～3 に少量のバブル型火山ガラスが認められている。これは、滝の台古墳群の TP 2 と同様に AT に由来する火山ガラスであると考えられる。本地点におけるその降灰層準は、試料番号 3 付近に推定される。

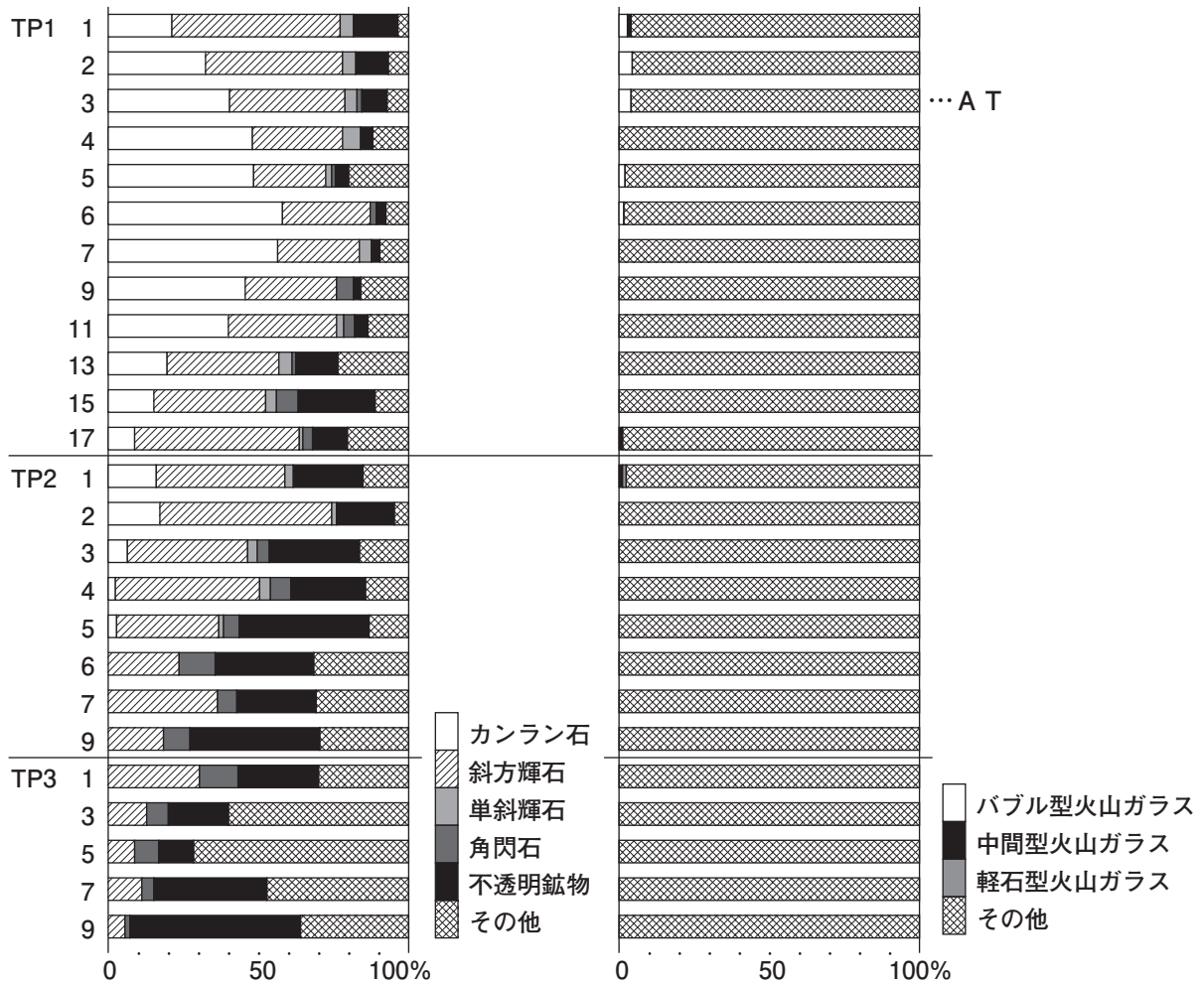
したがって、TP 1 の試料番号 1～3 は、武蔵野台地の立川ローム層の中部付近おそらく標準層序の V～VI 層付近に対比される可能性がある。そして TP 1 の試料番号 4 以下の層位は、武蔵野台地の立川ローム層の下部の VII 層以下の層位に対比されると考えられる。本地点においても、その層位では、カンラン石の多い重鉱物組成が示されている。

TP 1 の試料番号 13 以下および TP 2 と TP 3 の各試料の採取層位については、層位的に武蔵野台地の立川ローム層下部から武蔵野ローム層に相当すると考えられる。しかし、火山ガラス比では指標テフラに由来すると考えられる火山ガラスの産出が認められないことおよび、重鉱物組成ではカンラン石と斜方輝石を主体とする武蔵野台地の武蔵野ローム層とは全く異なることから、本分析結果による台地間の層序対比は難しい。今後、本分析調査の結果を基として、周辺地域におけるローム層の分析結果を蓄積し、筑波稲敷台地における標準層位を確立することが望まれる。

引用文献は、第 3 章第 2 節 2 に同じ

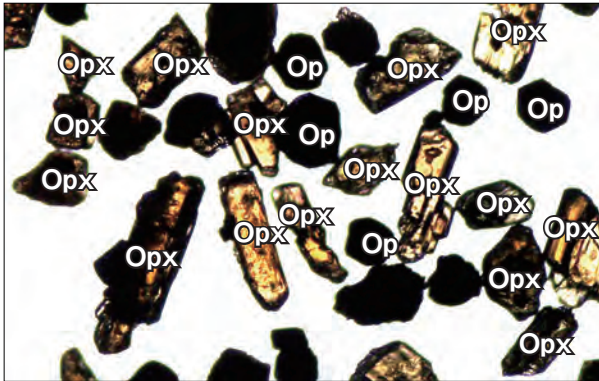
第 83 表 上境作ノ内遺跡・上境作ノ内古墳群の重鉱物・火山ガラス比分析結果

地点名	試料番号	カンラン石	斜方輝石	単斜輝石	角閃石	ザクロ石	緑レン石	不透明鉱物	その他	合計	火山バブル型	火山中間型	火山軽石型	その他	合計
TP1	1	53	140	11	1	0	0	37	8	250	7	3	1	239	250
	2	81	114	11	1	0	0	27	16	250	11	2	0	237	250
	3	101	96	10	4	0	0	21	18	250	10	1	0	239	250
	4	120	75	15	0	0	0	10	30	250	2	1	0	247	250
	5	121	60	5	3	0	0	11	50	250	5	0	2	243	250
	6	145	73	1	5	0	0	8	18	250	4	1	1	244	250
	7	141	68	10	2	0	0	7	22	250	0	1	1	248	250
	9	114	76	2	14	0	0	6	38	250	0	0	1	249	250
	11	100	90	6	9	0	0	11	34	250	0	1	0	249	250
	13	49	93	11	3	0	0	35	59	250	0	2	0	248	250
15	38	93	9	18	0	0	64	28	250	0	1	0	249	250	
17	22	137	3	8	1	0	29	50	250	0	3	1	246	250	
TP2	1	40	107	7	2	0	0	58	36	250	1	3	3	243	250
	2	43	143	4	2	0	0	48	10	250	0	1	1	248	250
	3	16	100	8	10	0	0	75	41	250	1	1	0	248	250
	4	6	120	9	17	0	0	62	36	250	0	1	1	248	250
	5	7	85	4	13	0	0	108	33	250	0	1	0	249	250
	6	0	59	2	30	1	0	82	76	250	0	1	0	249	250
	7	1	91	2	16	0	2	66	72	250	0	1	0	249	250
	9	1	46	2	22	0	0	108	71	250	0	0	0	250	250
	TP3	1	0	76	1	32	0	1	67	73	250	0	1	0	249
3		0	32	2	18	0	1	50	147	250	0	0	0	250	250
5		0	22	1	20	0	1	29	177	250	0	0	0	250	250
7		0	28	0	10	0	0	94	118	250	0	0	0	250	250
9		0	14	0	4	0	0	142	90	250	0	1	0	249	250

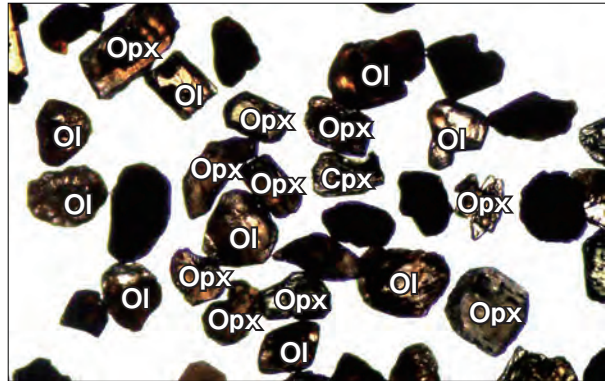


第 104 図 上境作ノ内遺跡・上境作ノ内古墳群のテストピットの重鉱物組成および火山ガラス比

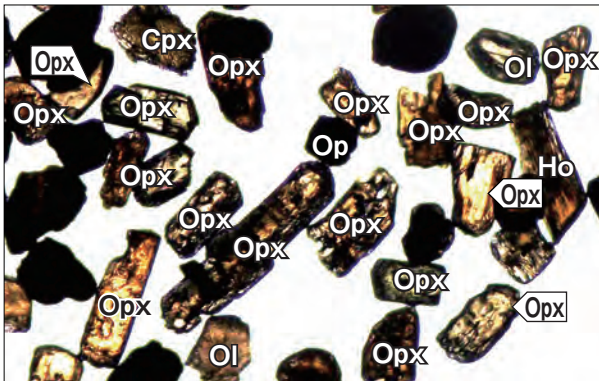
図版2 重鉱物・軽鉱物(2)



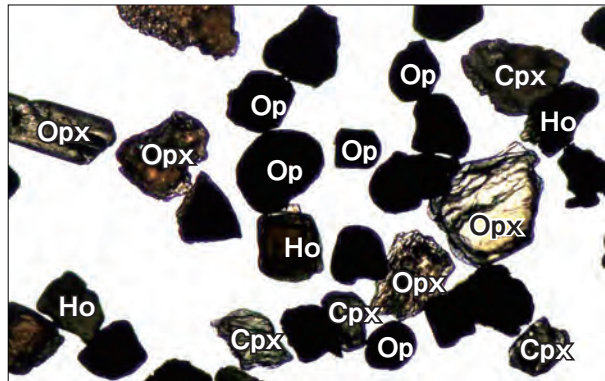
1.重鉱物(上境作ノ内遺跡・作ノ内古墳群 TP1;1)



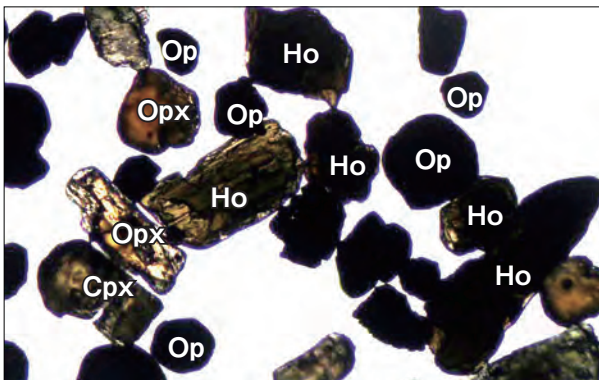
2.重鉱物(上境作ノ内遺跡・作ノ内古墳群 TP1;6)



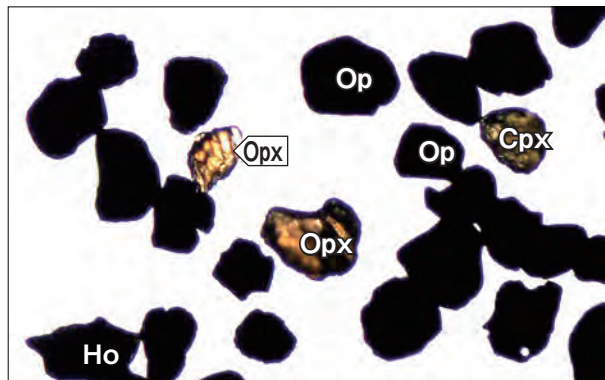
3.重鉱物(上境作ノ内遺跡・作ノ内古墳群 TP2;2)



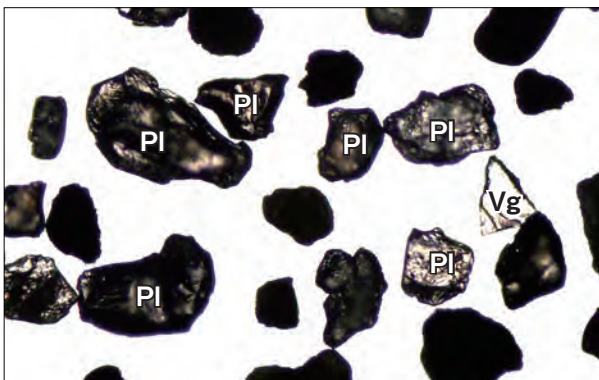
4.重鉱物(上境作ノ内遺跡・作ノ内古墳群 TP2;9)



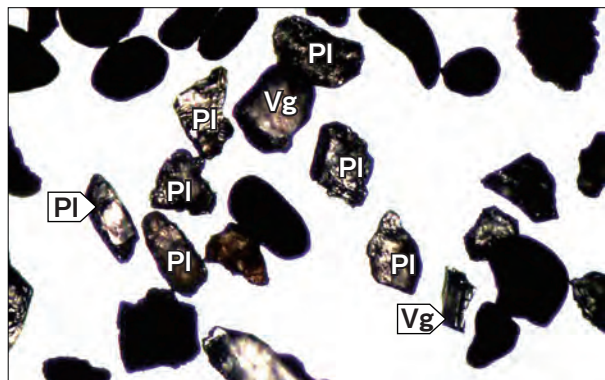
5.重鉱物(上境作ノ内遺跡・作ノ内古墳群 TP4;1)



6.重鉱物(上境作ノ内遺跡・作ノ内古墳群 TP4;9)



7.軽鉱物(上境作ノ内遺跡・作ノ内古墳群 TP1;3)



8.軽鉱物(上境作ノ内遺跡・作ノ内古墳群 TP2;1)

Ol:カンラン石.Opx:斜方輝石.Cpx:単斜輝石.Ho:角閃石.Op:不透明鉱物.

0.5mm

Vg:火山ガラス.Pl:斜長石.

第3節 遺構と遺物

1 旧石器時代の遺構と遺物

遺構確認作業中に、当時代の石器が出土していたため、表採の遺物や他時代の遺構覆土中から当時代の石器が出土した地点を中心にグリッドを設定し調査したところ、当時代の遺構は、石器集中地点を3か所確認した。出土層位は、基本層序第1・2層である（以下、第1・2層）。

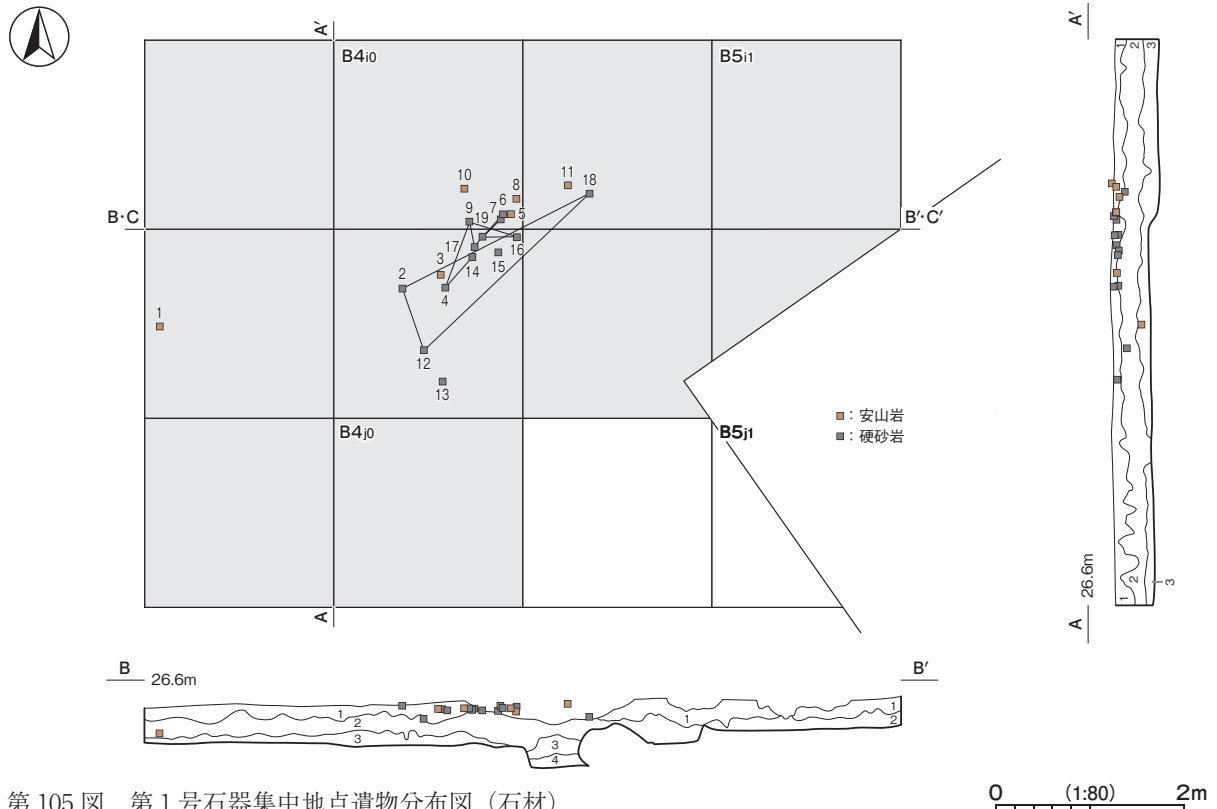
(1) 石器集中地点

第1号石器集中地点（第105～107図 第84～86表 PL14・39）

位置 調査区北東部のB4i9～B4j0区、標高26mほどの台地上に位置している。

遺物出土状況 南北7.6m、東西6.8mの範囲内で、標高26.037～26.350mから、19点（総重量878.19g）の石器が出土している。内訳は、第1層から17点（安山岩6、硬砂岩11）、第2層から2点（硬砂岩）で第1層に集中している。構成器種は、石核4点（安山岩2、硬砂岩2）、剥片7点（安山岩4、硬砂岩3）、礫8点（硬砂岩）である。

所見 当石器集中地点からは接合資料2点が出土している。接合資料1（硬砂岩3点：石核3）、接合資料2（硬砂岩点：礫8）、は平面分布が3m四方（B4i0）に集中し、垂直分布が第1層に集中する。



第105図 第1号石器集中地点遺物分布図（石材）

第84表 第1号石器集中地点層位別単位石材器種一覧

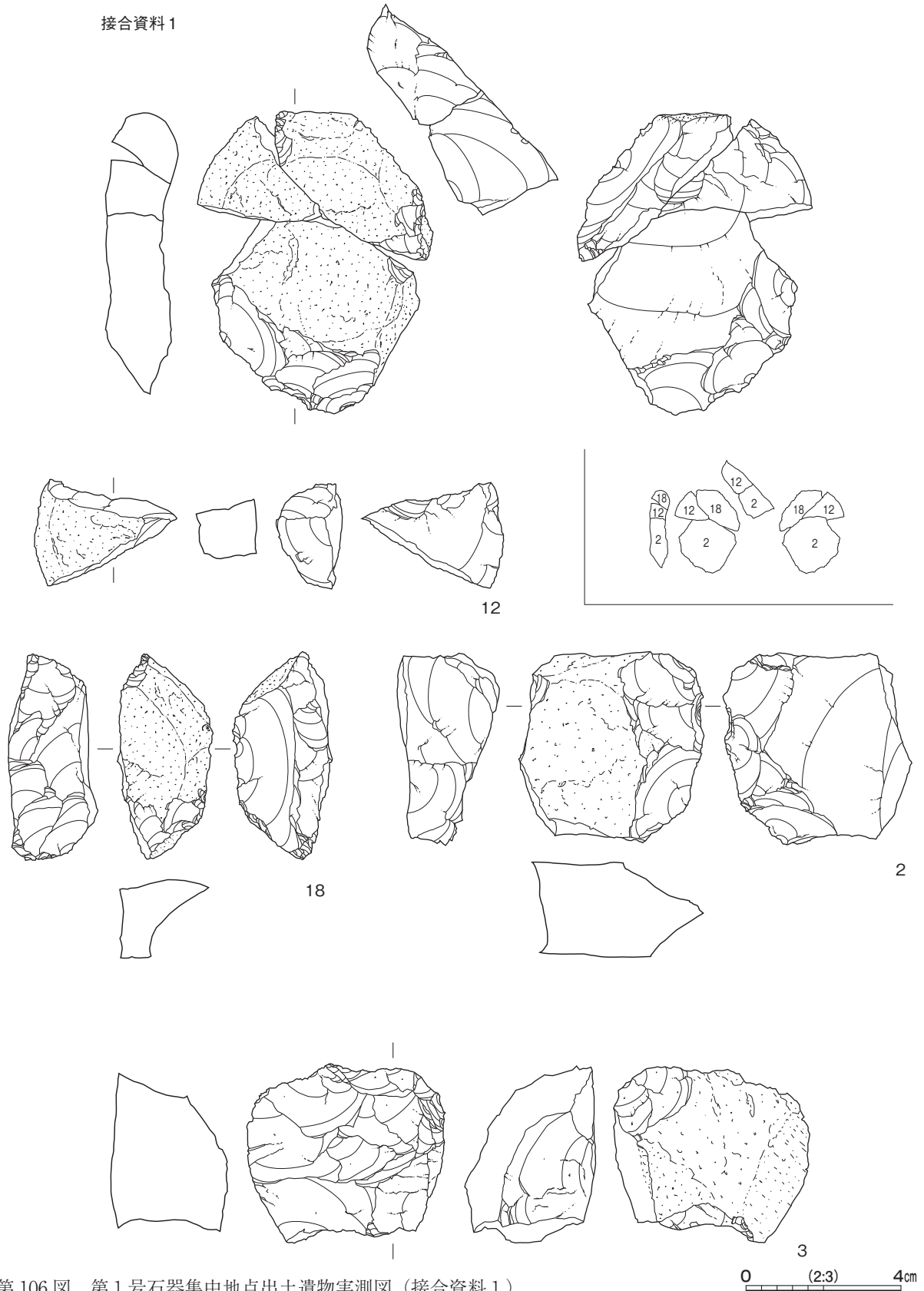
	安山岩			硬砂岩				合計
	石核	剥片	集計	石核	剥片	礫	集計	
1層	2	4	6	1	2	8	11	17
2層				1	1		2	2
合計	2	4	6	2	3	8	13	19

第85表 第1号石器集中地点層位別石材重量一覧

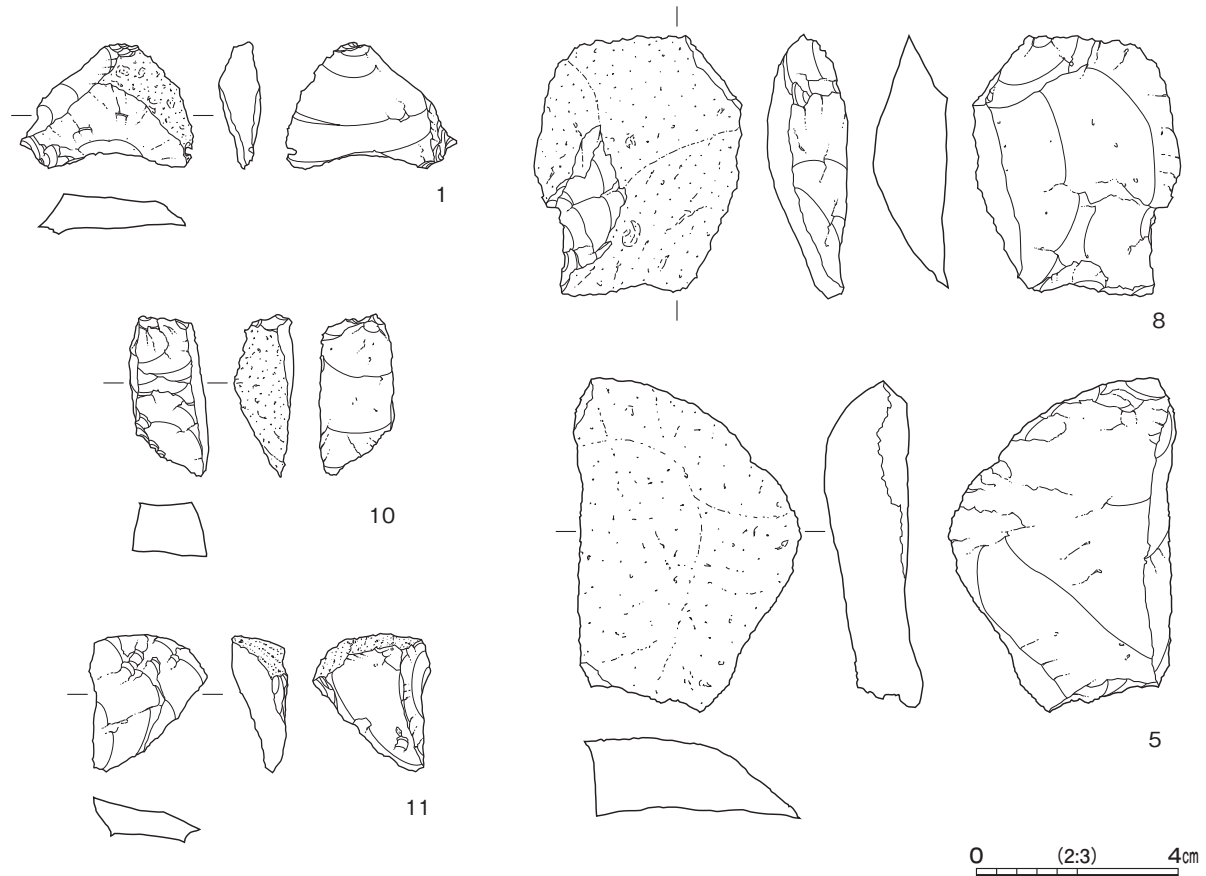
	安山岩	硬砂岩	合計 (g)
1層	195.6	639.79	835.39
2層		42.8	42.8
合計 (g)	195.6	682.59	878.19

接合資料1の分離順序は18→2+12である。剥片を素材とする剥片素材石核3点から構成される。18が折れた後、折れ面を作業面として両設打面から側面にポジティブ面を有する縦長剥片が剥離されている。

接合資料2は、打点が認められず。礫の自然節理面での割れと考えられる。



第106図 第1号石器集中地点出土遺物実測図（接合資料1）



接合資料2



第 107 図 第 1 号石器集中地点出土遺物実測図 (接合資料 2)

第 86 表 第 1 号石器集中地点出土遺物一覧

番号	器種名	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特 徴	層位	備考
1	剥片	安山岩	24.75	34.30	8.38	5.63	線状打面の剥片 腹面ポジネガ反転 楔形石器から剥離	1層	PL39
2	石核	硬砂岩	48.88	47.77	25.55	65.90	接合資料1 剥片素材石核 腹面側作業面でポジティブ面を底面とし横長または矩形的剥片が得られた	1層	
3	石核	安山岩	46.00	51.04	33.80	87.21	剥片素材石核 背面右側縁下半にポジティブ面	1層	PL39
5	剥片	安山岩	65.50	43.09	20.95	51.24	礫面を打面 帽子状剥片が垂直割れにより折れた	1層	PL39
8	石核	安山岩	51.78	40.88	15.88	40.37	剥片素材石核 腹面側作業面で背面がポジティブ面のみから構成される剥片が得られた	1層	PL39
10	剥片	安山岩	31.59	16.35	11.48	5.94	縦長剥片 調整打面より剥離 背面構成から両設打面	1層	PL39
11	剥片	安山岩	26.62	22.52	11.33	4.85	礫面打面の剥片 背面は大きなネガティブ面1面 腹面右側縁は主要剥離面形成時の垂直割れ	1層	PL39
18	石核	硬砂岩	53.02	24.90	22.80	12.70	接合資料1 剥片素材石核 二つの作業面 底面を有する有底横長剥片を剥離 両設打面から縦長剥片を剥離	2層	

番号	器種名	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特 徴	層位
4	碟	硬砂岩	47.82	28.81	28.04	51.04	接合資料 2	1層
6	碟	硬砂岩	57.44	46.59	27.6	90.1	接合資料 2	1層
7	碟	硬砂岩	75.71	33.8	22.41	76.05	接合資料 2	1層
9	碟	硬砂岩	44.85	34.33	35.19	76.8	接合資料 2	1層
12	石核	硬砂岩	27.57	36.94	17.03	30.10	接合資料 1	2層
13	剥片	硬砂岩	30.79	15.90	11.57	5.80		1層
14	碟	硬砂岩	50.69	42.85	28.49	68.23	接合資料 2	1層

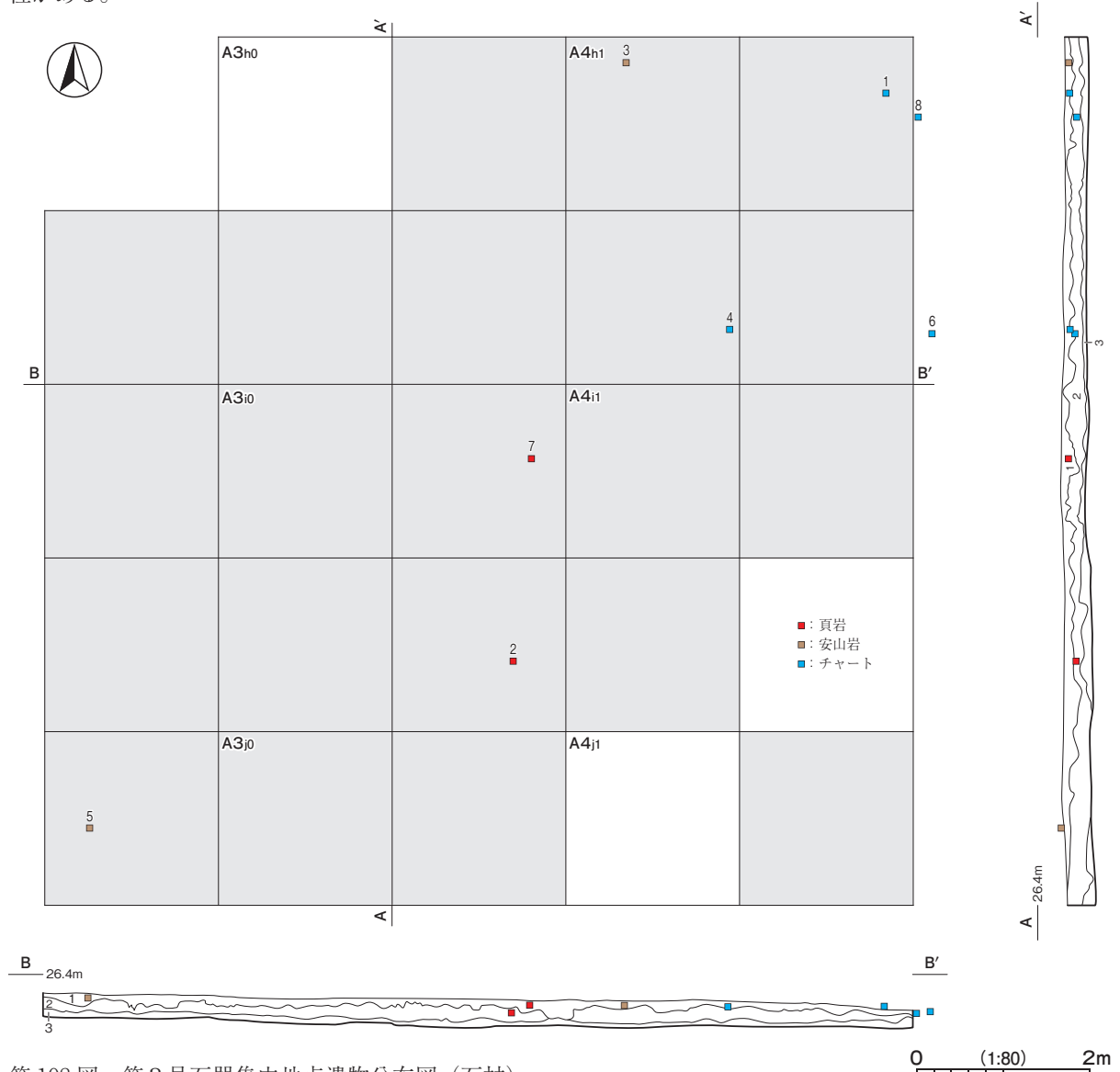
番号	器種名	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特 徴	層位
15	剥片	硬砂岩	13.35	7.03	2.38	0.18		1層
16	碟	硬砂岩	55.40	38.11	36.17	84.87	接合資料 2	1層
17	碟	硬砂岩	59.56	57.17	35.23	120.82	接合資料 2	1層
19	碟	硬砂岩	86.58	44.35	30.37	159.47	接合資料 2	1層
接合資料 1		硬砂岩	77.91	60.36	25.00	107.83	2+12+18	
接合資料 2		硬砂岩	137.84	81.44	67.25	727.38	4+6+7+9+14+16+17+19	

第3号石器集中地点 (第108・109図 第87・88表 PL14・39)

位置 調査区北部のA3h0～A4j1区、標高26mほどの台地上に位置している。

遺物出土状況 南北8.8m、東西9.7mの範囲内で、標高25.950～26.129mから、8点(総重量11.22g)の石器が出土している。内訳は、第1層から6点(頁岩1, 安山岩2, チャート3), 第2層から1点(チャート), 攪乱から1点(頁岩)で第1層に集中している。構成器種は、楔形石器1点(頁岩), 剥片6点(頁岩1, 安山岩1, チャート4), 碟1点(安山岩)である。

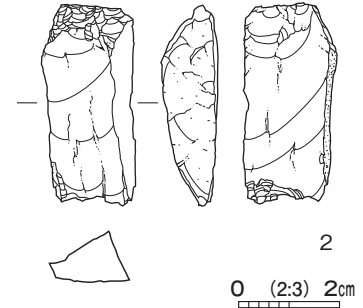
所見 当石器集中地点は、平面分布が12m四方に散逸し、出土点数も少ないことから集中地点ではない可能性がある。



第108図 第3号石器集中地点遺物分布図(石材)

第 87 表 第 3 号石器集中地点層位別単位石材器種一覧・層位別石材重量一覧

	頁岩			安山岩			チャート	合計		頁岩	安山岩	チャート	合計 (g)
	剥片	石核	集計	剥片	礫	集計							
1 層	1		1	1	1	2	3	6	1 層	0.57	1.36	1.61	3.54
2 層							1	1	2 層			0.28	0.28
攪乱		1	1					1	攪乱	7.4			7.4
合計	1	1	2	1	1	2	4	8	合計 (g)	7.97	1.36	1.89	11.22



第 109 図 第 3 号石器集中地点出土遺物実測図

第 88 表 第 3 号集中地点出土遺物一覧

番号	器種名	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特 徴						層位	備考	
2	楔形石器	頁岩	39.50	17.50	10.50	7.40	背面上端及び腹面下端には両極剥離による潰れ 腹面打点部はツインバルブ						攪乱	PL39	
番号	器種名	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	層位	番号	器種名	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	層位
1	剥片	チャート	15.04	12.89	2.94	0.42	1層	5	剥片	安山岩	16.60	9.94	2.87	0.51	1層
3	礫	安山岩	27.48	7.18	3.93	0.85	1層	6	剥片	チャート	12.06	8.54	1.82	0.18	1層
4	剥片	チャート	22.94	18.31	1.76	1.01	1層	7	剥片	頁岩	31.90	7.47	2.65	0.57	1層

第 5 号石器集中地点 (第 110 ~ 115 図 第 89 ~ 92 表 PL40・41)

位置 調査区西部の A 2h5 ~ A 2j6 区、標高 26 m ほどの台地上に位置している。

遺物出土状況 南北 7.2 m、東西 5.6 m の範囲内で、標高 25.873 ~ 26.162 m から、43 点 (総重量 395.7 g) の石器が出土している。内訳は、第 1 層から 23 点 (頁岩 11、安山岩 5、流紋岩 5、硬砂岩 1、石英 1)、第 2 層から 17 点 (頁岩 7、安山岩 2、流紋岩 8)、攪乱から 3 点 (頁岩、チャート、硬砂岩) で第 1 層に集中している。構成器種は、石核 4 点 (頁岩 1、安山岩 1、流紋岩 2)、二次加工剥片 1 点 (頁岩)、剥片 33 点 (頁岩 16、安山岩 6、チャート 1、流紋岩 10)、碎片 3 点 (頁岩、流紋岩、石英)、礫 2 点 (硬砂岩) である。

所見 当石器集中地点からは接合資料 5 点が出土している。

接合資料 1 (頁岩 8 点: 石核 1、剥片 7) は、平面分布が 2 m 四方 (A 2i5) に集中し、垂直分布が第 2 層に集中する。分離順序は、17 → 23 → 20 → 43 → 9、22 → (31+42) である。被熱の影響が認められる。また、潜在的な剥離の影響が著しく、表皮付近では同時に複数面が剥離された可能性が高い。拳大の礫から得られた大きな摂理面を持つ礫片を石核として剥片剥離が進行している。17 の礫面周辺には打撃クラックと割れ円錐状の剥離痕が認められる。

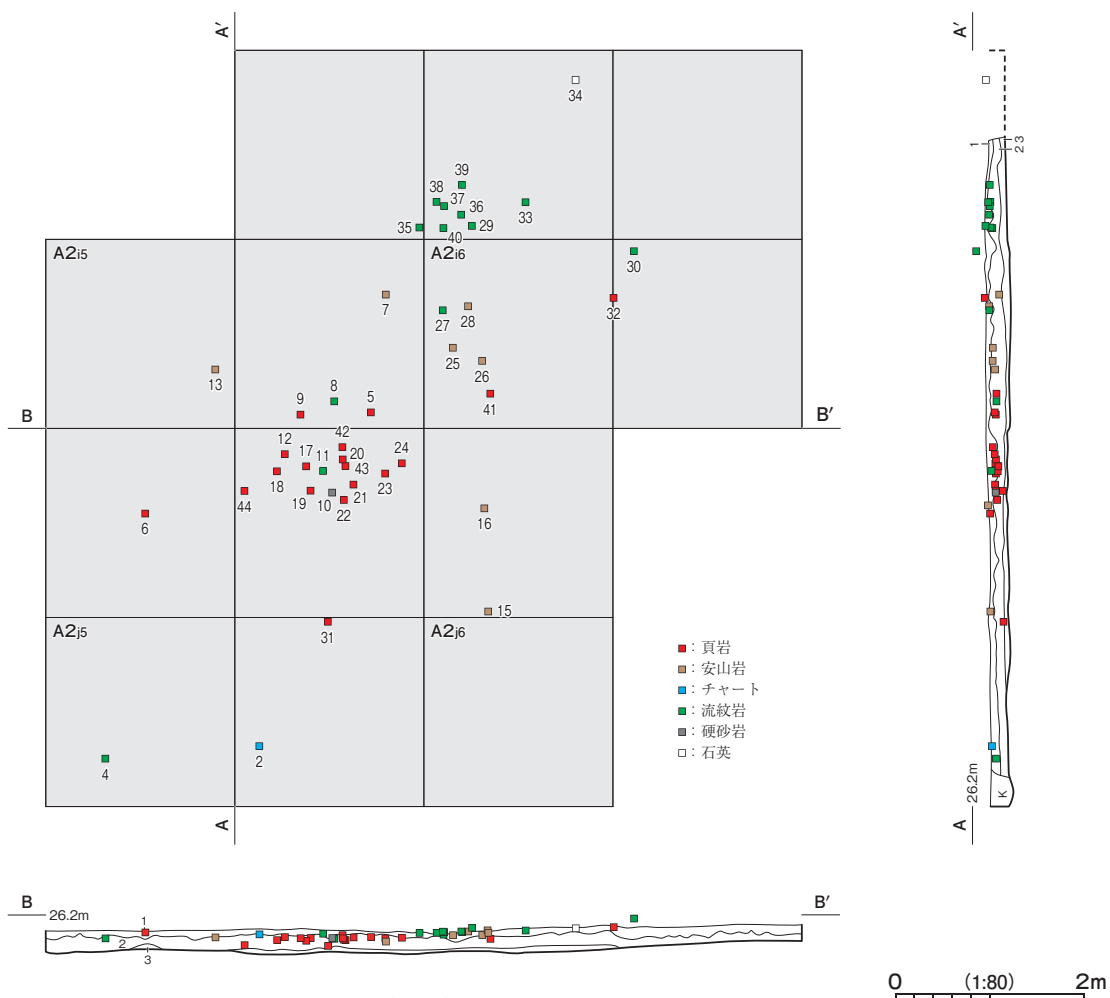
接合資料 2 (頁岩 2 点: 剥片) は、平面分布が 0.5 m 四方 (A 2i5) に集中する。分離順序は、18 → 19 である。剥片 2 点から構成され、頻繁な打面転移及び作業面転移がなされている。

接合資料 3 (流紋岩 6 点: 石核 1、剥片 5) は、平面分布が 1.6 m 四方 (A 2h5・h6・i6) に集中し、垂直分布が第 2 層に集中する。分離順序は、39 → 27 → 37 → (33+40) → 35 である。拳大の球状礫を素材とする。両設打面であるがほぼ打面と作業面を固定して縦長剥片の剥離が進行している。

接合資料 4 (流紋岩 3 点: 剥片 2、碎片 1) は、平面分布が 2.2 m 四方 (A 2h6・i6) に集中し、垂直分布が第 2 層に集中する。分離順序は、(36+38) → 30 である。剥片 2 点とバルバースカーから構成される。礫面を多く残すことから母岩消費の序盤を示すと考えられる。36 はバルバースカーであり、38 の剥片と接合していることから、原位置性は高いものと推定される。

接合資料 5 (頁岩 2 点: 剥片) は、平面分布が 0.5 m 四方 (A 2i5) に集中する。分離順序は、32+41 である。剥片 2 点から構成される。主要剥離面を共有しており、その主要剥離面形成時に折れたものと考えられる。

頁岩を主とした石器群 (接合資料 1・2・5 を含む) は、平面分布が 5 m 四方 (B 3a6 ~ B 3b7) に集中する。



第110図 第5号石器集中地点遺物分布図(石材)

12・21・44は、接合資料1の平面分布と同じ範囲から出土しており、同一母岩と考えられ、同一時期の石器製作跡の可能性はある。

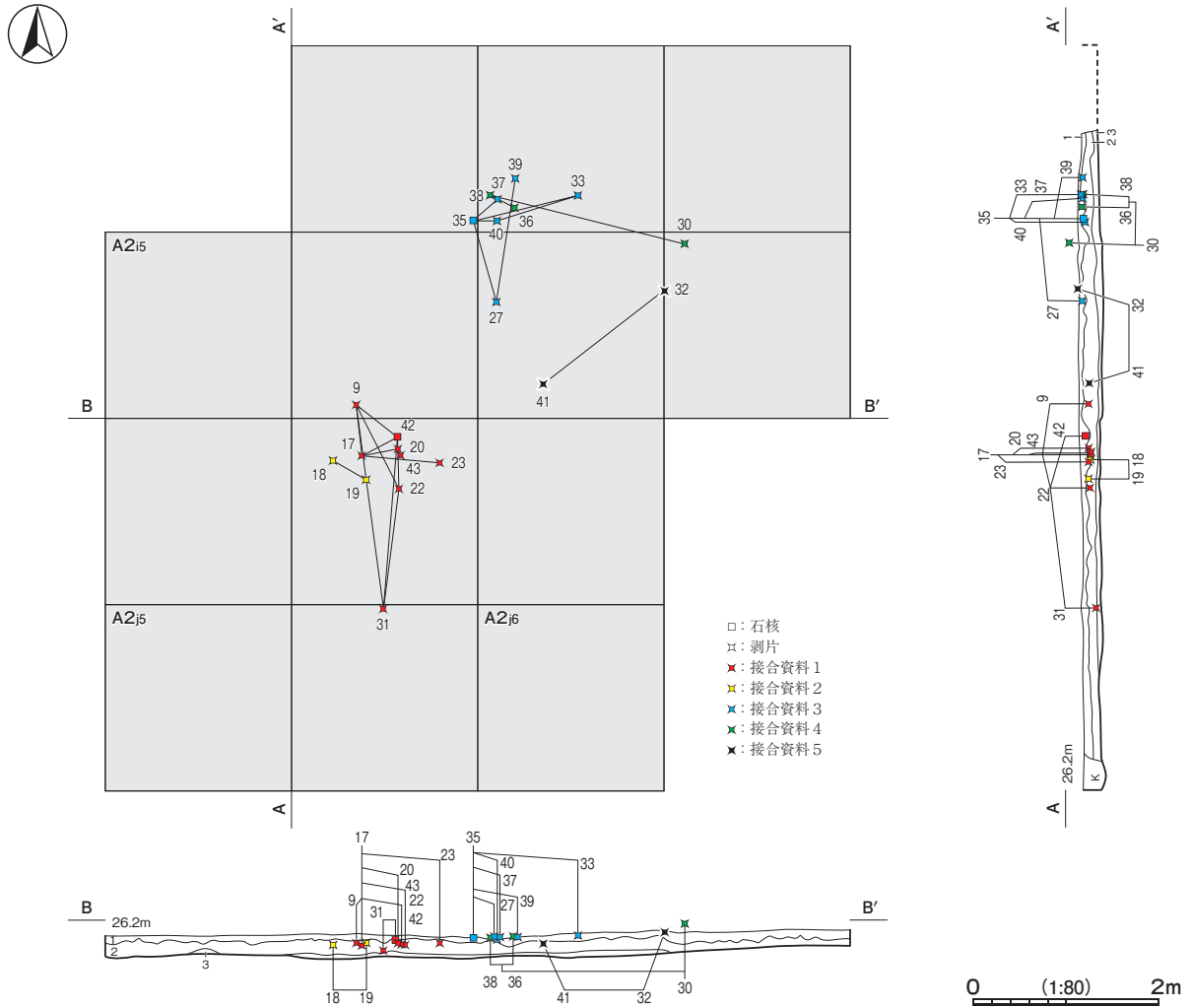
流紋岩を主とした石器群(接合資料3・4を含む)は、4を除いて、平面分布が4m四方(A2h5・i5・h6・i6)に集中する。11は、接合資料1の平面分布と同じ範囲から出土しており、同一母岩と考えられ、同一時期の石器製作跡の可能性はある。

第89表 第5号石器集中地点層位別単位石材器種一覧

	頁岩					安山岩			チャート	流紋岩				硬砂岩	石英	合計
	石核	剥二次加工片	剥片	砕片	集計	石核	剥片	集計	剥片	石核	剥片	砕片	集計	礫	碎片	
1層	1	1	9		11	1	4	5			4	1	5	1	1	23
2層			6	1	7		2	2		2	6		8			17
攪乱			1		1				1					1		3
合計	1	1	16	1	19	1	6	7	1	2	10	1	13	2	1	43

第90表 第5号石器集中地点層位別石材重量一覧

	頁岩	安山岩	チャート	流紋岩	硬砂岩	石英	合計(g)
1層	105.77	79.95		11.98	39.99	0.06	237.75
2層	19.91	21.3		96.2			137.41
攪乱	3.22		4.64		12.68		0
合計(g)	128.9	101.25	4.64	108.18	52.67	0.06	395.7

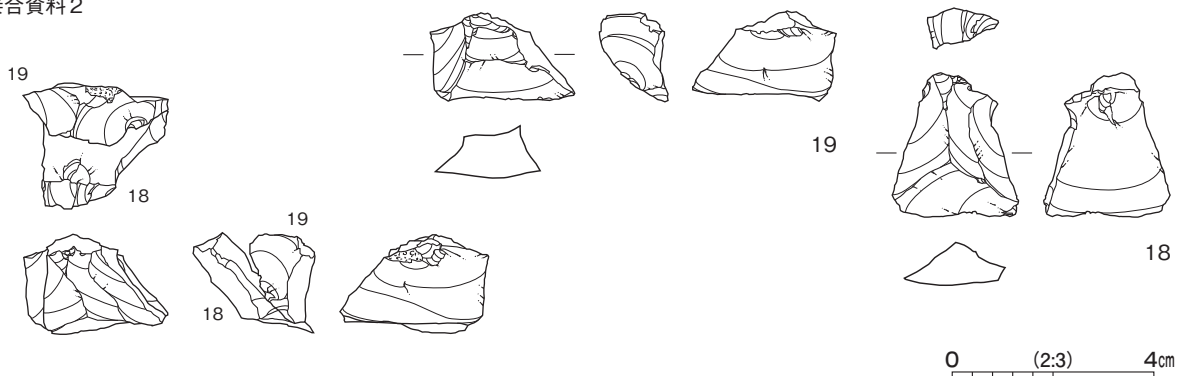


第 111 図 第 5 号石器集中地点遺物分布図 (接合資料)

第 91 表 第 5 号石器集中地点出土接合資料

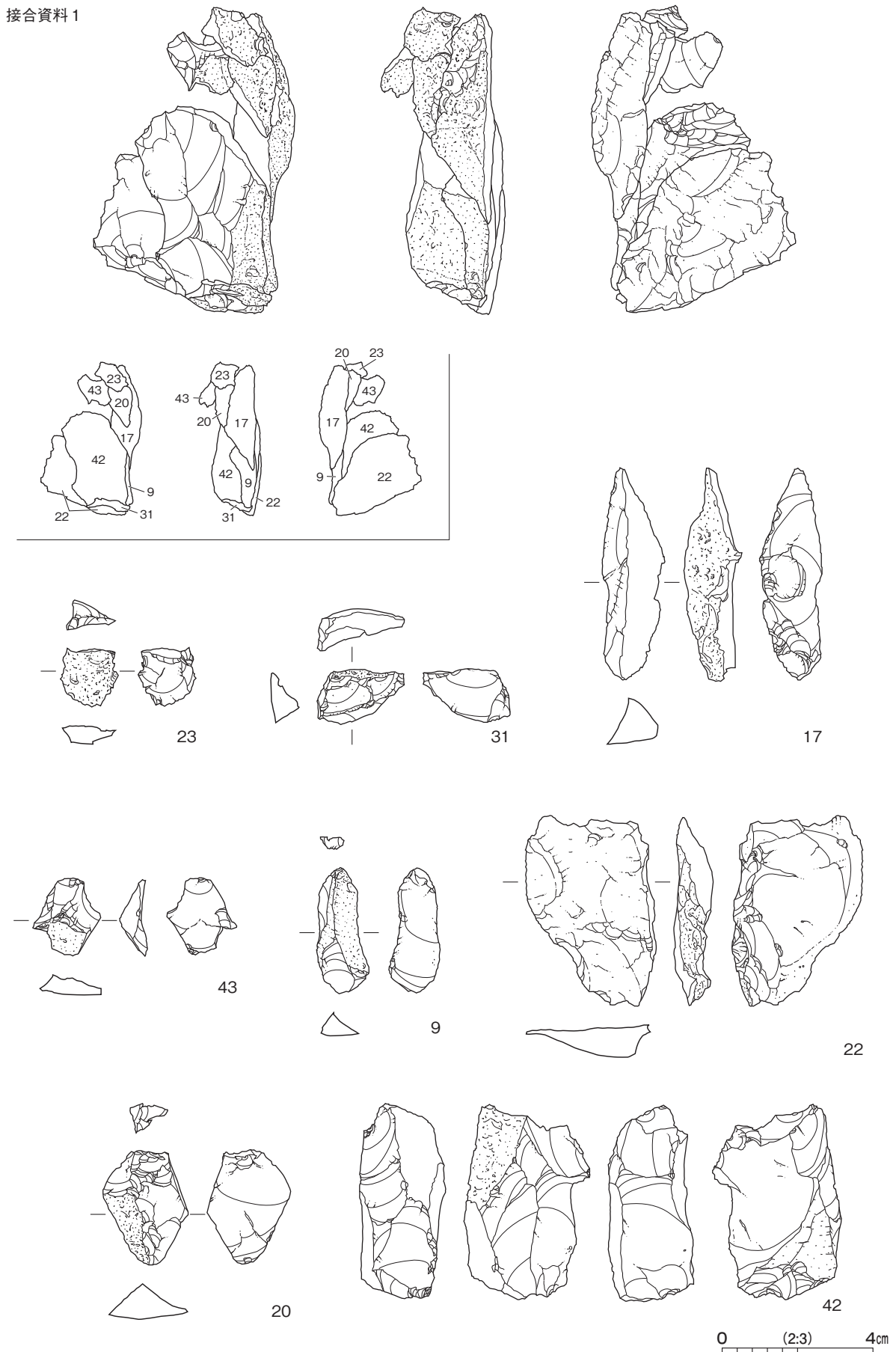
器種名	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特 徴	備考
接合資料 1	頁岩	80.74	54.04	33.33	71.29	分離順序：(17 → 23 → 20 → 43 → 9) / 22 → (31+42)	PL40
接合資料 2	頁岩	24.78	28.24	19.65	9.18	分離順序：18 → 19	PL40
接合資料 3	流紋岩	41.67	45.33	34.95	46.44	分離順序：39 → 27 → 37 → (33+40) → 35	PL40
接合資料 4	流紋岩	25.06	27.09	7.03	3.45	分離順序：(36+38) → 30	PL41
接合資料 5	頁岩	63.52	38.04	19.74	27.75	分離順序：32+41	PL41
接合資料 6	流紋岩	13.38	10.46	2.90	0.30	33+40 接合資料 3 と接合	PL40

接合資料 2



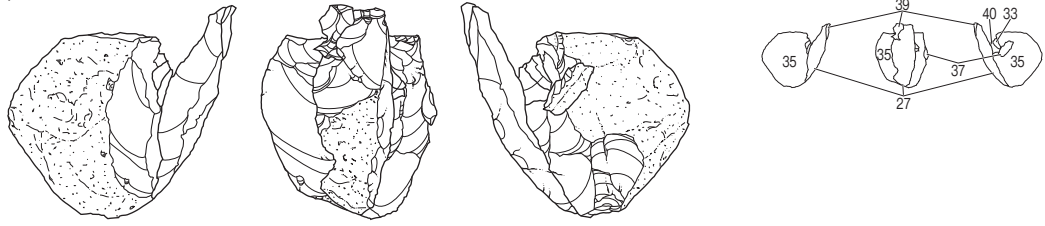
第 112 図 第 5 号石器集中地点出土遺物実測図 (接合資料 2)

接合資料 1

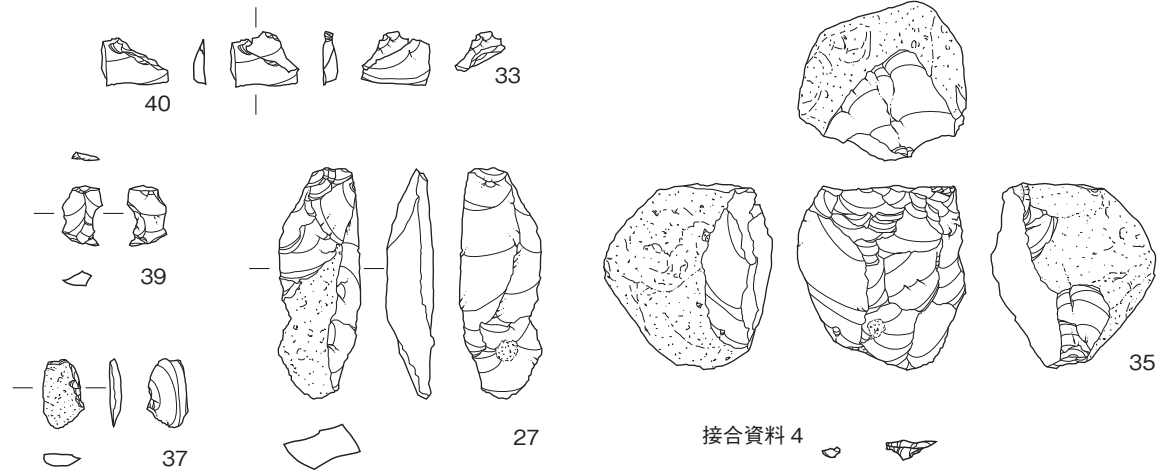


第 113 图 第 5 号石器集中地点出土遺物実測図 (接合資料 1)

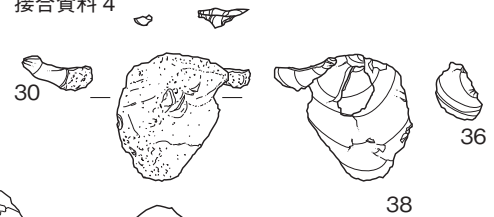
接合資料3



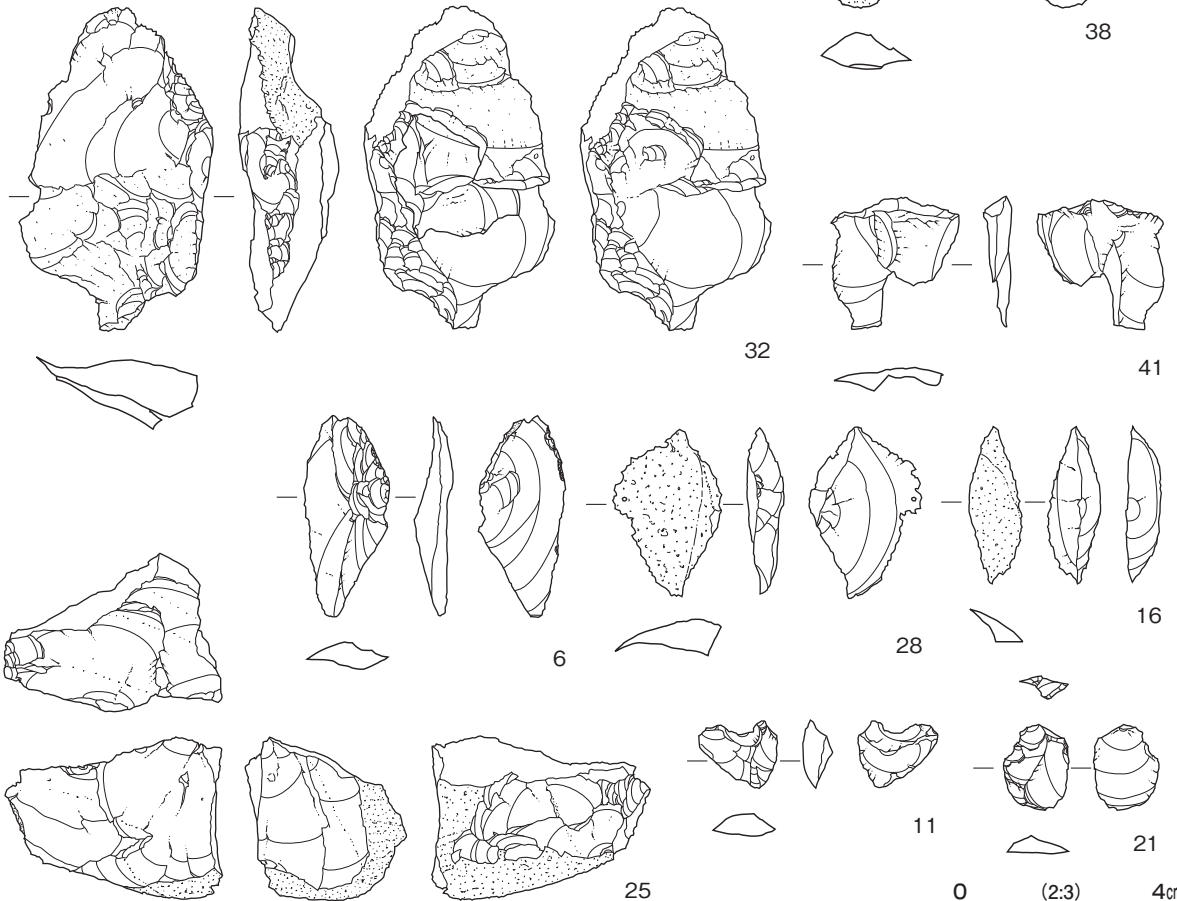
接合資料6



接合資料4

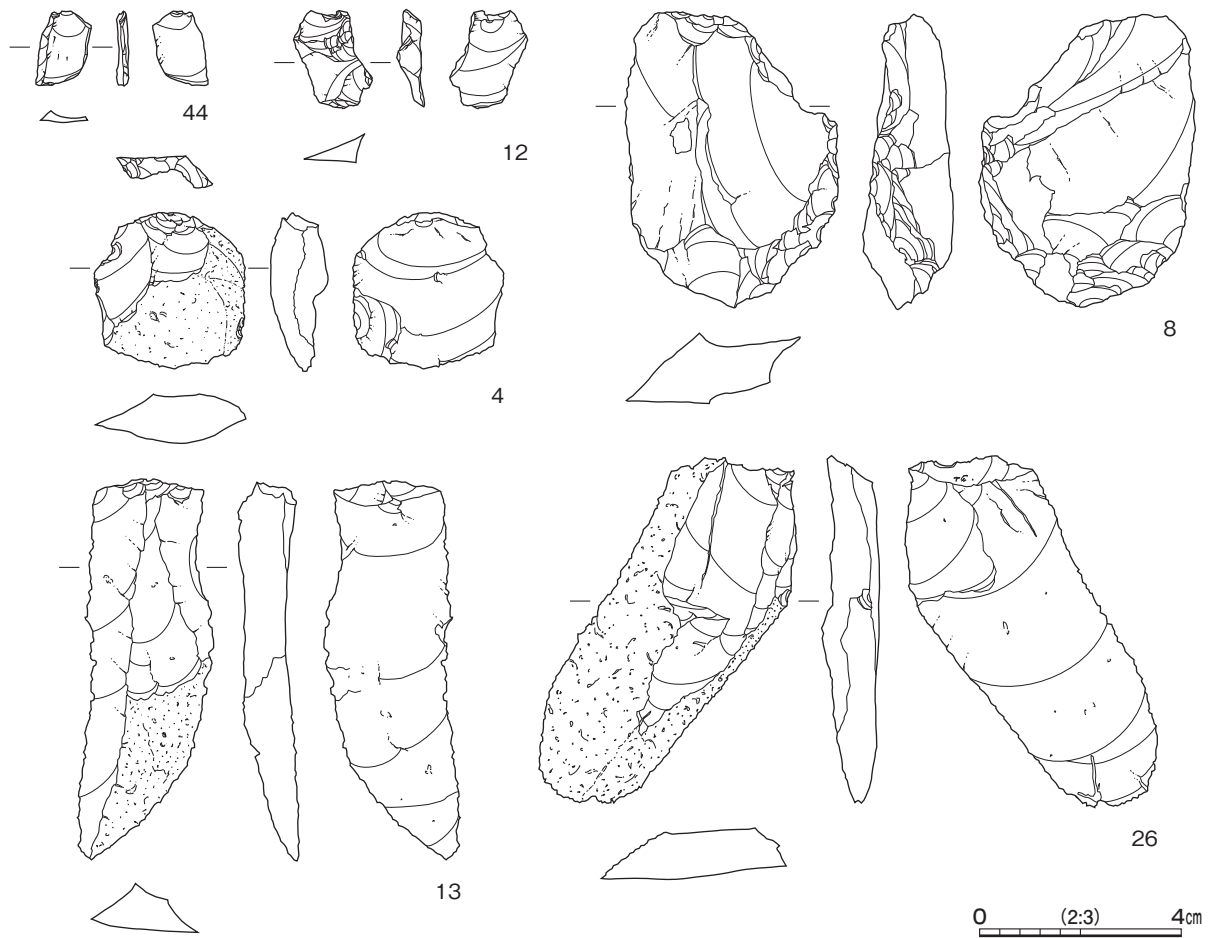


接合資料5



0 (2:3) 4cm

第114図 第5号石器集中地点出土遺物実測図(接合資料3~6)



第115図 第5号石器集中地点出土遺物実測図

第92表 第5号集中地点出土遺物一覧

番号	器種名	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特徴	層位	備考
4	剥片	流紋岩	30.76	30.03	11.43	7.92	調整打面より剥離された剥片	2層	PL41
6	二次加工剥片	頁岩	39.98	17.79	8.28	2.52	打点部に主要剥離面を切る二次加工 素材はボジネガ不明のフラット面を底面とする有底横長剥片	1層	PL41
8	石核	流紋岩	58.68	42.27	17.99	43.56	剥片を素材とした石核 作業面が複数認められ、有底横長剥片の剥離を目的としている作業面	2層	PL41
9	剥片	頁岩	32.76	14.23	7.50	2.30	接合資料1 剥離面打面の縦長剥片	2層	PL40
11	剥片	流紋岩	13.41	15.75	5.86	0.43	接合資料3と同一母岩と推定 調整打面の剥片 礫面は認められず、剥離作業の終盤に剥離	1層	PL41
12	剥片	頁岩	19.46	15.50	5.59	0.81	接合資料1と同一母岩と推定	1層	PL41
13	剥片	安山岩	75.31	26.51	13.93	18.03	調整打面の縦長剥片	2層	PL41
16	剥片	安山岩	30.84	10.54	7.31	1.51	打面が大きなボジティブ面の末端部 礫面を背面に持つ剥片の末端部から得られた剥片	1層	PL41
17	剥片	頁岩	55.87	16.94	15.16	8.90	接合資料1	2層	PL40
18	剥片	頁岩	28.44	24.53	8.50	4.60	接合資料2 調整打面の剥片	2層	PL40
19	剥片	頁岩	17.42	28.57	13.71	4.50	接合資料2 調整打面の剥片	1層	PL40
20	剥片	頁岩	29.49	22.36	12.50	5.80	接合資料1	1層	PL40
21	剥片	頁岩	16.91	13.10	3.69	0.70	接合資料1と同一母岩と推定 調整打面の剥片 自然面は認められず、母岩消費の終盤に得られた剥片と推定	1層	PL41
22	剥片	頁岩	49.85	33.91	10.52	13.10	接合資料1	1層	PL40
23	剥片	頁岩	15.54	15.30	7.00	0.10	接合資料1	2層	PL40
25	石核	安山岩	31.52	42.76	31.88	37.59	礫面の分布状況から拳台程度の礫が素材 背面側作業面が最終剥離その際に右側面の垂直割れ	1層	PL41
26	剥片	安山岩	67.83	50.80	11.61	35.66	調整打面の縦長剥片	1層	PL41
27	剥片	流紋岩	45.73	16.47	9.73	5.50	接合資料3	1層	PL40
28	剥片	安山岩	33.04	21.58	7.78	3.53	剥離面打面の横長帽子状剥片	1層	PL41
30	碎片	流紋岩	14.00	5.00	2.00	0.10	接合資料4	1層	PL41
31	剥片	頁岩	23.10	14.18	11.12	2.30	接合資料1	2層	PL40
32	剥片	頁岩	63.00	35.00	16.00	26.20	接合資料5	1層	PL41
33	剥片	流紋岩	10.50	5.50	2.00	0.10	接合資料6	1層	PL40
35	石核	流紋岩	36.60	33.18	33.44	40.60	接合資料3 単設打面の石核 打面と作業面をほぼ固定して縦長剥片を連続的に剥離	2層	PL40
36	剥片	流紋岩	11.50	7.50	1.50	0.10	接合資料4 30の主要剥離面形成時のバルバースカー	2層	PL41
37	剥片	流紋岩	13.82	8.59	2.60	0.20	接合資料3 石核35になされた石核調整剥片 作業面側から側面に向けて剥片剥離	2層	PL40
38	剥片	流紋岩	27.00	20.00	7.00	3.30	接合資料4 母岩消費の初期段階において打面作出もしくは作業面の礫面除去を意図したものと推定	2層	PL41

番号	器種名	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特 徴	層位	備考
39	剥片	流紋岩	11.88	7.83	2.50	0.10	接合資料3 剥離面打面の縦長剥片	2層	PL40
40	剥片	流紋岩	13.00	9.00	2.50	0.20	接合資料6	2層	PL40
41	剥片	頁岩	26.06	25.53	5.68	1.60	接合資料5 表裏両面にポジティブ面が認められ、明確な打点が認められず、内部から外側へリングが拡散することから、被熱の影響も受けつつ、潜在的な剥離面が同時に剥がれたものと推測	2層	PL41
42	石核	頁岩	51.34	33.84	22.87	36.10	接合資料1	1層	PL40
43	剥片	頁岩	20.12	18.17	7.41	1.30	接合資料1 20剥離後におよそ90度の打面転移がなされ、剥離	1層	PL40
44	剥片	頁岩	14.61	11.13	3.06	0.20	接合資料1と同一母岩 剥離面打面の縦長剥片 自然面は認められず、母岩消費の最終段階で剥離	1層	PL41

番号	器種名	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	層位	番号	器種名	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	層位	番号	器種名	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	層位
1	剥片	頁岩	23.27	16.05	9.82	3.22	2層	7	剥片	安山岩	21.91	19.42	11.51	3.18	2層	24	砕片	頁岩	7.71	6.72	1.96	0.13	2層
2	剥片	チャート	32.81	20.41	10.28	4.64	1層	10	礫	硬砂岩	65.17	27.15	20.18	39.99	1層	29	剥片	流紋岩	31.86	24.48	5.21	5.88	1層
3	礫	硬砂岩	34.45	28.44	15.4	12.68	攪乱	15	剥片	安山岩	19.68	17.85	4.58	1.65	1層	34	砕片	石英	7.72	7.19	1.49	0.06	1層
5	剥片	頁岩	38.27	27.08	12.44	14.57	1層																

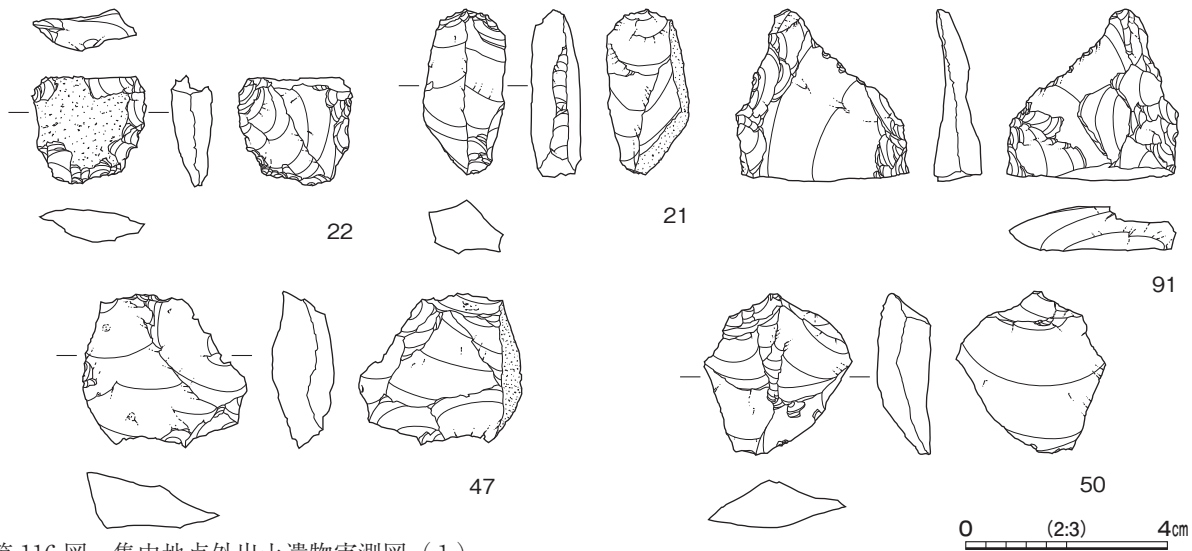
(2) 集中地点外出土遺物 (第116・117図, 第93・94表, PL42)

当遺跡では、石器集中地点以外からも石器が出土している。出土遺物は合計133点(総重量938.16g)で、内訳は、ナイフ形石器2点(安山岩, チャート), 楔形石器1点(頁岩), 尖頭器1点(デイサイト), 二次加工剥片3点(頁岩, チャート, 流紋岩), 石核3点(安山岩2, チャート1), 剥片119点(頁岩2, 安山岩21, 黒曜石6, チャート52, 流紋岩11, ホルンフェルス4, デイサイト2, 硬砂岩7, 砂岩2, 花崗岩1, 瑪瑙4, 石英7), 原石1点(黒曜石), 礫2点(チャート, 硬砂岩), 石鏃未製品1点(安山岩)である。また、接合資料2点が出土している。これらについては、主な石器について図示するとともに、一覧に特徴を記載する。

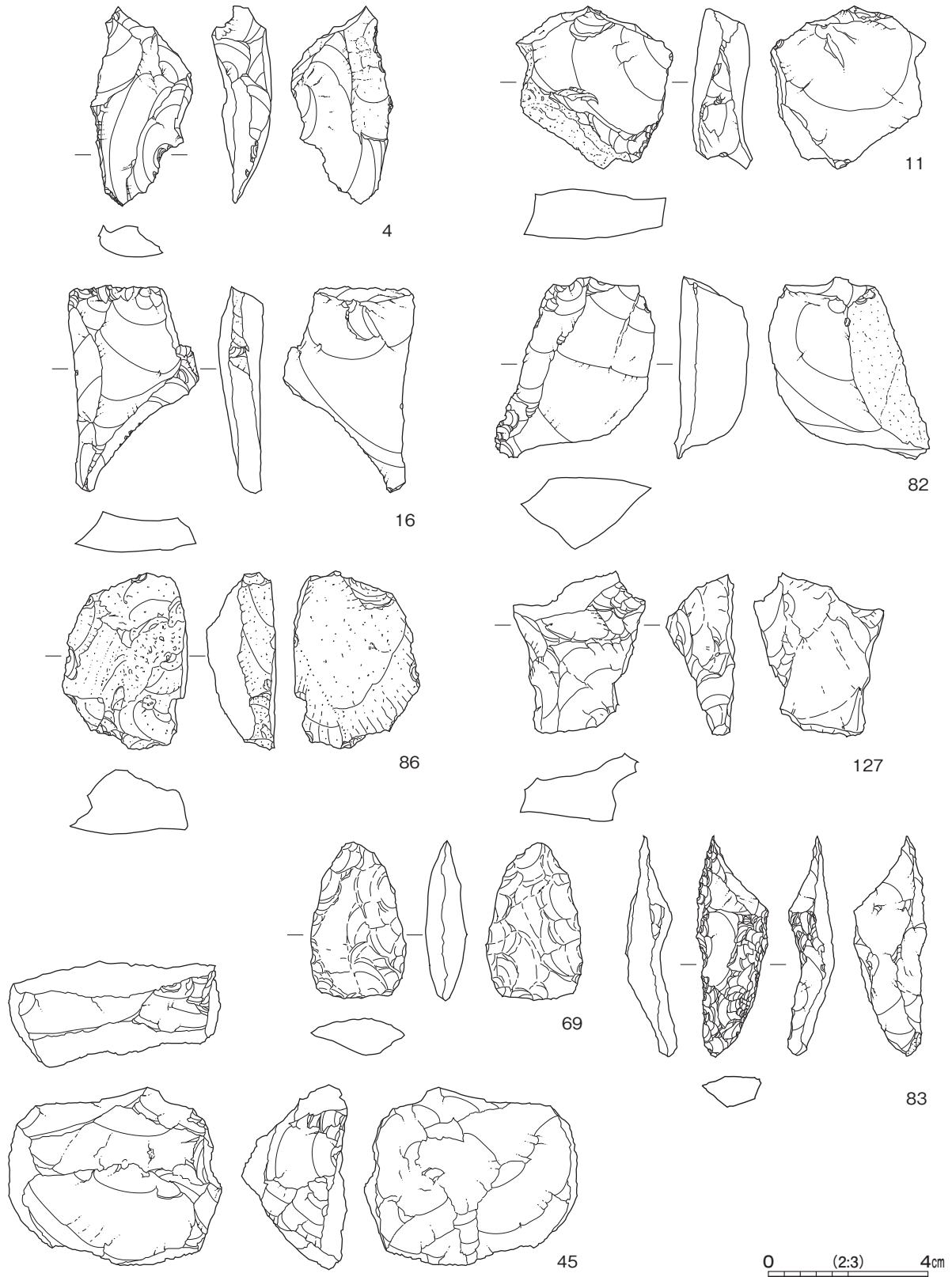
第93表 集中地点外石材単位器種・石材重量一覧

	頁岩	安山岩	黒曜石	チャート	流紋岩	ホルンフェルス	デイサイト	硬砂岩	砂岩	花崗岩	瑪瑙	石英	総計
ナイフ形石器		1		1									2
尖頭器							1						1
楔形石器	1												1
二次加工剥片	1			1	1								3
石核		2		1									3
剥片	2	21	6	52	11	4	2	7	2	1	4	7	119
石鏃未製品		1											1
原石			1										1
礫				1				1					2
総計	4	25	7	56	12	4	3	8	2	1	4	7	133

石材	総重量
頁岩	23.47
安山岩	162.91
黒曜石	28.45
チャート	337.82
流紋岩	74.36
ホルンフェルス	63.2
デイサイト	33.18
硬砂岩	149.7
砂岩	15.36
花崗岩	25.21
瑪瑙	10.04
石英	14.46
総計	938.16



第116図 集中地点外出土遺物実測図(1)



第117図 集中地点外出土遺物実測図(2)

第94表 集中地点外出土遺物一覧

番号	器種名	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特徴	出土遺構 グリッド	備考
4	二次加工剥片	頁岩	49.11	26.34	14.64	12.26	剥離面打面の横長もしくは矩形剥片を素材とした二次加工剥片。背面構成は求心的。打面を構成する白裏面の中には大きなポジティブ面が含まれる。打点部は主要剥離面側から背面側に向けた急角度の二次加工痕により除去。主要剥離面末端は主要剥離面形成と同時にもしくは形成後の節裏面に沿った剥落面。	HD	PL42
11	剥片	流紋岩	40.39	38.82	14.71	21.06	剥離面打面の矩形剥片。右側面には石核の作業面打点部が取り込まれており、打面再生剥片。	HD	PL42

番号	器種名	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	特徴	出土遺構	備考
16	剥片	流紋岩	51.31	33.35	11.59	13.32	剥離面打面の縦長剥片 背面を構成する剥離痕の剥離軸は求心的 複雑な打面転移	HD	PL42
21	楔形石器	頁岩	32.66	16.99	10.13	5.65	楔形石器 ポジティブ面は認められず、小型の礫を素材としたものと推定	HD	PL42
22	石鏃未製品	安山岩	21.55	22.87	8.47	3.90	両極剥離の他、押圧剥離も認められることから石鏃未製品	HD	PL42
45	石核	安山岩	44.15	53.77	26.12	59.89	腹面は被熱の影響によるものと考えられる被熱剥離のみから構成され、この面を打面として剥片剥離	HD	PL42
47	石核	安山岩	30.25	32.69	12.33	10.56	ポジティブ面が認められないことから礫を素材とした石核 背腹両面の作業面では共に求心的な剥片剥離作業の痕跡	SK58	PL42
50	二次加工剥片	流紋岩	31.78	29.54	11.3	5.31	矩形剥片を素材とした二次加工剥片 背面左側縁下半にポジティブ面とも推定される大きなフラット面 その他の剥離痕はおおむね剥離軸が並行 主要剥離面が認められるものの打点部は背面側からなされた二次加工痕により除去	SK117	PL42
69	尖頭器	デイサイト	38.79	24.16	10.15	7.65	尖頭器もしくは石鏃未製品	TM8 周溝	PL42
82	剥片	流紋岩	45.09	39.22	18.36	23.45	剥離面打面の縦長剥片 背面右側には主要剥離面の剥離軸と並行な大きなポジティブ面 剥片素材石核から剥離	TM9 周溝	PL42
83	ナイフ形石器	チャート	55.11	18.2	12.94	8.29	横長剥片を素材 素材を横位に用いた二側縁加工のナイフ形石器 腹面右側に主要剥離面形成と同時に、ないし形成後の折れ面 背面左側縁の剥離痕はその折れ面を打面としていることからそのほぼ全てが二次加工 主要剥離面の打点が残置されていることから右側面下半は打面が残置	TM9 周溝	PL42
86	原石	黒曜石	43.93	31.53	17.24	21.81	背腹両面に細かな剥離痕が認められるが、自然面がほぼ全面を覆う原石	TM9 周溝	PL42
91	二次加工剥片	チャート	33.66	34.3	9.52	7.47	背腹両面に見られる加工痕は全て押圧剥離 石鏃未製品もしくは石匙の未製品と推定	TM9 周溝	PL42
127	剥片	安山岩	40.14	32.76	17.08	15.34	剥離面打面の横長剥片	TM10 周溝	PL42
接合資料1	流紋岩		17.83	23.32	11.6	3.97	59+61	TM1	PL42
接合資料2	硬砂岩		40.84	31.24	36.82	50.04	35+36	HD	

番号	器種名	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	出土遺構
1	剥片	チャート	18.13	12.23	10.11	1.85	HD
2	剥片	チャート	13.43	10.64	3.63	0.54	HD
3	剥片	硬砂岩	23.62	14.38	4.03	1.33	HD
5	剥片	流紋岩	15.02	14.43	2.89	0.67	HD
6	剥片	石英	11.62	6.68	1.58	0.12	HD
7	剥片	石英	43.85	12.26	11.27	7	HD
8	剥片	安山岩	35.88	12.93	8.87	4.75	HD
9	剥片	瑪瑙	6.76	6.56	1.44	0.04	HD
10	剥片	黒曜石	32.05	26.86	7.77	5.88	HD
12	剥片	チャート	14.3	14.26	3.36	0.44	HD
13	石核	チャート	44.26	34.43	28.84	58.7	HD
14	剥片	チャート	36.05	18.13	6.1	4.44	HD
15	礫	硬砂岩	58.92	40.13	13.01	29.80	HD
17	剥片	安山岩	51.34	20.13	6.88	7.30	HD
18	剥片	チャート	8.87	5.61	1.04	0.08	HD
19	剥片	チャート	19.01	16.18	2.91	0.87	HD
20	剥片	チャート	24.43	18.96	13.66	6.55	HD
23	剥片	花崗岩	35.47	30.54	23.51	25.21	HD
24	剥片	チャート	22.70	23.00	16.16	14.05	HD
25	剥片	安山岩	47.86	25.73	7.58	7.13	HD
26	剥片	安山岩	18.59	18.49	4.27	1.60	HD
27	剥片	チャート	28.77	16.16	7.41	3.49	HD
28	剥片	チャート	47.23	23.22	19.94	19.89	HD
29	剥片	安山岩	12.67	8.74	1.97	0.23	HD
30	剥片	安山岩	20.64	9.25	4.66	0.88	HD
31	剥片	チャート	25.12	13.33	3.97	1.43	HD
32	剥片	安山岩	25.43	20.26	6.99	3.02	HD
33	剥片	硬砂岩	29.68	21.35	8.33	4.96	HD
34	剥片	安山岩	15.87	14.02	3.44	0.82	HD
35	剥片	硬砂岩	34.58	31.15	23.29	30.14	HD
36	剥片	硬砂岩	41.89	28.82	16.68	19.90	HD
37	剥片	チャート	47.24	41.32	10.54	18.42	HD
38	剥片	チャート	12.47	10.12	9.02	0.85	HD
39	剥片	安山岩	11.28	7.88	2.18	0.19	HD
40	剥片	チャート	26.63	30.97	13.29	10.70	HD
41	剥片	チャート	34.86	18.56	18.56	14.21	HD
42	剥片	硬砂岩	45.94	31.76	23.81	36.90	HD
43	剥片	頁岩	34.76	13.84	11.18	4.17	HD
44	剥片	チャート	31.46	25.15	16.40	11.81	HD
46	剥片	流紋岩	38.85	15.77	5.92	3.41	HD

番号	器種名	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	出土遺構
48	剥片	瑪瑙	30.37	19.45	10.56	4.24	SK86
49	剥片	石英	16.62	14.41	6.62	1.04	SK86
51	剥片	安山岩	25.08	18.89	5.8	2.93	HD
52	剥片	黒曜石	20.34	10.16	1.87	0.31	SK137
53	剥片	瑪瑙	21.19	12.73	6.92	1.7	SK146
54	剥片	チャート	25.22	16.51	6.27	2.23	SK162
55	剥片	チャート	17.96	17.23	4.21	1.33	SD17
56	剥片	チャート	20.72	12.86	1.96	0.56	SD17
57	剥片	チャート	30.15	17.71	4.11	2.12	SD17
58	剥片	石英	33.75	29.46	10.17	6.1	SD19
59	剥片	流紋岩	17.94	17.59	5.19	1.3	TM1
60	剥片	チャート	13.13	6.87	1.83	0.19	TM1
61	剥片	流紋岩	20.13	19.75	5.49	2.67	TM1
62	剥片	安山岩	40.68	35.18	11.63	17.18	TM1
63	剥片	チャート	21.17	8.14	7.45	1.43	TM1
64	剥片	ホルフェリス	66.66	41	27.05	38.26	TM1
65	剥片	チャート	45.07	23.99	8.72	14.52	TM1
66	剥片	チャート	18.48	17.62	6.48	2.27	TM1
67	剥片	チャート	11.51	8.9	2.88	0.28	TM1
68	剥片	チャート	38.77	20.95	14.56	14.31	TM1
70	剥片	硬砂岩	36.08	25.95	7.1	5.48	TM1
71	剥片	チャート	19.66	4.37	3.93	0.51	TM1
72	剥片	チャート	40.26	22.19	7.7	9.35	TM1
73	剥片	流紋岩	22.29	20.6	4.95	1.98	TM1
74	剥片	ホルフェリス	38.18	11.4	7.1	3.27	TM1
75	剥片	チャート	22.97	16.9	4.57	1.56	TM1
76	剥片	ホルフェリス	48.4	43.6	9.42	21.11	TM1
77	剥片	チャート	22.39	13.58	9.17	2.29	TM1
78	剥片	硬砂岩	53.03	30.21	11.36	21.19	TM1
79	剥片	安山岩	40.12	38.25	9.2	16.66	TM8
80	剥片	チャート	34.44	27.29	12.38	15.1	TM9
81	剥片	デイサイト	46.95	40.59	14.08	25.49	TM9
84	剥片	安山岩	32.82	25.11	6.23	6.11	TM9
85	剥片	安山岩	26.32	16.04	5.57	2.83	TM9
87	剥片	流紋岩	19.02	16.9	3.81	1	TM9
88	剥片	安山岩	44.13	36.71	6.81	8.88	TM9
89	剥片	安山岩	16.56	15.94	5.06	1.03	TM9
90	剥片	チャート	45.45	17.13	9.06	6.52	TM9
92	礫	チャート	60.6	29.89	15.95	29.16	TM9
93	剥片	チャート	7.7	4.57	1.63	0.04	TM9

番号	器種名	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	出土遺構
94	剥片	チャート	6.89	3.08	1.4	0.03	TM9
95	剥片	チャート	8.75	8.52	4.6	0.3	TM9
96	剥片	安山岩	20.99	11.1	4.33	0.92	TM9
97	剥片	チャート	13.47	7.99	7.65	0.72	TM9
98	剥片	石英	7.97	4.26	1.34	0.05	TM9
99	剥片	黒曜石	7.54	6.71	1.58	0.06	TM9
100	剥片	チャート	5.01	3.99	0.74	0.01	TM9
101	剥片	黒曜石	4.87	2.93	2.24	0.02	TM9
102	剥片	安山岩	21.31	20.02	7.71	3.73	TM9
103	剥片	チャート	18.31	15.53	2.98	0.76	TM9
104	剥片	石英	5.75	3.8	2.13	0.04	TM9
105	剥片	石英	7.84	5.29	2.41	0.11	TM9
106	剥片	黒曜石	7.13	4.8	2.79	0.09	TM9
107	剥片	チャート	4.8	3.22	0.73	0.01	TM9
108	剥片	安山岩	10.57	9.07	1.79	0.19	TM9
109	剥片	チャート	13.65	7.16	3.7	0.36	TM9
110	剥片	チャート	6.35	5.99	1.96	0.09	TM9
111	剥片	チャート	4.43	4.17	0.57	0.01	TM9
112	剥片	黒曜石	14.64	9.74	2.63	0.28	TM9
113	剥片	流紋岩	9.62	5.83	2.89	0.12	TM9
114	剥片	チャート	13.84	7.33	6.35	0.47	TM9
115	剥片	チャート	9.05	3.68	1.84	0.07	TM9
116	剥片	チャート	11.62	6.45	2.8	0.17	TM9
117	剥片	チャート	10.47	7.21	1.28	0.12	TM9
118	剥片	安山岩	17.47	17.02	2.54	0.64	TM9
119	剥片	流紋岩	9.24	5.42	1.27	0.07	TM9
120	剥片	安山岩	9.47	3.48	1.41	0.05	TM9
121	剥片	チャート	5.49	3.9	0.69	0.01	TM9
122	剥片	チャート	4.96	4.81	1.79	0.05	TM9
123	剥片	チャート	7.35	4.83	2.16	0.07	TM9
124	剥片	チャート	6.64	5.85	2.91	0.08	TM9
125	剥片	チャート	18.83	12.55	6.69	1.49	TM10
126	剥片	砂岩	39.24	22.49	10.82	6.27	TM10
128	剥片	砂岩	34.5	20.97	6.96	4.06	TM10
129	剥片	チャート	43.41	38.51	27.51	40.89	TM10
130	剥片	瑪瑙	6.97	6.43	1.04	0.04	TM10
131	剥片	チャート	7.08	4.98	0.82	0.04	TM10
132	剥片	デイサイト	8.35	2.66	0.67	0.02	TM10
133	剥片	頁岩	20.72	14.89	4.23	1.39	TM10

2 古墳時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、古墳4基を確認した。当古墳群は、つくば市教育委員会の分布調査では7基とされていたが、今回の調査で、新たに3基の古墳を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

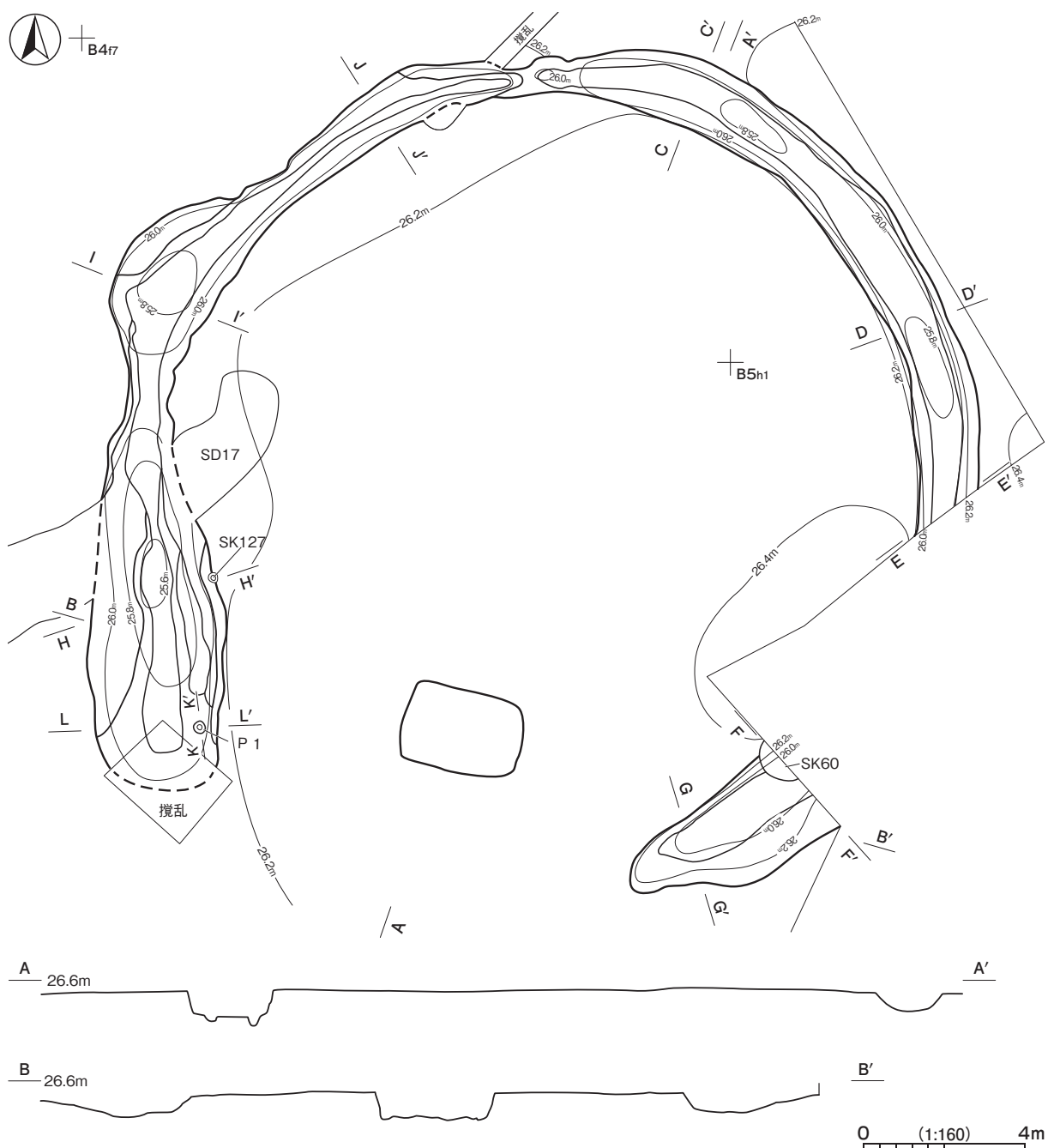
古墳

第1号墳 (第118～125図 第95～97表 PL10・43～47)

位置 調査区東部のB4f7～C5a1区、標高26mほどの台地縁辺部の平坦面に位置している。

現況及び調査経過 第1号墳主体部は、つくば市教育委員会により、石棺を記録保存するための発掘調査と、周溝の確認調査を、平成12年8月17日から9月14日の期間で行っている。

重複関係 周溝は、第17号溝、第60・127号土坑に掘り込まれている。



第118図 第1号墳完掘実測図

規模と平面形 墳形は前方後円墳（帆立貝形カ）と想定されるが、墳丘及び前方部は削平されている。主軸方向はN - 157° - Wである。規模は、後円部径 22.4 m、くびれ部幅 11.2 mである。

周溝 調査区外へ延びる後円部東側の一部は未確認で、前方部は削平されている。周溝は、上幅 0.7 ~ 3.4 m、下幅 0.3 ~ 1.2 m、深さ 0.2 ~ 0.6 mで、西側くびれ部付近の幅、深さがともに最大値である。深さは、くびれ部から北へ向い浅くなる。東側の一部は調査区外のため確認できなかった。

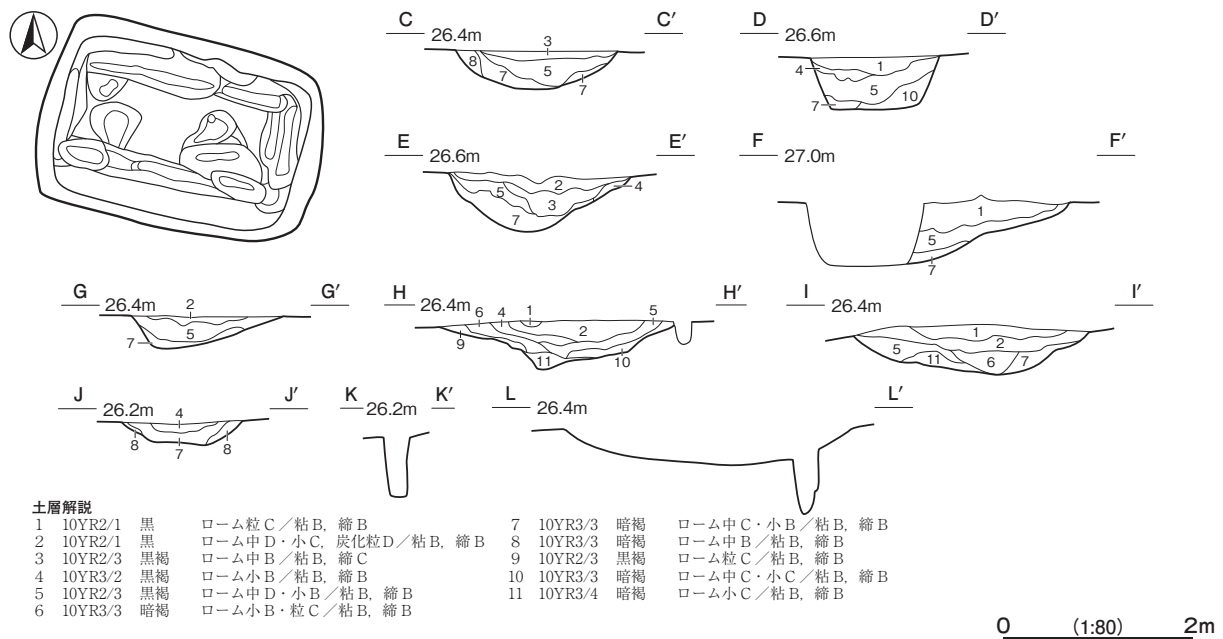
周溝土層 11層に分層できる。層準の対比は黒色土を基準として、上下に大きく2群に分けられる。第1群(第1・2層)は腐植土が自然堆積したもの、第2群(第3~11層)は墳丘や周溝外からの崩落等による流入土でローム主体土である。

遺物出土状況 周溝から、土師器片 113 点（坏 2，器台 1，高坏 2，鉢 1，甕 107），須恵器片 5 点（坏），埴輪片 305 点，石器 20 点（尖頭器 1，剥片 19）が出土している。周溝東側くびれ部付近からは、埴輪片 47 点がまとまって出土している。覆土上層の自然堆積土からの出土であり投棄されたと推定される。埴輪片は白雲母・黒雲母を含み、県南地域でみられる埴輪の特徴を示し、胎土から 5 群に分類できる。種類の判明できた埴輪片は、円筒埴輪 201 点，形象埴輪 31 点（人物 3，馬 1，不明 27），器財埴輪 2 点（機織）である。

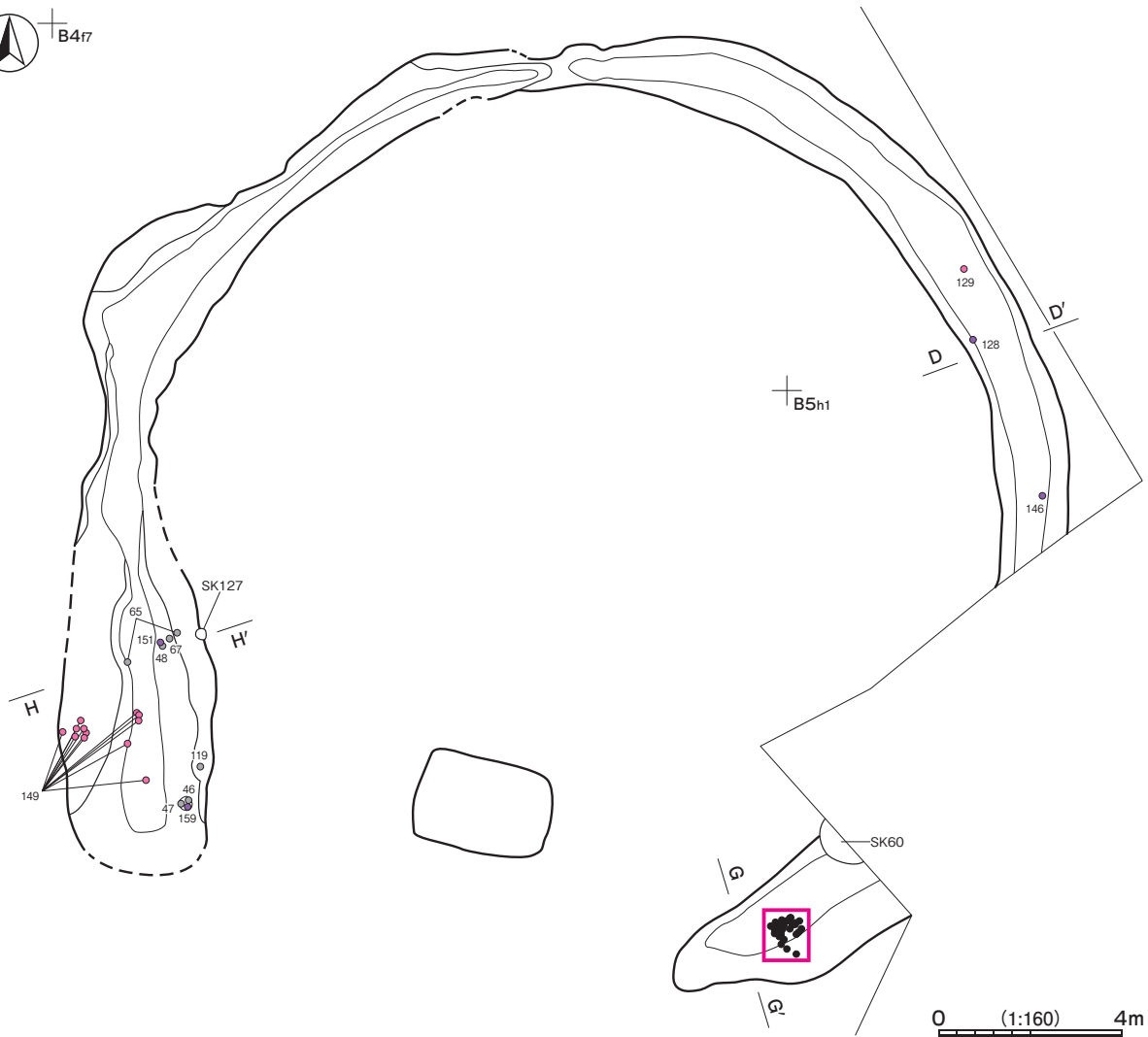
出土遺物 人物埴輪 137 は、人物の首部から右腕で、首に、勾玉と丸玉が交互に表現されている。胴部への腕部結合方法は、胴部に腕部を差し込み、胴部内面に粘土を充填して結合させている。胎土は、器財埴輪 135 と酷似していることから同一個体と考えられる。

形象埴輪 138 は、馬具を装着した馬形埴輪で、頭頂部から鞍前輪までの破片である。頭頂部は、左側に耳を表現した穴の一部を確認できる。この耳の後ろを回した位置の左右側面に、面繫の革紐表現がある。また、たてがみの上部を前輪に接するように頭部から延びてくる手綱の革紐表現がある。前輪を基準とし、首から頭部の形状を推定すると、首はやや垂れ、頭部を下方へ向けた馬形埴輪であると推測される。

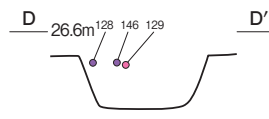
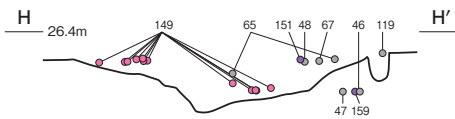
器財埴輪 135 は、基台部とその上に 2 本一対で直立した柱状脚部の破片である。類例から、機織形埴輪と考えられる。脚部のうち、右脚部には対となる脚間内側の右脚部上方から下方へ、さらに、台座前方中央から後方へ延びる紐が表現されている。また、右脚部の上部にある粘土の剥れ痕が、前方部から後方へ傾斜するため、傾斜をもった機台を表現したものと考えられる。このことから有機台腰機（地機）の埴輪と推測される。有機



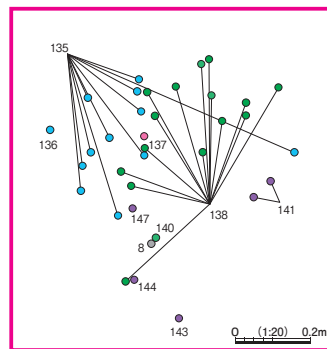
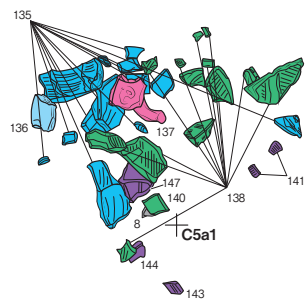
第 119 図 第 1 号墳周溝土層断面図



0 (1:160) 4m

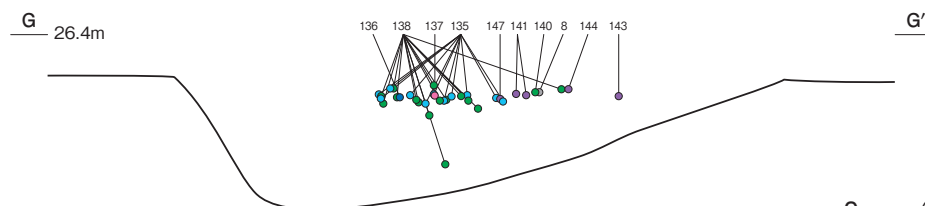


0 (1:80) 2m



- : 円筒埴輪
- : 形象埴輪 (人物)
- : 形象埴輪 (馬形)
- : 形象埴輪 (不明)
- : 器財埴輪 (機織)

0 (1:20) 0.2m



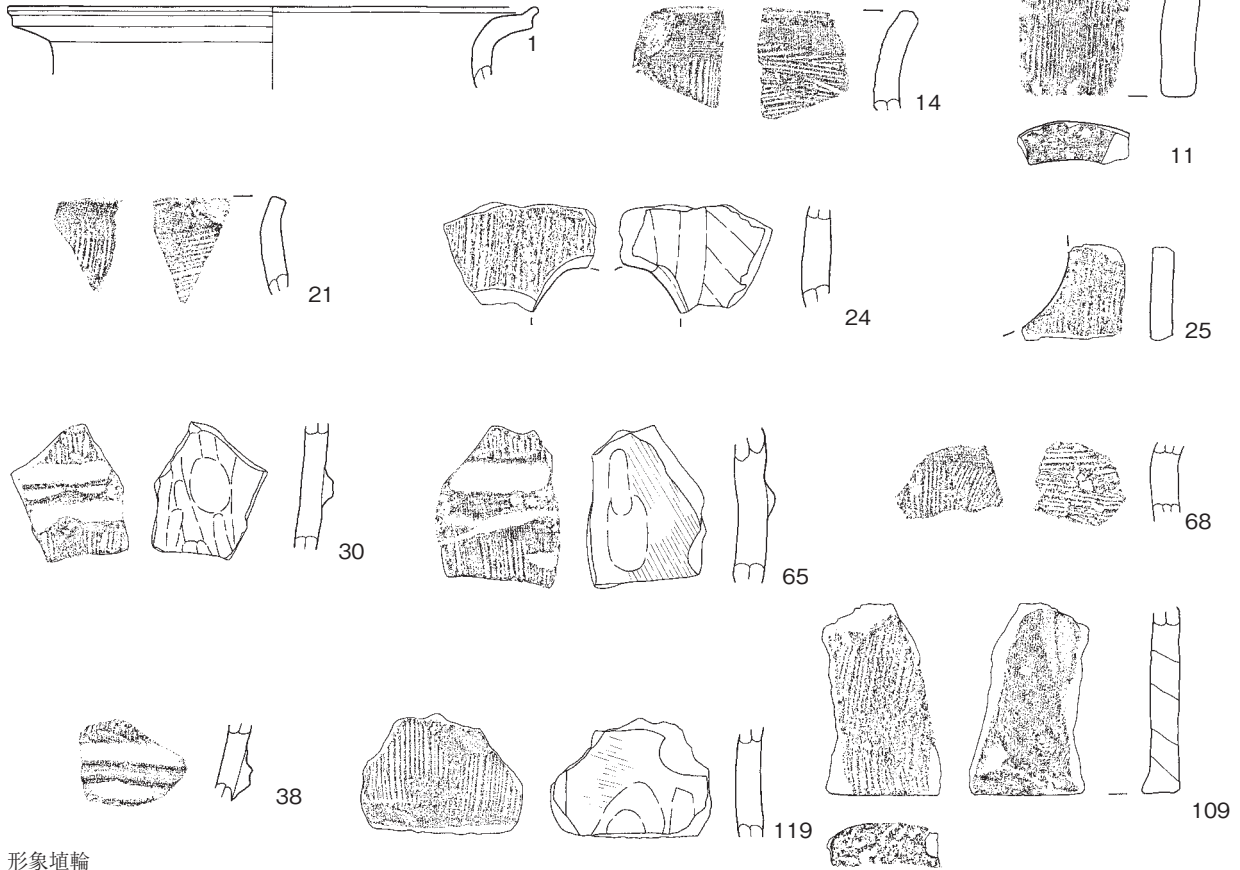
0 (1:20) 0.5m

第120図 第1号埴輪出土状況図

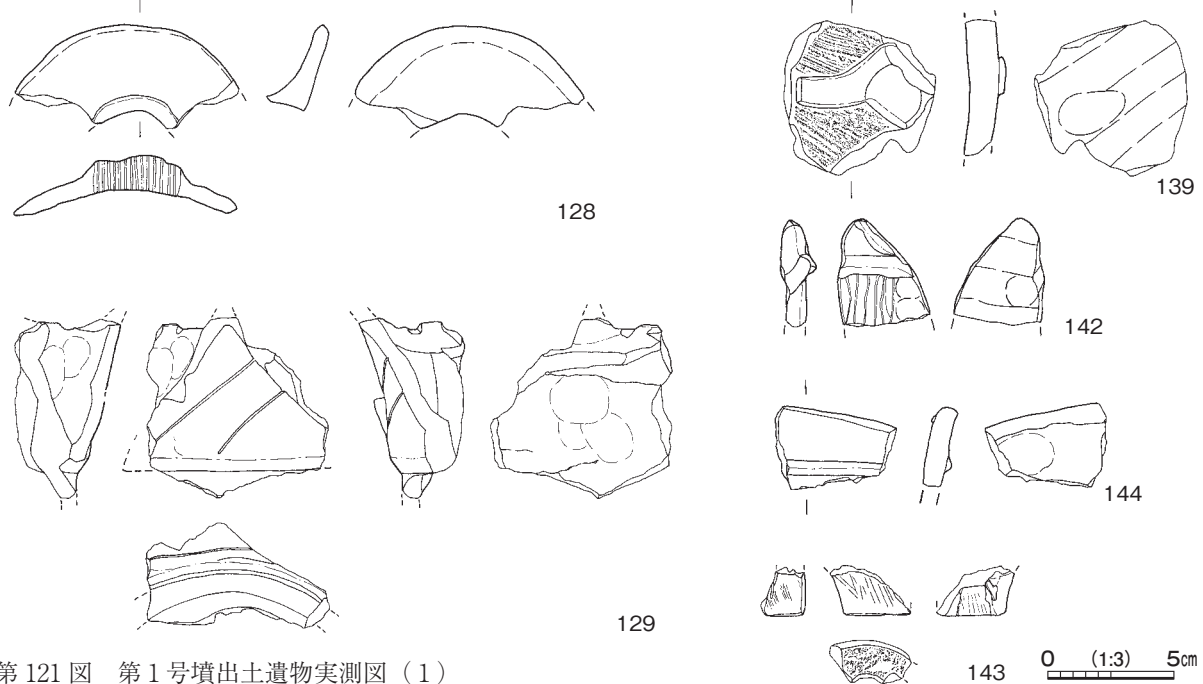
台腰機（地機）は、綜統が招木と連結し、天秤仕掛けにより足で操作することができることから、右脚内側に垂下し基台中央へ延びる紐表現は、招木から足元に延びる紐を表現していると考えられる。なお、基台上面には、別に部材の剥れ痕を1か所確認できる。器財埴輪 136 は、135 の柱状脚部と製作方法や胎土、焼成具合が酷似することから同一個体と考えられる。破断面の両面に互い違いに円柱状の部材の剥れ痕を確認できる。

所見 時期は、墳形や埴輪が伴わないことから、6世紀末～7世紀初頭に推定される。

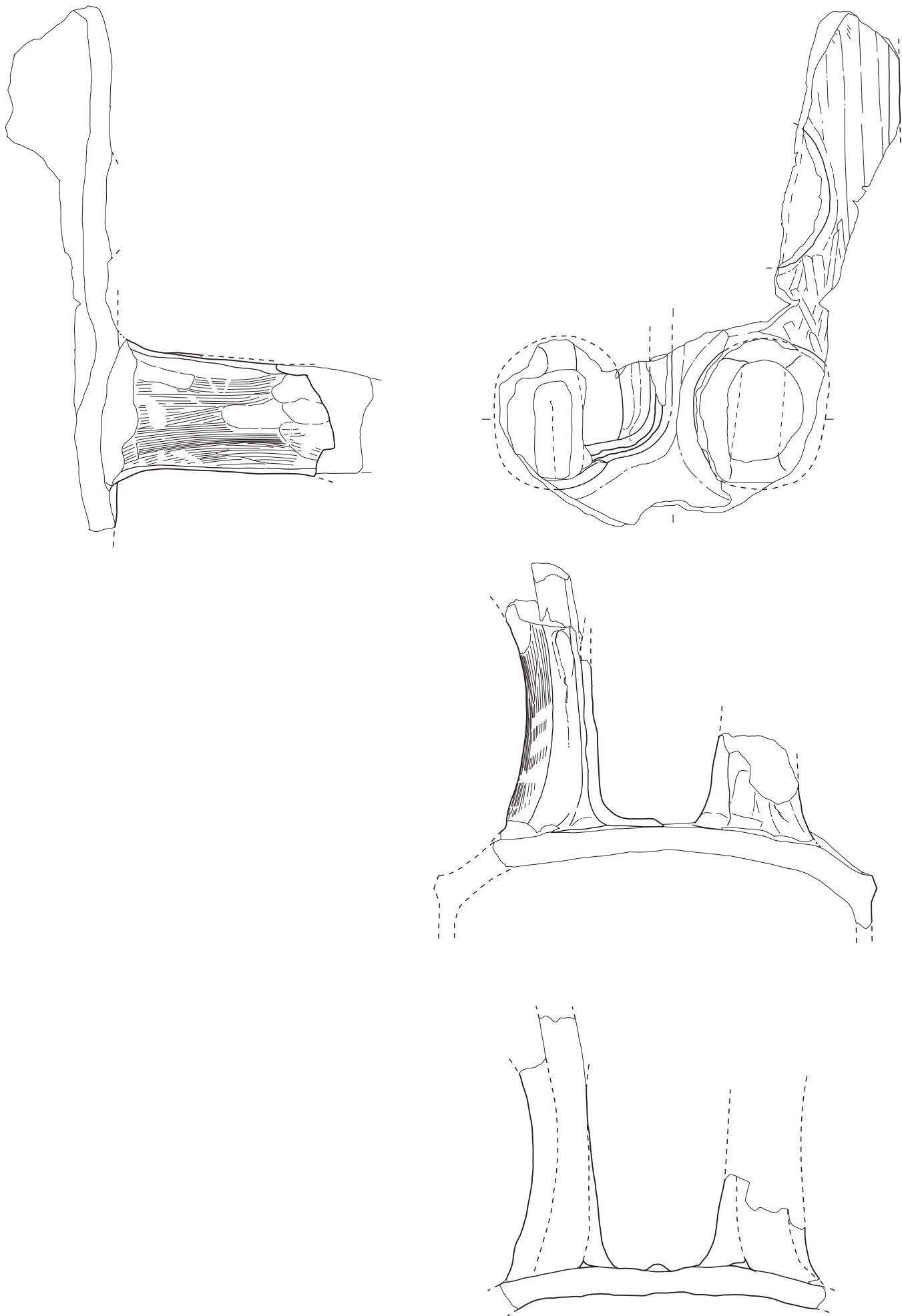
円筒埴輪



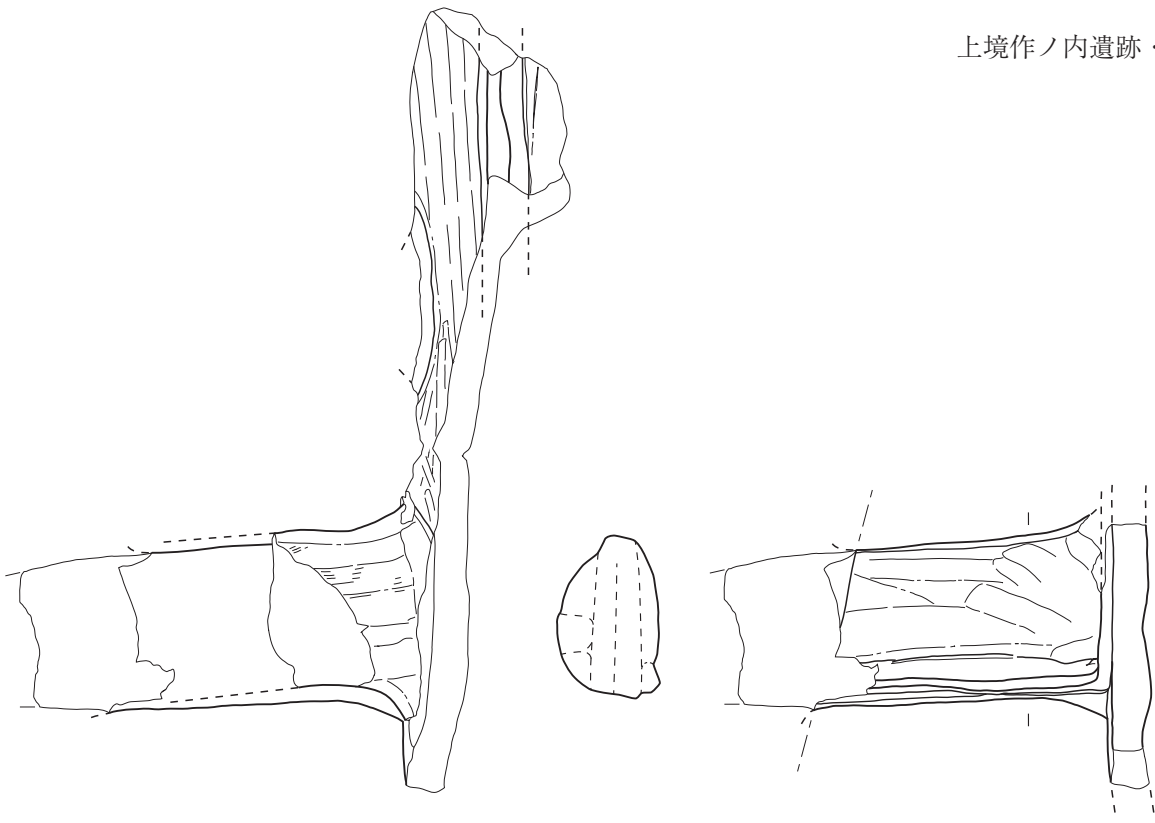
形象埴輪



第 121 図 第 1 号墳出土遺物実測図 (1)

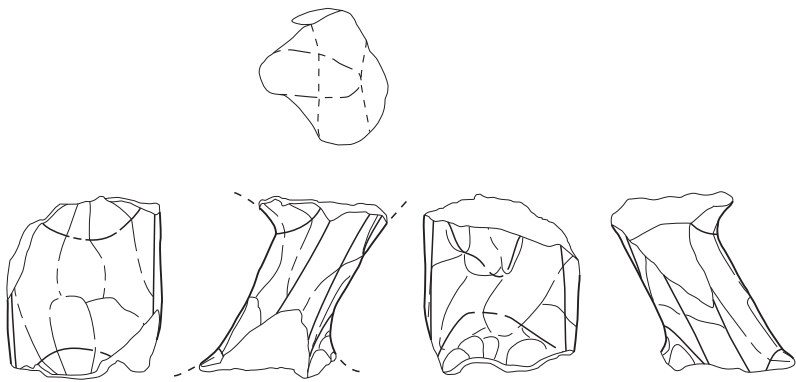


第 122 図 第 1 号墳出土遺物実測図 (2) 器財埴輪 (機織)

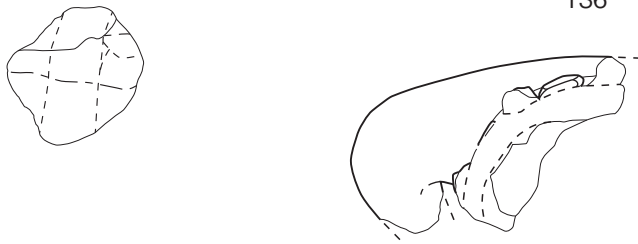


--- 貼付補強粘土端部の傾斜方向

135



136



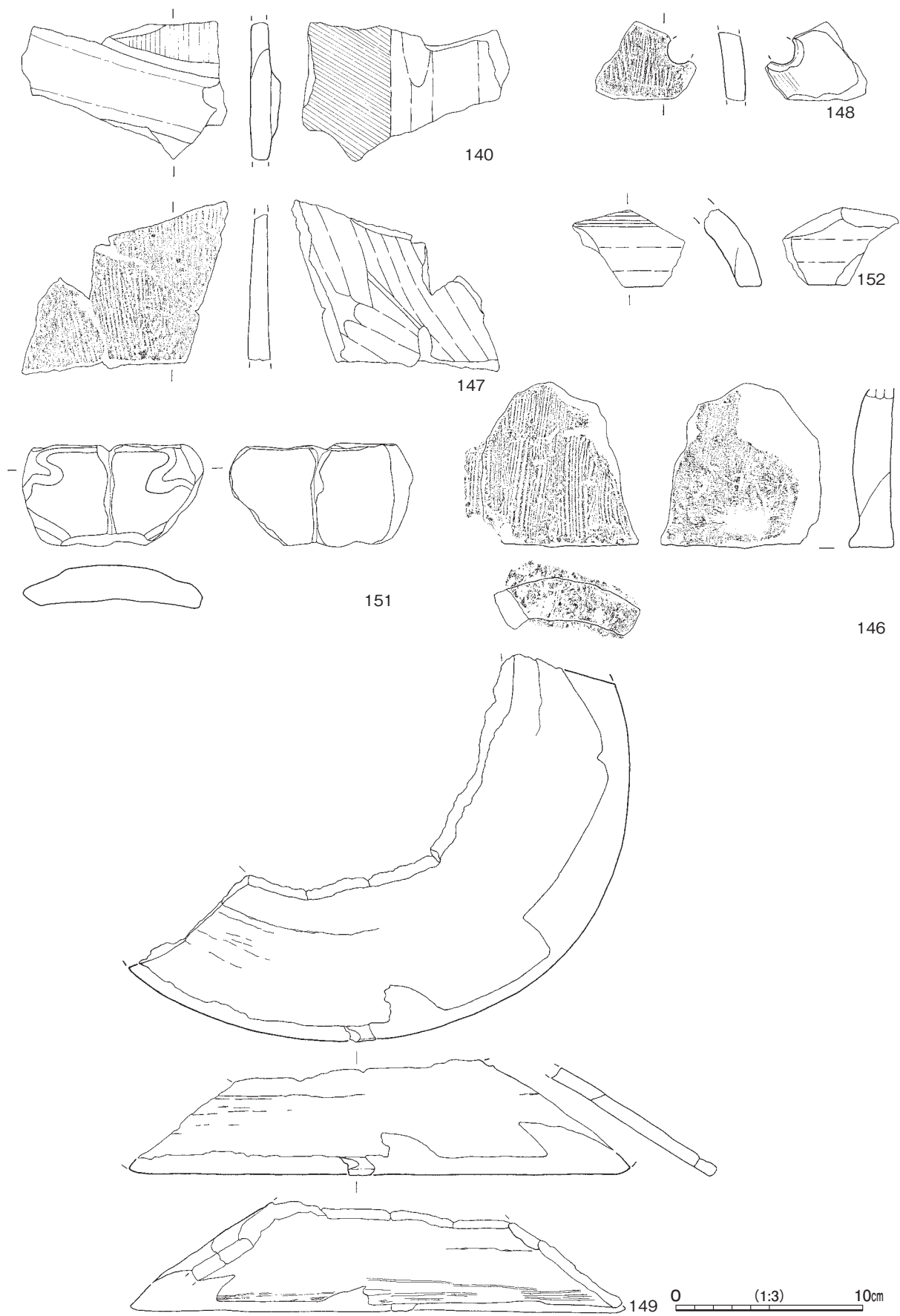
137

0 (1:4) 10cm

第 123 図 第 1 号墳出土遺物実測図 (3) 器財埴輪 (機織・人物)



第124図 第1号墳出土遺物実測図(4) 形象埴輪(馬形)



第 125 図 第 1 号墳出土遺物実測図 (5)

第 95 表 第 1 号墳出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	甕	[20.7]	(3.2)	—	長石・石英・雲母	5 YR5/4 にぶい赤褐	普通	口縁部のみ上げ ナデ	周溝覆土中	

第 96 表 第 1 号墳出土遺物一覧 (円筒埴輪)

番号	埴輪種類	長さ 幅厚さ	透孔径	突帯 断面	胎土	色調	焼成	調整・整形の特徴他	出土位置	備考
2	円筒突帯部	(3.3) (4.9) 0.8	—	台形 M字	白雲母 石英・長石 胎土②	5 YR5/6 明赤褐	普通	外面：一次調整タテハケ、二次調整ヨコナデ 内面：タテナデ	周溝 2 区	一覧のみ
3	円筒突帯部	(2.8) (3.8) 1.0	—	台形 M字	白雲母 石英・長石・赤色粒子 胎土②	5 YR5/6 明赤褐	普通	外面：二次調整ヨコナデ 内面：ナデ 突帯接着押圧痕	周溝 2 区	一覧のみ
4	円筒口縁部	(2.5) (3.2) 1.0	—	—	白雲母・黒雲母 石英・長石・花崗岩 胎土②	2.5 YR6/8 橙	普通	外面：ヨコハケ後口縁部ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ	周溝 3 区	一覧のみ
5	円筒口縁部	(3.2) (3.5) 1.0	—	—	白雲母・黒雲母 石英・長石・赤色粒子 胎土①	7.5 YR6/6 橙	普通	内外面ともに摩滅が著しく調整不明	周溝 3 区	一覧のみ
6	円筒突帯部	(3.6) (5.4) 0.9	—	三角	白雲母・黒雲母 石英・長石・赤色粒子 胎土①	5 YR5/4 にぶい赤褐	普通	外面：二次調整ヨコナデ 内面：タテナデ 突帯接着押圧痕	周溝 3 区	一覧のみ
7	円筒胴部	(5.3) (3.8) 1.2	—	—	白雲母・黒雲母 石英・長石・赤色粒子 胎土①	7.5 YR6/6 橙	普通	外面：タテハケ 内面：タテナデ 内外面ともに摩滅が著しい	周溝 3 区	一覧のみ
8	円筒胴部	(3.8) (4.8) 1.1	—	—	白雲母・黒雲母 石英・長石・花崗岩・赤色粒子 胎土①	5 YR5/6 明赤褐	普通	外面：タテハケ 内面：タテナデ	周溝 3 区	一覧のみ
9	円筒胴部	(3.6) (5.0) 0.9	—	—	白雲母・黒雲母 石英・長石・赤色粒子 胎土①	5 YR5/4 にぶい赤褐	普通	外面：タテハケ後ヨコナデ 内面：斜方向ハケ後タテナデ 外面の調整痕から突帯部の割れカ	周溝 3 区	一覧のみ
10	円筒胴部	(3.1) (4.5) 0.9	—	—	白雲母・黒雲母 石英・長石・赤色粒子 胎土①	2.5 YR6/6 橙	普通	外面：タテハケ 内面：タテナデ	周溝 3 区	一覧のみ
11	円筒底部	(4.8) (4.4) 1.4	—	—	白雲母・黒雲母 石英・長石 胎土②	5 YR5/6 明赤褐	普通	外面：タテハケ 内面：タテナデ 底部：未調整	周溝 3 区	PL43
12	円筒底部	(3.7) (3.8) 1.4	—	—	白雲母・黒雲母 石英・長石・花崗岩 胎土①	7.5 YR6/6 橙	普通	内外面ともに摩滅が著しく調整不明	周溝 3 区	一覧のみ
13	円筒突帯部	(2.4) (2.6) 0.7	—	台形 M字	白雲母 石英・長石 胎土①	7.5 YR5/6 明褐	普通	外面：二次調整ヨコナデ 内面：突帯接着押圧痕	周溝 4 区	一覧のみ
14	円筒口縁部	(4.2) (3.9) 1.0	—	—	白雲母 石英・長石・赤色粒子 胎土①	7.5 YR5/4 にぶい褐	普通	外面：タテハケ後口縁部ヨコハケ後ヨコナデ 内面：ヨコハケ後口縁部ヨコナデ	周溝 5 区	PL43
15	円筒口縁部	(3.4) (3.7) 1.0	—	—	白雲母・黒雲母 石英・長石・花崗岩・赤色粒子 胎土①	7.5 YR5/6 明褐	普通	外面：タテハケ後口縁部ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ 全体的に摩滅が著しい	周溝 5 区	一覧のみ
16	円筒口縁部	(2.9) (2.2) 0.9	—	—	白雲母 石英・長石・赤色粒子 胎土①	7.5 YR5/4 にぶい褐	普通	外面：タテハケ後口縁部ヨコナデ 内面：ヨコハケ後口縁部ヨコナデ	周溝 5 区	一覧のみ
17	円筒口縁部	(2.9) (3.0) 0.9	—	—	白雲母 石英・長石・赤色粒子 胎土①	7.5 YR6/6 橙	普通	外面：タテハケ後口縁部ヨコナデ 内面：ヨコハケ後口縁部ヨコナデ	周溝 5 区	一覧のみ
18	円筒口縁部	(3.1) (3.8) 0.9	—	—	白雲母・黒雲母 石英・長石・赤色粒子 胎土①	7.5 YR6/6 橙	普通	外面：タテハケ後口縁部ヨコナデ 内面：ヨコハケ後口縁部ヨコナデ	周溝 5 区	一覧のみ
19	円筒口縁部	(3.2) (3.5) 0.9	—	—	白雲母・黒雲母 石英・長石・花崗岩・細礫 胎土①	7.5 YR5/4 にぶい褐	普通	外面：タテハケ後口縁部ヨコナデ 内面：ヨコハケ後口縁部ヨコナデ 全体的に摩滅が著しい	周溝 5 区	一覧のみ
20	円筒口縁部	(3.4) (4.5) 0.8	—	—	白雲母・黒雲母 石英・長石・花崗岩・赤色粒子 胎土①	7.5 YR5/4 にぶい褐	普通	外面：タテハケ後口縁部ヨコナデ 内面：ヨコハケ後口縁部ヨコナデ 全体的に摩滅が著しい	周溝 5 区	一覧のみ
21	円筒口縁部	(4.1) (3.0) 0.9	—	—	白雲母 石英・長石 胎土①	7.5 YR5/6 明褐	普通	外面：タテハケ後口縁部ヨコナデ 内面：ヨコハケ後口縁部ヨコナデ	周溝 5 区	PL43
22	円筒口縁部	(3.0) (3.2) 0.8	—	—	白雲母 石英・長石・赤色粒子 胎土①	7.5 YR6/6 橙	普通	外面：口縁部ヨコナデ 内面：ヨコハケ後口縁部ヨコナデ	周溝 5 区	一覧のみ
23	円筒口縁部	(2.1) (2.5) 1.0	—	—	白雲母・黒雲母 石英・長石・花崗岩・赤色粒子 胎土①	7.5 YR5/4 にぶい褐	普通	外面：タテハケ後口縁部ヨコナデ 内面：ヨコハケ後口縁部ヨコナデ	周溝 5 区	一覧のみ
24	円筒透孔	(4.2) (6.0) 1.0	円形 (4.0)	—	白雲母・黒雲母 石英・長石・花崗岩・赤色粒子 胎土①	7.5 YR5/6 明褐	普通	外面：タテハケ 内面：斜方向ナデ後タテナデ	周溝 5 区	PL43
25	円筒透孔	(3.9) (4.0) 0.9	円形 (4.0)	—	白雲母・黒雲母 石英・長石・花崗岩・赤色粒子 胎土①	7.5 YR5/6 明褐	普通	外面：タテハケ 内面：ナデ	周溝 5 区	PL43
26	円筒透孔	(4.2) (2.7) 1.0	円形 (4.0)	—	白雲母 石英・長石・花崗岩 胎土①	7.5 YR5/4 にぶい褐	普通	外面：タテハケ後ヨコナデ 内面：タテナデ 外面の調整痕から突帯部での割れカ	周溝 5 区	一覧のみ
27	円筒透孔	(3.3) (4.4) 1.0	円形 (3.0)	—	白雲母・黒雲母 石英・長石・赤色粒子 胎土①	7.5 YR5/4 にぶい褐	普通	外面：タテハケ 内面：タテナデ	周溝 5 区	一覧のみ
28	円筒透孔	(4.3) (2.8) 1.0	(3.0)	—	白雲母・黒雲母 石英・長石・花崗岩・赤色粒子 胎土①	7.5 YR5/6 明褐	普通	外面：タテハケ 内面：タテナデ	周溝 5 区	一覧のみ
29	円筒透孔	(3.4) (3.7) 1.1	—	—	白雲母・黒雲母 石英・長石 胎土①	7.5 YR5/4 にぶい褐	普通	外面：タテハケ 内面：タテナデ	周溝 5 区	一覧のみ
30	円筒突帯部	(5.4) (4.6) 1.0	—	台形 M字	白雲母・黒雲母 石英・長石・花崗岩・赤色粒子 胎土①	5 YR5/4 にぶい赤褐	普通	外面：一次調整タテハケ、二次調整ヨコナデ 内面：突帯接着押圧痕 ナデ	周溝 5 区	PL43
31	円筒突帯部	(4.7) (4.3) 0.8	—	台形 M字	白雲母・黒雲母 石英・長石・花崗岩・赤色粒子 胎土①	7.5 YR5/6 明褐	普通	外面：一次調整タテハケ、二次調整ヨコナデ 内面：ナデ 突帯接着押圧痕	周溝 5 区	一覧のみ
32	円筒突帯部	(4.1) (4.1) 1.2	—	台形	白雲母・黒雲母 石英・長石・花崗岩・赤色粒子 胎土①	7.5 YR5/6 明褐	普通	外面：一次調整タテハケ、二次調整ヨコナデ 内面：ナデ	周溝 5 区	一覧のみ
33	円筒突帯部	(3.7) (4.2) 0.9	—	台形 M字	白雲母・黒雲母 石英・長石・赤色粒子 胎土①	7.5 YR5/6 明褐	普通	外面：一次調整タテハケ、二次調整ヨコナデ 内面：斜方向ハケ	周溝 5 区	一覧のみ

番号	埴輪種類	長さ 幅 厚さ	透孔径	突帯 断面	胎土	色調	焼成	調整・整形の特徴他	出土位置	備考
34	円筒 突帯部	(4.1) (4.0) 0.9	—	三角	白雲母・黒雲母 石英・長石・赤色粒子 胎土①	7.5YR6/6 橙	普通	外面：一次調整タテハケ、二次調整ヨコナデ 内面：ナデ 突帯接着押圧痕	周溝5区	一覧のみ
35	円筒 突帯部	(3.6) (2.9) 1.0	—	台形	白雲母・黒雲母 石英・長石・花崗岩・赤色粒子 胎土①	7.5YR5/6 明褐	普通	外面：一次調整タテハケ、二次調整ヨコナデ 内面：ナデ 突帯接着押圧痕	周溝5区	一覧のみ
36	円筒 突帯部	(3.9) (4.1) 1.0	—	台形	白雲母・黒雲母 石英・長石・花崗岩・赤色粒子 胎土①	7.5YR6/6 橙	普通	外面：一次調整タテハケ、二次調整ヨコナデ 内面：タテナデ	周溝5区	一覧のみ
37	円筒 透孔 突帯部	(5.6) (3.8) 0.9	—	台形	白雲母・黒雲母 石英・長石・花崗岩・赤色粒子 胎土①	7.5YR5/4 にぶい褐	普通	外面：一次調整タテハケ、二次調整ヨコナデ 内面：ナデ 突帯接着押圧痕	周溝5区	一覧のみ
38	円筒 突帯部	(3.3) (4.3) 0.8	—	台形 M字	白雲母・黒雲母 石英・長石・花崗岩・赤色粒子 胎土①	7.5YR6/6 橙	普通	外面：一次調整タテハケ、二次調整ヨコナデ 内面：ナデ	周溝5区	PL43
39	円筒 突帯部	(3.4) (4.6) 0.8	—	三角	白雲母 石英・長石・花崗岩 胎土①	7.5YR6/6 橙	普通	外面：二次調整ヨコナデ 内面：突帯接着押圧痕	周溝5区	一覧のみ
40	円筒 突帯部	(3.2) (4.0) 1.1	—	三角	白雲母・黒雲母 石英・長石・赤色粒子 胎土①	7.5YR5/6 明褐	普通	外面：二次調整ヨコナデ 内面：ナデ	周溝5区	一覧のみ
41	円筒 突帯部	(4.4) (4.0) 1.1	—	台形 M字	白雲母 石英・長石・赤色粒子 胎土①	7.5YR6/6 橙	普通	外面：一次調整タテハケ、二次調整ヨコナデ 内面：突帯接着押圧痕	周溝5区	一覧のみ
42	円筒 突帯部	(2.6) (4.1) 0.8	—	台形	白雲母 石英・長石 胎土①	7.5YR5/4 にぶい褐	普通	外面：一次調整タテハケ、二次調整ヨコナデ 内面：タテナデ	周溝5区	一覧のみ
43	円筒 突帯部	(4.4) (2.9) 1.0	—	台形	白雲母・黒雲母 石英・長石・赤色粒子 胎土①	7.5YR5/6 明褐	普通	外面：一次調整タテハケ、二次調整ヨコナデ 内面：ヨコナデ	周溝5区	一覧のみ
44	円筒 突帯部	(3.0) (3.4) 0.9	—	台形	白雲母・黒雲母 石英・長石・赤色粒子 胎土①	7.5YR6/6 橙	普通	外面：一次調整タテハケ、二次調整ヨコナデ 内面：タテナデ	周溝5区	一覧のみ
45	円筒 突帯部	(2.3) (2.9) 1.4	—	台形	白雲母・黒雲母 石英・長石・花崗岩・赤色粒子 胎土①	7.5YR5/6 明褐	普通	外面：一次調整タテハケ、二次調整ヨコナデ	周溝5区	一覧のみ
46	円筒 突帯部	(3.2) (2.5) 1.1	—	台形	白雲母・黒雲母 石英・長石・花崗岩・赤色粒子 胎土①	7.5YR5/6 明褐	普通	外面：一次調整タテハケ、二次調整ヨコナデ 内面：タテナデ	周溝5区	一覧のみ
47	円筒 突帯部	(3.0) (4.5) 0.9 - 1.2	—	台形	白雲母 石英・長石・赤色粒子 胎土①	7.5YR5/4 にぶい褐	普通	外面：一次調整タテハケ、二次調整ヨコナデ 内面：斜方向指ナデ、突帯接着押圧痕	周溝5区	一覧のみ
48	円筒 突帯部	(4.8) (3.5) 1.1	—	台形 M字	白雲母・黒雲母 石英・長石・赤色粒子 胎土①	7.5YR5/6 明褐	普通	外面：一次調整タテハケ、二次調整ヨコナデ 内面：ナデ 突帯接着押圧痕	周溝5区	一覧のみ
49	円筒 突帯部	(2.8) (3.9) 0.9	—	台形	白雲母・黒雲母 石英・長石・花崗岩・赤色粒子 胎土①	7.5YR5/4 にぶい褐	普通	外面：二次調整ヨコナデ 内面：突帯接着押圧痕	周溝5区	一覧のみ
50	円筒 透孔 突帯部	(3.7) (3.9) 0.7	円形 (4.0)	台形 M字	白雲母・黒雲母 石英・長石 胎土①	7.5YR5/4 にぶい褐	普通	外面：一次調整タテハケ、二次調整ヨコナデ 内面：タテナデ 突帯接着押圧痕	周溝5区	一覧のみ
51	円筒 突帯部	(4.9) (4.6) 1.1	—	台形	白雲母・黒雲母 石英・長石・花崗岩・赤色粒子 胎土①	7.5YR5/6 明褐	普通	外面：一次調整タテハケ、二次調整ヨコナデ 内面：ナデ 突帯接着押圧痕	周溝5区	一覧のみ
52	円筒 突帯部	(3.8) (2.7) 1.0	—	台形	白雲母・黒雲母 石英・長石・花崗岩・赤色粒子 胎土①	7.5YR5/4 にぶい褐	普通	外面：一次調整タテハケ、二次調整ヨコナデ 内面：ナデ	周溝5区	一覧のみ
53	円筒 突帯部	(2.2) (4.0) 0.9	—	台形 M字	白雲母 石英・長石 胎土①	7.5YR6/6 橙	普通	外面：二次調整ヨコナデ 内面：タテナデ	周溝5区	一覧のみ
54	円筒 突帯部	(3.2) (3.9) 1.0	—	台形	白雲母・黒雲母 石英・長石 胎土①	7.5YR5/4 にぶい褐	普通	外面：一次調整タテハケ、二次調整ヨコナデ 内面：ナデ 突帯接着押圧痕	周溝5区	一覧のみ
55	円筒 突帯部	(4.3) (3.9) 0.9	—	台形	白雲母 石英・長石 胎土①	7.5YR5/6 明褐	普通	外面：一次調整タテハケ、二次調整ヨコナデ 内面：ナデ 突帯接着押圧痕	周溝5区	一覧のみ
56	円筒 突帯部	(3.1) (4.0) 0.8	—	台形	白雲母 石英・長石 胎土①	7.5YR5/4 にぶい褐	普通	外面：一次調整タテハケ、二次調整ヨコナデ 内面：タテナデ	周溝5区	一覧のみ
57	円筒 突帯部	(3.5) (3.4) 1.2	—	—	白雲母 石英・長石 胎土①	7.5YR5/4 にぶい褐	普通	内外面ともに摩滅が著しく調整不明	周溝5区	一覧のみ
58	円筒 突帯部	(4.5) (2.4) 1.0	—	台形	白雲母 石英・長石 胎土①	7.5YR5/6 明褐	普通	外面：二次調整ヨコナデ	周溝5区	一覧のみ
59	円筒 突帯部	(3.5) (3.1) 1.1	—	台形	白雲母 石英・長石 胎土①	7.5YR5/6 明褐	普通	内外面ともに摩滅が著しく調整不明	周溝5区	一覧のみ
60	円筒 突帯部	(3.9) (3.4) 1.1	—	台形	白雲母 石英・長石・赤色粒子 胎土①	7.5YR6/6 橙	普通	外面：二次調整ヨコナデ 内面：斜方向ハケ後ナデ 突帯接着押圧痕	周溝5区	一覧のみ
61	円筒 突帯部	(2.9) (2.7) 1.2	—	台形	白雲母 石英・長石・花崗岩 胎土①	7.5YR5/6 明褐	普通	外面：二次調整ヨコナデ 内面：ナデ	周溝5区	一覧のみ
62	円筒 突帯部	(3.2) (3.9) 1.1	—	台形	白雲母・黒雲母 石英・長石・花崗岩・赤色粒子 胎土①	7.5YR5/4 にぶい褐	普通	外面：二次調整ヨコナデ 内面：突帯接着押圧痕	周溝5区	一覧のみ
63	円筒 突帯部	(3.5) (4.1) 1.1	—	—	白雲母・黒雲母 石英・長石・赤色粒子 胎土①	7.5YR6/6 橙	普通	内外面ともに摩滅が著しく調整不明	周溝5区	一覧のみ
64	円筒 突帯部	(5.1) (2.9) 1.1	—	—	白雲母・黒雲母 石英・長石・花崗岩・赤色粒子 胎土①	7.5YR6/6 橙	普通	外面：タテナデ後ヨコナデ 内面：ナデ 突帯接着押圧痕 外面の調整痕から突帯部の割れカ	周溝5区	一覧のみ
65	円筒 突帯部	(6.4) (4.5) 1.3	—	台形	白雲母・黒雲母 石英・長石・花崗岩・赤色粒子 胎土②	2.5YR5/8 明赤褐	普通	外面：一次調整タテハケ、二次調整ヨコナデ 内面：突帯接着押圧痕 斜方向ハケ後ナデ	周溝5区	PL43
66	円筒 胴部	(5.8) (4.8) 1.2	—	—	白雲母・黒雲母 石英・長石・赤色粒子 胎土①	7.5YR6/6 橙	普通	外面：タテナデ 内面：タテナデ	周溝5区	一覧のみ
67	円筒 胴部	(4.4) (5.0) 1.2	—	—	白雲母・黒雲母 石英・長石・赤色粒子 胎土①	5YR5/6 明赤褐	普通	外面：タテナデ 内面：タテナデ	周溝5区	一覧のみ

番号	増輪種類	長さ 幅厚さ	透孔径	突帯 断面	胎土	色調	焼成	調整・整形の特徴他	出土位置	備考
68	円筒 胴部	(3.5) (4.5) 1.1	—	—	白雲母・黒雲母 石英・長石・花崗岩・赤色粒子 胎土①	7.5YR5/6 明褐	普通	外面：タテハケ後上部ヨコナデ 内面：ヨコハケ	周溝5区	PL43
69	円筒 胴部	(3.3) (3.8) 0.8	—	—	白雲母・黒雲母 石英・長石 胎土①	7.5YR5/8 明褐	普通	外面：タテハケ 内面：タテナデ	周溝5区	一覧のみ
70	円筒 透孔 胴部	(2.4) (4.7) 0.9	円形	—	白雲母・黒雲母 石英・長石・花崗岩 胎土①	7.5YR5/4 にぶい褐	普通	外面：タテハケ 内面：タテナデ	周溝5区	一覧のみ
71	円筒 胴部	(3.5) (2.7) 0.9	—	—	白雲母・黒雲母 石英・長石・花崗岩・赤色粒子 胎土①	7.5YR5/4	普通	外面：タテハケ 内面：斜方向ハケ	周溝5区	一覧のみ
72	円筒 胴部	(2.4) (2.6) 1.1	—	—	白雲母・黒雲母 石英・長石 胎土①	7.5YR5/4 にぶい褐	普通	外面：タテハケ 内面：ナデ	周溝5区	一覧のみ
73	円筒 胴部	(2.2) (3.7) 1.2	—	—	白雲母 石英・長石 胎土②	5 YR6/8 橙	普通	外面：タテハケ 内面：斜方向ハケ	周溝5区	一覧のみ
74	円筒 胴部	(3.9) (2.8) 1.0	—	—	白雲母・黒雲母 石英・長石・花崗岩 胎土①	7.5YR5/4 にぶい褐	普通	外面：斜方向ハケ 内面：ヨコハケ	周溝5区	一覧のみ
75	円筒 胴部	(3.6) (4.4) 0.8	—	—	白雲母・黒雲母 石英・長石・赤色粒子 胎土①	7.5YR5/4 にぶい褐	普通	外面：タテハケ 内面：一部斜方向ハケ	周溝5区	一覧のみ
76	円筒 胴部	(3.7) (3.8) 1.0	—	—	白雲母・黒雲母 石英・長石 胎土①	7.5YR5/4 にぶい褐	普通	外面：タテハケ 内面：タテナデ	周溝5区	一覧のみ
77	円筒 胴部	(4.7) (4.0) 1.2	—	—	白雲母・黒雲母 石英・長石・花崗岩・赤色粒子 胎土①	5 YR5/6 明赤褐	普通	外面：タテハケ 内面：タテナデ	周溝5区	一覧のみ
78	円筒 胴部	(4.4) (4.6) 0.9	—	—	白雲母・黒雲母 石英・長石・花崗岩・赤色粒子 胎土①	7.5YR5/4 にぶい褐	普通	外面：タテハケ 内面：タテナデ	周溝5区	一覧のみ
79	円筒 胴部	(3.7) (5.0) 1.0	—	—	白雲母・黒雲母 石英・長石・赤色粒子 胎土①	7.5YR5/4 にぶい褐	普通	外面：タテハケ後ヨコナデ 内面：タテナデ	周溝5区	一覧のみ
80	円筒 胴部	(4.0) (5.3) 1.0	—	—	白雲母・黒雲母 石英・長石 胎土①	7.5YR5/4 にぶい褐	普通	外面：タテハケ 内面：タテナデ	周溝5区	一覧のみ
81	円筒 胴部	(3.0) (2.6) 1.2	—	—	白雲母 石英・長石 胎土②	5 YR6/8 橙	普通	外面：タテハケ 内面：斜方向ハケ 外面摩滅が著しい	周溝5区	一覧のみ
82	円筒 胴部	(3.7) (6.3) 1.2	—	—	白雲母 石英・長石 胎土①	7.5YR5/4 にぶい褐	普通	外面：タテハケ 内面：タテナデ	周溝5区	一覧のみ
83	円筒 胴部	(4.7) (2.9) 1.2	—	—	白雲母・黒雲母 石英・長石・花崗岩 胎土①	7.5YR5/6 明褐	普通	外面：タテハケ 内面：タテナデ	周溝5区	一覧のみ
84	円筒 胴部	(3.9) (4.3) 1.0	—	—	白雲母・黒雲母 石英・長石・赤色粒子 胎土①	7.5YR5/6 明褐	普通	外面：タテハケ 内面：タテナデ	周溝5区	一覧のみ
85	円筒 胴部	(3.0) (6.2) 1.1	—	—	白雲母・黒雲母 石英・長石・赤色粒子 胎土①	7.5YR5/4 にぶい褐	普通	外面：タテハケ 内面：タテナデ	周溝5区	一覧のみ
86	円筒 胴部	(5.2) (5.2) 1.1	—	—	白雲母・黒雲母 石英・長石・花崗岩 胎土①	7.5YR5/4 にぶい褐	普通	外面：タテハケ 内面：タテナデ	周溝5区	一覧のみ
87	円筒 胴部	(4.1) (3.7) 1.2	—	—	白雲母 石英・長石 胎土①	7.5YR5/6 明褐	普通	外面：タテハケ後ヨコナデ 内面：タテナデ 外面の調整痕から突帯部での割れカ	周溝5区	一覧のみ
88	円筒 胴部	(4.5) (3.2) 0.8	—	—	白雲母 石英・長石 胎土①	7.5YR5/4 にぶい褐	普通	外面：タテハケ後ヨコナデ 内面：ヨコハケ	周溝5区	一覧のみ
89	円筒 胴部	(3.2) (3.0) 0.9	—	—	白雲母 石英・長石 胎土①	7.5YR5/6 明褐	普通	外面：タテハケ 内面：ヨコハケ	周溝5区	一覧のみ
90	円筒 胴部	(3.0) (3.8) 1.1	—	—	白雲母 石英・長石 胎土①	7.5YR5/4 にぶい褐	普通	外面：タテハケ 内面：タテナデ	周溝5区	一覧のみ
91	円筒 胴部	(3.3) (4.9) 0.9	—	—	白雲母 石英・長石 胎土①	7.5YR5/4 にぶい褐	普通	外面：タテハケ 内面：タテナデ	周溝5区	一覧のみ
92	円筒 胴部	(1.9) (2.0) 0.8	—	—	白雲母 石英・長石 胎土①	7.5YR5/4 にぶい褐	普通	外面：タテハケ 内面：ヨコハケ 線刻	周溝5区	一覧のみ
93	円筒 胴部	(3.3) (3.7) 0.9	—	—	白雲母 石英・長石 胎土①	7.5YR5/6 明褐	普通	外面：タテハケ 内面：タテナデ	周溝5区	一覧のみ
94	円筒 胴部	(2.6) (4.2) 1.4	—	—	白雲母 石英・長石・赤色粒子 胎土①	7.5YR5/4 にぶい褐	普通	外面：タテハケ後ヨコナデ 内面：タテナデ	周溝5区	一覧のみ
95	円筒 胴部	(3.3) (3.2) 1.0	—	—	白雲母 石英・長石 胎土①	7.5YR5/4 にぶい褐	普通	外面：タテハケ 内面：タテナデ	周溝5区	一覧のみ
96	円筒 胴部	(3.0) (3.1) 0.9	—	—	白雲母 石英・長石 胎土①	7.5YR5/4 にぶい褐	普通	外面：タテハケ後ヨコナデ 内面：タテナデ	周溝5区	一覧のみ
97	円筒 胴部	(3.3) (3.4) 0.8	—	—	白雲母 石英・長石・花崗岩 胎土①	7.5YR5/4 にぶい褐	普通	外面：タテハケ 内面：タテナデ	周溝5区	一覧のみ
98	円筒 胴部	(3.8) (3.4) 1.1	—	—	白雲母 石英・長石・赤色粒子 胎土①	7.5YR5/4 にぶい褐	普通	外面：タテハケ後ヨコナデ 内面：タテナデ	周溝5区	一覧のみ
99	円筒 胴部	(3.6) (3.4) 0.7	—	—	白雲母 石英・長石 胎土①	7.5YR5/4 にぶい褐	普通	外面：タテハケ 内面：タテナデ	周溝5区	一覧のみ
100	円筒 胴部	(2.8) (3.7) 1.0	—	—	白雲母 石英・長石・花崗岩 胎土①	7.5YR5/4 にぶい褐	普通	外面：タテハケ 内面：タテナデ	周溝5区	一覧のみ
101	円筒 胴部	(3.1) (3.8) 1.1	—	—	白雲母・黒雲母 石英・長石 胎土①	7.5YR5/4 にぶい褐	普通	外面：タテハケ 内面：タテナデ	周溝5区	一覧のみ

番号	埴輪種類	長さ 幅 厚さ	透孔径	突帯 断面	胎土	色調	焼成	調整・整形の特徴他	出土位置	備考
102	円筒 胴部	(47) (38) 1.0	—	—	白雲母・長石 胎土①	7.5YR5/4 にぶい褐	普通	外面：タテハケ後ヨコナデ 内面：タテナデ	周溝5区	一覧のみ
103	円筒 胴部	(28) (26) 1.0	—	—	白雲母・長石 胎土①	7.5YR5/4 にぶい褐	普通	外面：タテハケ 内面：タテナデ	周溝5区	一覧のみ
104	円筒 胴部	(31) (32) 1.1	—	—	白雲母・黒雲母 石英・長石 胎土①	7.5YR5/6 明褐	普通	外面：タテハケ 内面：タテナデ	周溝5区	一覧のみ
105	円筒 胴部	(36) (38) 0.8	—	—	白雲母 石英・長石 胎土①	7.5YR5/4 にぶい褐	普通	外面：タテハケ 内面：斜方向ハケ	周溝5区	一覧のみ
106	円筒 胴部	(28) (41) 1.0	—	—	白雲母・黒雲母 石英・長石・花崗岩 胎土①	7.5YR5/4 にぶい褐	普通	外面：タテハケ 内面：タテナデ	周溝5区	一覧のみ
107	円筒 胴部	(37) (44) 1.0	—	—	白雲母・黒雲母 石英・長石・花崗岩 胎土①	7.5YR5/4 にぶい褐	普通	外面：タテハケ 内面：タテナデ	周溝5区	一覧のみ
108	円筒 胴部	(46) (37) 0.9	—	—	白雲母 石英・長石 胎土①	7.5YR5/4 にぶい褐	普通	外面：タテハケ 内面：タテナデ	周溝5区	一覧のみ
109	円筒 底部	(76) (47) 1.2	—	—	白雲母・黒雲母 石英・長石・花崗岩・赤色粒子 胎土③	7.5YR6/4 にぶい橙	普通	外面：タテハケ 内面：タテナデ 底部：径10.0cm程度 未調整 荷重による歪み	周溝5区	PL43
110	円筒 底部	(34) (39) 1.1	—	—	白雲母・黒雲母 石英・長石・花崗岩・赤色粒子 胎土①	5 YR6/6 橙	普通	外面：タテハケ 内面：ナデ 底部：未調整 荷重による歪み	周溝5区	一覧のみ
111	円筒 口縁部	(21) (21) 0.9	—	—	白雲母・黒雲母 石英・長石 胎土①	5 YR5/4 にぶい赤褐	普通	外面：タテハケ後口縁部ヨコナデ 内面：ヨコハケ後口縁部ヨコナデ	周溝6区	一覧のみ
112	円筒 突帯部	(45) (35) 1.2	—	台形	白雲母・黒雲母 石英・長石・花崗岩・赤色粒子 胎土①	5 YR5/6 明赤褐	普通	外面：一次調整タテハケ 二次調整ヨコナデ 内面：タテナデ 突帯接着押圧痕	周溝6区	一覧のみ
113	円筒 突帯部	(33) (42) 1.1	—	台形	白雲母・黒雲母 石英・長石・花崗岩・赤色粒子 胎土①	5 YR5/6 明赤褐	普通	外面：一次調整タテハケ 二次調整ヨコナデ 内面：斜方向ハケ 突帯接着押圧痕	周溝6区	一覧のみ
114	円筒 突帯部	(35) (28) 1.0	—	台形	白雲母・黒雲母 石英・長石・赤色粒子 胎土①	7.5YR5/4 にぶい褐	普通	外面：一次調整タテハケ 二次調整ヨコナデ 内面：ナデ 突帯接着押圧痕	周溝6区	一覧のみ
115	円筒 突帯部	(40) (38) 1.2	—	台形	白雲母・黒雲母 石英・長石・赤色粒子 胎土①	7.5YR5/6 明褐	普通	外面：二次調整ヨコナデ 内面：ナデ 突帯接着押圧痕	周溝6区	一覧のみ
116	円筒 突帯部	(30) (29) 1.0	—	台形	白雲母・黒雲母 石英・長石・花崗岩・赤色粒子 胎土①	7.5YR5/4 にぶい褐	普通	内外面ともに摩滅が著しく調整不明	周溝6区	一覧のみ
117	円筒 突帯部	(32) (27) 1.0	—	台形	白雲母・黒雲母 石英・長石・花崗岩 胎土①	7.5YR5/4 にぶい褐	普通	外面：二次調整ヨコナデ 内面：摩滅が著しい	周溝6区	一覧のみ
118	円筒 突帯部	(23) (33) 1.2	—	台形	白雲母 石英・長石・赤色粒子 胎土②	2.5YR6/8 橙	普通	内外面ともに摩滅が著しく調整不明	周溝6区	一覧のみ
119	円筒 胴部	(47) (63) 1.0	—	台形	白雲母・黒雲母 石英・長石・赤色粒子 胎土③	7.5YR5/4 にぶい褐	普通	外面：一次調整タテハケ 二次調整ヨコナデ 内面：ヨコハケ後タテナデ 押圧痕 内面に押圧痕があることから突帯部での割れカ	周溝6区	PL43
120	円筒 胴部	(29) (27) 1.0	—	—	白雲母 石英・長石 胎土①	7.5YR6/6 橙	普通	内外面ともに摩滅が著しく調整不明	周溝6区	一覧のみ
121	円筒 胴部	(41) (25) 0.9	—	—	白雲母 石英・長石 胎土①	7.5YR5/4 にぶい褐	普通	外面：タテハケ 内面：ナデ	周溝6区	一覧のみ
122	円筒 胴部	(27) (33) 0.9	—	—	白雲母・黒雲母 石英・長石 胎土①	7.5YR5/4 にぶい褐	普通	外面：タテハケ後ヨコナデ 内面：ヨコハケ	周溝6区	一覧のみ
123	円筒 胴部	(33) (37) 1.1	—	—	白雲母・黒雲母 石英・長石 胎土①	7.5YR5/4 にぶい褐	普通	内外面ともに摩滅が著しく調整不明	周溝6区	一覧のみ
124	円筒 胴部	(29) (28) 1.2	—	—	白雲母 石英・長石 胎土②	2.5YR6/8 橙	普通	外面：ハケ 内面：摩滅が著しい	周溝6区	一覧のみ
125	円筒 口縁部	(40) (41) 1.2	—	—	白雲母・黒雲母 石英・長石・花崗岩 胎土①	5 YR5/4 にぶい赤褐	普通	外面：一次調整タテハケ 二次調整ヨコナデ 内面：ヨコハケ後口縁部ヨコナデ	周溝7区	一覧のみ
126	円筒 突帯部	(32) (30) 0.9	—	台形 M字	白雲母・黒雲母 石英・長石 胎土①	7.5YR5/4 にぶい褐	普通	外面：二次調整ヨコナデ 内面：突帯接着押圧痕 全体的に摩滅が著しい	周溝7区	一覧のみ
127	円筒 胴部	(41) (25) 1.0	—	—	白雲母・黒雲母 石英・長石・花崗岩 胎土①	7.5YR5/4 にぶい褐	普通	外面：タテハケ 内面：斜方向ハケ	周溝1区	一覧のみ

第97表 第1号墳出土遺物一覧（形象埴輪）

番号	埴輪種類	長さ 幅 厚さ	胎土	色調	焼成	調整・整形の特徴他	出土位置	備考
128	形象 不明	(36) (89) 0.7~1.6	石英・赤色粒子・白色粒子 胎土①	7.5YR6/6 橙	良好	馬具の雲珠カ ラツパ状に広がり中央部に棒状のものを差し込んだカ 中央部剥離 ハケ調整を行った部品を接合したため凸状のハケ目がインプリントされた 外面：縁にヨコナデ 一部赤彩 内面：ヨコハケ ハケ：2cm以内11本 幅2mm	周溝1区	PL44
129	形象 人物カ (女性頭部)	(71) (72) (42)	白雲母・黒雲母 石英・長石・花崗岩・赤色粒子・炭化物 胎土④	7.5YR5/6 明褐	普通	円筒状の基部に装飾部を貼り付け 前面の調整が非常に丁寧 外面：タテハケ後丁寧なヨコナデ後斜方向沈線による表現 剥離面の基部にタテハケ 内面：装飾部接着押圧痕	周溝1区	PL44
130	形象 不明	(23) (44) 2.3	白雲母・黒雲母 石英・長石・花崗岩・赤色粒子・炭化物 胎土④	7.5YR5/6 明褐	普通	指ナデ 一部剥離カ 胎土から形象埴輪の馬形と同一個体と考えられる	周溝1区	一覧のみ
131	形象 不明	(48) (37) 1.1	石英・長石 胎土①	7.5YR7/6 橙	良好	内外面ともにナデ 胎土から149と同一個体と考えられる	周溝1区	一覧のみ
132	形象 不明	(39) (25) 0.7	白雲母・黒雲母 石英・長石 胎土①	7.5YR5/6 明褐	普通	内外面ともにナデ 胎土から形象埴輪と考えられる	周溝1区	一覧のみ

番号	増輪種類	長さ幅厚さ	胎土	色調	焼成	調整・整形の特徴他	出土位置	備考
133	形象馬形耳カ	(2.5) (3.2) 1.0	白雲母・黒雲母 石英・長石・花崗岩・赤色粒子・炭化物 胎土④	7.5YR7/4 にぶい橙	普通	外面：ナデ 内面：ナデ 孔径1cmの筒状 出土位置や胎土から馬形と同一個体であり耳と考えられる	周溝2区	一覧のみ
134	形象不明	(1.7) (2.2) 1.2	白雲母・黒雲母 石英・長石・赤色粒子 胎土①	7.5YR7/4 にぶい橙	普通	外面：ハケ 内面：ナデ	周溝2区	一覧のみ
135	器財機織カ	(30.4) (17.6) 1.5	白雲母・黒雲母 石英・長石・花崗岩・赤色粒子・炭化物 胎土④	7.5YR5/3 にぶい褐	普通	台座外面：脚部剥離面でハケ目 表面はヨコナデ 台座内面：脚部下では左右方向へのナデ 側面では前後方向へのナデ 機脚 左：2.0×6.0×(14.0)cm板状の芯材を使用 芯材にタテハケ 芯材に装飾を施す 装飾面はタテハケ 上部は指ナデ指頭圧痕有り 脚内側に上部から下部、台座正面から背面にかけて足紐を表現 脚部 右：残存部は台座との接地面のわずかだが脚部(左)と同じく芯材を使用 脚部(右)から4.2cm背面側に剥離面	周溝3区	PL46 PL47
136	器財機織カ	(6.9) (6.2) (3.2)	白雲母・黒雲母 石英・長石・花崗岩・赤色粒子・炭化物 胎土④	7.5YR5/3 にぶい褐	普通	上下剥離面 長軸方向と交差するように棒状のものが貼り付けられていた痕 外面：ナデ 剥離面から機織脚部と同様の芯材(1.5×4.0×7.0)を使用 形状：胎土から機織と同一個体と考えられる	周溝3区	PL46
137	器財人物(女性)	(13.7) (7.4) 1.3	白雲母・黒雲母 石英・長石・花崗岩・赤色粒子・炭化物 胎土④	7.5YR5/4 にぶい褐	普通	外面：一次タテハケ後首飾りを貼り付けヨコナデ 腕部：ナデ 胴部穿孔に差し込まれ内面凸部はナデ調整 内面：ヨコナデ後指ナデ 大きざや胎土から機織に付属する織姫カ	周溝3区	PL47
138	形象馬形	(36.9) (21.8) 8.7	白雲母・黒雲母 石英・長石・花崗岩・赤色粒子・炭化物 胎土④	7.5YR5/4 にぶい褐	普通	頭部耳から鞍前輪までが残存 外面：タテハケ後ヨコナデ 面繋・手綱・鞍前輪を貼り付け後ナデ 前輪斜方向ハケ後ヨコナデ 内面：ナデ 耳部孔有り ハケ：1.7cmに7本 幅2mmの粗いものと幅1mmの細かいものと2種類を使用	周溝3区	PL45
139	形象馬形引手カ	(6.1) (6.0) (1.5)	白雲母・黒雲母 石英・長石・赤色粒子・炭化物 胎土④	7.5YR5/4 にぶい褐	普通	馬体部に馬具引手を表現 外面：体部ヨコハケ施文後引手を貼り付け 引手端部に剥離痕 内面：ヨコナデ調整後引手接着押圧痕 出土位置や胎土から1と同一個体と考えられる	周溝3区	PL45
140	形象馬形馬具革帯カ	(7.4) (11.0) 0.8～1.4	白雲母・黒雲母 石英・長石・赤色粒子・炭化物 胎土④	7.5YR5/6 明褐 外面がやや明るい	普通	馬体部に台形状に馬具革帯を表現 外面：体部ヨコハケ施文後帯部を貼り付け中央に向けナデ後両縁をヨコナデで整形 内面：斜方向ハケ後指ナデ ハケ：2cm以内に12～15本 幅2mm前後 外・内面ともに同じ工具を使用か 出土位置や胎土から1と同一個体と考えられる	周溝3区 表採	PL45
141	形象不明	(3.9) (2.4) 1.4	白雲母・黒雲母 石英・長石・赤色粒子・炭化物 胎土④	7.5YR5/6 明褐	普通	外面：ハケ 内面：ナデ 出土位置や胎土から形象増輪と考えられ馬形と同一個体カ	周溝3区	一覧のみ
142	形象不明	(4.3) (3.9) 0.5～1.2	白雲母・黒雲母 石英・長石・赤色粒子・炭化物 胎土④	7.5YR5/4 にぶい褐	普通	三角の突起状のものを薄く表現 剥れ痕有 外面：剥離面にハケ目 側面にヨコナデ 内面：ヨコナデ	周溝3区	PL44
143	形象不明	(2.1) (3.0) 1.3～1.5	白雲母・黒雲母 石英・炭化物 胎土④	7.5YR5/6 明褐	普通	外面：タテハケ 内面：側面からの指ナデ 底部：未調整 ハケ：1cm内に6本 幅2mm	周溝3区	PL44
144	形象不明	(3.3) (4.9) 0.9	白雲母 石英・長石 胎土①	2.5YR5/6 明赤褐	普通	外面：口縁部ヨコナデ 三角上の突帯貼付けヨコナデ調整 内面：口縁部内側へ指ナデ 横への指ナデ 突帯接着押圧痕	周溝3区	PL44
145	形象不明	(4.1) (5.0) 1.3	白雲母・黒雲母 石英・長石・赤色粒子・炭化物 胎土④	5 YR5/4 にぶい赤褐	普通	外面：ハケ 内面：ナデ 出土位置や胎土から形象増輪と考えられる	周溝3区	一覧のみ
146	形象不明	(8.6) (8.4) 2.0～2.4	白雲母 石英・長石・花崗岩・赤色粒子・炭化物 胎土④	5 YR5/6 明赤褐	普通	外面：タテハケ 内面：一時調整斜ハケ、2次調整ナデ 底部：未調整 荷重による歪み 胎土から形象増輪と考えられる	周溝3区	PL44
147	形象不明	(9.2) (11.0) 1.1	白雲母 長石・石英・花崗岩・赤色粒子・炭化物 胎土④	2.5YR5/4 にぶい赤褐	普通	外面：タテハケ 内面：タテナデ 胎土から形象増輪と考えられる	周溝4区	PL44
148	形象不明	(4.2) (5.4) 1.2	白雲母・黒雲母 長石・石英・花崗岩・赤色粒子・炭化物 胎土④	5YR5/6 明赤褐	普通	外面：タテハケ 内面：タテナデ 外面から内面へ穿孔(孔径12mm) 胎土から形象増輪と考えられる	周溝5区	PL44
149	形象人物衣カ	(8.3) (34.1) (1.1)	石英・長石・細礫 胎土⑤	7.5YR6/6 橙	普通	人物増輪の上衣と想定される 胎土が他の形象増輪と異なる雲母がみられないことから他地域からの搬入品と考えられる	周溝5区	PL44
150	形象人物衣カ	(2.5) (2.5) 1.0	石英・長石・細礫 胎土⑤	7.5YR6/6 橙	普通	内外面ともに摩滅が著しく調整不明 胎土から149と同一個体と考えられる	周溝5区	一覧のみ
151	形象不明	(5.4) (9.7) 2.1	白雲母・黒雲母 石英・長石・花崗岩・赤色粒子・炭化物 胎土④	7.5YR4/6 褐	不良	外面：ナデによる窪み 内面：指ナデカ 全体的に摩滅が著しい	周溝5区	PL44
152	形象不明	(4.1) (6.0) 1.4	白雲母・黒雲母 石英・長石・花崗岩・赤色粒子・炭化物 胎土④	7.5YR5/6 明褐	普通	外面：上部をヨコハケ 底部付近をヨコナデ調整 内面：ヨコナデ調整 底部：ハケ目カ ハケ：2cmに6本 幅2mm	周溝5区	PL44
153	形象不明	(4.2) (4.9) 1.4	白雲母 石英・長石・赤色粒子・炭化物 胎土④	7.5YR6/8 橙	普通	外面：タテハケ 内面：調整不明 底部：斜方向ハケ ハケ：2cm内に10本 幅2mm	周溝5区	一覧のみ
154	形象不明	(4.0) (3.7) 1.7	白雲母 石英・長石 胎土①	5 YR5/6 明赤褐	普通	外面：ハケ 内面：ハケ後ナデ	周溝5区	一覧のみ
155	形象不明	(7.9) (5.2) 1.4	白雲母 石英・長石・花崗岩 胎土①	外面 7.5YR5/2 灰褐	良好	板状 内面はにぶい褐色(7.5YR5/4) 外面：ハケ後ナデ 内面：ナデ	周溝5区	一覧のみ
156	形象不明	(4.8) (9.2) 1.4	白雲母 石英・長石・花崗岩 胎土①	外面 7.5YR6/4 にぶい橙	良好	板状やや彎曲 内面は明褐色(7.5YR5/6) 外面：ハケ後ナデ 内面：ナデ	周溝5区	一覧のみ
157	形象不明	(6.1) (7.2) 1.4	白雲母 石英・長石・花崗岩 胎土①	7.5YR7/6 橙	普通	板状 外面：ハケ後ナデ 内面：ナデ 全体的に摩滅が著しい	周溝5区	一覧のみ
158	形象不明	(4.3) (4.9) 1.5	白雲母 石英・長石・花崗岩 胎土①	7.5YR7/6 橙	普通	板状 全体的に摩滅が著しく調整不明	周溝5区	一覧のみ
159	形象不明	(3.8) (5.2) (1.4)	白雲母 石英・長石・花崗岩 胎土①	7.5YR5/3 にぶい褐	普通	内外面ともに摩滅により調整痕不明	周溝5区 P1	一覧のみ
160	形象不明	(3.9) (3.3) 0.7	白雲母 赤色粒子・白色粒子 胎土②	5 YR6/6 橙	良好	薄手 外面：ヨコハケ後ヨコナデ 内面：ナデ	周溝8区	一覧のみ

第8号墳（第126～130図 第98～100表 PL 8・9・48～50）

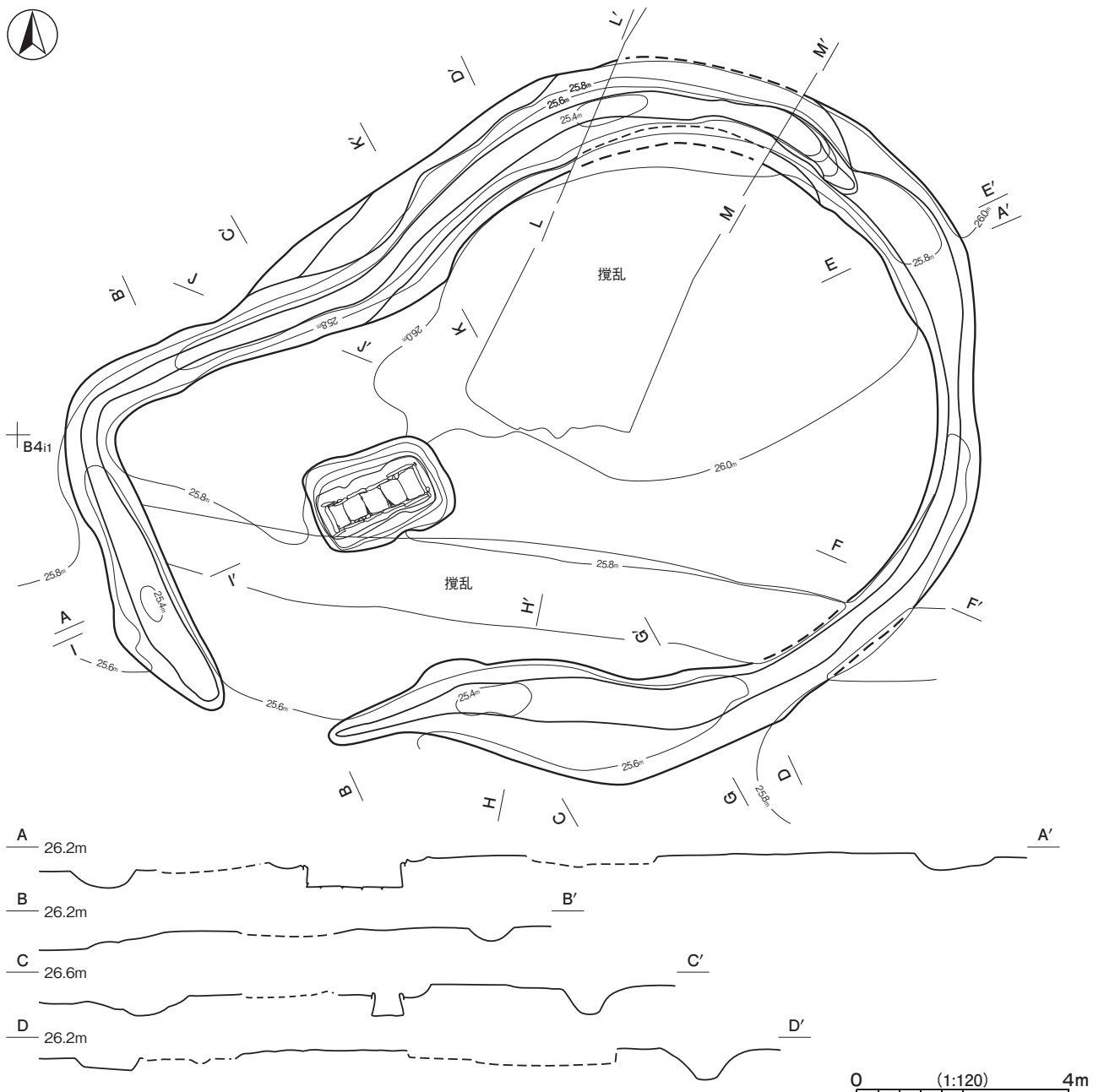
位置 調査区東部のB 4g1～B 4j5区、標高26mほどの台地縁辺部に位置している。

現況及び調査経過 表土除去作業中に第8号墳の主体部を確認した。新発見の古墳である。

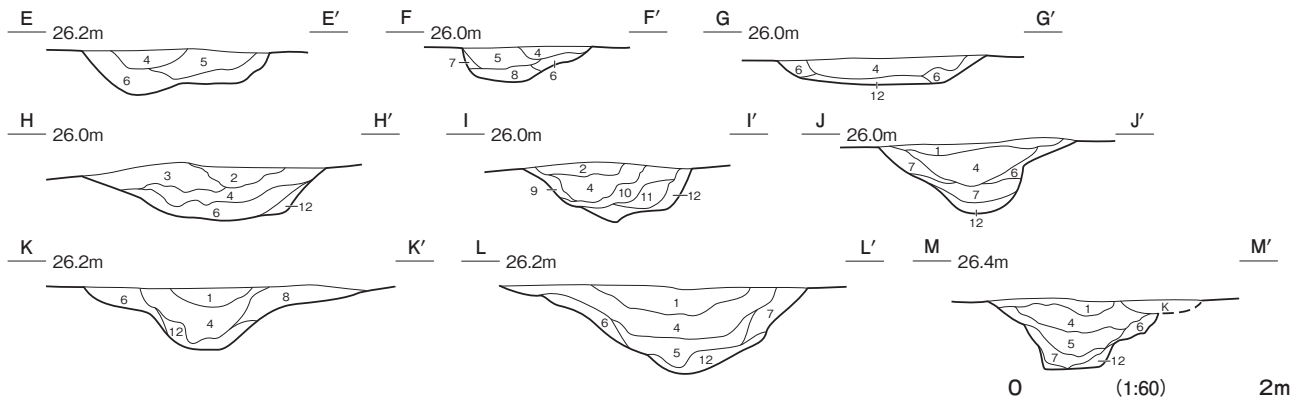
規模と平面形 墳形は前方後円墳と想定されるが、墳丘は削平されている。主軸方向はN-112°-Wである。規模は、総長17.3m、墳長14.6m、後円部径9.7m、くびれ部幅6.4m、前方長6.9m、前方幅6.8mである。

周溝 前方部南東コーナー部は斜面部に差し掛かる位置で削平されている。周溝は、上幅0.7～2.0m、下幅0.1～0.9m、深さ0.3～0.7mで、くびれ部付近の幅、深さがともに最大値である。深さは、後円部では、くびれ部から北に向って浅くなり、前方部では前方部コーナーに向かって浅くなる。

周溝土層 12層に分層できる。層準の対比は黒色土を基準として、上下に大きく2群に分けられる。第1群(第1・2層)は腐植土が自然堆積したもの、第2群(第3～12層)は墳丘や周溝外からの崩落等による流入土でローム主体土である。



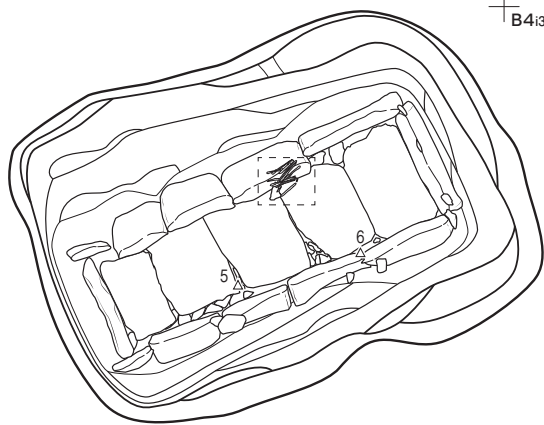
第126図 第8号墳完掘実測図



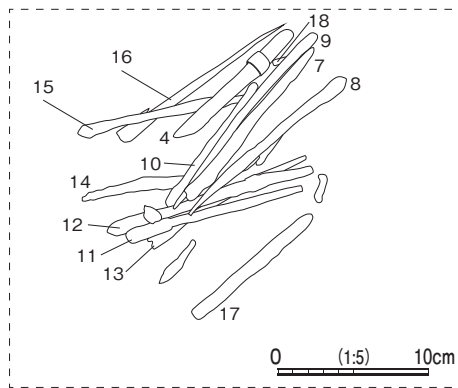
土層解説

- | | | | |
|--------------|----------------------------|---------------|------------------------|
| 1 10YR2/2 黒褐 | ローム粒D, 白色粒子粒C/粘B, 締A | 7 10YR3/4 暗褐 | ローム小C/粘B, 締B |
| 2 10YR2/2 黒褐 | 白色粒子粒C, 粘土ブロック中C・小B/粘B, 締A | 8 10YR3/4 暗褐 | ローム粒D, 白色粒子粒D/粘A, 締B |
| 3 10YR3/1 黒褐 | ローム小C, 白色粒子粒D/粘B, 締B | 9 10YR4/4 褐 | ローム小C/粘A, 締A |
| 4 10YR3/1 黒褐 | ローム粒C, 白色粒子粒C/粘B, 締B | 10 10YR3/2 黒褐 | ローム小C・粒B/粘A, 締B |
| 5 10YR3/2 黒褐 | ローム粒D/粘B, 締B | 11 10YR3/2 黒褐 | ローム粒C/粘A, 締B |
| 6 10YR3/3 暗褐 | ローム小B/粘B, 締B | 12 10YR3/4 暗褐 | ローム中C, 粘土ブロック小C/粘A, 締B |

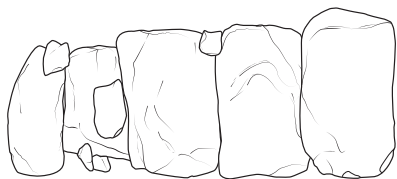
0 (1:60) 2m



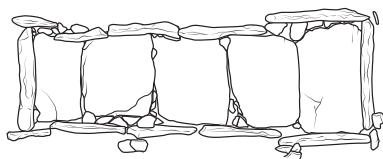
B4i3



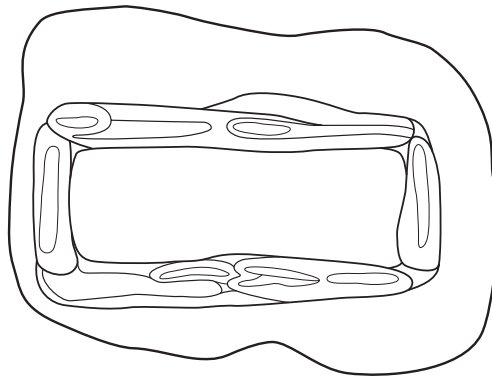
0 (1:5) 10cm



蓋石



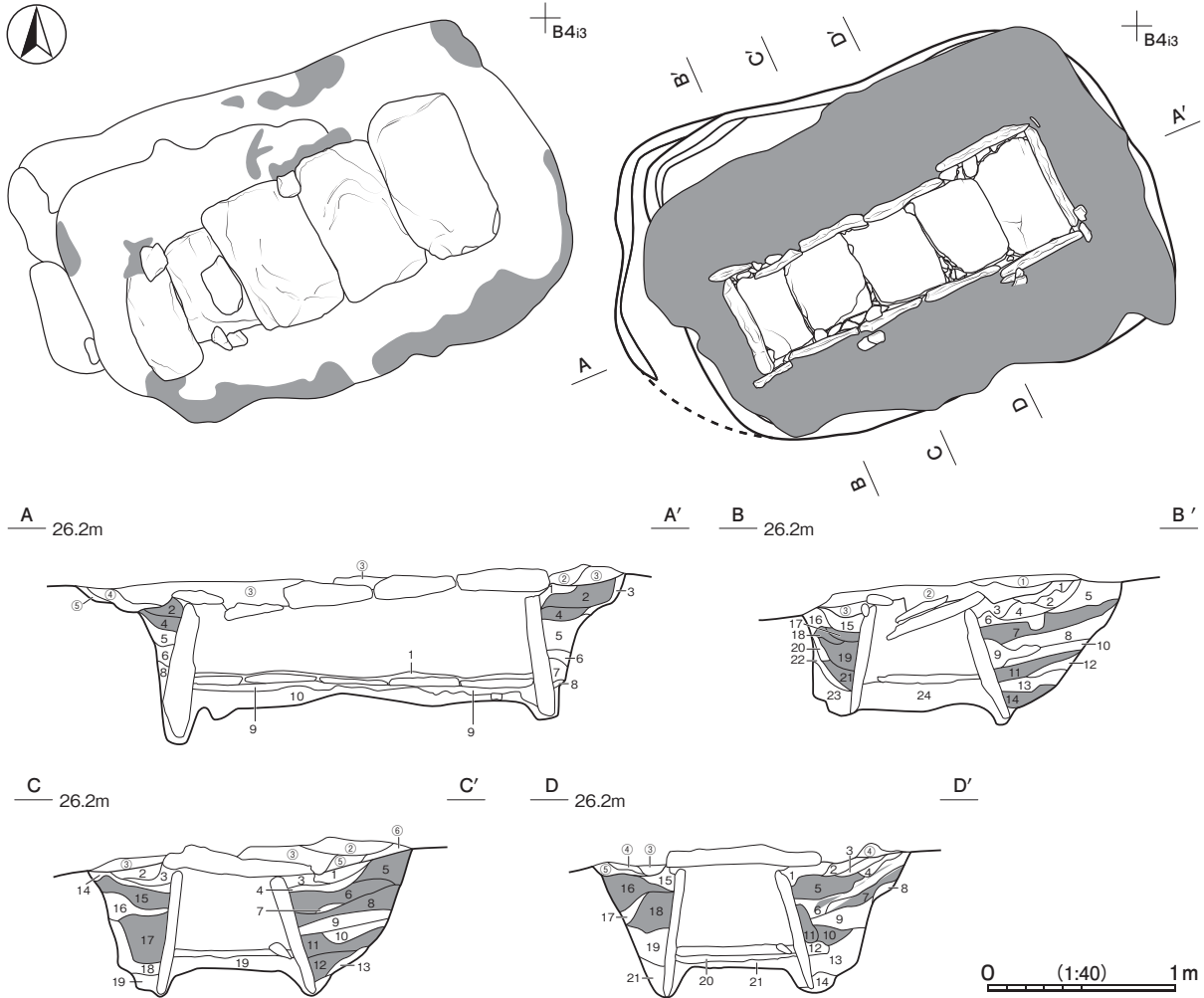
B4i3



B4i3

0 (1:40) 1m

第127図 第8号墳土層断面・石棺内遺物出土状況・箱式石棺展開図



主体部石棺上部土層解説

- | | |
|--------------|----------------------------------|
| ① 10YR2/2 黒褐 | ローム粒C, 白色粒子D, 黒色土ブロック小D / 粘B, 締B |
| ② 10YR3/2 黒褐 | ローム粒B / 粘B, 締A |
| ③ 10YR2/3 黒褐 | ローム粒C, 白色粒子粒C / 粘B, 締A |
| ④ 10YR2/1 黒 | ローム粒C / 粘B, 締B |
| ⑤ 10YR2/2 黒褐 | ローム粒D / 粘B, 締A |
| ⑥ 10YR3/1 黒褐 | ローム粒D, 白色粒子D, 黒色土ブロック小C / 粘B, 締B |

主体部Aライン土層解説

- | | |
|------------------|-----------------------------------|
| 1 10YR3/2 黒褐 | ローム粒D', 粘土ブロック小D' / 粘A, 締A' |
| 2 10YR3/2 黒褐 | 粘土ブロック小A' / 粘A, 締A' |
| 3 10YR3/2 黒褐 | ローム粒D' / 粘B, 締B |
| 4 10YR3/2 黒褐 | 粘土ブロック小A / 粘A, 締A' |
| 5 10YR3/4 暗褐 | ローム小C, 粘土ブロック粒D' / 粘B, 締A' |
| 6 10YR3/2 黒褐 | 粘土ブロック粒C / 粘A, 締B |
| 7 10YR3/2 黒褐 | 粘土ブロック粒B / 粘A, 締B |
| 8 10YR3/2 黒褐 | ローム粒D', 粘土ブロック粒D' / 粘B, 締B |
| 9 10YR3/3 暗褐 | ローム粒D, 白色粒子粒D, 粘土ブロック粒D' / 粘A, 締A |
| 10 10YR4/3 におい黄褐 | ローム粒D, 白色粒子粒D, 黒色土ブロック小D / 粘B, 締B |

主体部Bライン土層解説

- | | |
|------------------|---------------------------------------|
| 1 10YR2/2 黒褐 | ローム粒C / 粘B, 締A |
| 2 10YR2/3 黒褐 | ローム粒C, 炭化粒D / 粘B, 締B |
| 3 10YR3/2 黒褐 | ローム小C / 粘B, 締B |
| 4 10YR2/2 黒褐 | ローム粒D, 粘土ブロック小C, 10YR6/2 灰黄褐 / 粘B, 締B |
| 5 10YR3/3 暗褐 | ローム小B / 粘B, 締A |
| 6 10YR3/2 黒褐 | 粘土ブロック小C / 粘A, 締A |
| 7 10YR3/2 黒褐 | 粘土ブロック小B / 粘A, 締A |
| 8 10YR2/1 黒 | ローム小D, 粘土ブロック粒C / 粘B, 締B |
| 9 10YR2/2 黒褐 | 粘土ブロック小C / 粘A, 締A |
| 10 10YR2/2 黒褐 | ローム粒D', 粘土ブロック粒D' / 粘B, 締B |
| 11 10YR2/2 黒褐 | 粘土ブロック小B / 粘A, 締A |
| 12 10YR3/2 黒褐 | ローム粒D' / 粘A, 締B |
| 13 10YR2/2 黒褐 | ローム小C, 粘土ブロック粒C / 粘A, 締A |
| 14 10YR3/2 黒褐 | 粘土ブロック小A / 粘A, 締A |
| 15 10YR3/3 暗褐 | ローム粒D', 粘土ブロック小C / 粘A, 締B |
| 16 10YR3/3 暗褐 | ローム粒D, 粘土ブロック小C / 粘A, 締A |
| 17 10YR5/4 におい黄褐 | 粘土ブロック小A' / 粘A, 締A' |
| 18 10YR3/3 暗褐 | ローム粒D', 粘土ブロック小B / 粘A, 締B |
| 19 10YR4/3 におい黄褐 | 粘土ブロック小A' / 粘A, 締A' |
| 20 10YR3/3 暗褐 | ローム粒C, 粘土ブロック粒C / 粘A, 締A |
| 21 10YR4/3 におい黄褐 | 粘土ブロック小A / 粘A, 締A |
| 22 10YR3/2 黒褐 | ローム粒D, 粘土ブロック粒D / 粘A, 締A |
| 23 10YR3/2 黒褐 | 粘土ブロック小A / 粘A, 締A' |
| 24 = Aライン10層 | |

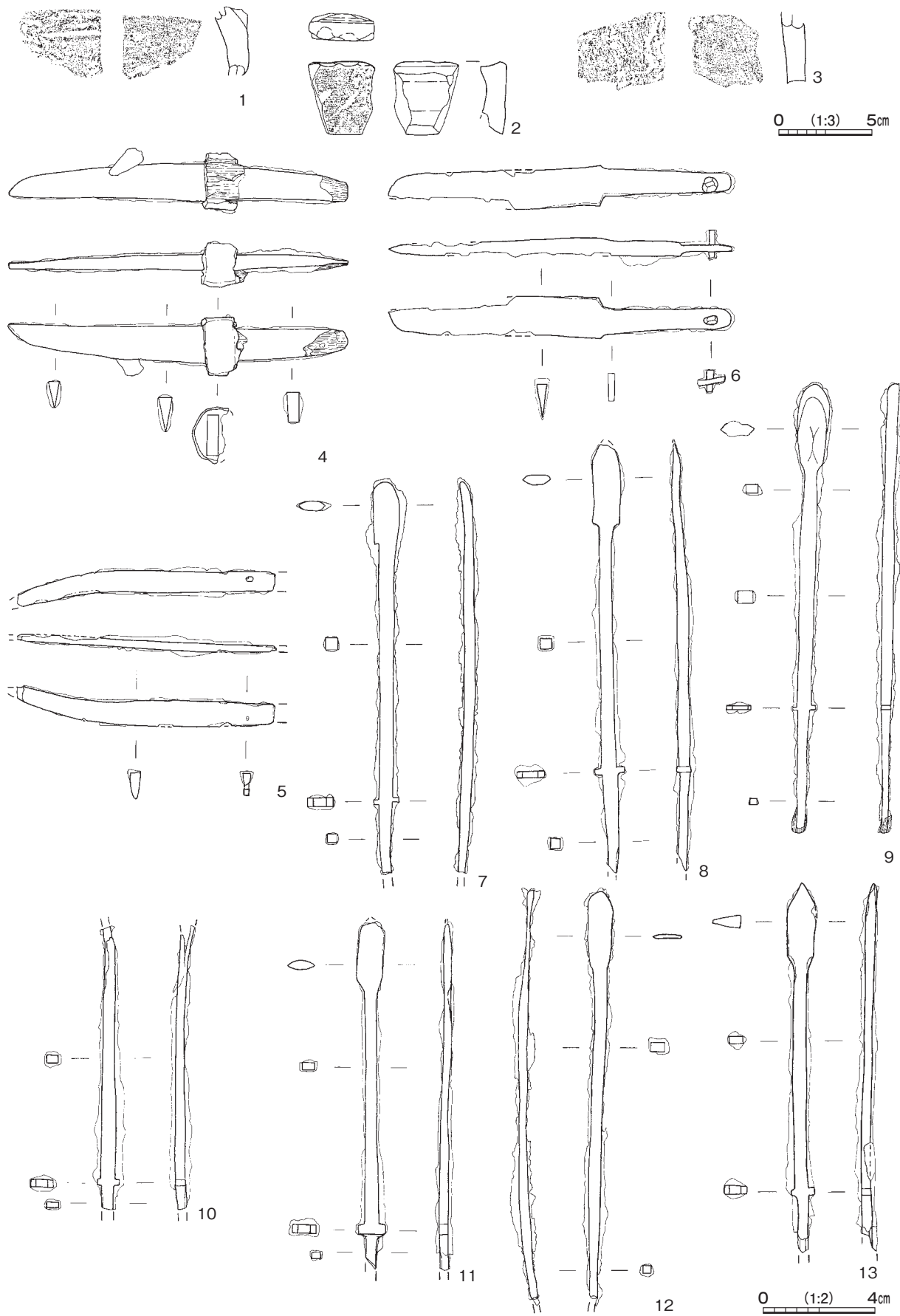
主体部Cライン土層解説

- | | |
|-----------------|---------------------------------|
| 1 10YR2/3 黒褐 | ローム粒C, 炭化粒C, 粘土ブロック粒D / 粘B, 締B |
| 2 10YR3/2 黒褐 | ローム小D, 炭化粒D', 粘土ブロック粒D / 粘B, 締B |
| 3 10YR3/2 黒褐 | ローム粒D', 粘土ブロック小C / 粘B, 締A |
| 4 10YR4/4 褐 | ローム小C・粒D, 粘土ブロック粒C / 粘A, 締A |
| 5 10YR3/3 暗褐 | 粘土ブロック小A / 粘B, 締A |
| 6 10YR3/2 黒褐 | 粘土ブロック小A / 粘A, 締A' |
| 7 10YR3/4 暗褐 | ローム粒D', 粘土ブロック小B・粒B / 粘B, 締B |
| 8 10YR3/3 暗褐 | 粘土ブロック小B・粒B / 粘A, 締B |
| 9 10YR4/3 におい黄褐 | ローム小D / 粘A, 締A |
| 10 10YR3/2 黒褐 | ローム小C, 粘土ブロック粒D / 粘A, 締B |
| 11 10YR3/4 暗褐 | 粘土ブロック小A / 粘A, 締B |
| 12 10YR3/4 暗褐 | 粘土ブロック小C・粒C / 粘A, 締B |
| 13 10YR3/3 暗褐 | ローム小D, 粘土ブロック粒D / 粘A, 締B |
| 14 = Bライン15層 | |
| 15 = Bライン17層 | |
| 16 10YR2/3 黒褐 | ローム小D', 粘土ブロック小D・粒C / 粘A, 締A |
| 17 = Bライン19層 | |
| 18 10YR2/3 黒褐 | ローム小D・粒C, 粘土ブロック小D / 粘A, 締A' |
| 19 = Aライン10層 | |

主体部Dライン土層解説

- | | |
|---------------|----------------------------|
| 1 10YR2/3 黒褐 | ローム粒D / 粘B, 締B |
| 2 10YR3/3 暗褐 | ローム粒B, 黒色土ブロック小C / 粘B, 締A |
| 3 10YR3/2 黒褐 | 粘土ブロック小C / 粘A, 締A |
| 4 10YR3/3 暗褐 | ローム小B / 粘B, 締A |
| 5 10YR3/2 黒褐 | 粘土ブロック小B / 粘A, 締A |
| 6 10YR2/2 黒褐 | 粘土ブロック小C / 粘A, 締A |
| 7 10YR3/2 黒褐 | 粘土ブロック小A / 粘A, 締B |
| 8 10YR3/3 暗褐 | ローム粒B, 粘土ブロック粒D / 粘A, 締B |
| 9 10YR3/2 黒褐 | 粘土ブロック小A' / 粘A, 締A' |
| 10 10YR3/2 黒褐 | ローム粒D' / 粘A, 締B |
| 11 10YR3/2 黒褐 | 粘土ブロック小B / 粘A, 締B |
| 12 10YR2/2 黒褐 | ローム粒D, 粘土ブロック小C / 粘A, 締B |
| 13 10YR3/2 黒褐 | 粘土ブロック小B / 粘A, 締B |
| 14 10YR2/3 黒褐 | ローム小D', 粘土ブロック小D' / 粘A, 締B |
| 15 = Bライン15層 | |
| 16 = Bライン17層 | |
| 17 = Cライン16層 | |
| 18 = Bライン19層 | |
| 19 = Cライン18層 | |
| 20 = Aライン9層 | |
| 21 = Aライン10層 | |

第128図 第8号墳埋葬施設掘方土層断面実測図

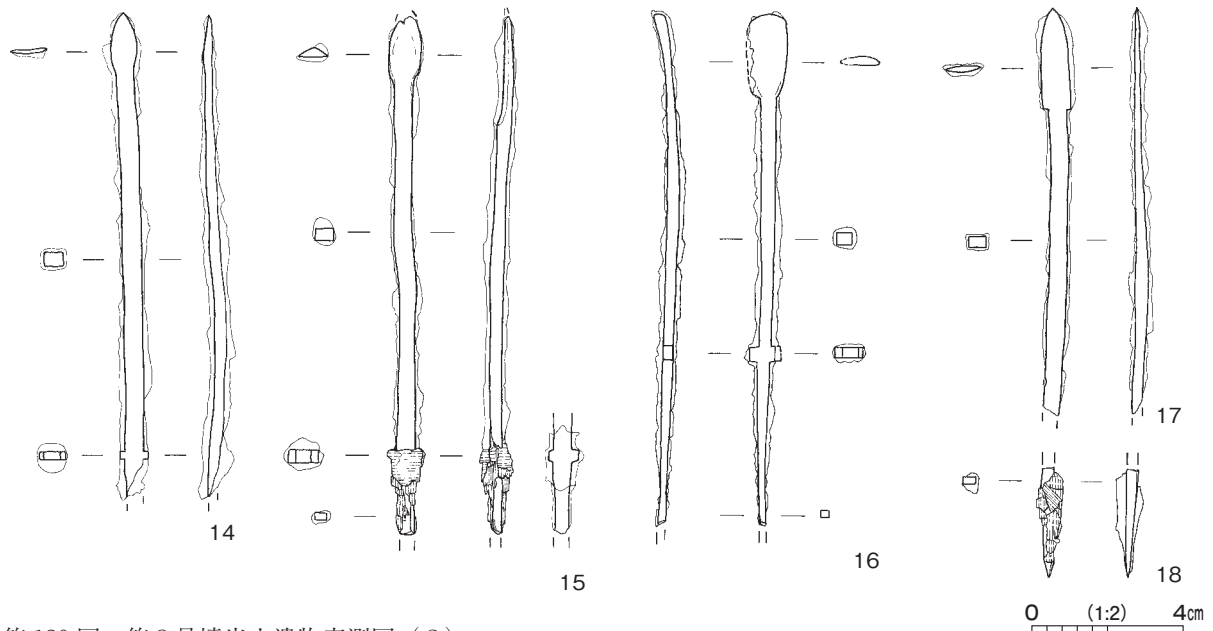


第129图 第8号墳出土遺物実測図(1)

主体部 くびれ部の中央部に位置する。石棺の蓋石は5枚組で、長軸2.2m、短軸0.7～0.9mである。蓋石は北東から南西に向かって傾斜し、サイズが小さくなる。高低差は12cmである。箱式石棺の規模は、棺床内法寸法で、長軸1.72m、短軸は北東小口側で0.56m、南西小口側で0.44mで、南西側が狭くなっている。主軸方向はN-112°-Wで、深さは、北東小口側で0.45m、南西小口側で0.40mで北東側が高くなっている。石棺は片岩の板石を用いて構築されている。板石は、蓋石3枚、小口石各1枚、右壁石5枚、左壁石5枚を箱形に組み、棺床は、5枚の板石を敷き、隙間を割石で敷き詰めている。壁は北側で13～18°、南側で7～10°内傾している。石棺掘方の裏込め状況は、板石を立てるため粘土混じりのローム土で固め、板石間の隙間を粘土と割石を用いて塞いでいる。その後、裏込め土を充填している。大きく3層に分けられ、下から、粘土混じりのローム土層、ローム土層、粘土層の順に板石上端付近まで裏込めしている。蓋石上に粘土を貼り付けている痕跡はみられなかった。石棺床下は、粘土混じりのローム土に割石を入れて平坦にして床板石を敷き詰めている。南西側掘方は墓坑構築時よりも、蓋石上部の深さで一段浅く広がっている。また、埋め戻された形跡があり、追葬の可能性はある。

出土遺物 周溝からは土師器片34点(坏5, 甕29), 須恵器片2点(甕), 磁器片1点, 陶器片2点, 縄文土器片86点(深鉢), 埴輪片3点(円筒埴輪1, 形象埴輪2), 石器14点(尖頭器1, 剥片10, 磨石3), 瓦片3点が出土している。いずれも覆土上層からの出土で混入と考えられる。また、いずれも細片のため図示できない。石棺内部からは、副葬品と考えられる金属製品25点(刀子3, 鉄鏃18, 不明鉄製品4)が出土している。石棺北壁中央部からまとめて、21・22は南壁付近から出土している。覆土は1cm程度しかなく、床石直上からの出土である。

所見 時期は、埴形や埴輪が伴わないことから、6世紀末～7世紀初頭に推定される。



第130図 第8号墳出土遺物実測図(2)

第98表 第8号墳出土遺物一覧

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
4	刀子	12.20	1.50	0.15～0.5	(26.80)	鉄	刀身長さ70mm 厚さ4～5mm 鏃長さ10mm 幅20mm 厚さ3mm 茎部長さ40mm 幅10mm 厚さ5mm 栗尻茎部に木質付着	石棺内	PL50
5	刀子	(9.30)	(1.40)	0.2～0.3	(8.00)	鉄	刀身残長75mm 厚さ4mm 茎部残長17mm 幅8mm 厚さ3mm 茎部に目釘孔 両端部欠損	石棺内	PL50
6	刀子	12.30	1.60	0.3～1.1	(15.02)	鉄	刀身長さ77mm 厚さ3mm 茎部長さ47mm 幅8mm 厚さ3mm 栗尻 茎部目釘孔に目釘	石棺内	PL50
7	鏃	14.10	0.95	0.3～0.5	15.90	鉄	長頸鏃 鏃身長22.57mm 幅9.5mm 厚さ3.17mm 頸部長93.32mm 幅5.19mm 厚さ3.94mm 閤部幅9.10mm 厚さ3.35mm 茎部残長24.76mm 幅3.66～4.87mm 厚さ3.01～3.18mm 茎部先端欠損	石棺内	PL49
8	鏃	(15.20)	1.10	0.3～0.5	(16.00)	鉄	長頸鏃 鏃身長29.16mm 幅10.0mm 厚さ2.78mm 頸部長88.63mm 幅4.41mm 厚さ4.21mm 閤部幅10.76mm 厚さ5.13mm 茎部残長34.41mm 幅3.97～5.51mm 厚さ3.30～3.42mm 茎部先端欠損	石棺内	PL49

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備 考
9	鐵	16.10	1.10	0.25～0.4	(16.34)	鐵	長頭鐵 鐵身長 31.99 mm 幅 10.94 mm 厚さ 4.03 mm 頸部長 84.75 mm 幅 4.25 mm 厚さ 3.20 mm 胴部幅 8.40 mm 厚さ 3.62 mm 莖部長 43.90 mm 幅 3.50～4.53 mm 厚さ 2.53～3.51 mm 莖部先端木質付着	石棺内	PL49
10	鐵	(10.20)	0.80	0.2～0.4	(10.83)	鐵	長頭鐵 鐵身欠損 頸部残長 92.72 mm 幅 1.55 mm 厚さ 3.01 mm 胴部幅 8.03 mm 厚さ 3.92 mm 莖部残長 8.84 mm 幅 4.08～4.31 mm 厚さ 2.67～3.92 mm 莖部先端欠損	石棺内	PL50
11	鐵	(12.50)	1.10	0.2～0.4	(9.85)	鐵	長頭鐵 鐵身先端欠損 残長 25.55 mm 幅 9.12 mm 厚さ 1.72 mm 頸部長 86.96 mm 幅 3.58 mm 厚さ 2.67 mm 胴部幅 9.29 mm 厚さ 3.13 mm 莖部残長 12.12 mm 幅 3.15～4.00 mm 厚さ 2.94～3.06 mm 莖部先端欠損	石棺内	PL49
12	鐵	14.60	0.3～0.9	0.15～0.35	12.01	鐵	長頭鐵 鐵身長 27.47 mm 幅 8.61 mm 厚さ 1.50 mm 頸部残長 118.12 mm 幅 2.59～4.77 mm 厚さ 2.50～3.52 mm 胴部・莖部欠損	石棺内	PL49
13	鐵	(13.30)	1.00	0.2～0.4	(13.48)	鐵	長頭鐵 鐵身先端欠損 残長 27.78 mm 幅 10.42 mm 厚さ 4.18 mm 頸部長 84.19 mm 幅 4.69 mm 厚さ 2.46 mm 胴部幅 8.42 mm 厚さ 2.91 mm 莖部残長 20.61 mm 幅 3.95～4.65 mm 厚さ 3.12 mm 莖部先端欠損	石棺内	PL49
14	鐵	(12.80)	0.90	0.1～0.4	(11.13)	鐵	長頭鐵 鐵身先端欠損 残長 9.92 mm 幅 6.58 mm 厚さ 2.30 mm 頸部長 107.65 mm 幅 5.15 mm 厚さ 2.80 mm 胴部幅 7.24 mm 厚さ 2.36 mm 莖部残長 9.95 mm 幅 4.15～4.93 mm 厚さ 2.44 mm 莖部先端欠損	石棺内	PL49
15	鐵	(13.70)	1.00	0.2～0.5	(12.43)	鐵	長頭鐵 鐵身先端欠損 残長 15.91 mm 幅 7.40 mm 厚さ 2.13 mm 頸部長 101.42 mm 幅 4.71 mm 厚さ 3.48 mm 胴部幅 7.78 mm 厚さ 3.11 mm 莖部残長 19.58 mm 幅 3.00 mm 厚さ 2.41 mm 胴部・莖部に木質付着 莖部樹皮巻 先端欠損	石棺内	PL49
16	鐵	(13.10)	0.2～1.1	0.2～0.4	(9.52)	鐵	長頭鐵 鐵身先端欠損 残長 22.50 mm 幅 11.02 mm 厚さ 2.16 mm 頸部長 67.11 mm 幅 3.74 mm 厚さ 3.28 mm 胴部幅 6.96 mm 厚さ 2.92 mm 莖部長 41.88 mm 幅 1.87～3.31 mm 厚さ 2.75 mm	石棺内	PL49
17	鐵	(10.80)	0.80	0.2～0.4	(6.65)	鐵	長頭鐵 鐵身長 26.97 mm 幅 8.25 mm 厚さ 1.25 mm 頸部残長 80.98 mm 幅 4.87 mm 厚さ 2.56 mm 胴部・莖部欠損	石棺内	PL49
18	鐵	(2.90)	0.70	0.20	(0.99)	鐵	長頭鐵カ 鐵身部・頸部欠損 莖部残長 2.85 mm 幅 4.10 mm 厚さ 2.37 mm 木質付着 莖部樹皮巻	石棺内	PL50

第 99 表 第 8 号墳出土遺物一覧 (円筒埴輪)

番号	埴輪種類	長さ幅厚さ	透孔径	突帯断面	胎 土	色 調	焼成	調整・整形の特徴他	出土位置	備 考
1	円筒突帯部	(3.9) (4.5) 1.2	—	台形 M 字	白雲母 石英・長石・花崗岩・ 赤色粒子	5YR7/6 橙	普通	外面：突帯部ヨコナテ 内面：タテナテ 突帯接着押圧痕	周溝	6世紀後半 流れ込み PL48

第 100 表 第 8 号墳出土遺物一覧 (形象埴輪)

番号	埴輪種類	長さ幅厚さ	胎 土	色 調	焼成	調整・整形の特徴他	出土位置	備 考
2	形象不明	(3.8) (3.5) 1.0～1.3	白雲母 赤色粒子・黒色粒子	7.5YR7/4 にぶい橙	普通	外面：口縁部に指頭痕 内面：内面及び口縁部端部にヨコナテ 透孔有	周溝	流れ込み PL48
3	形象不明	(4.5) (4.5) 1.1	白雲母 石英・長石 胎土①	2.5YR6/6 橙	普通	外面：ナテ 剥離面にハケ 内面：ナテ	周溝	流れ込み PL48

第 9 号墳 (第 131～133 図 第 101 表 PL11・48・50)

位置 調査区中央部の B 3 b5～B 4 i2 区、標高 26 m ほどの台地縁辺部に位置している。

現況及び調査経過 表土除去作業中に第 9 号墳の主体部を確認した。つくば市の分布調査では確認されていなかった古墳である。

重複関係 周溝前方部は南東側を第 2 号粘土採掘坑に掘り込まれている。

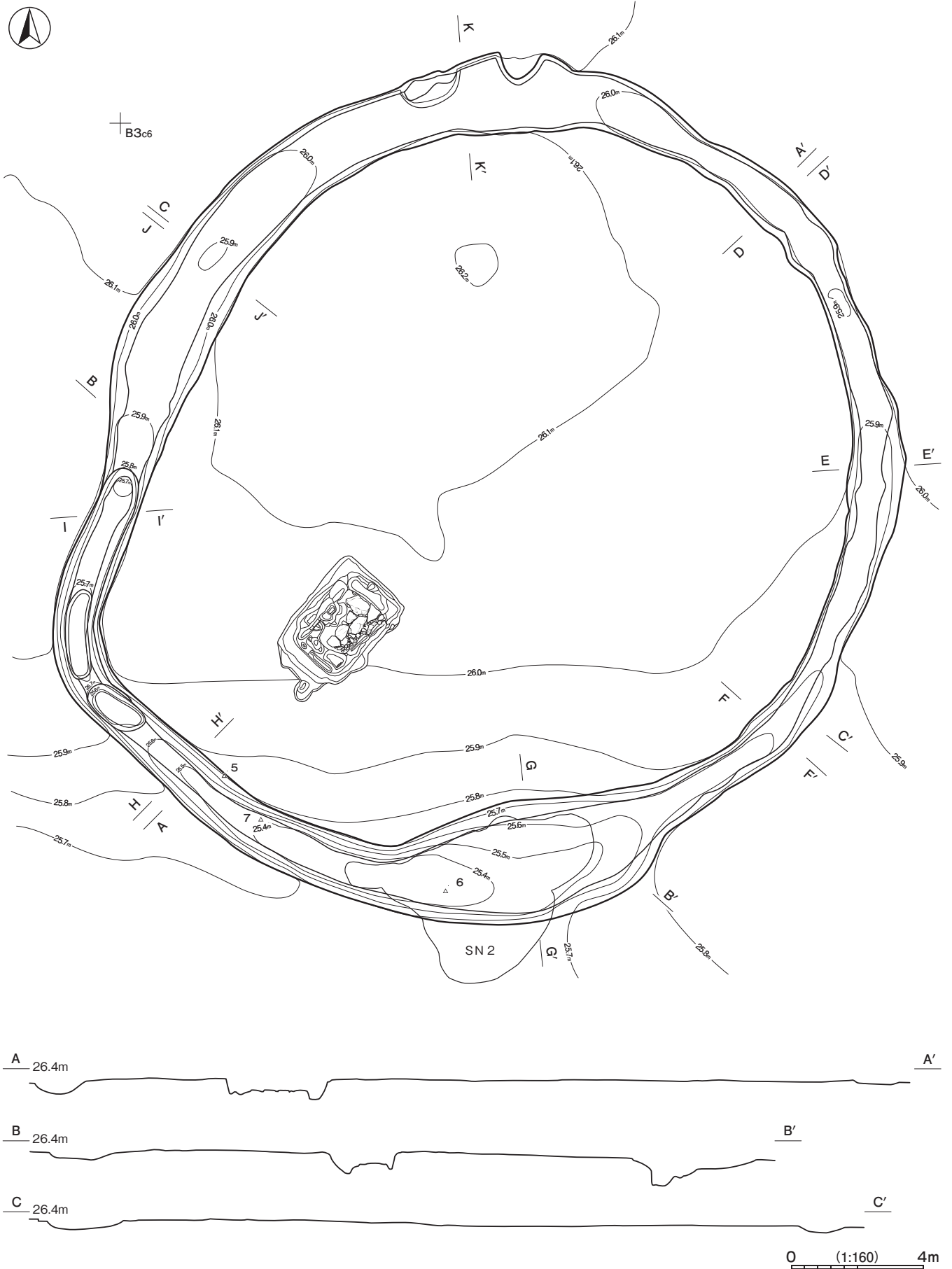
規模と平面形 墳形は前方後円墳(帆立貝式)と想定されるが、墳丘は削平されている。主軸方向は N-141°-W である。規模は、総長 25.9 m、墳長 23.2 m、後円部径 20.8 m、くびれ部幅 14.2 m、前方長 4.3 m、前方幅 11.4 m である。後円部はやや東に寄る。

周溝 周溝は、上幅 1.0～2.7 m、下幅 1.0～1.6 m、深さ 0.1～0.4 m で、くびれ部付近の幅、深さがともに最大値である。深さは、後円部では、くびれ部から北へ向い浅くなり、前方部では前方部コーナーへ向かい深くなる。確認面が北西から南東へ傾斜しているため、南東側の周溝幅は狭くなっている。

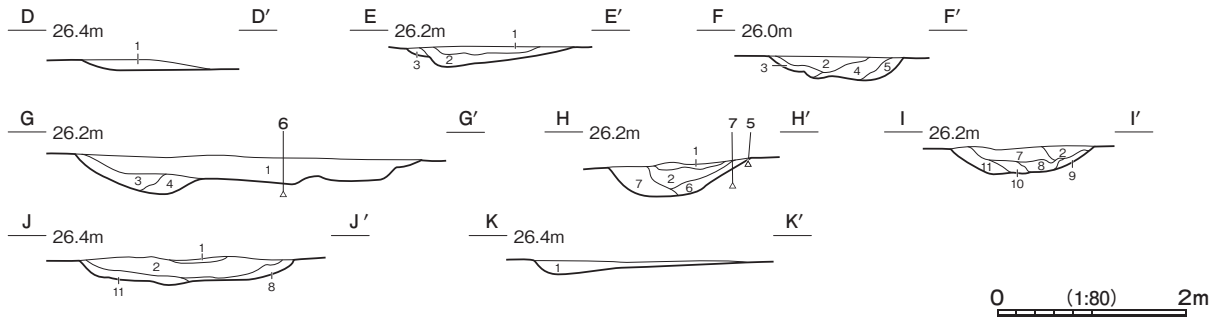
周溝土層 11 層に分層できる。墳丘や周溝外からの崩落等による流入土でローム主体土である。

主体部 くびれ部の中央部に位置する。掘方規模は、長軸 3.56 m、短軸 2.48 m、深さ 0.60 m の方形で、主軸方向は N-141°-W である。石棺材はほとんどが抜き取られていたが、南東部コーナーの南壁 1 枚、床石 6 枚は原位置をとどめていた。床石は割石で、確認面からの深さ 0.35 m である。覆土は、レンズ状に堆積しており、自然堆積である。底面には石材設置のための掘方が溝状に、深さ 0.12～0.54 m で確認でき、板石を組んだ箱式石棺であったと推定される。石棺の規模は、掘方底面の形状から、長軸 2.85 m、短軸 1.9 m で、深さは 0.35 m 以上と推定される。覆土中から出土している板石は、遺棄された蓋石と考えられる。

出土遺物 周溝からは、土師器片 22 点(坏 3、甕 19)、陶器片 3 点、縄文土器片 55 点(深鉢)、埴輪片 2 点(形象埴輪)、土製品 1 点(不明)、石器 15 点(ナイフ形石器 2、剥片 9、打製石斧 1、石鏃 1、礫 2)、金属製品 3 点(直刀、刀子、刀装具)が、主体部からは、土師器片 1 点(坏)、須恵器片 2 点(甕)、埴輪片 1 点(形象

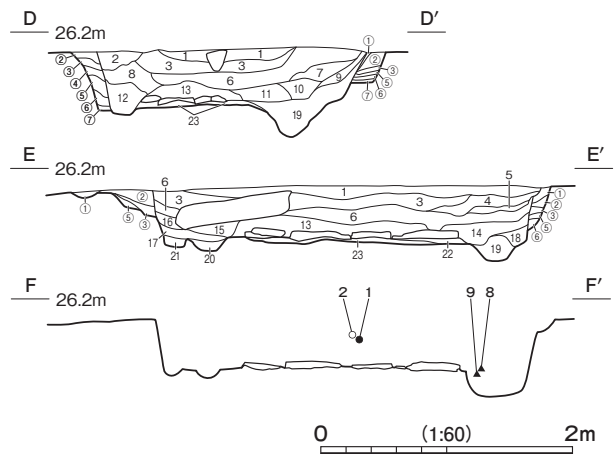
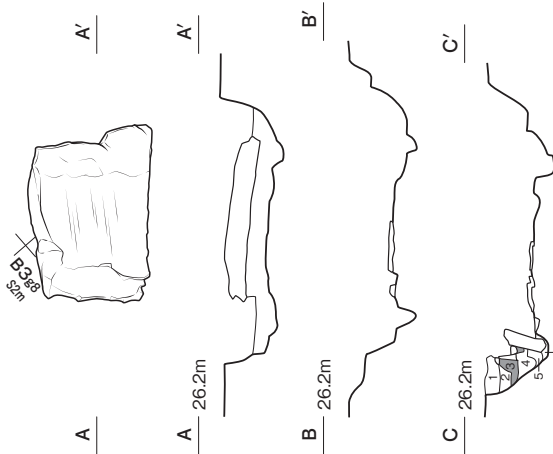
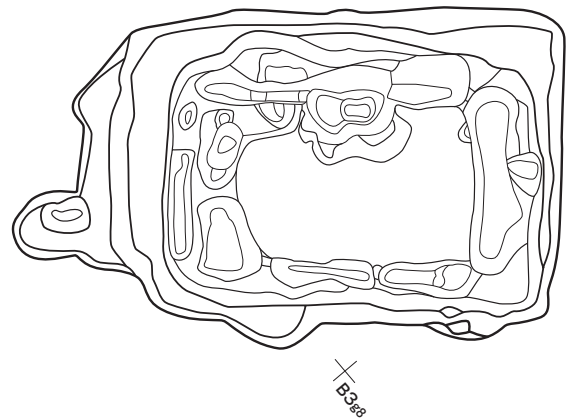
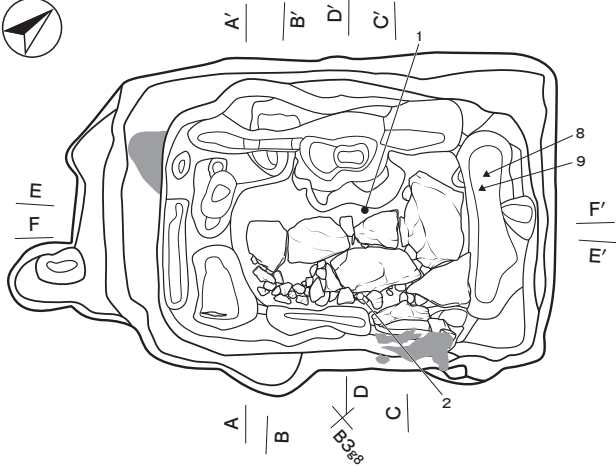


第 131 図 第 9 号墳完掘実測図



土層解説

1	10YR2/2	黒褐	ローム中C、白色粒子粒C/粘B、締B	7	10YR2/2	黒褐	ローム粒B、白色粒子粒D/粘B、締B
2	10YR2/1	黒	ローム粒B/粘B、締B	8	10YR2/3	黒褐	ローム小C/粘B、締B
3	10YR2/2	黒褐	ローム小B/粘B、締B	9	10YR3/4	暗褐	ローム小A/粘B、締B
4	10YR3/2	黒褐	ローム粒C、白色粒子粒D/粘B、締B	10	10YR2/2	黒褐	ローム粒C/粘B、締B
5	10YR3/3	暗褐	ローム小B/粘B、締B	11	10YR3/2	黒褐	ローム小C・粒C、炭化物C/粘B、締B
6	10YR2/2	黒褐	ローム小D・粒B/粘B、締B				



Cライン土層解説

1	10YR4/4	褐	ローム粒C、粘土ブロック小D、黒色土ブロック小C/粘B、締B
2	10YR4/4	褐	ローム粒C、粘土ブロック小C/粘B、締B
3	10YR8/2	灰白	ローム粒D、炭化粒D、灰白色粘土ブロック大B/粘B、締B

D・Eライン土層解説

1	10YR2/3	黒褐	ローム粒A/粘B、締B
2	10YR3/3	暗褐	ローム小C、粘土ブロック粒C、黒色土ブロック小D/粘B、締B
3	10YR2/2	黒褐	ローム粒B、粘土ブロック小D・粒C/粘B、締B
4	10YR3/2	黒褐	ローム小C・粒B、黒色土ブロック小D/粘B、締B
5	10YR3/2	黒褐	ローム粒B/粘B、締B
6	10YR3/3	暗褐	ローム小B・粒B、粘土ブロック小B、黒色土ブロック小C/粘B、締A
7	10YR2/2	黒褐	ローム小D、粘土ブロック小D'/粘B、締B
8	10YR2/1	黒	ローム粒C、粘土ブロック中D・小C・粒B/粘B、締B
9	10YR3/3	暗褐	粘土ブロック粒D、黒色土ブロック小C/粘B、締B
10	10YR2/2	黒褐	ローム小C、粘土ブロック小D・粒D'/粘B、締B
11	10YR2/1	黒	ローム粒C、粘土ブロック粒D/粘B、締B
12	10YR2/3	黒褐	ローム小C・粒C/粘B、締B

4	10YR3/2	黒褐	ローム粒D、粘土ブロック小D/粘B、締B
5	10YR3/4	暗褐	ローム粒C、粘土ブロック小C/粘B、締B
6	10YR3/3	暗褐	ローム粒B、黒色土ブロック小C/粘B、締A

13	10YR3/2	黒褐	ローム小C、粘土ブロック小D・粒D/粘B、締B
14	10YR2/2	黒褐	ローム小C、粘土ブロック小D・粒C/粘B、締B
15	10YR2/2	黒褐	ローム小C、粘土ブロック粒C/粘B、締C
16	10YR3/2	黒褐	ローム粒B、黒色土ブロック小B/粘B、締B
17	10YR3/2	黒褐	ローム小B、粘土ブロック小C/粘B、締B
18	10YR3/2	黒褐	ローム小C、黒色土ブロック小C/粘B、締B
19	10YR3/2	黒褐	ローム小C、粘土ブロック中D・小C・粒B/粘A、締B
20	10YR2/3	黒褐	ローム小C・粒B、粘土ブロック中D/粘B、締B
21	10YR3/2	黒褐	ローム粒C、黒色土ブロック小C/粘B、締B
22	10YR3/2	黒褐	ローム小D・粒D、シルトC/粘C、締A
23	10YR4/4	褐	ローム粒D、黒色土ブロック小C、白色粒子D/粘B、締A

D・Eライン裏込土層解説

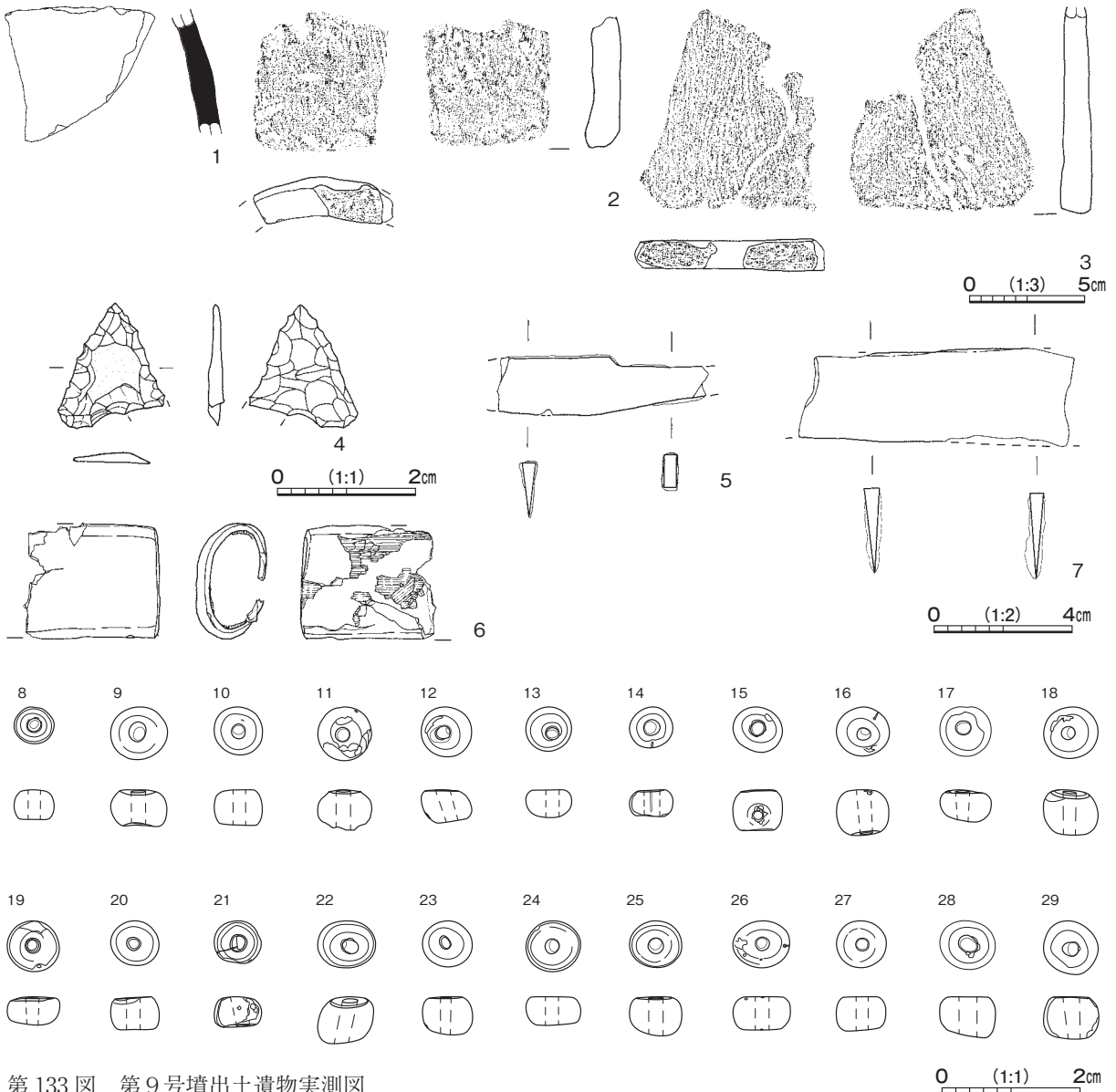
①	10YR3/3	暗褐	ローム小C・粒C、炭化粒D、灰白色粘土ブロック小D・粒D/粘B、締B
②	10YR4/4	褐	ローム小B・粒B、炭化粒D、灰白色粘土ブロック小D/粘B、締A
③	10YR3/4	暗褐	ローム小C・粒C、灰白色粘土ブロック小D・粒D/粘B、締B
④	10YR3/3	暗褐	ローム小D・粒D、炭化粒D、灰白色粘土ブロック小D・粒D/粘B、締B

⑤	10YR4/4	褐	ローム小D・粒C、灰白色粘土ブロック粒D/粘B、締B
⑥	10YR4/3	いりこ	ローム小C・粒C、炭化粒D、灰白色粘土ブロック小D・粒D/粘B、締B
⑦	10YR3/3	暗褐	ローム小C、炭化粒D/粘B、締B

第132図 第9号墳周溝土層断面図・埋葬施設土層断面図

埴輪), 石器 34 点 (剥片), 金属製品 4 点 (不明), ガラス製品 22 点 (小玉) が出土している。ガラス製品の
内 20 点は, 覆土を篩って確認したものであり, 残り 2 点は床石と床石の間隙から出土している。

所見 時期は, 埴形や埴輪が伴わないことから, 7 世紀前葉と推定される。



第 133 図 第 9 号墳出土遺物実測図

第 101 表 第 9 号墳出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	甕	—	(5.9)	—	長石・石英	10YR7/2	にぶい黄橙	普通 外面に自然釉 (5YR5/2 灰オリーブ)	覆土中	
番号	埴輪種類	長さ 幅 厚さ	胎土	色調	焼成	調整・整形の特徴他			出土位置	備考	
2	形象不明	(6.3) (6.1) 1.4	白雲母 石英・長石・花崗岩	5YR5/6 明赤褐	普通	外面:一部タテハケ 内面:ナデ 底部未調整 一部欠け			周溝	流れ込み PL48	
3	形象器財カ	(9.1) (8.3) 1.3	白雲母・黒雲母 石英・長石・赤色粒子・炭化物	5YR5/6 明赤褐	普通	外面:一部タテハケ 内面:ナデ 平板状 底部未調整			周溝	流れ込み PL48	
番号	器種名	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴			出土位置	備考
4	石鏃	安山岩	1.8	(1.5)	0.2	(3.22)	茎部中央彎入 基部片側欠損 表面自然面残る			周溝覆土中	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考
5	刀子	(6.10)	1.70	0.40	(11.44)	鉄	刀身残長 32mm 幅 4mm 茎部残長 2.8mm 両端部欠損			主体部	
6	刀装具	(4.00)	3.30	0.10	(12.84)	鉄	筒状のパーツ 内側に木質付着 一部欠損			周溝	PL50
7	直刀	(8.00)	2.90	0.40	(20.09)	鉄	刀身 残長 80mm 幅 2.9mm 厚さ 4mm 両端部欠損			周溝	PL50

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
8	小玉	0.57	0.43	0.17	0.17	不明	青紺 管切り法 両小口面研磨 球状の気泡 孔内面滑らか	覆土下層	PL50
9	小玉	0.82	0.54	0.23	0.48	不明	青紺 管切り法 両小口面彎曲 孔と平行に伸びる気泡の柱 孔内面滑らか 孔縁広がる	覆土下層	PL50
10	小玉	0.70	0.44~0.54	0.18	0.37	不明	青紺 管切り法 両小口面研磨 孔と平行に伸びる気泡の柱 孔内面滑らか 全体に細かなひび割れ 孔縁広がる	1区3X	PL50
11	小玉	0.78	0.53	0.19	0.43	不明	青紺 管切り法 小口片面研磨、片面未調整 全体にうろこ状のひび割れ	1区3X	PL50
12	小玉	0.73	0.40~0.48	0.17~0.21	0.35	不明	青紺 管切り法 両小口面研磨 孔と平行に伸びる気泡の柱 孔内面滑らか	1区3X	PL50
13	小玉	0.66	0.39	0.15~0.17	0.23	不明	青紺 管切り法 小口片面同心円状条痕 孔と平行に伸びる気泡列 孔内面滑らか	2区4X	PL50
14	小玉	5.95~6.22	0.36~0.39	0.19	0.20	不明	青紺 管切り法 両小口面研磨 孔と平行に伸びる気泡の柱 孔内面滑らか 孔縁広がる	3区3X	PL50
15	小玉	0.63~0.72	0.60	0.20	0.40	不明	青紺 管切り法 両小口同心円状条痕 孔と平行に伸びる気泡の柱 孔内面滑らか	4区3X	PL50
16	小玉	0.71~0.78	0.60~0.65	0.15~0.19	0.49	不明	青紺 管切り法 両小口面研磨 孔と平行に伸びる気泡の柱 孔内面滑らか 表面三日月状痕	4区3X	PL50
17	小玉	0.71~0.74	0.36~0.47	0.18~0.21	0.33	不明	青紺 管切り法 両小口彎曲、同心円状条痕 孔と平行に伸びる気泡の柱 孔内面滑らか	4区3X	PL50
18	小玉	0.75~0.79	0.60~0.66	0.18~0.20	0.52	不明	紫紺 管切り法 両小口同心円状条痕 孔と平行に伸びる気泡の柱 孔内面滑らか	4区4X	PL50
19	小玉	0.75	0.35~0.40	0.17	0.32	ソーダ石灰ガラス	青紺 管切り法 小口片面彎曲、片面同心円状条痕 孔内面滑らか 孔縁広がる 表面三日月状痕	1区掘方	蛍光X線分析 PL50
20	小玉	0.65~0.70	0.44~0.47	0.16	0.35	ソーダ石灰ガラス	青紺 管切り法 両小口同心円状条痕 孔と平行に伸びる気泡の柱 孔内面滑らか 表面孔と平行に条痕	1区掘方	蛍光X線分析 PL50
21	小玉	0.62~0.68	0.41~0.45	0.29	0.23	カリガラス	紫紺 管切り法 両小口面研磨 細かな気泡多 孔形歪、内面歪 孔縁広がる 孔に平行するひび割れ 表面三日月状痕、円状痕	1区掘方	蛍光X線分析 PL50
22	小玉	0.68~0.84	0.55	0.21~0.25	0.46	ソーダ石灰ガラス	青紺 管切り法 両小口同心円状条痕 孔と平行に伸びる気泡の柱 孔内面滑らか 表面三日月状痕	清掃土	蛍光X線分析 PL50
23	小玉	0.67~0.73	0.45~0.53	0.14~0.20	0.37	不明	青紺 管切り法 両面小口研磨 孔と平行に伸びる気泡の柱 孔内面滑らか 孔縁広がる	4区掘方	PL50
24	小玉	0.74~0.80	0.37~0.42	0.2	0.37	不明	青紺 管切り法 両面小口研磨 孔と平行に伸びる気泡の柱 孔内面滑らか	4区掘方	PL50
25	小玉	0.68~0.76	0.42~0.55	0.22	0.38	不明	青紺 管切り法 両面小口同心円状条痕 孔と平行に伸びる気泡の柱 孔内面滑らか 表面三日月状痕	4区掘方	PL50
26	小玉	0.69~0.83	0.45	0.19	0.41	不明	青紺 管切り法 両面小口研磨 孔と平行に伸びる気泡の柱 孔内面滑らか 表面三日月状痕	4区掘方	PL50
27	小玉	0.71	0.45~0.49	0.18	0.38	不明	青紺 管切り法 両面小口研磨 孔と平行に伸びる気泡の柱 孔内面滑らか 表面三日月状痕	4区掘方	PL50
28	小玉	0.70~0.82	0.48~0.60	0.22~0.28	0.48	不明	紫紺 管切り法 両面小口同心円状条痕 孔と平行に伸びる気泡の柱 孔形歪、内面滑らか 表面三日月状痕	4区掘方	PL50
29	小玉	0.74~0.80	0.57~0.61	0.23	0.53	不明	青紺 管切り法 両面小口同心円状条痕 孔と平行に伸びる気泡の柱 孔内面滑らか 表面孔と平行に条痕	4区掘方	PL50

上境滝の台古墳群出土のガラス小玉等の蛍光 X 線分析

上境作ノ内遺跡・上境作ノ内古墳群出土のガラス小玉の蛍光 X 線分析

株式会社イビソク

つくば市上境字作ノ内に所在する上境作ノ内遺跡・上境作ノ内古墳群より出土したガラス小玉について、蛍光 X 線分析による元素分析を行い、材質の検討を行った。

1 試料と方法

分析対象は、第9号墳主体部内より出土した4点のガラス小玉である(表1)。時期は古墳時代とみられている。

分析装置はエスアイアイ・ナノテクノロジー株式

会社製のエネルギー分散型蛍光 X 線分析計 SEA1200VX を使用した。装置の仕様は、X 線管が最大 50kV、1000 μ A のロジウム (Rh) ターゲット、X 線照射径が 8mm または 1mm、X 線検出器は SDD 検出器である。また、複数の一次フィルタが内蔵されており、適宜選択、挿入することで S/N 比の改善が図れる。検出可能元素はナトリウム (Na) ~ウラン (U) であるが、ナトリウム、マグネシウム (Mg)、アルミニウム (Al) といった軽元素は、蛍光 X 線分析装置の性質上、検出感が悪い。

測定条件は、管電圧・一次フィルタの組み合わせが 15kV(一次フィルタ無し)・50kV(一次フィルタ Pb 測定用・Cd 測定用) の計 3 条件で、測定時間は各条件 500 ~ 1700s、管電流自動設定、照射径 1mm、試料室内雰囲気真空に設定した。定量分析は、酸化物の形で算出し、ノンスタンダード FP 法による半定量分析を行った。得られる半定量値は、同装置での測定結果を相対的に比較するための値である。

試料は、実体顕微鏡下での観察後、非破壊で測定した。実体顕微鏡観察は、主にエタノール浸漬状態で、透過光下で行った。なお、ガラス製遺物は、透明で風化がないように見える箇所でも表面の風化が進んでおり、酸化ナトリウム (NaO₂)、酸化カリウム (K₂O) の減少など表面の化学組成に変化が生じている(肥塚, 1997)。

表1 分析対象一覧

分析 No.	色調	遺構番号	出土位置	時代	寸法 (cm)	
					径	高さ
1	青紺	第9号墳 主体部内	1区掘方 A	古墳時代	0.9	0.4
2	青紺	第9号墳 主体部内	1区掘方 B	古墳時代	0.6	0.4
3	紫紺	第9号墳 主体部内	1区掘方 C	古墳時代	0.6	0.4
4	青緑	第9号墳 主体部内	清掃土	古墳時代	0.8	0.5

人為的に露出させた完全な新鮮面でない場合は、解釈の際に風化の影響を考慮する必要がある。

2 分析結果

実体顕微鏡観察の結果、いずれもガラス中に気泡が多く観察された（図版 1）。

蛍光 X 線分析により得られた半定量値を表 2 に示す。なお、表では考察で述べる化学組成上の分類に従って試料の順番を並べ替えてある。分析の結果、いずれもアルカリ金属と二酸化ケイ素（ SiO_2 ）を主成分とするアルカリ珪酸塩ガラスに分類された。

検出できた元素は試料によって異なるが、酸化ナトリウム（ Na_2O ）、酸化マグネシウム（ MgO ）、酸化アルミニウム（ Al_2O_3 ）、二酸化ケイ素（ SiO_2 ）、酸化リン（ P_2O_5 ）、酸化硫黄（ SO_3 ）、酸化カリウム（ K_2O ）、酸化カルシウム（ CaO ）、酸化チタン（ TiO_2 ）、酸化マンガン（ MnO ）、酸化鉄（ Fe_2O_3 ）、酸化コバルト（ CoO ）、酸化ニッケル（ NiO ）、酸化銅（ CuO ）、酸化ルビジウム（ Rb_2O ）、酸化ストロンチウム（ SrO ）、酸化ジルコニウム（ ZrO_2 ）、酸化モリブデン（ MoO_3 ）、酸化スズ（ SnO_2 ）、酸化バリウム（ BaO ）、酸化鉛（ PbO ）の合計 21 元素である。

3 考察

実体顕微鏡観察では、いずれも孔に対して平行に伸びた気泡や気泡列が観察された。ガラスを管状に引き伸ばした後、管を切って製作する引き伸ばし法（管切り法）により製作されたと考えられる。

古代のガラスについては、肥塚・田村・大賀（2010 など）や、中井・阿部ら（白瀧ほか、2012 など）により、詳細に分類されている。今回分析した 4 点について、化学組成に基づき、以下のとおり分類した。

なお、ガラスの主成分となる酸化ナトリウム（ Na_2O ）と酸化カリウム（ K_2O ）は、試料によっては含有量が少なかったり、検出されていなかったりすることがある。しかし、風化の影響を受けやすい元素である点や、特に酸化ナトリウム（ Na_2O ）は蛍光 X 線での感度の悪い元素である点を考慮する必要があり、影響を受けにくい他の元素の化学組成より、風化したガラス小玉でも分類は可能である。

・紫紺色ガラス小玉（ $\text{K}_2\text{O-SiO}_2$ 系）（分析 No.3）

分析 No.3 は、化学組成は、酸化カルシウム（ CaO ）と酸化ストロンチウム（ SrO ）が少なく、酸化ルビジウム（ Rb_2O ）が検出されるといった特徴がみられ、基礎ガラスはカリガラス（ $\text{K}_2\text{O-SiO}_2$ 系）と考えられる。なお、酸化カリウム（ K_2O ）自体はそれほど多く検出されなかったが、風化の影響と考えられる。

紺色系の発色については、コバルトイオンが大きく影響していると考えられる。酸化マンガン（ MnO ）がかなり多く、酸化バリウム（ BaO ）がやや多く、酸化鉛（ PbO ）が少ないというのが紺色系のカリガラスにみられる特徴で、着色原料のコバルト鉱石の特徴と考えられる。また、酸化モリブデン（ MoO_3 ）が検出されることがあるのも、紺色系のカリガラスにみられる特徴である。今回分析した分析 No.3 は、色調が紫がかっており、マンガンイオンの影響がうかがわれた。ただし、酸化マンガン（ MnO ）が多ければ紫系になると一概にはいえず、溶融時の雰囲気の違いによりマンガンイオンの状態の違いが出たための発色と推定される。マンガンイオンは、2 価（ Mn_2+ ）では実質的に無色、3 価（ Mn_3+ ）では紫系の発色をする（作花・境野・高橋編、1975）。

表 2 半定量分析結果（mass%）

分析 No.	色調	Na2O	MgO	Al2O3	SiO2	P2O5	SO3	K2O	CaO	TiO2	MnO	Fe2O3	CoO	NiO	CuO	Rb2O	SrO	ZrO2	MoO3	SnO2	BaO	PbO
3	紫紺	—	0.29	1.73	89.59	0.43	0.03	2.45	1.34	0.18	1.70	1.64	0.08	—	0.02	0.02	0.01	0.01	0.01	—	0.48	—
1	青紺	14.22	5.12	3.55	63.86	0.75	0.14	2.97	7.15	0.11	0.09	1.20	0.05	0.01	0.11	—	0.07	0.02	—	0.01	0.11	0.48
2	青紺	14.86	4.47	2.25	66.26	0.64	0.48	2.46	5.52	0.27	0.16	2.00	0.11	—	0.13	—	0.11	0.03	—	—	—	0.25
4	青紺	3.50	3.07	2.83	75.66	0.82	0.73	2.61	6.74	0.57	0.12	2.04	0.10	—	0.13	—	0.10	0.05	—	—	0.79	0.16

・青紺色ガラス小玉 ($\text{Na}_2\text{O-CaO-SiO}_2$ 系) (分析 No. 1, 2, 4)

分析 No.1, 2, 4 の3点は、化学組成は、酸化ルビジウム (Rb_2O) と酸化ジルコニウム (ZrO_2) が少なく酸化ストロンチウム (SrO) が比較的多いなどの特徴により、基礎ガラスは、酸化アルミニウム (Al_2O_3) が比較的少なく酸化カルシウム (CaO) の量が多いタイプである、ソーダ石灰ガラス ($\text{Na}_2\text{O-CaO-SiO}_2$ 系) に属すると考えられる。

発色には、コバルトイオンが主に影響していると推定される。上述のカリガラスの紺色系と異なり、酸化マンガ (MnO) が少なく、酸化鉛 (PbO) がやや多い。

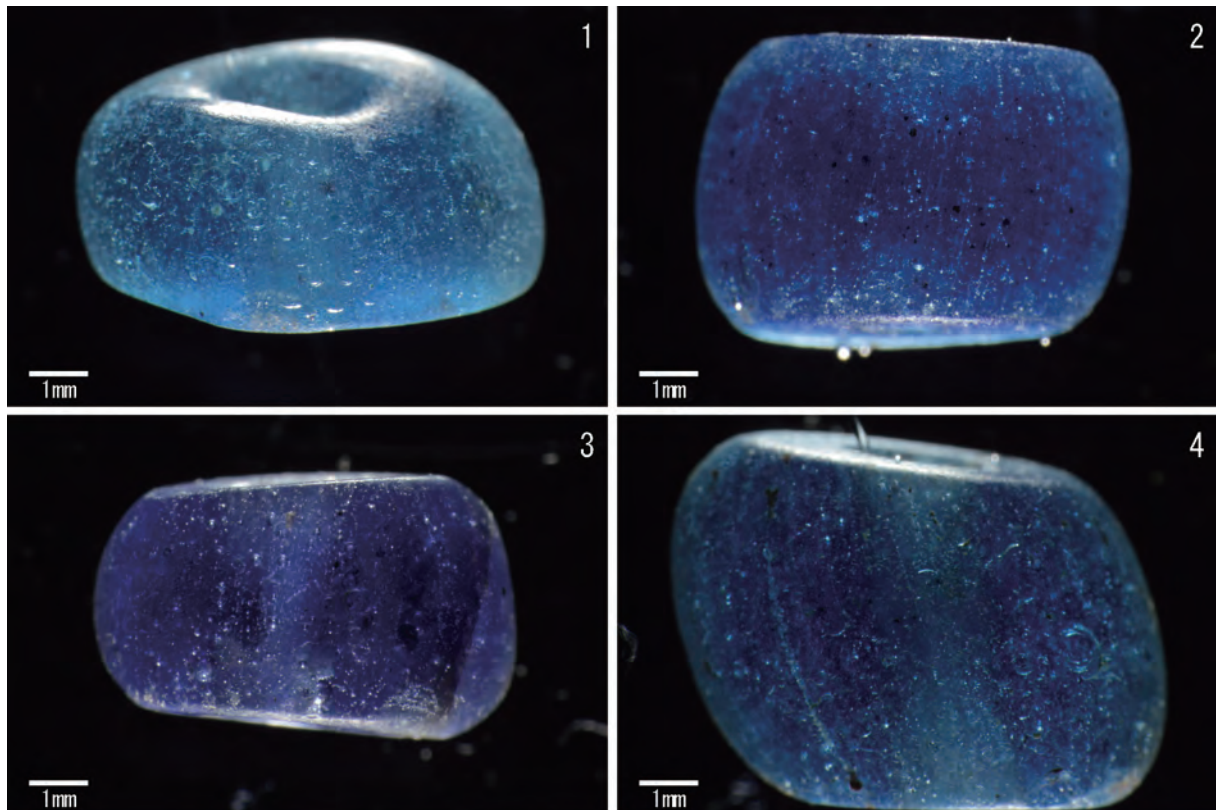
$\text{Na}_2\text{O-CaO-SiO}_2$ 系のソーダ石灰ガラスは、西アジアやエジプトなど地中海周辺地域でみられ「西方のガラス」と呼ばれる (肥塚, 2003 など)。さらに、 $\text{Na}_2\text{O-CaO-SiO}_2$ 系のソーダ石灰ガラスには、ナトリウム源にナトロンと呼ばれる天然ソーダを使用したと推定される酸化マグネシウム (MgO)、酸化カリウム (K_2O) の少ないタイプと、ナトリウム源に植物灰を使用したと推定される酸化マグネシウム (MgO)、酸化カリウム (K_2O) の多いタイプに分類されており (加藤ほか, 2005 など)、日本の $\text{Na}_2\text{O-CaO-SiO}_2$ 系のソーダ石灰ガラスにおいても両者の存在が明らかとなっている (田村ほか, 2011)。今回分析した $\text{Na}_2\text{O-CaO-SiO}_2$ 系のソーダ石灰ガラス2点は、酸化マグネシウム (MgO)、酸化カリウム (K_2O) が多めで、植物灰ガラスと考えられる。

4 おわりに

上境作ノ内遺跡・上境作ノ内古墳群から出土したガラス小玉4点の蛍光 X 線分析を行った結果、いずれもアルカリ珪酸塩ガラスと確認された。化学組成の特徴から、紫紺色1点はカリガラスに、青紺色3点はソーダ石灰ガラスに属する可能性が高い。

引用・参考文献

上境湾の古墳群出土のガラス小玉等の蛍光 X 線分析 同



図版1 ガラス小玉の実体顕微鏡写真 (透過光、数字は分析No.)

第 10 号墳 (第 134・135 図 第 102 表 PL12・43・50)

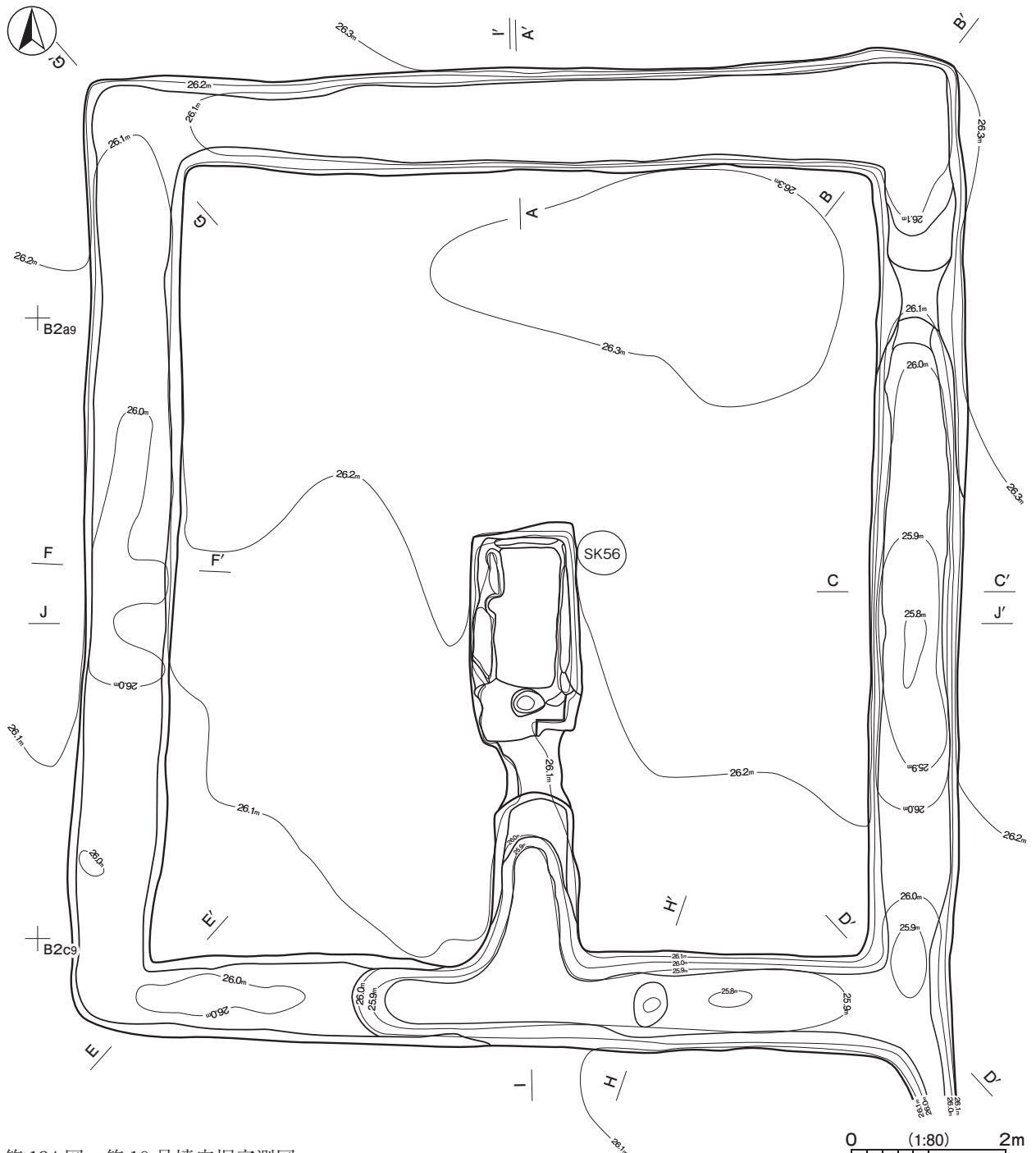
位置 調査区東部の A 2j9 ~ B 3 d2 区, 標高 26 m ほどの台地縁辺部の平坦面に位置している。

現況及び調査経過 表土除去作業中に第 10 号墳の周溝及び主体部を確認した。新発見の古墳である。

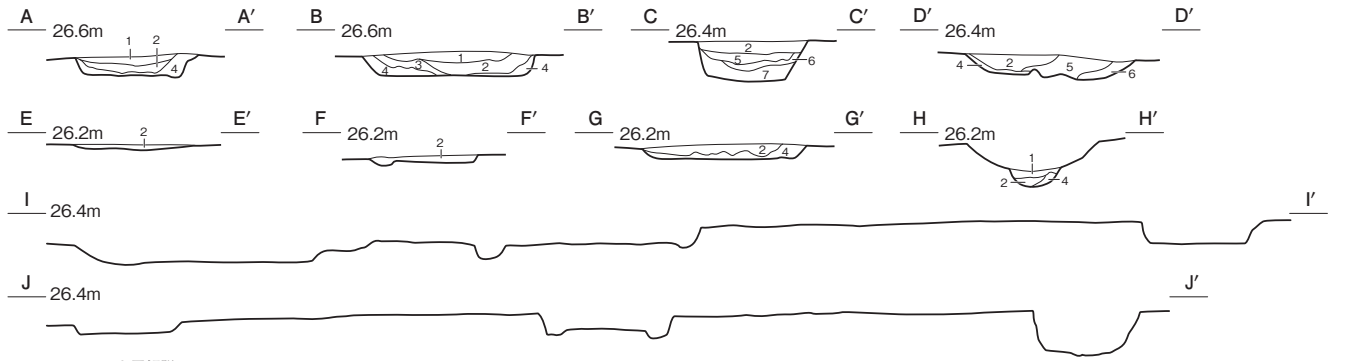
重複関係 第 19 号溝跡は南東コーナーから南へ延びる。周溝底面とほぼ同じ深さで, 幅はやや狭くなる。周溝南東コーナーで西に折れ墓道方向へと伸びているが周溝との境界は明瞭ではない。

規模と平面形 墳形は方形で, 墳丘は削平されている。主軸方向は N - 0° である。規模は, 総長 12.6 m, 墳長 10.5 m である。1 辺の長さ, 9.2 ~ 10.5 m の長方形である。

周溝 周溝は, 上幅 1.0 ~ 1.7 m, 下幅 0.7 ~ 1.0 m, 深さ 0.1 ~ 0.4 m である。幅は最大値が北東コーナー, 最小値が南西コーナーである。これに伴い, 北辺周溝は, 西から東へと広がり, 南辺周溝は, 中央から西側半



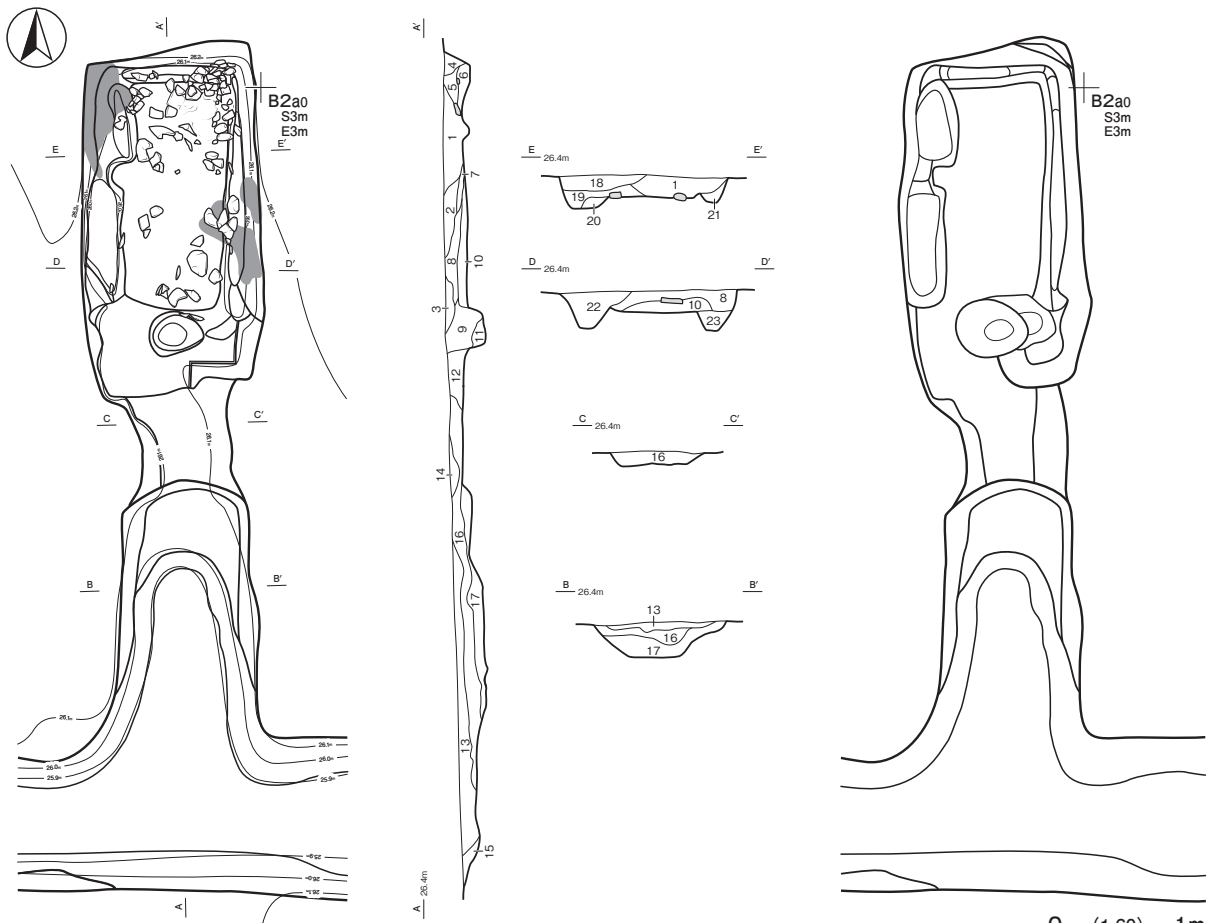
第 134 図 第 10 号墳完掘実測図



土層解説

- | | | | |
|--------------|-------------------------|--------------|-------------------------|
| 1 10YR2/3 黒褐 | ローム粒B, 白色粒子粒C/粘B, 締B | 5 10YR2/3 黒褐 | ローム小B, 黒色土ブロック小C/粘A, 締B |
| 2 10YR2/3 黒褐 | ローム小D・粒C, 白色粒子粒C/粘B, 締B | 6 10YR2/1 黒 | ローム粒C, 黒色土ブロック小D/粘B, 締B |
| 3 10YR3/2 黒褐 | ローム小C・粒C/粘B, 締B | 7 10YR3/3 暗褐 | ローム中C, 黒色土ブロック小C/粘A, 締B |
| 4 10YR2/3 黒褐 | ローム粒C, 白色粒子粒D/粘B, 締A | | |

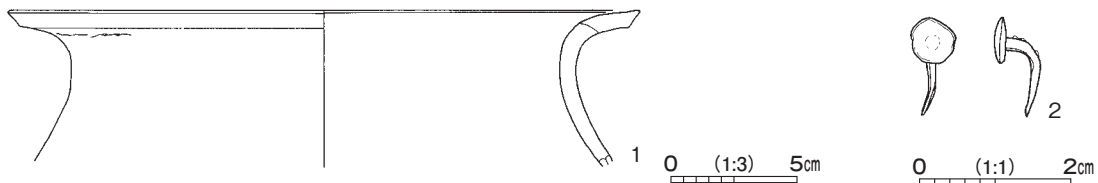
0 (1:80) 2m



土層解説

- | | | | |
|---------------|--------------------------------------|---------------|--------------------------------|
| 1 10YR2/3 黒褐 | ローム小C・粒C, 粘土ブロック小C, 黒色土ブロック小C/粘B, 締B | 13 10YR3/2 黒褐 | ローム粒A, 粘土ブロック粒C, 黒色土ブロック小C/粘 締 |
| 2 10YR2/3 黒褐 | ローム粒C, 粘土ブロック小B, 黒色土ブロック小D/粘B, 締B | 14 10YR3/3 暗褐 | ローム小D・粒C, 粘土ブロック小D/粘 締 |
| 3 10YR3/2 黒褐 | ローム粒C/粘B, 締B | 15 10YR2/2 黒褐 | ローム小C・粒C/粘, 締 |
| 4 10YR2/3 黒褐 | ローム粒C/粘B, 締B | 16 10YR3/3 暗褐 | ローム小C・粒C, 黒色土ブロック小C/粘, 締 |
| 5 10YR2/3 黒褐 | ローム小C・粒C, 粘土ブロック小D, 黒色土ブロック小D/粘B, 締B | 17 10YR3/3 暗褐 | ローム中C・小C/粘, 締 |
| 6 10YR3/3 暗褐 | ローム粒D, 粘土ブロック小B, 黒色土ブロック小C/粘A, 締B | 18 10YR2/2 黒褐 | ローム粒C/粘B, 締B |
| 7 10YR2/2 黒褐 | ローム粒D, 黒色土ブロック小D/粘B, 締B | 19 10YR2/2 黒褐 | ローム粒D/粘A, 締B |
| 8 10YR3/2 黒褐 | ローム粒C, 粘土ブロック粒B, 黒色土ブロック小D/粘B, 締B | 20 10YR3/3 暗褐 | ローム粒D/粘A, 締B |
| 9 10YR3/3 暗褐 | ローム粒D, 粘土ブロック小C・粒B/粘B, 締B | 21 10YR3/4 暗褐 | ローム中C/粘B, 締B |
| 10 10YR3/2 黒褐 | ローム粒D, 粘土ブロック中B, 黒色土ブロック小D/粘A, 締B | 22 10YR2/3 黒褐 | ローム粒B/粘B, 締B |
| 11 10YR3/3 暗褐 | ローム小C, 粘土ブロック小D/粘A, 締B | 23 10YR2/3 黒褐 | ローム小C, 黒色土ブロック小C/粘, 締 |
| 12 10YR2/3 黒褐 | ローム小C/粘B, 締B | | |

0 (1:60) 1m



第135図 第10号墳周溝・埋葬施設・土層断面・出土遺物実測図

分が狭くなっている。東・西辺周溝はほぼ同じ幅である。深さは、南西コーナーが最も浅く、東辺中央部が最も深くなっている。

周溝土層 7層に分層できる。墳丘や周溝外からの崩落等による流入土である。

主体部 石材が抜き取られ、裏込め土は玄室南東コーナーに一部残存し、上部は削平されている。コの字状に板石を立てるための掘方が溝状に周り、玄室入り口部にはピットが確認できた。墓道は、周溝と同じ幅、深さで玄室に向かい、玄室入り口前で階段状に二段高くなっている。

出土遺物 周溝からは土師器片 16 点（甕）、縄文土器片 25 点（深鉢）、石器 8 点（剥片 4、碎片 1、磨石 1、礫 2）が出土している。1 は、西辺周溝底面から逆位で出土している。主体部からは、陶器片 1 点、縄文土器片 3 点（深鉢）、金属製品 6 点（鋌 1、不明 5）が出土している。

所見 時期は、墳形や出土遺物から、7 世紀代と推定され、当古墳群の中では最も新しい段階に位置付けられる。

第 102 表 第 10 号墳出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	甕	[25.0]	(6.1)	—	長石・石英・雲母	5YR6/6 橙	普通	口縁部摘み上げ ナデ	周溝 覆土下層	PL43
番号	器種	長さ	幅	重量	材質	特徴				出土位置	備考
2	鋌	1.30	0.60	0.24	銅	針部折れ曲がる 腐食が激しい				主体部	PL50

第 103 表 古墳一覧

番号	形状	位置	方向	規模					周溝			埋葬施設	主な出土遺物	時代	備考	
				総長	墳長	後円径	くびれ幅	前方長	前方幅	上端	下端					深さ
TM1	前方後円墳	B47 ~ C5a1	N-157°-W	—	—	22.4	11.2	—	—	0.7 ~ 3.4	0.3 ~ 1.2	0.2 ~ 0.6	箱式石棺	埴輪	6 世紀後葉	PL10
TM8	前方後円墳	B4g1 ~ B4j5	N-112°-W	17.3	14.6	9.7	6.4	6.9	6.8	0.7 ~ 2.0	0.1 ~ 0.9	0.3 ~ 0.7	箱式石棺	刀子・鉄鏃	6 世紀後葉	PL 8・9
TM9	前方後円墳	B3b5 ~ B4i2	N-141°-W	25.9	23.2	20.8	14.2	4.3	11.4	1.0 ~ 2.7	1.0 ~ 1.6	0.1 ~ 0.4	箱式石棺	ガラス小玉	6 世紀後葉	PL11
TM10	方墳	A2j9 ~ B3d2	—	総長	方長	方幅				1.0 ~ 1.7	0.7 ~ 1.0	0.1 ~ 0.4	箱式石棺	土師器	7 世紀	PL12
				9.2 ~ 10.5	—	—	—									

3 平安時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、土坑 1 基を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

土坑

第 128 号土坑 (第 136 図 第 104 表 PL13・43)

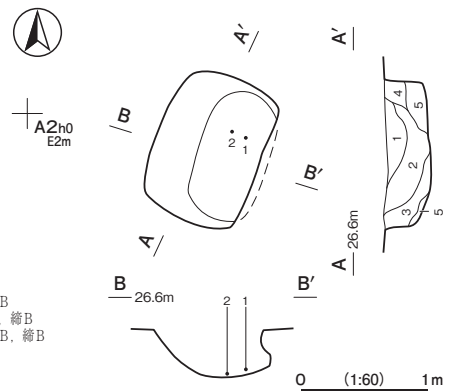
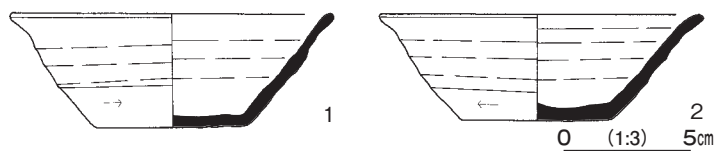
位置 調査区西部の A 2h0 区、標高 26 m ほどの台地上に位置している。

規模と形状 長軸 1.18 m、短軸 0.94 m の長方形で、長軸方向は N - 28° - E である。深さ 38 cm で東壁は内傾、西壁は外傾し、南・北壁は直立している。底面は平坦である。

覆土 5 層に分層できる。ブロック状の含有物がみられることから、埋め戻されている。

遺物出土状況 須恵器片 2 点（坏）が出土している。

所見 時期は、出土遺物から平安時代、規模や形状から墓坑と推定される。



土層解説
 1 10YR3/2 黒褐 ローム中D・小C・粒C、炭化物D/粘B、締B
 2 10YR3/4 暗褐 ローム中D・小C・粒C、炭化物D・粒D/粘B、締B
 3 10YR3/2 黒褐 ローム小D・粒C、炭化粒D/粘B、締B
 4 10YR4/3 におい黄褐 ローム小D・粒D、炭化粒D/粘B、締B
 5 10YR3/4 暗褐 ローム小D・粒D、炭化物D・粒D/粘B、締B

第 136 図 第 128 号土坑・出土遺物実測図

第 104 表 第 128 号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	坏	12.6	4.5	6.0	長石・石英・雲母	2.5YR6/2 灰黄	良好	外・内面ロクロナデ	覆土下層	PL43
2	須恵器	坏	12.7	4.1	6.0	長石・石英・雲母・細礫	10YR6/4 におい黄橙	良好	外・内面ロクロナデ	覆土下層	PL43

4 江戸時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、平成21年度調査区から延びる第3号溝跡を確認した。遺構は一覧と全体図に示す（第102図）。

溝跡

第105表 第3号溝跡

番号	位置	方向	平面形	規模				断面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(m)					
3	B 2a1～B 2d5	N-123°-W	直線	(222)	0.82～1.51	0.09～0.32	0.26～0.43	浅いU字状	外傾	自然	陶器(天目茶碗)	PL13

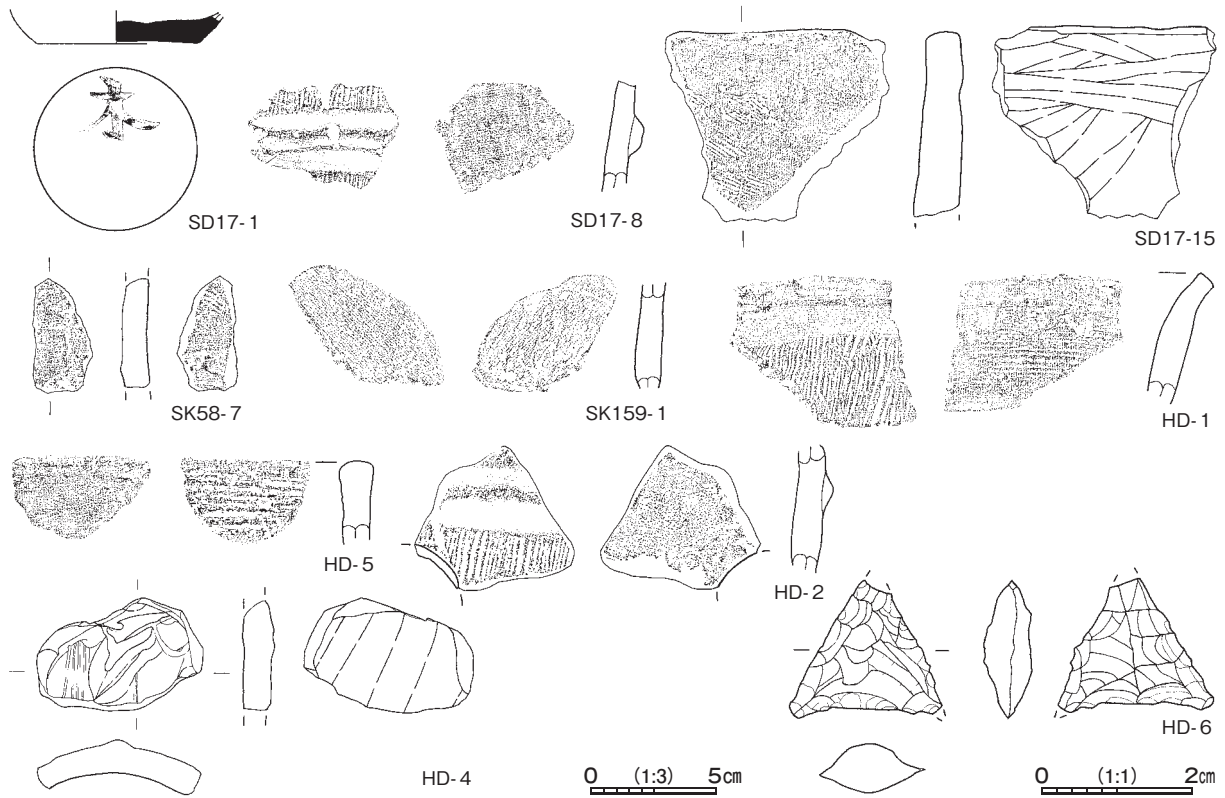
5 その他の遺構と遺物（第102・137図 第106～110表 PL13・43・48）

今回の調査では、時期を明確にできなかった土坑121基、溝跡2条、粘土採掘坑1基を確認している。遺構は、一覧と全体図（第102図）に示す。

(1) 土坑

第106表 その他の土坑一覧

番号	位置	主軸方向	平面形	規模		壁面	底面
				長軸×短軸(m)	深さ		
32	B4j5	-	円形	0.64 × 0.60	24	外傾	平坦
33	B4i6	-	円形	0.22 × 0.22	40	外傾	U字状
34	B4i6	-	円形	0.36 × 0.36	32	外傾	U字状
35	C4b8	N-2°-E	楕円形	0.55 × 0.43	42	外傾	U字状
36	C4b9	N-66°-W	楕円形	0.38 × 0.27	20	外傾	U字状
37	C4b9	-	円形	0.24 × 0.23	17	外傾	U字状
38	C4a4	N-61°-E	楕円形	0.38 × 0.32	29	外傾	U字状
40	C4a9	-	円形	0.29 × 0.28	25	外傾	U字状
41	B4j9	-	円形	0.82 × 0.77	21	外傾	平坦
42	B4j9	N-5°-E	楕円形	1.00 × 0.78	30	外傾	有段
43	C4a5	N-57°-E	楕円形	1.28 × 1.15	20	外傾	平坦
44	C4b9	N-29°-E	楕円形	0.50 × 0.42	28	外傾	U字状
45	C4c9	-	円形	0.25 × 0.24	36	外傾	U字状
46	C4c9	N-52°-E	楕円形	1.04 × 0.68	32	外傾	平坦
47	B4j7	N-35°-E	楕円形	0.30 × 0.26	25	外傾	U字状
48	C4b0	N-64°-W	楕円形	0.86 × (0.72)	52	外傾	平坦
49	B4a4	N-30°-E	楕円形	1.22 × 0.58	13	外傾	平坦
50	B4b5	N-37°-E	隅丸長方形	1.53 × 1.18	15	外傾	平坦
51	B4b5	N-31°-E	隅丸長方形	2.03 × 0.83	21	外傾	平坦
52	B4c4	N-52°-W	隅丸長方形	1.88 × 1.30	16	外傾	平坦
53	B4b3	N-32°-E	楕円形	1.52 × 0.81	13	外傾	平坦
54	C4b8	-	円形	0.27 × 0.25	31	外傾	U字状
55	B4d3	N-72°-W	楕円形	1.04 × 0.69	7	外傾	平坦
56	B2a0	-	円形	0.60 × 0.60	6	外傾	平坦
57	B4b3	-	円形	0.92 × 0.87	6	外傾	平坦
58	B4i0	N-46°-E	楕円形	[1.48] × 1.38	76	外傾	平坦
59	B4j0	N-38°-W	楕円形	1.12 × (0.52)	50	外傾	平坦
60	B5j1	N-43°-W	楕円形	2.46 × (0.92)	68	外傾	平坦
61	B4a2	N-45°-W	楕円形	0.36 × 0.28	21	外傾	U字状
63	B4b4	N-42°-W	楕円形	0.30 × 0.27	46	外傾	U字状
64	B4a5	N-41°-W	楕円形	1.28 × 0.86	16	外傾	平坦
65	B4a5	N-43°-E	隅丸長方形	1.44 × 1.08	57	外傾	平坦
66	B4a2	N-24°-E	楕円形	0.54 × 0.34	30	外傾	U字状
67	A4f1	N-47°-E	楕円形	0.70 × 0.60	75	外傾	U字状
68	A4f1	N-64°-E	楕円形	2.19 × 1.29	30	外傾	平坦
69	A3e8	-	円形	0.74 × 0.72	20	外傾	U字状
70	A3e7	N-80°-E	楕円形	1.26 × 0.71	23	外傾	平坦
71	A3g8	-	円形	0.41 × 0.39	33	外傾	U字状
72	B2c3	N-26°-E	楕円形	0.63 × 0.40	44	外傾	U字状
73	B2c4	-	円形	0.35 × 0.34	49	直立	U字状
74	B2b2	-	円形	0.46 × 0.43	37	外傾	U字状
75	B2d4	-	円形	(0.30) × (0.11)	40	内傾	U字状
76	B2d5	N-56°-E	楕円形	0.40 × 0.32	21	直立	U字状
77	B2c3	N-43°-W	楕円形	0.48 × 0.37	16	外傾	U字状
78	B2c3	N-51°-W	楕円形	0.48 × 0.35	18	外傾	U字状
79	B2c3	-	円形	0.29 × 0.28	19	外傾	U字状
80	B2c3	-	円形	0.33 × 0.31	13	外傾	U字状
81	B2b2	N-38°-W	隅丸長方形	1.59 × 0.60	9	外傾	平坦
82	B2b3	-	円形	0.35 × 0.34	15	外傾	U字状
83	B2b2	N-60°-E	楕円形	0.65 × 0.77	14	外傾	U字状
84	B2c2	-	円形	0.48 × 0.46	26	外傾	U字状
85	B3b0	N-77°-W	隅丸長方形	0.96 × 0.49	29	外傾	平坦
86	A3h6	N-68°-E	隅丸長方形	1.06 × 0.65	40	外傾	平坦
87	A3g7	N-19°-W	長方形	1.02 × 0.56	16	外傾	平坦
88	A3j6	N-34°-E	楕円形	(0.88) × 0.85	44	外傾	U字状
89	A3c8	N-84°-E	楕円形	(0.41) × 0.37	18	外傾	U字状
90	A3c9	-	円形	0.39 × 0.38	16	外傾	U字状
93	A3i8	N-58°-E	隅丸長方形	2.20 × 0.96	26	外傾	平坦
94	A3i5	N-40°-E	楕円形	0.78 × 0.61	14	外傾	平坦
95	A3h6	N-5°-E	隅丸長方形	2.13 × 0.89	37	外傾	平坦
96	A3g6	N-31°-E	楕円形	1.24 × 1.07	31	外傾	平坦
97	B3b9	N-16°-W	隅丸長方形	1.38 × 0.50	14	外傾	平坦
98	B3b9	-	円形	0.72 × 0.68	42	外傾	平坦
100	B3b6	N-43°-W	楕円形	1.22 × 0.75	24	外傾	U字状
101	A3i5	-	円形	0.34 × 0.33	14	外傾	U字状
102	B3b6	N-39°-W	楕円形	1.21 × 0.90	18	外傾	平坦
103	B3b6	N-46°-E	楕円形	0.70 × 0.50	28	外傾	U字状
104	B3b6	N-52°-E	楕円形	0.88 × 0.76	18	外傾	平坦
105	A4i2	N-28°-E	楕円形	1.98 × (0.86)	45	外傾	平坦
106	A3g8	N-65°-E	楕円形	0.81 × 0.70	14	外傾	平坦
107	A3g8	N-83°-E	楕円形	1.04 × 0.80	45	外傾	U字状
109	A3j4	N-63°-E	楕円形	0.83 × 0.68	47	外傾	U字状
111	A3j2	N-12°-E	長方形	1.40 × 0.60	45	外傾	有段
113	A3i4	-	円形	0.60 × 0.58	28	外傾	U字状
114	B3c5	N-32°-E	長方形	2.04 × 0.58	17	外傾	平坦
115	B3a4	N-43°-W	楕円形	1.19 × 0.66	20	外傾	平坦
116	B3a4	N-57°-E	楕円形	1.90 × 0.87	50	外傾	平坦
117	B3h3	N-11°-E	長方形	2.20 × 1.17	36	外傾	有段
118	A2e6	N-26°-W	楕円形	1.06 × 0.90	28	外傾	平坦
119	A2g8	N-11°-E	楕円形	1.10 × 0.68	29	外傾	U字状
120	B3b4	N-29°-W	楕円形	1.03 × 0.73	19	外傾	U字状
121	A3i3	N-57°-E	楕円形	1.50 × 0.77	35	外傾	U字状
122	A3i7	N-28°-E	楕円形	0.50 × (0.35)	40	外傾	U字状
123	A3i7	N-33°-E	楕円形	0.64 × 0.58	28	外傾	U字状
124	A2j7	N-52°-W	楕円形	1.18 × 0.82	25	外傾	平坦
125	B2b5	-	円形	0.53 × 0.50	13	外傾	平坦
126	A3g1	N-48°-E	楕円形	1.06 × 0.80	30	外傾	U字状
127	B4i7	-	円形	0.24 × 0.23	30	直立	U字状
129	A2h3	N-80°-E	楕円形	1.66 × 1.32	40	外傾	平坦
131	A2g1	N-29°-E	楕円形	1.38 × 1.10	64	外傾	U字状
132	B4a6	N-57°-W	楕円形	0.83 × 0.71	30	外傾	平坦
133	A2i9	-	円形	0.89 × 0.86	25	外傾	平坦
135	A2g1	N-24°-E	楕円形	2.08 × 1.72	62	外傾	平坦
137	B4j3	N-17°-E	楕円形	1.16 × 1.02	33	外傾	平坦
138	B2c7	N-17°-W	楕円形	1.25 × 1.03	27	外傾	皿状
139	B2c7	N-2°-W	隅丸長方形	0.64 × 0.56	22	外傾	U字状
140	A2g9	N-7°-E	長方形	1.50 × 0.75	10	外傾	平坦
141	B4b7	-	円形	0.74 × 0.70	15	外傾	U字状
142	B3a4	-	円形	0.58 × 0.54	18	外傾	U字状
143	B2b9	N-3°-W	楕円形	1.10 × 0.94	38	直立	平坦
144	B2a0	N-9°-W	楕円形	0.90 × 0.80	24	外傾	平坦
145	B3d9	N-11°-E	楕円形	2.06 × 1.40	26	外傾	皿状
146	B3c9	-	円形	1.10 × 0.96	20	外傾	U字状
147	B3i9	-	円形	0.80 × 0.78	14	外傾	U字状
148	B3g9	N-11°-E	楕円形	0.56 × 0.40	22	外傾	平坦
149	B3b7	-	円形	1.15 × 1.10	23	外傾	平坦
150	B3d6	N-20°-W	楕円形	1.63 × 1.36	40	外傾	U字状
151	B3c7	N-81°-E	楕円形	1.05 × 0.72	40	外傾	平坦
152	B3c7	N-90°-E	楕円形	1.04 × 0.65	30	外傾	平坦
153	B3b7	N-39°-E	楕円形	(1.08) × 0.83	42	外傾	U字状
154	B4e1	N-2°-W	楕円形	0.75 × 0.64	40	外傾	U字状
155	B3c7	N-47°-E	楕円形	1.30 × 0.69	52	有段	平坦
156	B3b6	N-37°-E	隅丸長方形	0.97 × 0.51	17	外傾	平坦
157	B3c6	N-85°-E	楕円形	0.87 × 0.65	14	外傾	平坦
158	B4f1	-	円形	0.78 × 0.75	40	外傾	U字状
159	B3f0	N-83°-E	楕円形	(1.52) × 1.41	43	外傾	U字状
160	B3e0	N-8°-W	楕円形	1.15 × 1.03	34	外傾	平坦
161	B4e1	N-8°-W	楕円形	0.80 × (0.52)	26	外傾	U字状
162	B4e1	N-25°-E	楕円形	1.05 × 0.82	20	外傾	U字状
163	B3d9	N-42°-E	楕円形	0.58 × 0.38	38	外傾	U字状
165	B3c6	N-30°-E	楕円形	1.73 × 0.76	50	垂直	平坦



第 137 図 第 17 号溝跡, 第 58・159 号土坑・遺構外出土遺物実測図

第 107 表 第 17 号溝跡, 第 58・159 号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
SD17-1	須恵器	坏	—	(14)	64	長石・石英・雲母・赤色粒子	7.5YR6/4 におい褐色	普通	底部墨書「木」	覆土中	PL43
番号	埴輪・種類	長さ・幅・厚さ	胎土	色調	焼成	調整・整形の特徴他		出土位置	備考		
SD17-8	円筒・突帯部	(4.7)・(6.0)・0.9	白雲母・石英・長石・赤色粒子 胎土③	7.5YR5/3 におい褐	普通	突帯部:台形・M字 外面:一次調整タテハケ, 二次調整ヨコナデ 内面:タテナデ		覆土中	PL48		
SD17-15	形象・馬形	(7.5)・(8.8)・1.7	白雲母・石英・長石・花崗岩・赤色粒子 胎土①	10YR3/2 黒褐	普通	外面:斜方向ハケ後ヨコナデ 内面:斜方向ナデ後上部のみヨコナデ 障泥カ 輪積み剥離面が黒色になっていることから外面を黒色で着色カ		覆土中	PL48		
SK58-7	形象・不明	(4.5)・(2.4)・1.1	白雲母・石英・長石・赤色粒子・炭化物 胎土②	2.5YR6/6 橙	良好	外面:剥離面にハケ目		覆土中	PL48		
SK159-1	形象・不明	(5.0)・(6.2)・1.0	白雲母・石英・長石・赤色粒子・炭化物 胎土②	2.5YR5/6 明赤褐	良好	外面:ナデ 内面:ナデ		覆土中	PL48		

(2) 溝跡 (第 102・137 図 第 108 表 PL12・13・48)

第 108 表 その他の溝跡一覧

番号	位置	方向	平面形	規模				断面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(m)					
17	B4h8 ~ C4a4	N - 48° - E	直線	18.95	1.29 ~ 2.03	0.44 ~ 1.19	0.08 ~ 0.17	浅いU字状	外傾	自然	土師器・須恵器・埴輪	PL13
19	B2c9 ~ B3g2	N - 6° - E S - 6° - E	屈曲	(21.65)	0.28 ~ 0.55	0.16 ~ 0.40	0.12 ~ 0.22	浅いU字状	外傾	自然	縄文土器	PL12

(3) 粘土採掘坑 (第 102 図 第 109 表 PL13)

第 109 表 その他の粘土採掘坑

番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径(m)	深さ(m)					
2	B3h7 ~ B3i0	N - 74° - E	不定形	8.5 × 4.3	0.58 ~ 1.28	内傾・外傾	凹凸	自然	石棺石材	本跡→TM9 周溝 PL13

(4) 遺構外出土遺物 (第 137 図 第 110 表 PL48)

第 110 表 遺構外出土遺物一覧

番号	埴輪・種類	長さ・幅・厚さ	胎土	色調	焼成	調整・整形の特徴他		出土位置	備考	
HD-1	円筒・口縁	(5.6)・(7.4)・1.2	白雲母・黒雲母・石英・長石・赤色粒子 胎土①	5YR5/6 明赤褐	普通	外面:一次調整タテハケ, 二次調整ヨコナデ 内面:横ハケ 二次調整で口縁部ヨコナデ		表採	PL48	
HD-2	円筒・突帯部	(6.7)・(6.3)・1.1	白雲母・石英・長石 胎土①	5YR5/4 におい赤褐	普通	外面:一次調整タテハケ, 二次調整ヨコナデ 内面:ナデ 突帯接着押圧痕		表採	PL48	
HD-4	形象・機械カ	(4.4)・(6.6)・(0.9)	白雲母・黒雲母・石英・長石・赤色粒子・炭化物 胎土④	5YR6/6 橙	普通	外面:剥離面に貼り付け前に行った基部のハケ目調整 胎土から機械と同一個体と考えられる		表採	PL48	
HD-5	形象・不明	(3.3)・(5.4)・1.3	白雲母・黒雲母・石英・長石・炭化物 胎土④	5YR5/6 明赤褐	普通	外面:一次調整タテハケ, 二次調整ヨコナデ 内面:横ハケ 二次調整で口縁部ヨコナデ		表採	PL48	
番号	器種名	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴		出土位置	備考
HD-6	石鏡	安山岩	1.8	20	0.6	(1.54)	基部中央やや彎入 先端部欠損		表採	

第4節 総括

1 はじめに

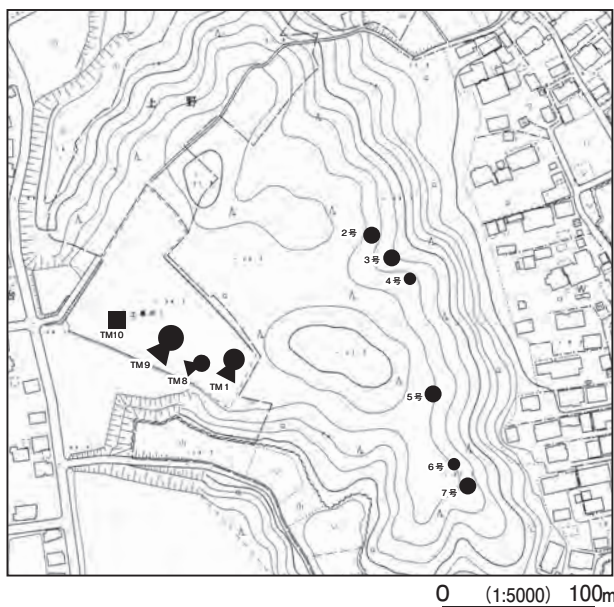
今回の調査で、古墳4基を確認した。つくば市の調査では7基からなる古墳群であったが、今回の調査で新たに3基の古墳を確認した。市に問い合わせ、第8～10号墳として調査を行った。

第1・8・9号墳は、桜川右岸の古墳の特徴から、規模は中型の前方後円墳（帆立貝形）に分類され、主体部の主軸方向は西向きあるいはやや西を向く。一棺への追葬を普通とする「変則的古墳」が一般とされていることや¹⁾、つくば市の調査により、第1号墳からは最低3個体の人骨が確認されていることから²⁾、第8・9号墳においても追葬が行われていた可能性が考えられる。第8号墳石棺内からは3本の刀子が出土しており、やはり複数回の追葬が想定される。

以下、第1号墳周溝出土の埴輪について検討し、総括とする。

2 上境作ノ内古墳群第1号墳出土の埴輪について

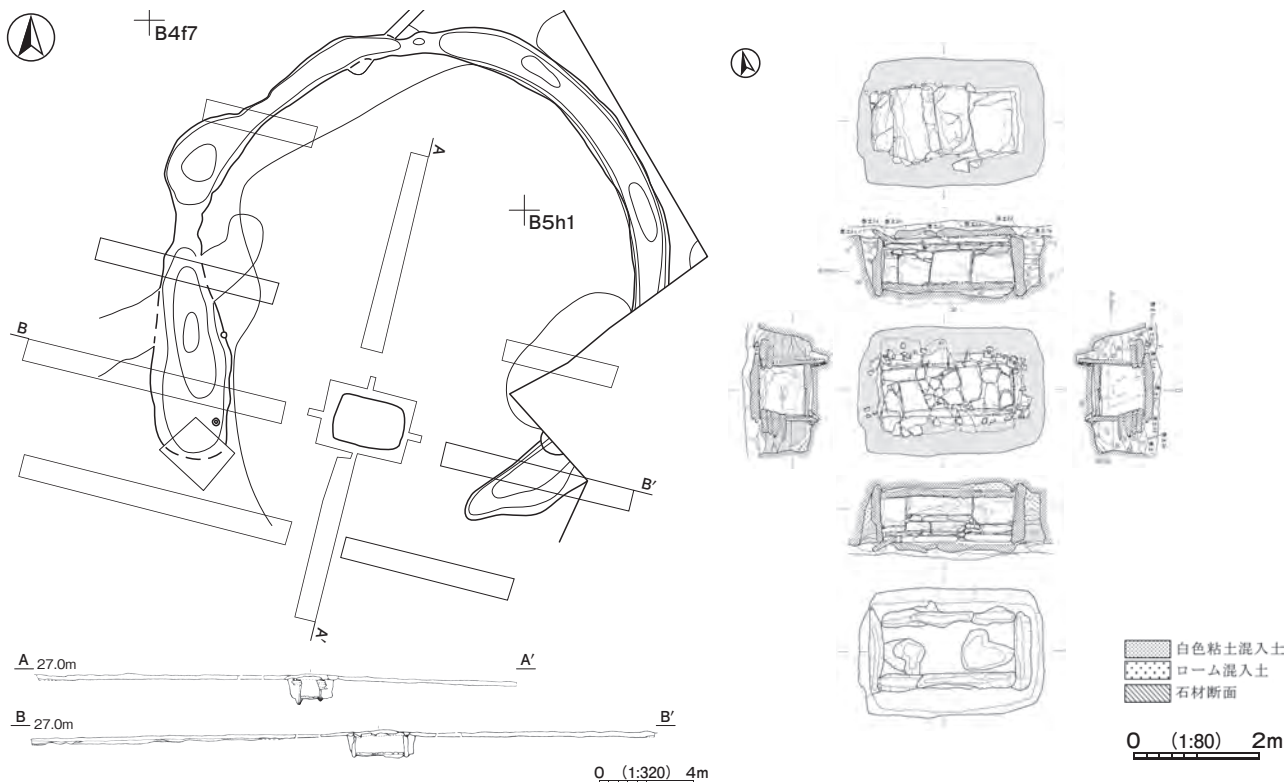
桜川流域の古墳は約113基の古墳が確認されている。そのうち、埴輪を有する古墳は31基である。そのうち左岸では99基のうち27基から円筒埴輪、形象埴輪（人物・動物）、器財埴輪が、右岸では14基のうち4基から円筒埴輪が確認されている。当古墳群は右岸に位置しており、形象埴輪、器財埴輪の出土例は稀である。特に第1号墳から出土した機織形埴輪は、全国的にみても稀な埴輪であり、機織形埴輪としては3例目、有機台腰機（地機）としては2例目である。



第138図 上境作ノ内古墳群分布図

第1号墳からは最低3個体の人骨が確認されていること

から²⁾、第8・9号墳においても追葬が行われていた可能性が考えられる。第8号墳石棺内からは3本の刀子が出土しており、やはり複数回の追葬が想定される。



第139図 第1号墳箱式石棺展開図

註 2) から縮小・一部合成し転載

埴輪片は胎土から大まかに5群に分類でき、円筒埴輪は、胎土から色で茶・赤・灰色の3群、形象・器財埴輪は、雲母の含有で2群に分類できる。円筒埴輪はいずれも雲母を含み、つくば市内から出土している埴輪の特徴に当てはまる。形象埴輪のうち人物埴輪の上衣と想定される埴輪片は雲母を含まない胎土であり、他地域からの搬入品と考えられる。

3 上境作ノ内古墳群第1号墳出土の機織形埴輪について

まず、機織形埴輪とした135・136・137の特徴について確認する。

135の基台部に僅かに残る天井の突帯から、基台部の平面形は、楕円形や隅丸長形状と推測される。この基台天井部の長軸で片方へ寄った位置に柱状部2本が並立する。その一方の柱状部内側面には、粘土紐を貼付けた突帯が、基台天井部へ垂下し、並立する柱状部の間の中央を通して直線的に基台天井部の中心方向に伸びている。この並立する柱状部が、全国で初めて機織形埴輪2例が確認された栃木県下野市甲塚古墳の機織形埴輪のうち、有機台腰機（地機）が表現された機織形埴輪と類似していたため、これを基に検討した（以下、甲塚例とする）⁴⁾。その結果、本例135にある並立して直立した柱状部を、有機台織機の機台を支える「前脚部」として、また甲塚例にはみられない前脚部内側面を垂下する突帯は、有機台腰機にある招木から垂下して足元へ延びる「足紐」と推測し、機織形埴輪と確定した。なお、機織の機台上部構造については出土していないため不明である。また、136・137は同一地点から出土し、胎土・焼成等から同一個体として同定した。特に136は、成形方法が135の柱状部と同様で、長方板状の粘土板を芯材に用いていることから、地機の構造部材と同定した（以下、長方粘土板とする）。136の両端部の破断面には、それぞれに方向を違えて弧状に剥がれた接合部の痕跡を確認できる。この点に注意を要するが、高さ6.5cmの短い板材とすれば、機台の後脚部であった可能性も考えられる。なお、実測図の提示に際し、両端の剥離面を水平にしているが、長方粘土板を芯材としているため、これを直立させた場合、剥離痕のある面が斜めになる。この場合、基台の天井部面へ接合部が斜めとなるため、後脚部ではなく、他の構造部材となる可能性がある。

以上が、機織形埴輪とした根拠である。本例は、破片資料のため制約はあるが、構造を理解するため、甲塚例の有機台腰機（地機）の機織形埴輪を基に、本例の復元図（第140・141図）を提示する。以下、復元に際して検討した内容と、残存している部位に観られる甲塚例との相違点について触れる。

（1）復元図の作成について

基台部 本例前脚部の平面位置と基台部突帯の位置を基に、甲塚例の平面観と合う縮尺を検討し、縮尺2/3で位置関係がほぼ一致したことから、これを基にして基台部のサイズを復元し、さらに各部を復元した。なお、前脚部から垂下して天井部に延びる足紐表現と推測される突帯は、復元した基台平面形の長軸方向でほぼ中軸線上に位置していることを確認できる。

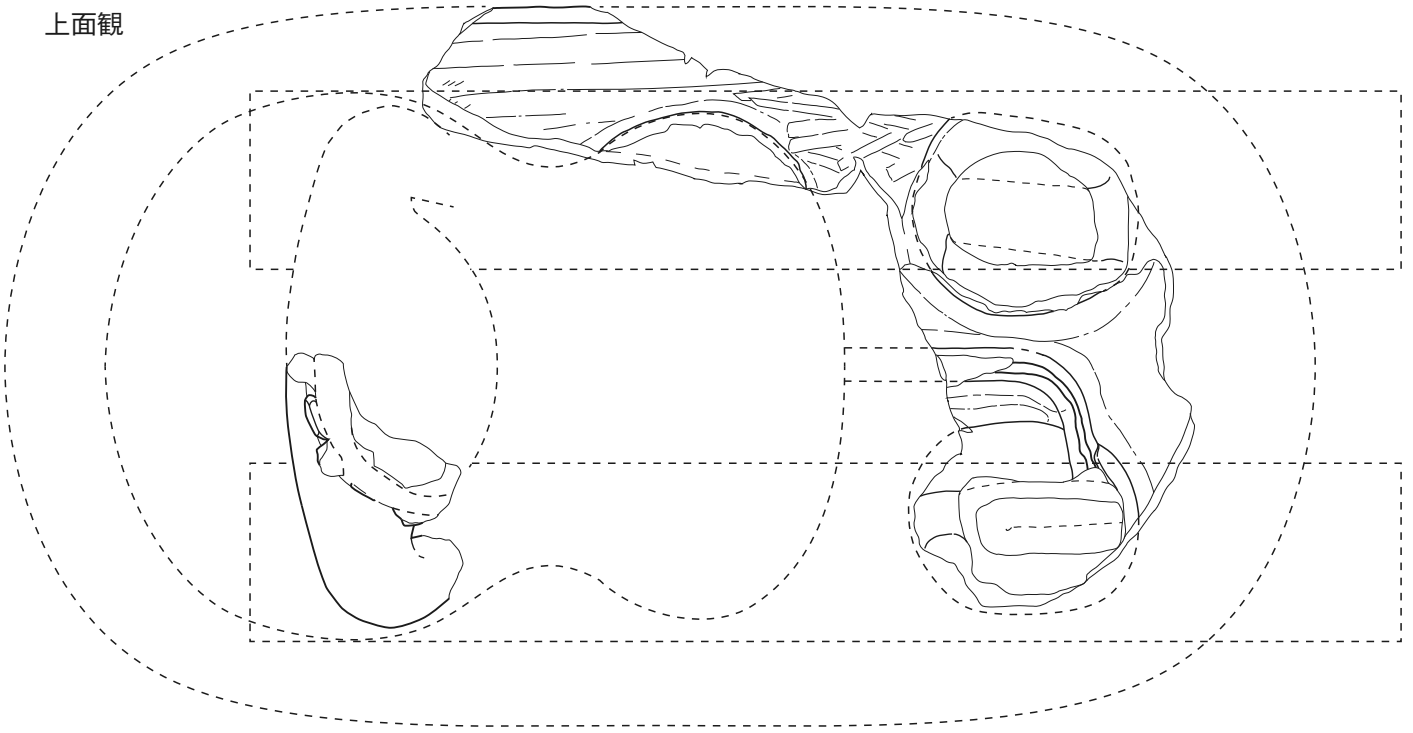
人物部 甲塚例の縮尺2/3でサイズが一致することから、甲塚古墳例の平・側面観の位置で復元した。また、基台に残る左前脚部後方の剥離痕は、甲塚例に下衣が表現されていることから、下衣の裳裾部分が剥離したと推測した。

機台部 基台部から推定される地機の機台部までの高さは、基台部へ接合するための補強粘土の大半がきれいに剥離して前脚部の芯材が残っていることから、残る芯材の上部に機台となる粘土板がのせられていたと想定した。

機台部の傾斜角の決定には、右脚部内側面の上部にある斜めに残る粘土剥離痕の傾斜角と、甲塚例の機台傾斜角が一致することから、残存する右脚の長方粘土板上部に機台が接する位置で、甲塚例の側面図を基に機台部を復元した。機台の長さは、推定した人物が座る部分と、機台の後脚部を推定して復元案とした。

正面観として示した機台部の間隔は、本例脚の剥がれ元ラインで織機機台部がのる位置としたことから、甲塚例より幅広で、前方で狭くならず平行で延びるよう復元した。

上面観

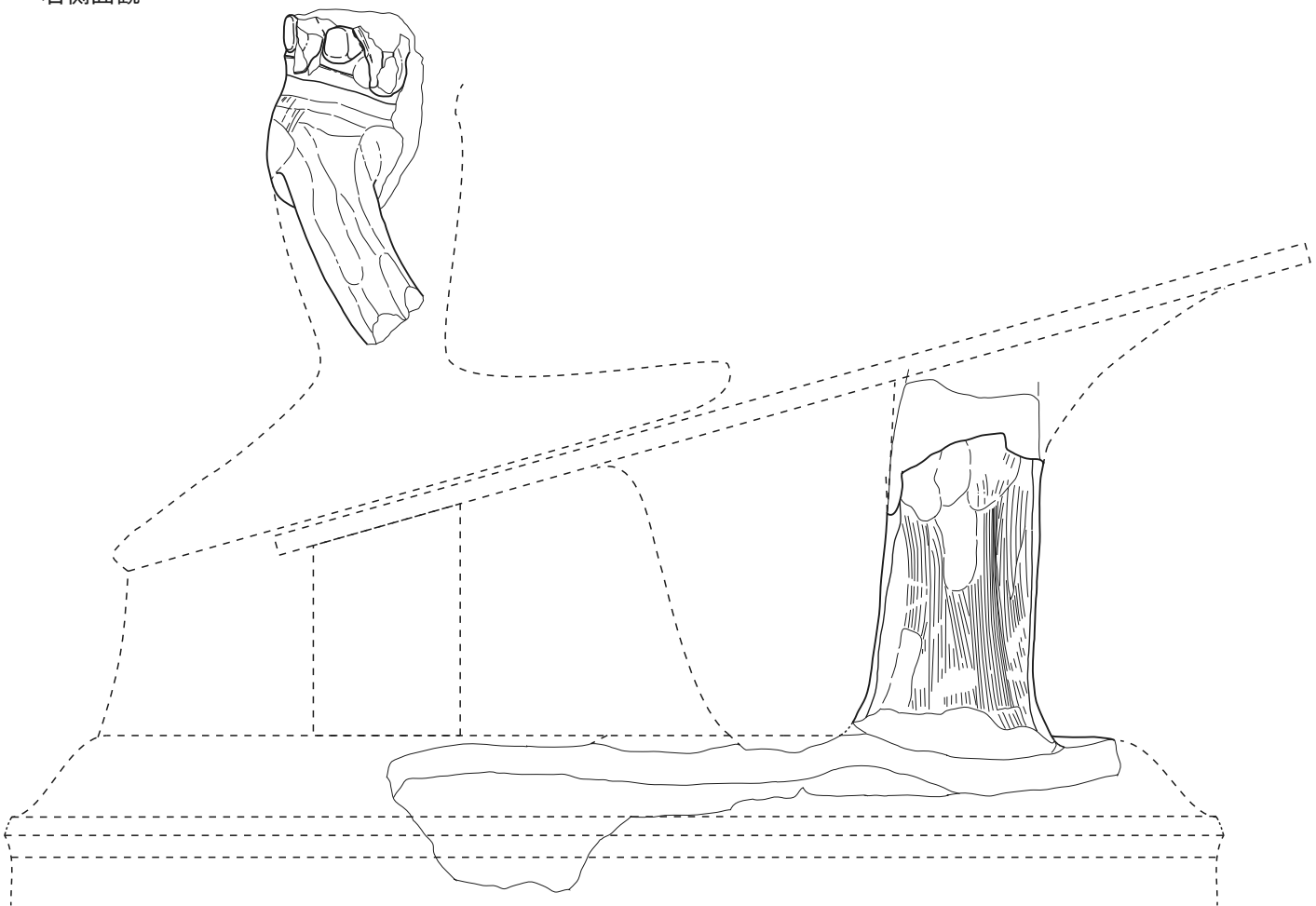


推定値

基台部 最大幅 38cm

最大長 69cm

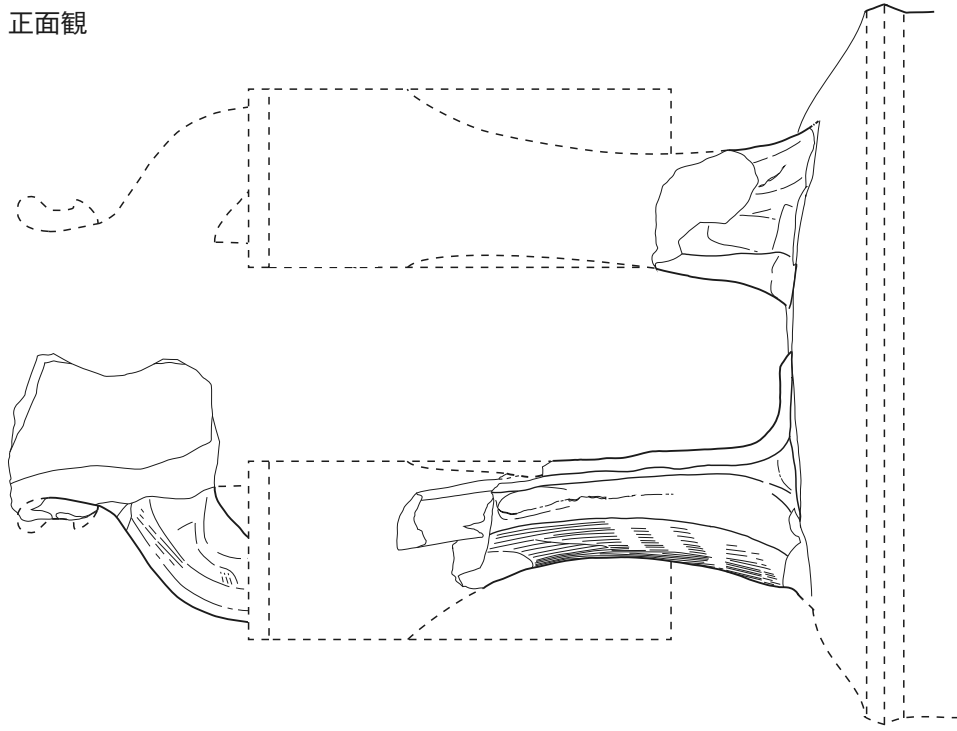
右側面観



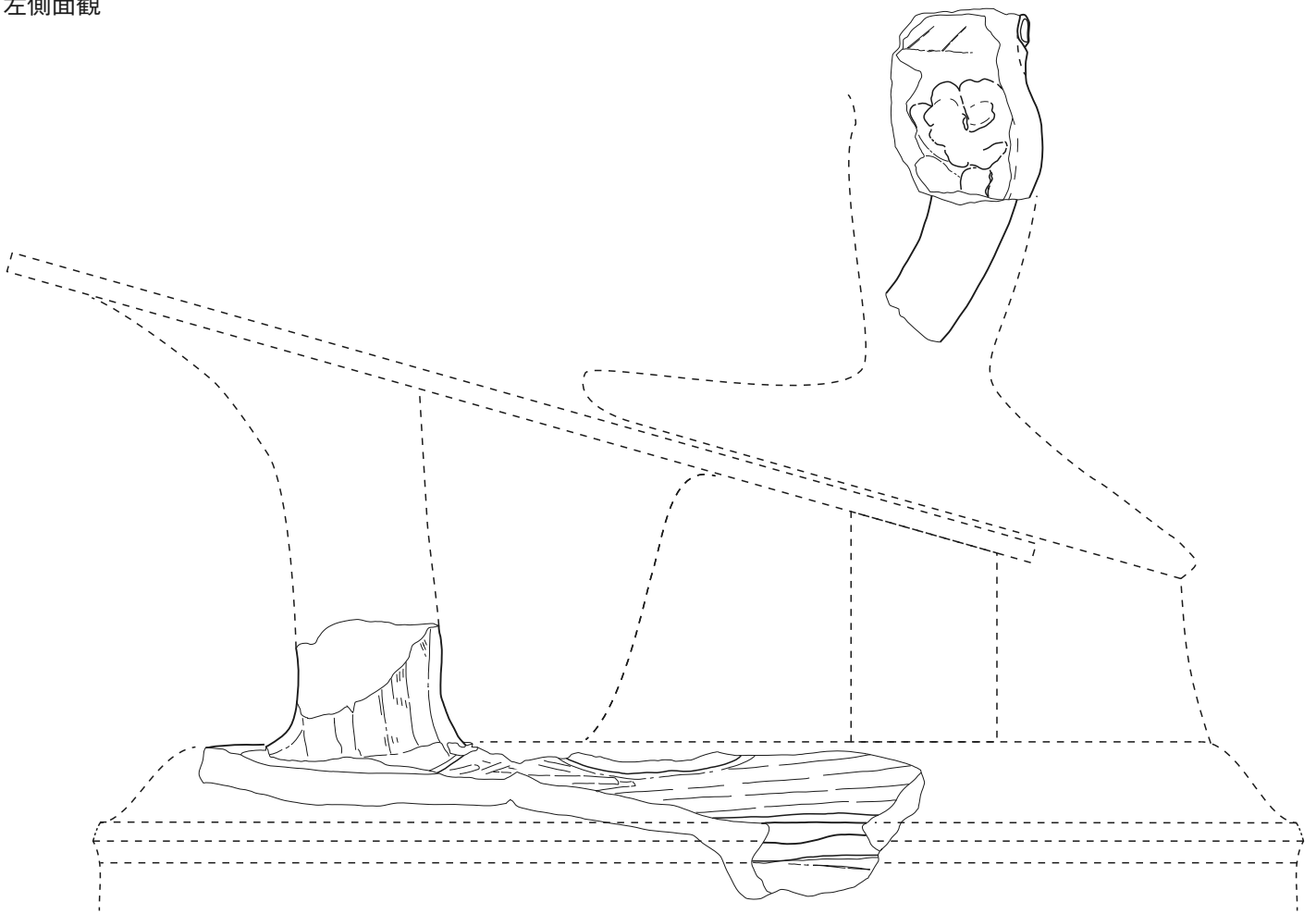
第 140 図 第 1 号墳出土機織形埴輪復元図 (1)

0 (1:4) 10cm

正面観



左側面観



第 141 図 第 1 号墳出土機織形埴輪復元図 (2)

0 (1:4) 10cm

(2) 下野市甲塚古墳出土例との相違点について

基台部について 本例の基台部は、基台部の外縁突帯が幅1～2cmの断面が逆台形の突帯であるのに対し、甲塚例は、外縁突帯を水平方向に大きく張り出させている。また、基台内面の中央やや後方に天井部の加重を支えていたとみられる補強帯がある。本例の天井部内面は、長軸方向の撫で調整のみで補強帯の痕跡はない。本例の基台は、甲塚古墳例よりも一回り小さいサイズであることから、基台の天井部をドーム状にすることで、上部の加重を分散させることが可能であったと推測しておきたい。

前脚部について 本例前脚部の残存高は甲塚例より1.2倍ほど高く、特に成形に大きな違いがある。甲塚例の前脚部は、横断面がほぼ円形の中空で成形されるのに対し、本例は横断面が長方形の中実で、粘土板を二つ折りした長方粘土板を芯材として成形されている。この長方板を立て、基台接合部の外側面に多くの粘土紐を縦にして補強粘土を貼付け、内側面側の接合部の粘土貼付けを少なくし長方形粘土板の平坦面を残すようにしている。接合補強粘土の外側面への偏りは、脚内側面を垂下し、両脚間を通る足紐の表現をするため、内側の間隔を保つようにして製作されたものと考えられる。この足紐表現の貼付け突帯の断面観察から、粘土紐は、折損上部は長方粘土板の表面に貼られた部分が、貼付け高さ0.7cm、幅1.0cmで、断面図を作成した脚部下方では高さ1.0cm幅1.5cmであり、基台部との接合補強粘土より突出するよう粘土紐を太くさせつつ、粘土紐1本で突帯表現と接合補強粘土を兼ねるように貼付けられている。

脚部が中空成形ではなく、中実成形であるため、本例の基台上部の構造の重量が重いと考えられる。あえて中実の前脚部を長方板状に製作されているのは、足紐表現もあることから実際の地機前脚部の板材を忠実に表現していると推測される。本例に招木から延びる足紐が忠実に表現されていることから、機台へ取り付けられた前脚部の板材の向きも正確に表現されていると推測される。よって、本例のモデルとなった地機の前脚部の構造は、板材の木端（こば）が機台に対して前後し、板目が側面となるように取り付けられていたと考えられる。この前脚部の形状の違いから、地機の前脚部材には、円柱状の丸材と板材が用いられる二者があったと推測される。なお、細部まで忠実に表現されたことを重視すれば、足紐は人物の足元まで延び、ともすれば足首に巻かれていた可能性もあろう。

4 おわりに

今回の調査では、古墳4基と同時期の集落は確認できず、台地縁辺部に位置する当遺跡は、墓域となっていたことがうかがえる。当古墳群と同時期の集落は、古墳の主軸方向から考え、調査区よりも南西側に広がっていることが想定される。古墳の規模や埋葬品から集落内の有力者の古墳と考えられる。

以上、検討不足や課題も多く、推測した部分も多々あるが、器財埴輪の復元図を提示することで、出土事例の少ない機織形埴輪の認定に資すれば幸いである。なお、本例を機織形埴輪とする際の検討から、実測図の表現方法や復元案の作成にあたり、賀来孝代氏に多大なるご助言いただいた。記して感謝申し上げます。

註

- 1) 石橋 充 「つくば市域の古墳群」『常陸の古墳群』2010年2月
- 2) 石橋 充 広瀬季一郎 関口友紀 「上境作ノ内1号墳発掘・確認調査」『つくば市内遺跡-平成12年度発掘調査報告-』つくば市教育委員会 2001年3月
- 3) 諸星政得 宮内良隆 今橋浩一『市之代古墳群第3号墳調査報告』取手市教育委員会 1978年3月
- 4) 木村友則 『甲塚古墳発掘調査報告書 下野国分寺跡史跡整備に伴う発掘調査報告書』栃木県下野市教育委員会 2014年3月

引用・参考文献

- 小川貴行 『上境作ノ内遺跡 中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書XVI』茨城県教育財団文化財調査報告第366集 2013年3月
- 土生朗治 賀来孝代 『千草B古墳群 下妻市高道祖字千草地区工業団地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査』下妻市教育委員 2017年3月
- 日高 慎 『東国古墳時代の文化と交流』2015年10月
- 東村純子 『考古学からみた古代日本の紡織』2011年3月
- 近藤義郎 『前方後円墳集成 東北・関東編』1994年1月

写 真 图 版



上境作ノ内古墳群第1号墳出土埴輪



上境滝の台古墳群全景（鉛直から）



上境作ノ内遺跡・上境作ノ内古墳群全景（鉛直から）



第3号墳 (西から)



第3号墳 墳丘残存部



第3号墳 埋葬施設埋没状況



第3号墳 埋葬施設



第3号墳 埋葬施設掘方

PL3



第3号墳 埋葬施設 (北壁)



第3号墳 埋葬施設裏込土土層 (北壁)



第3号墳 埋葬施設 (南壁)



第3号墳 埋葬施設裏込土土層 (南壁)



第3号墳 埋葬施設 (東壁)



第3号墳 埋葬施設裏込土土層 (東壁)



第3号墳 埋葬施設 (西壁)



第3号墳 埋葬施設裏込土土層 (西壁)

PL4



第2号竖穴建物跡



第3号竖穴建物跡



第1号方形竖穴遺構



第85号土坑 遺物出土状況



第193号土坑 遺物出土状況



第220号土坑 遺物出土状況



テストピット



テストピット 分析用試料土壌採取状況

PL5



第1号石器集中地点 遺物出土状況



第2号石器集中地点 遺物出土状況

PL6



第3号石器集中地点 遺物出土状況



第4号石器集中地点 遺物出土状況

PL7



第5号石器集中地点 遺物出土状況



第6号石器集中地点 遺物出土状況

PL8



第8号墳



第8号墳 箱式石棺蓋石確認状況



第8号墳 箱式石棺蓋石検出状況



第8号墳 箱式石棺内部確認状況 (1)



第8号墳 箱式石棺内部確認状況 (2)



第8号墳 箱式石棺内部確認状況 (3) (東から)



第8号墳 石棺内遺物出土状況 (東から)



第8号墳 箱式石棺 (鉛直)



第8号墳 石棺掘方裏込土土層断面 (西から)



第8号墳 石棺東側掘方小口裏込土土層断面 (南から)



第8号墳 石棺南東コーナー一部目地粘土 (南壁)



第8号墳 箱式石棺板石検出状況



第8号墳 埋葬施設掘方 (西から)

PL10



第1号墳



第1号墳 周溝南東部遺物出土状況 形象埴輪



第1号墳 周溝北東部遺物出土状況 形象埴輪



第1号墳 周溝南西部遺物出土状況 円筒埴輪

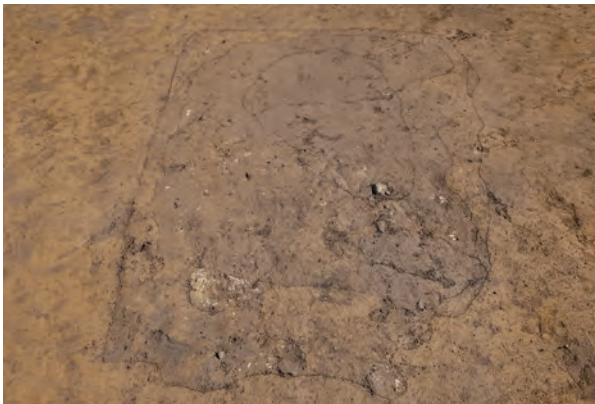


第1号墳 埋葬施設掘方

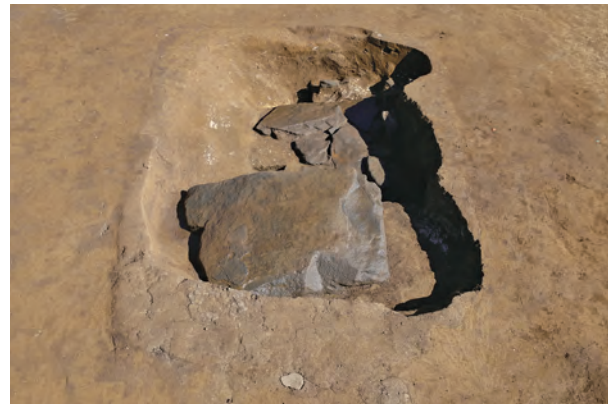
PL11



第9号墳



第9号墳 埋葬施設確認状況



第9号墳 埋葬施設内石材検出状況



第9号墳 埋葬施設（南から）



第9号墳 埋葬施設掘方

PL12



第10号墳



第10号墳 埋葬施設内石材検出状況



第10号墳 埋葬施設掘方



第19号溝跡

PL13



第17号溝跡（南から）



第3号溝跡（西から）



第95号土坑（右上）



第117号土坑



第128号土坑 遺物出土状況

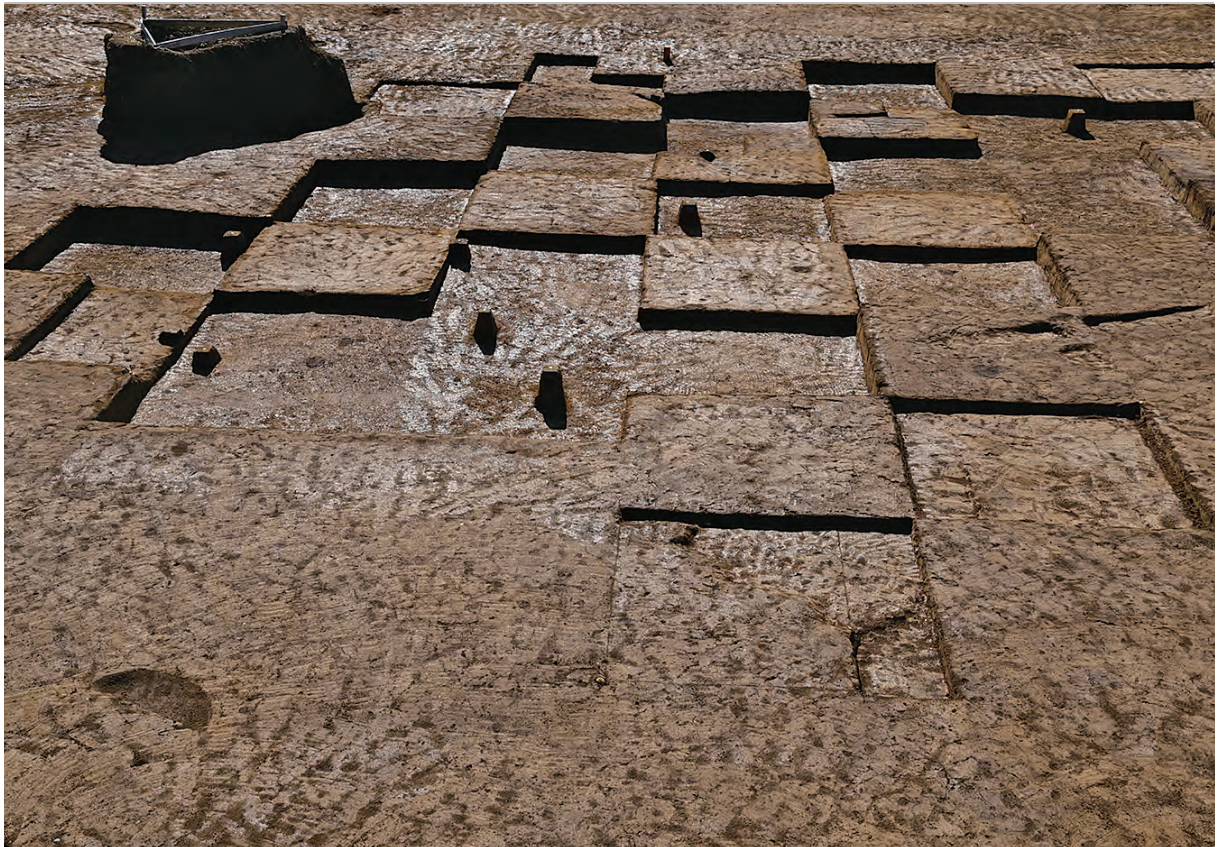


第1号粘土採掘坑

PL14



第1号石器集中地点 遺物出土状況



第3号石器集中地点 遺物出土状況



第5号石器集中地点 遺物出土状況



テストピット1



テストピット1 分析用試料土壌採取状況



テストピット2



テストピット3

PL16



第 1 · 2 号石器集中地点出土石器

PL17



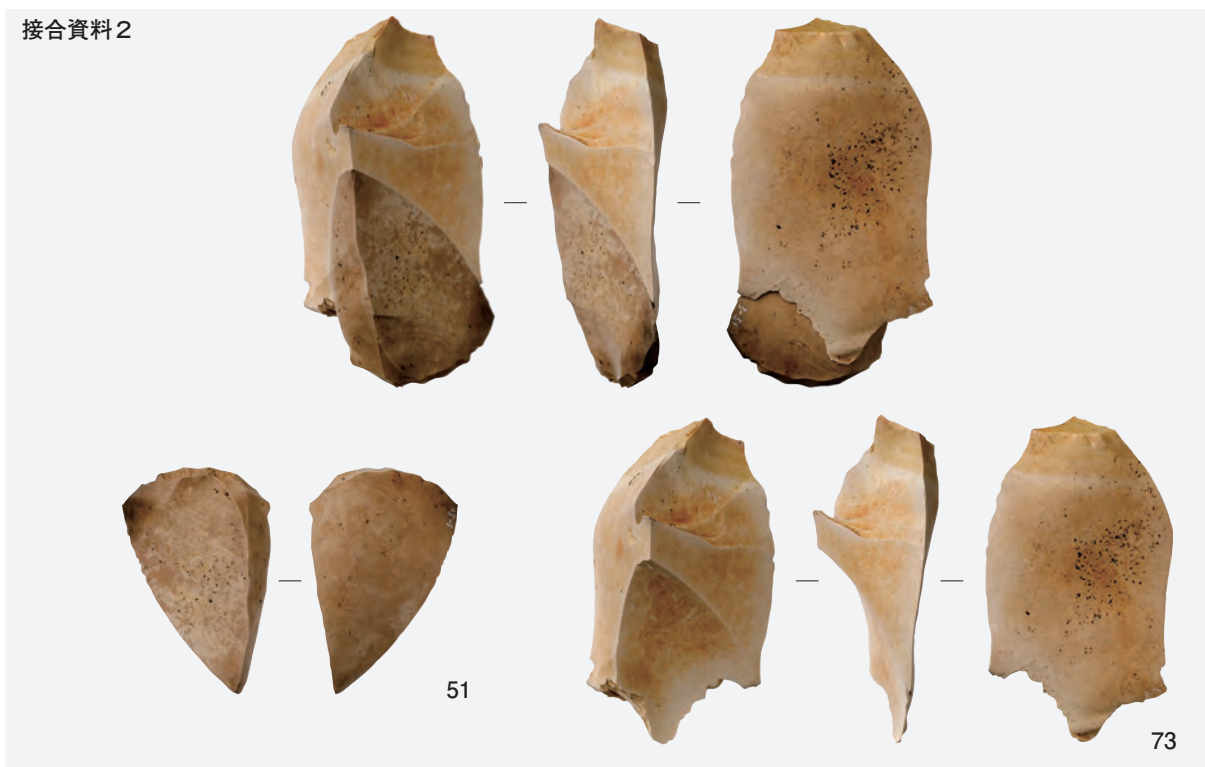
第2・3号石器集中地点出土石器



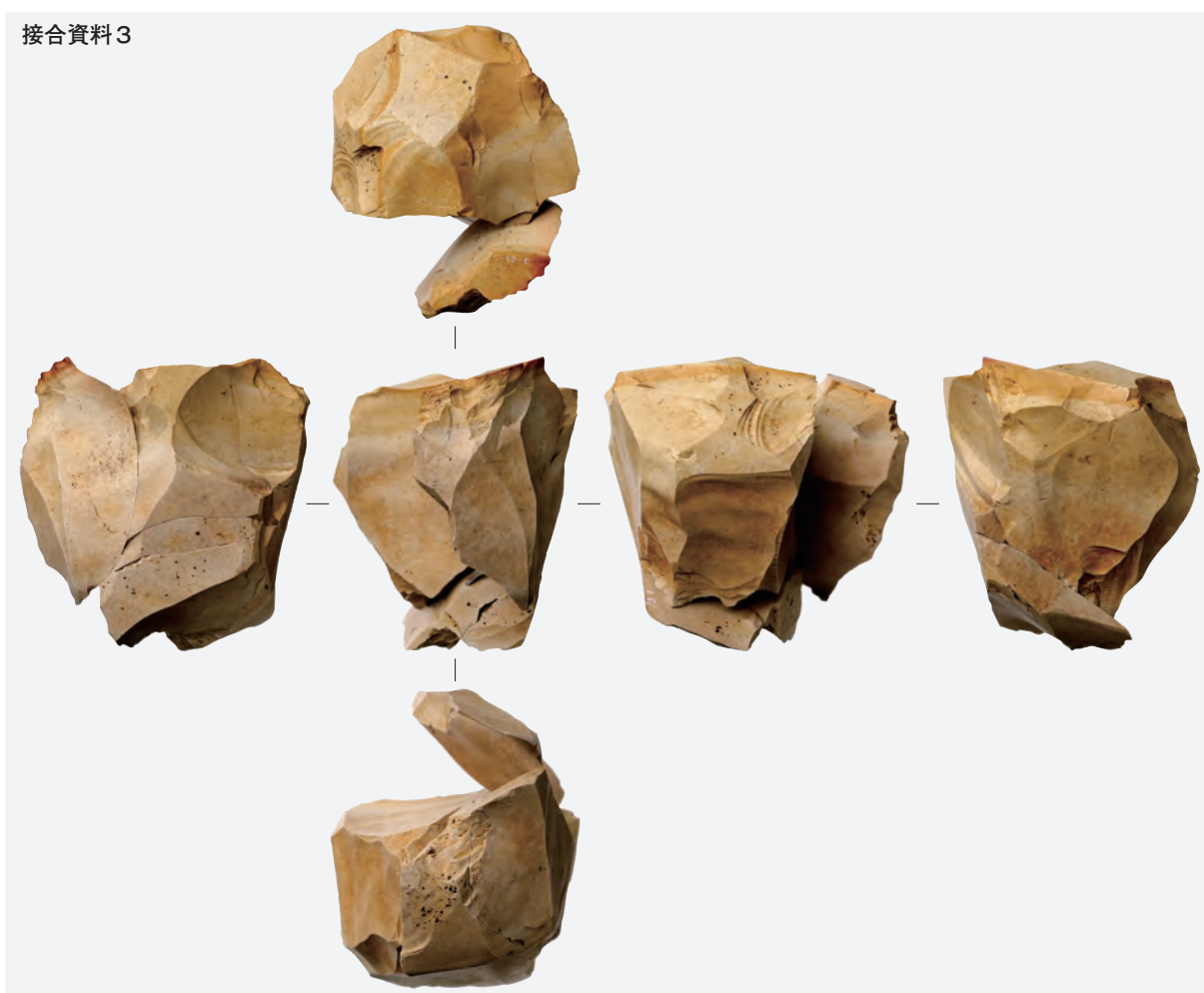
接合資料 1

第3号石器集中地点出土石器(接合資料 1)

接合資料2



接合資料3



第3号石器集中地点出土石器（接合資料2・3）

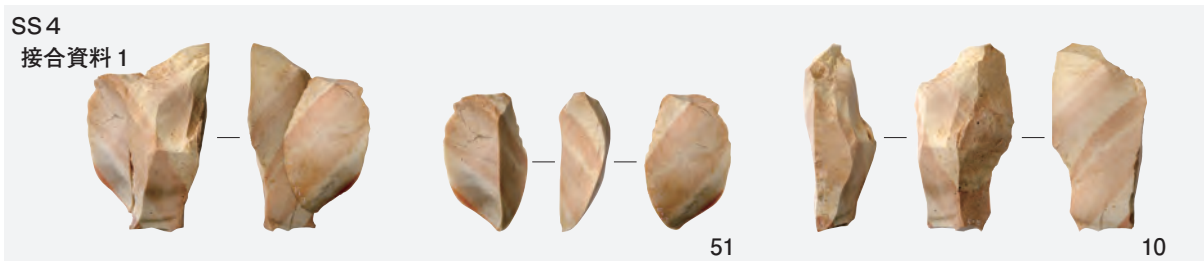
PL20

接合資料3



第3号石器集中地点出土石器（接合資料3）

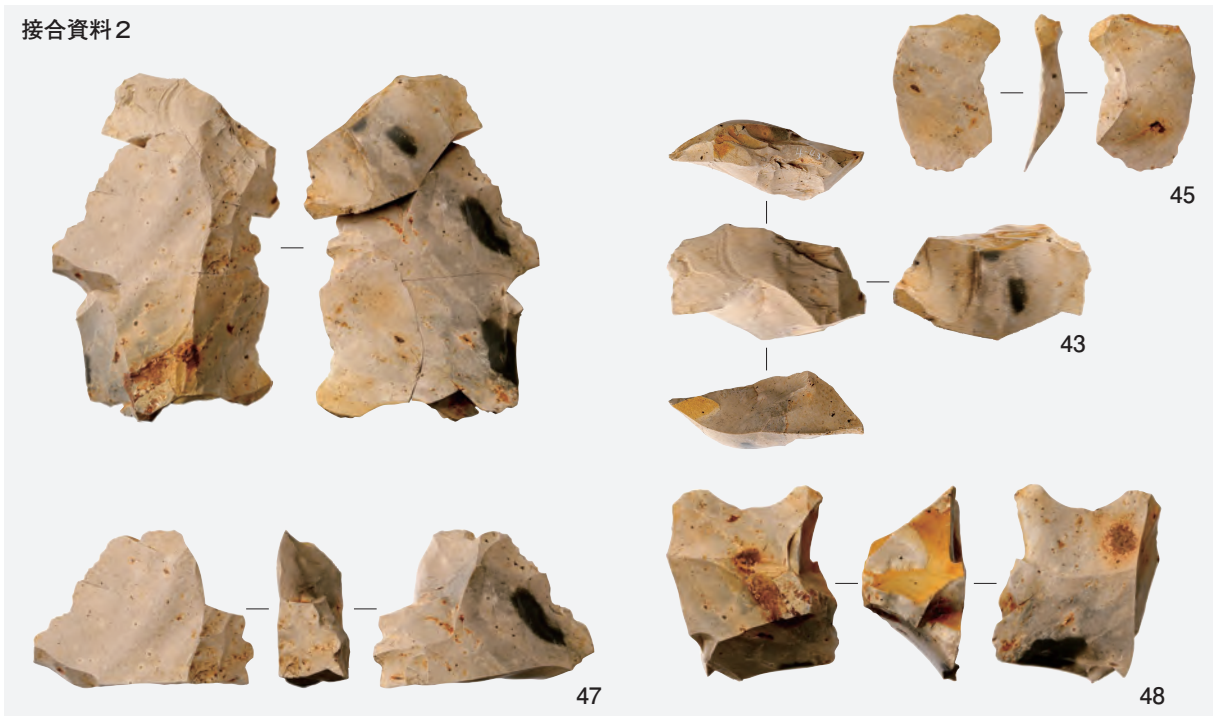
PL21



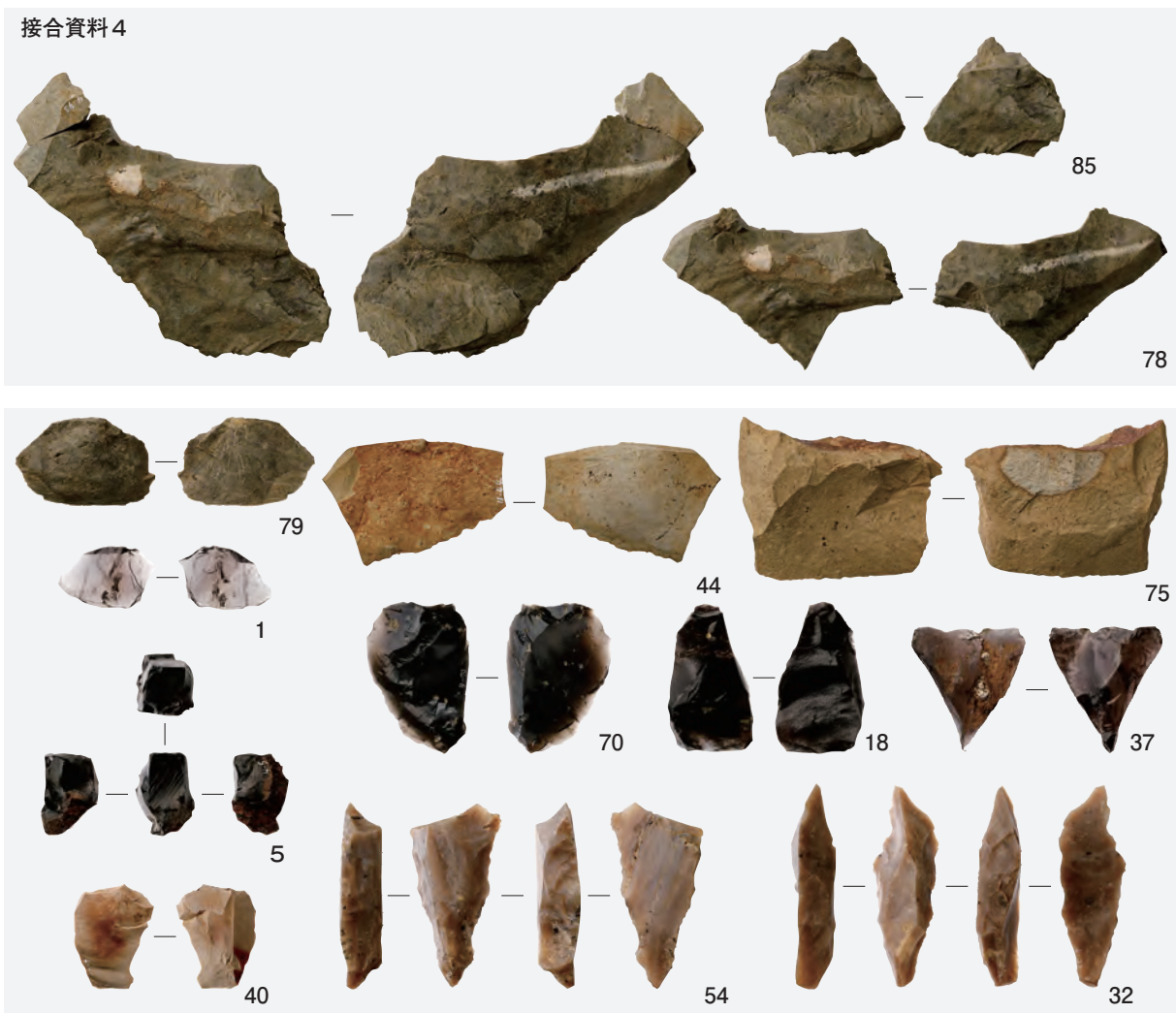
第3号石器集中地点出土石器(接合資料4)

第4号石器集中地点出土石器(接合資料1)

接合資料2



接合資料4

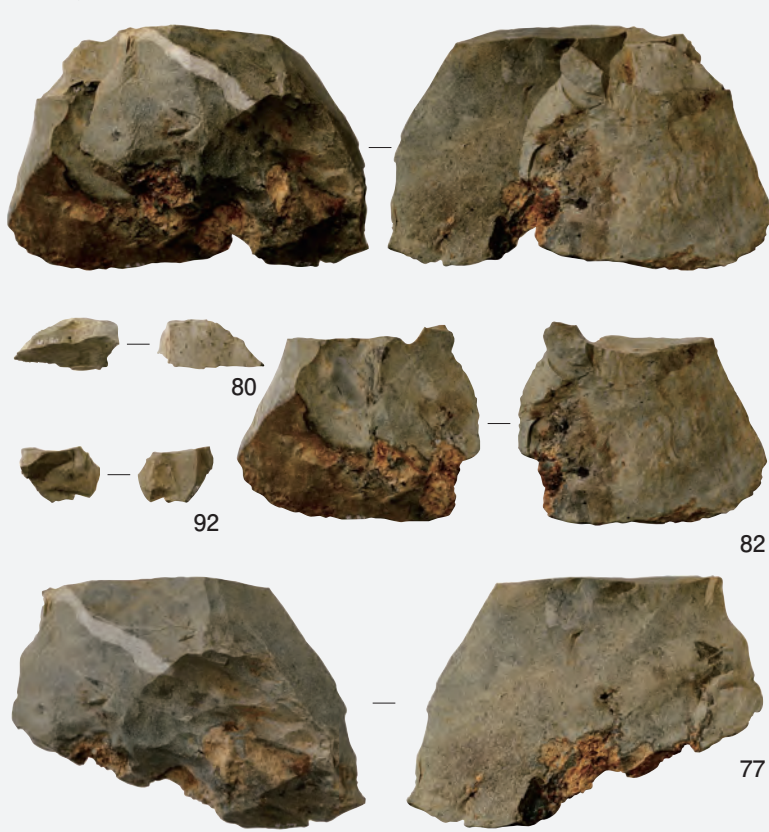


第4号石器集中地点出土石器（接合資料2・4）

接合資料3



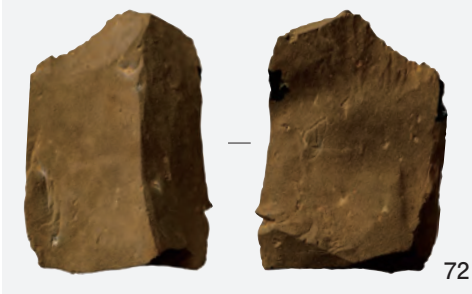
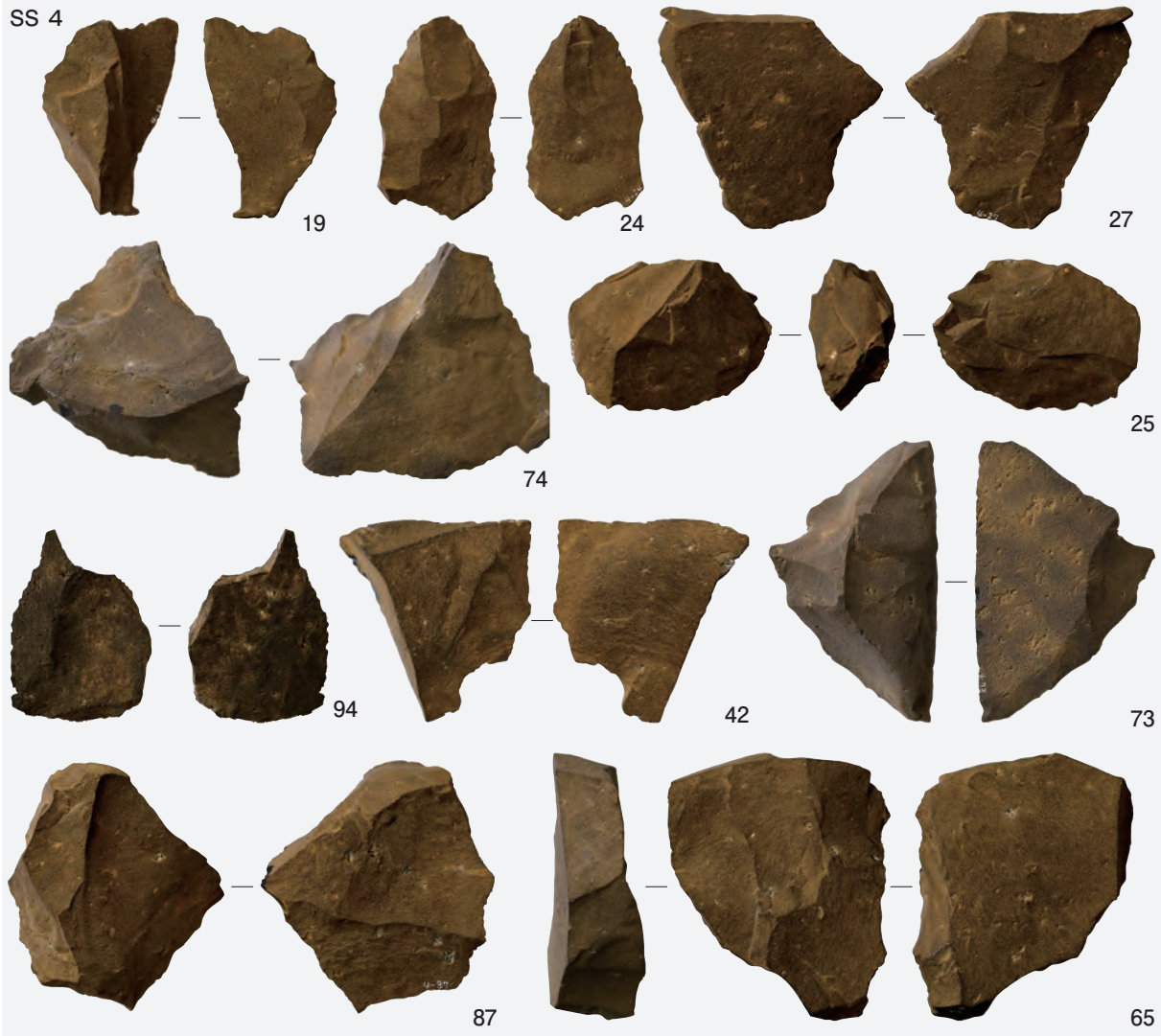
接合資料5



第4号石器集中地点出土石器（接合資料3・5）

PL24

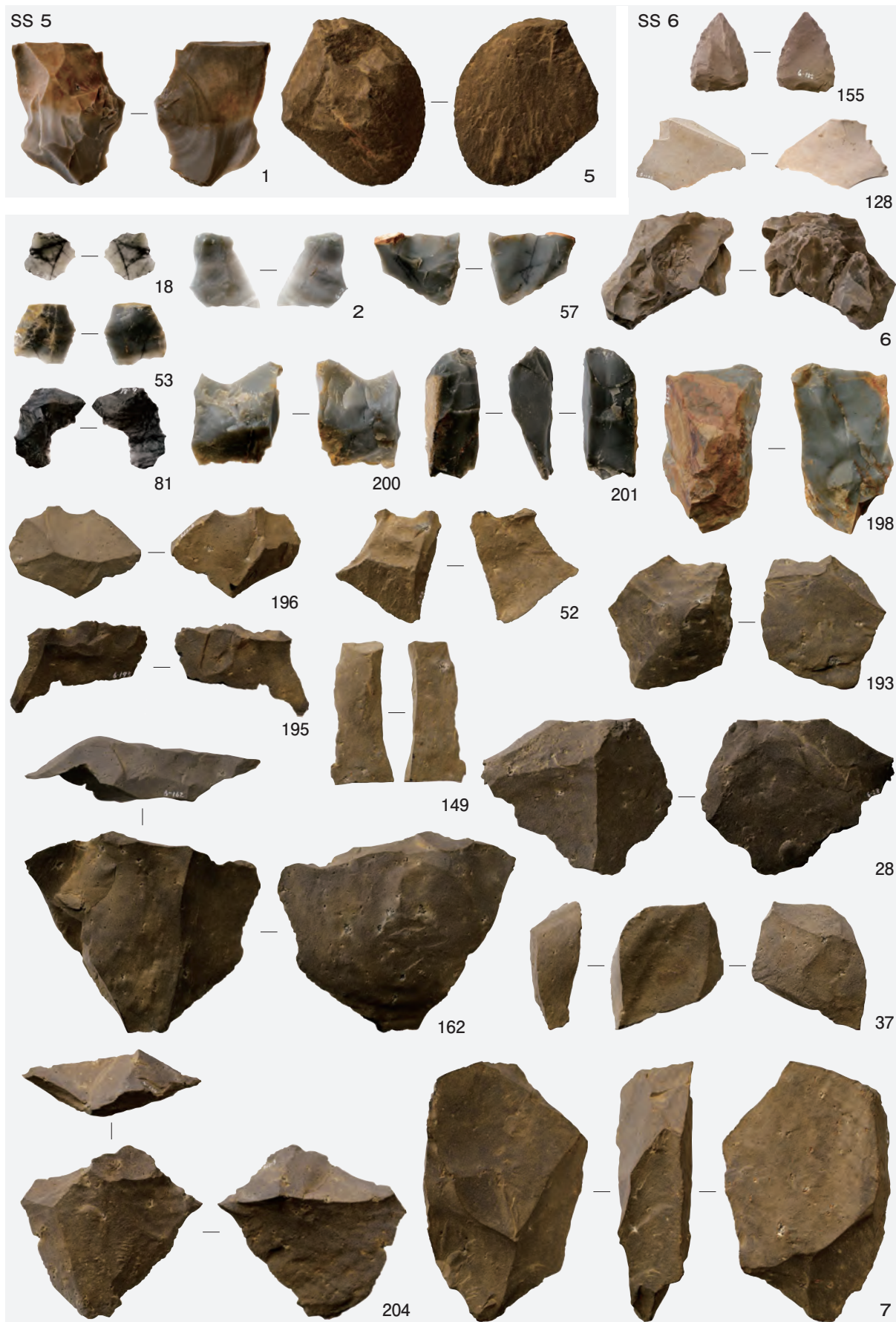
SS 4



第4号石器集中地点出土石器

第5号石器集中地点出土石器 (接合資料 1)

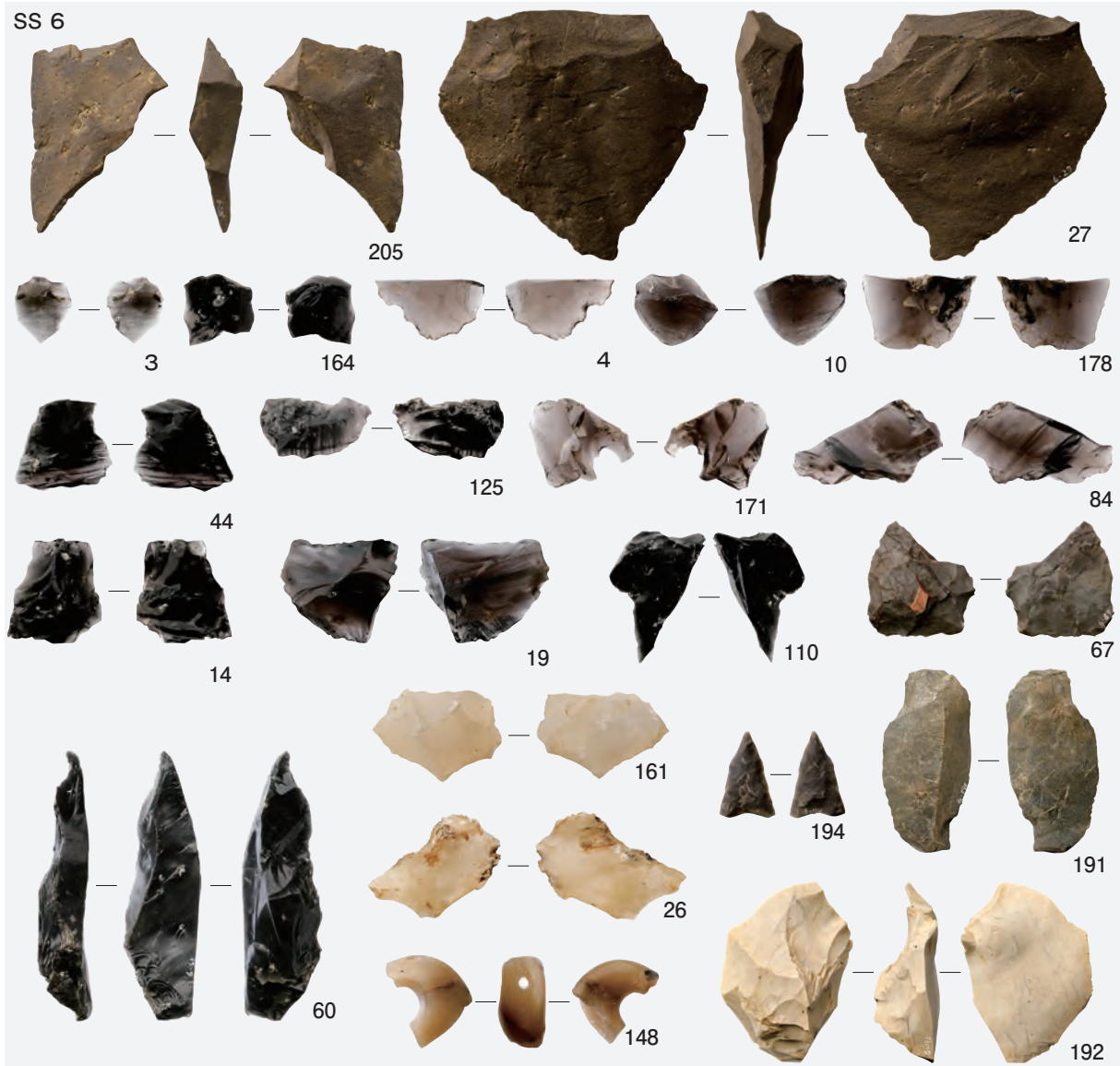
PL25



第5・6号石器集中地点出土石器

PL26

SS 6



集中地点外



第6号石器集中地点·集中地点外出土石器

PL27



集中地点外出土石器 (1)



集中地点外出土石器 (2)

PL29



第2・3・6号竖穴建物跡，第33・85号土坑出土遺物

PL30



第3·34·36·38·45·61·66·73·85·99号土坑出土土器

PL31



第78・85・96・113・126・130号土坑出土土器



第119 · 126 · 127 · 130 · 131 · 142 · 143 · 147 · 169 · 172 · 194 · 197 · 256号土坑出土土器

PL33



第 130・138・147・150・160・216・220・257・286・302 号土坑出土土器

PL34



第 193 · 242 · 260 · 261 · 276 号土坑，第 1 号溝跡，第 3 号墳，遺構外出土遺物

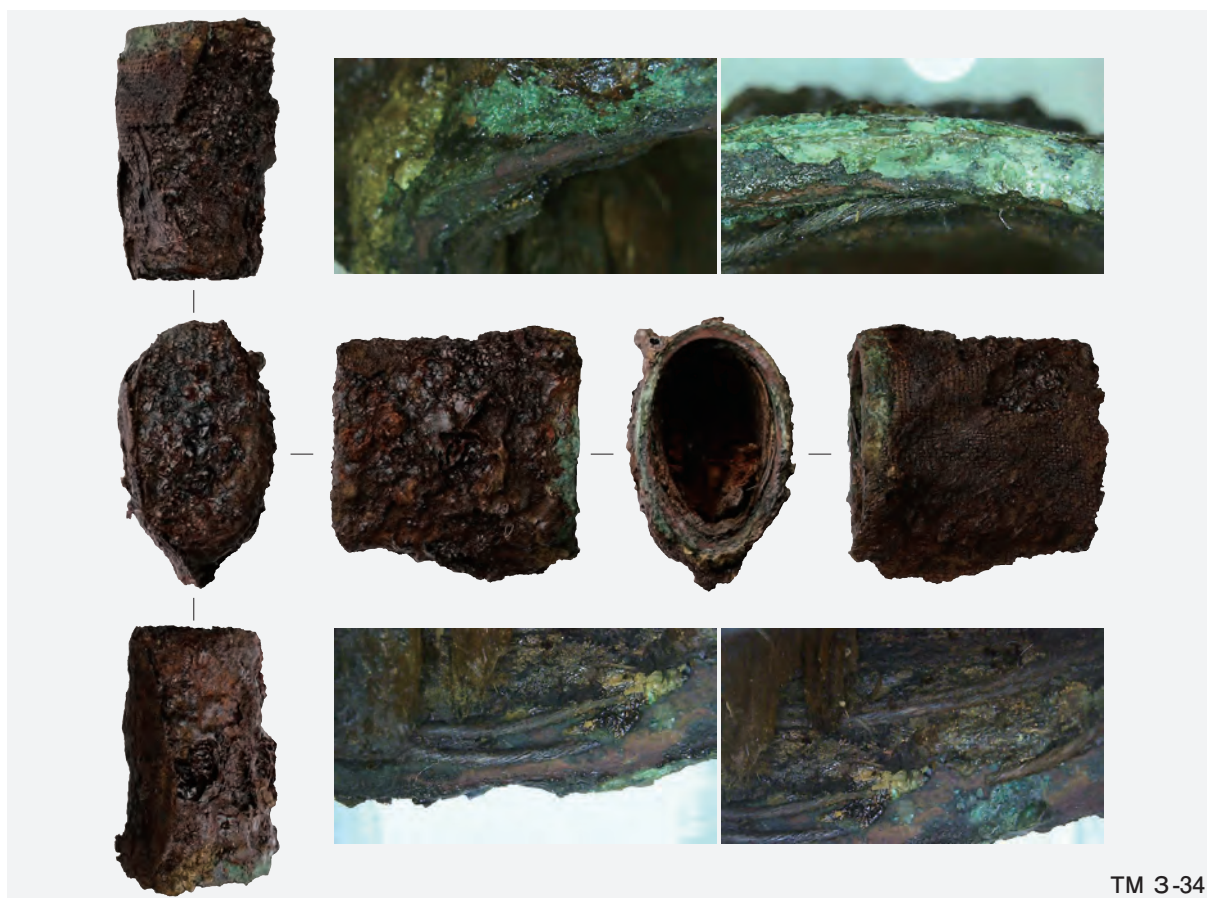
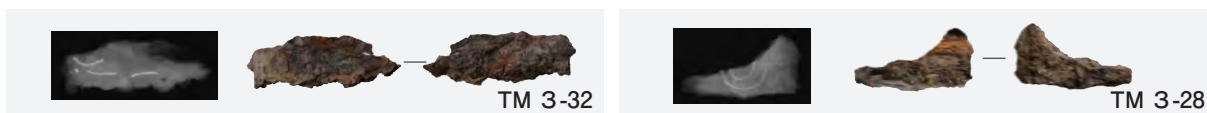
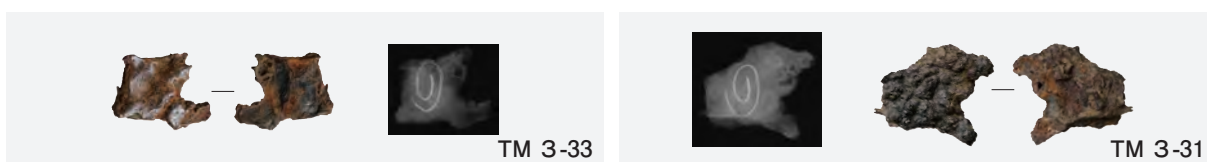
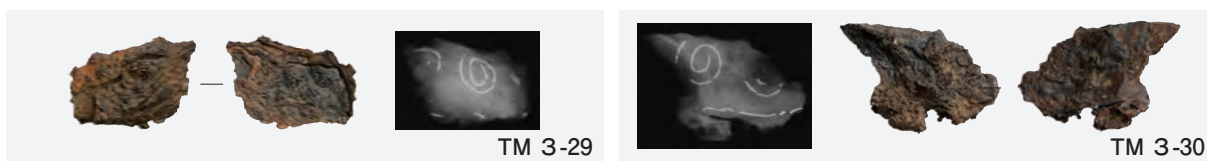
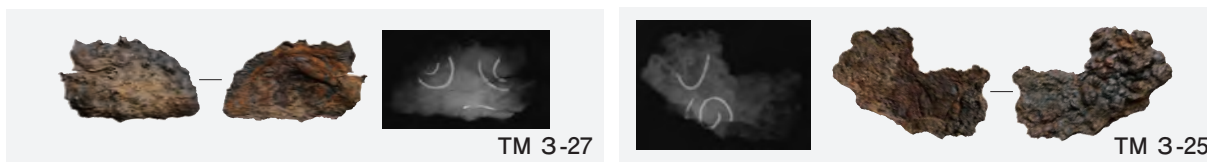
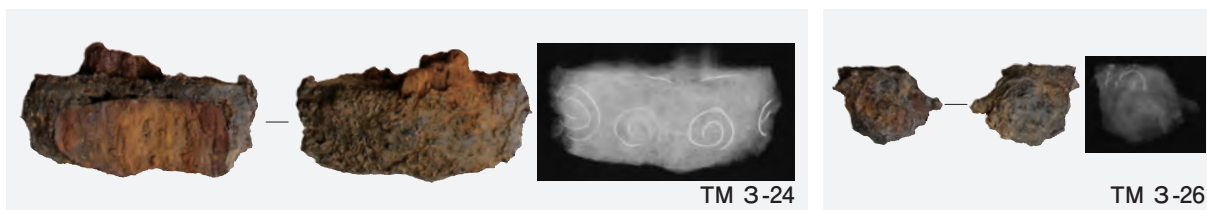


第3・4・5号石器集中地点，第11・66号土坑，第1号ピット群，遺構外出土石器
第3号墳出土金属製品（1）



第3号墳出土金属製品（2）

PL37

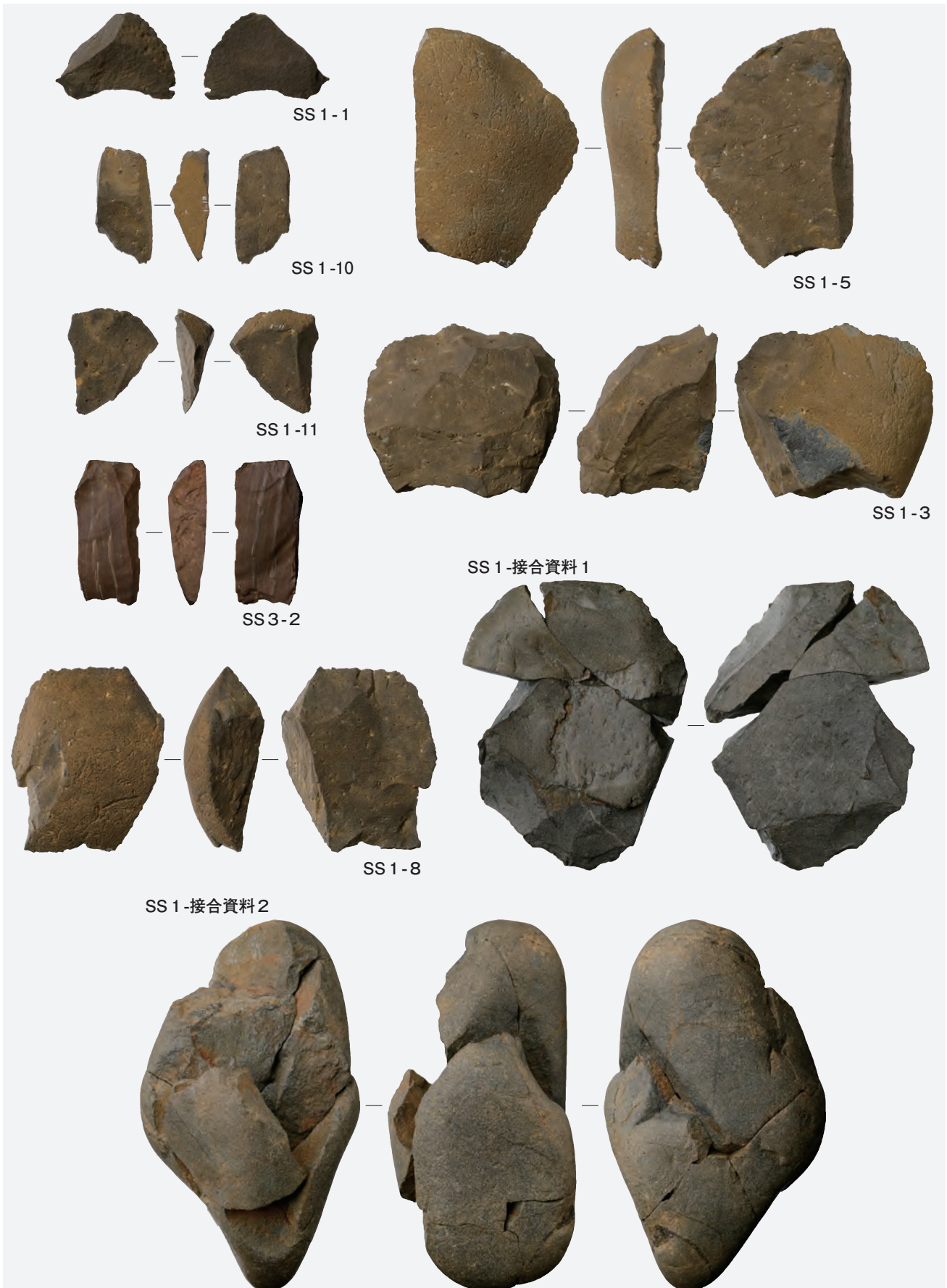


第3号墳出土金属製品 (3)

PL38



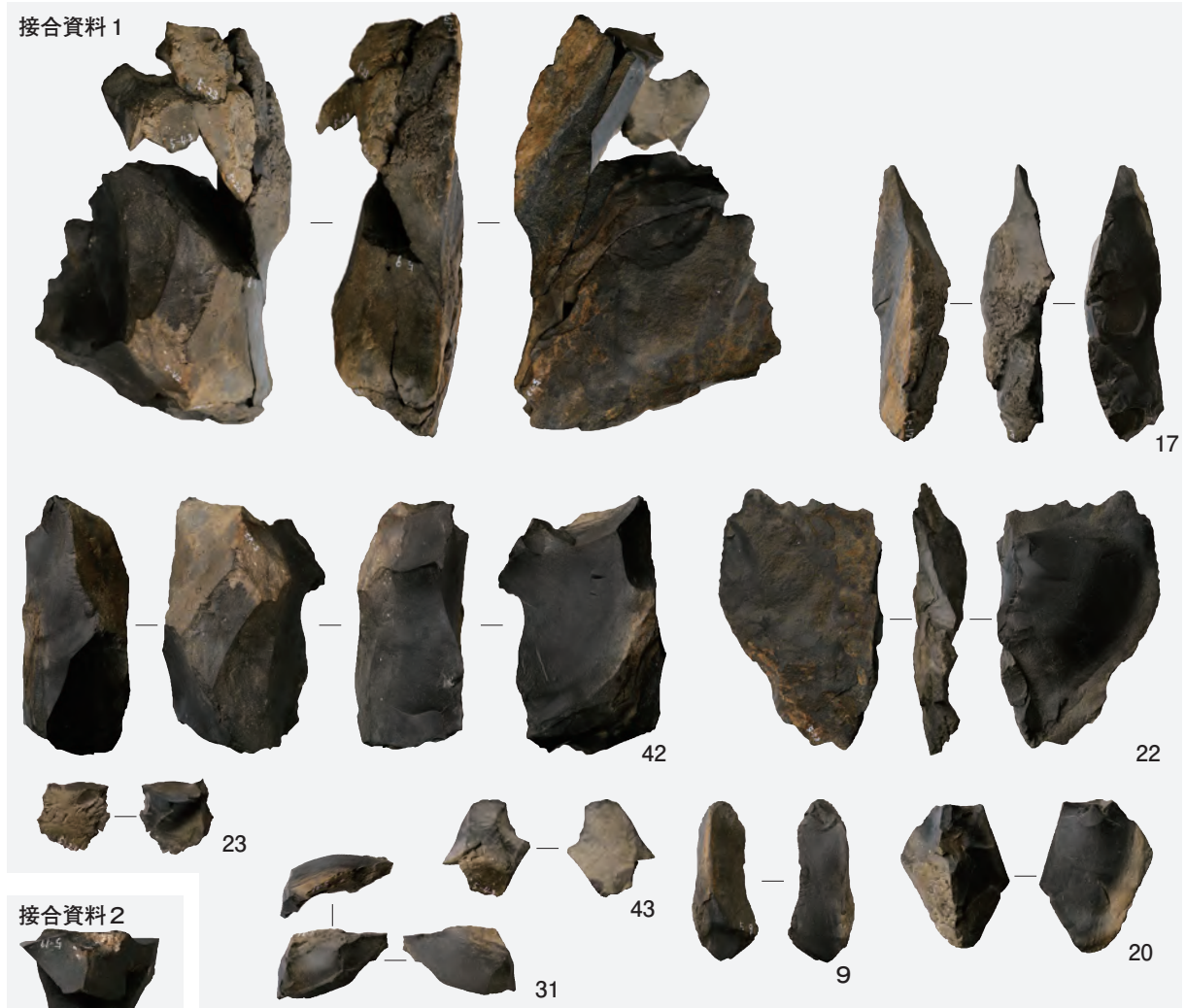
第3号墳出土ガラス製品（2倍に拡大）



第 1 号石器集中地点出土石器（接合資料 1・2）
第 3 号石器集中地点出土石器

PL40

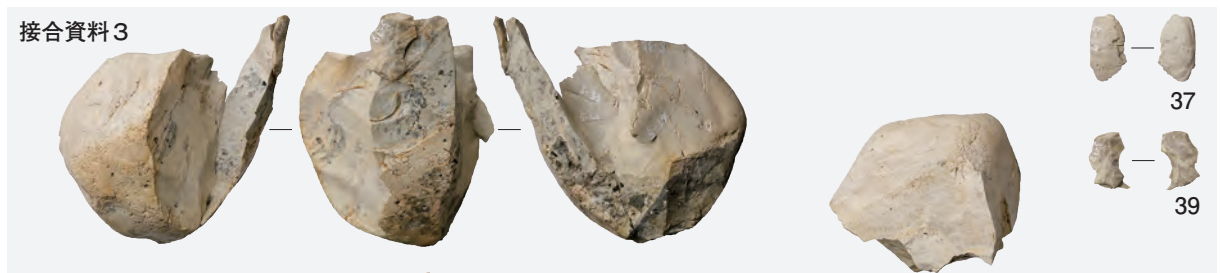
接合資料 1



接合資料 2



接合資料 3



接合資料 6



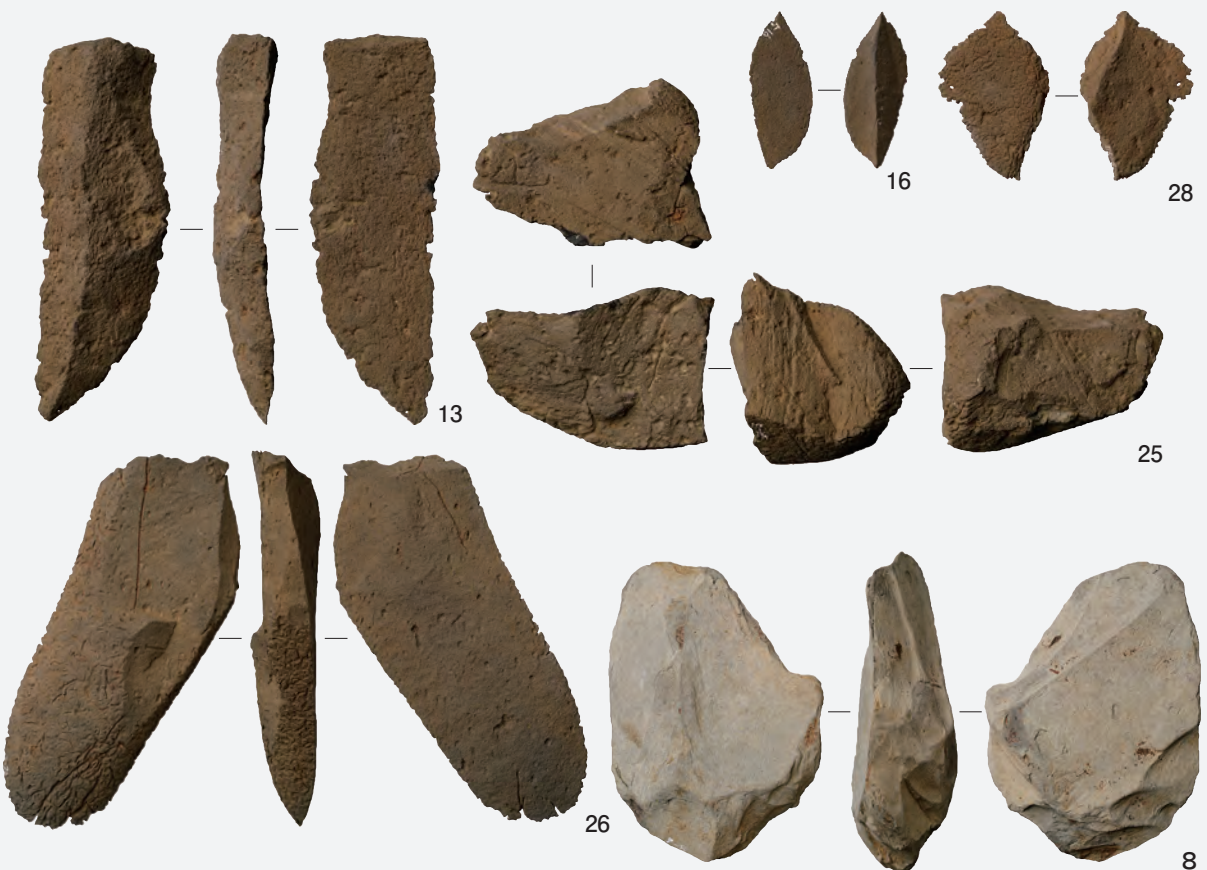
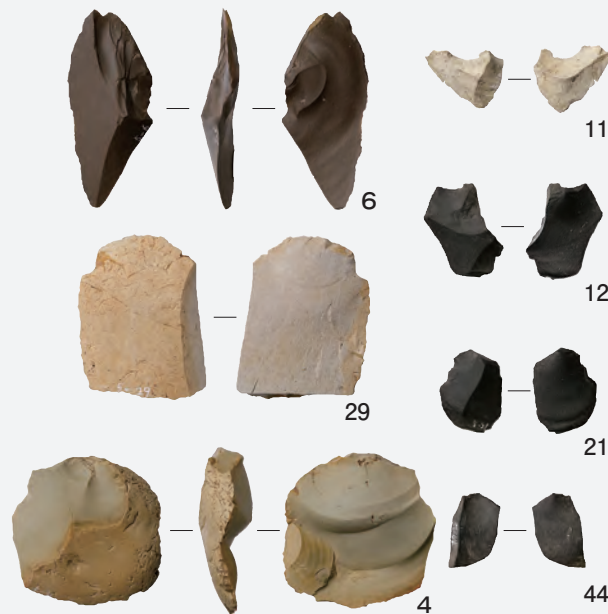
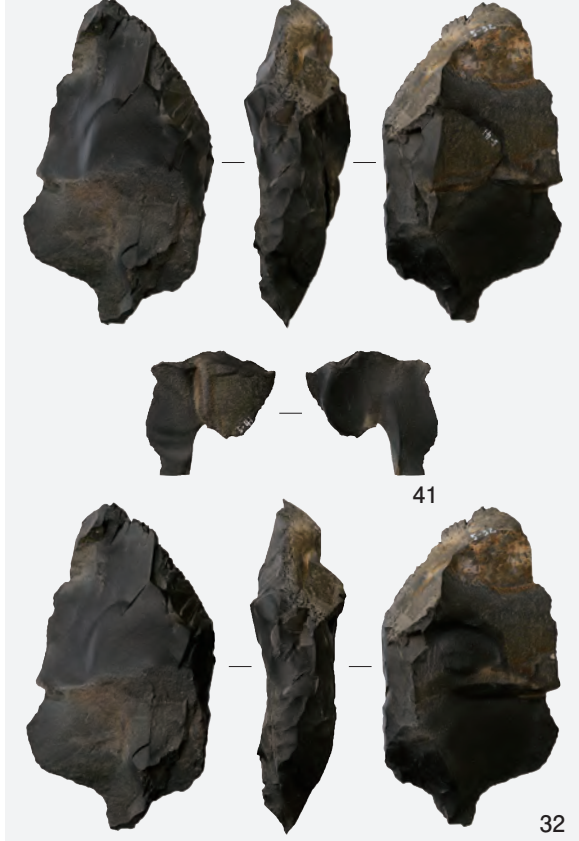
第5号石器集中地点出土石器（接合資料1～3・6）

PL41

接合資料4



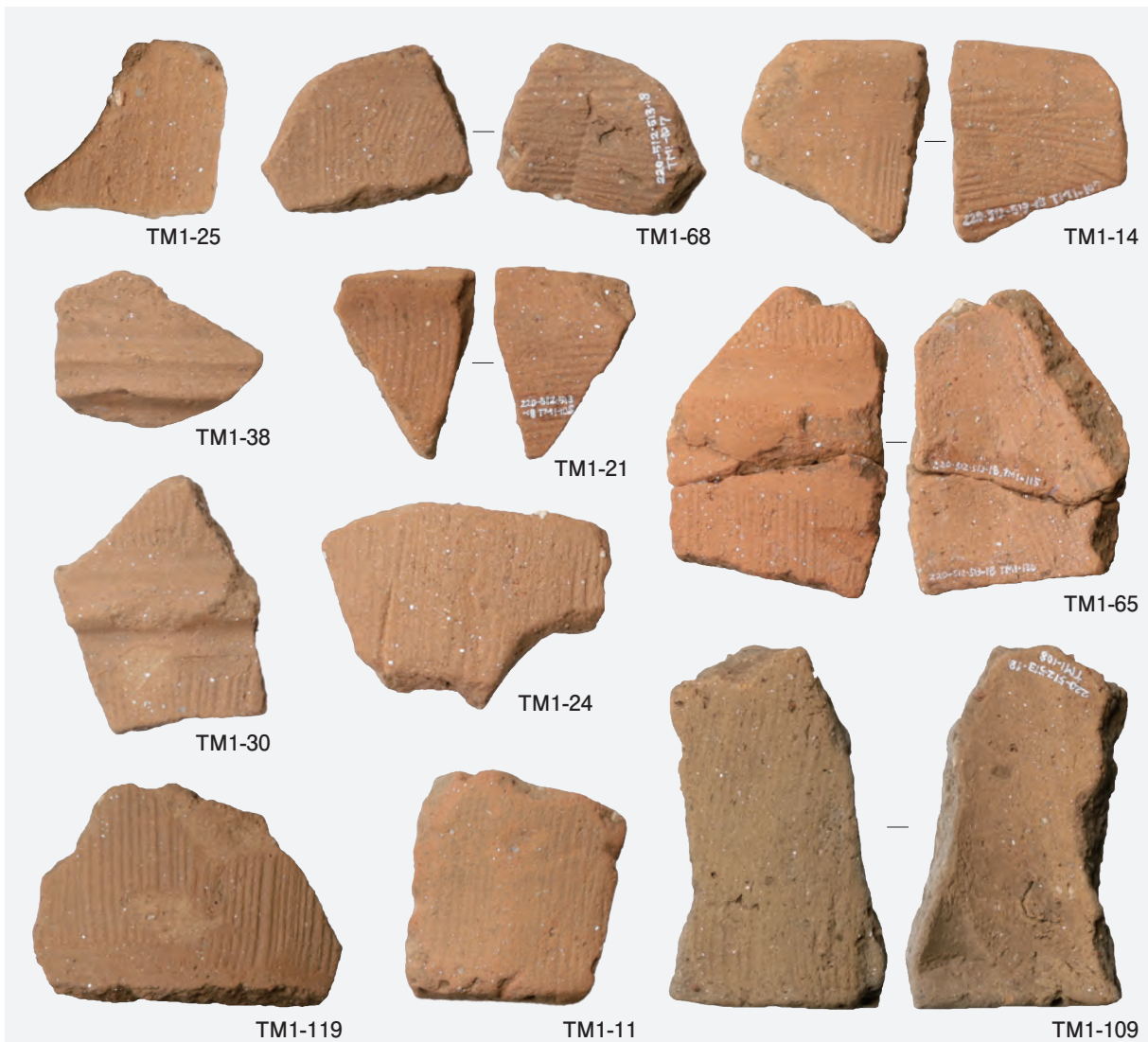
接合資料5



第5号石器集中地点出土石器 (接合資料4・5)



集中地点外出土石器（接合資料 1）

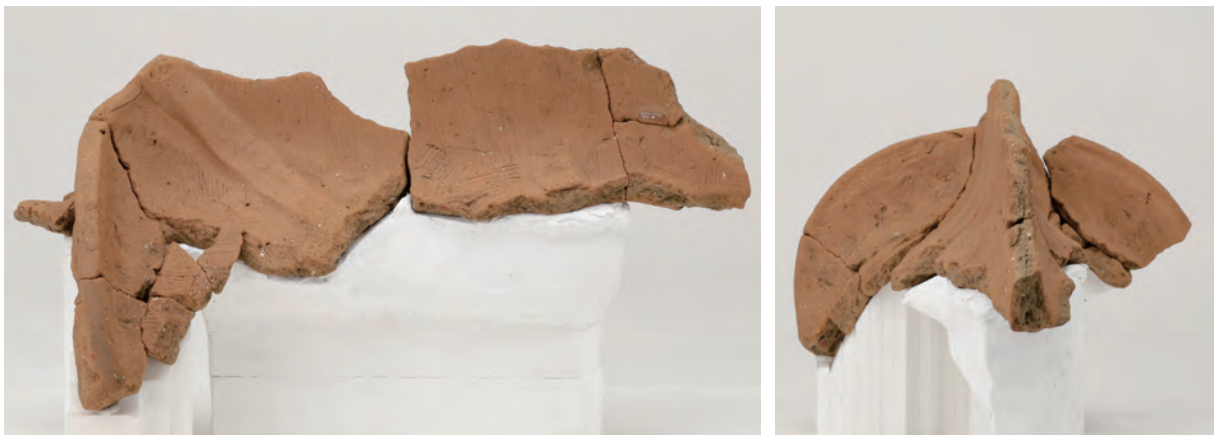
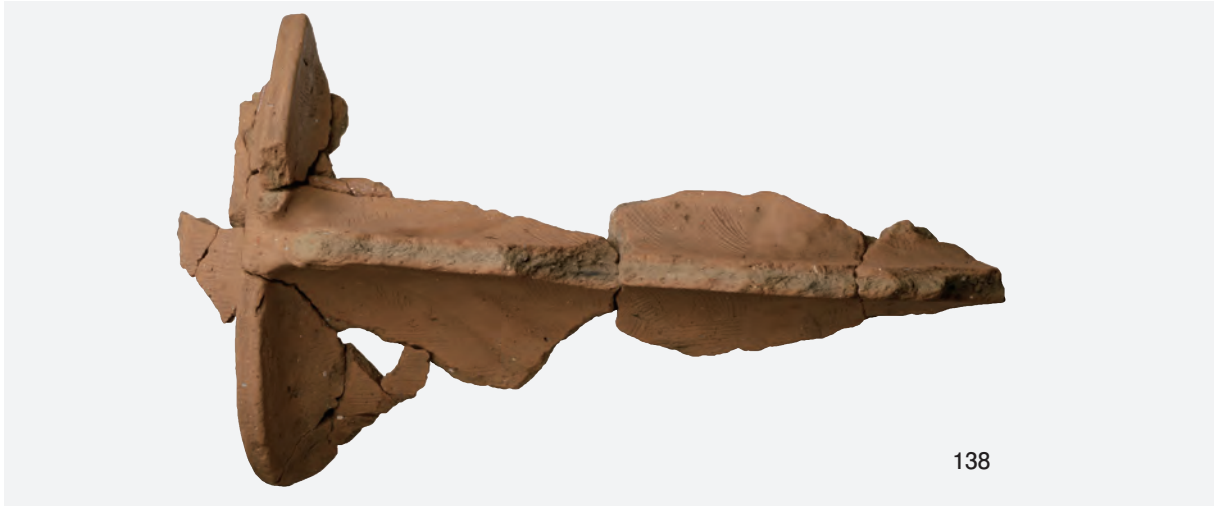


第17号溝跡，第95・128・141号土坑，第10号墳出土土器，第1号墳出土円筒埴輪



第1号墳出土形象埴輪

PL45



第1号墳出土形象埴輪（馬形）

PL46



第1号墳出土器財埴輪（機織形）

PL47



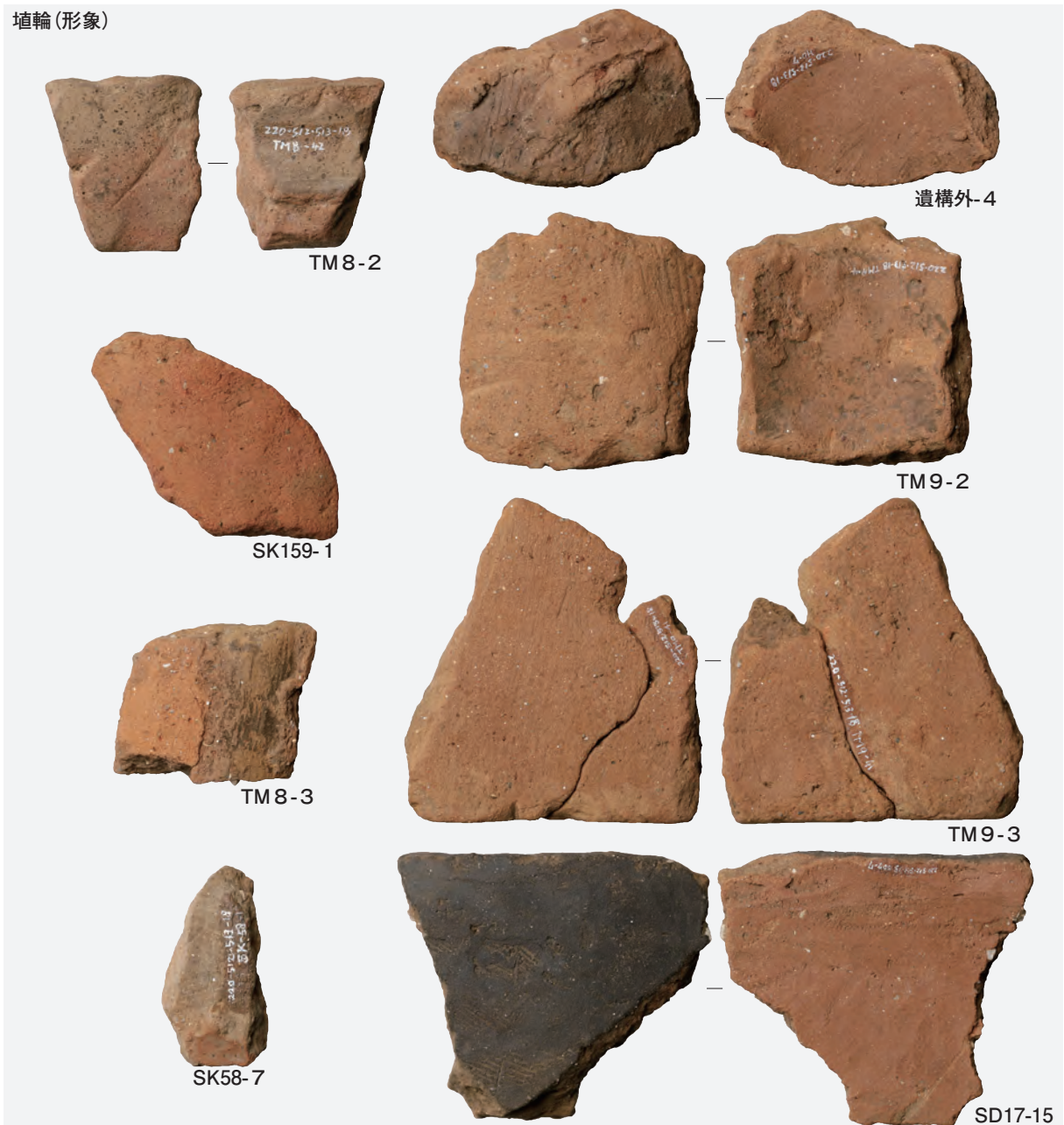
第1号墳出土器財埴輪（機織形・人物）

PL48

埴輪 (円筒)



埴輪 (形象)



第8・9号墳，第17号溝跡，第58・159号土坑，遺構外出土埴輪（円筒・形象）

PL49



第8号墳出土金属製品



第8・9・10号墳出土金属製品, 第9号墳出土ガラス製品 (2倍に拡大)

抄 録

ふりがな	かみざかいたきのだいこふんぐん, かみざかいさくのうちのせきに・かみざかいさくのうちこふんぐん								
書名	上境滝の台古墳群, 上境作ノ内遺跡2・上境作ノ内古墳群								
副書名	中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書 XX IV								
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告第450集								
著者名	三浦裕介 埋蔵文化財の保存処理いしかわ パリノ・サーヴェイ株式会社 株式会社イビソク								
編集機関	公益財団法人茨城県教育財団								
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL 029-225-6587								
発行日	2021(令和3)年3月16日								
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因	
かみざかいたきのだいこふんぐん 上境滝の台古墳群	いばらきけん 茨城県つくば市 上境297番地ほか	08220 099	36度 6分 38秒	140度 7分 28秒	25 ~ 27m	20180501 ~ 20180930	3,415㎡	中根・金田台 特定土地区画 整理事業に伴 う事前調査	
かみざかいさくのうちのせき 上境作ノ内遺跡・ かみざかいさくのうちのせき 上境作ノ内古墳群	いばらきけん 茨城県つくば市 上境185-1番地ほか	08220 512・513	36度 6分 49秒	140度 7分 23秒	23 ~ 26m	20180901 ~ 20181231	5,522㎡		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項		
上境滝の台古墳群	集落跡	旧石器	石器集中地点 6か所		石器(ナイフ形石器・楔形石器・台形様石器・石斧・削器・搔器・石核・二次加工剥片・剥片・碎片・礫)		石器終通地点 から, AT以 前の石器が出 土している。 第3号墳から 象嵌が施され た鉄製品が出 土している。		
	集落跡	縄文	土坑 184基		縄文土器(深鉢・浅鉢), 石器(垂飾り・石鏃・磨製石斧・石皿・磨石・敲石)				
	集落跡	弥生	竪穴建物跡 4棟		弥生土器(壺), 土製品(紡錘車), 石器(石鏃・磨石)				
	集落跡	弥生	竪穴建物跡 1棟 方形竪穴遺構 1棟 土坑 124基 溝跡 1条 ピット群 2か所		須恵器片(長頸瓶), 灰釉陶器(瓶類・短頸壺), 石器(丸玉), 金属製品(直刀・鳩目金具・責金具・目釘・鐔・鏹・鞆尻・刀子・鏃), ガラス製品(小玉)				
上境作ノ内遺跡・ 上境作ノ内古墳群	集落跡	旧石器	石器集中地点 3か所		石器(石核・二次加工剥片・剥片・碎片・礫)		第1号墳周溝 から, 機織形 埴輪が出土し ている。		
	集落跡	古墳	古墳 4基		土師器片(坏・器台・高坏・鉢・甕), 須恵器片(坏), 埴輪片(円筒・形象・器財), 金属製品(直刀・刀装具・刀子・鉄鏃・鋌・不明), ガラス製品(小玉)				
	集落跡	平安	土坑 1基		須恵器片(坏)				
	集落跡	江戸	溝跡 1条		陶器(天目茶碗)				
上境作ノ内遺跡・ 上境作ノ内古墳群	集落跡	時期不明	土坑 121基 溝跡 2条 粘土採掘坑 1基		石器(ナイフ形石器・尖頭器・楔形石器・二次加工剥片・石核・剥片・石鏃・原石・礫)				
	集落跡	時期不明	土坑 121基 溝跡 2条 粘土採掘坑 1基		石器(ナイフ形石器・尖頭器・楔形石器・二次加工剥片・石核・剥片・石鏃・原石・礫)				
要約	<p>上境滝の台古墳群は, 旧石器時代から古墳時代にかけての複合遺跡である。縄文・弥生時代には集落, 古墳時代には墓域となる。旧石器時代の遺物は, 3万年前より下層から出土している。古墳は前方後円墳(帆立貝形)で, 変則的古墳である。</p> <p>上境作ノ内遺跡・上境作ノ内古墳群は, 旧石器時代から江戸時代にかけての複合遺跡である。古墳3基を今回の調査で新たに確認した。第1・8・9号墳は前方後円墳(帆立貝形)で変則的古墳である。第1号墳周溝からは器財埴輪(機織)が出土している。</p>								

印刷仕様

編集	OS	Microsoft Windows 10 Pro
	編集	Adobe InDesign CC 2020
	図版作成	Adobe Illustrator CC 2020
	写真調整	Adobe Photoshop CC 2020
	Scanning	EPSON DS-G20000
使用Font	OpenType	リュウミンPro L-KL, 太ゴB101 Pro Bold 中ゴシックBBB Pro Medium
写真	線数	カラー210線以上
印刷		印刷所へは, Adobe InDesign CC 2020でデータ入稿

茨城県教育財団文化財調査報告第450集

つくば市

上境滝の台古墳群

上境作ノ内遺跡2

上境作ノ内古墳群

中根・金田台特定土地区画整理事業
地内埋蔵文化財調査報告書XXIV

令和3(2021)年 3月16日 発行

発行 公益財団法人茨城県教育財団

〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内

TEL 029-225-6587

HP <http://www.ibaraki-maibun.org>

印刷 八幡印刷株式会社

〒310-0911 水戸市見和3丁目1528番地の38

TEL 0120-23-1473